静岡県三島市

YAMANAKAJOU

山中城Ｄ遺跡
山中城Ｅ遺跡

笹原山中バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（その３）

２０１７

三島市教育委員会

１．山中城Ｄ遺跡９－１地点遠景

２．山中城Ｄ遺跡９－１地点全景

巻頭図版２

１．山中城Ｄ遺跡９－１地点箱根旧街道石畳西端

２．山中城Ｄ遺跡９－１地点箱根旧街道石畳全景

１．山中城Ｄ遺跡９－１地点箱根旧街道石畳南縁西側

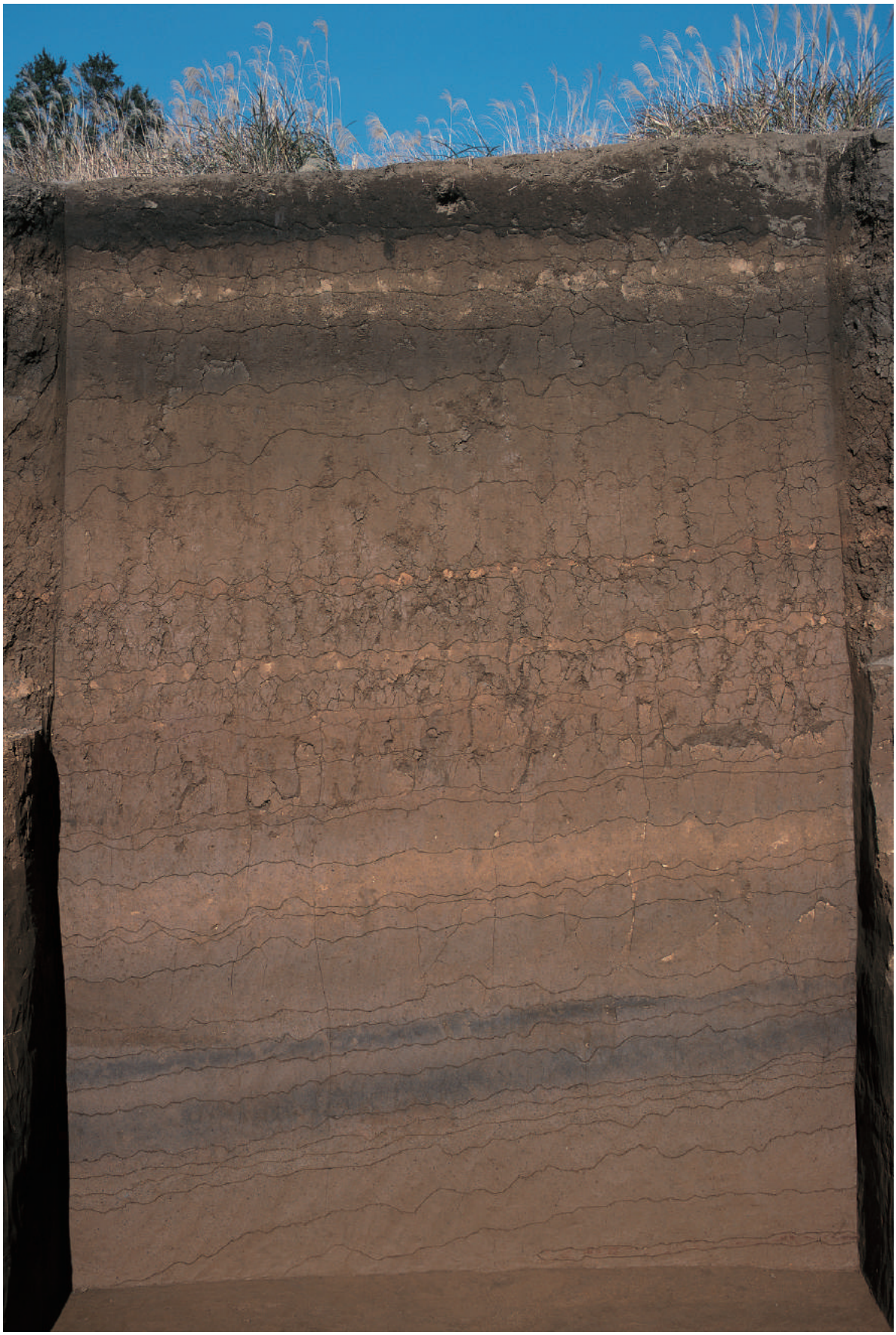
２．山中城Ｄ遺跡９－１地点箱根旧街道石畳南縁東側

１．山中城Ｄ遺跡９－２地点遠景

２．山中城Ｄ遺跡９－２地点１グリッド完掘全景

１．山中城Ｅ遺跡８－１地点遠景

２．山中城Ｅ遺跡８－１地点全景

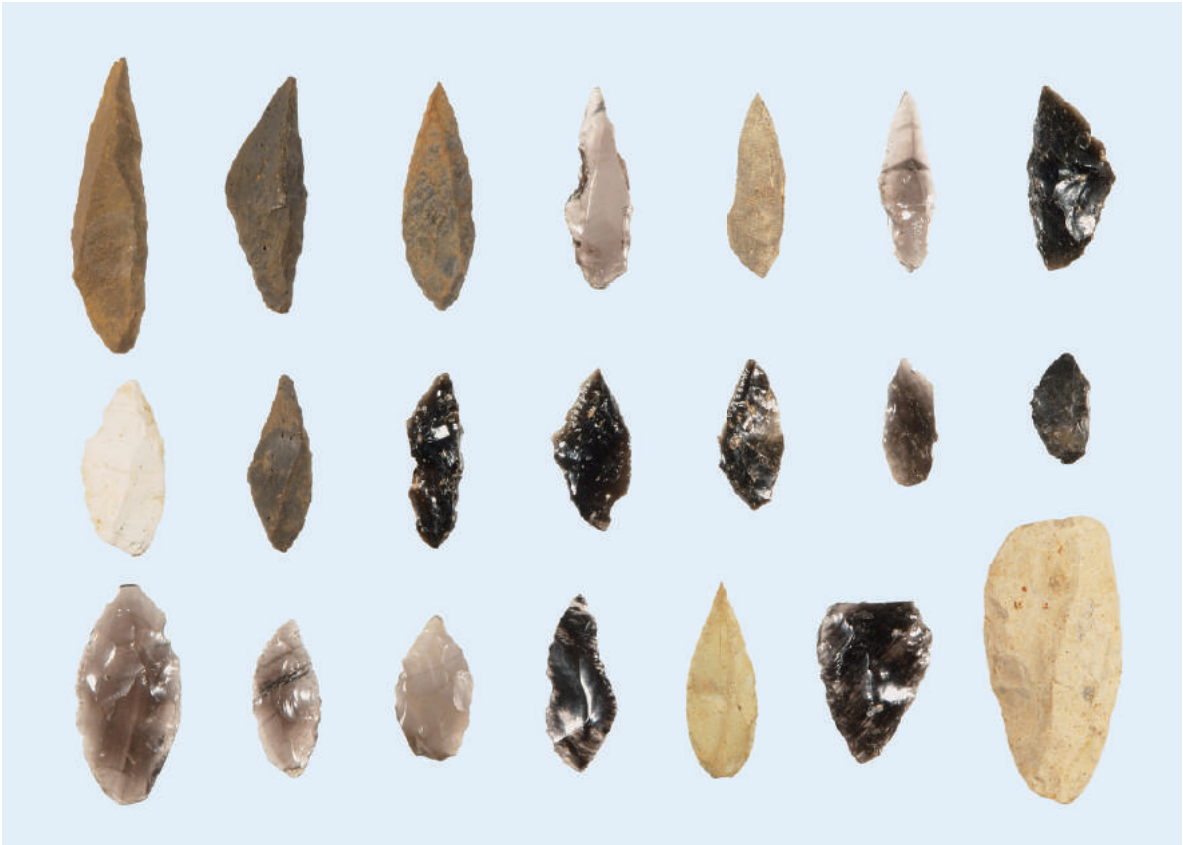


1．山中城Ｅ遺跡基本層序

１．山中城Ｅ遺跡第Ⅰ文化層出土石器

２．山中城Ｅ遺跡第Ⅱ文化層出土石器（１）

1．山中城Ｅ遺跡第Ⅱ文化層出土石器（２）



２．山中城Ｅ遺跡第Ⅲ文化層出土石器

序　　文

平成28年３月12日、凛と張り詰めた冷たい空気の中で一般国道１号笹原山中バイパス山中工区1.6kmの開通式が盛大に開催されました。この日の午後、道路の供用が開始され、昭和63年に事業化されて以来約30年の歳月をかけて地元山中新田の方々の悲願が達成されました。

このバイパスの開通によってさまざまな効果が期待されています。主なものだけでも、登坂車線の設置によって車両の快適で円滑な走行が確保される「走行環境の改善」、国道の線形改良による「交通事故の３割削減」、走行車両がバイパスに転換することによって山中新田集落内の騒音レベルが下がる「沿道環境の改善」、静岡県・神奈川県間のアクセス性の向上による「観光促進」、東駿河湾環状道路や本バイパス沿線に内陸フロンティアを拓く新たな事業が展開されることによる「産業振興」があげられます。さらに笹原工区2.7kmが平成30年度に開通（予定）すれば、三島市はより多くの恩恵に浴することになります。

しかしこのような利便性の追求とは裏腹に、いくつかの遺跡が消滅しているのも事実です。笹原山中バイパスが通過する箱根山西麓は、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡の宝庫といっても過言でないほどの遺跡の密集地です。国土交通省には遺跡保護のための最大限の配慮をお願いしましたが、どうしても保全できない遺跡は発掘調査を実施して記録保存するということになりました。本書は笹原山中バイパス関係の３冊目の発掘調査報告書となります。遺跡名には山中城という名称がついていますが、出土したのは旧石器時代の石器が大部分です。発掘調査の成果を詳細に記述した本書が、研究者のみならず多くの方々に活用され、旧石器時代の研究の進展に、あるいは郷土史理解の一助として役立つことを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたっては、国土交通省中部地方整備局沼津河川国土事務所、静岡県教育委員会をはじめ、多くの関係諸機関にご指導、ご協力を賜りました。また、発掘調査に従事された発掘作業員の方々に対し、心よりお礼を申し上げまして刊行のことばといたします。

平成29年３月

三島市教育委員会
教育長　西島　玉枝

例　　言

1．本書は、三島市山中新田に位置する山中城Ｄ遺跡・山中城Ｅ遺跡の発掘調査報告書である。

2．本調査は、一般国道１号笹原山中バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、国土交通省中部地方整備局の委託を受け、三島市教育委員会が実施した。

3．山中城Ｄ遺跡の発掘調査は、平成５年８月23日から10月29日と平成16年２月９日から３月19日までの２次にわたる調査を行い、出土品の整理は、平成26年から平成28年度まで、断続的に３ヶ年で実施した。
山中城Ｅ遺跡の発掘調査は、平成６年７月13日から平成25年12月26日まで、７次にわたる調査を断続的に行い、出土遺物の整理は、平成24年から平成28年度まで、断続的に５ヶ年で実施した。
山中城Ｄ遺跡・山中城Ｅ遺跡の報告書の作成は平成26年度～28年度事業として平成26年４月１日から平成29年３月31日まで実施した。

4．出土遺物・採取資料に関する分析・同定は、次の方々に依頼し玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。
●黒曜石産地同定　　(元)国立沼津工業高等専門学校　　望月昭彦

5．現地での測量業務・航空写真の撮影は、株式会社東日、株式会社シン技術コンサルに委託し、遺構と遺物の測量は株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を利用し、さらに図化を行った。

6．本遺跡の遺物整理は、旧石器時代の石器について伊藤恒彦氏に依頼し、遺物分布図については辻真人が遺物整理員を指導して行い、他は小池　聡と麻生順司（㈱玉川文化財研究所）が実施した。なお、縄文土器については坪田弘子（㈱玉川文化財研究所）、江戸時代以降の出土遺物について小山浩之（㈱玉川文化財研究所）の協力を得た。整理作業・原稿執筆の分担は巻末掲載のとおりであり、事業計画・編集業務は辻真人が行った。

7．旧石器時代の垂直分布図については、不自然なレベル差を持つ遺物が有り、調査時の眼高設定の誤りと思われるものも認められるが、推測で修正する方が後に問題となる可能性があるものと考え、あえて調査時の測量データで作図を行った。

8．本報告における図面、写真、遺物等の調査資料は三島市教育委員会で保管している。

9．発掘調査事務局（平成５年度）

●三島市教育委員会

教育次長	原川　暢				
社会教育課長	大湖　教男	文化係長	鈴木　義晴		
文化係主任	水口　勇二	文化係副主任	古泉　勉	市川　保	
文化係主査	鈴木　昌幸	文化係指導主事	杉浦　幸男	渡辺　浩之	
文化係学芸員	鈴木　敏中	芦川　忠利	寺田光一郎	辻　真人	

発掘調査事務局（平成６年度）

●三島市教育委員会

教育次長	大湖　教男	社会教育課長	禰宜田宏然
社会教育課長補佐	鈴木　義晴	文化係主任	水口　勇二
文化係副主任	古泉　勉	文化係主査	鈴木　昌幸
文化係主事	小坂　力也	文化係指導主事	渡辺　浩之

文化係学芸員　鈴木　敏中　芦川　忠利　寺田光一郎　辻　真人

発掘調査事務局（平成14年度）

●三島市教育委員会

教育部長　濱野　晃司

文化振興課長　平澤　竹志　文化振興課副参事　稲木　久男

文化振興係主任　大島ひろみ　芦川　正俊

文化振興係主事　松田　孝之　岩崎　淳子

文化振興係主任学芸員　鈴木　敏中

文化振興係学芸員　芦川　忠利　寺田光一郎　辻　真人

発掘調査事務局（平成15年度）

●三島市教育委員会

教育部長　関野　康

文化振興課長　小松　繁生

文化振興課副参事　稲木　久雄

文化振興係主査　滝野　政美　松田　孝之　岩崎　淳子　大林　勲

文化振興係主任学芸員　鈴木　敏中

文化振興係学芸員　芦川　忠利　寺田光一郎　辻　真人

発掘調査事務局（平成16年度）

●三島市教育委員会

教育部長　有尾　克人

文化振興課長　小松　繁生　文化振興課課長補佐　徳野　茂雄

文化振興係主査　松田　孝之　岩崎　淳子　大林　勲　岩田　和史

文化振興係主任学芸員　鈴木　敏中

文化振興係学芸員　芦川　忠利　寺田光一郎　辻　真人

発掘調査事務局（平成25年度）

●三島市教育委員会

教育部長　杉山　孝二　教育部参事　宮澤　正敏

文化振興課課長補佐　池田　健二　文化振興係主任　橋本　泰浩

文化振興係主査　石井　章代　文化振興係主事　鈴木和可子

文化振興係学芸員　芦川　忠利　寺田光一郎　辻　真人

10　遺物整理事務局（平成28年度）

●三島市教育委員会

教育推進部長　小池　満　文化振興課長　岡村　秀一

文化振興課課長補佐　芦川　忠利　文化振興係長　磯崎　諭

文化振興係副主任　杉山　孝二　石井　章代

文化振興係主事　小柴　昂之　栗原　菜摘　文化振興係主事補　石井　陽子

文化財係主任学芸員　寺田光一郎　辻　真人

11　遺跡の調査、遺物整理では次の方々に御教示いただいた。厚く感謝申し上げる次第である。

鈴木敏中、相田　薫、保坂康夫、前島秀張

凡　　例

1．遺構挿図の縮尺

●旧石器時代　・遺物分布図（1/50）　・礫群実測図（1/50）

●縄文時代　　・遺物分布図（1/500）　・遺構実測図（1/40）

2．遺物挿図の縮尺（縮尺の異なるものは明記した。）

●旧石器時代　・石器（1/1・4/5）　・接合資料（4/5・2/3）

●縄文時代　　・土器（1/2・1/3・1/4）　・石器（1/1・1/3）

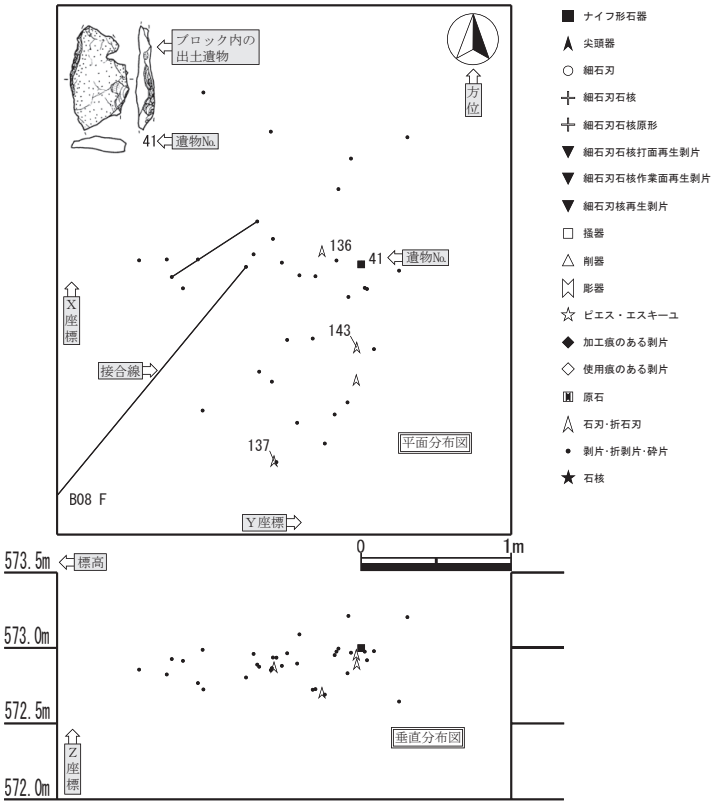
●近世以降　・陶磁器・金属製品（1/3）　・銭貨（1/1）

3．旧石器時代の遺物

・遺物番号は各文化層ごとの通し番号で、本文・挿図・表・写真図版とも一致する。

4．旧石器時代の遺物分布図

・外－単独石器、礫単－単独礫



5．遺物観察表

・器種　RF－加工痕のある剥片
　　UF－使用痕のある剥片
　　F－剥片

・石材　Ob－黒曜石、An－安山岩、
　　Ry－流紋岩、
　　Ja－ジャスパー
　　Ho－ホルンフェルス

・産地　WDTY－和田鷹山
　　WDTK－和田土屋橋北
　　WDHY－和田芙蓉ライト
　　SWHD－諏訪星ヶ台
　　TSTY－蓼科冷山
　　HNHJ－箱根畑宿
　　AGKT－天城柏峠
　　KZOB－神津恩馳島

・遺存　A－完形、B－1/4の破損、
　　C－1/3の破損、D－1/2の破損、
　　E－2/3の破損、F－3/4の破損

・計測値はcm・gであり、－は計測不可能なものを示す。

目　　次

巻頭図版
序　　文
例　　言

第１章　調査と環境 …… 1
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第２節　遺跡の立地と歴史的環境 …… 3
　　１．遺跡の立地 …… 3
　　２．歴史的環境 …… 3
　第３節　発掘調査の経過と概要（Ｄ遺跡・Ｅ遺跡） …… 8
　第４節　遺跡の層序（Ｄ遺跡・Ｅ遺跡） …… 11
第２章　山中城Ｅ遺跡（笹原山中バイパス８地点） …… 14
　第１節　後期旧石器時代 …… 14
　　１．第Ⅰ文化層 …… 14
　　（１）第Ⅰ文化層の概要 …… 14
　　（２）検出された遺構 …… 16
　　（３）出土遺物 …… 21
　　（４）個体別資料の分布について …… 25
　　（５）位置付けと問題点 …… 27
　　２．第Ⅱ文化層 …… 29
　　（１）第Ⅱ文化層の概要 …… 29
　　（２）検出された遺構 …… 31
　　（３）出土遺物 …… 68
　　（４）個体別資料の分布について …… 112
　　（５）位置付けと問題点 …… 134
　　３．第Ⅲ文化層 …… 137
　　（１）第Ⅲ文化層の概要 …… 137
　　（２）検出された遺構 …… 140
　　（３）出土遺物 …… 193
　　（４）個体別資料の分布について …… 258
　　（５）位置付けと問題点 …… 283
　第２節　縄文時代の遺構と遺物 …… 286
　　１．検出された遺構 …… 286
　　２．出土遺物 …… 299
　第３節　江戸時代以降の遺構と遺物 …… 305
　　１．検出された遺構 …… 305
　　２．出土遺物 …… 310
第３章　山中城Ｄ遺跡（笹原山中バイパス９地点） …… 314
　　１．検出された江戸時代以降の遺構 …… 314
　　２．出土遺物 …… 323
第４章　調査の成果と課題 …… 326
　第１節　旧石器時代の山中城Ｅ遺跡 …… 326
　第２節　近世期の山中城Ｄ・Ｅ遺跡 …… 333
第５章　自然科学分析 …… 337
　第１節　黒曜石の原産地推定 …… 337
主要参考文献
付表
写真図版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　笹原山中バイパス関連遺跡全体配置図 …… 2
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 4
第３図　山中城Ｄ･Ｅ遺跡の調査範囲と周辺の地形 ‥ 9
第４図　山中城Ｄ遺跡の層序 …… 12
第５図　山中城Ｅ遺跡の層序 …… 13
第６図　第Ⅰ文化層のブロックと単独石器の分布 … 15
第７図　第Ⅰ文化層第１ブロック石器分布図 …… 16
第８図　第Ⅰ文化層第２ブロック石器分布図 …… 18
第９図　第Ⅰ文化層第３ブロック石器分布図 …… 19
第10図　第Ⅰ文化層第４ブロック石器分布図 …… 20
第11図　第Ⅰ文化層出土石器 …… 23
第12図　第Ⅱ文化層のブロックと礫群の分布 …… 30
第13図　第Ⅱ文化層のブロックと単独石器の分布 … 32
第14図　第Ⅱ文化層第１ブロック石器分布図 …… 33
第15図　第Ⅱ文化層第２ブロック石器分布図 …… 34
第16図　第Ⅱ文化層第４ブロック石器分布図 …… 34
第17図　第Ⅱ文化層第３ブロック石器分布図 …… 35
第18図　第Ⅱ文化層第５ブロック石器分布図 …… 36
第19図　第Ⅱ文化層第６ブロック石器分布図 …… 37
第20図　第Ⅱ文化層第７ブロック石器分布図 …… 38
第21図　第Ⅱ文化層第８ブロック石器分布図 …… 39
第22図　第Ⅱ文化層第９ブロック石器分布図 …… 40
第23図　第Ⅱ文化層第10ブロック石器分布図 …… 41
第24図　第Ⅱ文化層第11ブロック石器分布図 …… 42
第25図　第Ⅱ文化層第12ブロック石器分布図 …… 43
第26図　第Ⅱ文化層第13ブロック石器分布図 …… 44
第27図　第Ⅱ文化層第15ブロック石器分布図 …… 44
第28図　第Ⅱ文化層第14ブロック石器分布図 …… 45
第29図　第Ⅱ文化層第16ブロック石器分布図 …… 47
第30図　第Ⅱ文化層第17ブロック石器分布図 …… 48
第31図　第Ⅱ文化層第18ブロック石器分布図 …… 49
第32図　第Ⅱ文化層第19ブロック石器分布図 …… 50
第33図　第Ⅱ文化層第20ブロック石器分布図 …… 51
第34図　第Ⅱ文化層第21ブロック石器分布図 …… 52
第35図　第Ⅱ文化層第22ブロック石器分布図 …… 53
第36図　第Ⅱ文化層第23ブロック石器分布図 …… 54
第37図　第Ⅱ文化層第24ブロック石器分布図 …… 54
第38図　第Ⅱ文化層第25ブロック石器分布図 …… 55
第39図　第Ⅱ文化層第26ブロック石器分布図 …… 56
第40図　第Ⅱ文化層第27ブロック石器分布図 …… 56
第41図　第Ⅱ文化層第28ブロック石器分布図 …… 57
第42図　第Ⅱ文化層第29ブロック石器分布図 …… 58
第43図　第Ⅱ文化層第30ブロック石器分布図 …… 59
第44図　第Ⅱ文化層第31ブロック石器分布図 …… 60
第45図　第Ⅱ文化層の礫群・配石と単独礫の分布 … 61
第46図　第Ⅱ文化層第１・２・４・５号礫群分布図…63
第47図　第Ⅱ文化層第３号礫群・
　第１・２号配石分布図 …… 64
第48図　第Ⅱ文化層第６号礫群分布図 …… 66
第49図　第Ⅱ文化層出土石器（１）…… 69
第50図　第Ⅱ文化層出土石器（２）…… 71
第51図　第Ⅱ文化層出土石器（３）…… 75
第52図　第Ⅱ文化層出土石器（４）…… 77
第53図　第Ⅱ文化層出土石器（５）…… 79
第54図　第Ⅱ文化層出土石器（６）…… 81
第55図　第Ⅱ文化層出土石器（７）…… 83
第56図　第Ⅱ文化層出土石器（８）…… 85
第57図　第Ⅱ文化層出土石器（９）…… 87
第58図　第Ⅱ文化層出土石器（10）…… 89
第59図　第Ⅱ文化層出土石器（11）…… 90
第60図　第Ⅱ文化層出土石器（12）…… 92
第61図　第Ⅱ文化層出土石器（13）…… 93
第62図　第Ⅱ文化層出土石器（14）…… 94
第63図　第Ⅱ文化層出土石器（15）…… 95
第64図　第Ⅱ文化層出土石器（16）…… 96
第65図　第Ⅱ文化層出土石器（17）…… 97
第66図　第Ⅱ文化層出土石器（18）…… 98
第67図　第Ⅱ文化層出土石器（19）…… 99
第68図　第Ⅱ文化層出土石器（20）…… 101
第69図　第Ⅱ文化層出土石器（21）…… 103
第70図　第Ⅱ文化層出土石器（22）…… 104
第71図　第Ⅱ文化層出土石器（23）…… 106
第72図　第Ⅱ文化層出土石器（24）…… 108
第73図　第Ⅱ文化層出土石器（25）…… 110
第74図　第Ⅱ文化層出土石器（26）…… 111
第75図　第Ⅱ文化層個体別資料の分布と
　ブロック群 …… 129
第76図　第Ⅲ文化層のブロックと礫群の分布 …… 138
第77図　第Ⅲ文化層のブロックと単独石器の分布 ‥ 139
第78図　第Ⅲ文化層第１ブロック石器分布図 …… 140
第79図　第Ⅲ文化層第２ブロック石器分布図 …… 142
第80図　第Ⅲ文化層第３ブロック石器分布図 …… 143
第81図　第Ⅲ文化層第４ブロック石器分布図 …… 144
第82図　第Ⅲ文化層第６ブロック石器分布図 …… 145
第83図　第Ⅲ文化層第５ブロック石器分布図 …… 146
第84図　第Ⅲ文化層第７ブロック石器分布図 …… 148
第85図　第Ⅲ文化層第８ブロック石器分布図 …… 150
第86図　第Ⅲ文化層第９ブロック石器分布図 …… 151
第87図　第Ⅲ文化層第10ブロック石器分布図 …… 152
第88図　第Ⅲ文化層第11ブロック石器分布図 …… 154
第89図　第Ⅲ文化層第12ブロック石器分布図 …… 156
第90図　第Ⅲ文化層第13ブロック石器分布図 …… 157
第91図　第Ⅲ文化層第14ブロック石器分布図 …… 158
第92図　第Ⅲ文化層第15ブロック石器分布図 …… 160
第93図　第Ⅲ文化層第16ブロック石器分布図 …… 161
第94図　第Ⅲ文化層第17ブロック石器分布図 …… 162
第95図　第Ⅲ文化層第18ブロック石器分布図 …… 163
第96図　第Ⅲ文化層第19ブロック石器分布図 …… 164

第97図　第Ⅲ文化層第20ブロック石器分布図 …… 165
第98図　第Ⅲ文化層第21ブロック石器分布図 …… 166
第99図　第Ⅲ文化層第22ブロック石器分布図 …… 167
第100図　第Ⅲ文化層第23ブロック石器分布図 …… 168
第101図　第Ⅲ文化層第24ブロック石器分布図 …… 169
第102図　第Ⅲ文化層第25ブロック石器分布図 …… 170
第103図　第Ⅲ文化層第26ブロック石器分布図 …… 170
第104図　第Ⅲ文化層第27ブロック石器分布図 …… 171
第105図　第Ⅲ文化層第28ブロック石器分布図 …… 172
第106図　第Ⅲ文化層第29ブロック石器分布図 …… 172
第107図　第Ⅲ文化層第30ブロック石器分布図 …… 173
第108図　第Ⅲ文化層の礫群･配石と単独礫の分布 ‥ 175
第109図　第Ⅲ文化層１号礫群分布図 …… 176
第110図　第Ⅲ文化層２号礫群・１号配石分布図 … 176
第111図　第Ⅲ文化層３号礫群・２号配石分布図 … 177
第112図　第Ⅲ文化層４号礫群・３号配石分布図 … 178
第113図　第Ⅲ文化層５号礫群分布図 …… 179
第114図　第Ⅲ文化層６号礫群・４号配石分布図 … 180
第115図　第Ⅲ文化層７号礫群・
５～13号配石分布図 …… 181
第116図　第Ⅲ文化層８・９・12号礫群分布図 …… 184
第117図　第Ⅲ文化層10号礫群分布図 …… 185
第118図　第Ⅲ文化層11号礫群・14号配石分布図 … 186
第119図　第Ⅲ文化層13号礫群分布図 …… 187
第120図　第Ⅲ文化層14号礫群分布図 …… 187
第121図　第Ⅲ文化層15号礫群分布図 …… 188
第122図　第Ⅲ文化層16号礫群分布図 …… 188
第123図　第Ⅲ文化層17号礫群・
15～18号配石分布図 …… 189
第124図　第Ⅲ文化層18・19号礫群・
19・20号配石分布図 …… 191
第125図　第Ⅲ文化層20号礫群分布図 …… 192
第126図　第Ⅲ文化層出土石器（１） …… 195
第127図　第Ⅲ文化層出土石器（２） …… 197
第128図　第Ⅲ文化層出土石器（３） …… 199
第129図　第Ⅲ文化層出土石器（４） …… 203
第130図　第Ⅲ文化層出土石器（５） …… 205
第131図　第Ⅲ文化層出土石器（６） …… 207
第132図　第Ⅲ文化層出土石器（７） …… 209
第133図　第Ⅲ文化層出土石器（８） …… 211
第134図　第Ⅲ文化層出土石器（９） …… 213
第135図　第Ⅲ文化層出土石器（10） …… 215
第136図　第Ⅲ文化層出土石器（11） …… 217
第137図　第Ⅲ文化層出土石器（12） …… 218
第138図　第Ⅲ文化層出土石器（13） …… 219
第139図　第Ⅲ文化層出土石器（14） …… 220
第140図　第Ⅲ文化層出土石器（15） …… 221
第141図　第Ⅲ文化層出土石器（16） …… 222
第142図　第Ⅲ文化層出土石器（17） …… 223
第143図　第Ⅲ文化層出土石器（18） …… 224
第144図　第Ⅲ文化層出土石器（19） …… 226
第145図　第Ⅲ文化層出土石器（20） …… 227
第146図　第Ⅲ文化層出土石器（21） …… 228
第147図　第Ⅲ文化層出土石器（22） …… 229
第148図　第Ⅲ文化層出土石器（23） …… 230
第149図　第Ⅲ文化層出土石器（24） …… 231
第150図　第Ⅲ文化層出土石器（25） …… 232
第151図　第Ⅲ文化層出土石器（26） …… 233
第152図　第Ⅲ文化層出土石器（27） …… 234
第153図　第Ⅲ文化層出土石器（28） …… 235
第154図　第Ⅲ文化層出土石器（29） …… 236
第155図　第Ⅲ文化層出土石器（30） …… 237
第156図　第Ⅲ文化層出土石器（31） …… 238
第157図　第Ⅲ文化層出土石器（32） …… 239
第158図　第Ⅲ文化層出土石器（33） …… 240
第159図　第Ⅲ文化層出土石器（34） …… 241
第160図　第Ⅲ文化層出土石器（35） …… 243
第161図　第Ⅲ文化層出土石器（36） …… 244
第162図　第Ⅲ文化層出土石器（37） …… 245
第163図　第Ⅲ文化層出土石器（38） …… 247
第164図　第Ⅲ文化層出土石器（39） …… 249
第165図　第Ⅲ文化層出土石器（40） …… 250
第166図　第Ⅲ文化層出土石器（41） …… 252
第167図　第Ⅲ文化層出土石器（42） …… 254
第168図　第Ⅲ文化層出土石器（43） …… 255
第169図　第Ⅲ文化層出土石器（44） …… 257
第170図　第Ⅲ文化層個体別資料の分布と
ブロック群（１） …… 278
第171図　第Ⅲ文化層個体別資料の分布と
ブロック群（２） …… 279
第172図　縄文時代遺構配置図（１） …… 287
第173図　縄文時代遺構配置図（２） …… 288
第174図　第１～６号土坑 …… 289
第175図　第７～12号土抗 …… 291
第176図　第13～17号土坑 …… 292
第177図　第18～22号土坑 …… 294
第178図　第23号土坑 …… 295
第179図　第24～27号土坑 …… 297
第180図　第28・29号土抗・第１号柱穴 …… 298
第181図　縄文時代遺物分布図 …… 300
第182図　縄文時代出土土器 …… 301
第183図　縄文時代出土石器 …… 303
第184図　近世遺構配置図 …… 306
第185図　箱根旧街道 …… 307
第186図　第１号溝状遺構（１） …… 308
第187図　第１号溝状遺構（２）・第２号溝状遺構 ‥ 309
第188図　第１号溝状遺構出土遺物（１） …… 311
第189図　第１号溝状遺構出土遺物（２） …… 312
第190図　山中城Ｄ遺跡９－１地点全体図 …… 314
第191図　山中城Ｄ遺跡９－１・２地点全体図 …… 315
第192図　山中城Ｄ遺跡９－２地点全体図 …… 316
第193図　箱根旧街道石畳 …… 317
第194図　箱根旧街道石畳掘り方 …… 318
第195図　第１～５号溝状遺構 …… 320

第196図　９－２地点第１号溝状遺構 …… 321
第197図　第１号井戸址 …… 322
第198図　箱根旧街道石畳出土遺物 …… 323
第199図　表採遺物 …… 324
第200図　遺構外出土遺物 …… 325
第201図　箱根山西麓の石器群の変遷 …… 328
第202図　山中城Ｄ遺跡の箱根旧街道石畳 …… 334

表　目　次

第１表　箱根山西南麓旧石器時代調査遺跡一覧表 … 5
第２表　第Ⅰ文化層個体別資料の
ブロック内外別分類表 …… 26
第３表　第Ⅰ文化層ブロック内外別石器組成表 …… 28
第４表　第Ⅱ文化層個体別資料の
ブロック内外別分類表 …… 115
第５表　第Ⅱ文化層ブロック内外別石器組成表 …… 133
第６表　第Ⅲ文化層個体別資料の
ブロック内外別分類表 …… 259
第７表　第Ⅲ文化層ブロック内外別石器組成表 …… 284
第８表　土坑番号新旧対応表 …… 298
第９表　文化層別黒曜石産地組成表 …… 337
第10表　黒曜石産地分析結果表 …… 338

図　版　目　次

巻頭カラー

巻頭図版１　１．山中城Ｄ遺跡９－１地点遠景　２．山中城Ｄ遺跡９－１地点全景
巻頭図版２　１．山中城Ｄ遺跡９－１地点箱根旧街道石畳西端
２．山中城Ｄ遺跡９－１地点箱根旧街道石畳全景
巻頭図版３　１．山中城Ｄ遺跡９－１地点箱根旧街道石畳南縁西側
２．山中城Ｄ遺跡９－１地点箱根旧街道石畳南縁東側
巻頭図版４　１．山中城Ｄ遺跡９－２地点遠景　２．山中城Ｄ遺跡９－２地点１グリッド完掘全景
巻頭図版５　１．山中城Ｅ遺跡８－１地点遠景　２．山中城Ｅ遺跡８－１地点全景
巻頭図版６　１．山中城Ｅ遺跡基本層序
巻頭図版７　１．山中城Ｅ遺跡第Ⅰ文化層出土石器　２．山中城Ｅ遺跡第Ⅱ文化層出土石器（１）
巻頭図版８　１．山中城Ｅ遺跡第Ⅱ文化層出土石器（２）　２．山中城Ｅ遺跡第Ⅲ文化層出土石器

山中城Ｄ遺跡

図版１　１．９－１地点完掘全景　２．９－１地点全景
図版２　１．９－１地点調査前全景　２．９－１地点全景
図版３　１．基本層序　２．９－１地点南側土層断面
図版４　１．箱根旧街道石畳全景（東から）　２．箱根旧街道石畳全景（南西から）
図版５　１．箱根旧街道石畳西端（東から）　２．箱根旧街道石畳西端（南から）
図版６　１．箱根旧街道石畳縁石（東から№１）　２．箱根旧街道石畳縁石（東から№２）
３．箱根旧街道石畳縁石（東から№３）　４．箱根旧街道石畳縁石（東から№４）
５．箱根旧街道石畳縁石（東から№５）　６．箱根旧街道石畳縁石（東から№６）
７．箱根旧街道石畳縁石（東から№７）　８．箱根旧街道石畳縁石（東から№８）
図版７　１．箱根旧街道石畳縁石（東から№９）　２．箱根旧街道石畳縁石（東から№10）
３．箱根旧街道石畳南側縁石（西から東半分）　４．箱根旧街道石畳南側縁石（東から）
５．箱根旧街道石畳と下部基礎（１）　６．箱根旧街道石畳と下部基礎（２）
７．箱根旧街道石畳北側縁石　８．箱根旧街道石畳矢穴
図版８　１．箱根旧街道石畳下の波板状凹凸西端　２．第１号井戸址
図版９　１．９－１地点北側の第１～５号溝状遺構と遺物出土状況
２．第４号溝状遺構遺物出土状況　３．第１号溝状遺構西側断面
４．第１号溝状遺構西側断面　５．箱根旧街道石畳西端と第５号溝状遺構
図版10　１．９－１地点旧石器試掘グリッド完掘全景　２．試掘トレンチ石畳出土状況
３．作業風景（１）　４．作業風景（２）
５．作業風景（３）

図版11　1．９－２地点調査前遠景　2．９－２地点調査前全景
図版12　1．９－２地点１グリッド完掘全景　2．９－２地点３グリッド完掘全景
図版13　1．９－２地点第１号溝状遺構断面　2．９－２地点１グリッド南側土層断面
図版14　1．出土遺物

山中城Ｅ遺跡
図版15　1．８－１地点遠景　2．８－１地点全景
図版16　1．基本層序　2．８－１地点南側調査前全景
図版17　1．８－１地点北側試掘調査状況　2．８－１地点完掘状態
図版18　1．８－１地点第Ⅰ文化層遺物出土状態　2．８－１地点第Ⅱ文化層遺物出土状態（１）
図版19　1．８－１地点第Ⅱ文化層遺物出土状態（２）　2．８－１地点第Ⅱ文化層遺物出土状態（３）
図版20　1．８－１地点第Ⅱ文化層第19ブロック　2．８－１地点第Ⅱ文化層第16ブロック
3．８－１地点第Ⅱ文化層第21・22ブロック
図版21　1．８－１地点第Ⅱ文化層遺物出土状態（４）　2．８－１地点第Ⅱ文化層第６・７ブロック
図版22　1．８－１地点第Ⅱ文化層ナイフ形石器出土状態
2．８－１地点第Ⅱ文化層尖頭器出土状態
3．８－１地点第Ⅱ文化層尖頭器出土状態
図版23　1．８－２地点調査前全景　2．８－２地点試掘状況
3．８－２地点旧石器試掘状況
図版24　1．８－３地点調査前全景（１）　2．８－３地点調査前全景（２）
図版25　1．８－３地点試掘（１）　2．８－３地点試掘（２）
3．８－３地点試掘（３）
図版26　1．８－４地点調査前全景　2．８－４地点試掘全景
図版27　1．８－４地点第28号土抗　2．８－４地点拡張区完掘全景
図版28　1．８－５地点調査前全景（南から）　2．８－５地点調査前全景（北から）
図版29　1．８－５地点第Ⅱ文化層遺物出土状態　2．８－５地点第Ⅲ文化層遺物出土状態（１）
図版30　1．８－５地点第Ⅲ文化層遺物出土状態（２）　2．８－５地点完掘全景
図版31　1．８－５地点第Ⅱ文化層遺物分布状態　2．８－５地点第Ⅲ文化層第４ブロック
3．８－５地点第Ⅲ文化層第７・８ブロック
図版32　1．８－５地点第Ⅲ文化層第８ブロック　2．８－５地点第Ⅲ文化層第７ブロック
3．８－５地点第Ⅲ文化層第10ブロック
図版33　1．８－５地点第Ⅲ文化層４号礫群、３号配石（１）
2．８－５地点第Ⅲ文化層４号礫群、３号配石（２）
3．８－５地点第Ⅲ文化層４号礫群
図版34　1．８－５地点第Ⅲ文化層６号礫群　2．８－５地点第Ⅲ文化層７号礫群
3．８－５地点第Ⅲ文化層７号礫群、５～13号配石
図版35　1．８－５地点第Ⅲ文化層３号礫群　2．８－５地点第Ⅲ文化層11号礫群（１）
3．８－５地点第Ⅲ文化層11号礫群（２）
図版36　1．８－５地点第Ⅲ文化層９号礫群　2．８－５地点第Ⅲ文化層13号礫群
3．８－５地点第Ⅲ文化層14号礫群
図版37　1．８－５地点第Ⅲ文化層礫出土状態（１）　2．８－５地点第Ⅲ文化層礫出土状態（２）
3．８－５地点第Ⅲ文化層礫出土状態（３）
図版38　1．８－６地点全景　2．８－６地点第Ⅲ文化層第28ブロック
図版39　1．８－６地点第Ⅲ文化層19号礫群、20号配石　2．８－６地点第Ⅲ文化層第20号礫群
図版40　1．８－７地点調査前全景　2．８－７地点縄文時代遺物出土状態
図版41　1．８－７地点第Ⅲ文化層遺物出土状態　2．８－７地点完掘状態
図版42　1．縄文時代第２号土抗　2．縄文時代第４号土抗
3．縄文時代第５号土抗　4．縄文時代第６号土抗
5．縄文時代第７号土抗　6．縄文時代第８号土抗
7．縄文時代第11号土抗　8．縄文時代第12号土抗
図版43　1．縄文時代第13号土抗　2．縄文時代第15号土抗
3．縄文時代第16・17号土抗　4．縄文時代第18号土抗

5．縄文時代第19号土抗　6．縄文時代第20号土抗
7．縄文時代第22号土抗　8．縄文時代第23号土抗
図版44　1．縄文時代第24号土抗　2．縄文時代第25号土抗
3．縄文時代第27号土抗、第１号柱穴　4．中近世第１号溝状遺構（１）
5．中近世第１号溝状遺構（２）　6．中近世第１号溝状遺構土層断面
7．箱根旧街道
図版45　1．第Ⅰ文化層№１～17　2．第Ⅱ文化層№１～22
図版46　1．第Ⅱ文化層№23～45　2．第Ⅱ文化層№46～66
図版47　1．第Ⅱ文化層№67～85　2．第Ⅱ文化層№86～91・93～99
図版48　1．第Ⅱ文化層№92　2．第Ⅱ文化層№100～120
図版49　1．第Ⅱ文化層№121～142　2．第Ⅱ文化層№143～160
図版50　1．第Ⅱ文化層№161～183　2．第Ⅱ文化層№184～194
図版51　1．第Ⅱ文化層№195～203　2．第Ⅲ文化層№１～24
図版52　1．第Ⅲ文化層№25～54　2．第Ⅲ文化層№55～73
図版53　1．第Ⅲ文化層№74～91　2．第Ⅲ文化層№92～113
図版54　1．第Ⅲ文化層№114～136　2．第Ⅲ文化層№137～155
図版55　1．第Ⅲ文化層№156～157　2．第Ⅲ文化層№168～179
図版56　1．第Ⅲ文化層№180～191　2．第Ⅲ文化層№192～212
図版57　1．第Ⅲ文化層№213～234　2．第Ⅲ文化層№235～263
図版58　1．第Ⅲ文化層№264～277・298・301～303　2．第Ⅲ文化層№278～285
図版59　1．第Ⅲ文化層№286～290　2．第Ⅲ文化層№291～293
図版60　1．第Ⅲ文化層№294～297・300・304～306　2．縄文石器№１～23
図版61　1．縄文土器№１～８
図版62　1．第１号溝状遺構出土遺物№１～51
図版63　1．第１号溝状遺構出土遺物写真資料１～10　2．第１号溝状遺構出土遺物写真資料№11～25

第１章　調査と環境

第１節　発掘調査に至る経緯

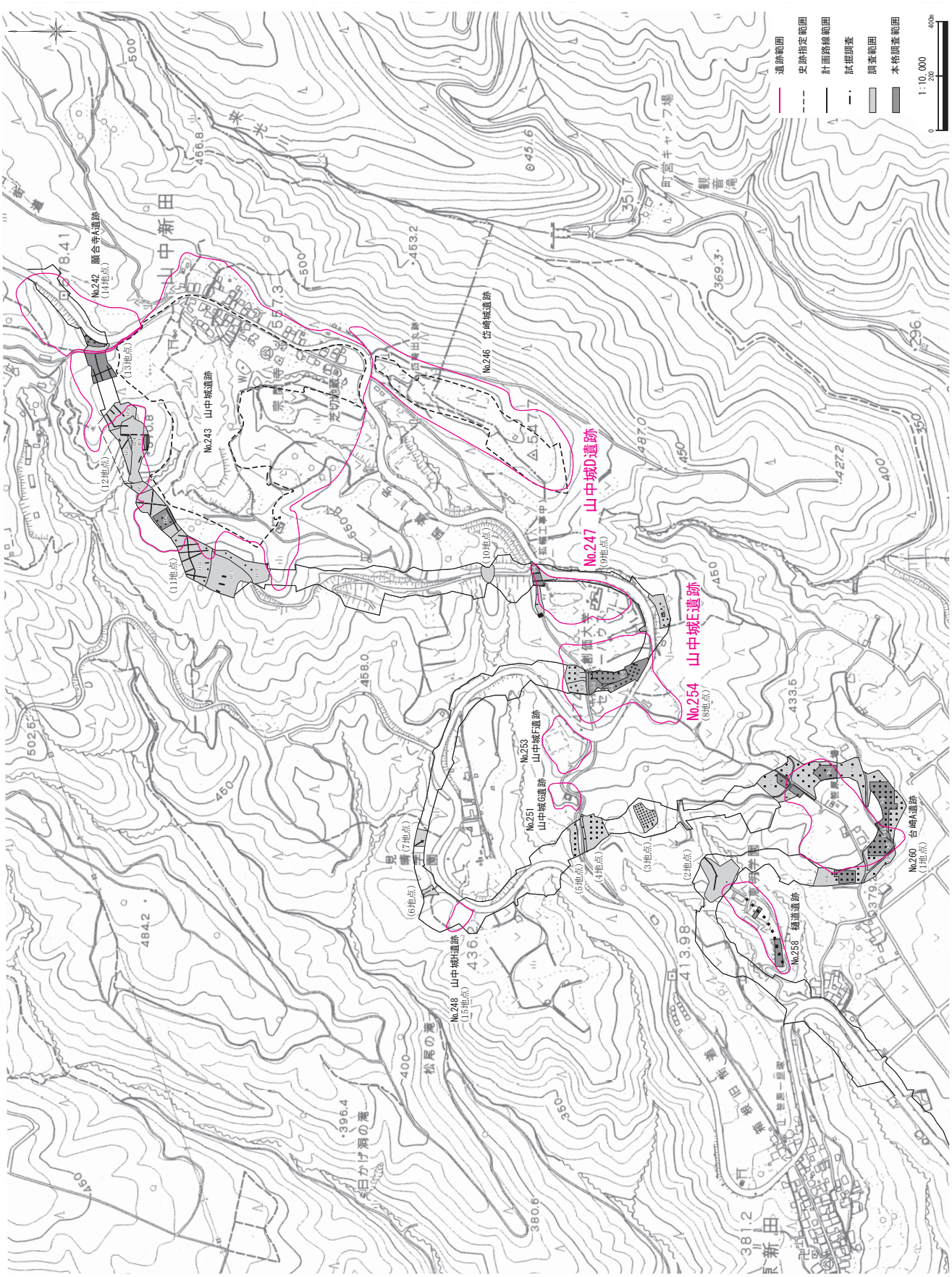
昭和61年12月19日、静岡県教育委員会と三島市教育委員会は建設省沼津工事事務所（当時）より、一般国道１号山中道路路線計画ルート内の文化財について照会を受けた。この計画は国道１号のうち神奈川・静岡県境の箱根峠より三島市街地に至る区間は幅員が狭小で平面線形が悪く急勾配のうえに、沿道にはいくつかの集落が拡がっているため、交通安全等の面から局部改良の一環として道路整備を計画するものであった。これに対して市教育委員会は、昭和62年１月12日付で当該路線区域内には国指定史跡山中城跡、国指定史跡候補地箱根旧街道が存在している旨の報告を行い、さらに昭和62年６月３日付で「計画道路の通過が許されない文化財とその範囲」と「発掘調査が必要な文化財とその範囲」の報告を行った。そして昭和63年１月の打合せでは、建設省から道路と山中城ラオシバ曲輪との交差部分はトンネル、箱根旧街道の交差部分は歩道橋という案が示され、これに対して市教育委員会は複数回に及ぶ文化庁との協議と指導に基づいて、道路と箱根旧街道が交差する３箇所は立体交差化するよう改善要望を提出した。

ところが平成元年になると建設省から、山中城ラオシバ曲輪との交差部分はトンネル構造からオープン掘削構造に、箱根旧街道との交差部分２箇所はボックス構造、残る１箇所は平面交差とする変更要請が出された。しかし、こうした変更はラオシバ曲輪の消滅を意味し、また箱根旧街道が道路によって分断されることは計画している史跡指定が困難になるため、文化財保護の立場からは決して容認できる内容ではなかった。そのため市教育委員会と県教育委員会は文化庁との協議を度々行い、平成２年７月27日にラオシバは重要な曲輪でありルート変更されたい、箱根旧街道との交差部分２箇所はボックス構造として旧街道の復元をされたい、平面交差となる箇所についてはルート変更されたい、との要求を行った。

これに対して建設省からは、すでに地権者との用地立合も完了しているのでルートの変更は計画の白紙撤回と同じであり無理であること、構造上トンネル化はできない、箱根旧街道との平面交差部分は横断歩道橋で検討する、との回答であった。ルート変更を求める教育委員会と、現ルートの中で構造対応を主張する建設省、両者の主張は平行線をたどり交渉は長期化した。

しかし平成３年１月19日の建設省、市教育委員会と県教育委員会の協議で建設省より、ラオシバ曲輪と西ノ丸西側はパイプルーフ構造のトンネルにして遺跡を保護する、西ノ丸北側は植栽により景観に配慮する等の、構造対応による新提案が出された事により交渉は一気に前進する。そして平成３年３月25日の建設省、県教育委員会の協議において、山中城についてはラオシバ曲輪と西ノ丸西側の尾根はパイプルーフ工法によりトンネルとする、トンネル出入り口部分は城跡との景観に調和したものにする、両トンネル間は植栽を施して山中城からバイパスが見えないように景観に配慮する。箱根旧街道については、浅間平地区東側は景観に調和した横断歩道橋（後に横断歩道に変更）を設置する、浅間平地区西側と上長坂地区は消滅範囲を最小限にしてボックスカルバート工法で施工後に旧街道の姿を復元する、という工事内容について合意して文化庁に報告、今後は市教育委員会を窓口として協議、発掘を進めていくことになった。

発掘調査は平成５年度に着手したが、建設省の予算措置の都合により平成７年度から13年度まで中断、平成14年度に再開して25年度に計画範囲の発掘調査を終了した。本報告書掲載の山中城Ｄ遺跡は、平成５・16年に、山中城Ｅ遺跡は平成６・14・17・25年度にそれぞれ断続的に発掘調査を実施した。



第１図　笹原山中バイパス関連遺跡全体配置図

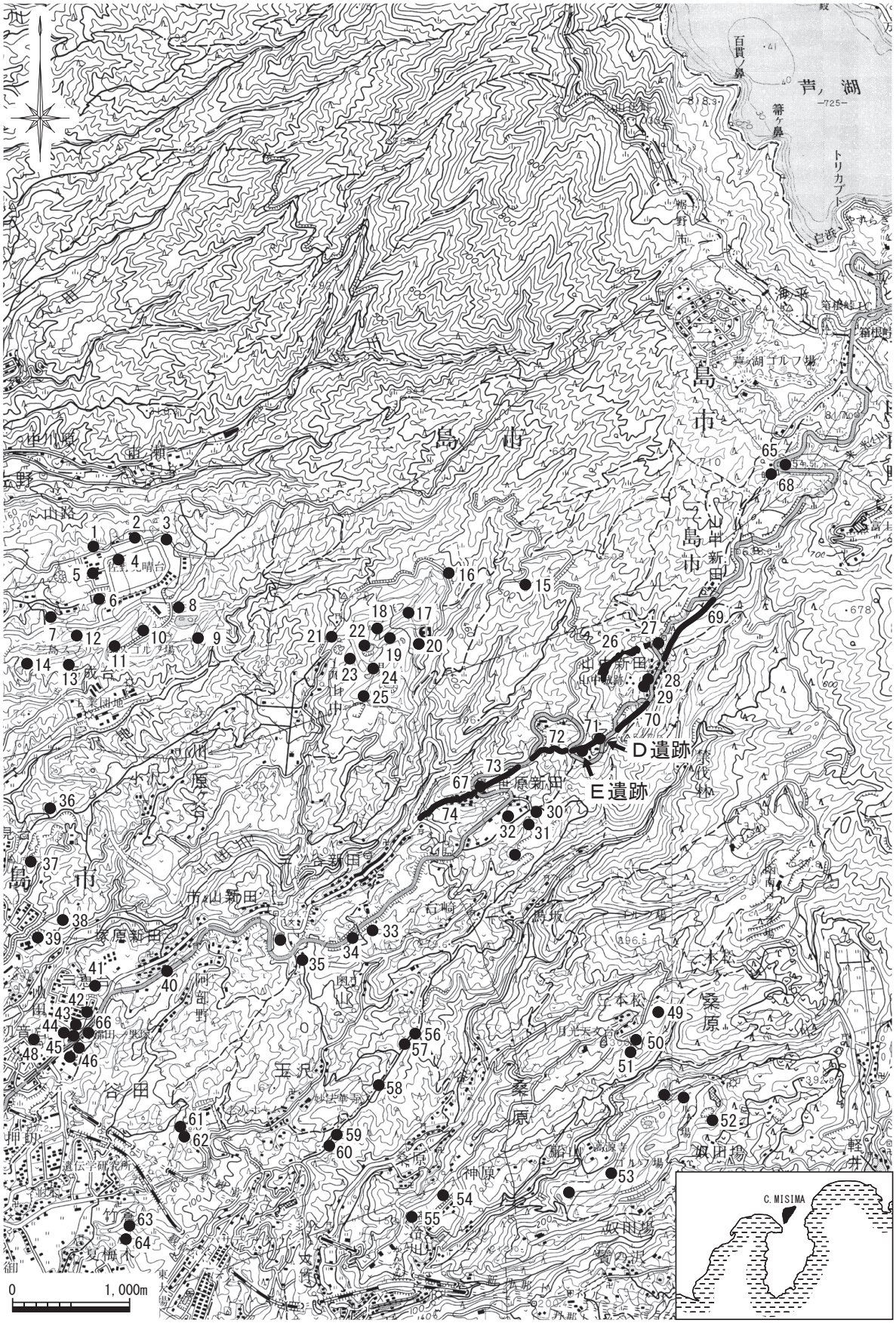
第２節　遺跡の立地と歴史的環境

１．遺跡の立地

今回、発掘調査が行われた山中城Ｄ・Ｅ遺跡は、静岡県東部の中核都市である三島市に所在する。三島市は太平洋に向かって南側に延びる伊豆半島の付け根部分に位置し、北側を裾野市と、南を函南町、西側を長泉町と清水町、東側を神奈川県箱根町と境を接し、東西11.107km、南北13.242km、面積が62,02㎢の規模を有する都市である。地形的には、北西に富士山と愛鷹山が位置し、東は標高1,438mの箱根山、南側には多賀火山から天城山が連なり、西では静浦山塊が鎮座する中で、これらの山々の間に沼津、三島平野と田方平野が開けた場所の北東側に位置している。三島市の地勢的特徴は、その地形と地質的特質により二つ、ないし三つの地域に区分される。一箇所目は市域の西側を構成する愛鷹山と箱根山の裾間谷に形成された扇状地で、今から14,000年ほど前に噴火した新富士火山の溶岩によって形成されたもので、三島扇状地、あるいは黄瀬川扇状地とも呼ばれている地域である。この扇状地は裾野市の平松付近を扇頂部とし、函南町間宮から清水町柿田付近を末端部とする広大なもので、現市街地の位置する北側は溶岩性、南側は堆積の薄い砂礫性、そして中郷地域を中心とする末端部では20mもの層厚が形成された砂礫性の扇状地となっている。二箇所目は前述した市域の南側を占める中郷地域で、本地域は縄文時代における海進によって形成された「古狩野湾」と呼ばれる浅海性内湾に黄瀬川、大場川といった河川によって運ばれた堆積物によって形成された沖積地が相当する。ただ、本地域は扇状地の中に形成された沖積地であり、基盤は三島扇状地であることは論を俟たないことから、表面的には区別されるものの基盤としては同一の地勢に立地する地域である。三箇所目は本遺跡が位置する、市域の約2/3を占有する箱根山の西山麓地域が該当する。箱根山は約40万年前に活動が開始された火山で、当初形成されていた箱根山は標高2,700mにも及ぶ成層火山であったが、その後における噴火の繰り返しによるカルデラの形成によって、現在の複雑な山容が形作られてきたことが知られている。そして、その緩やかな斜面が形成されている西山麓は、今から約７～５万年に発生したと考えられる箱根山第３期の活動によって生じた古期カルデラ形成後の楯状火山の成立と、それに伴う噴火や火砕流の流下によって形成されたものである。さらに６万年前頃から活動を開始した古富士火山は、伊豆北部から関東地域にかけて多量のスコリアや火山灰を降下させ、噴火の休止期に形成された黒色帯と共に厚いローム層が形成されている。そして、この西山麓は箱根山の外輪山に相当し、なだらかな緩傾斜地が形成されているが、これを山田川や沢地川を始めとする多くの中小河川によって開析され、小さな尾根を幾つも派生させた八つ手状の丘陵地形が形作られている。本遺跡群の位置していた丘陵も、こうした丘陵のひとつで、箱根山中腹の南西方向に延びる尾根幅約300mの丘陵の北西斜面で、標高約480～510mから検出されたものである。

２．歴史的環境

本遺跡の位置していた箱根山中腹は広範な森林地帯であり、発掘調査が実施された遺跡も少ないこともあって、古の人々が居住していた痕跡の存在が知られるようになったのは最近のことであった。箱根山麓で最も早く旧石器時代の遺跡が調査されたのは昭和36年の神奈川県箱根町朝日遺跡（坂詰　1962・1967）を嚆矢とするが、三島市域で初めて本格的な旧石器時代の遺跡が発掘調査されたのは昭和49年の塚原初音原遺跡（40）の調査を待たねばならなかった。しかしながら、昭和36年と昭和38年に静岡県教育委員会で刊行された『静岡県遺跡地名表』（1961）と、『静岡県の古代文化』（1963）によって、静岡県では旧石器時代の遺跡が本遺跡の位置する箱根山西麓と、愛鷹山南麓～東麓、磐田原台地の三地方に集中して確認されていることが周知されていた。さらに前二地域では、昭和30～40年代にかけて沼津商業高校や大仁高校、藤枝東高校、



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1/50,000）

第１表　箱根山西南麓旧石器時代調査遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	YLU	YLM	YLL	BB0	BBⅠ	NL	BBⅡ	BBⅢ	S3b1	BB4	K	P	M	ブロック	礫群	配石	土坑	炉	遺物点数	調査者	調査年
1	陣笠山Ａ遺跡	●	●									◎									加藤学園	1989
2	佐野片平山Ｇ遺跡	●	●							●	●	◎									加藤学園	1989
3	佐野片平山Ｆ遺跡	●										◎									加藤学園	1989
4	佐野片平山Ｈ遺跡	●	●									◎									加藤学園	1989
5	陣笠山Ｈ遺跡	●	●							●		◎									加藤学園	1989
6	佐野片平山Ｓ遺跡	●	●							●		◎									加藤学園	1989
7	佐野片平山Ｔ遺跡	●	●							●		◎									加藤学園	1989
8	徳倉片平山Ｂ遺跡	●	●		●	●						◎	◎		11	14				401	三島市教委	1986
9	徳倉片平山Ｉ遺跡	●																		1	三島市教委	1986
10	中村Ｃ遺跡	●	●			●						◎	◎	◎	13	7				1,167	三島市教委	1986
11	片平山遺蹟	●	●			●						◎	◎		16	14				1,037	三島市教委	1986
12	ソノエンサレＢ遺跡	●	●					●	●	●		◎	◎		2	1				107	三島市教委	1986
13	徳倉片平山Ｋ遺跡	●	●									◎			4		2			32	三島市教委	1986
14	徳倉片平山Ｌ遺跡	●										◎			2	2				10	三島市教委	1986
15	北原菅遺跡Ａ地点	●	●									◎	◎		40	○	○			1,937	三島市教委	1985
16	五輪遺跡	●										◎	◎							4	三島市教委	1989
17	観音洞Ｇ遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			◎	◎	◎	134	○				4,630	三島市教委	1989
18	元山中Ｃ遺跡	●	●									◎			129	○				875	三島市教委	1989
19	陰洞Ａ遺跡	●	●									◎			2	○				236	三島市教委	1989
20	観音洞Ｂ遺跡	●	●	●		●						◎			300	○		1	2	29,005	三島市教委	1989
21	元山中遺跡			●	●	●	●	●	●			◎								28	加藤学園	1990
22	陰洞Ｂ遺跡	●	●	●	●	●						◎	◎		20	○				391	三島市教委	1989
23	陰洞Ｃ遺跡	●	●	●	●	●						◎			34	○				689	三島市教委	1989
24	陰洞Ｅ遺跡	●	●	●		●						◎	◎		126	○				19,055	三島市教委	1989
25	観音洞Ｈ遺跡	●	●	●		●						◎	◎		10	○				156	三島市教委	1989
26	山中城遺跡	●	●									◎	◎	◎	12	17				7,263	三島市教委	2014
27	願合寺Ａ遺跡	●	●									◎	◎	◎	18	11				1,667	三島市教委	2014
28	山中城三ノ丸第１地点	●	●									◎	◎	◎	12	17				7,263	三島市教委	1989
29	山中城三ノ丸第２地点			●								◎			4	2				41	三島市教委	1993
30	天台Ｂ遺跡	●	●	●	●	●						◎	◎		29					13,977	三島市教委	1993
31	中村分遺跡	●	●	●	●	●						◎	◎	◎	10	4				1,080	三島市教委	1991
32	台崎Ｃ遺跡	●	●	●	●	●						◎	◎	◎						167	三島市教委	1996
33	笠原Ｆ遺跡			●								◎			1					52	三島市教委	1983
34	奥山遺跡		●									◎			2	1				16	三島市教委	1983
35	生茨沢遺跡										●	◎			1		○			210	県埋文研	1999
36	加茂ノ洞Ｂ遺跡	●	●			●		●	●			◎	◎		3	1		17		300	県埋文研	1994
37	加茂向山遺跡	●				●		●							1	2				24	三島市教委	1991
38	焼場遺跡	●				●		●		●		◎	◎		1	1		2		18	県埋文研	1992
39	十石洞遺跡	●	●	●								◎	◎							73	三島市教委	1989
40	塚原初音原遺跡	●	●									◎	◎							1,517	調査団	1974
41	下原遺跡	●	●		●	●	●	●	●	●		◎	◎		19	16	4	7		1,000	県埋文研	1994
42	初音ケ原Ａ遺跡第１地点	●	●	●	●	●		●	●	●	●	◎	◎		74	○				4,547	三島市教委	1986
43	初音ケ原Ａ遺跡第２地点	●	●	●	●	●		●	●			◎			35	26		9		791	三島市教委	1988
44	初音ケ原Ａ遺跡第５地点	●	●	●		●		●			●	◎			8	6		3		485	三島市教委	1993
45	初音ケ原Ａ遺跡第３地点							●	●			◎			6	7	2			179	三島市教委	1991
46	初音ケ原Ｂ遺跡第３地点	●	●	●					●			◎			10			13		230	三島市教委	1994
47	初音ケ原Ｂ遺跡第１地点	●	●						●			◎			10	2		4		138	三島市教委	1987
48	初音ケ原Ａ遺跡第４地点							●												6	三島市教委	1993
49	柳沢Ｂ遺跡	●	●									◎	◎							92	函南町教委	1985
50	柳沢Ｃ遺跡	●	●									◎	◎	◎	17	3	2			417	函南町教委	1985
51	柳沢Ｄ遺跡	●	●									◎	◎							4	函南町教委	1985
52	大奴田場Ａ遺跡	●	●									◎	◎		22	1	2			1,684	函南町教委	1985
53	上黒岩遺跡		●	●								◎								35	函南町教委	1985
54	上原遺跡	●	●	●				●				◎	◎	◎	14	8				5,800	函南町教委	1993
55	中原遺跡	●	●									◎	◎		10					270	函南町教委	1980
56	奥山遺跡	●										◎	◎		6					82	三島市教委	2004
57	香音Ⅱ-D遺跡	●										◎	◎	◎	2					14	三島市教委	2004
58	東山遺跡	●										◎	◎		20		6			314	三島市教委	2004
59	南山D遺跡第２地点	●										◎	◎	◎	11	1	1			600	三島市教委	2004
60	南山D遺跡第１地点	●	●	●								◎	◎	◎	7	2	5			561	三島市教委	2004
61	小平Ｃ遺跡	●	●	●	●							◎	◎	◎	5	2				201	三島市教委	1991
62	小平Ｂ遺跡	●	●		●	●						◎	◎	◎	5					533	三島市教委	1994
63	源平山遺跡	●			●							◎								6	三島市教委	1990
64	猪追面遺跡	●										◎								3	三島市教委	1990

＊凡例　ＹＬＵ 休場上層　ＹＬＭ 休場中層　ＹＬＬ 休場下層　ＢＢ0 第0黒色帯　ＢＢⅠ 第Ⅰ黒色帯　ＮＬ ニセローム　ＢＢⅡ 第Ⅱ黒色帯
ＢＢⅢ 第Ⅲ黒色帯　ＳＣⅢｂ1 第Ⅲスコリア帯第１黒色帯　ＢＢⅣ～ 第Ⅳ～第Ⅶ黒色帯　Ｋ ナイフ形石器　Ｐ 尖頭器　Ｍ 細石器

日大三島高校等の郷土研究部による遺跡調査が行われており、当該地域における旧石器時代の遺跡の濃密な存在が推察される状況にあり､その集大成として昭和43年に秋本真澄氏による『伊豆の後期旧石器文化図録』（秋本　1968）が刊行されている。このような中で、近年のバイパス建設や畑地帯総合事業、ゴルフ場建設等の開発が進み、多くの旧石器時代遺跡の調査が実施されてきた。そして、前述したようにローム層の堆積が顕著な箱根山西麓や愛鷹山東南麓では、旧石器時代遺跡間の同時期の確認や関連性を追及するには格好の地域として認識されており、旧石器時代を研究するフィールドとして重要な地域となっている。

本市域を含めた箱根山西麓で確認された最古の遺跡は、箱根西麓ローム層の第Ⅳ～Ⅶ黒色帯で確認された初音ヶ原Ａ遺跡第１地点（42)、初音ヶ原Ａ遺跡第２地点第Ⅴ文化層（43)、佐野片平山Ｇ遺跡（２)、生

茨沢遺跡（35）があり、石器類の出土量は少ないものの、ナイフ形石器のひとつの形態である台形石器や掻器、ピエス・エスキーユ、局部磨製石斧等が確認されている。石器類以外では構築時期は広域火山灰である所謂ＡＴ層以前の所産と思われる陥し穴と考えられている土坑と土坑列の存在がある。これらは初音ヶ原遺跡群の中で広範囲に確認されており、総数60基を数える。初音ヶ原遺跡調査後、近隣の遺跡である下原遺跡（41）や、市内の焼場遺跡Ａ地点（38）、加茂ノ洞Ｂ遺跡（36）、八田原遺跡等でも同様の土坑が相次いで検出されており、当地方ではＡＴ層降灰以前の時代に大規模な掘削作業が組織的に行われていたことが窺えるものである。ＡＴ層降灰以前では第Ⅱ黒色帯から初音ヶ原Ａ遺跡第２地点第Ⅲ文化層（43）や、函南町上原遺跡第Ⅲ文化層（54）から、石刃技法を技術基盤とした良好なナイフ形石器石器群が確認されている。ＡＴ層降灰以後の第Ⅱ黒色帯からは加茂ノ洞Ｂ遺跡、中村Ｃ遺跡（10）、観音洞Ｇ遺跡（17）等から出土しているが、小規模な遺跡が多く、纏まった資料は上ノ山遺跡（図外）から出土している。箱根西麓のローム層の最上層である所謂「休場層」で確認された遺跡は多く、休場層の下部からはナイフ形石器石器群の最盛期と称されている所謂「砂川型式期」に対比されている石器群が出土しており、これらには本遺跡第Ⅲ文化層の他、南山Ｄ遺跡第１地点第Ⅱ文化層（60）、函南町の上原遺跡第Ⅱ文化層（54）、大奴田場Ａ遺跡第Ⅱ文化層（52）、上黒岩遺跡（53）等が調査され、少量の尖頭器を持つナイフ形石器石器群が確認されている。これらは長野県産と思われる黒曜石が原材となっているものが多いが、ガラス質黒色安山岩、ホルンフェルス、凝灰岩、赤玉石、チャート、玉髄等の多くの石材が利用されることが特徴の一つとなっており、本遺跡第Ⅲ文化層ではホルンフェルスを原材とした剥片剥離作業が頻繁に行われたようで、多量のホルンフェルス製の石刃が出土している。これに対して休場層の中部から上部にかけて出土するナイフ形石器石器群の最終末期の石器群では、同じように少量の尖頭器を持つナイフ形石器石器群ではあるものの、石器類の殆どを箱根の畑宿産の黒曜石を原材としている願合寺Ａ遺跡第Ⅱ文化層（27）、山中城遺跡第28次調査（26）、塚原初音原遺跡、北原菅遺跡第Ⅰ文化層（15）等の石器群の他に、これらと同様に畑宿産の黒曜石を原材とした石器群で、尖頭器を保有していないナイフ形石器石器群の山中城遺跡第19次調査第Ⅱ文化層（26）と、本遺跡Ⅱ文化層のような比肩できる量のナイフ形石器と尖頭器を持つ石器群が確認されており、当該期の複雑な石器群の様相が明らかになってきている。そして、このような状況は、近接する旧石器時代遺跡の集中地域である相模野台地の遺跡群でも確認されており、両地域には密接な関連性があることが明らかになってきている。

ただ、本地域では、今まで見てきたナイフ形石器石器群に後続すると思われる尖頭器石器群の存在は稀薄で、僅かに東山遺跡第Ⅱ文化層（58）、山中城跡三ノ丸第１地点第Ⅱ文化層（28）で確認されているだけであり、今後の調査による資料の蓄積に期待したい時期である。これに対し、後続する細石刃石器群の検出例は豊富で、多くの細石刃を保有する大規模な遺跡が形成されている大奴田場Ａ遺跡第Ⅰ文化層、上原遺跡第Ⅰ文化層、山中城跡三ノ丸第１地点第Ⅰ文化層、今回のバイパス建設に伴って調査された願合寺Ａ遺跡第Ⅰ文化層等がある。ただ、これらの遺跡の他に、小規模な遺跡とブロックが形成された本遺跡第Ⅰ文化層、柳沢Ｃ遺跡第Ⅱ文化層（50）、南山Ｄ遺跡第１地点第Ⅰ文化層、東山遺跡第Ⅰ文化層（58）、奥山遺跡第Ⅰ文化層（56）、山中城遺跡第19次調査第Ⅰ文化層等があり、細石刃石器群の遺跡の形成には多様性があることが推察される状況にある。

箱根山西麓の縄文時代の遺跡は調査例が乏しく、しかも地勢的な要因からか小規模な遺跡が多いことから、特徴的な遺跡だけを挙げて行くことにしたい。当地方で草創期に相当する遺跡は少ないが、初音ヶ原Ａ遺跡から平底で無文の小形土器が出土している。早期は断片的な資料が多いが、条痕文系土器を出土する遺跡は豊富で、その中の上黒岩遺跡では押型文の高山式や人海式、打越式の纏まった資料が出土している。前期では、上黒岩遺跡から諸磯期の住居址２軒が検出され、前期末の十三菩提式とこれに伴うと思われる関西地方

の大歳山式土器が出土している。柳沢Ｄ遺跡（51）では中期の住居址が６軒検出され、勝坂式末から曽利式の比較的纏まった資料が検出されているとともに、少量の加曽利Ｅ式が伴って出土している。天台Ｂ遺跡(30)では勝坂期の住居址が４軒、観音洞Ｂ遺跡（20）でも曽利期と加曽利Ｅ式期の住居址が５軒検出されており、住居の構築が定住化の促進であるならば、箱根山西麓にも遺跡の規模は大きくはないものの集落が形成されていることが理解されるものである。そして、北山遺跡（図外）では、後期の堀之内式～加曽利Ｂ式期の住居址が確認されているが、当該地方では加曽利Ｂ式期以降の縄文時代遺跡の検出は殆ど認められず、今後の調査に期待されるところである。

弥生時代以降も遺跡の存在は稀薄で、陰洞Ｅ遺跡（24）から弥生時代中期前半の条痕文系土器群が出土したり、大奴田場Ａ遺跡では土坑から弥生後期の土器が数個体出土していたりと、断片的な状態で弥生式土器や土師器が検出されることはあるが、住居址や集落址の発見は殆ど認められない状態で、僅かに陰洞Ｅ遺跡で８世紀前半と９世紀に比定される単独住居跡が検出されている程度である。その後は山中城跡の二ノ丸から、折戸53号窯式に比定される平安時代の灰釉陶器皿が出土したりと、断片的な遺物が確認されてはいるものの、戦国時代に作られた山中城の出現まで、当地方での人々の痕跡は極めて稀薄な状態で、居住地としては選択される事なく現代に至った可能性が高いものと思われる。ただ、古来、『天下の嶮』と称された箱根山は人々の従来にとって大きな障害となっていたが、先年、調査が行われた南山Ｄ遺跡第１地点、南山Ｄ遺跡第２地点（59)、東山遺跡（58)、香音Ⅱ－Ｄ遺跡（57)、奥山遺跡（56）等は、西南方向に延びる標高172～246ｍの同一尾根上に分布している遺跡群で、この尾根筋は通称「韮山街道」と称される古道が延びていた地帯である。この韮山街道は、戦国時代にこの地域を所領していた後北条氏の居城である小田原城と、支城である山中城と韮山城を結ぶ道であり、往時の主要な交通路であったことが推定されるものである。そして、江戸時代になると伊豆の支配権を持つ韮山代官が江戸とを往復する道として利用されており、山中城地域で交わる東海道と共に、本地域の重要な交通路として整備されていたものと思われる。さらに東海道では街道の整備とともに、箱根宿を初めとして、箱根山麓内に幾つかの宿場町と集落が計画的に作られることになり、これに伴って周辺地域の開墾が進んだことが想定されるものである。このように、江戸時代を迎えたことで、街道や宿場町の整備に伴って箱根山麓内にも人々の居住が進んで行ったことが窺えると共に、山中宿などの宿場町には寺院や墓場が建立されることによって、集落としての環境も整えられており、恒常的な居住地として存続できる状態が形成されて行ったものと思われる。

山中城遺跡周辺の江戸時代遺跡の調査事例として、まず、接待茶屋遺跡（65）がある。箱根旧街道に設けられた茶屋で「山中接待所」や「茶屋」と呼ばれていたものである。文政７（1824）年に江戸呉服町の商人屋加勢屋与兵衛が開設したが、明治維新で一時途絶える。更に明治12（1879）年に八石性理教会により再スタートし、後に鈴木家に引き継がれ昭和45（1970）年に歴史を閉じるまで江戸期末から昭和期まで箱根越えの茶屋として機能した。調査では、江戸時代末期与兵衛の井戸や箱根旧街道石畳も検出され、箱根旧街道との位置関係や機能を推定できる遺構が検出されているほか、幕末から明治期の遺物群も多く出土している。箱根旧街道の「茶屋」を具体的に示す重要な遺跡である。

その他、三島市山中新田で山中公民館改築に伴い実施された山中城三ノ丸第１地点（28）の調査では、近世山中宿は三島宿と箱根宿の中間にあたる村落で利用者の便を図るため茶屋などが開設された宿である。調査では具体的な茶屋建物を示す遺構は検出されなかったが、土坑、井戸址、掘立柱建物址、柱穴などが検出され、茶屋に関連する遺構群として捉えられている。

山中城Ｄ遺跡で検出された箱根旧街道石畳は、東海道箱根路に箱根宿から小田原宿までの東坂と箱根宿から三嶋宿までの西坂ともに敷設されたものである。三島市では西坂の箱根旧街道石畳の保存・整備事業を実

施し、発掘調査と整備・活用がなされている。保存・整備された石畳は、西坂上方から願合寺地区（69）、山中新田集落を通り山中城岱崎出丸の腰巻地区（70）、山中城Ｄ・Ｅ遺跡を含む浅間平地区（71）、上長坂地区（72）、笹原地区（73）、笹原新田集落（74）がある。

また、箱根旧街道西坂には錦田一里塚（66）、笹原一里塚（67）、山中一里塚（68）があるが、このうち錦田一里塚は一対で残っている一里塚として貴重なもので大正11（1922）年３月に国の史跡に指定されている。

第３節　発掘調査の経過と概要

国土交通省沼津工事事務所によって建設が計画された笹原山中バイパスの建設工事は、笹原大曲から山中新田までの総延長約４㎞に及び、その間に存在する７遺跡11地点で遺跡を分断するほかに、遺跡の存在が推定される３地点を通過する計画となっていた。これらの遺跡の中には、国指定史跡の山中城をはじめとして、旧石器時代の有望な遺跡が含まれていることから、この14地点（総面積42,130㎡）を対象とした発掘調査が、道路建設工事にさきがけて順次行われることとなった。

本報告では上記の14地点の内、山中城Ｄ遺跡と山中城Ｅ遺跡として登録されている２地点についての報告をまとめることとした。以下に発掘調査の経過を述べる。

山中城Ｄ遺跡は、調査地点名では笹原山中バイパス９－１・２地点の２次に分けて調査が行われた。

９－１地点の調査は、平成５年８月23日～同年10月29日にかけて830㎡について行われた。調査地点は箱根山西麓の中腹、山田川と来光川に挟まれた幅200ｍ程の丘陵上に位置し、標高約508ｍを測る。調査地点の約200ｍ北側には、後北条氏によって築かれた山中城が立地する。

調査は、箱根旧街道の様子を明らかにするために、現在ハイキングコースとして利用されている通称「旧街道」部分に対して、直角方向に３本の試掘トレンチを設定して掘り下げを行った。この調査によって箱根旧街道の存在が明らかにされたことから641㎡の全面調査に移行し、全長34ｍに及ぶ石畳の縁石・旧街道の並木敷・複数の溝状遺構を確認した。また、旧街道関連遺構の調査完了後に旧石器時代の遺構と遺物確認のための３×３ｍの試掘グリッドを８ヶ所設置して調査を行ったが、遺物の存在を確認することはできなかった。

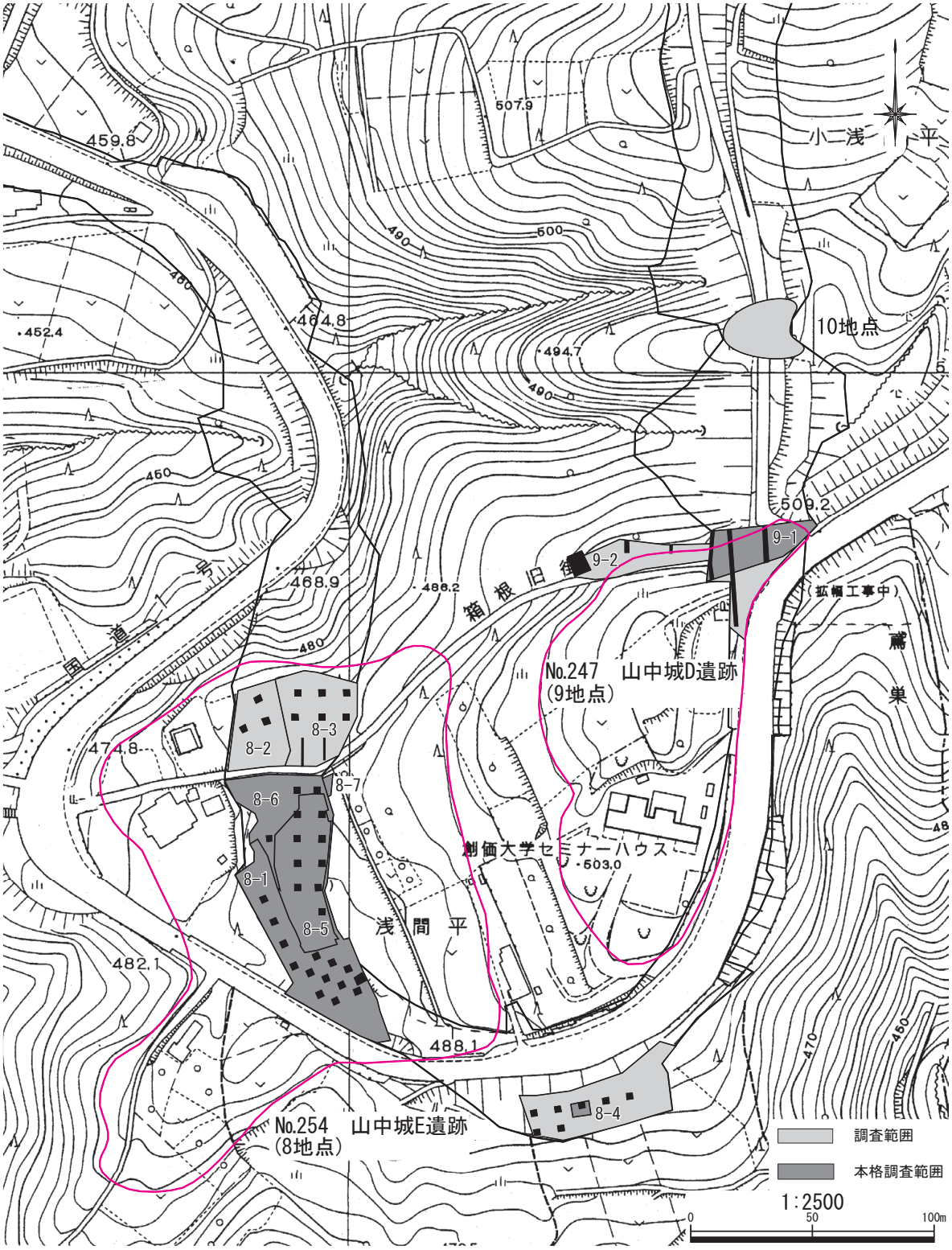
９－２地点の調査は、平成16年２月９日～同年３月19日にかけて76㎡について行われた。調査地点は９－１地点の西側にあたり、調査地点の南側には近世東海道の石畳が東西方向に延びている。

調査は、笹原山中バイパス８地点に設置されていた水道タンクの移転先となったことから急遽行われたものである。発掘調査に先立つ地表面観察で溝状の窪みの存在が明らかであったため、樹木の伐採と地形測量を行った後に人力による掘り下げを行った。その結果、水道タンク本体設置部分で長さ8.0m、幅4.6mの溝状遺構を確認したが、これに続く工事用搬入路部分は厚さ30㎝以上の保護層を確保して調査範囲から除外した。また、溝状遺構の掘り下げ完了後に旧石器時代の遺構と遺物確認のための調査を行ったが、遺物の存在を確認することはできなかった。

山中城Ｅ遺跡は、調査地点名では笹原山中バイパス８－１～７地点として７次に分かれて調査が行われた。

８－１地点の本格調査は、平成６年７月13日～平成７年１月28日にかけて1,494.5㎡について行われた。調査地点は、山田川と来光川に挟まれた幅200ｍ程の丘陵上に位置し、標高485ｍに位置する。調査地点の北側約300ｍには、後北条氏によって築かれた山中城が位置する。調査区の北側には箱根街道、南側には国道１号線がそれぞれ横断し、その間に挟まれた部分が主な調査範囲に当たる。

調査は、調査区内を10ｍ間隔で１辺３ｍのグリッドを７ヵ所設定し、山中城関係の遺構・遺物の調査から開始した。グリッド調査では斬移層から縄文土器や石器が出土し、その後の全面調査では縄文時代の土坑と



第３図　山中城Ｄ・Ｅ遺跡の調査範囲と周辺の地形

溝と思われる掘り込みも確認され、溝については山中城関係の遺構としての期待が高まったが、溝からの出土遺物は陶器・時期などの江戸時代の遺物が中心であった。

その後に行った旧石器時代の調査では、グリッドの数を14ヵ所に増やして調査を行った。その結果、休場層上層（ＹＬＵ）層の堆積が比較的厚く、ＹＬＵ層の中間部分から石器が出土し始め、休場層中層（ＹＬＭ）・

休場層下層（ＹＬＬ）でも遺物の出土が認められた。このことから全面調査に移行して調査を続けた結果、遺物のピークは休場層下層から中層にかけて検出された。その後、調査はグリッドで第Ⅲ黒色帯（ＢＢⅢ）まで掘り下げたが、遺構・遺物の出土は認められなかった。

８－２地点の調査は、平成６年11月16日～12月８日にかけて27㎡について行われた。調査地点は、８－１地点の北側に当たり、箱根街道の北側に位置する。調査は、調査区内を10m間隔で１辺３ｍのグリッドを３ヵ所設定して調査を行ったが、各グリッドとも畑の平坦面を作る際に削平され、ＮＬ層（ニセローム層）より上層が消滅しており、遺構・遺物は認められなかった。

８－３地点の調査は、平成６年11月24日～12月21日・平成14年７月11日～８月５日の２回に分けて計102㎡について行われた。調査地点は、８－２地点の東側に隣接し、８－２地点と同様に箱根街道の北側に位置する。平成14年の調査は、調査区内を10m間隔で１辺３ｍのグリッドを６ヵ所とグリッドの南側に幅１ｍ、長さ12mと９ｍのトレンチを２本設定して75㎡の調査を行ったが、調査区が北側に向かって急速に標高を減じる深い谷地形であり、黒色土と褐色土が厚く堆積していることが判明した。２ｍを超える掘り下げを行ったが基本層序に到達せず、また土層の堆積も不安定なことから遺跡は存在しないと判断し、調査を終了した。

８－４地点の調査は、平成６年11月25日～12月21日にかけて102㎡について行われた。調査地点は、８－１地点の南東側に当たり、国道１号線の南側に位置する。調査は、調査区内を10m間隔で１辺３ｍのグリッドを５ヵ所設定して縄文時代までの調査を行った。その結果、縄文時代の包含層は畑の耕作等により削平されて確認できなかったが、調査区中央部の１グリッドと３グリッドにおいて土坑が各１基確認された。これらに関わる遺構・遺物の有無の確認のために３号グリッドを拡張し、さらに６号・７号グリッドを新設して旧石器時代までの調査を行った。最終的にはＮＬ層（ニセローム層）までの調査を行ったが旧石器時代に関わる成果は得られなかったことから、調査を終了した。

８－５地点の調査は、平成14年６月17日～８月31日・平成14年10月28日～平成15年２月25日の２回に分けて行われた。調査地点は、８－１地点の北側に隣接し、箱根街道の南側に位置する。平成14年６月に行われた試掘調査は８－６地点の範囲を含む範囲で行われ、調査対象面積は1,841㎡である。調査は、調査区内を10m間隔で１辺３ｍのグリッドを12ヵ所設定して調査を行った。調査の結果、旧石器時代には最高地点の７グリッドから最低地点の11グリッドまでの40mで約4.5mの標高差を持つ谷地形であることが判明した。また、６～８グリッドを除く全てのグリッドから旧石器時代の遺物が出土し、現在ハイキングコースとして利用している石畳の南側には近世の東海道が確認された。

平成14年10月から行われた本格調査の対象面積は1,212㎡である。調査の結果、地形的には北から南に向かって標高を提げる狭い谷地形であることが判明し、谷底との最終的な比高差は約６ｍに及ぶものであった。遺構と遺物としては、中・近世に属する道路状遺構１条、縄文時代の土抗３基、ＮＬ層（ニセローム層）までの旧石器時代遺物群が検出され、旧石器時代の遺物がまとまって出土した。

８－６地点の本格調査は、平成17年１月24日～３月31日にかけて441㎡について行われた。調査地点は、８－５地点と８－２・３地点の間に当たり、箱根街道の南側に位置する。調査の結果、試掘調査で確認されていた石畳の石材が出土したが、南側に縁石部分が僅かに確認されたにとどまった。しかし、平成８年度に石畳の調査を行った際の平面図と合成することにより本来のルートを明らかにすることができた。旧石器時代の調査では、休場層からややまとまった遺物群が検出され、ＹＬＭ層にピークが認められた。

８－７地点の本格調査は、平成25年12月６日～平成25年12月26日にかけて32㎡について行われた。調査地点は８－６地点の北東側隣接地の小規模な範囲である。調査の結果、縄文時代早期の土器と旧石器時代の遺物が少量ずつ検出された。

第４節　遺跡の層序

１．山中城Ｄ遺跡

山中城Ｄ遺跡は、山中城Ｅ遺跡の北東約150ｍに位置し、地形的には史跡山中城跡から延びる丘陵上の平坦面に立地する。標高は503～507ｍである。

山中城Ｄ遺跡の東側に位置する９－１地点は、箱根旧街道や後世の撹乱により上部の層序が大きく削平されており、確認された層序は下位ローム層である。９－２地点はローム漸移層以下、上位ローム層が確認されている。第４図に９－１・９－２地点の基本層序図を示した。

２．山中城Ｅ遺跡

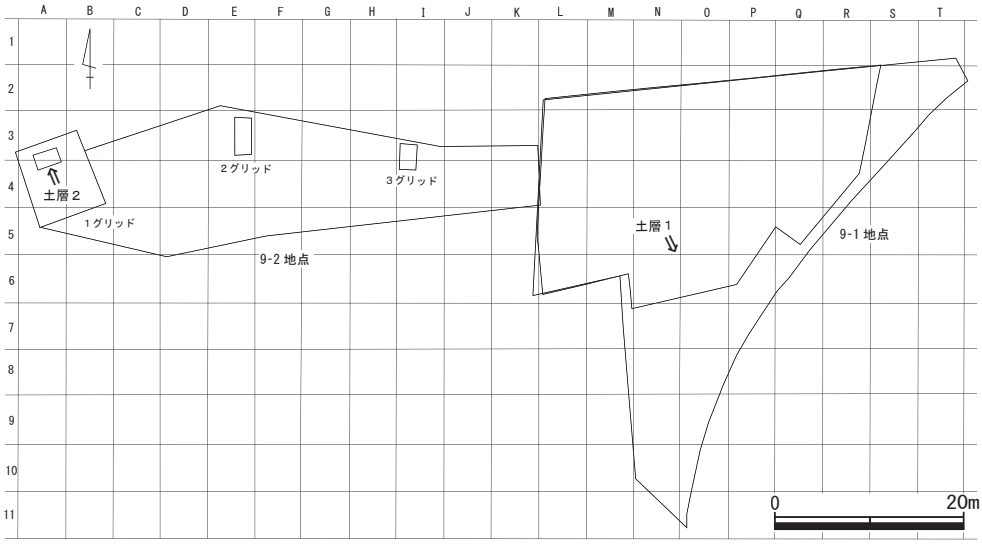
山中城Ｅ遺跡は、史跡山中城跡が展開する丘陵から南西に延びる尾根の先端の平坦部に位置する。国道１号線が浅間平で南西に大きく張り出す部分にあたり、標高約490～500ｍを測る。東には同一丘陵平坦面に山中城Ｄ遺跡、国道１号線を挟んで西側には山中城Ｆ遺跡・Ｇ遺跡が連なっている。また、遺跡を箱根旧街道が西から東へ横切っている。

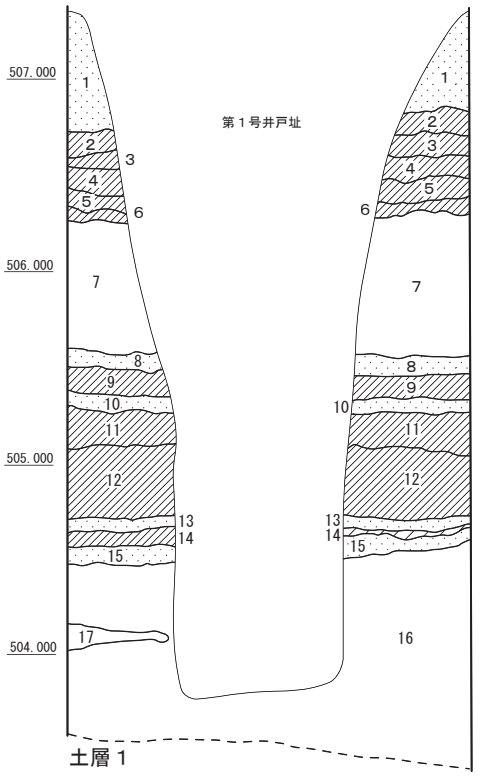
遺跡のある箱根山西麓に発達したローム層は、箱根西麓ローム層と呼称され、層厚は約50ｍにもおよぶ厚いローム層であるが、その層相は大きく下位ローム層（Ｌローム層）・中位ローム層（Ｍローム層）・上位ローム層（Ｕローム層）に３区分されるが、上位ローム層（Ｕローム層）は更に上下にＵ２ローム層とＵ１ローム層に２分し、４層位に区分されている。第５図に８－１地点の基本層序図を示した。

各ローム層の概要を述べると、最も下位のＬローム層は関東平野で発達する関東ローム層の多摩ローム層に対比できるローム層であり、古期箱根外輪山溶岩の基盤を直接覆っている最古段階のローム層とされている。その特徴として、水平堆積を呈し、粘土化および土壌化したローム層であると指摘できる。その上部の中位Ｍローム層は、関東ローム層の下末吉ローム層、西方愛鷹山南麓に発達する愛鷹ローム層の下部ローム層と対比できるローム層と考えられている。その特徴は、新期箱根軽石流を挟在させる。その層相の最も顕著な特徴は、色性が紫灰色を呈することである。最も上部に形成された上部ローム層（Ｕローム層）は上下に２分（Ｕ２ローム層とＵ１ローム層）できるローム層であり、その内、下部のＵ２ローム層は関東ローム層の武蔵野ローム層、愛鷹ローム層の中部ローム層に比定されるローム層である。その最下部は約60,000年前の年代が想定され、最上部は約32,000年前の年代が想定されている。このＵ２ローム層中には、三島パミス、ベアスコリア、グリース状アッシュなどの鍵層となる特徴的なテフラが存在することがわかっている。また、上位のＵ１ローム層は富士火山を主要な供給源としたローム層であり、関東ローム層の最上位ローム層である立川ローム層、愛鷹ローム層の上部ローム層にそれぞれ比定できる。

Ｕ１ローム層の堆積は、下部から中位で黄褐色を呈する６枚のスコリア層（第Ⅳスコリア帯から第Ⅰスコリア層・SCⅣ層～SCⅠ層）、スコリア風化層である暗黄褐色を呈するニセローム層（NL）と暗赤褐色から暗褐色を呈する８枚の黒色帯（第Ⅶ黒色帯から休場層下部黒色帯・BBⅦ層～BB０層）が発達し、それらが交互に互層堆積をなすことが特徴である。第１黒色帯（BBⅠ）と第Ⅱ黒色帯（BBⅡ）間に堆積するニセローム層下部中に広域テフラとして鍵層とされる姶良・丹沢パミス（AT）が明瞭に堆積していることが認められる。また、最上部はソフトローム層からハードローム層である休場層と休場層中スコリア層が顕著に発達する。

本遺跡のほか、箱根西麓中腹に立地する各遺跡では、Ｕ１ローム層中の休場層（YLL層～YLU層）の層厚が増し休場層中に明瞭な層界が認められ、休場第１スコリア層（YL－S１層）・休場第２スコリア層（YL－S２層）・休場第３スコリア層（YL－S３層）の堆積が顕著である。また、黒色帯（第Ⅶ黒色帯から休場層





土層１（9−1 地点）

第１層　黄褐色スコリア層　粒径２㎜前後の橙色スコリア非常に多く含む。粒径１～２㎜前後の発泡黒色スコリアが多く、粒径５㎜前後の黒色スコリアが点在する。削るとザラザラする。締りあり、硬い。（SCⅡ-S４）

第２層　暗黄褐色ローム層　粒径１～２㎜前後の橙色スコリア少量含む。粒径２～４㎜前後の赤・黒色スコリア多い、粒径 10 ㎜大黒色スコリア多い。締りがあり、非常に硬い。

第３層　淡黒褐色ローム層　粒径１～３㎜大赤色・黒色スコリア多く含み、粒径１㎜大橙色スコリア少量。黒色土に粒径１～２㎜橙色スコリア含み点在する。締り非常に強く硬い。粘性ない。黒色帯 BBⅣから BBⅦ相当層か？

第４層　暗茶褐色ローム層　粒径１～３㎜大橙色・赤色・黒色スコリア含む。締りあり、硬い。粘性ない。黒色帯 BBⅣから BBⅦ相当層か？

第５層　明黒褐色ローム層　粒径２㎜前後の橙色スコリアを多く含む。赤色スコリアは少ない。粒径２～５㎜大黒色スコリア微量含む。締まりあり、非常に硬い。粘性ない。黒色帯 BBⅣから BBⅦ相当層か？

第６層　暗赤褐色ローム層　粒径３㎜前後赤色スコリア・発泡した黒色スコリア多く含む。締まりあり、非常に硬い。粘性ない。黒色帯 BBⅣから BBⅦ相当層か？

第７層　茶褐色ローム層　粒径１～５㎜大黒色スコリア多く、粒径３㎜大赤色スコリア中量、粒径１㎜大橙色スコリア少量、粒径１～２㎜大白色スコリア微量混入。締りあり、やや硬い。粘性ない。

第８層　赤褐色スコリア層　粒径１～３㎜前後の赤色スコリア非常に多く含み、粒径５㎜大黒色スコリア点在する。締まりあり、非常に硬い。粘性ない。細かくザラザラしている。ペアスコリア層に類似する。

第９層　黄赤褐色ローム層　第８・10 層の漸移的層である。粒径１～３㎜大赤色スコリア多く、粒径５～ 10 ㎜大黒色スコリア点在する。締りが非常に強い。粘性ない。

第 10 層　茶褐色スコリア層　粒径５～ 10 ㎜前後の赤色・黒色スコリア多く含む。締まり非常に強く、硬い。粘性ない。

第 11 層　赤褐色ローム層　粒径１～２㎜大の赤色スコリアを多く含み、粒径３㎜大黒色スコリア少量含む。粒径２～５㎜大橙色スコリア微量混入。締まり非常に強く硬い。粘性ない。

第 12 層　暗褐色ローム層　２次堆積したと考えられるペアスコリアが散在している層である。暗く黒色帯的な層である。締り強く、硬い。粘性ない。

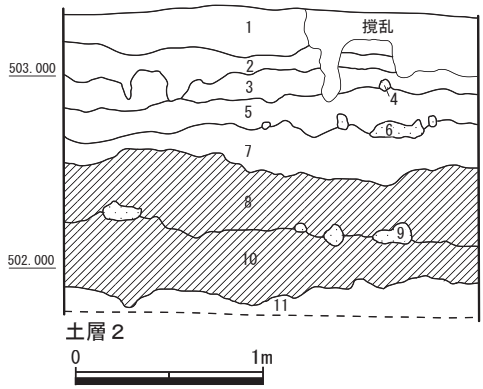
第 13 層　褐色スコリア層　粒径２㎜大の赤色・黒色スコリア多く、粒径５㎜大黒色スコリア中量、粒径 10 ㎜大橙色スコリア少量。締り強く、硬い。粘性ない。ペアスコリア層。

第 14 層　暗褐色ローム層　粒径３㎜黒色スコリア少量含む。締まり強く硬い。粘性ない。

第 15 層　赤褐色スコリア層　粒径２～５㎜赤色・黒色・橙色スコリア非常に多く含む。締り強く、粘性ない。

第 16 層　黄褐色ローム層　粒径１㎜大赤色・黒色・橙色スコリア多く含む。締り強く、非常に硬い。粘性ない。

第 17 層　黄褐色ローム層　粒径１㎜大赤色・黒色スコリア多く含み、MPフローと思われる。粒径５～ 10 ㎜大やや発泡した橙色スコリア点在する。締り強く、粘性ない。



土層２（９－２地点）

第１層　暗黄褐色土層　表土層。締まり・粘性弱い。

第２層　褐色土層　粒径１～３㎜大黒色・赤色スコリアを含む。締まりややあり。下部が締まる。ローム漸移層（ＺＮ層）である。

第３層　黄褐色ローム層　粒径１～３㎜赤色・黒色スコリア含む。締まり・粘性有り。休場上層（ＹＬＵ層）。

第４層　赤褐色スコリア層　赤色・橙色スコリア団塊層。休場第１スコリア層（ＹＬ－Ｓ１層）。

第５層　黄褐色ローム層　粒径５㎜前後の赤色・黒色スコリア多く含む。締まり・粘性やや強い。休場中層（ＹＬＭ層）。

第６層　赤褐色スコリア層　赤色・黒色スコリアの団塊層。休場第２スコリア層（ＹＬ－Ｓ２層）。

第７層　茶褐色ローム層　粒径３㎜前後の赤色・黒色スコリア多く含む。締まり非常に強く、粘性あり。休場下層（ＹＬＬ層）。

第８層　暗褐色ローム層　粒径３～ 10 ㎜大黒色・赤色スコリア多量に含む。下部はスコリアの混入少なくなる。締まり非常に強く、粘性あり。第０黒色帯（ＢＢＯ層）。

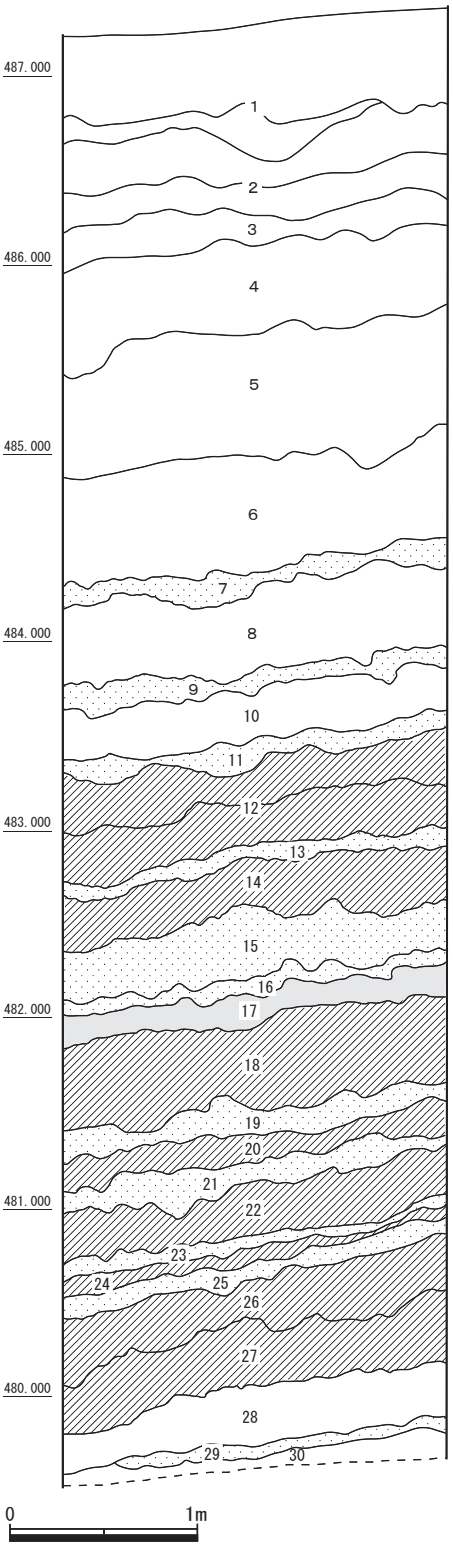
第９層　赤褐色スコリア層　粒径 10 ㎜大の赤色・黒色スコリア団塊層。休場第Ｉスコリア帯（ＳＣＩ）。

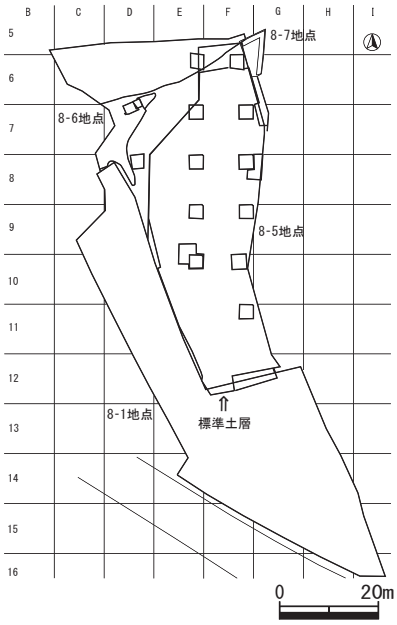
第 10 層　暗褐色ローム層　粒径１～５㎜赤色・黒色スコリア多く含む。橙色スコリア少量含む。締まり、粘性強い。第Ｉ黒色帯（ＢＢＩ層）。

第 11 層　茶褐色スコリア層　粒径１～３㎜赤色・黒色スコリア非常に多く含む。姶良丹沢パミス（ＡＴ）のパッチを含む。ニセローム層（ＮＬ層）上部。

第４図　山中城Ｄ遺跡の層序

下部黒色帯・BBⅦ層～BB０層）の脱色化も顕著である。休場層中のスコリア層の発達と黒色帯の脱色化などの諸特徴は箱根西麓中腹に立地する遺跡でもその標高が約300m以上で、国道１号の北に位置する地域で顕著に認められる特徴である。





基本土層

第１層　耕作土層　畑地耕作土。２層に分層できる。

第２層　暗茶褐色土　粒径１㎜大赤色スコリア含む。締まり有り、粘性弱い。２層に分層できる。

第３層　暗茶褐色土　混入物は第２層と同じ。全体にボソボソしている。締まり弱く、粘性有り。

第４層　黒褐色土　粒径１㎜前後黒色スコリア含む。締まり弱く、粘性有り。富士黒色土層。

第５層　褐色土層　粒径１～３㎜大黒色・赤色スコリアを含む。締まりややあり。下部が締まる。ローム漸移層（ＺＮ層）である。

第６層　黄褐色ローム層　粒径１～３㎜赤色・黒色スコリア含む。締まり・粘性有り。休場上層（ＹＬＵ層）。

第７層　赤褐色スコリア層　赤色・橙色スコリア団塊層。休場第１スコリア層（ＹＬ－Ｓ１層）。

第８層　黄褐色ローム層　粒径５㎜前後の赤色・黒色スコリア多く含む。締まり・粘性やや強い。休場中層（ＹＬＭ層）。

第９層　赤褐色スコリア層　赤色・黒色スコリアの団塊層。休場第２スコリア層（ＹＬ－Ｓ２層）。

第10層　茶褐色ローム層　粒径３㎜前後の赤色・黒色スコリア多く含む。締まり非常に強く、粘性あり。休場下層（ＹＬＬ層）。

第11層　赤褐色スコリア層　粒径10㎜大の赤色・黒色・黄色スコリア団塊層。締まり非常に強い。休場第３スコリア層（ＹＬ－Ｓ３層）。

第12層　暗褐色ローム層　粒径３～10㎜大黒色・赤色スコリア多量に含む。下部はスコリアの混入少なくなる。締まり非常に強く、粘性あり。第０黒色帯（ＢＢ０層）。

第13層　赤褐色スコリア層　粒径10㎜大の赤色・黒色スコリア団塊層。休場第Ⅰスコリア帯（ＳＣⅠ）。

第14層　暗褐色ローム層　粒径１～５㎜赤色・黒色スコリア多く含む。橙色スコリア少量含む。締まり、粘性強い。第Ⅰ黒色帯（ＢＢⅠ層）。

第15層　茶褐色スコリア層　粒径１～３㎜赤色・黒色スコリア非常に多く含む。姶良丹沢パミス（ＡＴ）のパッチを含む。ニセローム層（ＮＬ層）上部。

第16層　茶褐色スコリア層　赤色・黒色スコリア団塊層。固く締まっている。

第17層　黄褐色ローム層　少量のＡＴパッチと大粒の赤色・黒色スコリアを含む。ニセローム層（ＮＬ層）下部。

第18層　暗褐色ローム層　粒径５～10㎜赤色・黒色・橙色スコリア多く含む。締まり、粘性強い。第Ⅱ黒色帯（ＢＢⅡ層）。

第19層　赤褐色スコリア層　粒径３㎜前後橙色・赤色・黒色スコリア多く含む。第Ⅱスコリア帯（ＳＣⅡ）。

第20層　暗褐色ローム層　粒径１～３㎜程度橙色・赤色スコリア、粒径５㎜大黒色スコリア含む。第Ⅲ黒色帯（ＢＢⅢ層）。

第21層　淡暗褐色スコリア層　粒径１～３㎜黒色・赤色スコリア多く含む。第Ⅲスコリア帯第１スコリア層（ＳＣⅢ－ｓ１）。

第22層　淡黒褐色ローム層　粒径２～３㎜前後橙色スコリア多く、粒径１～２㎜赤色・黒色スコリア少量含む。締まり強い。第Ⅲスコリア帯第１黒色帯（ＳＣⅢ－ｂ１）。

第23層　褐色スコリア層　粒径３㎜大橙色スコリア多く含み、粒径３～５㎜大黒色スコリア少量含む。第Ⅲスコリア帯第２スコリア層（ＳＣⅢ－ｓ２）か？。

第24層　暗褐色ローム層　粒径３～５㎜大黒色スコリアを多く含み、粒径３㎜大赤色・橙色スコリア少量含む。第Ⅲスコリア帯第２黒色帯（ＳＣⅢ－ｂ２）か？。

第25層　褐色スコリア層　黒色スコリアの粒子大きくなる。第Ⅲスコリア帯スコリア層（ＳＣⅢ－ｓ）か？。

第26層　暗褐色ローム層　粒径１～３㎜大赤色・黒色スコリア多く入る。第Ⅳ黒色帯（ＢＢⅣ）か？。

第27層　暗褐色ローム層　粒径３㎜大黒色スコリア少量、粒径１㎜大赤色スコリア含む。第Ⅴ～Ⅶ黒色帯（ＢＢⅤ～Ⅶ）か？。

第28層　褐色ローム層　赤色スコリア増える。中部ローム層か？。

第29層　赤褐色スコリア層　粒径１～２㎜大赤色スコリア団塊層。ペアスコリア層上層か？。

第30層　褐色ローム層　粒径２～３㎜大赤色・橙色スコリア、粒径２㎜大黒色スコリア少量含む。

第５図　山中城Ｅ遺跡の層序

第２章　山中城Ｅ遺跡

（笹原山中バイパス第８地点）

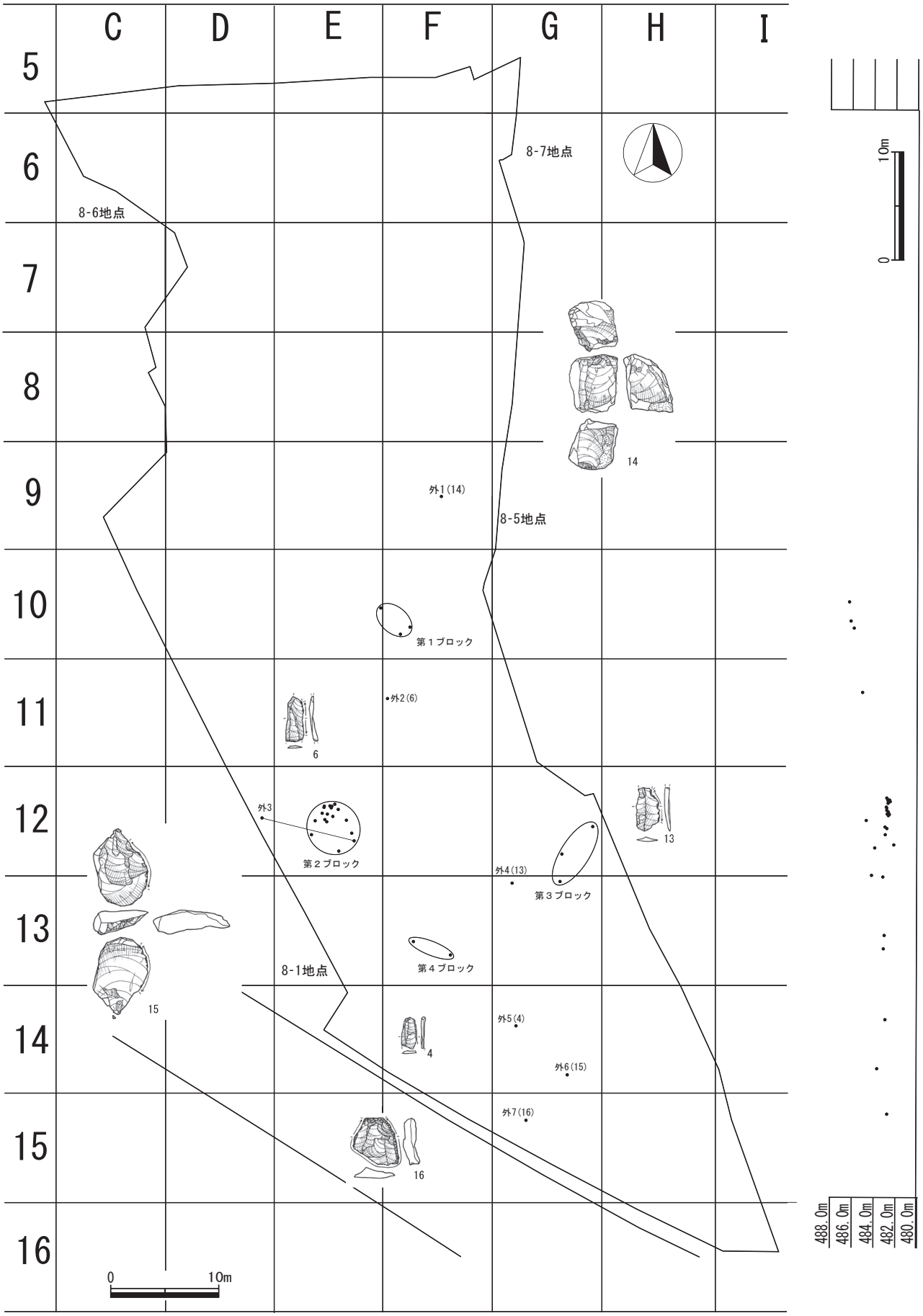
第１節　後期旧石器時代

本遺跡からは、箱根街道から国道１号線にかけての緩やかな斜面地に旧石器時代の文化層が３枚確認された。第Ⅰ文化層はＹＭＵ層から石器33点が出土し、その出土状況から４箇所の石器ブロックとして認識された。第Ⅱ文化層はＹＬＭ層から石器1,191点、礫83点の計2,274点の遺物が出土し、その出土状況から31箇所の石器ブロックと６基の礫群として認識された。第Ⅲ文化層はＹＬＬ層から石器959点、礫348点の計1,317点の遺物が出土し、その出土状況から29箇所の石器ブロックと19基の礫群として認識された。

１．第Ⅰ文化層

（１）第Ⅰ文化層の概要

山中城Ｅ遺跡の発掘調査によって検出された旧石器時代の文化層は上述したように合計３枚で、この中で一番新しい時代を形成していた第Ⅰ文化層は、細石刃を主体的な石器器種とする所謂細石刃石器群が確認された。出土した石器数は多くはなかったものの、細石刃や細石刃石核などの当該期を構成する特徴的な石器群が検出されている。概ね西側に傾斜する丘陵上に、開口部を東側（未調査）にするような状態で半円形に４箇所のブロックの分布が確認されたが、比較的豊富な石器類が出土した第２ブロックを除くと、細石刃が数点検出されただけの極めて小規模なブロックが形成されている状況であり、文化層として認識された石器群は所謂細石刃石器群の断片的な内容を示している可能性が高いものと思われる。したがって、出土したブロックの中では細石刃の生産やこれを利用する行為などの作業は頻繁に行われていなかったことが予想され、短期間の内に外の土地に移動したか、或いは細石刃の生産等の作業が充足し、補充する必要がなかったことが推定される状況を見せている。そして、確認されたブロックの周辺に単独で分布していたブロック外の石器類７点を合わせると、第Ⅰ文化層として捉えられた石器類は東西約60ｍの範囲から出土しており、石器類は比較的広範囲な範囲に散漫な状態でブロックとブロック外の分布が形成されている状況にある。しかも、各ブロックは10ｍ以上の距離を置いた状態で確認されていることから、ブロック間に密接な関係が存在しているかは明らかではないため、これらの確認には個体別資料の検討及び接合等の作業が必要不可欠な状況にあるものと思われる。確認されたブロックの中で比較的まとまった石器類が出土した第２ブロックでは、第４層の黒褐色土層から第８層の当地域で呼称されているローム層の最上層である所謂「休場層」の中層にかけて垂直分布が認められているが、大部分の石器類は「休場層」の上層から出土していることが確認されており、比較的一定した層位から出土していることが窺えるものと思われる。このような状態は外のブロックやブロック外の石器類も同様で、殆どの石器類は「休場層」の上層から出土する傾向にあり、出土層位に関してはブロックを構成している石器類の多寡に関係なく、共通したあり方を示していた。確認された石器類は、細石刃、細石刃石核、使用痕のある剥片、剥片・砕片であり、極めて単純な組成が確認されている。この様な単純な組成は、所謂細石刃石器群においては比較的通例なことであり、しかも本文化層のように石器数も少ない小規模な遺跡では、この様な傾向が拠り顕著に認められる状況にある。したがって、細石刃石器群には頻繁に剥片剥離が行われ多くの器種で構成される遺跡と、本遺跡のように石器数が少なく、剥片剥離の痕跡を色濃く残さない単純な組成を示す遺跡があり、これらが相互に関連しながら細石刃石器群が形成



第６図　第Ⅰ文化層のブロックと単独石器の分布

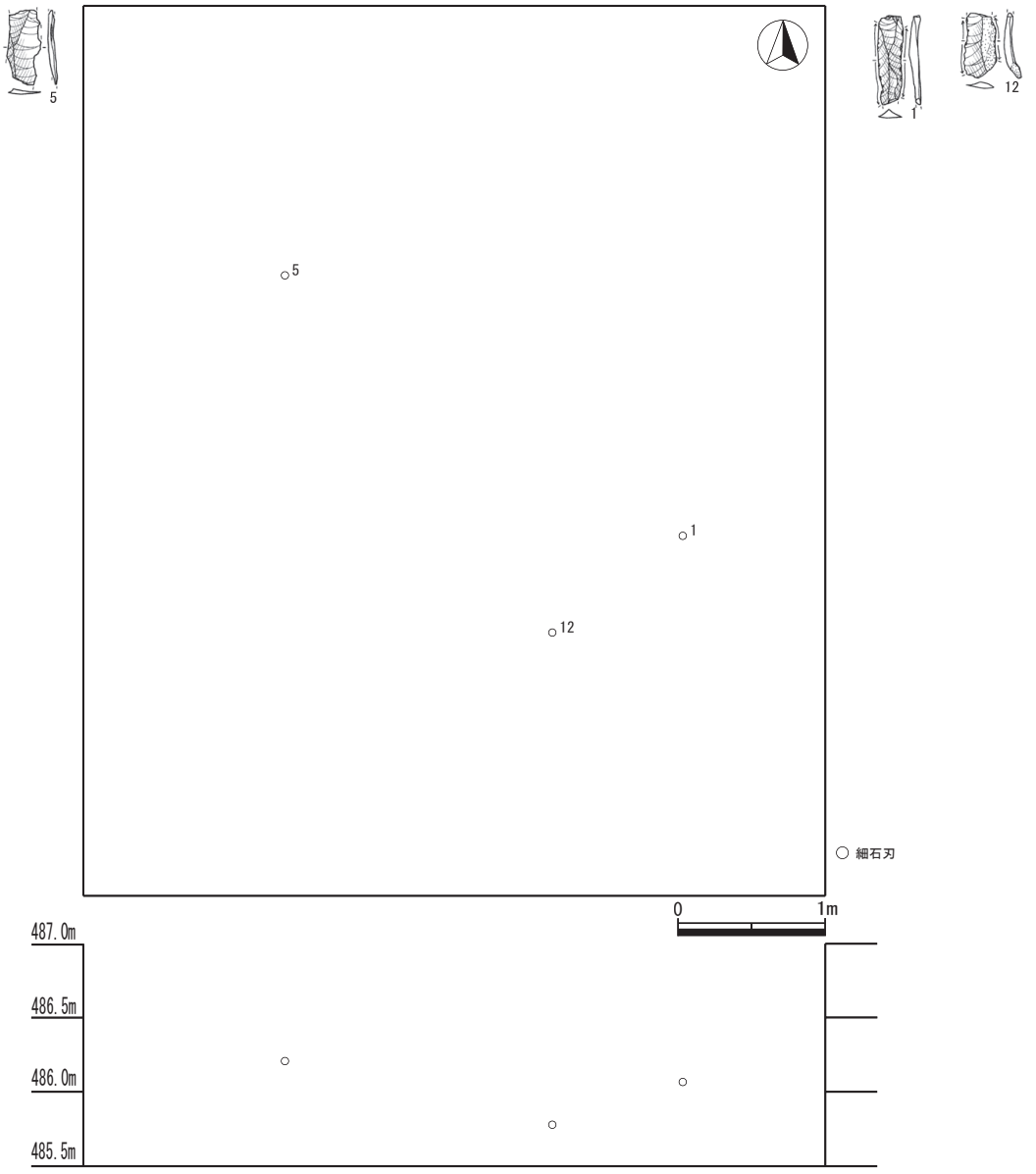
されていることが推定されるものと思われる。そして細石刃石器群を構成する遺跡やブロックには、個々の遺跡やブロックで多様性があり、画一的な状態を示すものでないことが理解できよう。なお、本文化層に伴う礫群、配石等は確認されていない（第６図）。

（２）検出された遺構

１）ブロック

第１ブロック（第７図）

第１ブロックは、第Ⅰ文化層として確認されたブロックの中では最も北側に位置し、グリッドで示せばＥ－10グリッドからＦ－10グリッドの南寄りの場所で、両グリッドにまたがって分布が認められたブロックである。最も近い第２ブロックとは約16m､単独出土のブロック外２とも約６ｍの距離を隔てて分布しており、隣接するブロックが形成されることなく、ブロックが単独の状態で点在しているような状況を示していた。ブロックの規模は、長軸約４ｍ、短軸約 1.5mで、長楕円形の範囲の外縁部に石器類が点在するような状態



第７図　第Ⅰ文化層第１ブロック石器分布図

で分布しており、中央部には石器類の出土が認められない空白部となっていた。出土した石器類は３点と少なく、その内訳は細石刃が全てを占めており、他の器種や剥片、砕片類は確認されていない状態であった。これらの石器類は全て黒曜石で構成され、第５層のローム漸移層から、第８層の本地域のローム最上層である所謂「休場層」中層のＹＬＭ層までで確認されている。それらは標高約485.78mから約486.21mに掛けて包含されており、約43cmのレベル差のある垂直分布が形成されていた。

第２ブロック（第８図）

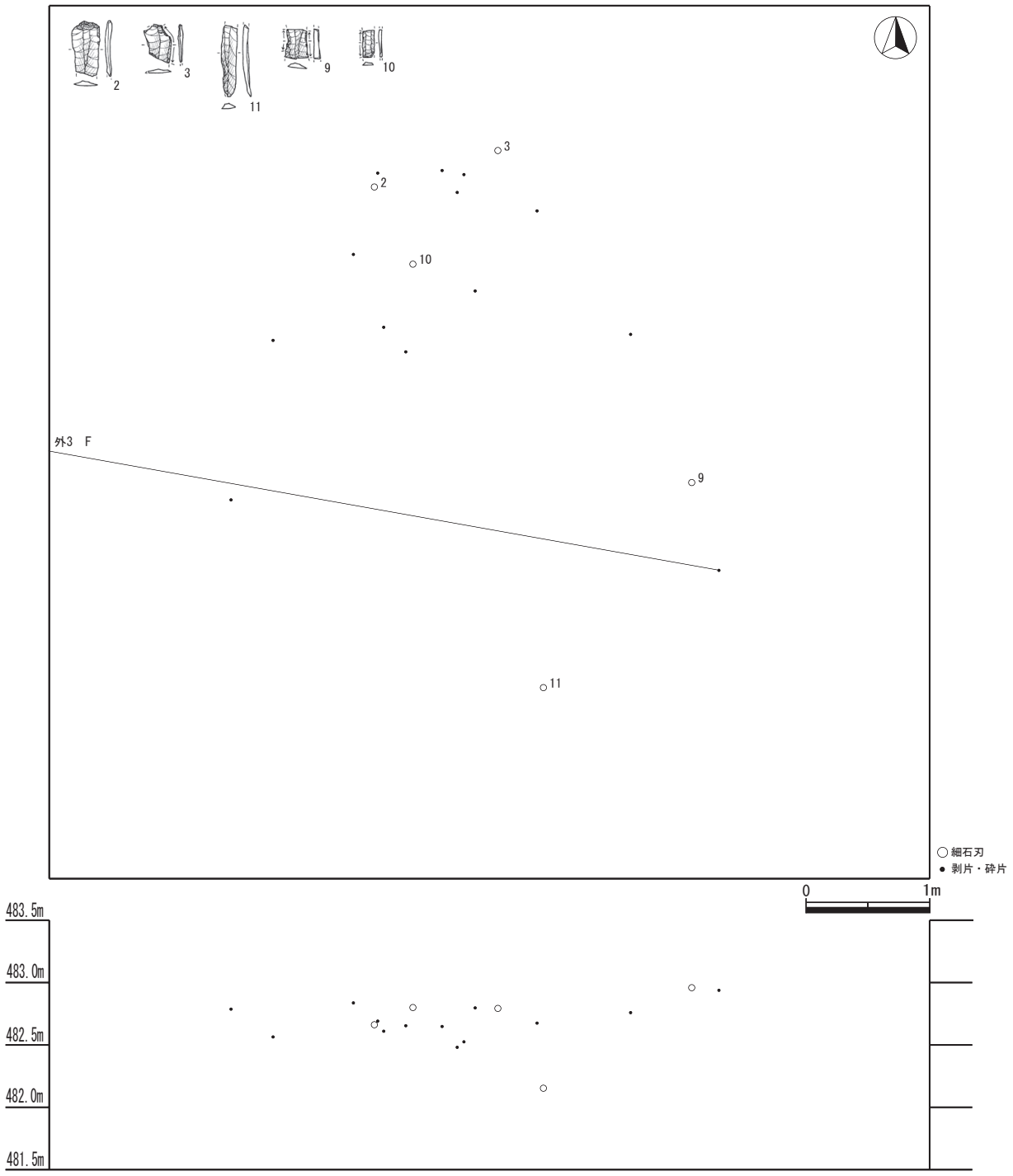
本ブロックは第１ブロックの南南西約16m、第４ブロックの北西約10mに位置し、Ｅ－12グリッドの中央部で確認されたブロックである。確認された第Ⅰ文化層のブロックの中では最も石器類の出土量の多いブロックで、細石刃が５点、剥片、砕片が13点の合計18点で構成されていた。これらの石器類は、長軸約 4.5m、短軸約 3.5mの楕円形の範囲を形成していたが、石器類の多くは北側に偏って分布しているような状態であったが、それに比べると南側では分布範囲の外縁部に数点の石器類が点在するだけで、南側の中央部分は分布の空白域となっていた。出土した石器類は全て黒曜石製で、４個体別資料に分類された。これらの内数点が第８層の所謂「休場層」中層のＹＬＭ層より確認されているものの、殆どのものは「休場層」上層の第６層ＹＬＵ層より出土しており、一定した層位に包含されていたことが窺える状況である。それら石器類は標高約482.15mから標高約482.96mにかけて検出され、約81cmの鍋底状の垂直分布が形成されていたが、必然的に大部分の石器類は上層部分の482.60m～482.70m付近に集中して出土している傾向が認められた。

第３ブロック（第９図）

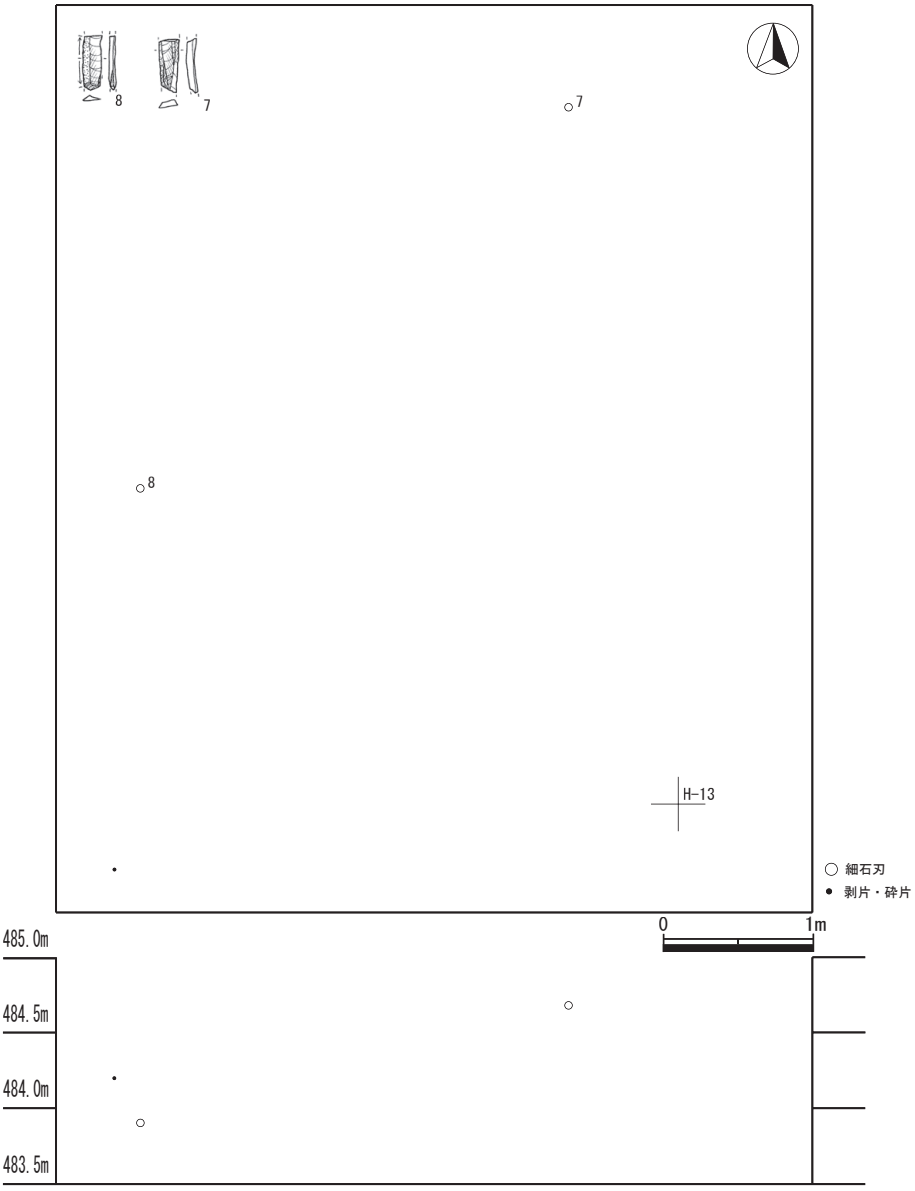
第３ブロックはＧ－12～Ｇ－13グリッドにまたがって確認されたもので、第２ブロックの東側約18m、第４ブロックの北東約11mに位置している。ブロックは長軸約６ｍ、短軸約２ｍの長楕円形の範囲を形成し、石器類は外縁部に点在する状態で検出されている。確認された石器類は細石刃が２点、剥片、砕片が１点の合計３点で、全て黒曜石で構成されていたが、３点とも別の個体別資料に分類されており複数の資料数を持つ個体別資料は､本ブロックでは確認されていない。出土した層位は３点とも「休場層」上層のＹＬＵ層（６層）からであり、共通の層位から検出されていることが窺える。ただ、地形の傾斜のためか、これらの石器類で最もレベルが高かったのは標高約484.68mで、低いものが標高約483.90mだったことから、約78cmの高低差のある垂直分布が形成されていた。

第４ブロック（第10図）

第４ブロックはＦ－13グリッド中央部の南よりで確認されたブロックで、第２ブロックの南東約10m、第３ブロックの南西約11mに位置している。出土した石器類は使用痕のある剥片１点と剥片、砕片が１点の合計２点と少なく、共に黒曜石が原材料として利用されていた。前述したように本文化層を特徴づけている細石刃は検出されなかったが、２点とも第２ブロックを構成している個体別資料と同一個体として分類されたことから、本文化層のブロックとして認識されたものである。２点の石器は約 3.6mの距離を隔てて確認されており､ブロックは径４ｍ程の規模であることが想定されるものと思われる。これらの石器類も「休場層」上層のＹＬＵ層（６層）から出土しており、共通の層位から確認されたことが理解される。出土レベルは標高約483.04mと標高約483.12mで、垂直分布には約８cmの高低差しかなく、ほぼ同一面から出土したような状況であることが窺えるものと思われる。



第８図　第Ⅰ文化層第２ブロック石器分布図



第９図　第Ⅰ文化層第３ブロック石器分布図

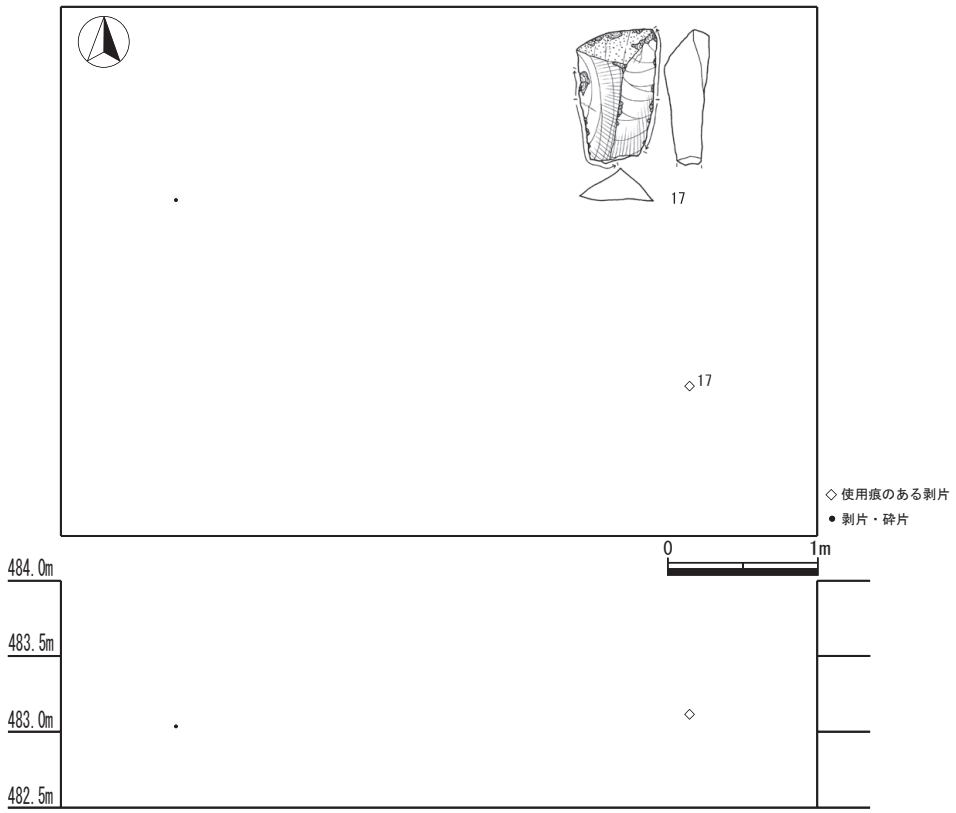
以上のような４ブロックを構成している石器類のほかに、ブロック外から７点の石器類が出土している（第６図）。以下では、それらを羅列しながら記述していくことにする。

ブロック外１は細石刃石核で構成され、第１ブロックの北北東約11ｍのＦ－９グリッド中央部より検出された。出土層位は第８層の「休場層」中層のＹＬＭ層で、標高は約487.74ｍを測る。単独個体別資料である。

ブロック外２は細石刃で、第１ブロックと第２ブロックの中間のＦ－11グリッドから出土した。出土層位は第６層の「休場層」上層のＹＬＵ層で、標高は約485.01ｍを測る。単独個体別資料として分類された。

ブロック外３として認識されたのは剥片で、第２ブロックの西側約５ｍのＤ－12グリッドから検出された。出土層位は第５層のローム漸移層で、出土レベルは標高約482.67ｍを測る。第２ブロックを構成する個体別資料と同一個体として分類された。

ブロック外４はＧ－13グリッドから出土した細石刃で、第３ブロックの西側約４ｍから出土した。出土層位は第６層の「休場層」上層のＹＬＵ層で、標高は約483.16ｍを測る。これも単独個体別資料として分類さ



第10図　第Ⅰ文化層第４ブロック石器分布図

れた。

ブロック外５も細石刃で、第４ブロックの南東約９ｍのＧ－14グリッドから出土した。これも第６層の「休場層」上層のＹＬＵ層から出土しており、共通した出土状態を示している。標高は約482.97ｍであった。単独個体別資料である。

ブロック外６は使用痕のある剥片で、ブロック外５から約 6.5m離れたＧ－14グリッド南東部より出土した。これも第６層の「休場層」上層のＹＬＵ層から出土し、標高は約483.73ｍを測る。単独個体別資料である。

ブロック外７も使用痕のある剥片で、ブロック外５から約 8.7m、ブロック外６から約 5.6m離れたＧ－15グリッドから検出された。本例も第６層の「休場層」上層のＹＬＵ層から出土しており、出土層位はほぼ一定していることが判断される。標高は約482.81ｍであった。これも単独個体別資料である。

（３）出土遺物

１）石　器

第Ⅰ文化層として認識された石器類は合計33点で、前述してきたように４箇所のブロックと７点のブロック外から検出された。これらのブロック内外から確認された器種は、細石刃13点、細石刃石核１点、使用痕のある剥片３点、剥片・砕片16点で、極めて少量の石器類が出土しているにすぎない。検出されたこれらの石器類の内容からは、本文化層が細石刃を主体的な器種としている細石刃石器群であることが理解されるが、確認された器種の殆どが細石刃に関連するものであり、加工具と考えられている掻器や削器等が組成の中から欠落している状態であることが理解されよう。勿論、調査範囲外に本文化層を構成するブロックが存在する可能性はあるものの、確認されたブロックの殆どが頻繁に剥片剥離作業を行っていなかった可能性が高いものであり、調査範囲外でも同様のブロックが形成されている可能性はあるものの、剥片剥離作業を集中的に行っているようなブロックの存在する可能性は低いことが推定される状況にある。したがって、掻器等の加工具は遺跡内で製作されることなく、持ち込まれたものをそのまま持ち出していることが予想されるものと思われる。このように本文化層を構成する細石刃石器群では、石器群の組成として欠落している器種が存在していることが判断されるとともに、遺跡に残された石器類には細石刃石器群の全ての器種が存在している訳ではないことが理解されるものと思われる。以下では本遺跡で確認された細石刃石器群の各器種について記述していくが、石器群の中には欠落している器種もあること念頭に置きながら、石器群の概要を捕捉していくことにしたい。

細石刃（第11図１～13）

細石刃は薄く、細長い形状もあってか、全体的に完形品の状態で出土することは希で、大部分のものが分割された状態で確認されることが常である。このことから、細石刃は意図的に分割して使用するという考え方が一般的ではあるが、出土した完形品でしかも反りのある形状の細石刃に使用による痕跡と思われる刃こぼれが顕著に認められるものがあったり、薄く細長い形状という特性もあって、細石刃剥離時の衝撃で欠損してしまうこともあったことも推定されることから、意図的に分割することは否定するものではないが、予断を挟むことなく細石刃の状態を捉えていくことにしたい。

ａ類　打面～中間部（第11図１～４）

細石刃の末端部を欠くもので、４点が確認された。最も大きい１や２・４は末端部を、最小の３は中間部～末端部を欠いており、欠損部分は一定していないことが理解される。これらを構成する剥離面と主要剥離面は、４の右側縁に一部自然面が認められるものの、剥離面の全ては上設打面からの剥離で形成されており、４点とも上設打面だけが設置された単設打面の細石刃石核から剥離されたことが判断できる。そして、それらの細石刃には数回～十数回程度の同一方向の剥離が加えられていることが、剥離面と主要剥離面を構成する剥離痕より推定できることから、細石刃の作出には周到に準備された細石刃石核に対して、複数回以上の同一方向の剥片剥離を行うことによって生産されていることが窺えるものと思われる。これらの上部に残る打面を見てみると、４点とも複数の剥離で形成されていることが観察されることから、全て調整剥離を施した打面が設置された細石刃石核から剥離されたことが理解されるとともに、剥離に際しては入念に打面調整が行われていたことが判断されるものである。１の両側縁の表裏両面、３の右側縁の表裏、４の裏面の右側縁には、使用痕と考えられる微細な刃こぼれが観察されており、これら３点は何らかの作業に使用された可能性があるものと推定することができる。

ｂ類　中間部（第11図５～10）

細石刃の両端、打面部と末端部を欠くもので、６点が出土した。本遺跡で検出された細石刃の中では最も多く確認された形状のもので、細石刃全体の約46％を占めている。最も大きな例は５の20.0mm、最小のものは10の 8.6mmであり、大きさに２倍以上の違いのあるものが存在しており、本類も多様な大きさのものが確認されていることが理解されよう。両端の欠損面を見てみると、多くのものが折断面で構成されていたが、５の打面部のように弾け飛んだ状態のものや、６と８の末端部のように細かな剥離によって末端が除去されている状態のものがあり、欠損面の中には偶発的なものと意図的なものがあることが推定されるものと思われる。これらの中では７の右側縁に細石刃石核形成時の剥離痕、８の左側縁に自然面が認められる他は、剥離面と主要剥離面は全て上設打面からの剥離で形成されており、ａ類と同様に同一方向からの複数回以上の剥片剥離（細石刃剥離）を行う過程の中で作出されていることが理解されよう。６の右側縁の表裏両面、８の左側縁の表裏両面と右側縁の裏面側、９の右側縁の表裏両面と左側縁の表面側、10の左側縁の表面側にそれぞれ使用痕と思われる細かな剥離が認められている。この中で、使用痕と考えられる剥離が同一縁辺の表裏両面にあるものと、片面だけにしか観察されないものがあり、これらの痕跡には使用による相違や方法の違いがあることが窺えるものと思われる。

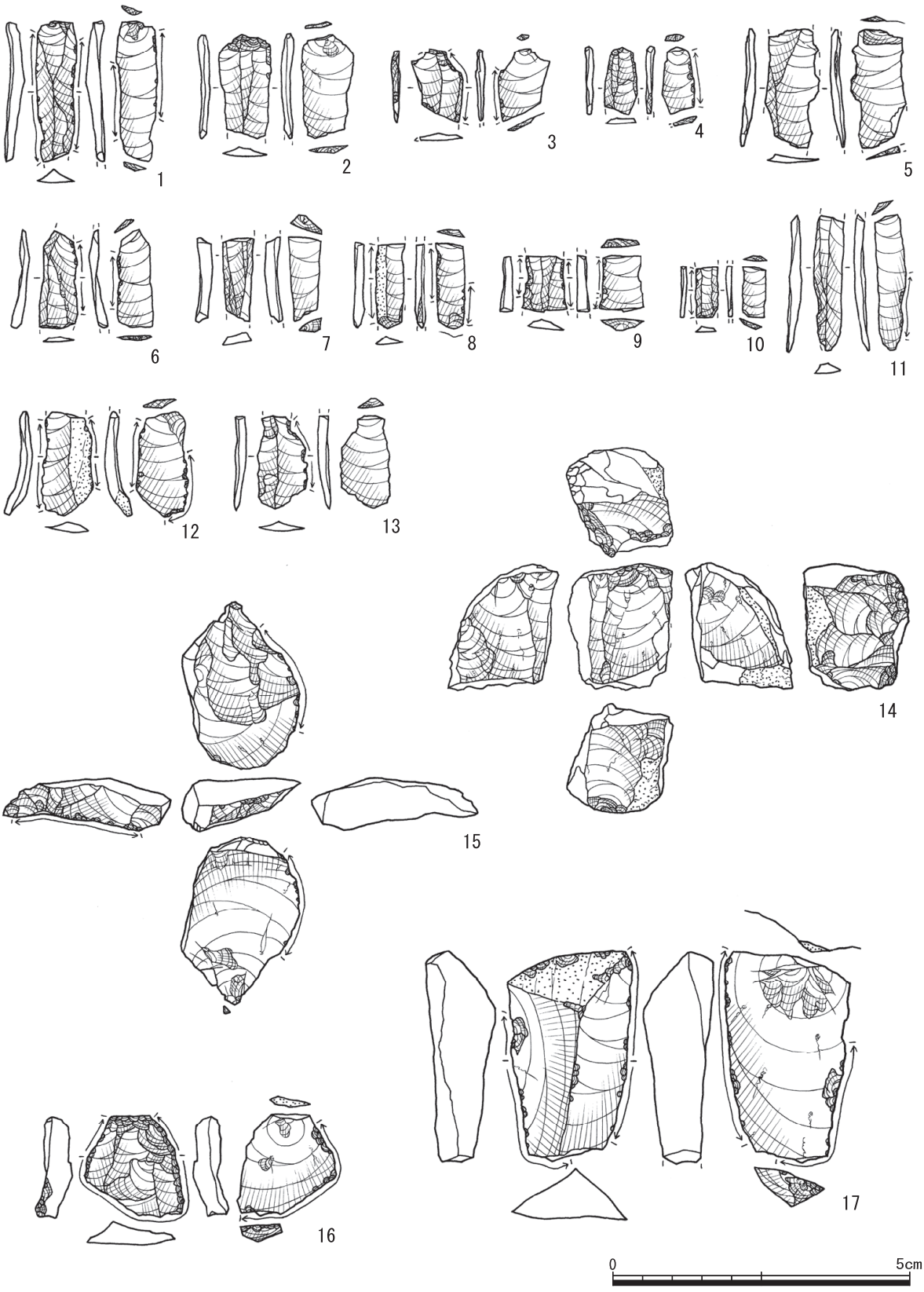
ｃ類　中間部～末端部（第11図11～13）

細石刃の打面部を欠く形状のもので、３点が出土した。これらもａ・ｂ類と同様に、剥離面、主要剥離面を構成する剥離痕は上設打面からの剥離で占められており、それ以外には12の右側縁側に自然面が認められるだけであった。したがって、ｃ類の３点も上設打面が形成された細石刃石核に対して、同一方向の剥片剥離（細石刃剥離）を繰り返す中で生産されたものであることが理解されよう。11と13の欠損面は折断面であるが、12の欠損面は裏面の右側縁から主要剥離面に生じた剥離によって欠損しており、これも12の剥離時に生じた偶発剥離によって欠損したことが判断されるものである。11には裏面の右側縁に、12の左右両側縁の表裏両面に、13では右側縁の表面側に使用痕と考えられる微細な剥離が確認されている。細石刃の使用方法が溝を施した骨角器等の器具に埋め込んで利用したと仮定した場合、12のように両側縁に使用痕と思われる剥離が認められる状態の例は、使用側縁の変更が行われていることが予想できるものと思われる。したがって、同じように両側縁に使用痕と考えられる微細な剥離が観察される１・８～９も含めて、これらを使用している期間の間に、最低１回は側縁の入れ替えが行われたことが推定することができる。

なお、出土した13点の細石刃の内、使用痕と思われる微細な剥離が確認できなかったのは２・５・７の３点だけで、残りの10点にはいずれかの部分に観察することができた。それらは約77％と高率であり、しかも使用されていた可能性が高いものであることを考えると、これらは本遺跡の中で作出されたものでないことが推定されるとともに、検出されたブロックでは多くの細石刃を生産していた可能性は低いものと予想できるものと思われる。

細石刃石核（第11図14）

１点が出土したが、ブロックとは離れた位置で単独で確認されている。正面の剥片剥離作業面は約２cmとやや短いが、上部に上設打面、下部に下設打面を形成した両設打面石核である。ただ、上設打面は上部から裏面にかけての傾斜打面となっており、上設打面として明確に面形成されてはいない状態のものである。これに対して下設打面は裏面下部に調整剥離を施し、この調整面を打面として面形成されており、上下の打面では大きな相違が認められる。右側面は素材を分割するような一枚の大きな剥離で形成され、左側面は上



第11図　第Ⅰ文化層出土石器

設面を打面としているが、上設打面から裏面にかけての傾斜打面の打面として利用され、細石刃石核が作出されている。この様な形状の細石刃石核から細石刃剥離を行っているが、細石刃剥離に際しては正面と左側面を打面とした調整剥離を上設打面に施しながら剥離したようであり、複数回の細かな調整剥離が認められる。ただ、正面から左側面にかけて細石刃剥離が行われているが、剥離痕を見る限りにおいては、あまり良好な細石刃が作出されたとは言えない状態であり、正面などは幅広の大きな剥離によって形成されている。この様な大きな剥離は、剥片剥離作業面の再生剥離の可能性もあるが、この後には細石刃剥離を行うことなく放棄されている。なお、正面下部に下設打面からの剥離が認められるが、この剥離は再生剥離の可能性のある剥離によって切られていた。したがって、再生剥離と思われる剥離が加えられる前には、下設打面も機能していたことが窺える。

使用痕のある剥片（第11図15～17）

３点が確認された。この内の２点はブロック外より出土したものであるが、その形態的特徴から本文化層に含めたものである。15はブロック外から出土したもので、細石刃石核の打面再生剥片を利用した使用痕のある剥片である。細石刃剥離作業面と思われる剥離痕は剥片末端部に存在し、主要剥離面に対して斜めの状態で確認できるとともに、細石刃の剥離痕は上部も切られた状況にあることが観察されるものである。したがって、この剥片を剥離する以前にも左側面を打面とした打面再生剥離と、裏面からの調整剥離が施されており、複数回の打面再生剥離と打面調整が加えられていることが理解されよう。ただ、打面再生剥離が繰り返し行われていることは、打面が良好な状態で再生できなかった可能性が高いことが判断され、本剥片の剥離前に行われた打面再生剥離を打面とした細石刃剥離が行われていないことからも、この様な推定を裏付けられるものと思われる。使用痕と考えられる微細な剥離は両側縁に認められているが、双方の縁辺では状態に相違が認められている。それは、右側縁では鋭い縁辺が利用されており通常の使用痕のある剥片の状態と類似しているが、左側縁では細石刃石核の左側面が取り込まれた状態で、角度の大きい縁辺が形成されていた。後者の使用痕は前者に比べると強靭な縁辺が利用されていることから、この様な縁辺を意識的に選択していたと仮定すれば、力を込めた何らかの作業に使用されたことが窺えるものと思われる。そして、使用痕と考えられる細かな剥離が左側面の下縁に認められることと、主要剥離面側には顕著な使用痕跡が認められない状況からは、掻器の代用の様な使われ方がなされていることが推定されるものと思われる。

16も単独で確認されたものであるが、使用痕と思われる剥離の状態が当該期（細石刃石器群期）の特徴的な使用痕のある剥片の形状に類似していたことにより、本文化層に含めたものである。その状態は、ナイフ形石器石器群に認められる使用痕のある剥片は、微細な剥離が一部集中する箇所はあるものの、殆どのものは鋭い縁辺に飛び飛びに分散する状態で残されていることが一般的である。これに対して16は、使用痕と考えられる微細な剥離が縁辺の殆どに重複する状態で認められ、縁辺の使用頻度の高いためか潰れた状態を呈しているものである。勿論、細石刃石器群でも通常の形態の使用痕のある剥片も多量に認められているが、16のような特徴的な形状のものが目に付く量で含まれていることは指摘しておきたい。

17は末端を欠く縦長剥片で、両側縁に使用痕と思われる細かな剥離が認められるものである。細かな剥離は末端の折断面の縁辺まで及んでおり、使用頻度は比較的高かったことが推定される。

（４）個体別資料の分布について

山中城Ｅ遺跡で検出された旧石器時代の遺跡の中で、第Ⅰ文化層として捉えられたのは僅か33点の石器類で構成された細石刃石器群であった。これらの石器類は４箇所のブロックと７点のブロック外に分布が認められていたが、第２ブロックを除くと数点の石器類で構成されている小規模なブロックが大多数を占めている状況にあった。以下ではこれらブロック間の個体別資料の分布状態を、第２表を通して見ていくことにしたい。

出土した33点の石器類は14個体に分類されたが、この中で複数のブロック間に分布が確認されているのは比較的資料数の多い個体別資料番号№３、№５、№６の３個体で、これ以外には同一ブロックに複数の資料を分布していた個体別資料番号№１、№４の２個体と、資料数１点の単独個体別資料である９個体（個体別資料番号№２、№７～№14）に細分されている。複数のブロックに分布が確認された３個体の分布状態は、個体別資料番号№３が第２ブロックに４点（細石刃１点、剥片・砕片３点）、第４ブロックに１点（使用痕のある剥片）の合計５点の分布が確認されている。個体別資料番号№５は第２ブロックに７点（細石刃２点、剥片・砕片５点）、第３ブロックに１点（剥片・砕片）の合計８点の分布が確認され、個体別資料番号№６は第２ブロックに５点（細石刃２点、剥片・砕片３点）、第４ブロックに１点（剥片・砕片）と、第２ブロックとは約５ｍ離れた位置で確認されたブロック外３（剥片・砕片）に合計７点の分布が認められていた。これら３個体の分布からは、複数の個体（個体別資料番号№３、№６）が複数のブロックにまたがって分布していたり（第２、第４ブロック）、複数のブロック（第２、第３ブロック）で個体別資料の共有が認められており、他のブロックと個体別資料の共有が認められなかった第１ブロックを別にしても、本文化層を構成していたブロックは離れた状態で分布していたにも関わらず、同一個体に分類された個体別資料によって形成されていることから、ブロック（第２～第４ブロック）間の関連性を暗示させる内容となっている。このように、個体別資料の中には検出された４ブロック全てに分布していた個体は確認されていなかったものの、相互に個体別資料を替えながら個体別資料の共有関係が連鎖的に存在している状況が、第２～第４ブロック間において確認されており、少なくともこれらの３ブロックは同一集団によって残されたブロックであることが推定できるものと思われる。そして、他のブロックとは個体別資料の共有が認められなかった第１ブロックは、他のブロックと同じように同一集団によって残されたブロックの可能性もあるものの、第２～第４ブロックとは残された時間が相違するのか、あるいは他の集団によって残されたブロックであった可能性も考えられるものである。

各個体別資料の内容を見てみると、同一個体別資料に分類された複数の剥片・砕片を持っているブロックは、個体別資料番号№３、№４、№５、№６の４個体が分布していた第２ブロックだけで、他の第１、第３～第４ブロックでは殆ど剥片類は出土していない状況が認められている。したがって、本文化層の中では剥片剥離作業が行われた可能性の高いブロックは第２ブロックだけで、そしてここでは個体別資料番号№３～№６の４個体に対して、剥片剥離作業を行っていたことが推定されるものと思われる。しかし、これらの４個体には剥離された剥片や細石刃には著しい接合関係が認められなかったことや、石核、細石刃石核等が伴っていなかったことから、剥片剥離作業を行っていたとしても大規模なものではなかったことが窺えるとともに、剥離された剥片や細石刃と一緒に石核、細石刃石核も居住地の移動に際して持ち出していることが想像される状況を示している。そして、第２ブロックから持ち出した石器類の中には、個体別資料の共有が認められた第３、第４ブロックに持ち込まれたものもあったことが、推定されるものである。さらに、第２ブロックにおいて剥片剥離作業を行っていたことが推定される個体別資料番号№３～№６の４個体には、僅かながらも全ての個体に細石刃が伴っており、これらの個体では細石刃石核が作製されていたことが推定され

第２表　第Ⅰ文化層個体別資料のブロック内外別分類表

個体別資料No.	原石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	細石刃	細石刃石核	掻器	削器	彫器	叩石	ハンマー	ピエス	R・F	U・F	削器＋ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
1	黒曜石	1			2															2		2			C
	（諏訪星ヶ台群）	計			2															2		2			
2	黒曜石	1			1															1		1			単
	（蓼科冷山群）	計			1															1		1			
3	黒曜石	2			1													3		4		1	3		B
	（神津島恩馳島群）	4												1						1		1			C
		計			1									1				3		5		2	3		
4	黒曜石	2																2		2			2		B
	（神津島恩馳島群）	計																2		2			2		
5	黒曜石	2			2													5		7		2	5		B
	（神津島恩馳島群）	3																1		1		1			C
		計			2													6		8		3	5		
6	黒曜石	2			2													3		5		2	3		B
	（神津島恩馳島群）	4																1		1		1			C
		外3																1		1		1			C
		計			2													5		7		4	3		
7	黒曜石	3			1															1		1			単
	（神津島恩馳島群）	計			1															1		1			
8	黒曜石	3			1															1		1			単
	（諏訪星ヶ台群）	計			1															1		1			
9	黒曜石	外1				1														1				1	単
	（箱根畑宿群）	計				1														1				1	
10	黒曜石	外2			1															1		1			単
	（天城柏峠群）	計			1															1		1			
11	黒曜石	外4			1															1		1			単
	（和田鷹山群）	計			1															1		1			
12	黒曜石	外5			1															1		1			単
	（神津島恩馳島群）	計			1															1		1			
13	黒曜石	外6												1						1		1			単
	（蓼科冷山群）	計												1						1		1			
14	黒曜石	外7												1						1		1			単
	（天城柏峠群）	計												1						1		1			
複数個体別資料合計					7									1				16		24		11	13		
単独個体別資料合計					6	1								2						9		8		1	
総合計					13	1								3				16		33		19	13	1	

※黒曜石の産地同定は蛍光Ｘ線分析法（ＥＤＸ）によるものである。

るとともに、第２ブロック内で細石刃の生産も行われていた可能性があることが理解できるものと思われる。以上のような各個体別資料のあり方から、本文化層を構成していた４ブロックの中で剥片剥離や石器加工作業を行っていた可能性のあるブロックは第２ブロックだけであり、しかもこれらの作業は集中的に行われていた訳ではなく、極めて限定的な作業が行われていたことか推定される状況を示している。逆説的には第２ブロック以外のブロックでは何等かの作業を行っていた可能性は低いものであり、これらのブロックは作業空間以外の場所として利用されたことが理解できるものである。

以上のように各個体別資料のあり方を概観してきたが、確認された４ブロックの内の第２～第４ブロックでは個体別資料の共有が認められたことから、同一集団によって残されたブロックである可能性が高いことが推定されるとともに、この中の第２ブロックでは限定的ではあるものの細石刃の剥離作業を含めた作業が行われていたことを判断することができた。ただ、これらの３ブロック間では接合関係は認められておらず、ブロック間の同時性や時間的前後関係を判断する要件を欠いている状況にある。したがって、個体別資料の共有が認められなかった第１ブロックも含めた４ブロックは、同一集団か複数の集団がそれほど時間を置かないで複数回に渡って本遺跡に来訪して形成したのか、或いは点在するように位置している４ブロックが同時期に形成される中で、ブロックそれぞれで何等かの場の機能を持っていたのか、それとも各ブロックは集団内における家族単位の居住範囲として形成された可能性もあるもの思われる。しかし、もし仮に後者のよ

うに４ブロックが同時期に存在していたと仮定すると、最も離れて位置している第１ブロックと第４ブロックでは約27mの距離を隔てて分布が確認されている状態であることや、単独出土のブロック外のものを含めると約57mの広範な分布が形成されており、居住範囲が隣接することなく点在する状態で分布していたことが推定される状況にある。しかしながら、多くの細石刃を生産している当地方の遺跡ではブロックは密集した状態で形成されていることが一般的であり、本文化層のように点在するようなブロックが確認された遺跡は少ないのが現状である。したがって、細石刃を集中的に生産しているような遺跡とは居住形態に違いがあるのか、それとも単に出土する石器数の多寡によるブロック規模の相違によるものなのかを明確に判断することはできないが、少なくとも各ブロックで細石刃の作出をあまり行っていない遺跡では、本文化層のようにブロックが分散した状態で形成されることがあることが理解されるとともに、細石刃石器群の確認を行う場合には留意しなければいけない要点なのかも知れない。

４ブロックで確認された個体別資料の分布状態からブロック間の関連性等を見てきたが、個体別資料もその資料数も極めて少数で構成されており、各ブロックの関連性を追及するには材料を欠く状態であった。したがって、これらのブロックの成因や関連性を明確に捉えることはできなかったが、細石刃石器群の遺跡の中には極めて小規模なブロックで構成される居住形態があったことを推定することができた。しかしながら、本文化層のようなブロックの状態が細石刃石器群全体の中で普遍的に存在する状況なのかは明らかではなく、今後の調査、研究が待たれるものである。そして、本文化層のような小規模なブロックを点在させている遺跡と、多量の細石刃を生産している遺跡との関係も追及される必要があるものと思われる。

（５）位置付けと問題点

山中城Ｅ遺跡で確認された旧石器時代の第Ⅰ文化層は、細石刃を主な器種とする細石刃石器群として認識された。しかし、出土した４ブロックと７点のブロック外の石器類を合計しても僅か33点の石器類が確認されただけで、しかもブロックは数点で構成されるような小規模なものが大勢を占めている状態であり、特徴のある遺跡が形成されていた。検出された石器類は細石刃、細石刃石核、使用痕のある剥片、剥片・砕片等で、細石刃関連の器種以外は殆ど確認されておらず極めて単純な組成を示していたが、当地方の細石刃石器群では細石刃関係の器種以外には加工具と考えられる少量の掻器、削器、ピエス・エスキーユ等が確認される程度であり、もともと細石刃石器群は貧弱な組成を示しているものが大勢を占めているのが現状であった。したがって、本文化層で確認されたブロックでは断片的な作業が行われていた可能性はあるものの、積極的に何等かの作業が行われていた可能性は低く、加工具と考えられる器種を保有していたとしても移動に際して遺跡外に持ち出していることが推定できるものと思われる。このような推定が妥当であるならば、本文化層のような単純な組成を示す遺跡が形成されることも強ち不自然なことではないと考えられることから、細石刃石器群のあり方のひとつとして捉えておくことにしたい。

出土した石器類の中で、多くの細石刃はブロック内より確認されていたが、３点の細石刃と細石刃石核はブロック外より検出されたものであった。ブロック外１から出土した細石刃石核（14）は、あまり整った形状を示していないものではあったが、その大きさや形態的特徴から細石刃石核として捉えたものであった。しかしながら、本例はあまり類例の知られていない「箱根畑宿群」の黒曜石製の細石刃石核であることや、ブロック外１の位置が第Ⅲ文化層の第７ブロックと重複関係にあり、しかも第Ⅲ文化層の第７ブロックには「箱根畑宿群」の石器類が伴っており、第Ⅲ文化層の石核である可能性も持たれるものであった。ただ、第Ⅲ文化層のようなナイフ形石器石器群では、14のような剥片剥離作業面が２cm以下の小形の石核は殆ど確認されていないことや、石核の打面に調整を施した傾斜打面を用いている例も管見に挙がったものは認めら

第３表　第Ⅰ文化層ブロック内外別石器組成表

	ナイフ形石器	尖頭器	細石刃	細石刃石核	角錐状石器	掻器	削器	彫器	叩石	磨石	ドリル	ピエス・エスキーユ	R・F	U・F	削器＋ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計
１ブロック			3																	3
２ブロック			5															13		18
３ブロック			2															1		3
４ブロック														1				1		2
ブロック外１				1																1
ブロック外２			1																	1
ブロック外３																		1		1
ブロック外４			1																	1
ブロック外５			1																	1
ブロック外６														1						1
ブロック外７														1						1
合　計			13	1										3				16		33

れなかったことから、疑問は残るものの細石刃石核として理解したものである。したがって、14の細石刃石核は第Ⅰ文化層に含まれるものなのかは、若干の問題があることを指摘しておきたい。

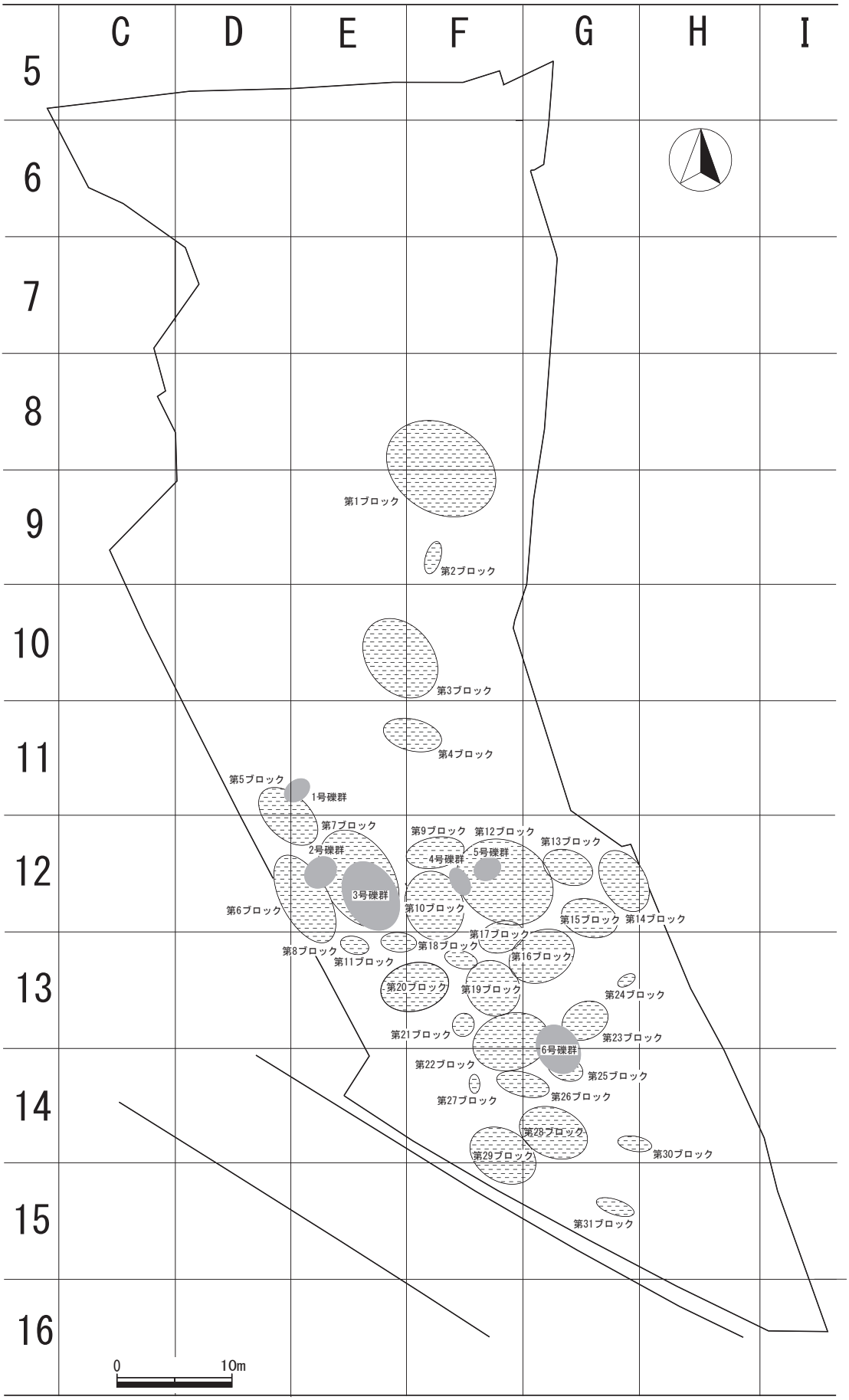
第Ⅰ文化層として確認された石器群は断片的な内容を示す細石刃石器群であり、しかも文化層を特徴付ける細石刃は形態的な相違点が顕著に表れる器種ではないことから、遺跡間の類似や相違点を検討する場合には専ら細石刃石核が用いられ、これらの形態や製作過程、及び細石刃の作出状態等から遺跡間の相違や類似点が追及されることが一般的である。本文化層で確認された細石刃石核は、その形態的特徴から「野岳・休場型」、或いは「稜柱型」と呼称される細石刃石核の範疇に含まれるものであった。一般的に細石刃石器群は数段階の変遷が辿れることが判断されており、当地方でも編年案が提示されている（前嶋　1996・砂田　1996）。しかしながら両者の編年案には大きな隔たりがあり、いまだ当地方の細石刃石器群の変遷過程は確定していないのが現状である。それは当地方で確認されている細石刃石器群の殆どが「野岳・休場型」「稜柱型」の範疇に入るもので、それ以外の形態の細石刃石核は断片的な資料が確認されている程度であることから、「野岳・休場型」「稜柱型」の細石刃石核の中で細石刃石器群の変遷が検討されているのが実情であり、このために変遷案に混乱が生じている可能性が高いものである。したがって、本文化層の石器群もいずれかの時期に対比ができるものと思われるものの、編年案そのものが検討が必要な状況のため、これらの編年案に対比することは控えておきたい。ただ、当地方で編まれた『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』（静岡県考古学会　1995）では細石刃石器群は第５期としてまとめられていることから、本文化層も第５期に含まれる石器群であることは明らかである。そして、細石刃石器群の中では「野岳・休場型」「稜柱型」の細石刃石核は比較的古期に位置付けられる形態であることから、細石刃石器群の中では古い時期の石器群であったことが推定できるものと思われる。

２．第Ⅱ文化層

（１）第Ⅱ文化層の概要

前述したように、本遺跡では旧石器時代に位置付けられた文化層は３枚が確認された。第Ⅱ文化層として認識されたのは当地方ではあまり類例の知られていない石器群で、相当量のナイフ形石器を保有しつつも、同量程度の尖頭器を組成するものであり、組成の上で主体的な石器を確定することが難しい状況にある石器群である。検出された石器群はナイフ形石器（38点）と尖頭器（41点）以外の器種は、掻器３点、削器７点、掻器＋ノッチ１点、ノッチ１点、彫器１点、ピエス・エスキーユ１点、叩石１点、ハンマー・ストーン１点、石核11点、及び少量の石刃18点と加工痕のある剥片９点、使用痕のある剥片64点、剥片・砕片1,191点が確認されており、組成のあり方としてはナイフ形石器石器群に類似していることが推察できる内容となっている。しかしながら大部分の尖頭器を伴うナイフ形石器石器群は、多くのナイフ形石器と10点以下の尖頭器で構成されることが通例で、本文化層のような組成を示す石器群は極めて少数が確認されているにとどまっており、両者の関連性が問題となる石器群と言えよう。検出されたブロックは31箇所で、標高に沿うように南北方向にベルト状に分布していたが、北側では数ブロックが点在している状態であったのに対し、南側では隣接したブロックが群集した状態で東西方向にも広がりを見せており、これらの分布が調査範囲外にも及んでいることが予測できる状況にある。ブロックの多くは、石器類がその中で点在するような状態で分布していたが、中には百点以上の石器類が集中的に検出されたものもあり、ブロックの形成には何らかの相違があることが理解されるものと思われる。ブロック以外では、配石が２点、礫群が６箇所、単独で出土した13点の礫の合計83点の礫素材の石器類が確認されており、ブロックを形成している石器群の1,388点を加えると第Ⅱ文化層は合計1,471点の石器類で構成されていた（第12・13図）。

石器類は、第５層のローム斬移層から第12層のＢＢ０層にかけて出土が認められていたが、多くのものは第６層の所謂「休場層」上層から第８層の休場層中層にかけて検出されており、割合とまとまった垂直分布が形成されていた。前述したように、本文化層は石器群の組成の上からはナイフ形石器石器群に含まれるものと推定されるものの、ナイフ形石器の検出量に拮抗する尖頭器が出土しており、典型的なナイフ形石器石器群とは言い切れない内容を持っていることが推察される状況にある。そして、ナイフ形石器石器群に後続する石器群としては尖頭器石器群が位置付けられており、本文化層のような多くの尖頭器を持つナイフ形石器石器群が両石器群を繋ぐ石器群となるのか、ナイフ形石器石器群の終末段階を示す石器群として注目されるものと思われる。石器群を構成している石材は、比較的近距離の黒曜石産地である箱根畑宿群、天城柏峠群の他に、長野県諏訪星ヶ台群、和田鷹山群、和田土屋橋西群、蓼科冷山群等の黒曜石が同定されている。黒曜石以外では、ガラス質黒色安山岩、ホルンフェルス、チャート、玉髄、安山岩、粘板岩、瑪瑙等が確認されているが、その占有率は黒曜石に比べると著しく低く、本文化層が黒曜石に多くを依存した石器群であったことが窺える石材の占有状態を示している。黒曜石の中では箱根畑宿群と天城柏峠群の占める割合が高く、多くの器種がこれら産地の黒曜石で製作されており、幾つかのブロックでは尖頭器の製作も行っていたようで、多くのポイント・フレイクの出土が確認されている。尚、本文化層のブロックと礫群の中には、調査時に確認した遺物の出土層位と遺物レベルが一致しない遺物があり、不自然な垂直分布図となったものがある。



第12図　第Ⅱ文化層のブロックと礫群の分布

（２）検出された遺構

１）ブロック

第１ブロック（第14図）

第１ブロックは調査範囲の中では最も北側で確認されたブロックで、Ｅ－８～９とＦ－８～９グリッドの４グリッドにまたがって分布が確認された。ブロックの規模は比較的大きく、長軸約9.2m、短軸約6.2mの楕円形の範囲を形成していた。石器類はブロックの北東部で集中して検出される傾向があり、それ以外の場所では数点の石器類が点在する状態で、外縁部には散漫な分布が認められていたにすぎない。出土した石器類は、ナイフ形石器２点、尖頭器１点、掻器１点、使用痕のある剥片４点、石核１点、剥片・砕片39点の合計48点で、これらの石器類は全て黒曜石で製作されていたとともに、15個体の個体別資料に分類された。石器類が出土した層位は、第８層の所謂「休場層」中層（ＹＬＭ層）から第12層のＢＢ０層にかけてであったが、多くのものは第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層で検出されており、比較的まとまった状態で出土したことが窺える。これら出土レベルでは、標高約487.53mから標高約488.53mに至る約１mの高低差を形成していたが、多くの石器類は標高約488.30m付近で検出されており、垂直分布でもまとまった出土状態を示していることが理解されよう。なお、垂直分布は鍋底状を呈していた。

第２ブロック（第15図）

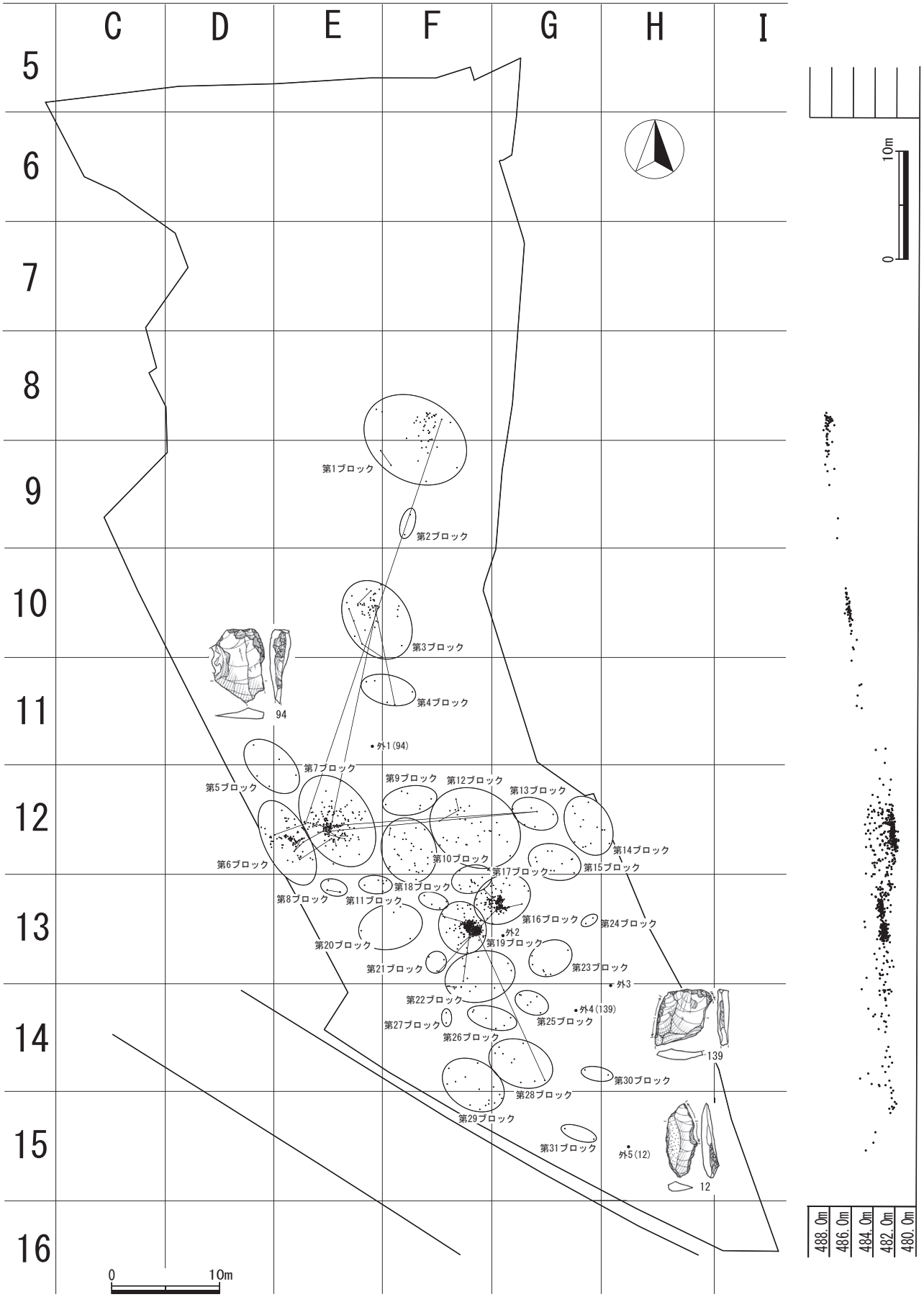
第２ブロックは、第１ブロックの南側約３m、第３ブロックの北側約５mに位置する小規模なブロックで、Ｆ－９グリッドの南西部で確認されたものである。出土した石器類は２点と少なく、両者は約２mの距離を隔てて分布しており、ブロックの規模としては２m前後が想定されるものと思われる。出土石器の内訳は、ナイフ形石器１点と削器１点で、剥片・砕片の類は１点も出土していないことから、本ブロックでは剥片剥離等の作業は行われなかったことが理解されよう。これらの石器類も第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけて検出され、標高では約487.20mと約487.28mで、約８cmの高低差しか生じていないことから、地形の傾斜等を考慮すれば、ほぼ同一面上から出土したと言える状態であるものと思われる。なお、出土した石器の２点は黒曜石製で、別の個体別資料に分類された。

第３ブロック（第17図）

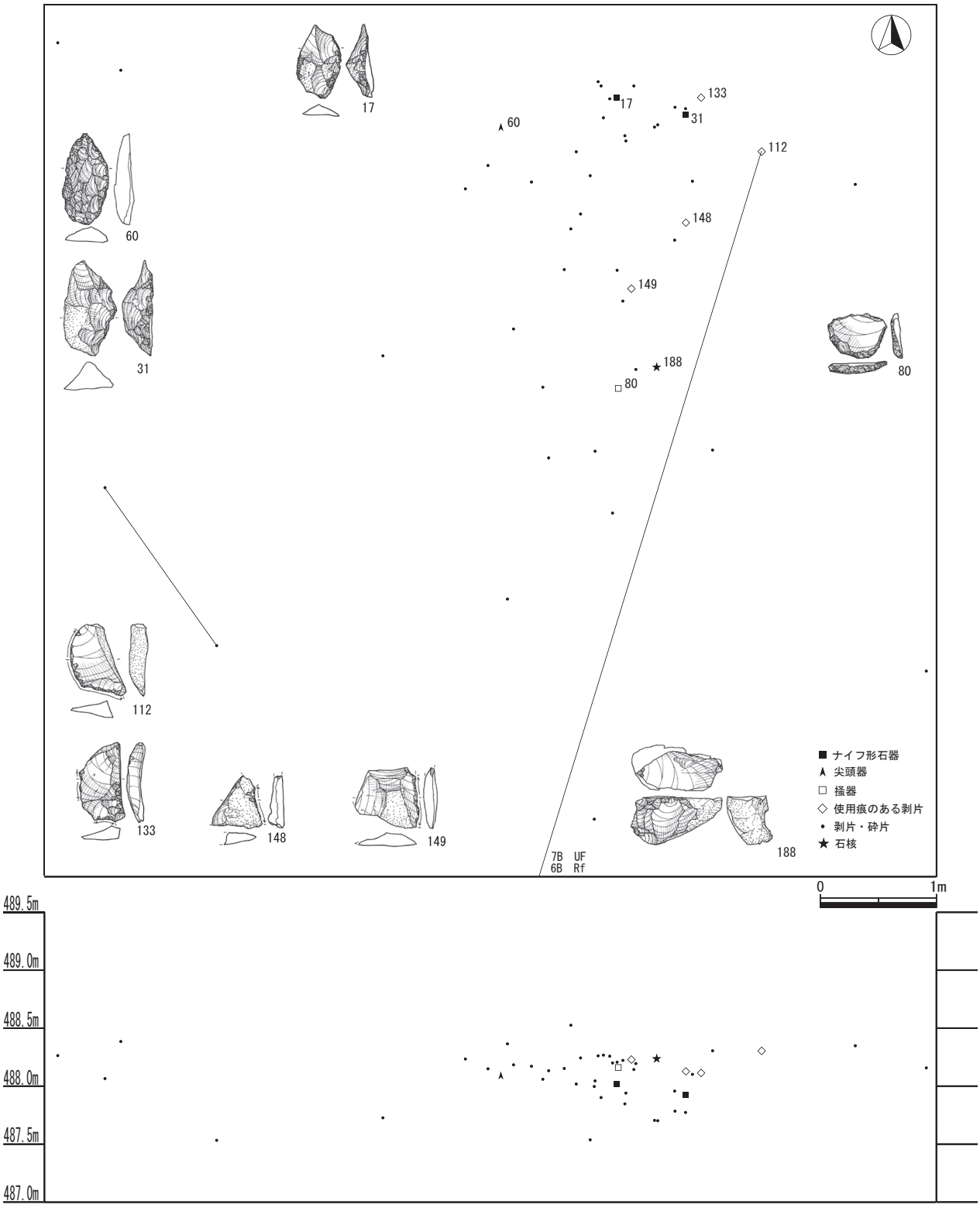
本ブロックは第４ブロックの北側約２m、第２ブロックの南側約５mに位置するブロックで、Ｅ－10とＦ－10グリッドにまたがって形成されていた。ブロックの規模は長軸約6.4m、短軸約５mで、楕円形の分布が認められているが、石器類の多くは北側寄りに集中して分布しており、南側では数点が外縁部に点在しているだけでの状態で広い空白部が形成されている。検出された石器類は53点で、その内訳は尖頭器７点、使用痕のある剥片２点、石刃・折石刃１点、石核２点、剥片・砕片41点が確認されており、ナイフ形石器が認められなかったことと尖頭器の出土量の多さが特徴的なブロックである。これらの石器類も全て黒曜石製で、12個体の個体別資料に分類された。出土層位は第５層のローム漸移層から第10層のＹＬＬ層にかけてで、標高で示せば約485.47mから486.57mにかけて約90cmのレベル差を持って包含されていたが、標高486.00m前後のレベルで多くの石器類が出土している傾向が認められている。

第４ブロック（第16図）

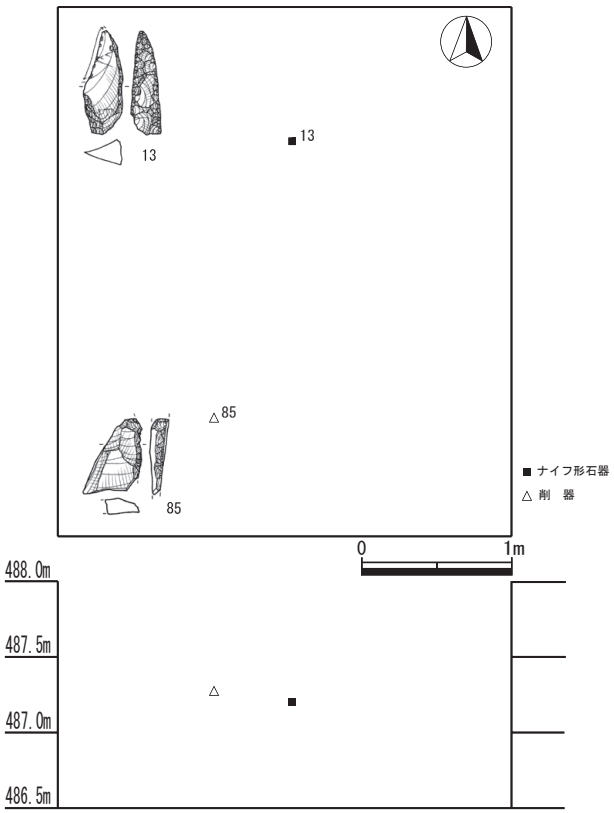
第４ブロックは第３ブロックの南側２m、第９ブロックの7.5mに位置するブロックで、Ｅ－11とＦ－11グリッドにまたがって分布していた。ブロックは長軸約4.3m、短軸約２mの規模で、石器類はこの範囲の中に点在するような状態で分布しており、５点が検出されている。出土した石器類の内訳は、尖頭器１点、石核１点、剥片・砕片３点で、剥片類の少なさからは本ブロック内では剥片剥離や石器製作などの作業は行われていないことが推定されるものと思われる。これらの石器類も全て黒曜石で製作され、４個体の個体別



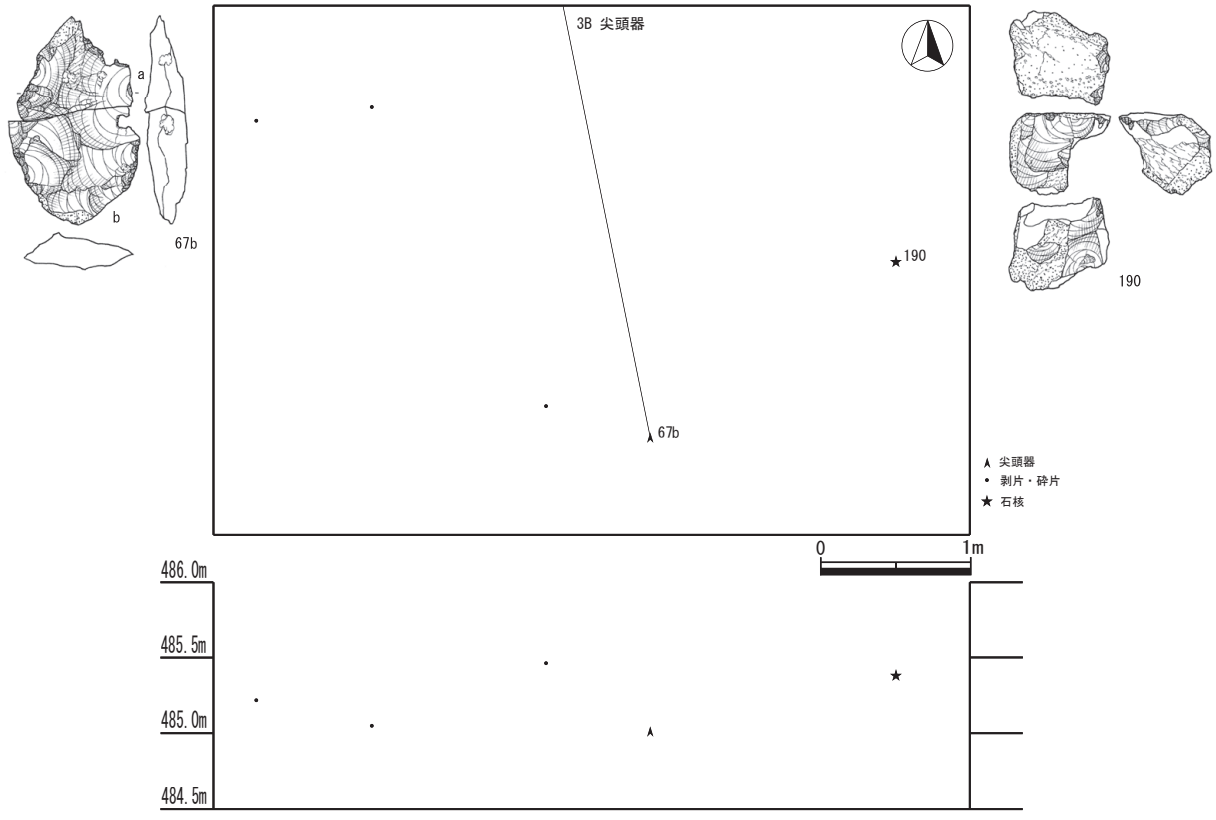
第13図　第Ⅱ文化層のブロックと単独石器の分布



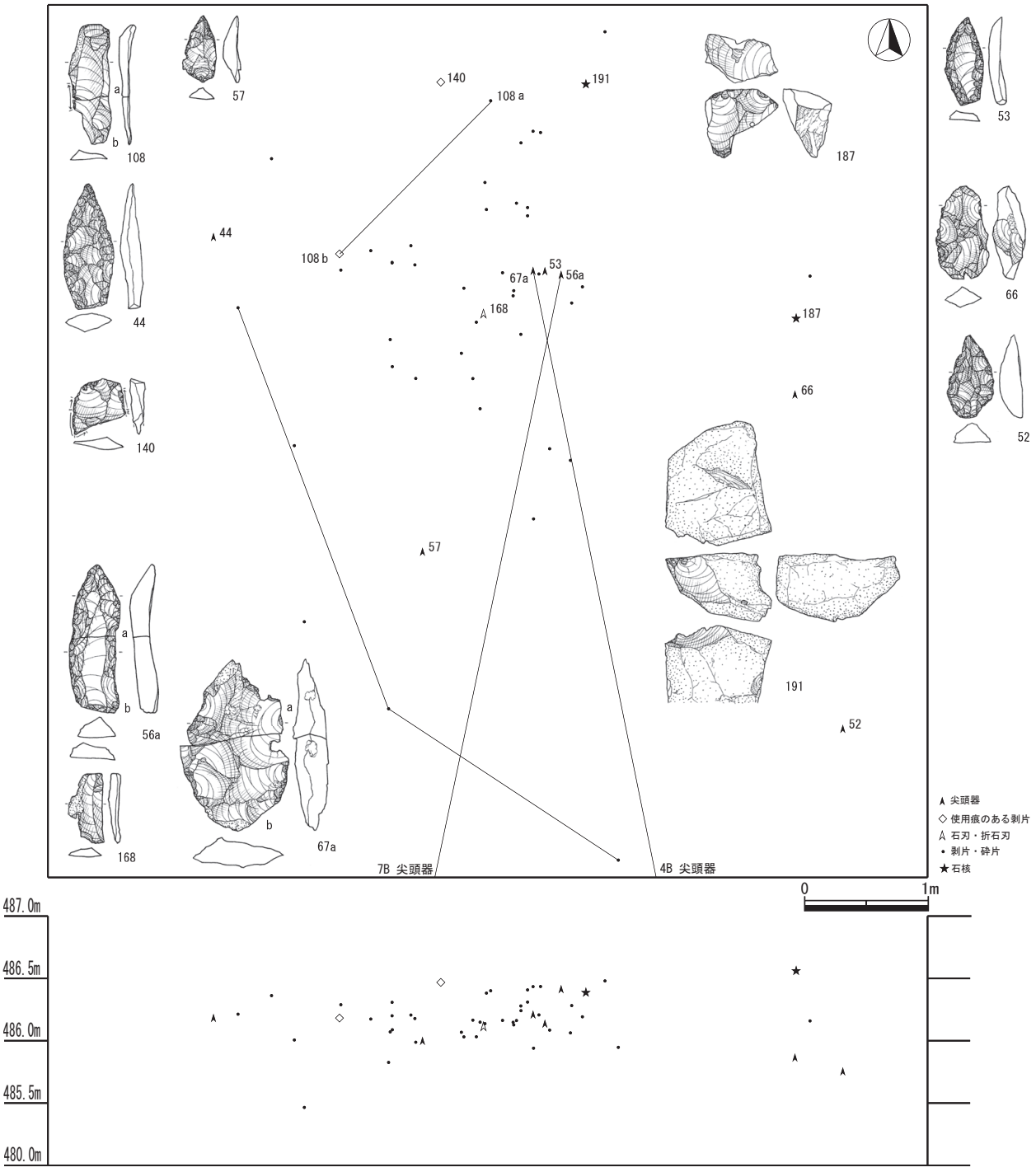
第14図　第Ⅱ文化層第１ブロック石器分布図



第15図　第Ⅱ文化層第２ブロック石器分布図



第16図　第Ⅱ文化層第４ブロック石器分布図

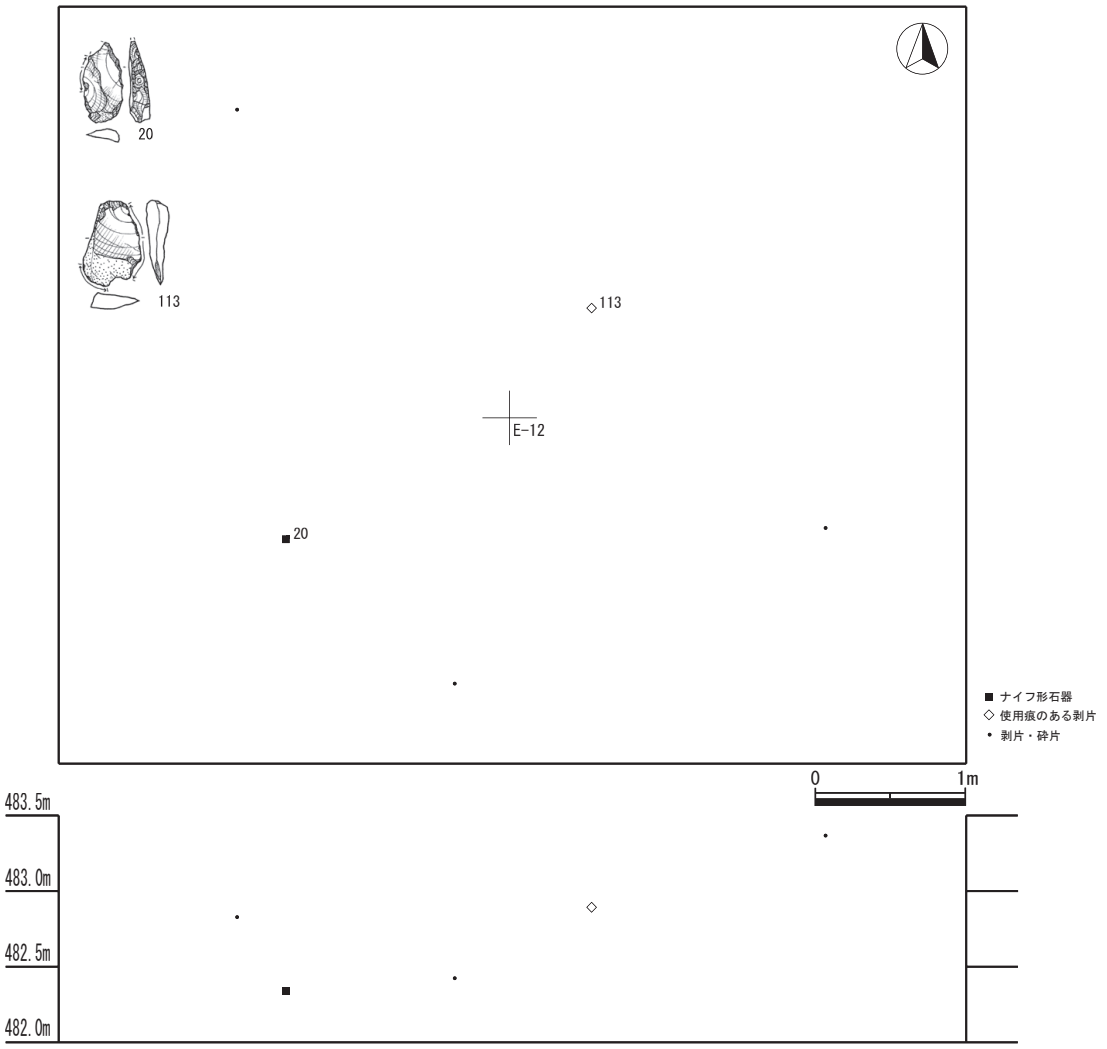


第17図　第Ⅱ文化層第３ブロック石器分布図

資料に分類された。石器類の出土した層位は第５層のローム漸移層から第６層のＹＬＵ層で、標高約485.01ｍから標高約485.46ｍにかけて包含されており、約45cmの高低差を持って確認されている。

第５ブロック（第18図）

第５ブロックは、第４ブロックの南西約10m、第６ブロックの北約２ｍで確認されたブロックで、Ｄ－11～12、Ｅ－11～12グリッドの４グリッドの中央部に分布していた。ブロックは長軸約4.8m、短軸約３ｍの規模で、石器類はこの範囲の外縁部に点在するような状態で分布しており、ブロックの中央部は分布の空白域となっている。出土した石器類は５点で、ナイフ形石器１点、使用痕のある剥片１点、剥片・砕片３点で

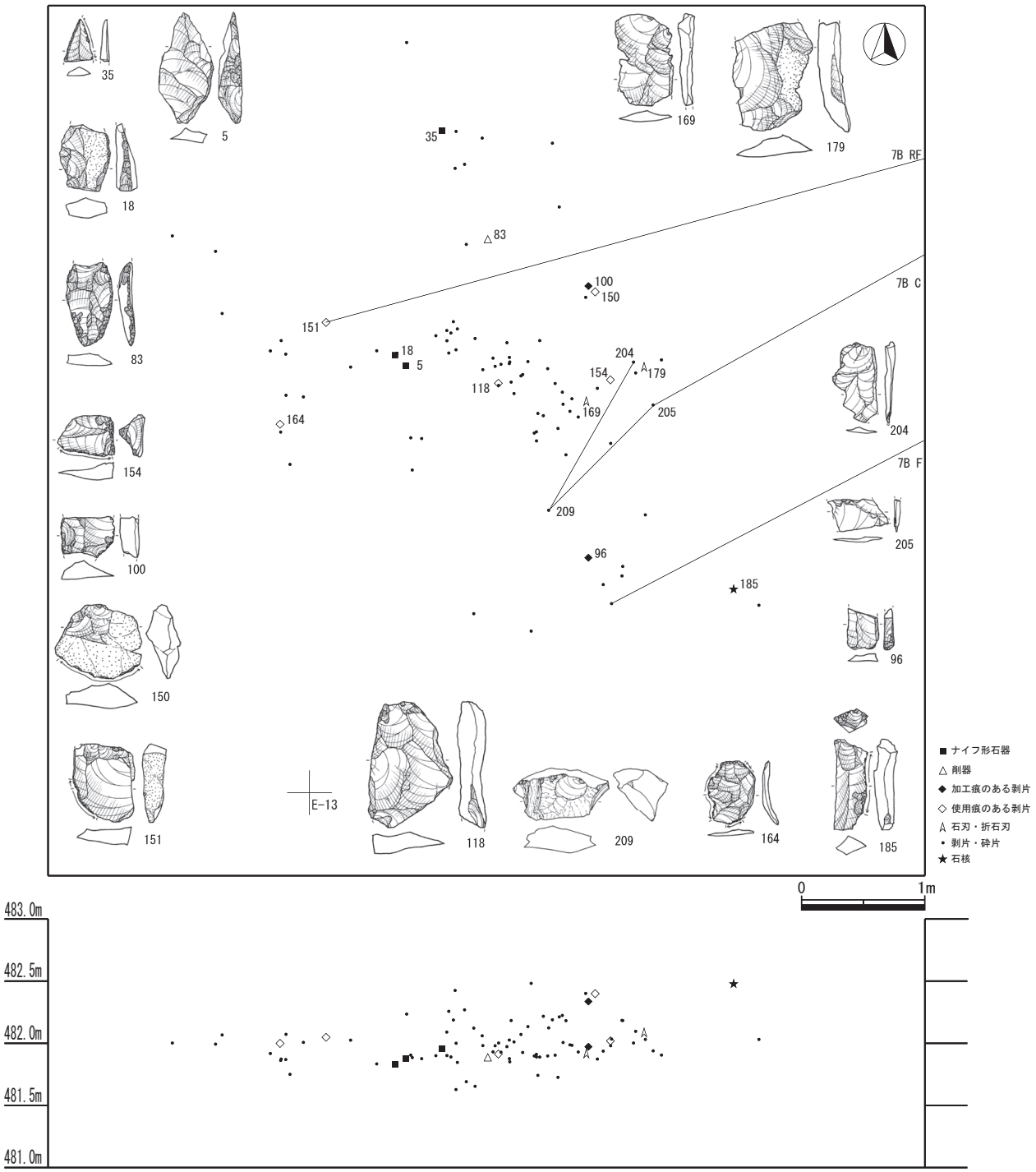


第18図　第Ⅱ文化層第５ブロック石器分布図

構成されていたが、本ブロックの石器類も全て黒曜石で製作され、５個体の個体別資料に分類されており、本ブロック内では複数の資料数を持つ個体別資料は確認されていない。したがって、本ブロック内でも剥片剥離や石器製作などの加工作業が行われていないことが推定できるものと思われる。石器類が検出された層位は第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層で、標高約482.34mから標高約483.37mにかけて約1.03mのレベル差のある垂直分布が形成されていた。

第６ブロック（第19図）

第６ブロックは第５ブロックの南側約２mに位置し、第７ブロックの西側でブロックの分布範囲を接するような状態で確認されたブロックである。ブロックは、Ｄ－12とＥ－12グリッドの２グリッドにまたがって分布が確認されたが、ブロックの西側が調査範囲外へ伸びている可能性があり、ブロックの全容が検出されていない例である。ブロックの規模は長軸約5.5m、短軸約3.5m以上で、石器類はブロック範囲の中央東寄りの場所で集中して出土しており、分布に幾分偏りが認められる状況にある。検出された石器類はナイフ形石器３点、削器１点、加工痕のある剥片２点、使用痕のある剥片５点、石刃・折石刃２点、石核１点、剥片・砕片77点の合計91点で、本ブロックでも殆どの石器類が黒曜石で製作されていたが、１個体のチャートが確認されており、全体では20個体の個体別資料として分類された。石器類の出土した層位は第６層のＹＬＵ層から第10層のＹＬＬ層にかけて認められているが、大多数のものは「休場層」中層である第８層のＹＬＭ層



第19図　第Ⅱ文化層第６ブロック石器分布図

から検出されている。これらの石器類は、標高約481.63mから標高約482.48mにかけて約85cmのレベル差を持って検出されているが、多くのものは標高約482.00m付近から出土する傾向にあり、凸レンズ状の垂直分布が形成されていた。

第７ブロック（第20図）

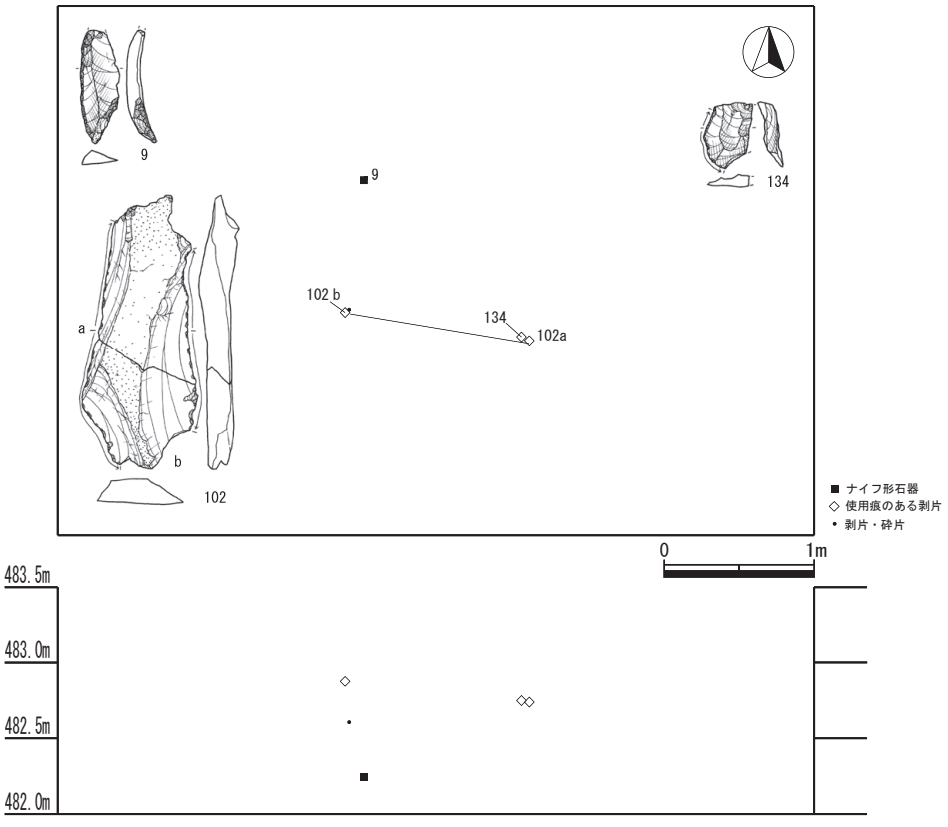
第７ブロックは、第６ブロックの東側でブロック範囲を接するように分布しているブロックで、第４ブロックの南西約８ｍに位置している。グリッドではＥ－12グリッドに相当し、グリッドの中央部に長軸約7.5m、短軸約6.2mの比較的規模の大きなブロックが形成されていた。石器類はブロックの中央部で集中的に出土

第20図　第Ⅱ文化層第７ブロック石器分布図

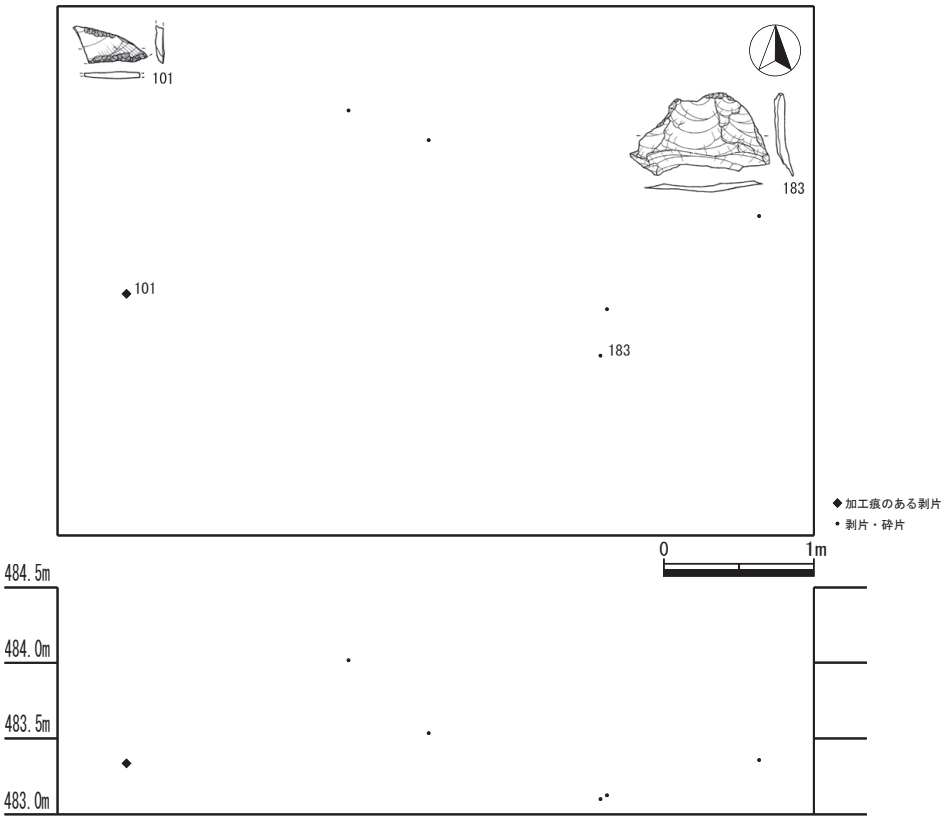
し、外縁部にいくに従って散漫な分布を示しており、ブロックの中央部で何等かの作業が行われていたことが推定できる状況にあるものと思われる。出土した石器類は186点で、その内訳はナイフ形石器６点、尖頭器８点、掻器１点、削器１点、彫器１点、ピエス・エスキーユ１点、ノッチ１点、加工痕のある剥片２点、使用痕のある剥片12点、石刃・折石刃11点、石核２点、剥片・砕片140点で、本文化層を構成しているブロックの中では最も石器類の種類が豊富なブロックである。本ブロックも殆どの石器類は黒曜石で製作されていたが、少量のチャート、玉髄、ガラス質黒色安山岩製の石器類も検出されており、31個体の個体別資料に分類することができた。これらの石器類が出土した層位は第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層であり、比較的まとまりのある層位から検出されていることが窺える状態である。大部分の石器類は標高約482.20m付近を中心として出土しているが、標高約481.95mから標高約484.07mにかけて約212cmのレベル差のある垂直分布が形成されており、一部には不自然なレベルを示す遺物が存在するようである。

第８ブロック（第21図）

本ブロックは第８ブロックの南側約1.5m、第11ブロックの西約２ｍで確認された小規模なブロックで、Ｅ－13グリッド中央北寄りに位置している。確認された石器類は、長軸 1.6m、短軸約１ｍのブロックの中で点在するように分布しており、石器の出土が集中するような場所は認められなかった。検出された石器類は５点で、その内訳はナイフ形石器１点、使用痕のある剥片３点、剥片・砕片１点であり、本ブロックでも剥片剥離や石器加工等の作業は行われていなかったことが推察されるものと思われる。５点の石器類は３個体の黒曜石と１個体のチャートで構成されており、本ブロックも大部分の石器類が黒曜石で製作されていることが理解されよう。石器類は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけて検出され、垂直分布には標高約482.25mから標高約482.88mにかけて約63cmのレベル差を生じていた。



第21図　第Ⅱ文化層第８ブロック石器分布図



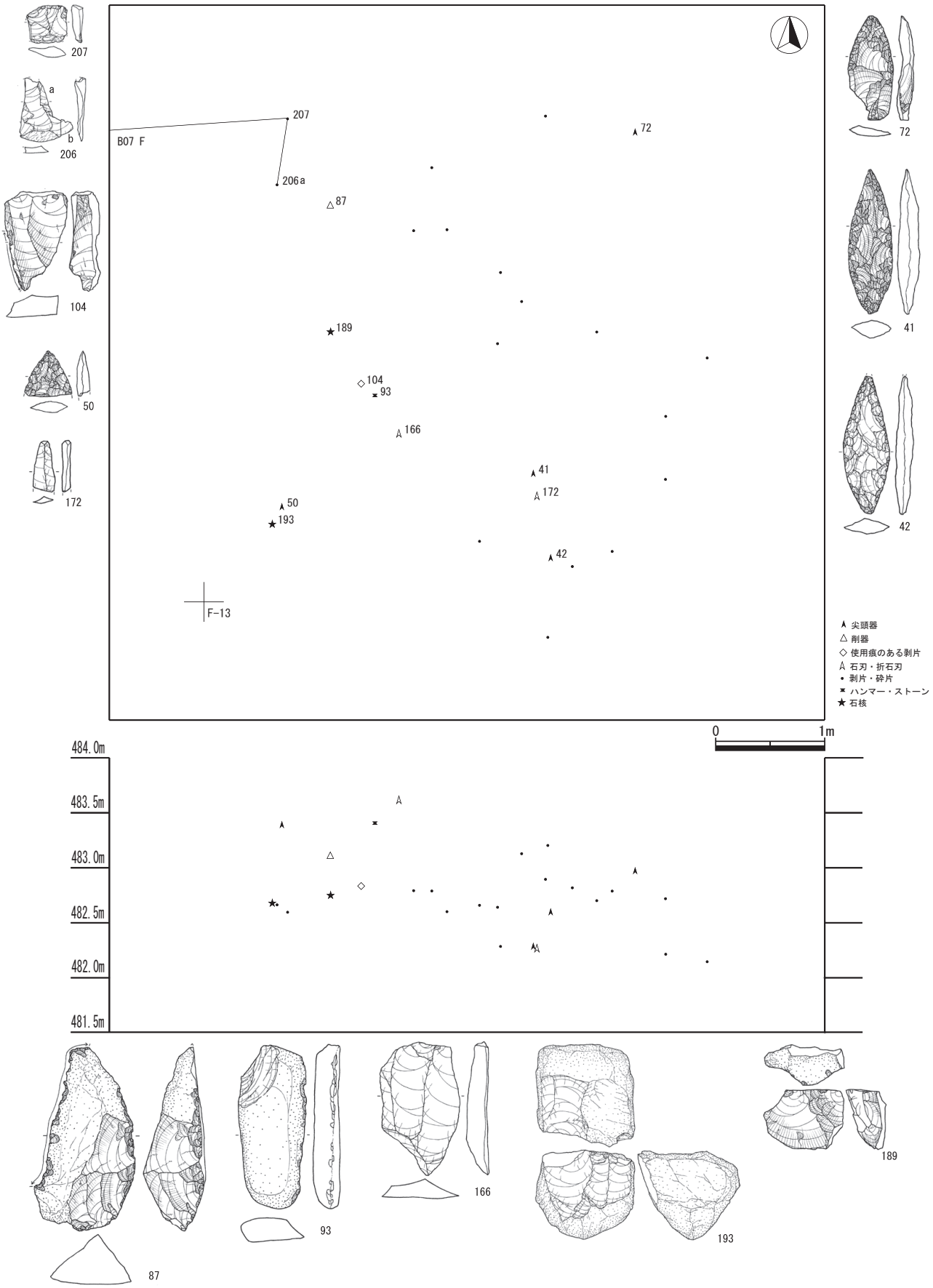
第22図　第Ⅱ文化層第９ブロック石器分布図

第９ブロック（第22図）

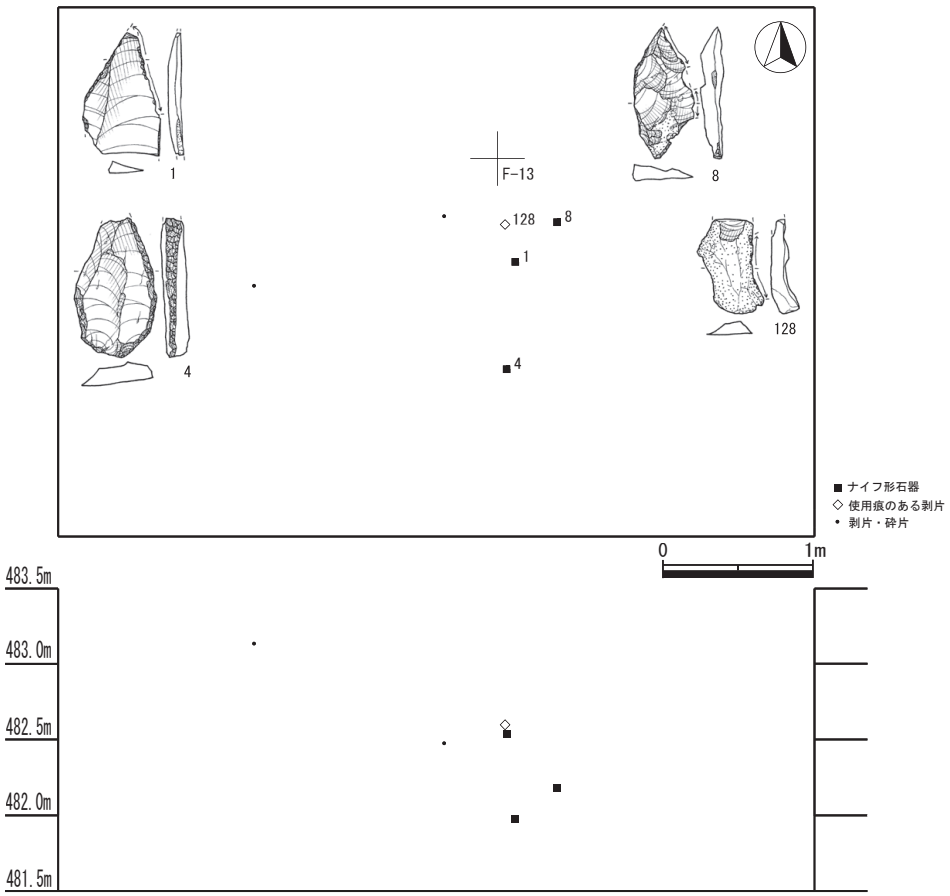
第９ブロックは第４ブロックの南側約7.5m、第７ブロックの東側約２ｍで確認されたブロックで、グリッドではＦ－12グリッドの北西に位置している。ブロックの規模は長軸約4.3m、短軸約2.5mで、石器類はブロックの外縁部に点在しているような状態で、ブロックの中央部は石器分布の空白部となっている。出土した石器類は、加工痕のある剥片１点と剥片・砕片５点の合計６点で、定型的な石器器種は検出されていない。これらの石器類は黒曜石３個体と凝灰岩、粘板岩が各１個体の５個体の個体別資料に分類されており、本ブロックを構成する石器類でも黒曜石の占める割合が高いことが理解されよう。出土した層位は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、標高約483.10mから標高約484.02mにかけて約92cmの高低差を持つ垂直分布が形成されていた。

第10ブロック（第23図）

第10ブロックは第９ブロックの南側約1.5m、第７ブロックの東側約2.5m、及び第12ブロックの西側で分布範囲を接するように位置しているブロックで、Ｆ－12、Ｆ－13グリッドにまたがって分布が確認されている。ブロックは長軸約5.5m、短軸約５ｍの規模で、石器類はブロック範囲の中で散漫な分布を示しており、石器類が集中して出土したような場所は確認されなかった。検出された石器類は28点で、その内訳は尖頭器４点、削器１点、ハンマー・ストーン１点、使用痕のある剥片１点、石刃・折石刃２点、石核２点、剥片・砕片17点で、本ブロックでも多くの石器類が黒曜石（15個体）で製作されていたが、他の石材としてはホルンフェルス２個体、ガラス質黒色安山岩２個体、粘板岩３個体、チャート１個体が確認されており、合計23個体別資料が認識されている。これらの石器類は、第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層にかけて検出され、標高約482.15mから標高約483.62mにかけて約147cmの高低差を持つ垂直分布を形成していたが、本ブロックでも一部の遺物に不自然なレベルを示すものもあるようである。



第23図　第Ⅱ文化層第10ブロック石器分布図



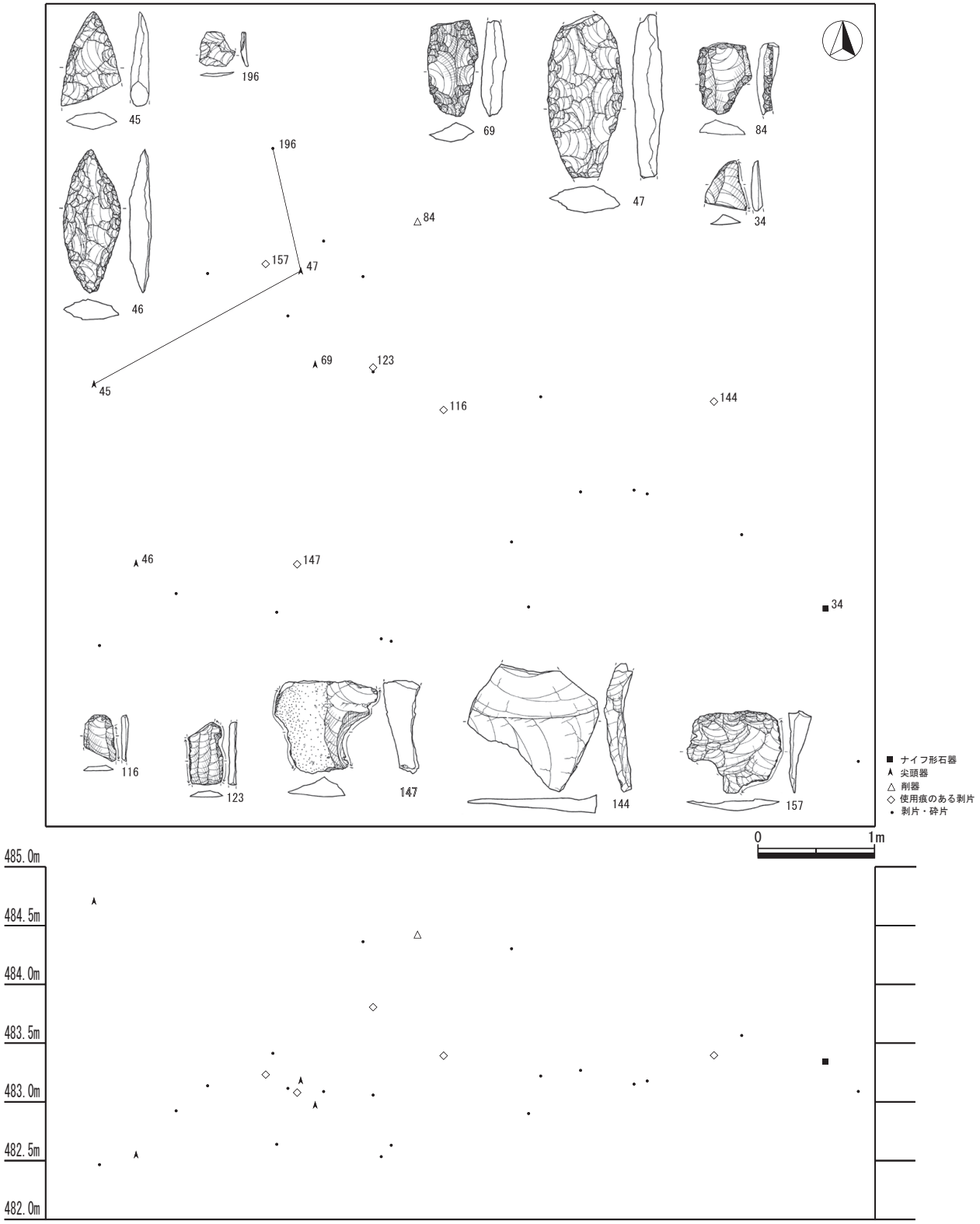
第24図　第Ⅱ文化層第11ブロック石器分布図

第11ブロック（第24図）

第11ブロックは、第10ブロックの南側約１ｍ、第８ブロックの東側約２ｍ、第20ブロック北側約1.7mの距離を隔てて確認されたブロックで、Ｅ－13とＦ－13グリッドにまたがって分布していた。ブロックの規模は長軸約2.2m、短軸約1.6mと比較的小規模で、石器類はブロックの中に点在するような状態で分布し、集中的に出土するような場所は確認されていない。出土した石器類は合計６点で、ナイフ形石器３点、使用痕のある剥片１点、剥片・砕片２点が確認されている。本ブロックの石器類も全て黒曜石で製作され、４個体の個体別資料として認識されている。石器類が検出された層位は、第６層のＹＬＵ層から第10層のＹＬＬ層にかけてで、垂直分布には標高約481.98mから標高約483.14mにかけて約1.16mのレベル差が生じていた。

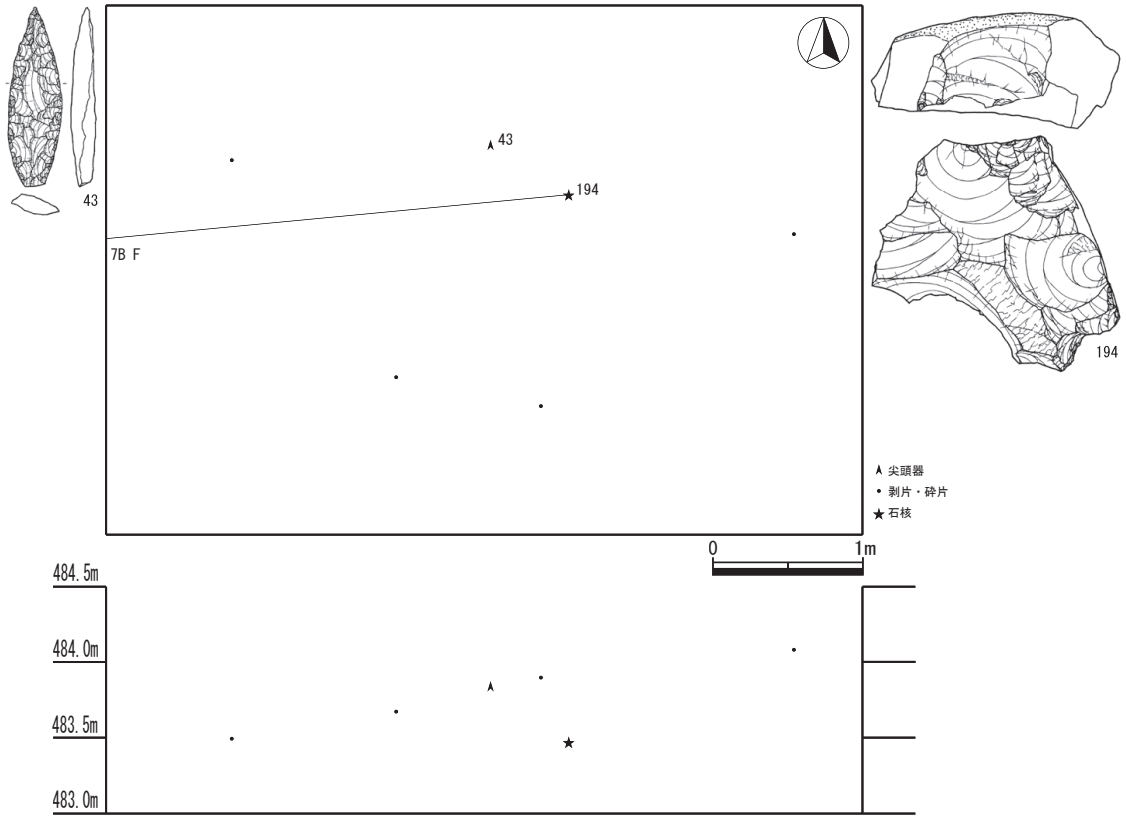
第12ブロック（第25図）

本ブロックはＦ－12とＧ－12グリッドにまたがって分布が確認されたブロックで、第17ブロックの北側約２ｍ、第13ブロックと第15ブロックの西側約２ｍに位置している。ブロックは長軸約７ｍ、短軸約 5.5mと比較的規模は大きかったものの、石器類は幾分北寄りの場所に分布の偏りが認められてはいるが、全体的にはブロック範囲の中で散漫な分布が認められるだけで、集中的に出土するような箇所は確認されていない。出土した石器類はナイフ形石器１点、尖頭器４点、削器１点、使用痕のある剥片５点、剥片・砕片19点の合計30点で、これらは17個体の個体別資料に分類された。個体別資料の多くは黒曜石で占められていたが、ガラス質黒色安山岩が３個体、チャートが１個体確認されており、ブロックに残されている量は少ないものの黒曜石以外の石材も利用されていることが分かる。石器類の検出された層位は、第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、垂直分布には標高約482.47mから標高約484.71mにかけて約2.24mのレベル差が

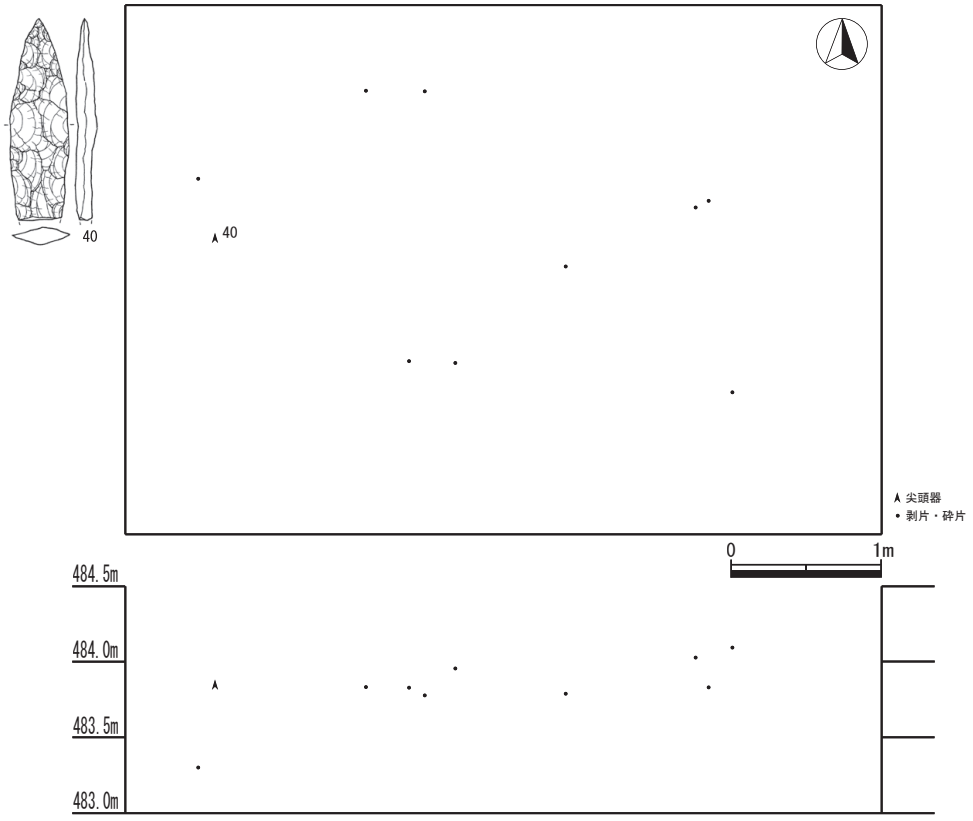


第25図　第Ⅱ文化層第12ブロック石器分布図

生じており、本ブロックも不自然な垂直分布となっている。



第26図　第Ⅱ文化層第13ブロック石器分布図



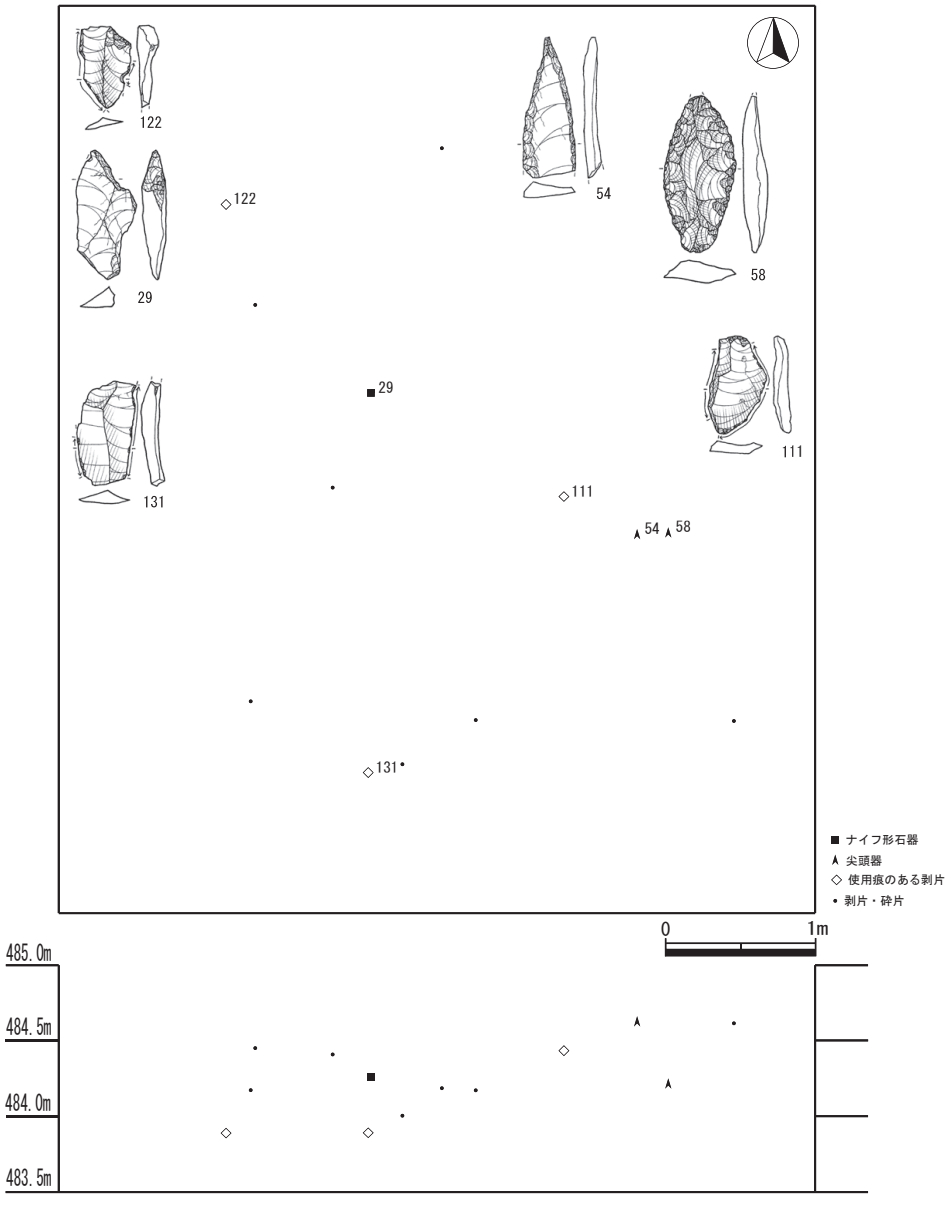
第27図　第Ⅱ文化層第15ブロック石器分布図

第13ブロック（第26図）

第13ブロックは第12ブロックの東側約２ｍ、第15ブロックの北側約２ｍ、第14ブロックの西側約1.4mに位置し、Ｇ－12グリッドの中央部で確認されたブロックである。ブロックの大きさは長軸約４ｍ、短軸約２ｍと比較的小規模で、石器類はブロック範囲の外縁部に点在するような状態で分布していた。確認された石器類は尖頭器１点、石核１点、剥片・砕片４点の合計６点と少なかったが、５個体に分類された個体別資料の中にはガラス質黒色安山岩が１個体、チャートが２個体存在しており、黒曜石は２個体が確認されただけであった。石器類が出土した層位は、第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、標高約483.50mから標高約484.08mにかけて約58cmの高低差のある垂直分布が形成されていた。

第14ブロック（第28図）

第14ブロックは、Ｇ－12とＨ－12グリッドにまたがって分布が確認されたブロックで、第13ブロックの東側約1.4m、第15ブロックの北東側1.3mに位置しているが、調査範囲の最も東側で確認されており、調査範囲外にブロック範囲が広がっている可能性のあるブロックである。ブロックは長軸約５ｍ、短軸約3.2m以



第28図　第Ⅱ文化層第14ブロック石器分布図

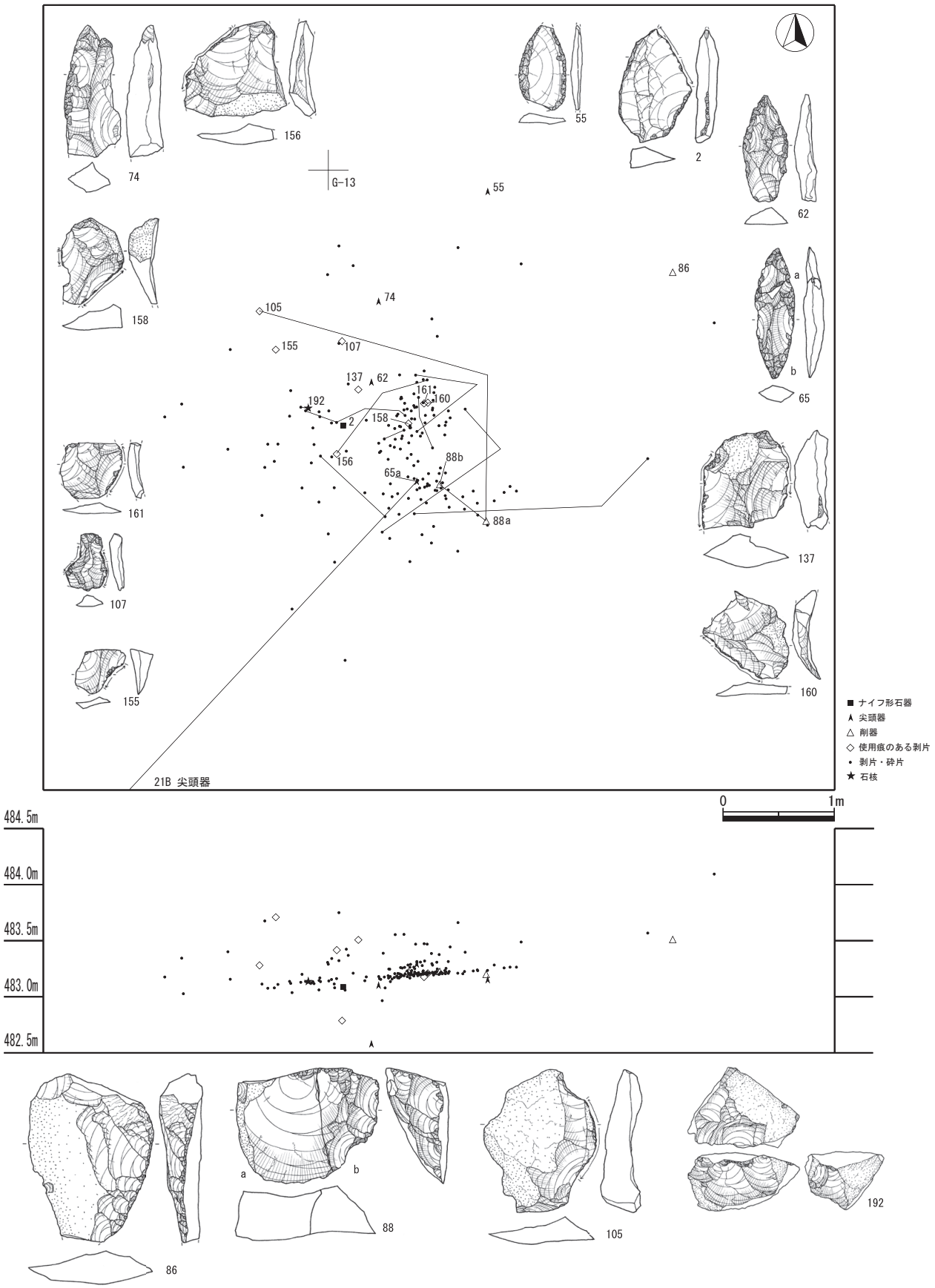
上の規模で、石器類はブロック範囲の中で点在するような分布の仕方であり、集中的に出土するような箇所は認められなかった。確認された石器群は13点で、その内訳はナイフ形石器１点、尖頭器２点、使用痕のある剥片３点、剥片・砕片７点で、本ブロックでも黒曜石製の石器類が殆どを占めていたが（９個体）、少量のホルンフェルス（２個体）や流紋岩（１個体）製の石器類も認められている。これらの石器類は、第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけて出土し、標高約483.89ｍから標高約484.63ｍにかけて検出されており、これらには約74cmのレベル差のある垂直分布が形成されていた。

第15ブロック（第27図）

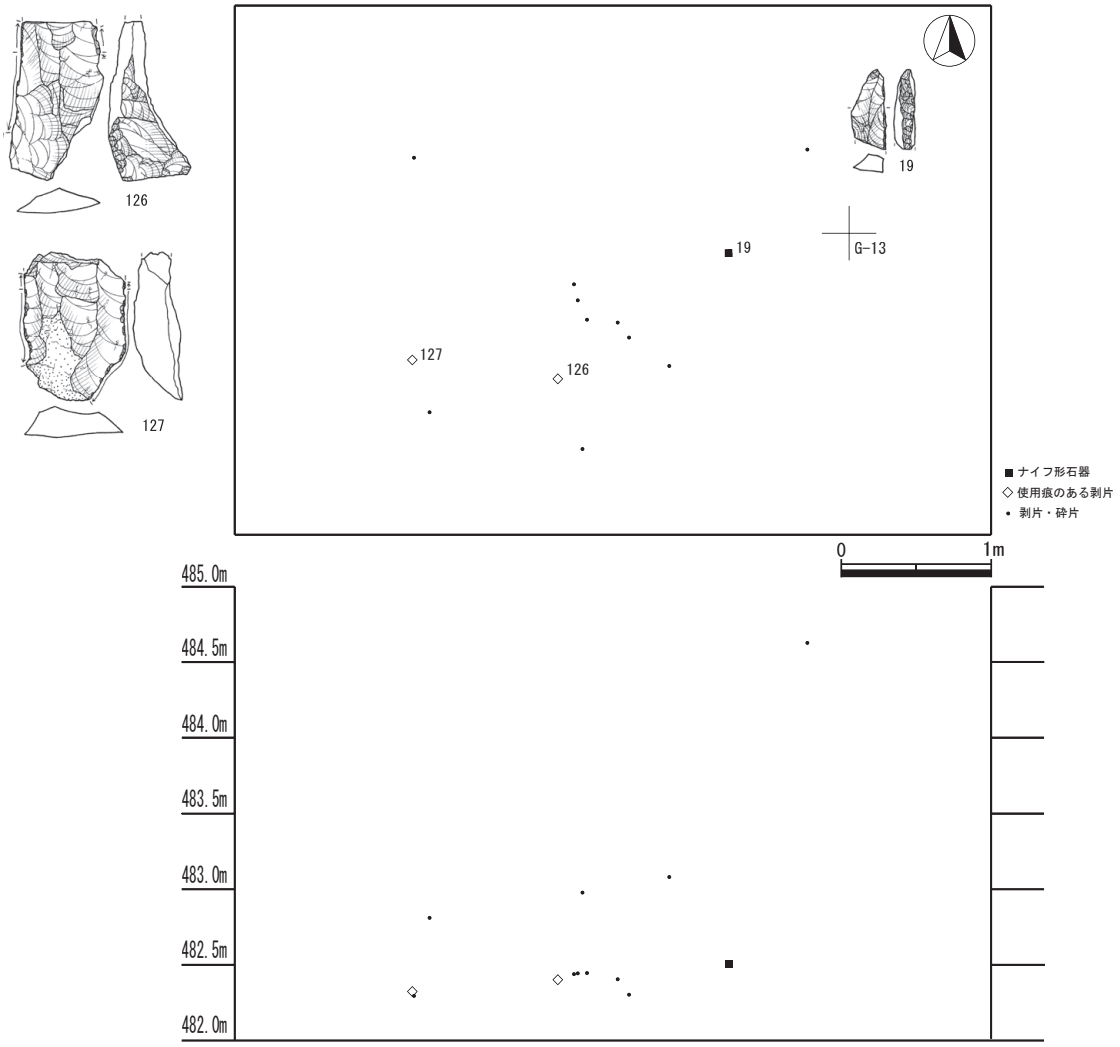
本ブロックは、第16ブロックの北東約２ｍ、第24ブロックの北北西約4.3ｍ、第14ブロックの南西側1.3ｍで分布が確認されたブロックで、Ｇ－12グリッドの南に位置している。ブロックは長軸約４ｍ、短軸約２ｍの規模で、石器類はこの長楕円形の範囲の中で外縁部分に点在するような状態で分布しており、集中的に出土するような箇所は認められなかった。検出された石器類は尖頭器１点、剥片・砕片９点の合計10点で、これらは８個体の黒曜石とホルンフェルスと安山岩（トロトロ石）が１個体ずつで構成されていたことから、個体別資料の中には複数の資料を持つ個体が確認されていないことと、全ての個体が本ブロック内では単独の資料として存在していたことが判断されるものと思われる。石器類の出土した層位は、第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてであったが、多くのものがＹＬＵ層より検出されており、比較的まとまった出土状態を示していた。最も低いレベルで確認されたのは標高約483.30ｍで、高い例が標高約484.10ｍであったことから、約80cmの高低差のある垂直分布が形成されていたが、低いレベルで確認された１点を除けば殆どの石器類は標高484.90ｍ付近に集中しており、出土層位は割合限定的であったことが窺えるものと思われる。

第16ブロック（第29図）

第16ブロックは第12ブロックの南側約1.8ｍ、第24ブロックの西側約６ｍに位置し、北西側で第17ブロック、南西側で第19ブロックとブロック範囲を接するように分布しているブロックである。ブロックの規模は長軸約５ｍ、短軸約3.5ｍの大きさで、Ｆ－13とＧ－13グリッドにまたがって検出されている。石器類はブロック範囲の東側では数点が点在しているような状態であったのに対し、西側では集中的に検出された箇所があり、その場所から外縁部にいくに従い散漫になるような分布を示しており、東西では出土状態が大きく違っていた。出土した石器類は181点と多量で、その内訳はナイフ形石器１点、尖頭器４点、削器２点、使用痕のある剥片８点、石核１点、剥片・砕片165点であり、石器器種がそれ程多いとは言えないにも関わらず、剥片・砕片が多量に検出されていることが理解されよう。このことからは、本ブロックが剥片剥離や石器加工などの作業を行っていた場所であったことが推察されるものと思われる。個体別資料のあり方からも同様の指摘が可能で、14個体に分類された個体別資料の中で複数以上の資料数を持つ個体が７個体あり、これらの個体に対して剥片剥離や石器加工などの作業が施されたことにより、同一個体の剥片・砕片が残されたものと推定することができよう。14個体の内10個体は黒曜石で、他の石材としてはガラス質黒色安山岩３個体、玉髄１個体が確認されている。石器類が検出された層位は、第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてであったが、大部分の石器類はＹＬＵ層から出土しており、比較的限定された層位から検出されたことが窺える状況にあった。これら石器類は、標高約482.58ｍから標高約484.09ｍにかけて包含され、約1.51ｍに及ぶ高低差のある垂直分布を形成していたが、大部分の石器類は標高483.30ｍを中心とした50cm程のレベルから出土していた。



第29図　第Ⅱ文化層第16ブロック石器分布図



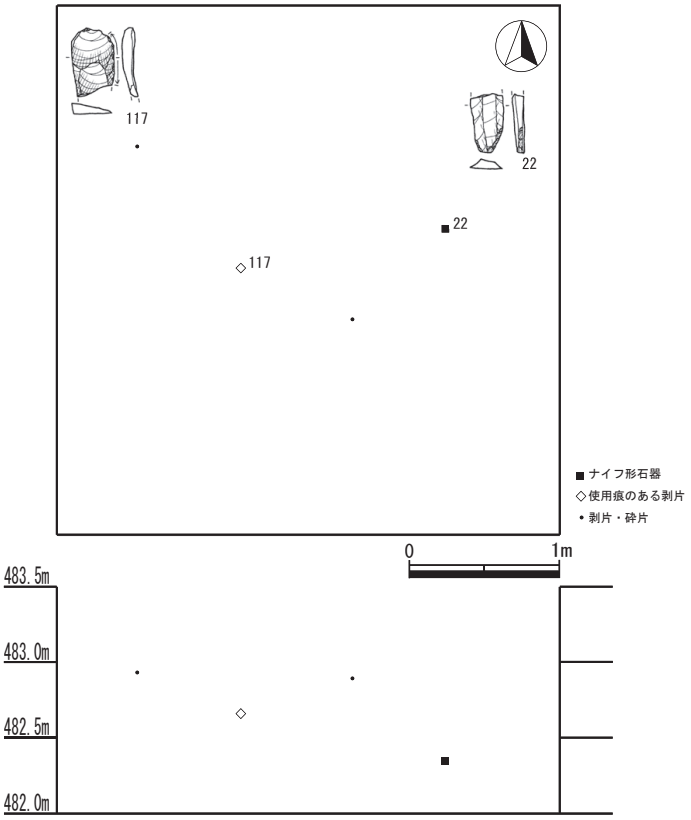
第30図　第Ⅱ文化層第17ブロック石器分布図

第17ブロック（第30図）

第17ブロックは第12ブロックの南側約２m、第19ブロックの北側約1.2mに位置し、南東部で第16ブロックとブロック範囲を接する状態で確認されたブロックである。ブロックは長軸約3.2m、短軸約2.5mの大きさで、Ｆ－12とＦ－13グリッドの２グリッドにかけて分布していた。石器類はブロック範囲の中で点在するような状態で分布しており、やや南側に分布か偏る傾向があるものの、著しく出土するような場所は認められなかった。確認された石器類はナイフ形石器１点、使用痕のある剥片２点、剥片・砕片10点の合計13点で、これらは７個体の個体別資料に分類された。この７個体別資料の内６個体が黒曜石製で、残りの１個体は流紋岩が利用されており､本ブロックでも石器素材として黒曜石を多用していたことが窺えるものと思われる。石器類が出土した層位は第５層のローム漸移層から第12層のＢＢ０層であったが、多くのものが第８層のＹＬＭ層より検出されていた。標高では約482.30mから約484.63mにかけて出土し、約2.33mに及ぶ高低差のある垂直分布を形成していたが、一部の遺物レベルには正確さを欠く可能性はあるものの、多くのものが483.40m付近で検出されている傾向が認められている。

第18ブロック（第31図）

第18ブロックはＦ－13グリッド北側で確認されたブロックで、第12ブロックの南側約４m、第11ブロックの東側約3.5mの距離を隔てて位置し、第19ブロックとは南東側でブロック範囲を接するように分布してい

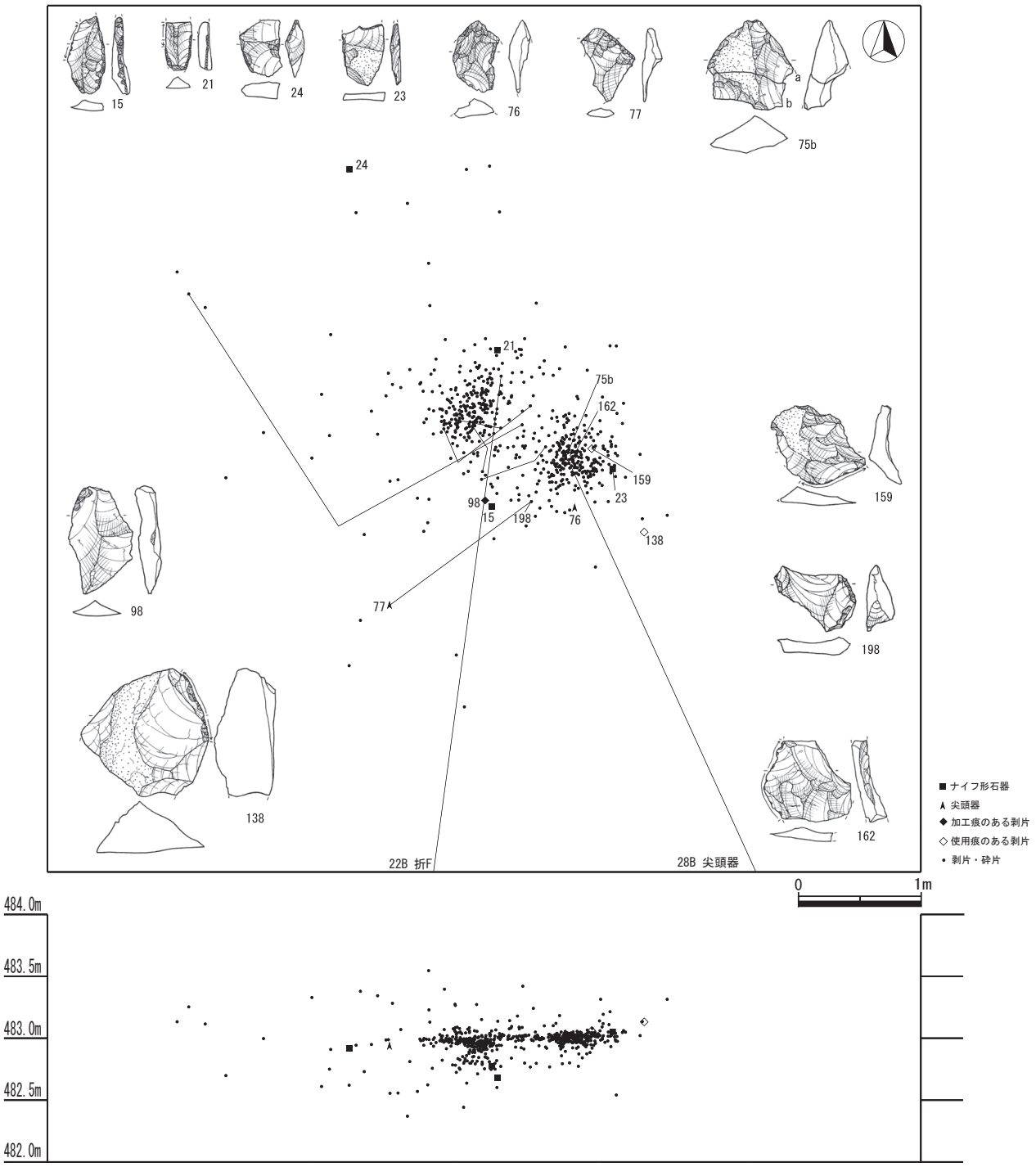


第31図　第Ⅱ文化層第18ブロック石器分布図

た。ブロックは長軸約2.3m、短軸約1.5mと比較的小規模で、石器類はブロックの中で点在するような状態であり､石器類が集中して検出されるような箇所は認められなかった。出土した石器類はナイフ形石器１点、使用痕のある剥片１点、剥片・砕片２点の合計４点で、４個体別資料に分類された。この内の１個体はホルンフェルスであったが、残りの３個体は黒曜石であり、本ブロックでも黒曜石への依存度が高かったことが窺える。石器類は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬM層にかけて検出され、比較的まとまった出土状態を示していたことが推定されると共に、出土レベルでも標高約482.35mから約482.93mと、約58cmの比較的高低差のない垂直分布が形成されており、出土層位でのあり方とも矛盾しない。

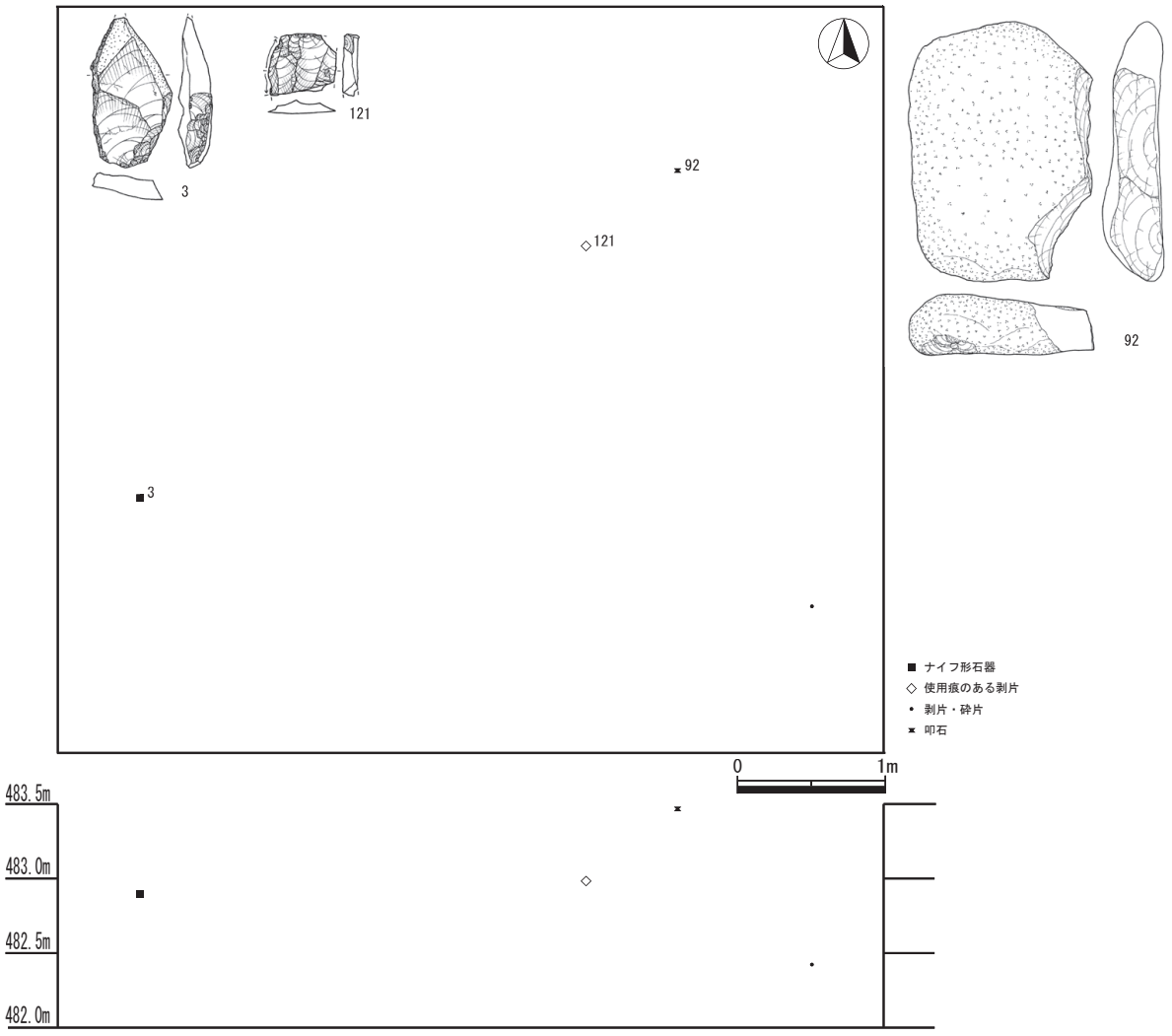
第19ブロック（第32図）

第19ブロックはＦ－13グリッド中央東側で確認されたブロックで、北西側で第18ブロックと、北東側では第16ブロック、南側では第22ブロックと分布範囲を接するような状態で位置するもので、近接して分布しているブロックの中心的な存在である可能性の高いブロックである。ブロックは長軸約4.5m、短軸約3.7mと中規模の大きさであったが、石器類の出土量は613点と多量で、ブロックの中央東寄りに集中的に出土する場所が二箇所あり、それらは径１mほどの範囲を形成している状態であった。この二箇所の集中部の他は、散漫な分布がブロックの外縁部に向かって展開しているようなあり方であり、集中部より飛び散るといった状況が想像されるのかも知れない。出土した613点の内訳は、ナイフ形石器４点、尖頭器２点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片３点、剥片・砕片603点で、剥片・砕片の出土量の多さが特徴的なブロックである。これらの石器類は15個体の個体別資料に分類されたが、殆どの個体は黒曜石（13個体）で占めており、他の石材としてはガラス質黒色安山岩が２個体存在していたにすぎない。検出された層位は、第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬM層にかけてであったが、殆どの石器類は第６層のＹＬＵ層から出土しており、一定した層位に包含されていたことが窺えるものと思われる。ただ、石器類は標高約482.37mから約483.55



第32図　第Ⅱ文化層第19ブロック石器分布図

mにかけて約1.18mの高低差のある垂直分布が形成されており、多くのものが482.90m付近から出土していたものの、中には上下のレベルに分散して確認されるものもあったことが理解されよう。



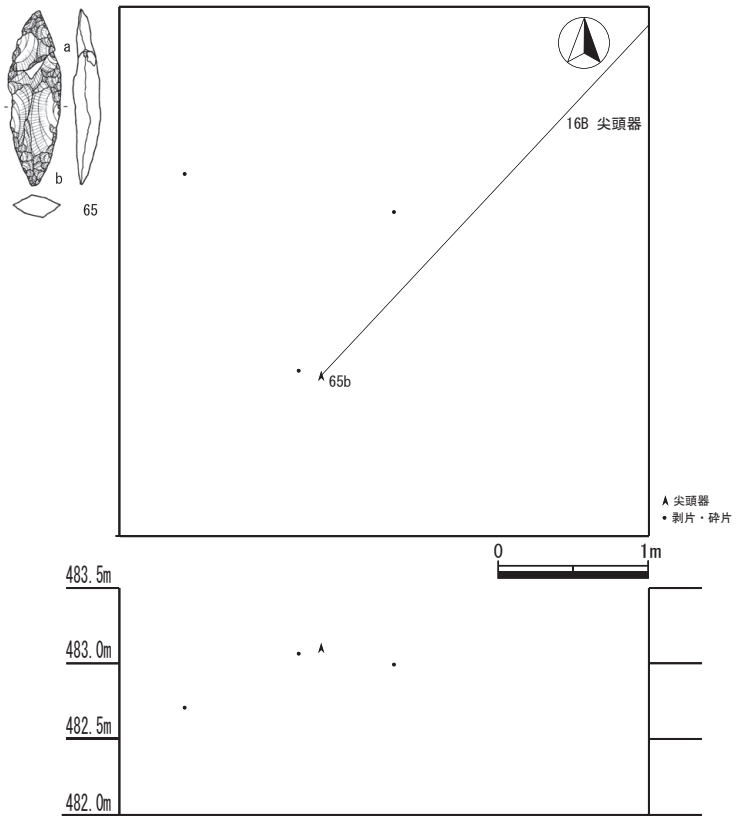
第33図　第Ⅱ文化層第20ブロック石器分布図

第20ブロック（第33図）

Ｅ－13とＦ－13グリッドに分布の確認されたブロックで、第11ブロックの南側約1.6m、第19ブロックの西側約３ｍに位置している。ブロックは長軸約4.6m、短軸約３ｍを測り、中程度の大きさのものであった。出土した石器類は４点と少なく、ブロックの外縁部に点在する状態で分布が認められただけで、中央部は分布の空白部となっていた。確認された石器器種はナイフ形石器１点、叩石１点、使用痕のある剥片１点、剥片・砕片１点で、叩石の存在と剥片類の少なさが特徴的なブロックである。叩石が安山岩製であった他は黒曜石製で、全てブロック内では同一の個体別資料が確認できなかった個体であったことから、本ブロックは４個体の個体別資料で構成されていたことが判断できるものと思われる。これらの石器類も第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけて出土しており、出土層位は他のブロックと共通していた。４点の石器類は標高約482.42mから標高約483.47mにかけて検出され、約1.05mの高低差のある垂直分布を形成していた。

第21ブロック（第34図）

第21ブロックは、第18ブロックの南側約４ｍ、第19ブロックの南西側1.5mで確認されたブロックで、Ｆ－13グリッド中央南側に位置していた。確認されたブロックの大きさは長軸約２ｍ、短軸約1.5mを測り、検出されたブロックの中では小規模のものである。検出された石器類は４点で、これらはブロックの外縁部に転々と分布している状態で出土しており、ブロックの中央部は分布の空白域となっていた。４点の器種は



第34図　第Ⅱ文化層第21ブロック石器分布図

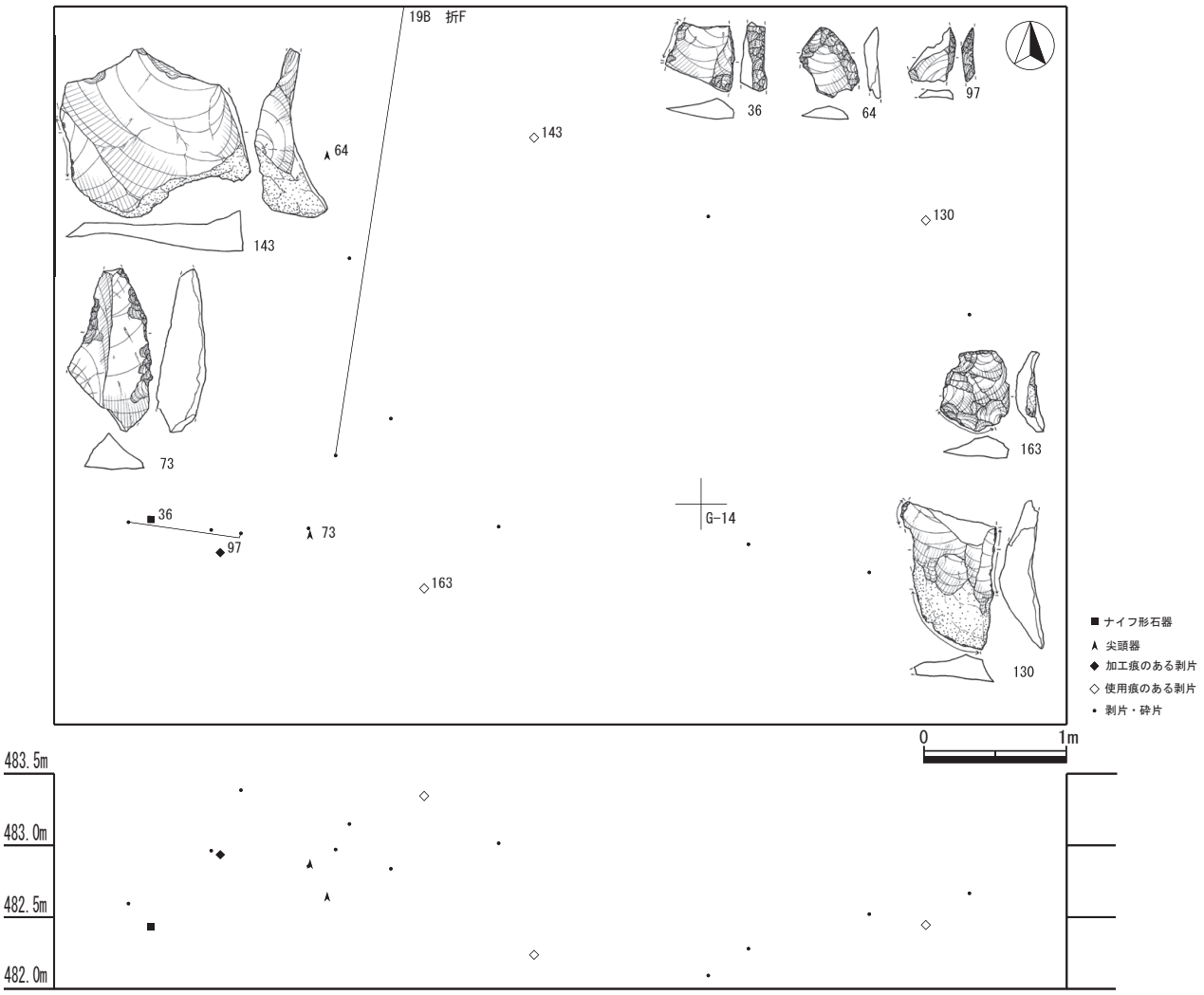
尖頭器１点と剥片・砕片３点であったが、それぞれか違う個体別資料に分類されたことから、これらが本ブロック内で製作されたものではなく、いずれかの場所からそれぞれの形状で持ち込まれたものであることが推定できるものと思われる。４個体別資料はともに黒曜石であり、本ブロックでも黒曜石の優位は動かない状態である。石器類の検出された層位は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層で、他のブロックと共通する層位から出土していることが理解される。これらは標高約482.71ｍから標高約483.10ｍにかけて検出され、約39cmのレベル差のある垂直分布を形成していたが、垂直分布の幅は他のブロックに比べると狭い方であった。

第22ブロック（第35図）

第22ブロックは、Ｆ－13～14、Ｇ－13～14グリッドの中央部で確認されたブロックで、第23ブロックの西側約1.5m、第16ブロックの南約３ｍに位置し、北側では第19ブロックとブロック範囲を接するように近接する状態で分布していた。ブロックの大きさは長軸約6.5m、短軸約５ｍで、検出されたブロックの中では比較的大形の分布範囲を形成していたが、出土した石器類は西側でやや分布が密になる傾向はあるものの、このブロック範囲の中で散漫な分布が認められるだけで、集中的に出土するような箇所は存在していない。出土した石器類は、ナイフ形石器１点、尖頭器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片３点、剥片・砕片12点の合計19点で、これらの全ては原材として黒曜石が利用され、11個体の個体別資料として分類された。石器類が確認された層位は第６層のＹＬＵ層から第10層のＹＬＬ層で検出され、それらは標高約482.09ｍから標高約483.39ｍにかけて包含されており、約1.30ｍのレベル差のある垂直分布を形成していた。石器類はこの垂直分布の中でも散漫な分布を見せており、出土レベルが集中するような傾向は認められなかった。

第23ブロック（第36図）

第23ブロックはＧ－13グリッドの南側で確認されたブロックで、第15ブロックの南約6.5m、第22ブロッ

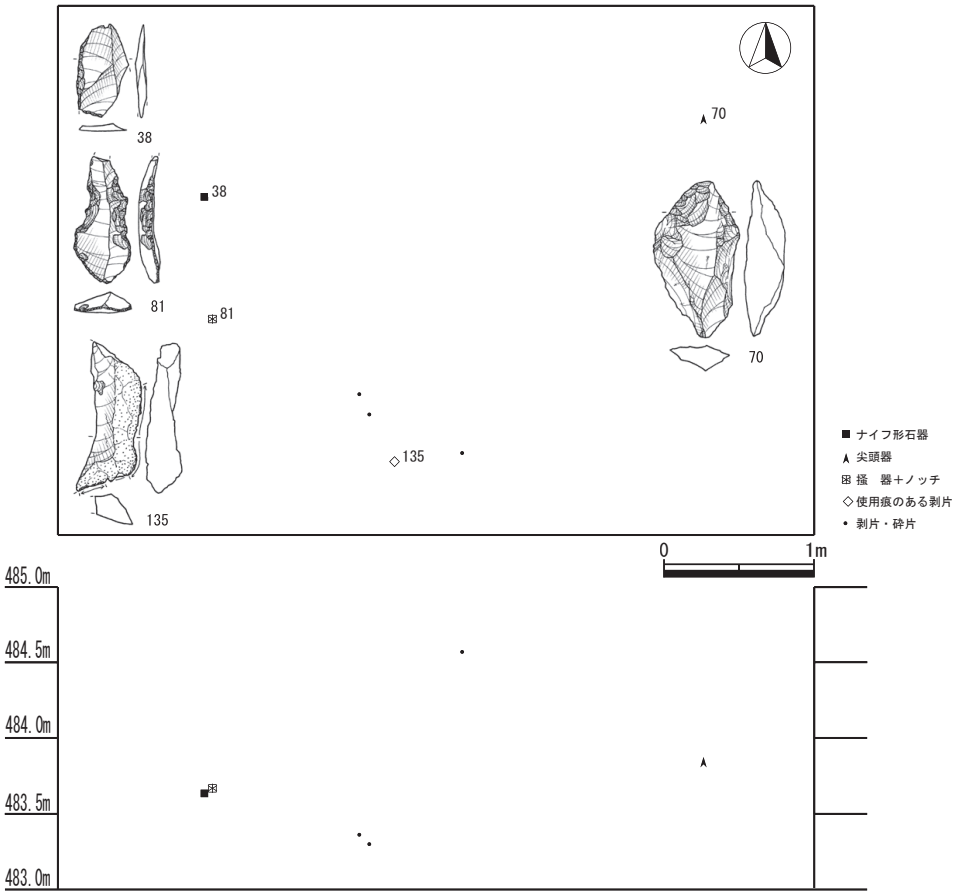


第35図　第Ⅱ文化層第22ブロック石器分布図

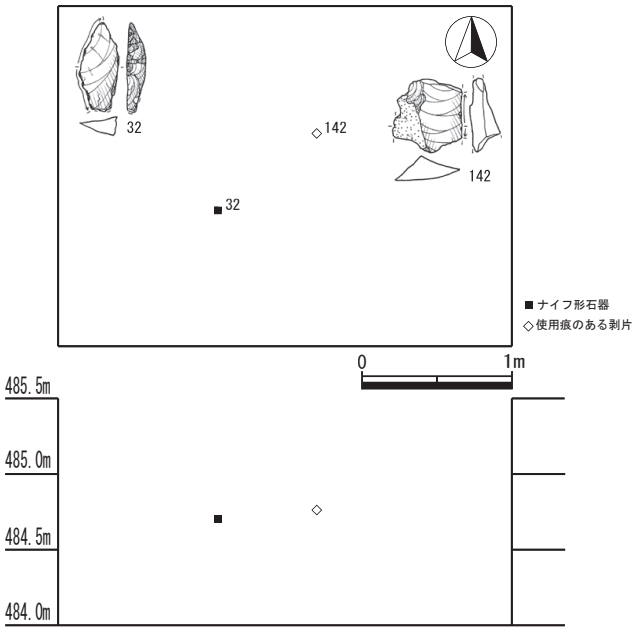
クの東約1.5m、第25ブロックの北側約1.5mの距離を隔てて分布していたものである。ブロックは長軸約4.5m、短軸2.3mの規模で、中程度の大きさを示していたが、検出された石器類はブロック西側に偏って分布しており、東側では１点が確認されただけであった。しかも石器類は、ブロックの外縁部に沿って点在するような状態であり、ブロックの中心部は分布の認められない空白部となっていた。確認された器種は、ナイフ形石器１点、尖頭器１点、掻器＋ノッチ１点、使用痕のある剥片１点、剥片・砕片３点の合計７点で、いずれも黒曜石製の石器類であった。これらは５個体の個体別資料に分類されており、ブロック内では単数で構成されている個体（４個体）が多かったが、１個体だけ複数の資料数を持つ個体が存在しており、この個体に対して何等かの作業がブロック内で行われた可能性があることが推定されよう。石器類が出土した層位は第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、標高約483.30mから標高約484.57mにかけて包含されており、約1.27mのレベル差のある垂直分布が形成されていた。しかし大部分の石器類は、第６層のＹＬＵ層下部より出土する傾向があり、標高483.50m前後のレベルで検出されている。

第24ブロック（第37図）

第24ブロックはＧ－13グリッドの中央東側で確認されたブロックで、第14ブロックの南約６ｍ、第23ブロックの南西約2.6mの位置に分布していた。石器類の出土量が２点と少なく、約80cmの距離を隔てて確認されたナイフ形石器１点と使用痕のある剥片１点で構成されており、ブロックの規模としては径１ｍ前後が想



第36図　第Ⅱ文化層第23ブロック石器分布図



第37図　第Ⅱ文化層第24ブロック石器分布図

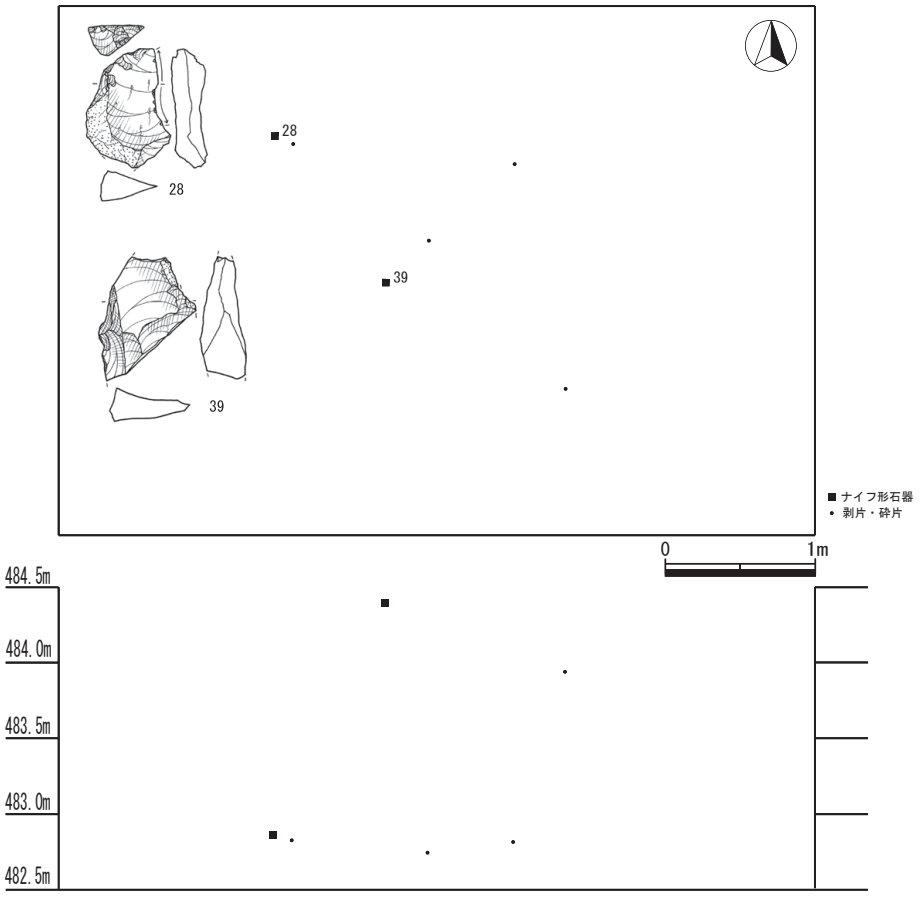
定されるものと思われる。２点とも黒曜石製で別個体に分類されたことから、本ブロックの石器類は２個体の個体別資料によって構成されていたことを意味している。出土した層位は２点とも第６層のＹＬＵ層で、標高も約484.71ｍと約484.77ｍと近接しており、垂直分布には約６cmの高低差しかない状態であったことから、ほぼ同一面で検出されていることが想定されるものと思われる。

第25ブロック（第38図）

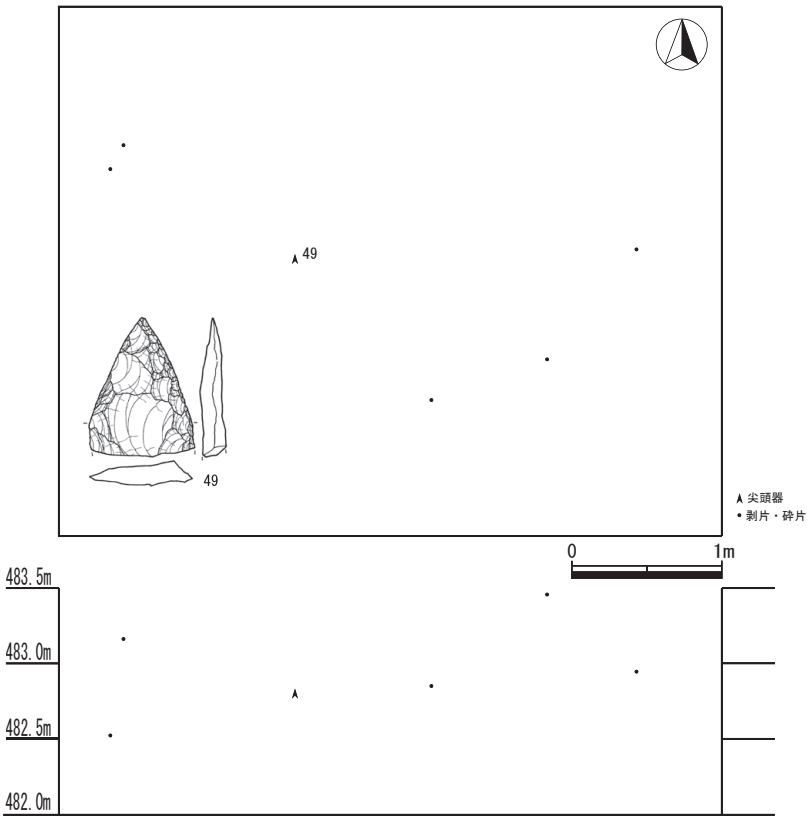
本ブロックは第23ブロックの南側約1.5m、第26ブロックの北東約1.8mの位置で確認されたブロックで、Ｇ－14グリッドの北側に分布していた。ブロックの大きさは長軸約2.7m、短軸約1.7mを測り、検出されたブロックの中では比較的小規模な例であった。石器類はこのブロック範囲の中で散漫な分布を見せており、石器類が集中的に出土するような箇所は認められなかった。確認された石器器種は、ナイフ形石器２点と剥片・砕片４点の合計６点で、これらは６点とも黒曜石で製作されていたが同一個体として分類されたものは少なく、５個体の個体別資料として把握されている。石器類の出土した層位は、第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層までで、標高約482.75mから標高約484.40mにかけて包含されており、約1.65mのレベル差のある垂直分布が形成されていた。しかしこの内の４点は標高482.80m前後で集中して検出されており、出土レベルが偏る傾向が認められている。

第26ブロック（第39図）

第26ブロックは、第25ブロックの南西約 1.8m、第28ブロックの北西約 1.4m、第27ブロックの東約２ｍの位置に分布していたブロックで、Ｆ－14とＧ－14グリッドにまたがった状態で確認された。ブロックの規模は長軸約3.7m、短軸約２ｍの大きさで、本文化層を構成しているブロックの中では小規模の部類に含ま



第38図　第Ⅱ文化層第25ブロック石器分布図

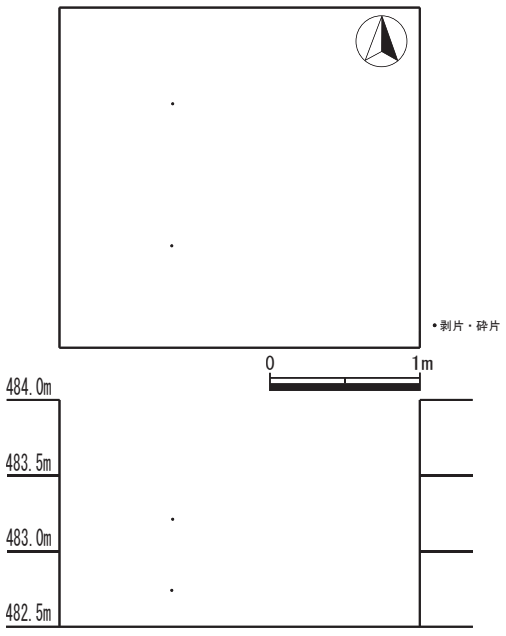


第39図　第Ⅱ文化層第26ブロック石器分布図

れるものである。石器類はブロック範囲の外縁部に点在しているものが多く、ブロックの中央部には１点が分布していただけであった。出土した石器類は尖頭器１点、剥片・砕片５点の合計６点で、この内の尖頭器がガラス質黒色安山岩であったが、それ以外は黒曜石で製作されていた。個体別資料は５個体に分類され、その内訳は黒曜石が４個体、ガラス質黒色安山岩が１個体であった。これら石器類は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけて出土し、標高約482.53mから標高約483.46mまでで検出されており、約93cmの高低差のある垂直分布が生じていた。石器類はこのレベル幅の中で散漫に分布しており、出土レベルが集中するような状態は認められなかった。

第27ブロック（第40図）

本ブロックは、第26ブロックの西約２m、第29ブロックの北約3.5mの位置で確認されたブロックで、Ｆ－14グリッド中央北よりに分布していた。ブロックを構成する石器は、約１mの距離を隔てて確認された２点だけであり、ブロックの規模は径１m前後の大きさが想定できるにすぎない。検出された石器類は剥片・砕片の２点で、定型的な石器器種は出土していない。これらの石器類は黒曜石とガラス質黒色安山岩各１個体の合計２個体であり、同一の個体別資料が確認されていないことから、本ブロック内で生産されたものではなく、いずれかの場所で剥離された後、本ブロックに持ち込まれたものである

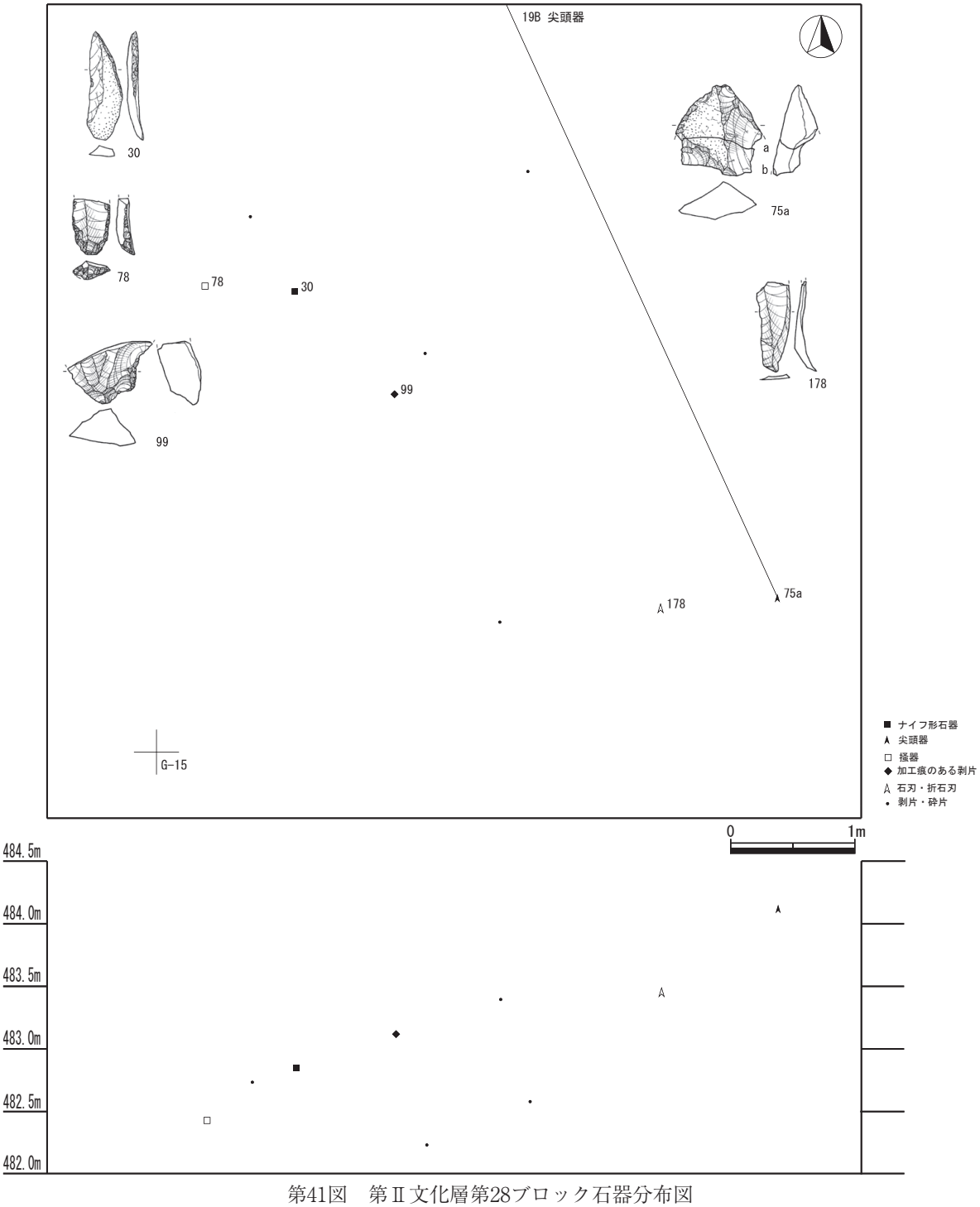


第40図　第Ⅱ文化層第27ブロック石器分布図

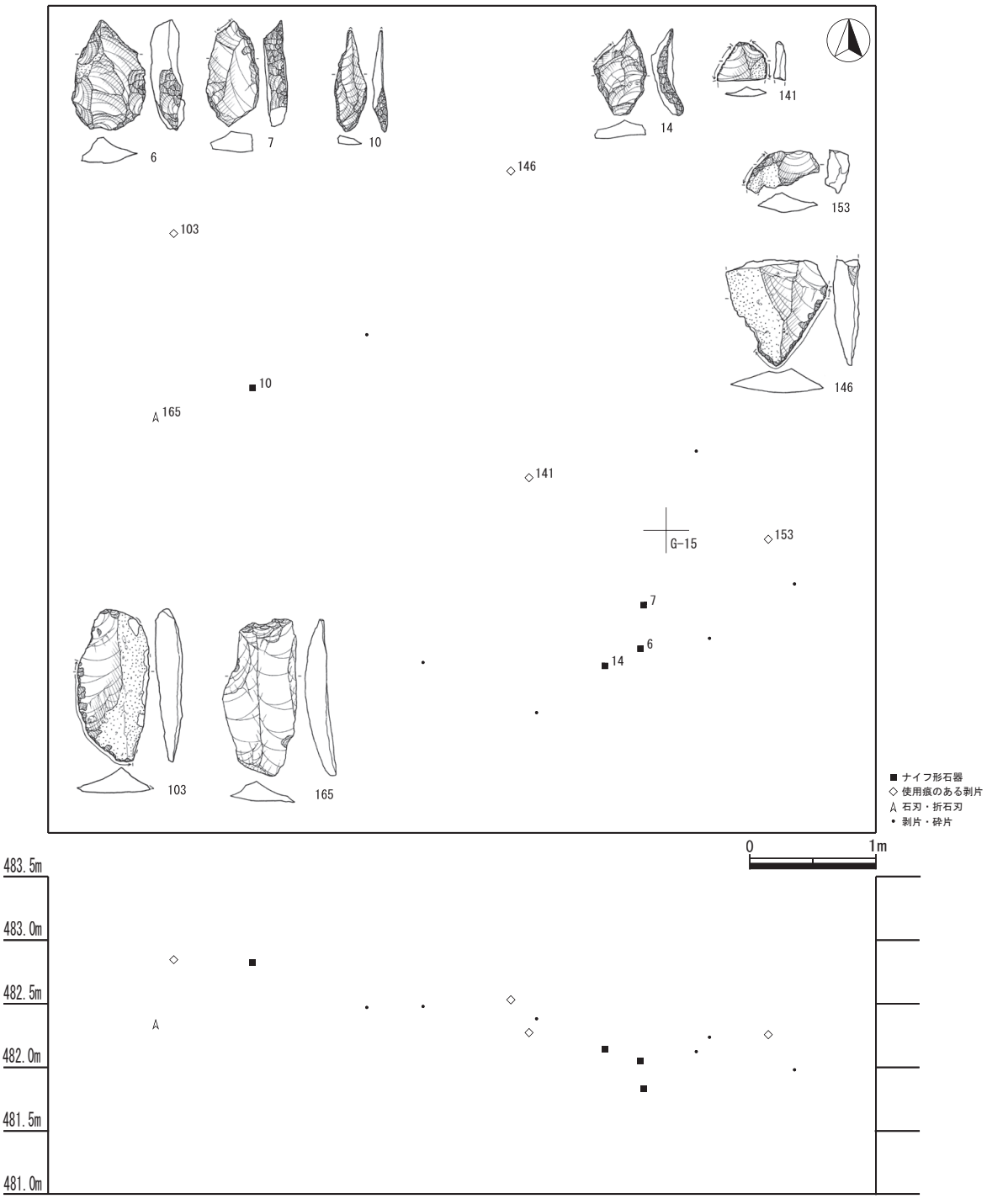
ことが想定されよう。出土層位は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、標高約482.74mと標高約483.21mから検出されており、高低差約47cmを測る垂直分布幅が形成されていた。

第28ブロック（第41図）

Ｇ－14グリッドの南西側に分布していたブロックで、第25ブロックの南約２m、第30ブロックの西約３mに位置し、南西部で第29ブロックと分布範囲を接するような状態で確認されている。ブロックの大きさは、長軸約5.5m、短軸約3.5mを測り、本文化層の中では中程度の規模のものであったが、石器類の分布は北西側に幾分偏る傾向が認められるものの、全体的には散漫な状態であり、南東部に至っては外縁部に数点が点



第41図　第Ⅱ文化層第28ブロック石器分布図



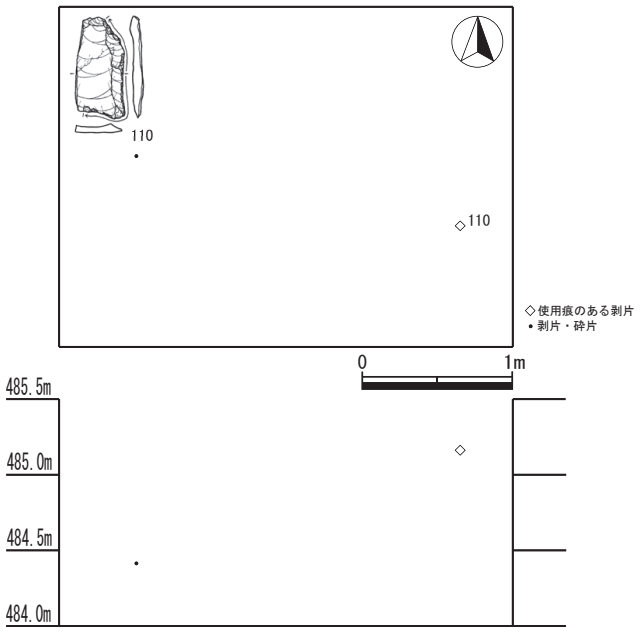
第42図　第Ⅱ文化層第29ブロック石器分布図

在するだけであった。出土した石器類はナイフ形石器１点、尖頭器１点、掻器１点、加工痕のある剥片１点、石刃１点、剥片・砕片４点の合計９点で、剥片類より器種の出土量の方が上回っており、特徴的な組成を示していた。これらの石器類は８個体に分類され、この内の２個体が安山岩（トロトロ石）であったが、残りの６個体は全て黒曜石製であった。そして、黒曜石の個体の中には複数の資料数を持つものがあり、この個体にはブロック内や遺跡内で、剥片剥離や加工作業の対象になった可能性があることが推定できよう。石器類が出土した層位は、第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、それは標高約482.23mから標高約484.10mにかけてのレベルであり、約1.87mに及ぶ垂直分布が形成されていた。石器類はこの垂直分

布幅の中で散漫な分布を示しており、出土レベルが集中するような傾向は認められなかった。

第29ブロック（第42図）

第29ブロックは、Ｆ－14～15、Ｇ－14～15グリッドの４グリッドにまたがって分布していたブロックで、第26ブロックの南約３ｍに位置し、北東側では第28ブロックとブロック範囲が隣接した状態で分布していた。ブロックの規模は比較的大きい方で、長軸約６ｍ、短軸約４ｍを測る。石器類はこのブロック範囲の中に散漫な分布を見せているが、北側に比べると南側の方で多くの石器類が出土する状況が認められている。検出された石器類は、ナイフ形石器４点、使用痕のある剥片４点、石刃１点、剥片・砕片６点の合計15点で、比較的多くのナイフ形石器を保有しているブロックである。ブロックを構成していた15点の内、ホルンフェルス製のものが１点存在したが、それ以外の14点は黒曜石製で、これらは11種類の個体別資料として認識されている。また黒曜石の中には複数の資料数を持つ個体が複数存在しており、これらの個体に対しては剥片剥離や加工作業の対象になった可能性があるものと思われる。出土した層位は、第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層にかけてであったが、殆どのものが第８層のＹＬＭ層から検出されており、比較的一定した層位から出土していることが窺えるものと思われる。石器類の中で標高の低かったのは約481.84m、高かったものは約482.85mで、約1.01mの高低差のある垂直分布が形成されていたが、石器類は約60cm程の幅で斜めに傾いた状態の垂直分布も見せており、当時の地形に沿った傾きなのかも知れない。



第43図　第Ⅱ文化層第30ブロック石器分布図

第30ブロック（第43図）

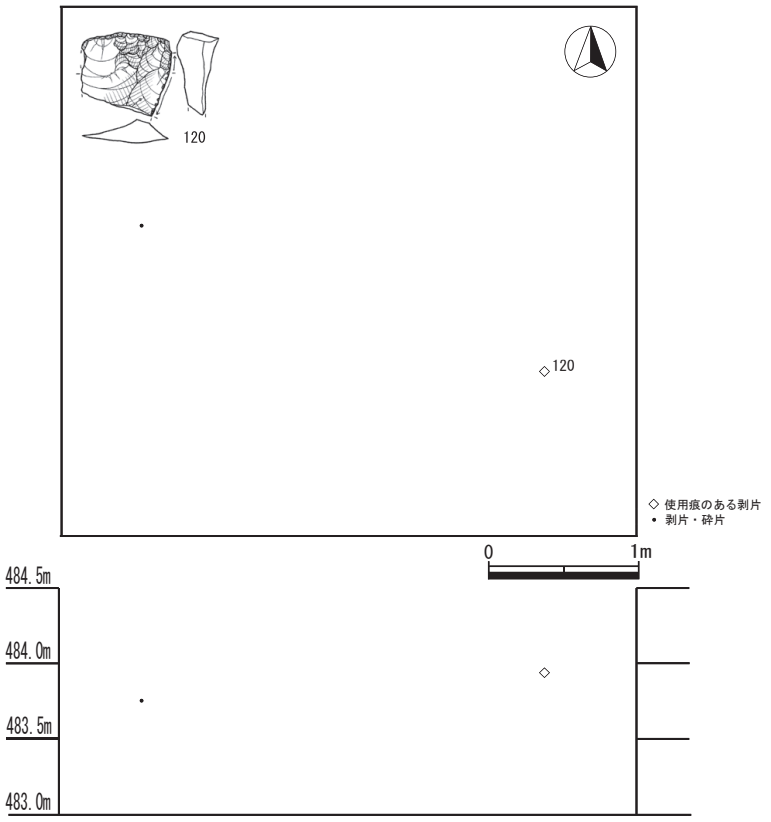
Ｇ－14、Ｈ－14グリッドにまたがって確認されたブロックで、第28ブロックの東約３ｍ、第31ブロックの北約５ｍの位置で分布していた。確認された石器類は２点で、それらは約 2.3mの距離を置いて分布しており、ブロックは径2.5mほどの大きさが想定されるものと思われる。出土した器種は使用痕のある剥片１点と剥片・砕片１点の合計２点で、定型的な器種は検出されなかった。石器類の石材は黒曜石と瑪瑙が各１点ずつで、別の個体として認識されたことから、本ブロックを構成している石器類は２個体として分類された。石器類が検出された層位は、第５層のローム漸移層から第６層のＹＬＵ層までで、それは標高約484.41mと標高約485.16mで出土し、約75cmのレベル差を持っていた。

第31ブロック（第44図）

第31ブロックは調査区の最も南で確認されたブロックで、第28ブロックの南東約4.5m、第30ブロックの南約５ｍの距離を置いて分布し、グリッドではＧ－15グリッド東側に位置していた。検出された石器類は２点と少なく、それらは約３ｍの距離を隔てて分布が確認されており、ブロックとしては径３ｍほどの大きさであったものと思われる。出土した石器類は使用痕のある剥片１点と剥片・砕片１点の合計２点で、定型的な器種は検出されていない。これらの石材は黒曜石で、同一の個体別資料に分類されたことから、本ブロックを構成していた個体は１個体であることが理解される。２点とも第６層のＹＬＵ層から出土し、それぞれの

標高は約483.76mと標高約483.94mで､約18cmのレベル差のある垂直分布が形成されていた。

以上の31ブロックを構成していた石器類以外に、ブロック外として認識された石器が５点存在している。それらの出土位置、出土層位、器種、出土レベル等を列挙すると、ブロック外１として認識されたのは加工痕のある剥片で、Ｅ－11グリッド南東部のＹＬＭ層から検出され、標高は約483.72mであった。ブロック外２は剥片で、Ｇ－13グリッド中央西側のＹＬＵ層から出土し、標高は約483.60mを測る。ブロック外３も剥片で、Ｈ－14グリッド北西部のＹＬＵ層から検出されたもので、約485.02mの標高で確認された。ブロック外４は使用痕のある剥片で、Ｇ－14グリッド北東部のＹＬＭ層から検出されており、標高は約483.79mを測る。ブロック外５はナイフ形石器で、Ｈ－15グリッド中央西よりのＹＬＵ層から出土した。検出された標高は約484.64mであった。そして、このブロック外の５点は全て黒曜石であり、ブロックの構成石材として黒曜石が多用されている状態と矛盾しない。



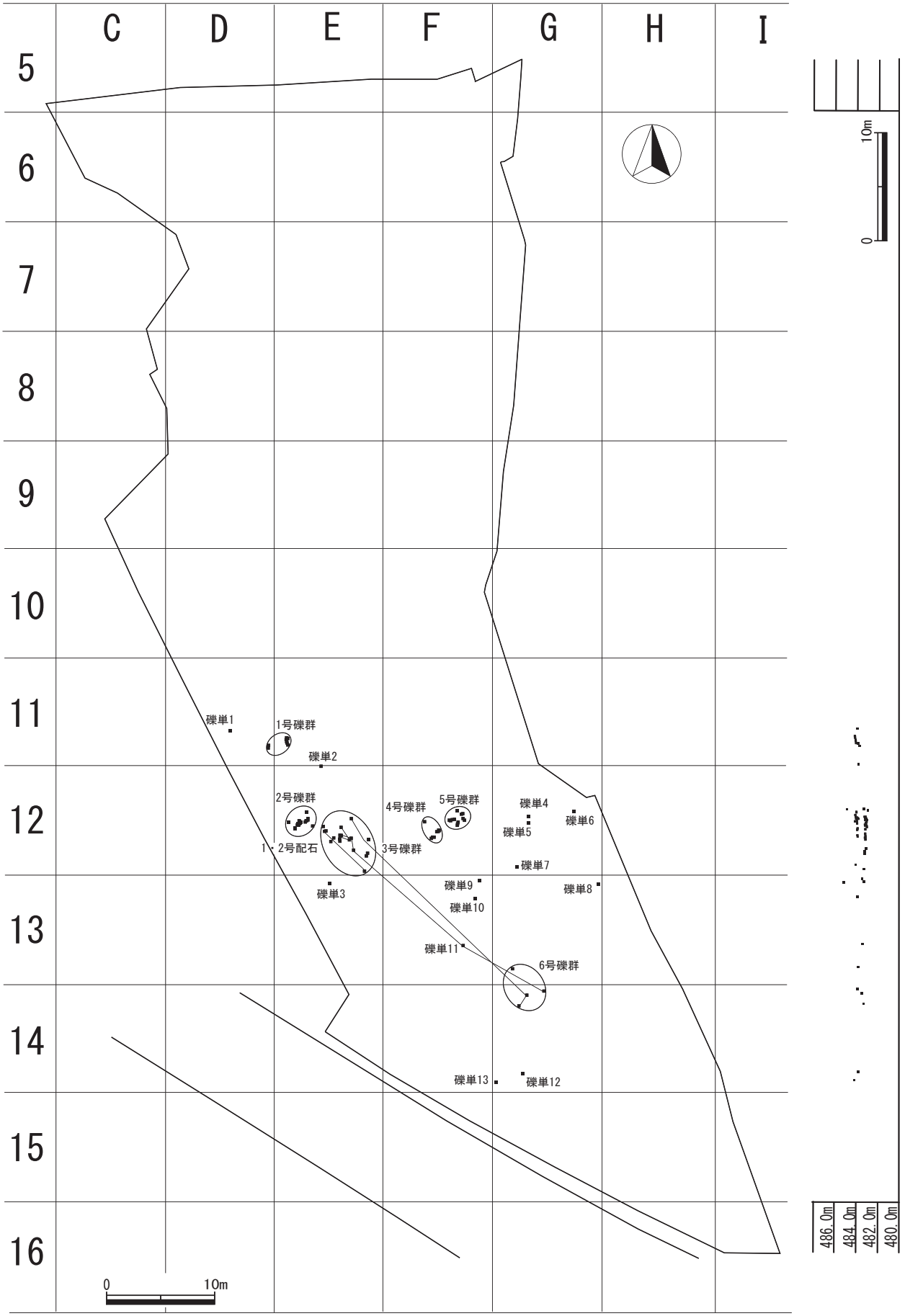
第44図　第Ⅱ文化層第31ブロック石器分布図

２）礫群と配石

旧石器時代の遺跡からは、石器製作に利用された多くの石材の他に、粒子の粗い石や石質の悪い石で石器製作に利用するのには不向きな石が多量に出土する。しかもこれらは焼成を受け、表面が赤く変質したり割れたりしているものが多く認められており、石材の中には石器製作以外に何らかに利用された石が存在していることが判断されている。そして、これらも石器ブロックと同様に複数以上の資料が一定した広さに分布する傾向にあり、この様な分布範囲を石器ブロックと区別して礫群として捉えている。本文化層でも散漫な分布ではあるものの、６箇所を礫群として判断することができた。そして、このような礫素材のものの中では、900g以上の重さのあるものを所謂「配石」として区別し、分離して記述するのが一般的である。しかしながら、本遺跡で抽出された配石は、全て（第Ⅱ、第Ⅲ文化層を含めて）礫群の範囲の中に分布が認められており、分布状態に何等区別するような事象は認められないのが現状であった。したがって、配石は礫群とは不即不離の関係にあるものとして理解し、個別に図示することなく、礫群の図の中で図化し、記述していくことにした。なお、本文化層で確認された礫はそれ程多くなく、礫群構成礫が81点、配石が２点の合計83点が確認されたにすぎなかった（第45図）。

１号礫群（第46図）

Ｄ－11とＥ－11グリッドの南側にまたがって分布していた礫群で、長軸約２ｍ、短軸約 0.6mの範囲に９



第45図　第Ⅱ文化層の礫群・配石と単独礫の分布

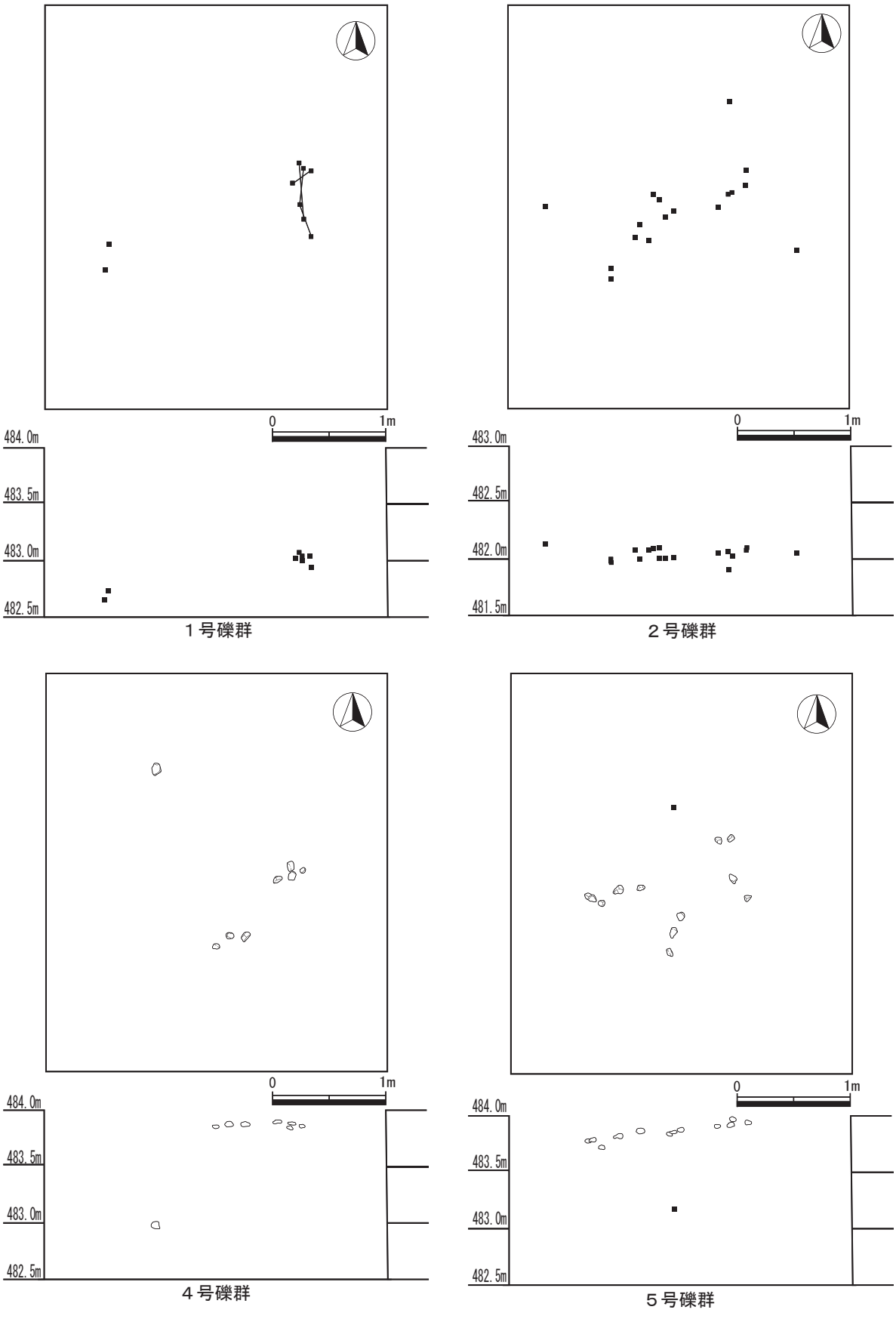
点の礫で形成されていたものである。礫は東端に集中して分布し、それ以外では西端に２点が点在する状態で、分布範囲の中央部は分布の空白部となっている。この分布範囲の西側は、石器ブロックである第５ブロックと重複しており、両者の関係が深いものであることが推察される状態にある。９点の礫は全て第８層のＹＬＭ層から出土しており、標高では約482.68mから約483.09mにかけて検出され、約41cmのレベル差のある垂直分布が形成されていた。礫は全て焼成を受け赤化し、破損礫となったもので、完形礫は認められなかった。礫としての遺存率は、２割から３割程度が残っているものが１点で、それ以外の８点は１割程度の大きさしか残っていないものであった。個々の礫の重量は、最も軽いものが25ｇで、一番重かったものは369g、９点を合計すると1,439gで、これらの平均値は約160gであった。なお、これらの中で７点に接合関係が認められており、礫個体としては最大で５個体の礫が存在していたことになる。

２号礫群（第46図）

１号礫群の南東約６ｍに位置し、Ｅ－12グリッド中央西側に分布していた礫群である。礫群の大きさは長軸約2.3m、短軸約２ｍで、礫は分布範囲の中央部に集まっている箇所が２箇所存在し、残りの数点がその周りに点在するような分布状態を呈していた。そして､本礫群も石器ブロックとの重複が認められているが、隣接する第６と第７ブロックにまたがって分布が確認されており、１号礫群が単独のブロックと共伴している状態とは相違するあり方であった。これらの礫は全て第８層のＹＬＭ層から確認され、標高約481.92mから約482.14mにかけて検出されており、約22cmの高低差のある垂直分布が形成されていたが、このようなレベル差は南西傾斜の地形によるものと考えることができることから、傾斜地のほぼ同一面上に分布していた状況が窺えるものと思われる。礫群の構成礫は18点で、これらは全て焼成を受けて赤化し、破損したものが多く認められている。その内容は、完形礫のものが４点、７割から９割程度が残っているものが２点、４割から６割の半欠品が５点、２から３割程の破片が５点、１割程の断片が２点で、礫の破損率は77.8％を示していた。個々の礫の重量は、最も軽かったものが16ｇで、一番重かったものは312gを計り、合計すると3,081gであった。そして礫の平均値は約171gを示しており、１号礫群の平均値と似通った数値であることから、礫群の最終的な重さはこの様な数値が普遍的であったのかも知れない。

３号礫群（第47図）

２号礫群の南東部で分布範囲を接するように位置する礫群で、Ｅ－12グリッドの南東部に分布が認められたものである。出土した礫は18点であるが、その内の２点は配石として分類されたものであり、礫群の構成礫は16点であった。これらは長軸約5.2m、短軸約３ｍの分布範囲を形成し、礫は中央部分に幾分集まる傾向は認められるものの、全体的には点在するような散漫な分布が展開されていたにすぎず、礫が集中するような箇所は存在しなかった。ただ、この礫の幾分集まっている箇所は、重複している石器ブロックの第７ブロックの石器類の集中箇所と同一部分であり、両者の密接な関係が推察される状況にあった。これらの礫も全て第８層のＹＬＭ層から検出されており、標高は約482.08mから約482.28mにかけて包含され、約20cmの高低差のある垂直分布が形成されていた。しかし、垂直分布にはライン状に並んでいる様子が認められることから、本礫群も傾斜地の同一面上に分布していたことが推察されるものである。礫の多くは破損礫で、完形礫は１点が確認されたにすぎなかった。これ以外では７割から９割程度が残っているものが２点、４割から６割の半欠品が１点、２から３割程の破片が７点、１割程の断片が５点で、本礫群の礫の破損率は93.8％を示していた。礫の重量は、最も軽いものが35ｇで、重いものは712gであった。16点の合計は3,477gで、これらの平均は約217gであった。これらも殆どが焼成を受けて赤化していたが、完形礫の１点は著しい赤化が認められず、焼成を受けているかは明確には判断できなかった。



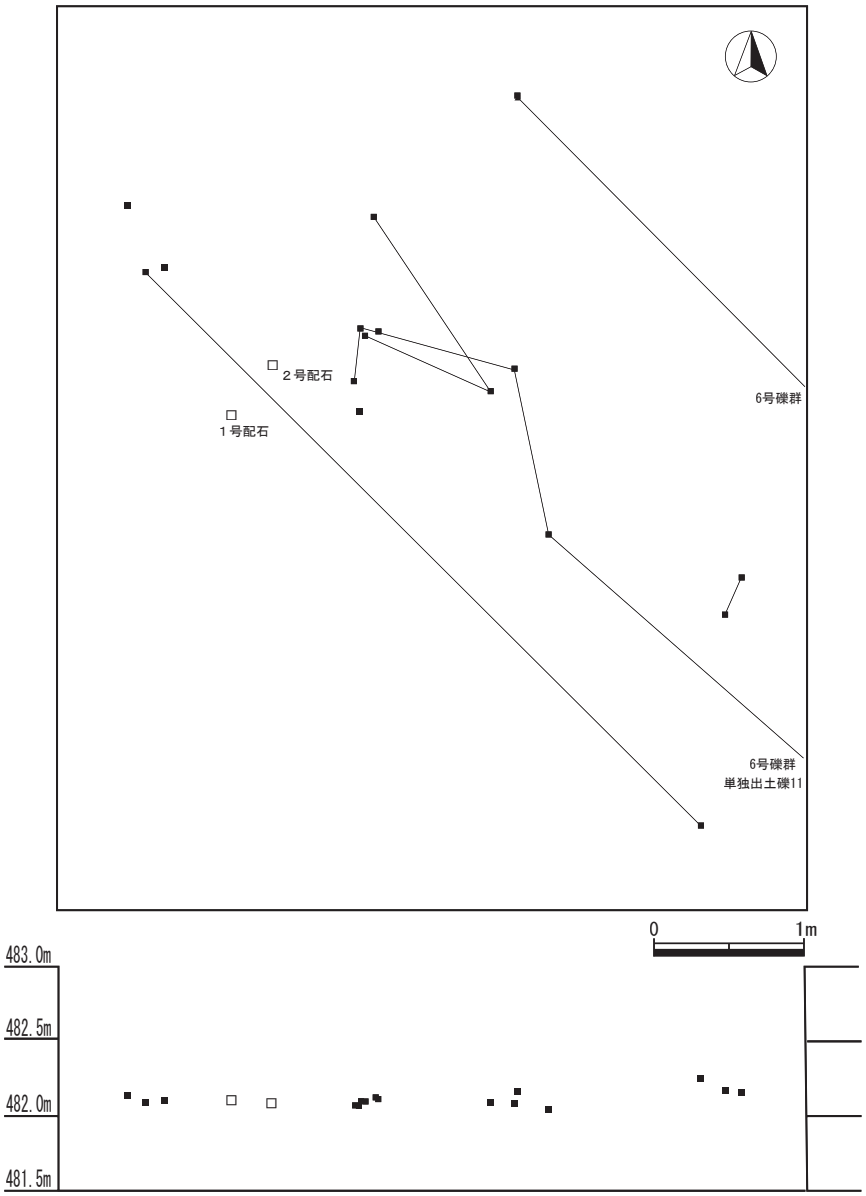
第46図　第Ⅱ文化層１・２・４・５号礫群分布図

１号配石（第47図）

３号礫群の中央、南西端で出土した配石で、949gの礫である。第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約482.13mから検出されており、出土層位や出土レベルは共伴する３号礫群と大きな相違は認められず、３号礫群の垂直分布幅の中に含まれている状況であった。礫は完形礫で赤化は認められなかったので、焼成を受けているかどうかの判断はできなかった。

２号配石（第47図）

１号配石の北東約45cmで確認された配石で、1,850gの礫である。これも第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約483.12mから検出されており、共伴する３号礫群とは出土層位や出土レベルに違いは認められなかった。礫は７割程度の破損礫で、火跳ねによる剥落部分が存在しており、著しい赤化は認められなかったものの、焼成を受けている可能性の高いものであった。したがって、配石として分類される重さのものでも礫群と同様に焼成を受け、利用されているものがあることが予測されるものと思われる。



第47図　第Ⅱ文化層３号礫群・１・２号配石分布図

４号礫群（第46図）

Ｆ－12グリッドの中央南寄りで確認された礫群で、３号礫群の東約５ｍに分布していた。礫群の分布範囲は長軸約1.8m、短軸約1.2mの大きさで、礫は南側に集まる傾向にあり、北側には１点が分布していたにすぎなかった。そして、本礫群は石器ブロックの第10と第12ブロックにまたがって分布しており、ブロックとの密接な関係か推察される状況にある。これらの出土層位は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてであったが、１点を除いて殆どのものが第６層のＹＬＵ層から出土しており、本文化層の中では最も上層から検出された礫群であった。これらの標高は出土レベルの不自然な１点を除くと、約483.83mから約483.88mにかけて出土しており、ほぼ同一面上に分布していたことが窺える状態である。出土した礫８点の内１点が４割程度の破損礫であったが、他の７点は完形礫であり、礫の破損率は12.5％を示していた。破損礫の占める割合が大きい礫群が多い中では稀な例で、礫に破損が生じる前の状態を示しているのかも知れない。これら礫の重さは一番軽いものは83ｇ、最も重いものが670gで、８点を合計すると2,075gであった。これらの平均値は約259gで、完形礫の占める割合が高いためか、必然的に１号～３号礫群に比べると平均値は大きめの値であった。８点とも焼成を受けているようで、赤化が認められている。

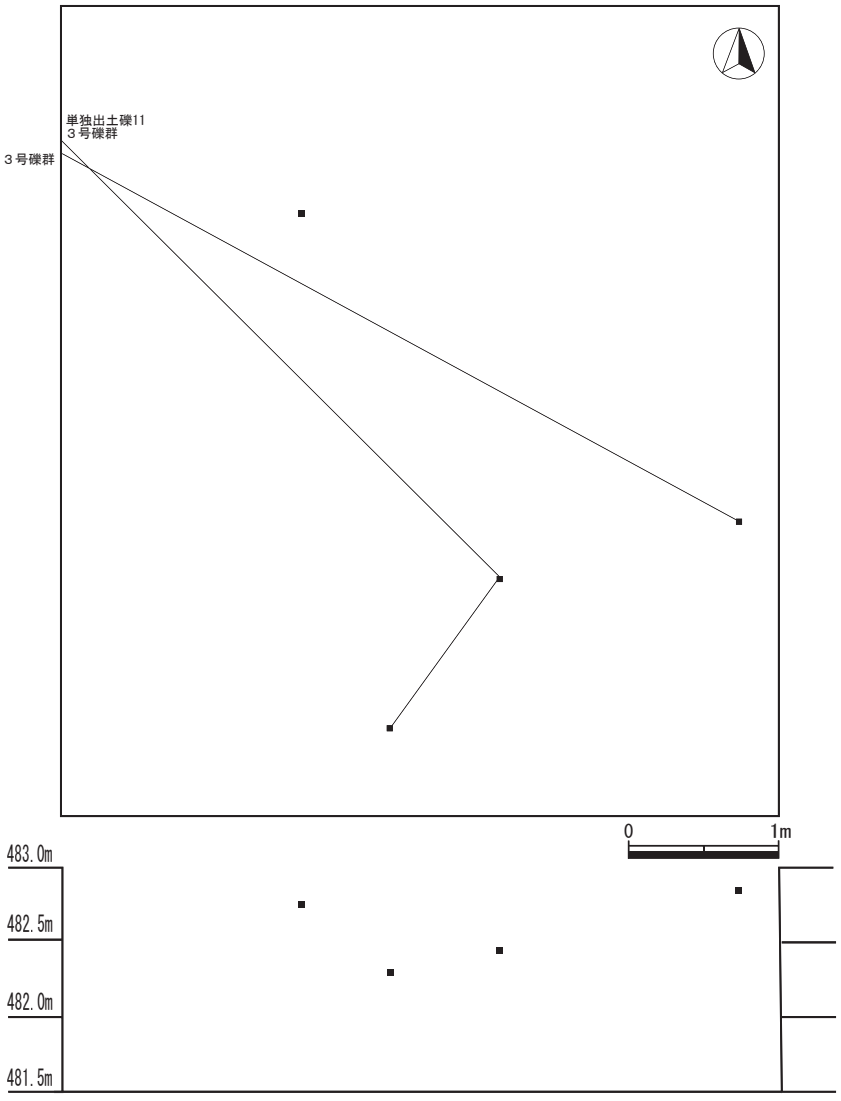
５号礫群（第46図）

４号礫群の北東約２ｍで近接して分布していた礫群で、Ｆ－12グリッドの中央東寄りに位置していた。礫群は長軸約1.5m、短軸約1.4mほどの大きさで、比較的狭い範囲にまとまって分布している状態ではあったが、礫が集中しているような箇所は認められなかった。そして、本礫群は石器ブロックの第12ブロックの中央に分布が確認されており、両者は共伴関係にあることが窺える状態であった。出土した礫数は13点で、１点が第８層のＹＬＭ層から出土した他は、全て第６層のＹＬＵ層から検出されており、４号礫群と同様に本文化層の中では最も上層から確認された礫群であった。本礫群にも不自然な出土レベルのものが１点あるが、これを除くと標高約483.75mから約484.01mから出土しており、約26cmの垂直分布幅に収まる状態であった。本礫群も８割程度の破損礫が２点確認されている他は完形礫（11点）で、礫の破損率の低い（約15.4％）礫群であった。礫の中で最も軽いものは72ｇで、一番重かったものは850gであった。13点を合計すると3,428gで、これらの平均は約264gであり、本礫群も完形礫の占める割合が高いためか、同じような構成の４号礫群の平均値と類似した数値が示されており、礫群の利用しやすい本来の重さを表しているのかも知れない。これらの全てに赤化が認められ、焼成を受けている可能性の高いものである。そして、この内の７点には煤の付着が顕著に認められている。

６号礫群（第48図）

Ｇ－13～14グリッドにかけて分布していた礫群で、３号礫群の南東約16mに位置している。出土した礫は長軸約3.5m、短軸約2.7mの範囲の中に点在するように分布しており、礫がまとまって確認されるような場所は認められなかった。本礫群も、石器ブロックである第22と第25ブロックと分布範囲が重複する状態で確認されており、礫群がブロックに伴い、付随するようなあり方で存在していることが窺えよう。出土した礫は４点で、これらは第10層のＹＬＬ層から殆どのものが出土しているが、１点だけスコリア層のＹＬ－Ｓ１層からも確認されており、出土層位には幅が存在していることが理解される。標高では約482.31mから約482.84mにかけて検出されており、約53cmのレベル差のある垂直分布が形成されていた。確認された礫は、完形礫が１点、２割程度の破片が３点で、この内の破片の３点は焼成を受けて赤化していたが、完形礫の１点は赤化が著しくなく、焼成を受けているかは明確には判断できないものであった。この中で一番軽い礫は134gで、最も重いものは722gであった。４点の合計は1,170gで、平均すると約293gであり、本礫群が第Ⅱ文化層の中で最も高い平均値を示していた。なお、本礫群と３号礫群には数点の接合関係が認められている。

以上のような礫群として捉えた６箇所以外から、単独の状態で出土した礫が13点存在する。以下ではこれらの礫について列記していくが､標高については周辺に対比する資料が存在しないことから除くことにする。礫群外１はＤ－11グリッドの中央から単独で出土した１割程度の断片で、第８層のＹＬＭ層から出土し、86ｇのものであった。赤化が認められている。外２はＥ－11グリッド中央南端で確認された３割程度の破損礫で、ＹＬＭ層から確認され、重さは523gを計り、赤化していた。外３はＥ－11グリッド中央北側から出土した完形礫で、焼成が加えられているようで赤化していた。ＹＬＭ層から検出され、重さは179gであった。外４はＧ－12グリッドの中央で出土した121gの完形礫で、ＹＬＵ層から検出されている。礫は赤化し、煤の付着が認められている。外５はＧ－12グリッドの中央で出土し、外４の南で隣接して分布していた761gの完形礫である。これもＹＬＵ層から検出され、赤化が認められている。外６はＧ－12グリッド中央東端で確認された395gの完形礫で、ＹＬＭ層から出土した。ただ、表面には著しい赤化が認められず、焼成を受けているかどうかは明確でないものであった。外７はＧ－12グリッド南西部より出土した143gの完形礫で、焼成を受け赤化しているものである。これもＹＬＭ層から出土している。外８はＧ－13グリッドの北東端から検出された１割程度の破損礫で、重さは98ｇを計る。出土した層位はＹＬＭ層で、赤化が認められている。外９はＦ－13グリッドの北東部から出土した２割程度が残る破損礫で、重さは293gであった。これもＹＬ



第48図　第Ⅱ文化層６号礫群分布図

M層から出土しているが、著しい赤化は認められず、焼成を受けているかどうかは明確でない。外10はＦ－13グリッドの北東部に位置し、外９の南約 1.8mで出土した582gの完形礫で、ＹＬＵ層とＹＬM層を分けるスコリア層のＹＬ－Ｓ１層から検出されたものである。赤化が認められている。外11はＦ－13グリッドの南東部から出土した152gの破損礫で、１割程度が残っている断片であった。これもＹＬM層から出土し、赤化している。外12はＧ－14グリッド南西部から出土した819gの破損礫で、３割程度が残る礫である。これはＹＬＵ層から出土し、表面には著しい赤化は認められないことから、焼成を受けているかは明確でないものであった。外13はＧ－14グリッド南西部で、外12の西約 2.5mに分布していた483gの破損礫である。礫の欠損は一部で、９割程度は残っているものである。これもＹＬＵ層から出土し、焼成を受けているようで赤化が認められている。

以上、礫群から外れた位置で、複数以下の単独に近い状態で分布していた礫の状態を見てきたが、出土層位は礫群とほぼ同じ層に包含されていたことが理解された。そして、礫としては単独で分布していたが、多くの単独礫が石器ブロックの分布範囲の中に含まれる状態で出土していることが窺えることから、この様な礫群とは離れた位置で確認された礫も殆どが石器ブロックと関連するものであることが理解されよう。ただ、どの様な経緯でこれらの礫がそれぞれの石器ブロックに残されていたのかを推定するのは不可能ではあるが、礫の多くが欠損しているにも関わらず接合するものが少ない状況からは、礫がブロック間を移動していることを推定することが可能である。この様な推定を前提とするならば、礫のブロック間の移動に伴って残されてしまった礫である可能性があり、それはこれらの単独礫が確認されているブロックには過去に礫群が存在していたことが推定できることを暗示しているのかも知れない。

（３）出土遺物

１）石　器

本遺跡の第Ⅱ文化層として認識された旧石器時代の石器群は、31箇所のブロックを構成していた1,383点とブロック外から検出された５点の合計1,388点の石器類で構成されている。しかしながら、ブロックの項でも前述したように、ブロックの中には調査範囲外にブロック範囲を延ばしている可能性のあるものがあることや、本文化層の全てのブロックを調査したとは断定できないことから、発掘調査で得られた石器類が本文化層を構成する石器群の全てを網羅している可能性は低いことを念頭に置いて記述していくことにしたい。ただ、ブロックの分布状態からは、東西方向には分布している可能性はあるものの、南北方向では分布がとぎれている可能性が高く、本文化層を構成していたブロックは40箇所以下の数量であったものと推定されることから、検出された石器類には本文化層の多くの特徴が残されていることが推定される状況にある。

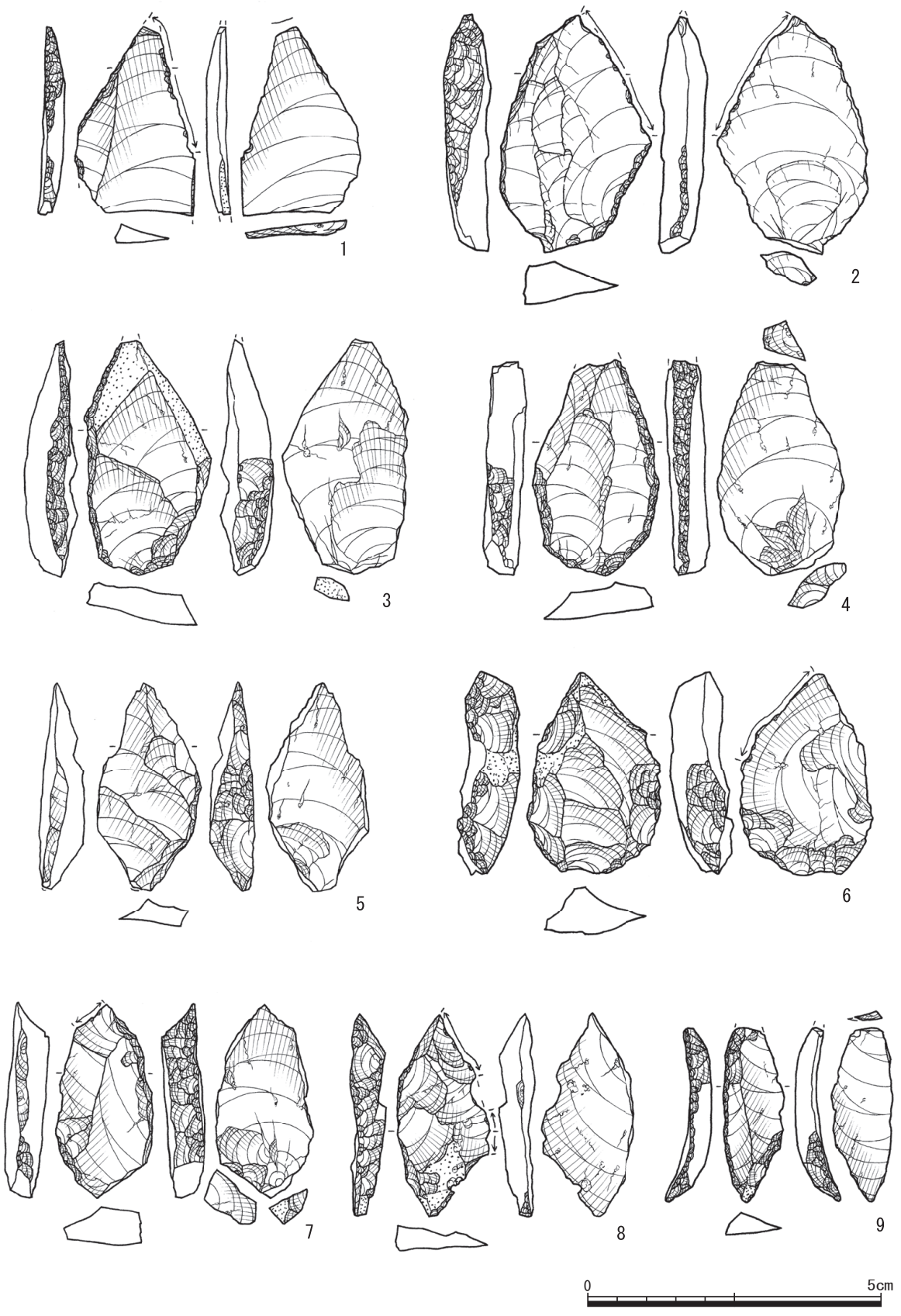
出土した1,388点の石器類の内訳は、ナイフ形石器39点、尖頭器41点、掻器３点、削器７点、彫器１点、ノッチ１点、彫器＋ノッチ１点、ピエス・エスキーユ１点、ハンマー・ストーン１点、叩石１点、加工痕のある剥片９点、使用痕のある剥片64点、石刃・折石刃18点、石核11点、剥片・砕片1,190点で、前にも触れたようにナイフ形石器に比肩する量の尖頭器を保有するナイフ形石器石器群と考えられる石器群であった。尖頭器を保有するナイフ形石器石器群はナイフ形石器石器群の終末段階に位置付けられる石器群ではあるが、当地域の多くのナイフ形石器石器群は数点程度の尖頭器が確認されるだけで、本文化層のような様相を示す石器群の出土例は極めて少ないのが現状である。したがって、当地方のナイフ形石器石器群の終末段階の様相を認識するには格好の石器群であり、前段階のナイフ形石器石器群との対比や、後続すると考えられる尖頭器石器群との関連性を含めて検討される内容を持つ石器群であることが予想されることから、以下では個々の器種や石器群の特徴を捉えていくことに努めたい。

ナイフ形石器（第49図１～第51図39）

本文化層で確認されたナイフ形石器は39点で、それほど多くの点数が出土している訳ではないが、多様な形状を呈するナイフ形石器が検出されている。これらは、第Ⅰ群：二側縁加工のもの、第Ⅱ群：一側縁加工のもの、第Ⅲ群：欠損のため形状が不明のもの、に大別され、さらに、この中で大きさや形状によって細分することが可能であった。そして、この中には他の遺跡では、あまり類例の知られていない形態のもの（第Ⅰ群ｃ類の一部、第Ⅱ群ｃ類）も存在しており、バラエティに富んだものとなっている。なお、類別が第Ⅰ群ｂ類から始まりａ類がないが、分類設定をａ類は５cm以上のものとしており、今回の調査では検出されなかったためｂ類からとなっている。したがって、本文化層ではａ類の５cm以上の二側縁加工のナイフ形石器は確認されなかったが、類別の内容を順送りに詰めなかったのは、ａ類を類別の中に残置することによって、ａ類が出土しなかったことをより明確に開示することになると考えたことによるものである。

第Ⅰ群ｂ類（第49図１～第50図11）

器体が５cm以下、３cm以上の大きさの中形品で、11点が確認された。この中には先端部を欠損するため３cm以下の大きさのもの（11）もあるが、欠損部を復元すれば３cm以上を示すと考えられるものも含んでいる。さらに、この11点の中には主要剥離面に対して直角に近い状態の剥離面や礫面が側縁部にあり、これを残して調整面として利用していると考えられるもの（１・５）が存在した。この様な例は厳密には第Ⅱ群や未製品に含まれるものかも知れないが、刃部に使用痕が観察されたり、先端部が欠損するなど、ナイフ形石器として完成され使用された可能性が高いことから完成品として理解したためで、このような剥離面や礫



第49図　第Ⅱ文化層出土石器（１）

面を調整面に代用したものと考えて分類したものである。

ｂ類の中では器体が細身の柳葉形を呈し、鋭い先端部が形成されているものは比較的少なく（９～10）、殆どのものは幅広で寸詰まりの器体で角度の大きい先端部が作製されている（１～８・11）のが特徴的である。多くのものが素材の一方の側縁に調整を加えて先端部を作製し、もう一方の側縁の下半にも調整を加えて基部が形成されているが、中には先端部として素材末端の鋭い形状をそのまま利用し、調整による鋭い先端部を製作することなく器体が整えられているもの（５・11）があり、鋭い先端部が形成されているものが少ない状態と連動する状況であることが窺える。先端部を形成している側縁の全縁に調整を施しているもの（３～４・９～10）は希で、素材の側縁の一部を器体中央部に残しているもの（１・６）や、基部の両側縁に素材の縁辺が残されているもの（２～３・８）、基端に素材打面が残されているもの（２～４・７・11）があり、調整によって基部が丁寧に作製されているのは細身の柳葉形を呈する９～10だけであった。器体の整形にはブランティング加工が用いられているものが多かったが、中には荒い削器の刃部のような角度の調整が施されているもの（６）や、両側縁を素材の縁辺に沿ってブランティング加工とは違う簡単な調整を加えて整形しているもの（11）、基部の両側縁を素材を折り取るような折断剥離によって形成されているもの（５）等があり、調整の仕方に多様性が認められている。ブランティング加工が施されたものの中には比較的丁寧な調整が加えられているもの（４・７～10）も存在したが、荒いブランティング加工によって整形されているもの（２～３・５）や、中には基部の形成を素材の形状を大きく改変するような調整ではなく、素材の縁辺に沿った簡単なブランティング調整で製作されているもの（２・８）もあり、器体の部位によっても調整の仕方や状態に相違が認められている。ブランティング加工は主要剥離面を打面として施されているものが多かったが、中には剥離面側を打面とした剥離が先端部（８）と基部（３～４）に認められるものがあり、ブランティング加工の調整方向を限定することなく製作されていることや、調整する部位も限定されていなかったことが窺える。ただ、ブランティング加工を二方向から施している部位は、器体の中ではより厚手の部分であることから、厚手の部分を急斜に調整する方法として行われていた可能性が高いものと考えられよう。これらには主要剥離面側には調整が加えられていないものが多かったが、６～７・10には基部の主要剥離面側に簡単な調整剥離が認められている。しかし、７・10等は数回の剥離が施されているだけであり、調整目的を推察するには難しい状態のものである。ただ、６は基部から左側縁にかけてと右側縁からの調整剥離が面的に施されており、器体の厚さを減少させるためか、或いは基部を薄い状態に改変しようと意図したものと思われる。

これらの素材には小形の石刃（９～11）、横長剥片（６）が利用されたもの、幅広厚手の石刃、或いは縦長剥片を素材としているもの（１～５・７～８）があり、後者の幅広厚手の石刃、或いは縦長剥片を素材としているものが大多数を占めている状況が認められた。したがって、素材としての大きさ、厚さ、形状においての許容範囲が広いことが窺えるとともに、素材を石刃に限定することなくナイフ形石器の製作が行われていることが推定されるものと思われる。素材の剥離面と主要剥離面の剥離方向を見てみると、横長剥片製の６と、剥離面と主要剥離面の剥離方向が 180度違う７を除けば、殆どのものが同一方向の剥離によって形成されており、これらの素材は上設打面が作製された単設打面石核から作出されたものであることが理解されよう。そして７のように剥離面と主要剥離面の剥離方向が 180度違うものは、上下方向に打面を設置した両設打面石核から素材が剥離されていることが判断できよう。ただ、素材打面の残っているものには自然面のもの（３）、平坦打面の可能性の高いもの（２）、複数の剥離面で構成されている複剥離打面のもの（４・７）が存在し、細かな調整が加えられた調整打面のもの（11）は少ない傾向にあり、さほど丁寧な剥片剥離技術が駆使されているとは考えられない状態が看取されるものと思われる。なお、素材打面が残っているも

第50図　第Ⅱ文化層出土石器（２）

のが多い状態からは、素材末端方向を先端部側として製作しているナイフ形石器が多いことが理解されるが、これらとは反対に素材打面側を先端部としているもの（８～10）と、左側縁側に打面が存在しているもの（６）が存在した。後二者は素材打面を除去しながらナイフ形石器が作製されていることから、素材を大きく改変している可能性が高いことが理解されるとともに、前者は素材を改変する割合は比較的小さかったことが予想できるものと思われる。ただ、前者の中でも素材打面が基部作製時に除去されているもの（５）があり、素材末端側を先端部とするものの中にも素材打面を除去し、基部を作製しているものが存在することも分かり、ナイフ形石器の製作と素材の関係は素材の形状等によって千差万別であることが想像されるものと思われる。

１～２・６～８・10～11の刃部には、使用痕と思われる細かな剥離が観察されることから、何らかの作業に使用されていることが推定されよう。

第Ⅰ群ｃ類（第50図12～22・第51図37）

小形の二側縁加工のナイフ形石器で、３cm以下のものである。これらの中にも先端部（18・21～22）や基部（19）を欠損するものがあるが、器体や素材の大きさから本類に相当すると考えられたため、本類に含めたものである。12点が確認されたが、ｃ類でもｂ類と同様に鋭い先端部が形成されているもの（13・19）は少なく、角度の大きな先端部を持つもの（12・14～17・20・37）の方が多い傾向が認められた。調整のあり方はｂ類と同様で、一方の側縁側に先端部を作製し、それに接続するもう一方の側縁の先端部側には素材の鋭い縁辺を残して刃部とし、それ以下に調整を施すことによって基部を製作しているものである。調整にはブランティング加工が用いられていたが、比較的丁寧な調整のもの（12～13・19）は少なく、荒いブランティング加工によって器体が整形されているもの（14～15・20）や、素材の縁辺に沿うような簡単な調整にって整形されているもの（21～22）があり、これら以外でもブランティング加工とは言えないような面的調整に近い角度の調整によって製作されているもの（16～17）が認められている。中でも17は、右側縁に荒い面的調整を行った後、細かな調整で器体を整形しており、あまり類例の知られていない調整方法で作製されたものである。そして37では、素材打面を折り取るような折断面と粗い調整で右側縁が作成されていたが、この先端部を形成していた切断面が意図的な加工であるかは明らかではないものの、折断面を利用して器体整形が行われていることが窺われる例である。ブランティング加工は素材の主要剥離面を打面として施されているものが多かったが、12～13・18～20・37には剥離面を打面としたブランティングも確認されており、調整方向を限定することなく二方向からの調整によって器体調整が行われていたことが窺える。このような二方向からのブランティングが施されている箇所を見ると、側縁部全体に施されている例（13）は希で、先端部（12・19）と基部（18・20）に偏っていることが多いことが分かる。ただ全体的に観察されることは、素材の厚手の場所に対して用いられている傾向があることと、より丁寧に調整される度合いの高い先端部に施されていることから、入念な調整が必要な箇所に用いられることが理解されよう。これらの中で、基部をブランティング加工で丁寧に整形しているもの（12～13）は少なく、素材打面（16・18）や急斜な剥離面（20）を残していたり、素材末端を折断したのか折断面で構成されているもの（12・15・17・22）、面的剥離によって基端が構成されているもの（14）や、素材の形状に沿うように簡単な調整で基部が作成されているもの（37）等があり、基部の状態は多様なことが理解されるとともに、丁寧に調整を施しているものは何らかの必要性があったのかも知れない。本類でも主要剥離面に調整を加えている例（12・15）は少なく、15では数回の細かい剥離が認められるだけで、明確に調整と考えられる剥離が施されているのは12だけであった。12には湾曲した素材末端部に対して両側縁より調整を施しており、湾曲した器体の修正を行っていることが推

定される例である。

これらの素材には石刃が利用されていると思われるもの（12・15・19・21～22）の他に、縦長剥片のもの（13～14・16～18）と、横長剥片のもの（20・37）があり、素材としては縦長の素材を欲していることが窺えるものの、その形状にはあまり拘っていないようで、その素材の形状なりのナイフ形石器として整形したり（15～17・21～22）、或いは素材を大きく改変することによって製作する（12～13・19・37）ことが一般的なようである。素材の剥離面と主要剥離面の剥離痕を見てみると、多くのものが同一方向の剥片剥離によって両面が構成されており（12・14～17・19・21～22）、180度（13・20）や、90度（18）剥離方向の違う剥離痕を持つものは少ない傾向にある。したがって、多くのものが上設打面を設置した単設打面石核より剥離されていることが分かるとともに、少数の両設打面石核や石核の側面にも打面が形成された石核が存在していたことが窺えよう。12～16・19～21の刃部には使用によると考えられる刃こぼれが認められ、中でも15と19の刃こぼれは顕著で、主要剥離面側に大きな剥離が生じている状態である。しかも15にいたっては、使用によると考えられる数条の衝撃剥離によって先端部が欠損してしまっており、その衝撃力の大きさを物語っているようである。

第Ⅰ群ｄ類（第50図23～25）

所謂「台形石器」の範疇に含まれるものを一括した。３点が確認されたが、これらは横幅のある縦長剥片（23・25）か、縦横の長さに大差のない剥片（24）を素材とし、これの末端側（24）と打面側（23・25）を折断して器体整形されているものである。そして、24の左側縁と25の左側縁では折断面に簡単な調整剥離を加えて整形されており、何らかの微調整が行われていることが推定される状態である。もう一方の側縁は23は簡単なブランティング加工を主要剥離面、剥離面双方から施して製作され、24は素材打面をそのまま残置して右側縁としている例で、25は素材末端の階段状剥離の急斜な面をそのまま右側縁としている例であり、調整を加えて整形したものより素材の形状を有効に利用しているものの方が多く確認されている状況にある。したがって、ｄ類の作製には素材の形状を利用しつつ、素材の一部を折断技法を用いて折断し、これに簡単なブランティング加工を施して器体を作製しており、これらの中には丁寧な調整を加えながら整形しているものは認められなかった。23と24は上縁である刃部を欠損しているが、この欠損が使用によるものかは判然としない。

第Ⅱ群ａ類（第50図26～28）

一側縁加工のナイフ形石器で、素材の一端を横切るように加工して先端部を形成しているもので、その整形には折断技法が用いられているもの（26）と、ブランティング加工等の調整剥離によって作製されているもの（27～28）がある。これらに施された調整剥離は、26では折断面の左右と左側縁の上端に主要剥離面を打面とした簡単な調整を施して器体が作製されていたり、27では剥離面と主要剥離面双方から簡単な調整を施して角度の大きい先端部が製作されているものである。28も27と同様に剥離面と主要剥離面双方から荒く大雑把なブランティング加工を加えているもので、その調整は左側縁の上端部にも及んでいる例である。以上のように、器体の製作には先端部の形成に関する調整以外は施されておらず、本類が素材と先端部の形状によって形作られていることが明らかで、器種に合った素材を選択する以外は極めて簡単な調整を施すだけで製作されていることが窺えよう。これらの素材となったのは、小形の石刃（26～27）とやや幅広厚手の石刃（28）であり、本類の形状は石刃の存在なくしては作製できないものであることが理解できるものと思われる。なお、素材の石刃の利用方法は、26が素材末端側に先端部が形成されているが、他の２点（27～28）

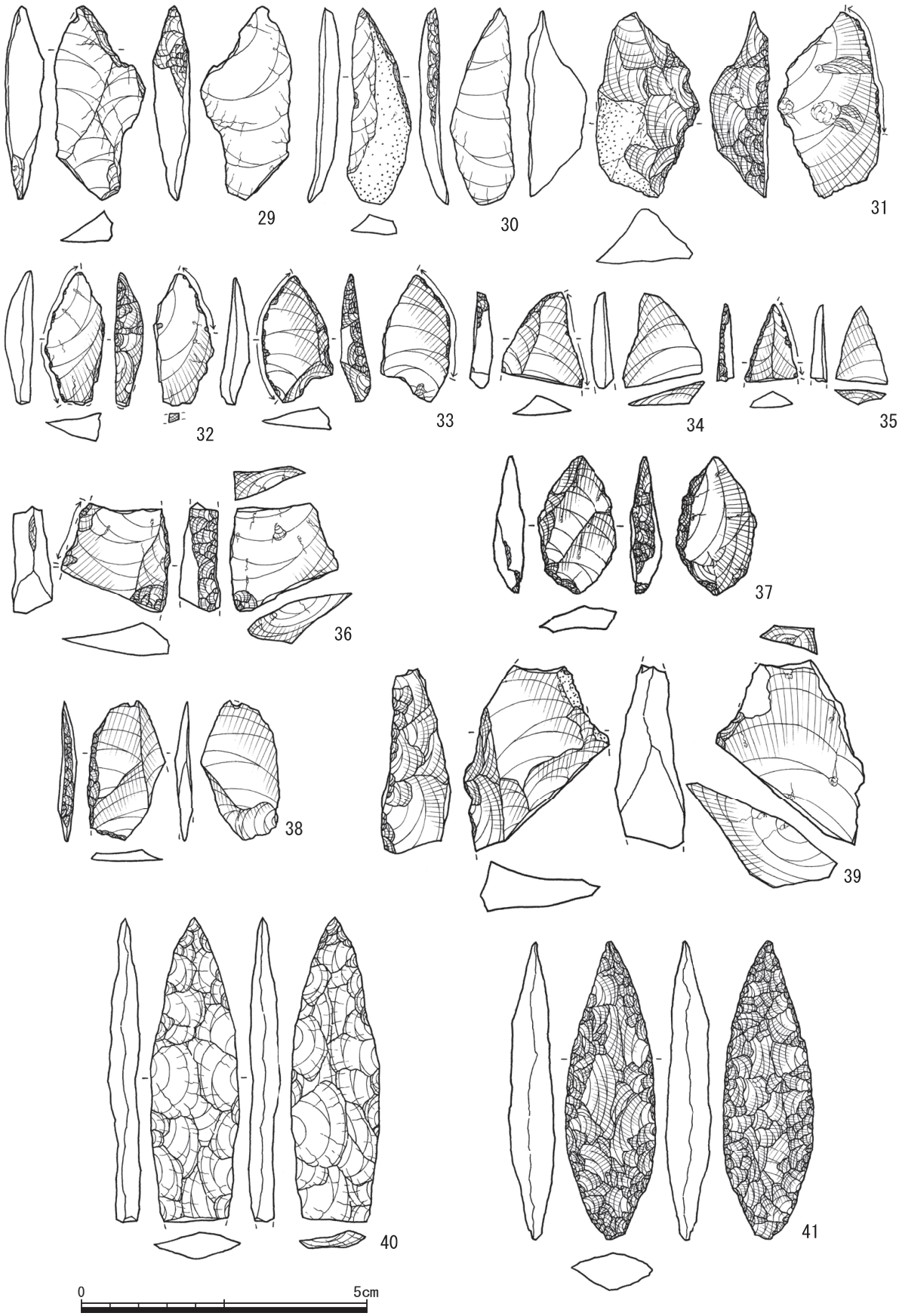
は素材の打面側を先端部としていた。この中で、後者の方が素材の最も厚い部分である打瘤部を除去しなければならないことから整形はより困難なものと思われるが、現実的には後者の方が出土量が多いことから、素材の利用方法には何等かの選択基準が存在していたことが推定されるものと思われる。27～28の刃部には使用痕と考えられる微細な剥離が認められているが、さらに27には刃部とは逆の縁辺にも微細な剥離が観察されている。

第Ⅱ群ｂ類（第51図29～30）

素材に対して斜めに調整を加えて先端部を作製しているもので、２点が確認された。調整は主要剥離面側から施されたブランティング加工で、29では荒く大雑把な剥離を素材を抉るように加えられ、30には比較的丁寧で細かな剥離によって整形されており、ａ類に比べると角度の小さい鋭い先端部が形成されていた。本類もａ類と同様に、先端部を形成するために加えられたこれらの剥離以外は調整を施しておらず、ｂ類も素材の形状と先端部の整形によって形成されていることは明らかで、第Ⅰ群のナイフ形石器に比べれば簡単な工程作業によって製作されていることが理解できるものと思われる。これらの素材は石刃で、29は剥離面と主要剥離面の剥離方向が 180度違うものが利用され、30は剥離面と主要剥離面が同一方向の剥離で構成されているものが素材となっている。これらを剥離した石核は、上設打面を設置した単設打面石核（30）と、上下両端に打面が形成された両設打面石核（29）が存在していたことが理解され、本類を初めとしたナイフ形石器の製作には､素材である石刃の存在が必要不可欠の関係にあることが推定できるものと思われる。なお、29の左側縁から末端にかけて折断面で構成されているが、この折断面が意図的に製作されたものなのか、あるいは素材の剥片剥離時や石器加工時に欠損したものかの判断がつかない状態であったが、一応この折断面は調整として施されたのではなく、素材の欠損として理解し本類に含めたものである。

第Ⅱ群ｃ類（第51図31～33）

一方の側縁（３点とも右側縁）の全縁に調整を施し、上端に先端部を形成しているものであるが、必然的に基部の右側縁側には調整が認められるものの左側縁は未調整のままであり、基部の製作が行われているとは考えられないものである。これらに施されていた調整は、先端部では比較的丁寧に施されていたものの、それ以下の部分は大雑把な荒いブランティング加工が加えられていたもの（31～32）と、素材に対して極めて荒い面的剥離を加えた後、細かな剥離で縁辺を潰して整形しているもの（33）があり、この中でも後者の調整状態は特徴的であったが第Ⅰ群ｃ類の一部（17）にも同様の調整が施されており、限定的な調整方法ではなかったことが推察される状況を示していた。このことは、ナイフ形石器の製作にブランティング以外の加工技術が用いられていることを意味しており、ナイフ形石器とブランティング加工の関係が稀薄になっている証左である可能性があるものと考えられ、ナイフ形石器石器群終末段階の様相を現している現象として理解できるものと思われる。素材として利用されているのは横長剥片（31～32）と縦長剥片（33）で、前者は素材の打面と打瘤部を除去しながら先端部を作製しているもので、後者も素材打面を除去するように右側縁下半が製作されており、第Ⅰ群などは打面を残したままで器体整形されたものがあったのと違い、本類では素材打面は全て除去されていた。なお､整形のために用いられた調整は主要剥離面から施されるもの（31・33）が一般的であったが、32に関しては全ての調整が剥離面側から施されていた。また、32の基端は折断面で構成されており、欠損したか、あるいは素材の鋭い縁辺を除去したものと思われる。３点とも、刃部には使用による刃こぼれと思われる細かな剥離が観察される。



第51図　第Ⅱ文化層出土石器（３）

第Ⅲ群ａ類（第51図34～35）

欠損のため形状の不明なもので、先端部片を本類とした。２点が確認され、先端だけに調整を施し、中央部には素材の鋭い縁辺を残しているもの（34）と、先端部を形成している左側縁全てに調整が加えられているもの（35）である。２点とも施されていた調整はブランティング加工で、ともに主要剥離面を打面として施されていたが、調整の剥離が比較的小さいことから、素材を大きく改変するような調整ではなかったことが推定されるものと思われる。そして、２点とも素材としては最も薄い末端側に先端部を作製していることからも、調整剥離が小さくて済んだ可能性が高いものと考えられよう。素材は34・35ともに石刃と思われ、34が剥離面と主要剥離面が同一方向の剥離によって構成されているもので、35は剥離面と主要剥離面の剥離方向が 180度違っているものであり、前者が上設打面を設置した単設打面石核から、後者が上下両端に打面が形成された両設打面石核より剥離された素材であることが理解できる。34と35の刃部には、使用によって出来たと考えられる微細な剥離が観察されており、欠損する前にはナイフ形石器として機能していたことが推定できるものと思われる。

第Ⅲ群ｂ類（第51図36）

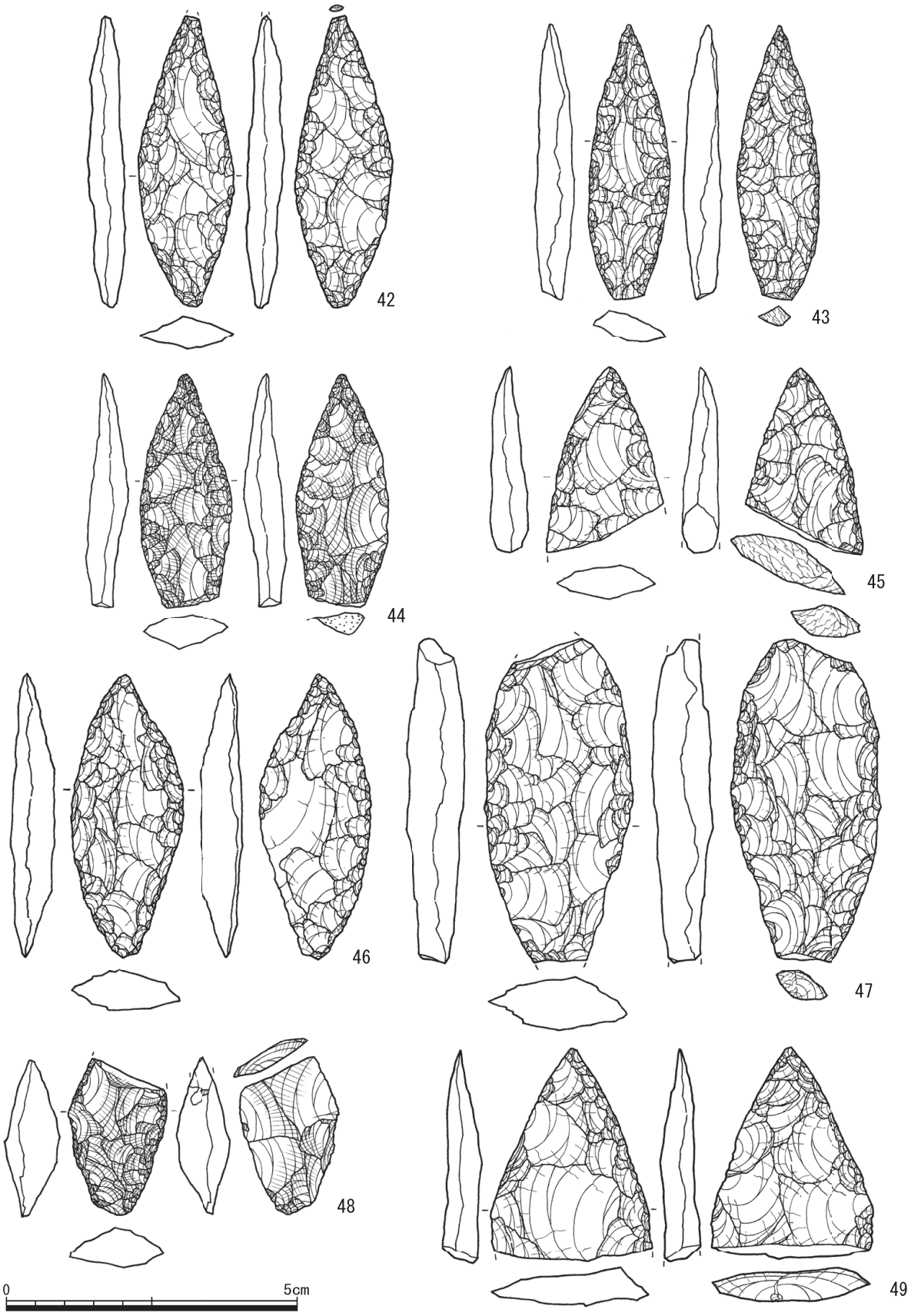
ナイフ形石器の中央部片で、１点が確認された。調整は右側縁に比較的丁寧なブランティング加工が施され、急斜な側縁が製作されていた。ブランティング調整は、全て主要剥離面を打面として施されていたが、このブランティング調整面を打面として主要剥離面に数回の面的調整が施されている。しかし、この剥離の調整目的は、欠損品のため判然としない状況である。剥離面と主要剥離面には同一方向の剥離痕が観察できることから、この素材には幅広の石刃が利用されていることが推定できるものと思われる。したがって、幅広の器体を持ち、比較的丁寧な調整が施されていることから、36は第Ⅰ群ｂ類の欠損品である可能性が高いものと思われる。刃部には使用で生じたと思われる細かな剥離が認められており、欠損前にはナイフ形石器として機能していたことを窺うことができる。

ナイフ形石器未製品（第51図38～39）

ナイフ形石器の未製品と思われるもので、２点が確認された。２点とも先端部片で、38は鋭い先端が形成される以前のもので、調整時に欠損した可能性が高いものである。調整は角度が小さい細かな剥離で施されており、急斜なブランティング調整面は現時点では形成されておらず、ブランティング加工以前の調整剥離であった可能性が高く、これは先端が作製されていない状態と矛盾しない。そして、38は主要剥離面側下端に認められる剥離によって欠損しているが、この剥離は左側縁の製作を意図して剥離面側から施された調整であり、この様な状態からも製作時に欠損したものであることが推定されるものと思われる。左側縁に施されている調整は、全て主要剥離面から加えられたものである。39も先端を欠く先端部片で、左側縁に極めて荒い調整が施されているものである。調整は全て主要剥離面側から加えられているが、厚手幅広の器体を絞るためか素材の縁辺を折断するような剥離が何回も施されており、これらの剥離の衝撃等によって欠損してしまった可能性が高い例である。38の剥離面と主要剥離面は、同一方向の剥離で占められており素材は石刃と思われるが、39では素材の縁辺が殆ど残っていないために素材を推定するのは難しいが、これも同一方向の剥離面と主要剥離面で構成されていることから石刃か縦長剥片である可能性高いものと思われる。

尖頭器（第51図40～第53図64）

出土した尖頭器は未製品と考えられるものを含めて41点で、それらの全点を図示したが、中には６点ほど



第52図　第Ⅱ文化層出土石器（４）

欠損面で接合するものがあり、図としては38点である。尖頭器の形態は多様で、両面加工のもの、片面加工のもの、周縁加工のもの、半両面加工のものが認められており、尖頭器の諸形態の殆どのものが確認されている状況にある。

ａ類（第51図40～第53図51）

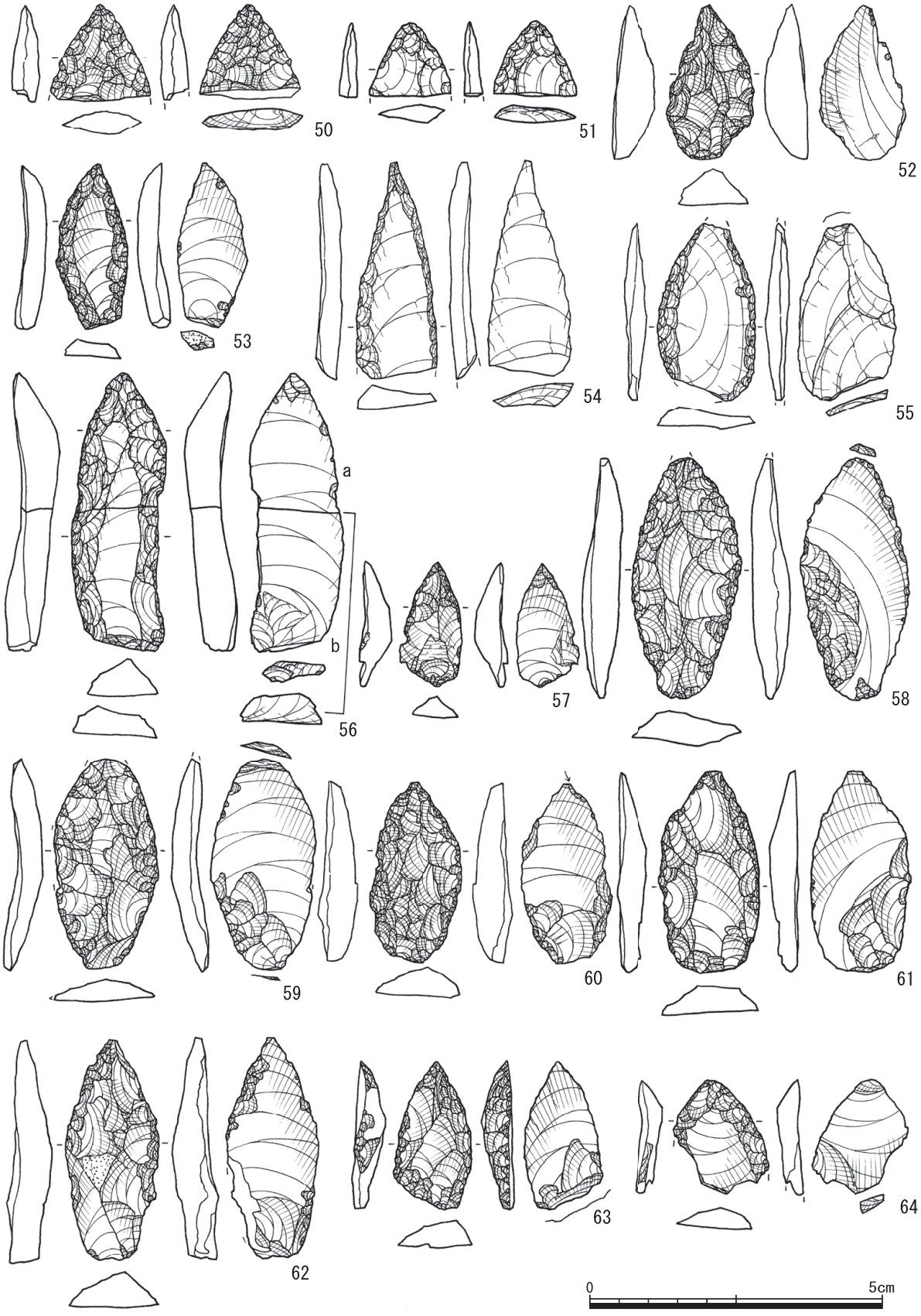
両面加工の尖頭器を一括した。12点が確認されているが､この内の８点はいずれかの部位が欠損しており、完成品と考えられるものは４点が存在していたにすぎない。これらａ類のプロポーションは柳葉形を呈し、細身の器体が製作されているものが大多数を占めていたが、中には木葉形のやや幅広のもの（49）も確認されている。また、器体の中ほどに最大幅を持つもの（46・47）は比較的少なく、これ以外のもの（41～44）は基部寄り（刃部３対基部２ほどの割合か）に最大幅が形成されており、基部として先端部としての役割が意識されていた可能性が高く、それを反映したプロポーションの整形が行われていたようである。他に認められる器体の特徴として、基端に自然面（44）や節理面（43）を残しているものがあり、これらも基部と先端部の役割の違いが表面化したものであることが窺えよう。調整加工は表裏面ともに丁寧に施されているもの（40～44・50・51）が多いが、中には表裏面で調整量が大きく違うもの（45・48）や、一方の側縁で表裏の調整量が違うもの（46・49）があり、調整の内容には若干の相違があるようである。これらの違いは、前者のものが最終段階の調整剥離を全縁にかけて表裏面双方から行った結果であり、手抜きのない整形が行われていると考えられるもので、後二者は最終段階の調整剥離を表裏の一方からだけ行ったものと、左右の側縁に対して最終段階の調整剥離を表面側から集中的に加えたものであり、やや簡略化した工程であったことが推定されるものである。12点の殆どが器体の全面に全縁からの調整剥離が施されており、素材剥片の形状を窺うことができる状況にはないが、只一点、半両面加工に含めたほうがよいか迷った46の裏面には主要剥離面が残っており、右側縁側に打面の存在した横長剥片が素材に利用されていることが判断できる。

ｂ類（第53図52）

肉厚で小形の片面加工の尖頭器で、１点が確認された。厚手の横長剥片を素材とし、素材打面を除去しながら左側縁を、素材末端を剥離しながら右側縁を形成するとともに、先端部と基部の製作も行っているもので、これらの調整剥離は全て主要剥離面を打面として表面側に施されていた。必然的に、裏面の主要剥離面は未調整で、素材のポジティブ面がそのまま残っている。器体の整形は右側縁や基部は比較的丁寧であったが、左側縁には縁辺を抉るような調整が施され、急斜で凸凹した側縁が形成されており、左右の側縁では調整状態に若干の違いが存在していた。

ｃ類（第53図53～56）

周縁加工の尖頭器で４点が確認されたが、欠損品の中に接合して完形品となったものがあり、資料数では５点である。これらの素材には、横長剥片（55）や石刃か縦長剥片（53・54・56）が利用され、これらの素材に対して長軸の左右の縁辺から調整剥離を施して器体整形されたものである。調整は多くのものが主要剥離面側から施されていたが（53・54・56）、中にはこれらとは逆に剥離面側を打面として整形しているもの（55）も存在しており、調整方向は限定されていなかったことが理解されるものと思われる。53と56は、比較的丁寧な調整が基端を除く全縁から施されていたが、素材中央にある剥離痕を大きく損ねるまでは剥離が届いておらず、これらの剥離痕を広範囲で残したまま整形されている。54・55は53・56に比べると大雑把な調整で、素材の形状に沿うような調整を加えながら先端部を形成しているものである。54・55は基部を欠損



第53図　第Ⅱ文化層出土石器（５）

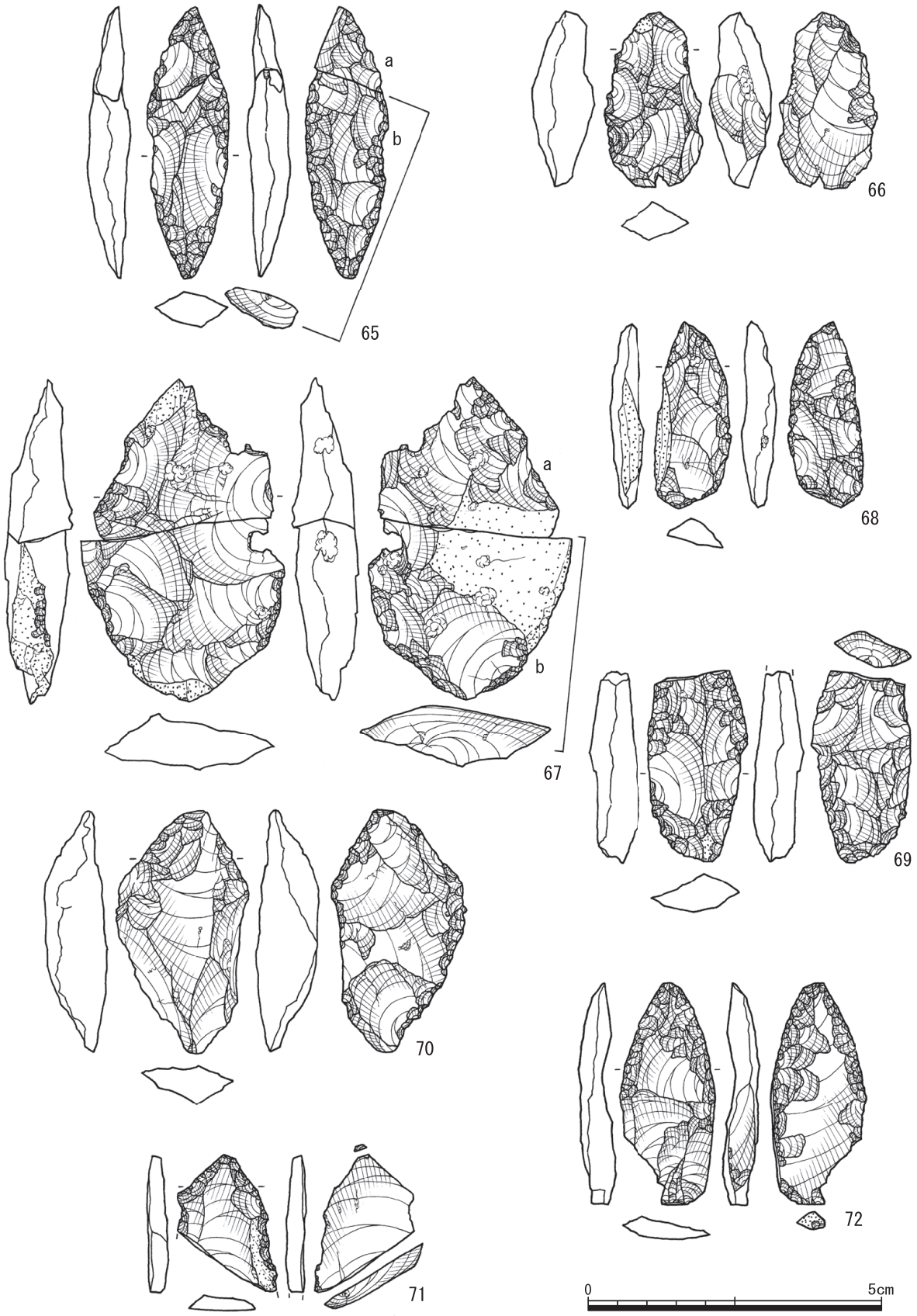
しているが、53と56には素材の打面が残されていることから、54・55も未調整であった可能性もあるものと思われる。これらの中で素材を大きく改変していると思われるものは56で、右側縁の調整によって素材の幅を減少させていることが素材の打瘤部の状態から推察されるほかは、部位としての先端部の作製だけであり、両側縁などは素材の鋭い縁辺を剥離しながら器体の形状を整形する程度の調整が施されているものが過半数を占めていた。53・55・56の３点の主要剥離面（55は裏面）には数回程度の小さい剥離が認められていたが、これを調整と捉えると、これらのものは後述する半両面加工に含まれるものと考えられる状態である。しかしながら、55・56の先端部からの剥離は使用時の衝撃剥離の可能性もあるため、調整剥離の範疇には含めなかったものである。そして、53と56に確認できる小さな剥離は調整意図を推定できるようなものではなく、表面側の調整時にできた偶発剥離の可能性もあることから、器体の調整剥離としては認識しなかったものであり、以上のような理解から本類に含めたものである。

ｄ類（第53図57～64）

半両面加工の尖頭器で８点が確認されている。これらは表面には、ほぼ全面に調整が加えられているものの、裏面には一部分に調整が施されているだけで、素材の主要剥離面が広範囲に残っている例である。ただ、中には表裏面の調整を先端部の形成だけに行い、先端部以外では素材の形状をそのまま残しているもの（57）や、表面の調整が素材中央まで達しておらず、素材の剥離痕が表面中央に大きく残っているもの（58・59・61～64）があり、調整が表面全面に認められたもの（60・62）は比較的少数であることが理解される。表面に施されている面的剥離は、比較的丁寧に施されているもの（61・63・64）は少なく、多くのものがやや荒い調整で整形されているためか、中には縁辺に凸凹があったり（58・60・62）、波打ったり（61）しているものがあり、左右対称形に整形されているものは認められなかった。したがって、８点とも最終調整と思われる細かな剥離で整形され、これによって器体をより良好な状態へ移行するよう務められていたものの、それ以前の調整剥離が十分に行われていなかったために、大きな効果が得られなかった可能性があるものと思われる。この様な推定が妥当なものであるならば、多くのもの（57・59～64）が石刃や縦長剥片を素材としている状態からは、素材形状の特性から大掛かりな調整は難しいことが大きな原因となっているものと考えられ、本類とｃ類を製作する上での難点であったことが理解できるものと思われる。裏面（主要剥離面）に施されている調整は、前述した57と64が先端部に認められる以外は殆どが基部周辺に施されていた。これらの調整は面的剥離で、素材の打瘤部を除去するために両側縁方向から施されたもの（59・60・62）と、左右いずれかの側縁から限定して施されたもの（58・61）と、後者の例に打面方向からの剥離が加わっているもの（62～63）が存在した。59の末端に打面の一部が確認されているが、これらの剥離で素材打面を除去しており、ｃ類の片面加工の尖頭器が打面を残置しいるものが目に付く状況とは大きく相違していた。只一点だけ裏面の先端部に左側縁から調整が施されているもの（62）があったが、この部分の表面側には細かい剥離で整形が施されていないことから、整形剥離を表裏面で入れ替えて行っていた可能性が高いものと思われる。なお、58では素材に横長剥片が利用されており、本類の素材が石刃や縦長剥片に限定されていなかったことが理解されるものと思われる。

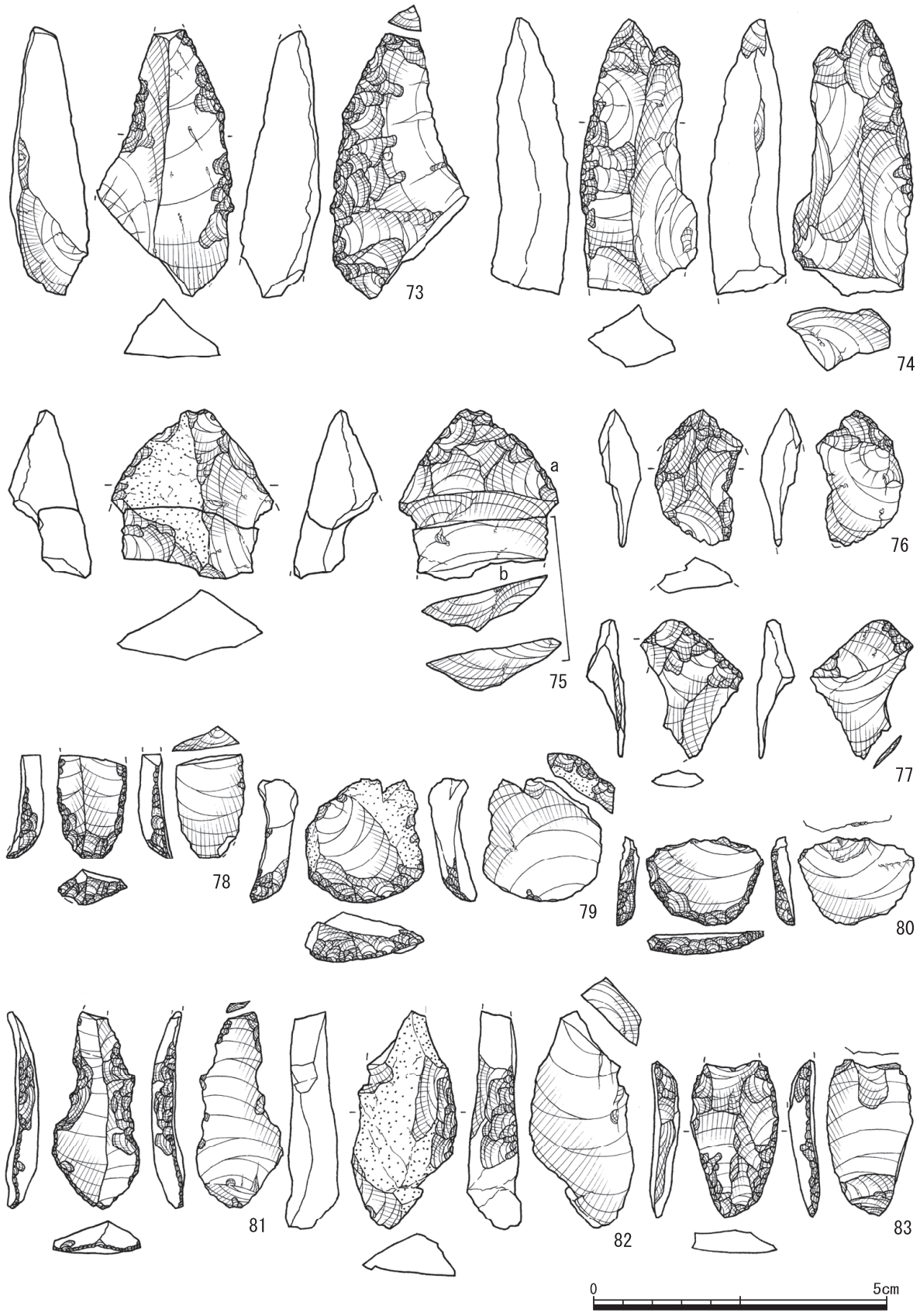
尖頭器未製品（第54図65～第54図77）

13点図示してあるが、この中にも欠損面で接合するものがあり、尖頭器として分類された資料は15点であった。さらにこの中には、尖頭器の製作時に間違って剥離してしまった先端部が含まれており（75～77）、これらは厳密には尖頭器未製品とは言えない資料であるが、ただの剥片として分類してしまうのは忍びない



第54図　第Ⅱ文化層出土石器（６）

資料のため、あえて尖頭器未製品に含めたものである。71が周縁加工の他は、殆どが両面加工のもので占められていたが、何点かは主要剥離面が残っており、素材には石刃（71～72）や縦長剥片（68）の他、横長剥片（70）のものと、偏平な礫をそのまま素材としているもの（67）があり、素材が限定されていたような状況は認められない。65は完成まじかで先端部が欠損したもので、ほぼ左右対称の器体が製作されている。先端部の欠損は調整剥離時の衝撃で生じたようで、裏面側から正面にかけて抜けた状態で剥離している。欠損時の衝撃剥離が 65bの裏面上端に生じているために、裏面の先端から剥離された剥離面の状態を確認することが難しいため明確には捉えられないが、所謂「有樋尖頭器」である可能性の高いものである。ただ、この樋状剥離は器体の調整剥離の早い段階で施されたもので、裏面の右側縁から加えられた面的剥離によって切られていたり、この樋状剥離の左側縁部を打面として表面の右側縁に調整が行われており、器体製作の最終段階で樋状剥離を施す例とは大きく相違するものであった。表裏面に施されている調整は、全体的に大きく荒い剥離で大雑把な器体を作製し、これに対して細かな調整剥離を表裏両面の縁辺に沿って施して器体の整形を行っており、基部や先端部の調整は比較的丁寧な作りとなっている。66は小形の石核を転用して尖頭器の加工を試みたと思われるもので、右側面には尖頭器の製作では形成されることのない石核の打面状の面が存在しているものである。調整剥離は表面には左右両側縁から施されていたが、裏面では先端から右側縁にかけての縁辺からの剥離で占められており、一般的に認められる尖頭器の調整方法とは大きく相違しているものである。この様な裏面に加えられた調整は、素材の厚さを減少させる目的で施された可能性があるものと思われるが、表面の調整剥離と併用される状況でも目標とした厚さにならなかったようで、調整途中で放棄されたと考えられるものである。67は前述したように偏平な礫を素材としたもので、表裏両面に荒い面的剥離が施されているものである。調整によって基部と先端部の作り出しを行っているようであるが、その過程で器体中央部で欠損したものである。素材は気泡や不純物が多く含まれる黒曜石であり、これらが欠損に影響を与えたことが推定される状態にある。68～70・72は製作途中で放棄されたと思われるもので、先端部が欠損したもの（69）と調整途中と思われるもの（68・70・72）である。68は小形のもので、先端部は裏面を打面とした調整で製作しているのに対し、基部は表面を打面とした調整で整形されており、部位によって調整方向を変えているものである。そして、左側縁側に大きく自然面が残っており、裏面の右側縁に施された多くの調整はこの自然面の除去を目的として加えられたものと思われるが、効果的な調整とはならなかったらしく、この調整面を打面とした表面側（左側縁）への調整は施されていない。したがって、左側縁では両面調整が施されていない状態であるが、小形であることからこれ以上の調整を行うことは困難な状況であることから、調整途中で放棄されたと考えられるものである。69はやや荒い調整が施された両面加工のもので、先端部を欠損する。器体はまだ左右対称形の状態にまで調整が進んでいないが、表面の上半分の両側縁や基部の左側縁には整形剥離と思われる小さな剥離で調整されており、器体製作の最終段階であったものと考えられる例である。70は厚手の横長剥片を素材とし、一端に両面加工の先端部を、もう一端では裏面だけに調整を施して基部が作製されているものである。調整は荒く大雑把なものであるが、素材の厚さをあまり減少させることなく施されており、継続して調整を加えていっても器体の整形は難しい状況であったのかも知れない。72は縦長剥片の打面側に先端部を作製しているもので、調整は全て整形段階に利用される細かな剥離で占められており、素材の形状や厚さを改変するような調整剥離は施されていない。したがって、尖頭器として必要な厚さが素材の時点で合致しており、これ以上薄くするような剥離を施すと素材としての強度が損なわれてしまい、調整時に欠損してしまう確率が高くなることが想像されたものと思われる。先端部は薄く調整されているが、鋭い先端は形成されていない。基部も未調整である。71は片面加工尖頭器の未製品で、石刃を素材に利用しているものである。調整は全て主要剥離面側から表面側に施されていたが、まだ素



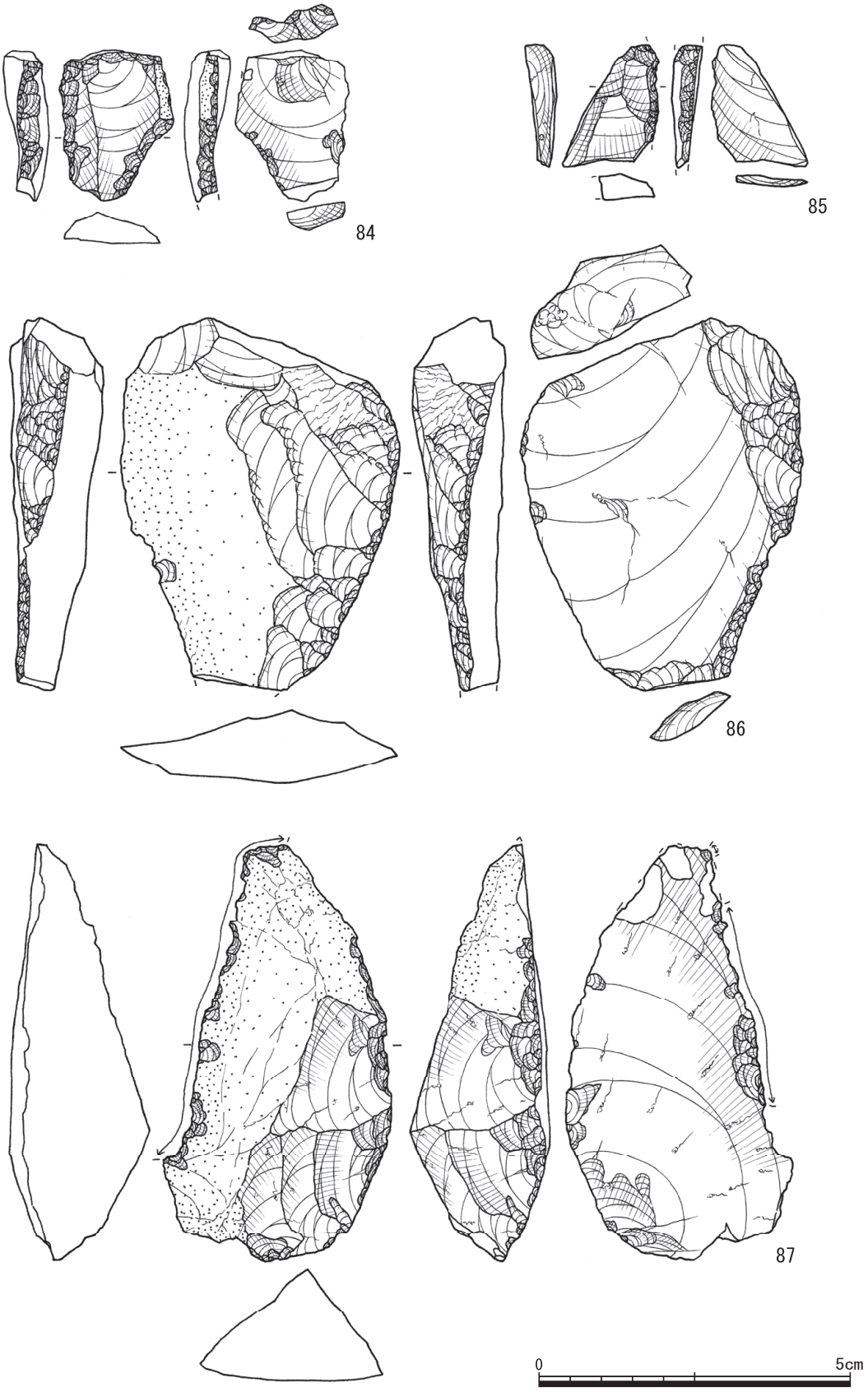
第55図　第Ⅱ文化層出土石器（７）

材の縁辺を除去している状態と思われ、側縁は凸凹が著しい。したがって、尖頭器の整形段階にはまだ到達していない可能性が高く、完成形としては小形細身の片面加工尖頭器がイメージされていたのかも知れない。73・74は厚手の大形剥片を素材として調整を加えているもので、73では素材打面部（左側縁側）を削除して左側縁には片面加工、右側縁では両面加工が施されている例である。加えられている調整は荒いものの、素材の主要剥離面の左半分程度には調整が進んでおり、素材形状の改変と製作意欲が窺える状態である。しかしながら、裏面の主要剥離面側に比べると表面の調整は断片的であることから、製作工程としては主要剥離面側を最初に調整を加えて整形しようとしたものと考えられるが、調整途中（主要剥離面の基部調整が欠損面に切られている）に先端と基部を欠損してしまったことにより、放棄されたものと思われる例である。74も荒い調整を左右側縁から表裏両面に施しているもので、素材の形状は判断できないものである。調整は左側縁側では両面とも比較的丁寧に施されていたが、右側縁の表面には素材の厚さを減少させようとしたのか、大きな一枚の剥離でほぼ形成されている状況であった。しかし、この剥離は素材中央部で抜けてしまっており、素材の厚さを減じることなく剥離されてしまっている。この剥離を打面として裏面に数回の調整が施されているものの、調整が大きく進んだ傾向は認められないことから、この時点で調整を放棄したものと思われるものである。なお、何時の時点かは不明であるが、基部が欠損したことも放棄する原因の一つになったのかも知れない。

75～77は尖頭器製作工程の中で間違って剥離してしまった先端部片であり、裏面の下部に主要剥離面を大きく残している。75は大形厚手の器体で、大きな調整剥離の末端が所謂「しの字状剥片」と同様な剥離となり、正面に抜ける筈の剥離が裏面に抜けてしまったもので、この時に先端部も一緒に剥離されているものである。調整剥離は裏面側には全面的に施されていたが、表面では荒い剥離が両側縁と先端部から加えられている以外は細かい調整が断片的に認められるだけで、自然面も大きく残っている状態であった。76・77は、裏面を打面として表面側に調整剥離を加えた時に、打撃点の位置や角度を間違えてしまったことにより、整形途中とはいえ先端部を剥落させてしまったものであり、尖頭器の製作工程としては大きな失敗であることが窺えるものである。調整は割合丁寧に施されており、尖頭器製作の最終段階に近い状態のものと考えられるが、裏面に比べると表面側に多くの調整剥離が施されており、表裏面で調整度合いに差があったことが推察できるものである。

掻　器（第55図78～80）

３点が確認され、その内の１点（78）は所謂「先刃式掻器」であったが、残りの２点は所謂「拇指形掻器」に比定される形状のもので、当地方のナイフ形石器石器群に組成されることは比較的珍しい形態のものである。78は小形の細長い石刃を素材とし、この素材に対して末端から左右側縁にかけて調整を施して刃部が作成されているもので、上部（素材打面部）を欠損している。調整は細かな剥離で主要剥離面側から施されているが、あまり丁寧とは言えない調整であり、急ごしらえで製作された可能性があるものと思われる例である。刃部には、使用によって生じたと考えられる潰れは顕著ではなく、使用頻度はそれほど高くなかったことが理解されよう。79と80は方形に近い剥片（79）や横長剥片（80）を素材とし、その打面を除去しながら素材の打面部に刃部を形成しているもの（79）と、素材末端から両側縁にかけて刃部が作製されているもの（80）で、２点とも刃部は主要剥離面からの調整で製作されていた。調整は比較的丁寧で、79では厚みのある強靭な刃部が作製されており、使用による刃部の潰れも認められている。80は79に比べると薄い刃部が形成されていたが、これも刃部の作りは丁寧で、刃部の潰れも確認できるものである。



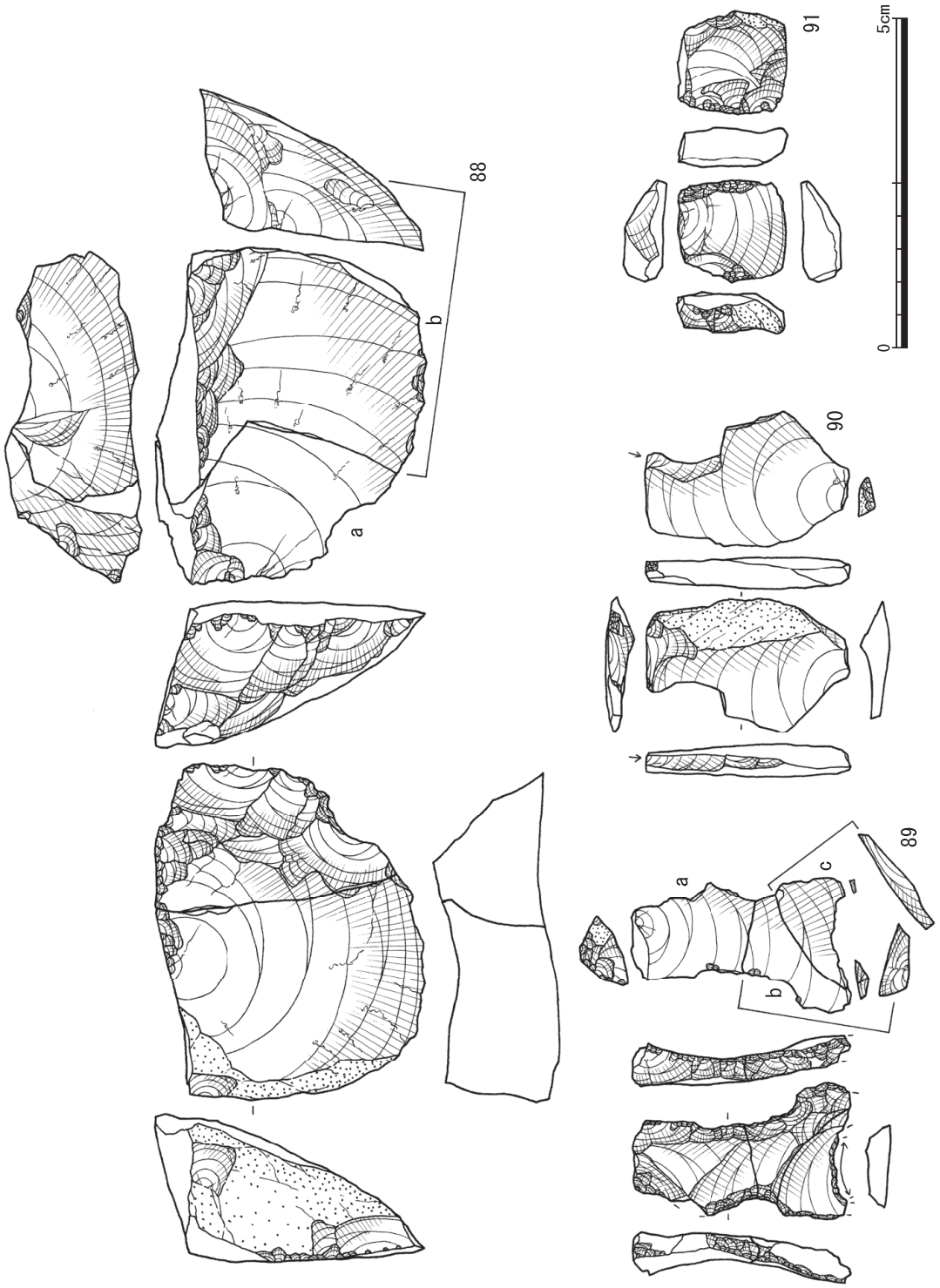
第56図　第Ⅱ文化層出土石器（８）

掻器＋ノッチ（第55図81）

器体に二種類の機能を持たせていると考えられるもので、下端に掻器の刃部、両側縁にノッチの刃部が形成されているものである。ただ、掻器の刃部とした下端の調整は極めて細かい剥離で形成されており、意図的に調整された刃部なのか、あるいは使用を継続することで形成された刃部なのか判断が難しい形状のものである。しかしながら、刃部の使用は顕著で、潰れが認められるとともに擦れによる光沢も観察されるものである。両側縁に施された調整は、全て主要剥離面側から施されているが荒く大雑把な剥離であり、側縁は凹凸が顕著でノッチの刃部として十分に機能していたかどうかは不安の残るものである。また、上端の素材末端を欠損しているが、主要剥離面の両側縁から細かな調整が施されており、素材末端に何らかの機能を持たせようとしていたのかも知れない。素材は石刃で、剥離面と主要剥離面には 180度剥離方向の違う剥離が観察できることから、両端に打面を設置した両設打面石核から剥離された石刃が素材になっていることが理解できるものと思われる。

削　器（第55図82～第56図87）

後述する削器未製品を含めて、７点が確認されている。この中には比較的小形の素材に、刃部が作製されているもの（82～85）と、大形の剥片を素材としているもの（86・87）があり、形状が大きさによって二大別される状況がある。82～84は石刃（83・84）や縦長剥片（82）を素材とし、これの右側縁（82・83）や両側縁（84）に刃部が形成されているもので、刃部の調整は全て主要剥離面側から施されていた。82は比較的厚手で強靭な刃部が作製されているもので、調整も急斜で丁寧な整形が加えられているが、素材の形状のためか機能部としての刃部が短い状態であることや、刃部の潰れも顕著ではないことから未製品の可能性もあるのかも知れない。素材打面部を欠損し、刃部の形成以外の調整は施されていない。83も右側縁に刃部が作製されている例であるが、刃部以外でも左側縁の上部や裏面の主要剥離面に調整が加えられているものである。刃部は細かな剥離で主要剥離面側から調整され、凹凸のない弧状の縁辺が作製されており、丁寧な整形が施されている。刃部には使用によると思われる潰れが顕著に認められており、使用頻度は高かったことが窺える。なお、前述したように83には刃部以外に調整が施されていたが、左側縁の上部に認められる調整は右側縁の調整を含めて、面的剥離のような調整が素材中央部にかけて施されているものであった。そして、下端も左右対称ではないものの、舌状に調整されていることや、上端から表裏両面に生じた衝撃剥離と思われる剥離で左側縁上部の剥離が切られていること等から、83は片面加工の尖頭器の欠損品を削器に転用したものであることが推定されるものである。したがって、右側縁の刃部の調整は尖頭器の器体の調整をそのまま利用している可能性もあり、削器の刃部としての調整が行われていたかは判然としないものである。この様な推定が妥当なものであるならば、素材の打面を除去しながら下端の調整が認められたのは、尖頭器の基部調整であったことが理解できるものと思われる。84は素材である石刃の両側縁に、主要剥離面側から調整を施して刃部が形成されているものである。刃部はやや荒い剥離で調整され、急斜で強靭な状態に整形されていたが、刃部の縁辺は凹凸が著しく、刃部の状態として不都合がなかったのか不安のある形状のものである。主要剥離面側（裏面）の両側縁には細かな剥離が認められているが、これらの意図する目的は不明と言わざるを得ないものの､削器としての使用時や刃部の製作時に偶発的に生じた可能性もあるものと思われる。85は削器の欠損品と思われる例で、右側縁に刃部を形成しているものである。刃部は主要剥離面からの調整で製作され、調整は細かな剥離で乱雑に施されているものの急斜で強靭な刃部が形成されており、縁辺にも潰れが認められている。欠損のため全体的な形状は不明であるが、素材の剥離面と主要剥離面の剥離痕からは、縦長剥片か石刃が素材として利用されていることが推定されるものである。



第57図　第Ⅱ文化層出土石器（９）

86・87は大形の器体のもので、86は縦長剥片を、87は横長剥片を素材として製作されている。86には表裏面の右側縁に刃部が作製されているもので、両方とも刃部は割合鋭角で、調整の一部は素材の中頃まで剥離が及んでいるものがあり、刃部の厚みを調整している可能性が高いものである。両面の刃部とも弧状を呈する縁辺が形成されていたが、表面の刃部は極めて丁寧に調整されていたのに比べ、裏面の刃部はやや荒い調整で整形されており、双方の刃部には若干の相違が認められている。そして、使用によると思われる刃部の潰れも表面側は顕著に認められているのに対し、裏面の刃部には僅かに確認できる程度であることから、表裏面の刃部では使用頻度に差があったことが推定できるものと思われる。素材打面部は、刃部調整前に折断して除去されている可能性が高いが、末端は調整時か使用時に欠損しているようで、器体はもう少し大きかったことが窺える。87は大形厚手の横長剥片の打面部を除去するように調整を加え、厚手の刃部が形成されているものである。調整は極めて荒く、自然面を剥離するように数回の大きな剥離を施した後で、小さな剥離で縁辺の調整を行っているが、剥離は不規則であり丁寧さは感じられない調整となっている。左側縁には使用痕と思われる細かな剥離が観察される。

削器未製品（第57図88）

１点が確認されているが、調整時に欠損したようで資料数は２点（削器未製品と剥片）である。この素材は厚手の縦長剥片と思われるが、これの右側縁側に剥離面側から調整を加えて打面が作製され、正面にはこの打面から剥片剥離が行われたことが、裏面の主要剥離面を正面の剥離痕が切っていることから判断できるものである。したがって、大形厚手の剥片を利用した石核を削器として転用しようとしていたことが窺える資料である。削器の刃部としての調整は、極めて大雑把な剥離が裏面を打面として右側縁から末端にかけて施されているが、これと平行して数回の剥離が上面（石核の時の打面）より行われており、器体か刃部を薄くしようとする意図があったことが推定されるものである。この推定を補足するように、裏面の上端には上面を打面とした荒い剥離が加えられており、素材の整形も削器の製作と同時に行われていたことが窺えるものである。そして、この様な製作過程で欠損し、廃棄されたものと思われる。

ノッチ（第57図89）

３点が接合して89のノッチになったもので、資料数３点はノッチと加工痕のある剥片と剥片の各１点に分類されている。上下両端に打面が設置されている両設打面石核から剥離された、やや幅広な縦長剥片を素材とし、その両側縁に内湾した刃部が作製されているものであることから、左右両側縁をノッチとして機能させている例である。刃部は全て主要剥離面側からの調整で製作され、右側縁には強靭な厚手の刃部が素材の縁辺を抉り取るようにして形成されていたが、左側縁ではやや細かな剥離で小さな弧状の刃部が製作されており、左右の刃部では調整の仕方や状態に幾らかの相違が認められている。右側縁の使用頻度は高かったようで、刃部の縁辺は潰れが著しい。

彫　器（第57図90）

一応彫器として理解したが、樋状剥離と考えられる剥離が彫器として目的的に施されたものかの判定が難しい状態のものである。それは、素材に利用された幅広の石刃の末端を折断し、この折断面の左端（図では右側縁上端）に細かな調整が施されていることと、樋状剥離と考えられる剥離を行う前に右側縁（図では左側縁）の縁辺を２～３回の剥離で除去し、この後に上端の折断面を打面とした樋状剥離と考えられる剥離が施されているが、この樋状剥離と考えられる剥離とそれ以外の剥離作業の関連性を認めることができない状

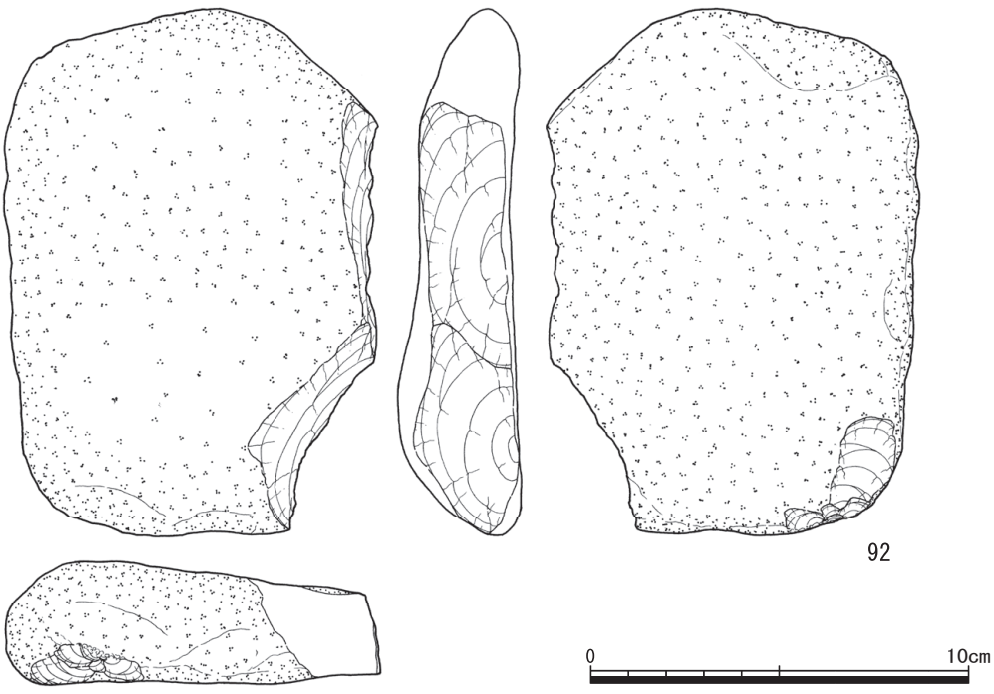
態にある。したがって、素材に対して樋状剥離と考えられる剥離を単独で施しただけのものであり、後述する第Ⅲ文化層の彫器が、樋状剥離を施す前に十分な器体調整を行っている状態とは大きく相違するものである。以上のようなことから、彫器として理解するには不安のあるものであることを明らかにしておきたい。

ピエス・エスキーユ（第57図91）

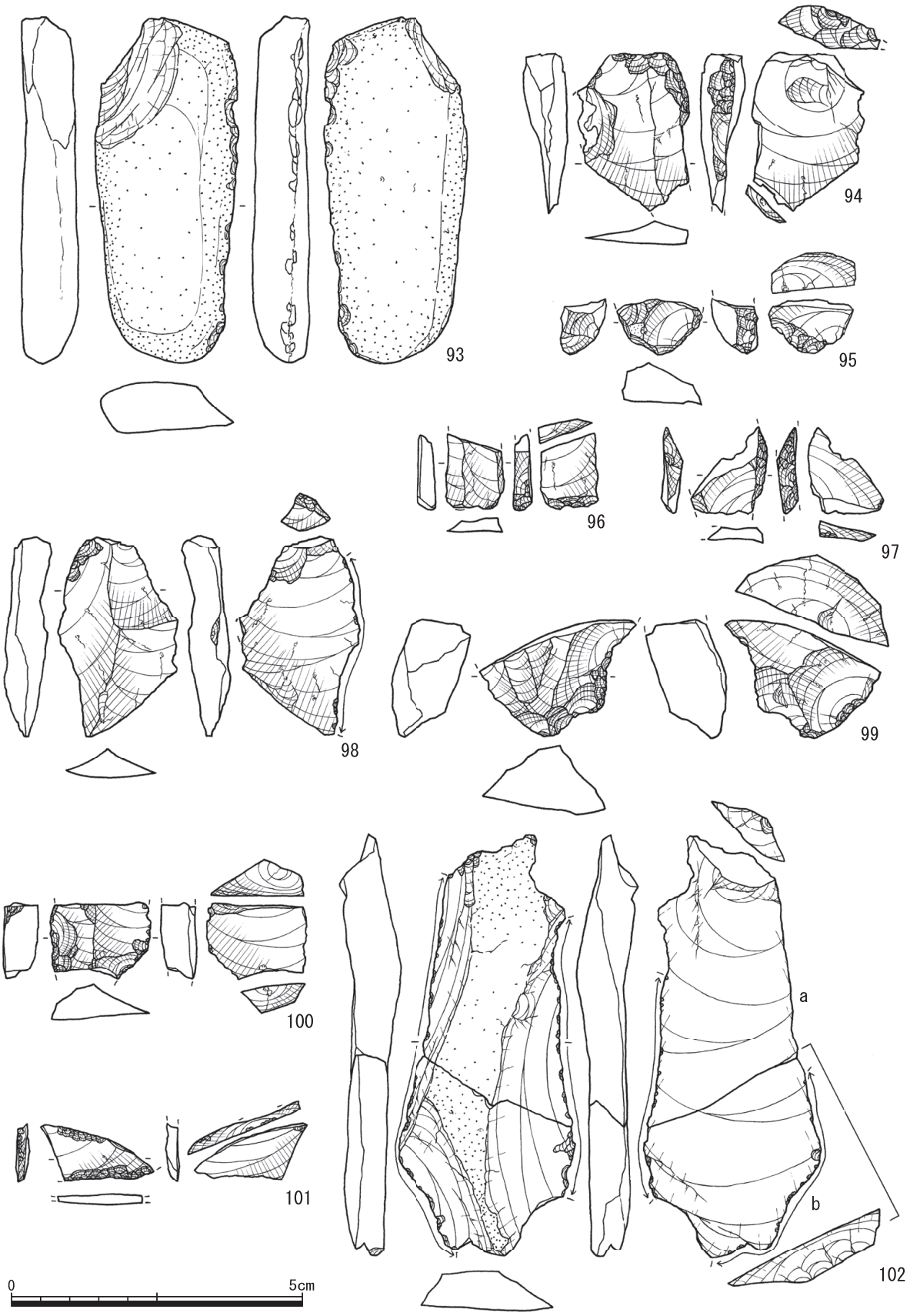
所謂「両極打法」によって構成されているもので、１点が確認された。ただ、上部は打面のような剥離面で構成され、正面はこの面からの剥離によって形成されているとともに、下端をも剥落してしまっているものである。この後、石器を90度転位して両側縁で両極打法が加えられ、左側縁では小さな階段状剥離が表裏面で形成されている。これに対して右側縁は厚みのある鈍角な縁辺であり、縁辺には打撃による潰れが認められるものの、左側縁で認められた階段状剥離は小範囲で確認される程度であった。したがって、両極打法が確実に行われていたのは左右だけであり、上下方向は下端が剥落してしまっているので、上面からの剥離が両極打法によるものなのかは判断できなかった。

叩　石（第58図92）

偏平なやや大形の礫の下端に敲打によると思われる潰れと、衝撃による剥離が認められるものである。素材の礫は長方形か五角形の形状で、敲打によると思われる潰れは礫側縁のコーナー部が利用されており、打撃力が集中する部位が選択されていることが窺える。ただ、潰れている部分は小範囲であり、継続的に長期間使用されたものではないことが推定されよう。また、右側縁に裏面を打面とした大きな剥離が２回程加えられている。この剥離は大形の敲石を持ちやすくするために幅を狭めようとしたのか、あるいは重さを減らそうとしたものと考えることができると思われる。重量は623gであった。



第58図　第Ⅱ文化層出土石器（10）



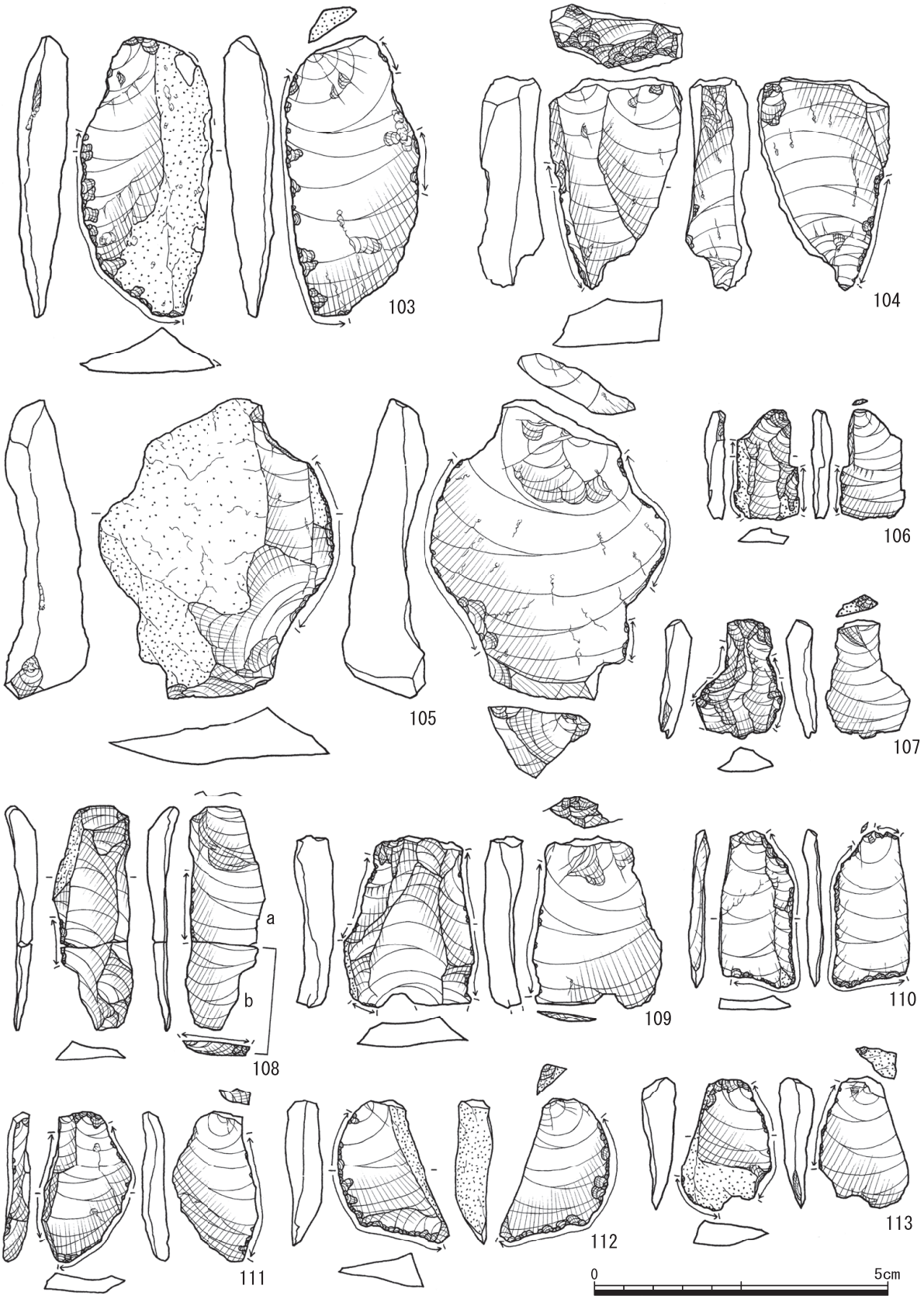
第59図　第Ⅱ文化層出土石器（11）

ハンマー・ストーン（第59図93）

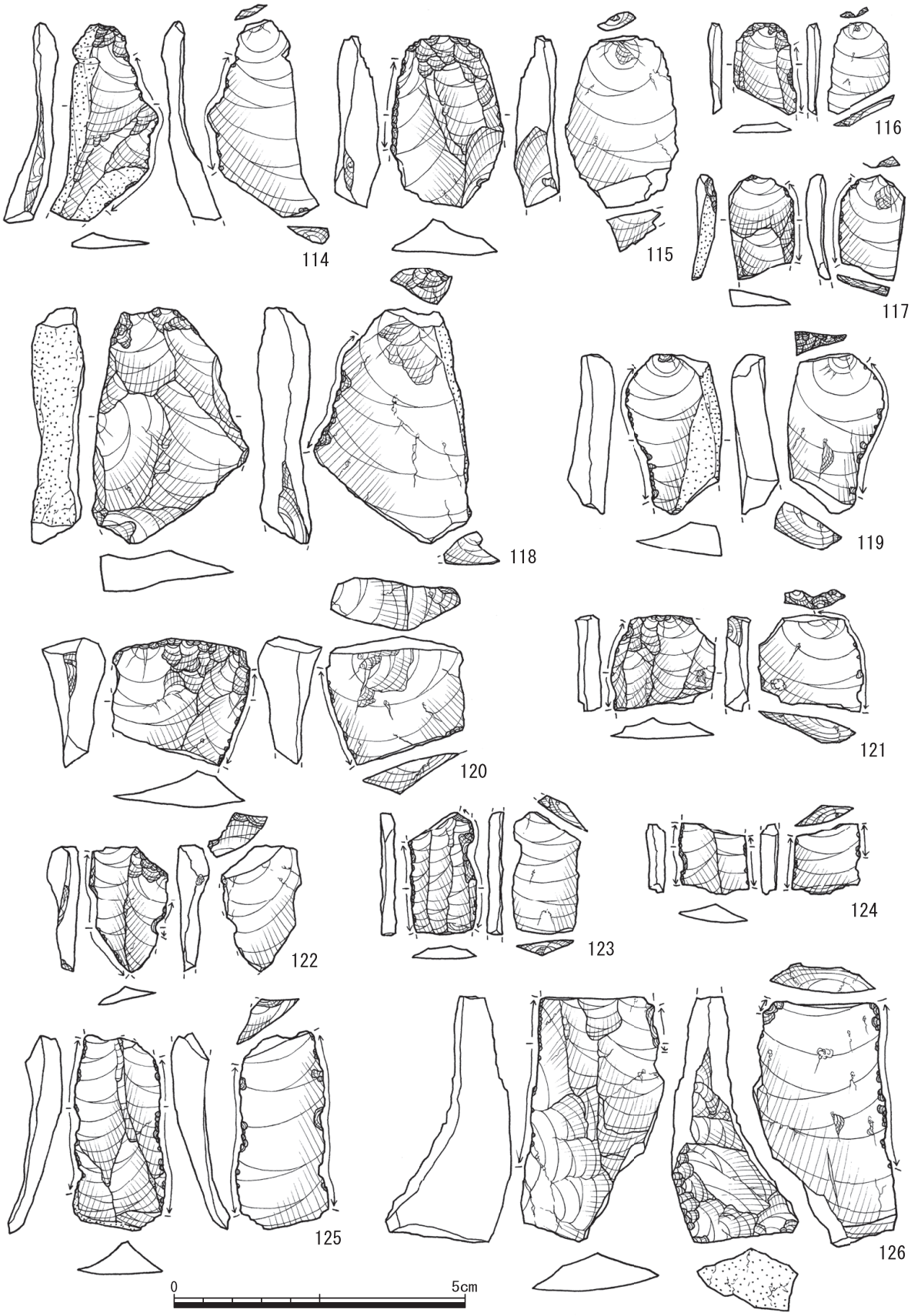
当地方では、あまり石器素材として利用されることのない粘板岩製のハンマー・ストーンで、最大長が約６cm程の細長い礫である。上端の左コーナー部に敲打によると考えられる剥離が表裏両面に認められているもので、敲打の集中による縁辺の潰れは認められていないが、あったとしても剥落してしまった可能性があるものである。そして、右側縁にも表裏面に細かな剥離が認められるが、これにも潰れた部分があまり認められないことから、礫そのものに自然営力で加えられた剥離である可能性もあると考えられるため、ハンマー・ストーンとして利用されたのは、上端の左コーナー部分だけであったことが推定されるものと思われる。

加工痕のある剥片（第59図94～101）

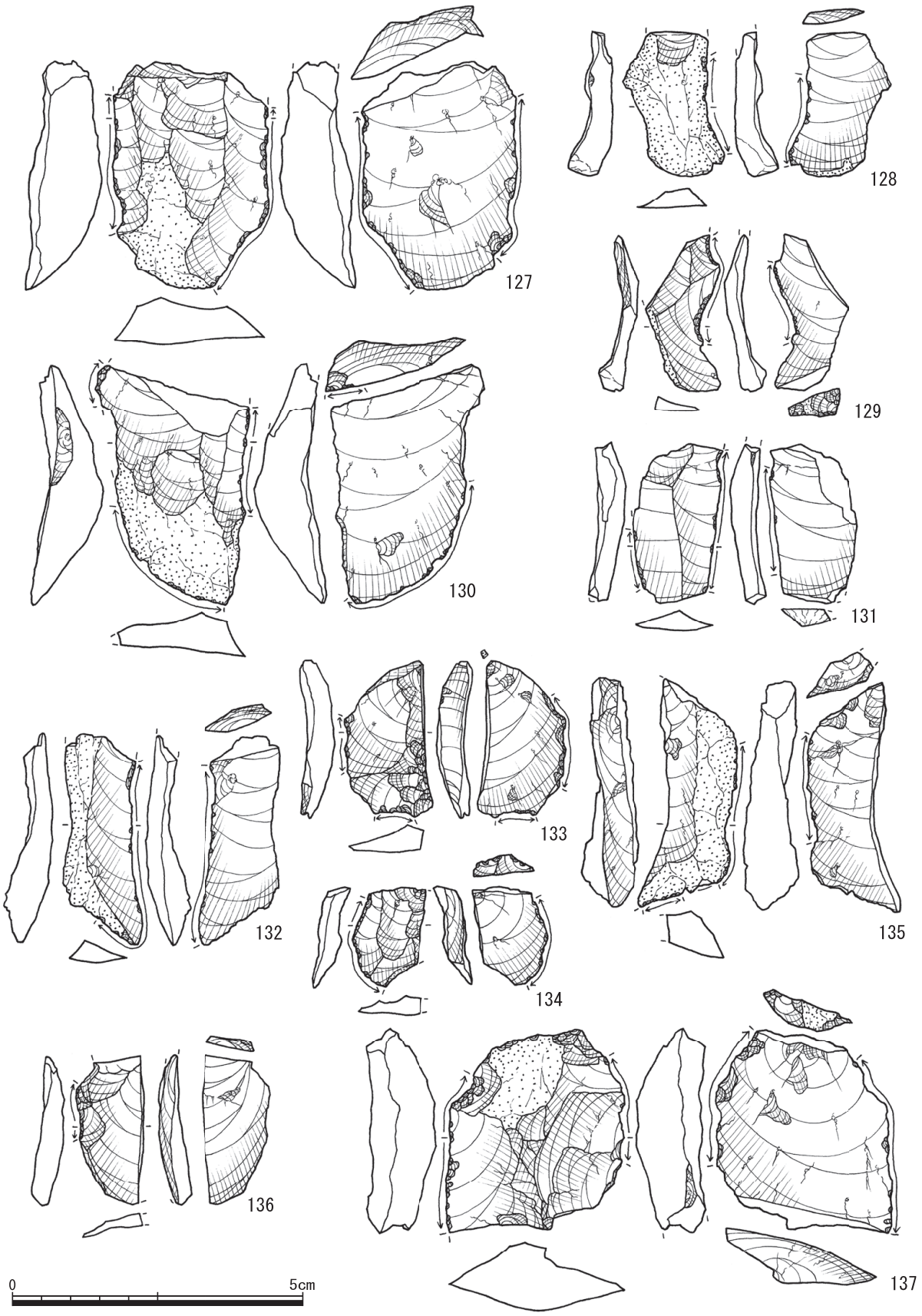
９点確認されているが、前述したノッチ（第57図89）に折断面で接合するものがあり、残りの８点を図示した。98を除いて調査前や調査時に欠損したものが多く、全体的な形状が推定できるものは少なかったが、調整加工の状態で急斜な剥離でブランティング状の調整が施されているもの（94～97）、面的な剥離が施されているもの（98～100）と、細かな剥離で削器の刃部のような調整加工の施されているもの（101）が存在していた。94には素材の右側縁を除去するような荒い調整を、主要剥離面側から施しているもので、素材末端を欠損するものである。95～97は急斜なブランティング加工が施されているもので、この内の95には剥離面側からの調整も含まれており、より急斜な整形が行われていることが理解されるとともに、舌状の基部を製作していたことが考えられる例である。そして主要剥離面側にも調整が加えられていることから、状態としてはナイフ形石器の基部である可能性の高いものである。96には右側縁と下端に、97には右側縁にブランティング加工が観察できるものであるが、96の右側縁では素材を折断するような剥離に細かな剥離が加えられているもので、これらは主要剥離面から施されているのに対し、下端の調整は剥離面を打面として主要剥離面側に向かって調整されており、調整部位で調整方向が違う例である。97の右側縁には急斜で丁寧な調整が主要剥離面側から施されているもので、ナイフ形石器の断片である可能性のあるものである。98は縦長剥片の打面部に、両側縁から数回ずつの調整を施しているもので、左側縁では両面加工、右側縁側は主要剥離面側だけの片面加工となっている。主要剥離面側では打瘤部の除去が行われていたようであるが、上端では素材の打面も大きく残り、若干ではあるが打瘤部も残存していることから、何らかの器種の製作を試みたものと考えられるものの、調整始めの段階で放棄されてしまっているものである。主要剥離面側の右側縁には、使用痕と思われる細かな剥離が観察される。99には両面加工が、100では片面加工の面的剥離が施されているもので、調整の仕方から尖頭器か、或いは削器などの面的剥離が加えられる器種の断片（欠損品）である可能性の高いものである。99には表裏両面の右側縁側から荒い調整加工が施されているが、左側縁側では素材の剥離面や主要剥離面（裏面）が残っており、両面加工ではあるものの一方の側縁に両面加工が加えられている箇所は認められなかった。したがって、製作段階としては極めて早い段階に欠損したものであることが推定できるものと思われる。100は素材の末端側に両側縁から片面加工を加え、器体を絞ろうとしているようであるが、両端を欠損するため全体的な形状は不明である。調整の多くは面的加工であったが、左側縁上端にブランティング加工のような急斜な調整が細かな剥離で施されており、統一された調整によって製作されていないことが理解されるものと思われる。101は、断片のため全体的な形状は想像できないものである。素材末端に主要剥離面側から細かな剥離が施されているもので、縁辺が幾分潰れていることから削器の刃部片である可能性のあるものである。



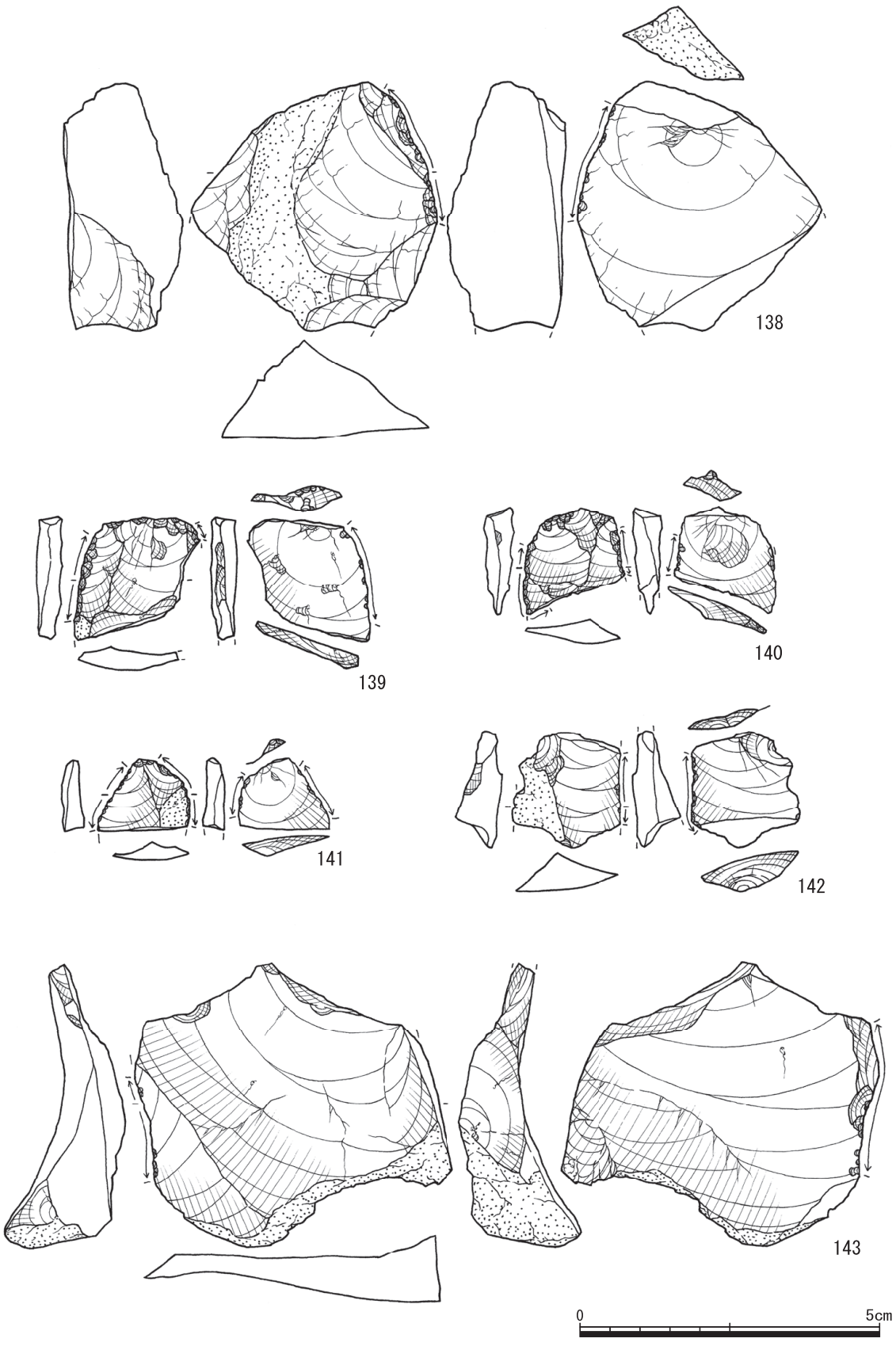
第60図　第Ⅱ文化層出土石器（12）



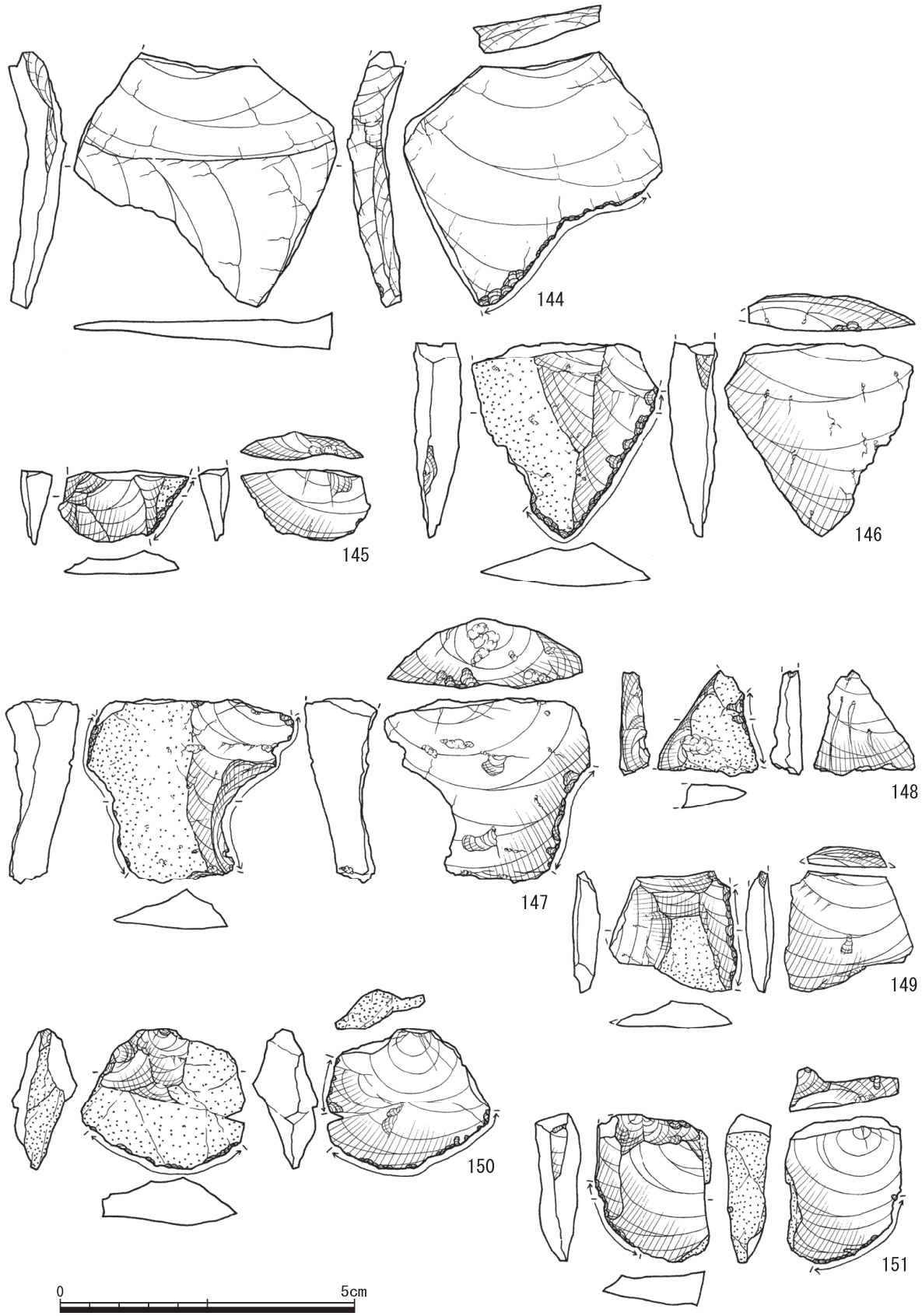
第61図　第Ⅱ文化層出土石器（13）



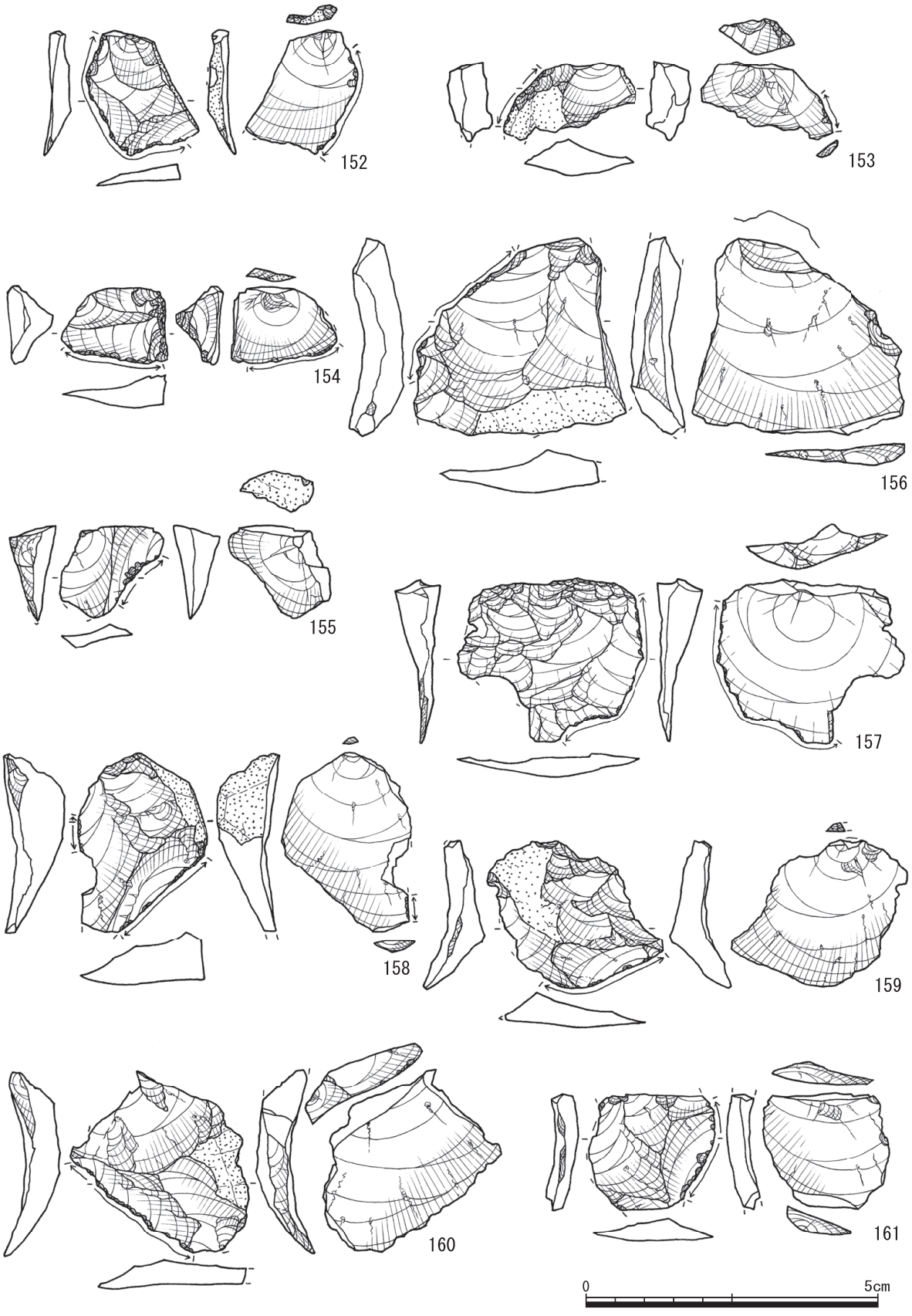
第62図　第Ⅱ文化層出土石器（14）



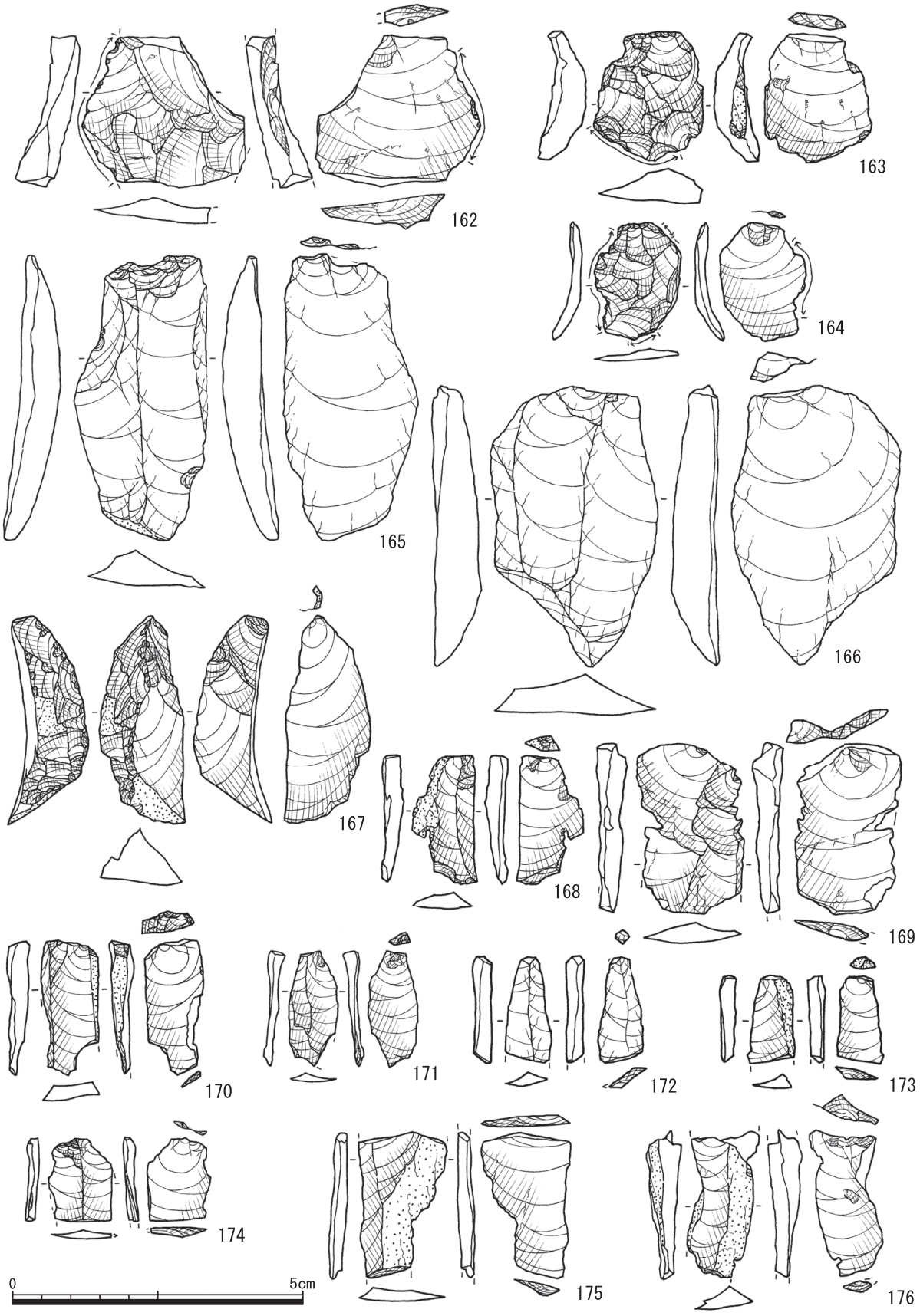
第63図　第Ⅱ文化層出土石器（15）



第64図　第Ⅱ文化層出土石器（16）



第65図　第Ⅱ文化層出土石器（17）



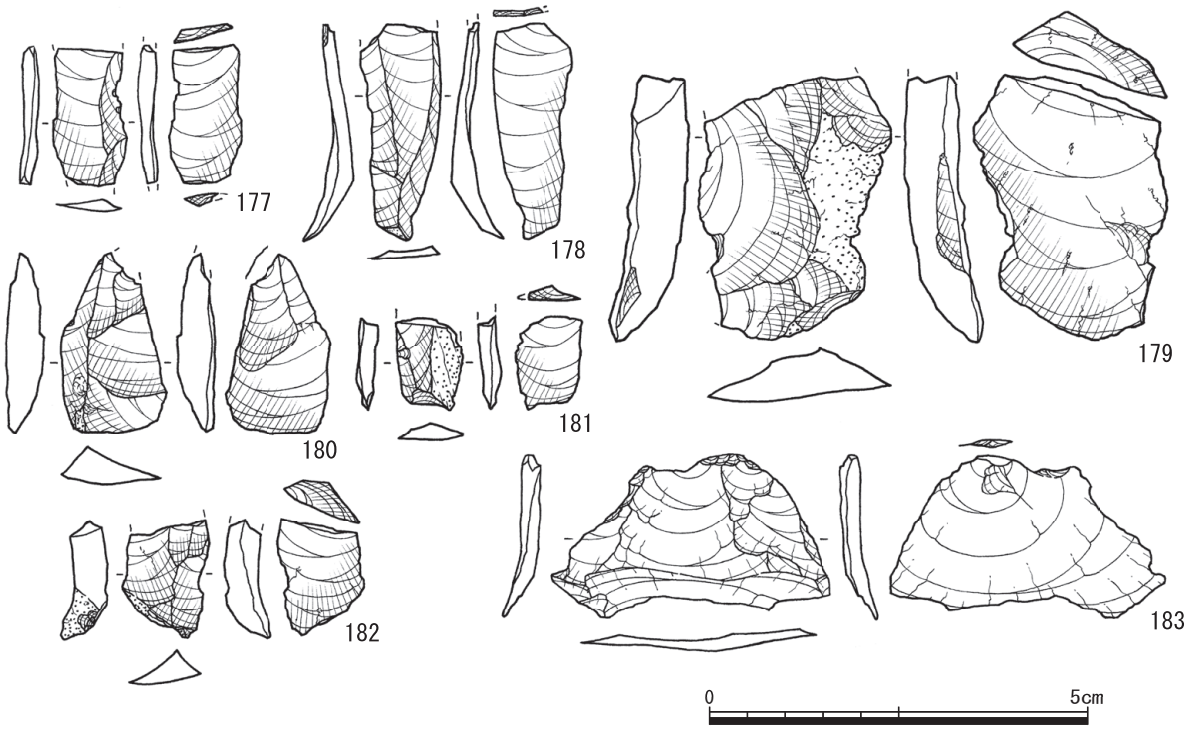
第66図　第Ⅱ文化層出土石器（18）

使用痕のある剥片（第59図102～第66図164）

多種多様な形状を呈する素材の縁辺に、使用によると考えられる微細な剥離が観察されるものである。これらに利用されている素材は、縦長剥片や石刃のもの（102～113）と、折断剥片や折石刃のもの（114～149）、縦横の長さに大きな差のない剥片（150～152）、横長剥片で殆どがポイント・フレイクと思われるもの（153～164）に大別される。使用痕のある剥片は64点が確認されているが、この内の２点が折断面で接合したことにより、図示したのは63点である。使用痕と考えられる微細な剥離は、左右側縁のいずれかに認められるものが大部分を占めていたが、素材剥片の形状的な特徴から横長剥片や縦横の長さに大きな差のない剥片では、素材末端に微細な剥離が認められるもの（144・150～152・154・155・157～160・163・164）があり、素材剥片の形状によって鋭い縁辺ができる部位が異なることに対応した状況となっている。したがって、素材剥片に求められる特徴は、第一義的には側縁に鋭い縁辺が形成されていることであり、縦長素材の方がこの様な要件を満たす度合いが高いものの、使用可能な縁辺が形成された横長剥片も利用されていたことが理解されるものと思われる。縦長素材のものでは、左右両側縁に使用によると考えられる微細な剥離が観察されるものが多いが、中には一方の側縁だけに微細な剥離が認められるもの（104・110・112・114～120・128・129・132～136等）も存在していたが、これらの殆どがもう一方の側縁が自然面であったり、鋭い縁辺が形成されていなかったものであり、使用に適していなかったことが窺えるものであった。また、この様な微細な剥離の認められる縁辺は表裏両面で観察されるものが多かったが、中には表面だけに認められるもの（107・109・111・115・116・122・123・131・136・146～149・155・156・158・161・163・164）と反対に裏面だけに観察されるもの（105・118・144）があり、それぞれの縁辺で使用頻度や使用方法に違いがあったことが推定できるものと思われる。

石刃・折石刃（第66図165～第67図182）

18点が確認されたが、今まで見てきたようにナイフ形石器や尖頭器、掻器、掻器＋ノッチ、使用痕のある



第67図　第Ⅱ文化層出土石器（19）

剥片等の素材にも石刃が利用されており、その生産量は現在の出土比率以上であったことが想像されるものである。これらは、欠損している折石刃を含めても５cm以上の大きさのものは稀で、大部分のものが５cm以下のもので占められていた。中でも168・170～174・177・181・182のような長さが２～３cmで、幅が１cm強の小形の石刃も生産されており、目的とする石刃の大きさが総体的に小形化していることが理解されるとともに、ナイフ形石器等が３cm前後のものが多いことと整合する状態である。多くのものが剥離面と主要剥離面が同一方向の剥離によって構成されており、これらは上部に打面を設置した単設打面石核から作出されていることが判断されるものと思われる。ナイフ形石器や掻器＋ノッチ、使用痕のある剥片等の素材の中には、剥離面と主要剥離面が180度剥離方向の違う剥離で構成されているものがあり、出土量は少ないものの石刃の中には、上下に打面が形成された両設打面石核から剥離されたものがあったことが理解されよう。さらに、167の稜付石刃では稜の右側面を打面とした調整剥離が左側面に施されているが、この調整剥離を行う前には左側面を打面とした剥片剥離が右側面に施されており、主要剥離面の剥離方向とは90度異なる剥片剥離が行われていたことが理解できるものと思われる。また167には、末端部に存在する自然面を打面とした主要剥離面の打撃方向と 180度違う調整剥離を左側面に施しており、90度と180度の打面転位を行いながら剥片剥離が進められていたことが推定されるものであった。

以上のように本文化層での石刃は、比較的小形のものが量産されている傾向が高いとともに、石刃の多くは単設打面石核から剥離したもので占められていた。只少数であるが、中には180度、90度の打面転位を行う工程から生産された例も確認されており、限定された工程に頼ることなく多様な剥片剥離工程を駆使していることが判断されると思われる。

ポイント・フレイク（第67図183）

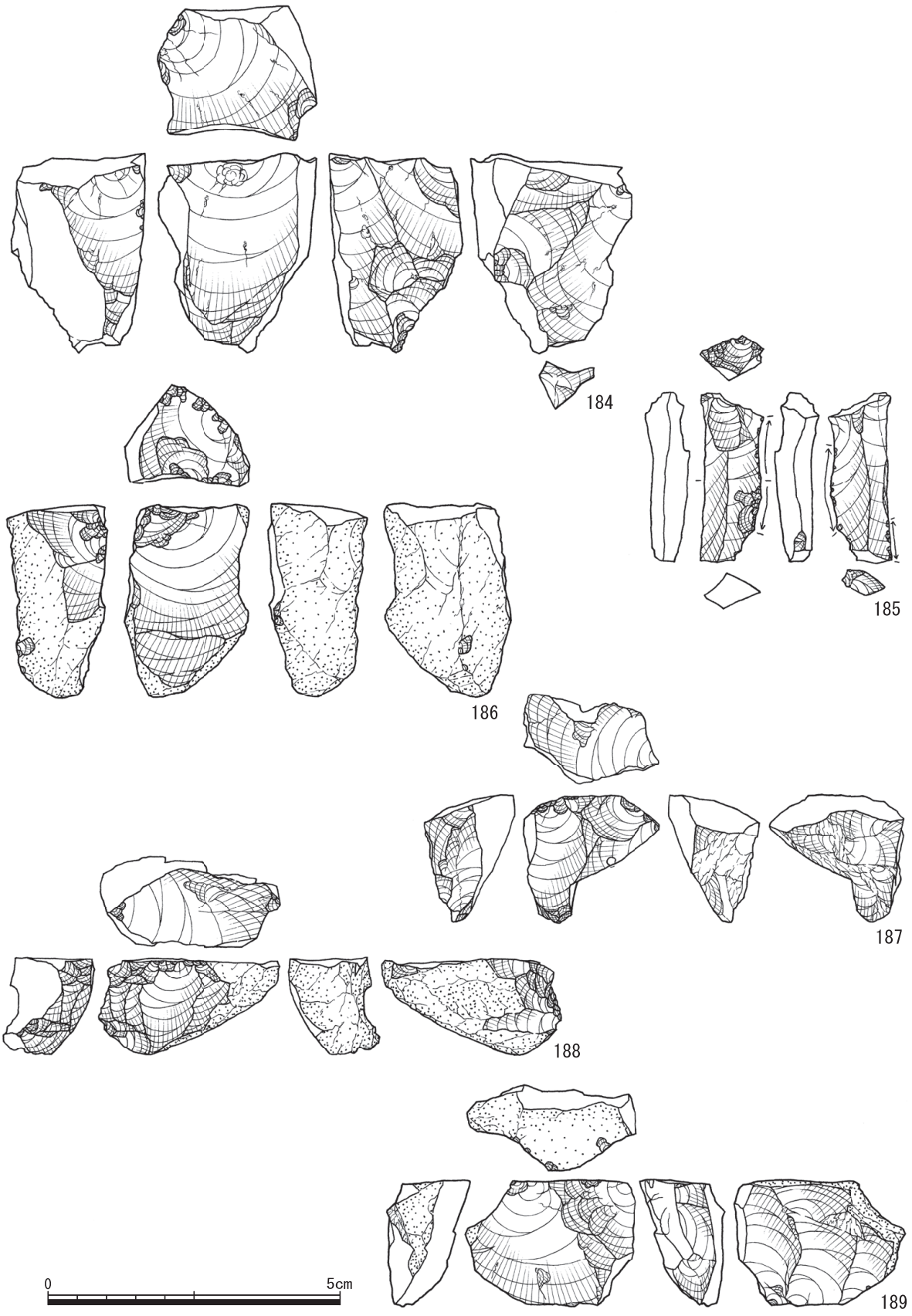
使用痕のある剥片に用いられたものも含み、多くのポイント・フレイクが出土しているが、典型的なものを１点図示した。形状は横長剥片で、末端部が主要剥離面側にやや湾曲するような反りが認められるものである。打面は主要剥離面の上端に存在しているものの小範囲で、しかも打面と主要剥離面で形成されている角度は小さく、素材剥片を生産するような剥片剥離技術の状態とは大きく相違する内容となっている。表面の剥離面には主要剥離面と同一方向の剥離と180度剥離方向の違う剥離痕が認められ、しかも平行移動するように打点を移動しながら剥離したと考えられる複数の剥離痕が､上下二方向から施されているものである。この様な剥片剥離の状態は尖頭器製作の調整技術と共通しており、183が尖頭器製作に際して剥離された調整剥片であることが推定できるものと思われる。

石　核（第68図184～第69図194）

11点が確認され､剥片剥離方向と石核の状態から４類に大別される。それらは所謂単設打面石核（ａ類）と、90度、180度の打面転位が行われているもの（ｂ類）、礫素材の石核に対して直接的に剥片剥離が加えられているもの（ｃ類）、求心的な剥片剥離が行われているもの（ｄ類）であり、石核のあり方や状態からは良好な剥片剥離が行われたと考えられるものは、極めて少ないことが想像される内容となっている。

ａ類（第68図184～186）

３点が確認されたが、ともに多くの剥片剥離が行われたとは考えられないもので、中でも185は剥片素材の石核で正面に素材の主要剥離面が残っているものである。184は唯一ある程度の剥片剥離が行われたと考えられるもので、表裏と左右両面の四面に上設打面からの剥片剥離が認められるものである。ただ、これら



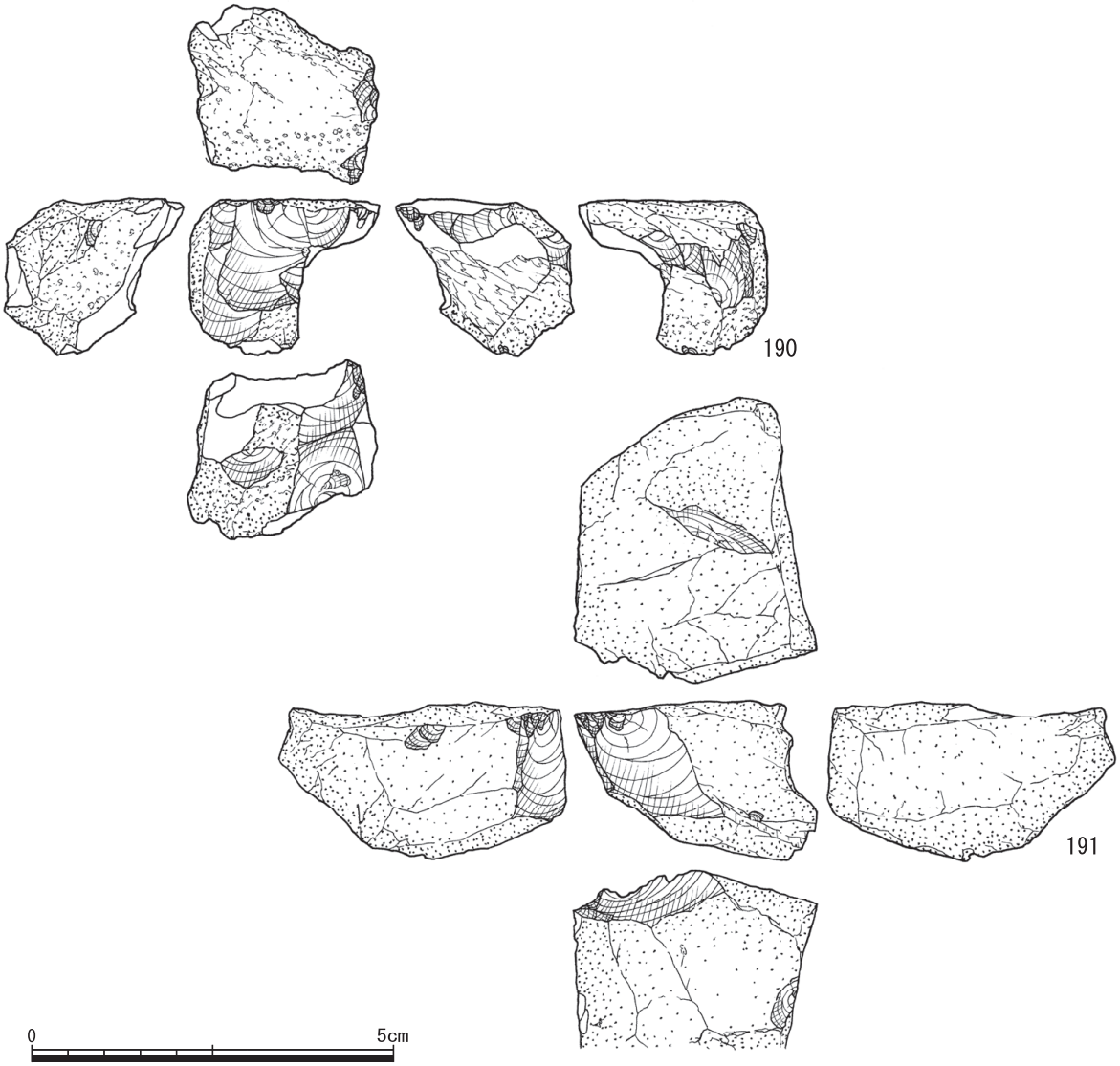
第68図　第Ⅱ文化層出土石器（20）

の上設打面からの剥離は、左側面より施されている石核の上部を除去するような打面再生剥離によって全て切られており、現在の打面から行われた剥片剥離は確認できなかった。右側面と裏面には、上設打面以外の剥離が認められるが、これらの多くは上設打面からの剥片剥離によって切られており、石核を作製する時の形成剥離である可能性の高いものである。したがって、剥片剥離を主体的に行っていたのは正面と左右側面の一部であったことが想定できるが、正面には剥片剥離作業面の殆どを剥離してしまうような剥離が認められており、石刃のような目的的剥片を量産していた可能性は低いことが想像できるものと思われる。185は厚手の石刃と思われる素材に対して数回の剥片剥離を行っているもので、前述したように正面右側に素材の主要剥離面が残っているものである。剥片剥離は正面左側に行われた２回の剥離で、その内の一枚の剥離では素材を半截するような状態で上設打面から施されているものの、素材の制約のためこれ以上の剥離を施すことなく剥片剥離は終了されている。なお、剥片剥離の打面は素材の打面がそのまま転用されているようであったが、新たな打面調整を行っているかどうかは判断できなかった。また、剥片剥離後に何らかの利用が行われているようで、両側縁に使用痕と思われる細かな剥離が観察できる。186は小礫を素材とした石核で、表面と左側面を剥片剥離作業面としているものである。正面の数枚の剥離は現打面から剥片剥離されているが、上設打面をみると打面再生剥離が行われているようであり、表面下端や左側面の剥離は打面再生剥離以前の剥離である可能性のあるものである。しかし、正面上部の剥片剥離の後に、左側面の上部に正面を打面とした調整剥離が施されているが、この剥離が石核調整を意図したものか、或いは左側面に剥片剥離作業面を移動しようとしたのかの判断はできないが、これ以上の剥離が加えられていないことから、剥片剥離の対象としては難しい内容であったことが想像できるものと思われる。なお、打面には打面再生剥離後に正面と裏面から数枚ずつの調整剥離が施されているが、この後に良好な剥片剥離が施された痕跡は認められないことから、必要性の感じられない調整となっている。この様に186も良好な目的的剥片を生産している可能性は低いもので、剥離された剥片は定型的な形状ではなかったことが推定できるものである。

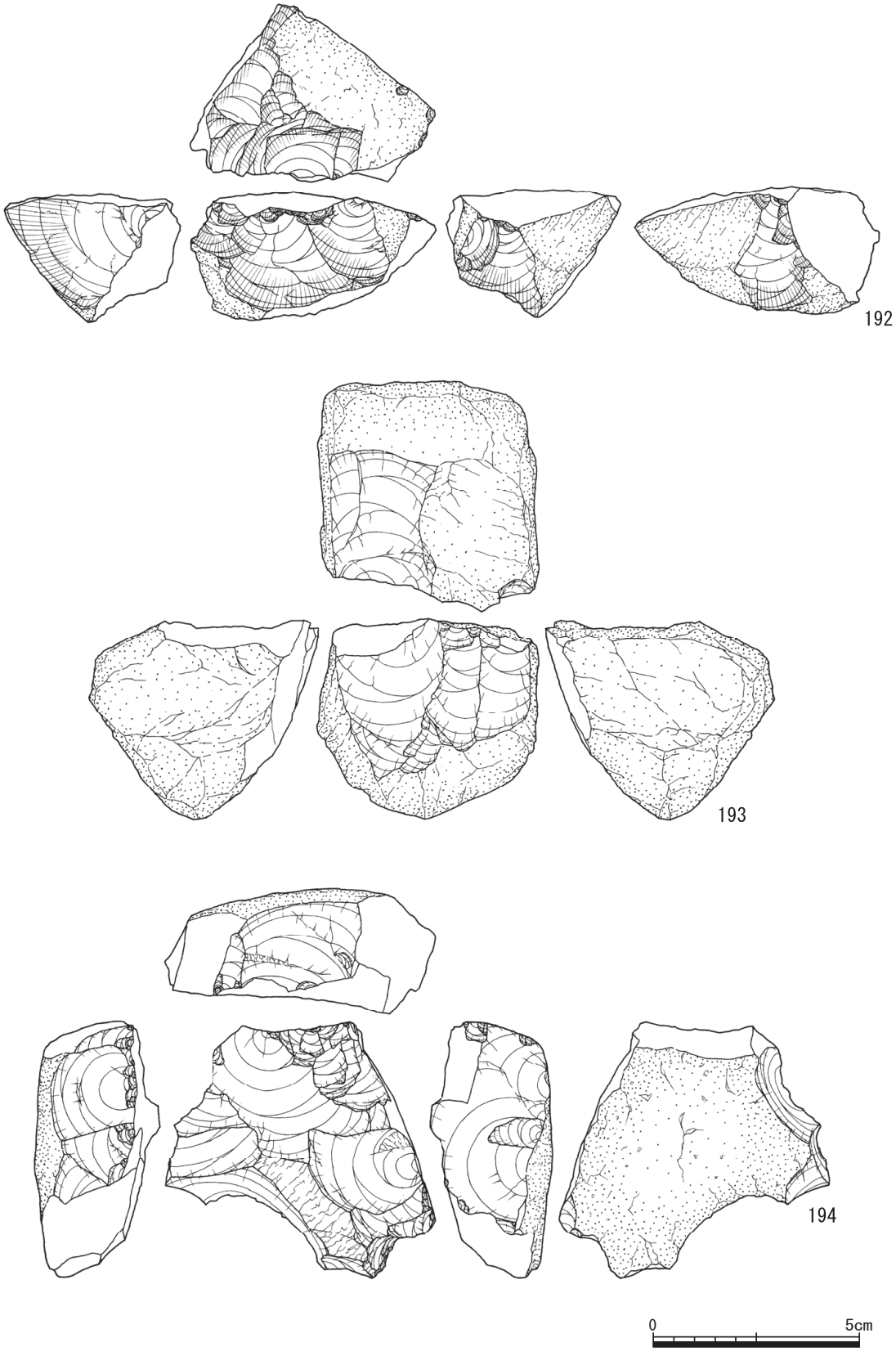
ｂ類（第68図187～189）

小形の石核で、剥片剥離の中に90度や180度の打面転位を組み込んでいるもので、３点が確認されている。187と189には90度と180度、188には90度の打面転位が行われているが、現状では上設打面が存在するだけであり、剥片剥離の進行とともに剥離されてしまっているもの（187・189）や、正面の剥片剥離作業面の一部を打面として裏面に剥片剥離を行っているもの（188）が認められている。 187では正面と左側面が剥片剥離作業面となっているが、右側面から裏面にかけては節理面によって剥落しているため、どの様な面形成が行われていたかは不明である。正面を構成している剥離は上設打面からの剥離で占められていたが、石核末端には末端方向からの細かな剥離が認められ、左側面では上下二方向と正面方向の三方向の剥離が確認されている。前述したように現存する打面は、一枚の剥離面で構成されている平坦打面の上設打面だけであったが、左側面には正面の剥片剥離方向とは90度、180度剥離方向の違う剥離が認められており、明確な打面が存在していたかは明らかではないものの、それらの方向から剥片剥離が行われていたことは事実であることから、打面を頻繁に転位しながら剥片剥離が進められていたことが理解できるものと思われる。188は小礫を石核としたもので、上部に打面（平坦打面）を形成して正面に剥片剥離が加えられているが、それ以外の石核調整等と考えられるような調整剥離は殆ど認められない例である。そして、188の剥片剥離作業面の長さは２cm弱であり、この作業面から剥離された剥片が何らかの器種の素材として利用されることが可能であったのか、不安の大きい状況を示していた。正面から左側面にかけて加えられた剥離面を打面として、裏面に向かって十数回の細かな剥離が行われているが､これらの剥離は左側面を抉るようにして施されており、

結果的に左側面が剥片剥離作業面として機能できない状態になってしまっている。したがって、打面を転位して裏面に剥片剥離作業面を形成しようとしたものと考えられるものの、裏面への剥離の多くが細かい階段状剥離となってしまっており、剥片剥離作業面の製作に失敗した可能性の高いものである。本例も形状が一定するような目的的な剥片を量産することは不可能であり、不定形な剥片が剥離されていたことが推察されるものと思われる。189は正面では上設打面、裏面が下設打面からの剥片剥離が行われているものであるが、下設打面は正面の剥離によって剥離されてしまっており、現存はしていないものである。そして右側面には正面を打面とした剥離が認められるが、この剥離は上部を正面の剥離によって、下部を裏面の剥離によって切られており、正裏面に残された剥離より古い剥離であることが判断されることから、剥片剥離工程の中に90度と180度の打面転位が組み込まれていることが理解できるものと思われる。上設打面は自然面であり、正面の剥片剥離を施すのに際して打面調整等の剥離は認められないことから、剥片剥離に付随するような調整を行うことなく正面の剥離が行われていることが判断される。したがって、189に加えられていた剥片剥離工程は、あまり打面や石核へ調整剥離を加えることなく、打面形成した後に直接的に剥片剥離が行われているとともに、この剥片剥離面を打面に転用して90度剥離方向の違う剥離を行っており、剥片剥離技術とし



第69図　第Ⅱ文化層出土石器（21）



第70図　第Ⅱ文化層出土石器（22）

ては簡略化した工程となっている。この様な工程からは、189も一定した形状の剥片を生産することは難しいことが推定されるとともに、剥離される剥片に対して求めるものが稀薄になっていることが理解できるものと思われる。

ｃ類（第69図190～第70図193）

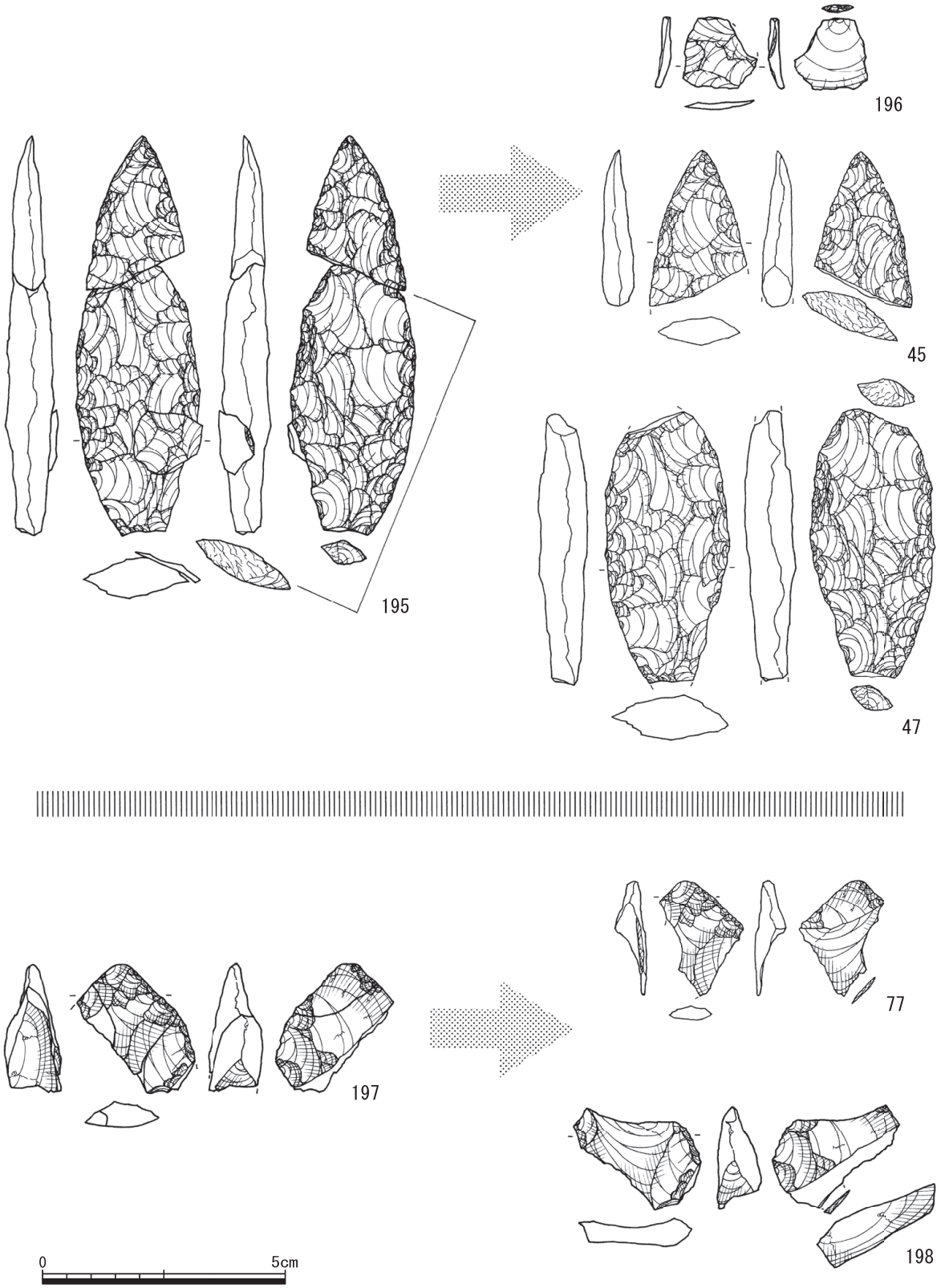
これも礫素材の石核で、自然面を打面として剥片剥離だけ施されているもの（190・191）と、剥片剥離と打面形成剥離が認められるものの、この二つの作業面が固定されていない可能性が高いもの（192・193）がある。190は上面の自然面を打面とし、正面に数枚の剥片剥離を行っているものであるが、この工程内で右側面側が節理面によって剥落したようであり、この後には剥片剥離を続けることなく放棄されたことが推定されるものである。ただ、右側面側の剥落時に裏面や下面に偶発的に剥離したと思われる不規則な剥離痕が存在しているが、これは意図的な剥片剥離とは考えられないことから、190でも正面に施されている剥片剥離以外は行われなかった可能性が高く、極めて限定的な剥片剥離であったことが想定できるものと思われる。191はやや偏平な礫の小口部に剥片剥離が加えられているもので、最も広範囲な面である上面は打面として利用していることから、それ程大きな剥片は求めていなかったことが判断されるものである。剥片剥離は複数回施されているが、前述したように素材の小口部を剥片剥離作業面としていることから、２cm以上の大きさの剥片を作出するのは極めて難しい状況にあることは明らかで、本例も小形の剥片を生産する石核であったことが推定されるものと思われる。192と193は上面に打面を、正面に剥片剥離作業面を形成しているものであるが、193を見てみると正面の剥片剥離は上面の自然面を打面として行われたもので、この後に正面の剥離面を打面として上面の剥離が施されており、剥片剥離作業面と打面の役割を交互に入れ替えながら剥片剥離作業が進められていたことが判断できるものである。192も現状では上面を打面とした剥片剥離が正裏面と右側面に認められるだけで、これらの剥離痕を打面とした剥片剥離は上面に加えられてはいないが、正面の剥片剥離を行う前には打面である上面に６～７回の剥片剥離を行っており、剥片剥離作業面と打面を交互に入れ替えながら剥片剥離作業を行っている工程は 193とも共通するものである。そして、前述したｂ類の石核とも工程が類似しており、当該期の特徴的な剥片剥離技術であった可能性が高いものと推察されるものである。

ｄ類（第70図194）

正面の剥片剥離作業面に対し、求心的な剥片剥離が行われたもので１点が確認された。打面は上下左右の４面に形成され、現在の剥片剥離作業面には上面と左右両面からの剥片剥離が施されており、今まで見てきたａ～ｃ類の石核では打面転位を行うと剥片剥離作業面が他の面に変更される例が殆どであったが、本例は打面を転位しても同じ剥片剥離作業面で剥片剥離が継続されているものであり、大きな相違があるものである。下面は裏面の自然面を打面として形成されているが、石核を抉るような剥離となってしまっており、打面形成に失敗した剥離であったようで、この後には剥片剥離を施すことなく放棄されているものである。なお、正面の剥片剥離を行っている中で、左側面に打面調整剥離を施しており、打面を整えながら剥片剥離作業が進められていることが理解できるものと思われる。

ｂ．接合資料

整理作業の中で得られた接合資料を図示したが、残念ながら多くの資料が接合するような個体を抽出することはできなかったものの、器種や剥片剥離に関するもので特徴的な接合が認められたものを図化したもの



第71図　第Ⅱ文化層出土石器（23）

である。それらは尖頭器製作に関するものと、削器の製作に関係するものと、剥片剥離に関するものであり、遺跡内でこれらの石器製作が行われた可能性が高いことと、剥片剥離も行っていたことが予想できるものと思われる。

個体別資料番号№78の接合（第71図195・196・45・47）

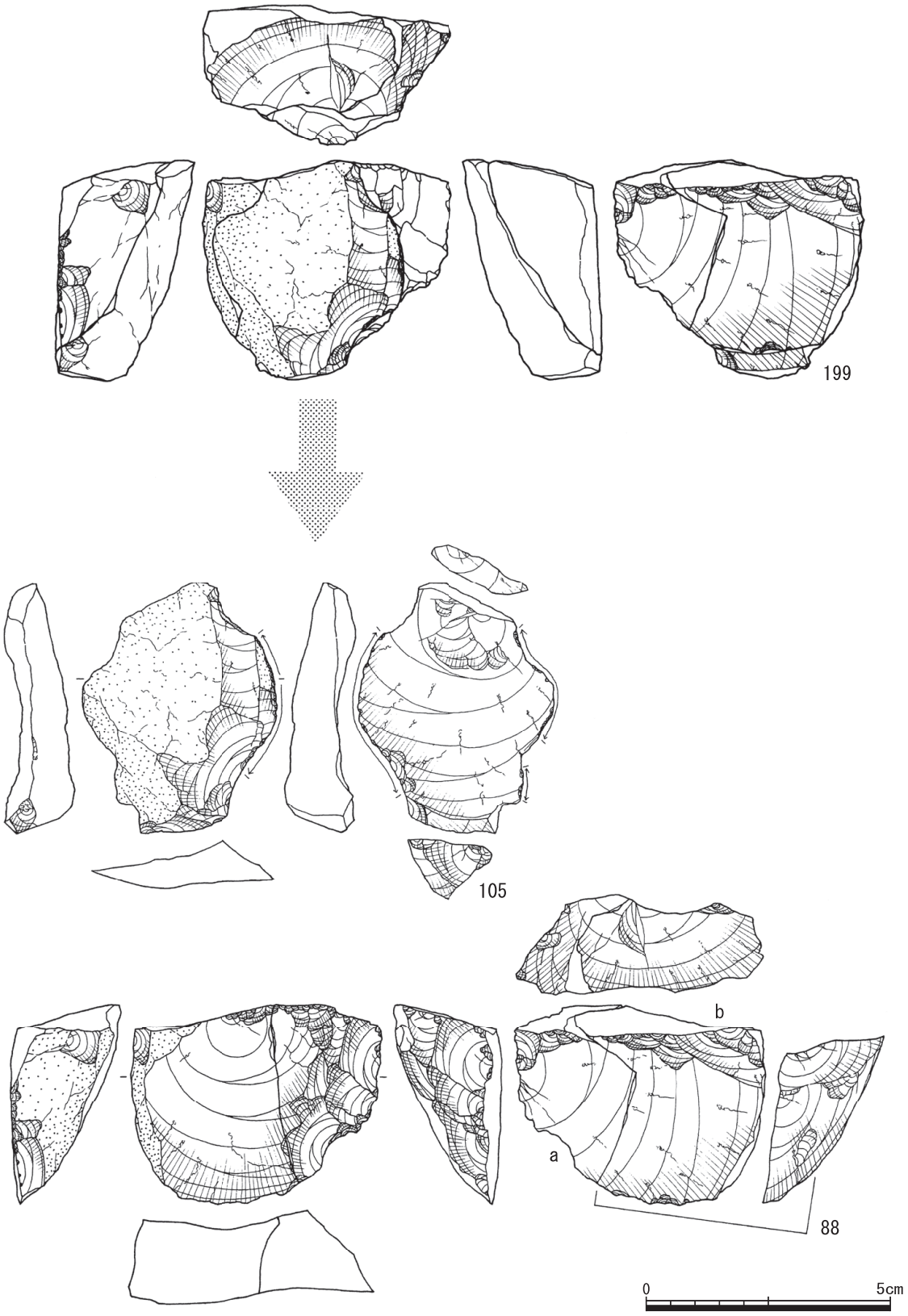
尖頭器２点（45・47）と調整剥片１点（196）の接合で、195はこれらの接合状態である。尖頭器２点は欠損面で接合しており、欠損前には比較的大形の柳葉形を呈する尖頭器で、完成品であったことが接合状態から判断されるものである。欠損は素材に内在していた節理面から生じており、何らかの衝撃が原因となり欠損してしまったことが推察される状況である。この後で45はそのまま放棄されているが、47には右側縁の表裏両面に調整剥離を施しており、正面の基部近くから196が剥離されている。この196剥離後も、右側縁の表裏両面と左側縁の表裏両面に調整を加えており、最初の大きさの三分の一程度の大きさで木葉形の尖頭器に再生しようとしたことが判断できる状態を示していた。しかしながら、再度先端部を製作するまでの調整剥離が進んでおらず、何等かの原因で調整を終了し放棄されてしまったものである。個体別資料番号№78は８点の資料数で構成されていたが、全て第12ブロックから出土したものである。したがって、第12ブロックで欠損後の再調整が試みられたものと推察されるが、調整剥片が小さかったためか検出量は僅かに認められたにすぎなかった。施された調整剥離の多さを考えれば剥片数は多量であったことが推定されることから、剥片類の出土量の少なさは発掘調査時のエラーであった可能性が高いものと思われる。

個体別資料番号№27の接合（第71図197・198・77）

尖頭器の先端部片（77）と剥片（198）の接合で、197はこれらの接合状態である。尖頭器としては、やや幅広な木葉形の形態に製作されていることが判断されるが、197の裏面の調整状態をみると左側縁からの剥離で占められており、丁寧な両面調整が施されているとは言えないのが現状である。したがって、まだ製作途中であることが推定されるとともに、製作中に先端部が二度にわたり欠損してしまったことが理解されるものである。77は先端調整の剥離をより内側に加撃したことにより剥離してしまった例で、198は77剥離後に続いて欠損したことが推察できる状態のもので、欠損面は折断面状を呈していた。このことから、77の欠損は調整剥離のミスショットである可能性が高いが、198は調整剥離とは違う原因によって欠損しているようであり、素材に何等かの欠陥があった可能性もあるものと思われる。以上のような推定が妥当であるならば、これらの資料が出土したブロックでは尖頭器の製作が行われていたことが理解されるとともに、当該期では尖頭器の製作をそれぞれの遺跡で行っていたことが想定されるものと思われる。

個体別資料番号№73の接合（第72図199・105・88）

削器未製品（88）と使用痕のある剥片（105）の接合で、199はこれらの接合状態である。199の接合状態を見てみると、これらの素材が大形厚手の剥片で、裏面がこれの主要剥離面だったことが理解される。この様な大形厚手の剥片に対して、前後関係は不明であるが末端右側縁からの剥離と上部の打面が形成されているが、前者の調整はその後の剥離作業から想像すれば、この厚さのまま削器の刃部の製作を行っていたことが推定できるものである。しかしながら、素材の厚さを減じるためか上部に形成された打面から105が剥離されており、199の時点での厚さでは削器の製作は難しかったことが推定される接合状態であった。105剥離後、再度右側縁側に調整剥離を施しているが、この時点でも素材の厚さが障害であったらしく、右側縁側の調整と相前後して上面の打面からも調整剥離が施されており、厚さを減少させるためと思われる調整剥離が



第72図　第Ⅱ文化層出土石器（24）

進められている。さらに裏面にも器体を薄くするためか、上面の打面から荒い剥離が加えられており、刃部の製作に関する以外の剥離の殆どは器体の厚さを減少させるための調整であることから、このままでは削器としての機能を発揮するのは問題があったのかも知れない。そして調整時に欠損し、放棄されてしまったものである。

個体別資料番号№１の接合（第73図200・119・82）

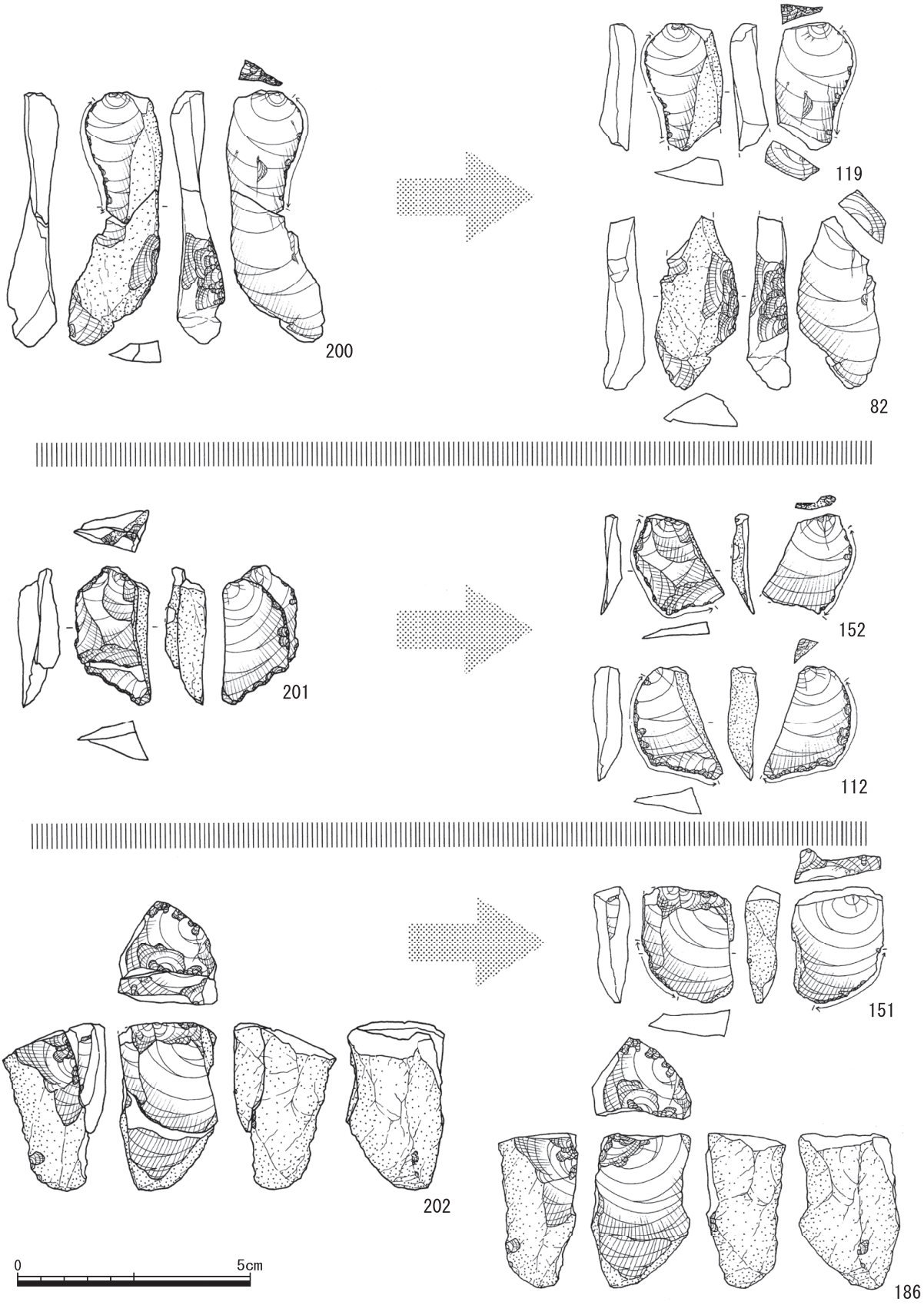
削器（82）と使用痕のある剥片（119）の接合で、両者の接合状態が200である。これらは比較的大形の石刃を素材とし、この石刃を二分割してそれぞれの器種の製作や利用されたことが推定されるものである。それは、119の使用痕のある剥片に認められる微細な刃こぼれが82までに広がることなく、119の縁辺だけに確認されていることから、119の使用痕は素材の石刃を二分割した後に使用されたことが推定されるものと思われる。そして、前述したように削器は大きさで二大別されることが判断されており、この内の小形の削器の製作を行ったとするならば、素材石刃を分割して製作することもあながち間違いとは言い切れないものと思われる。したがって、200は削器の製作のために折断され、末端側を削器として加工し、打面側を何等かの作業に使用したことで使用痕のある剥片になったことが推察されるとともに、石器製作に際しては素材の大きさを調整するために、折断技法が用いられていることが理解できるものと思われる。

個体別資料番号№14の接合（第73図201・152・112）

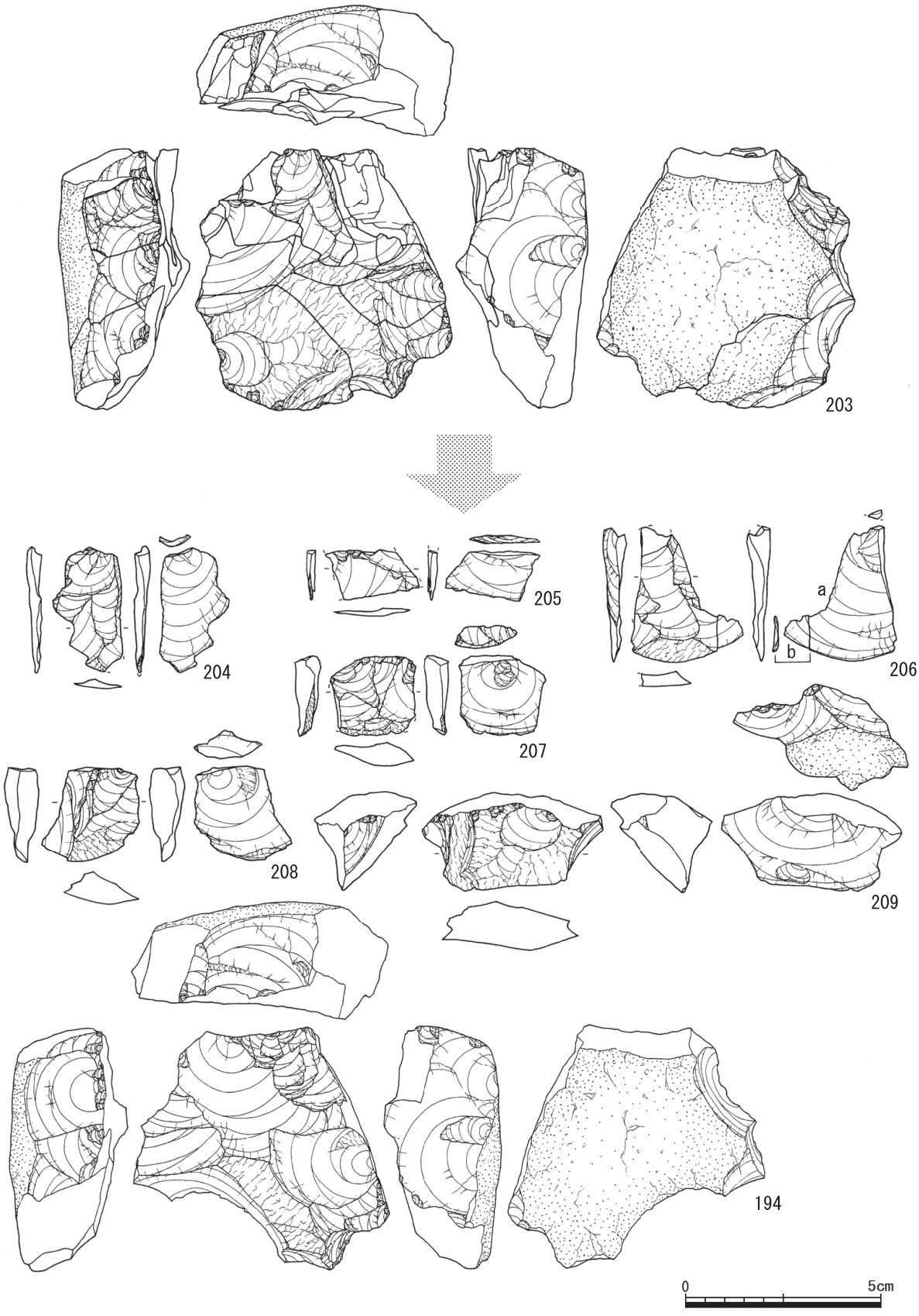
使用痕のある剥片２点（152・112）の接合で、201はこれの接合状態である。２点の素材は連続的に剥離された小形の縦長剥片で、数回の細かな剥離が認められるものの広範囲に自然面を残す打面から剥離されている。 201の正面には２点の主要剥離面と同じ方向の剥離と、右側面の自然面を打面とした剥離方向が90度違う剥離が施されており、90度の打面転位を行いながら剥片剥離が進められていたことが理解されるものである。そして､一般的に剥片剥離の進行に伴って行われることが多い打面調整を殆ど施していないことから、剥片剥離に関する準備を殆ど施していない石核に対して直接的に剥離を加えていることが判断できるものである。また、剥片剥離工程の中に90度の打面転位が組み込まれていることは、作出される剥片が限定的ではなく多様な大きさと形態のものが剥離されたと考えられることから、石刃等の定形剥片を量産するには不向きな剥片剥離技術であることが指摘できるものと思われる。なお、２点の接合のため断片的ではあるが、本資料のような打面を転位しても同じ剥片剥離作業面で剥片剥離を行う工程はあまり類例が知られていないものであったが、後述する個体別資料番号№29でも同様の剥離方法が確認されており、この様な剥離方法は当該期の特徴的な剥片剥離技術であったのかも知れない。

個体別資料番号№32の接合（第73図202・151・186）

小形の石核（186）と使用痕のある剥片（151）の接合で、202はそれらの接合状態である。151は202の打面から剥離された剥片で、これ以外にも202の正面と左側面に151と同一方向の剥離が認められていることから、連続的に複数の剥離を同一方向に施していることが理解されるものである。ただ、151と202の正面を構成している剥離は現打面から剥離されたものであるが、左側面と151の左側にある剥離にはネガティヴ・バルブが確認できないことから、これらの剥片剥離の間には打面が再生剥離によって作り直されている可能性があり、打面の再生を行いながら剥片剥離が進められていたことが窺えよう。しかしながら、151の剥離後に数回の打面調整が施されているものの、151の剥離時を含めて十分な打面調整を行っている様子は認められず、打面再生技術は保持しているものの簡略化した剥片剥離技術であったことが理解されるものと思われ



第73図　第Ⅱ文化層出土石器（25）



第74図　第Ⅱ文化層出土石器（26）

る。なお151剥離後に、186の剥片剥離作業面を打面とした剥離が左側面に施されているが、その調整目的は判然としないものである。

個体別資料番号№29の接合（第74図203～209・194）

石核（194）と剥片６点（204～209）の接合であるが、剥片の中に折断面で接合するものがあるため資料数としては７点で、合計８点の接合資料である。203はこれらの接合状態で、打面調整剥離の207とその可能性の高い209を除く他の４点は正面の剥片剥離作業面から剥離されている。剥片剥離の順番は、上設打面から204→205→206の順に剥離され、この次は205と206の剥離痕を打面として207の打面調整が行われ、この後に右側面を打面として208が剥離されている。そして、これらの剥離との前後関係は不明であるが、裏面を打面として209が剥離されていた。この209の剥離面に左側面を打面とした剥離が加えられており、この剥離の延長で剥片剥離を行ったならば209の打面を裏面に転位する必要はなかったものと考えられることから、209は打面調整を裏面から行ったものと理解している。このように剥片剥離や打面調整に関連して打面転位が頻繁に行われていることが理解されるが、一般的に打面転位が行われた時には剥片剥離作業面も他の面に変更されることが多く、本接合資料のように打面を転位しても同一の剥片剥離作業面を利用し、求心的な剥片剥離を行っている工程はあまり類例の知られていないものである。この様な剥片剥離技術で剥離された剥片を見てみると、204のような縦長剥片も存在していたが、不定形な剥片（205・206）や方形に近い形状の剥片（208）等が存在しており、これらの接合状態からは定形化した剥片を量産するような剥片剥離技術ではなかったことが推定されるとともに、石刃等の定形化した剥片の必要性が著しく低下していることが推察できるものと思われる。

（４）個体別資料の分布について

本文化層を構成していた31箇所のブロックとブロック外の石器類は1,388点を数え、これらは 118種類の個体別資料に分類された。出土した石器類の個体別資料への分類作業は、個々の個体別資料に対して行われた剥片剥離や石器類への加工作業を理解する材料を提供すると共に、ひとつひとつの個体別資料が遺跡やブロックの中でどの様に利用され、残されたものであるかを推察することを可能にしている。そして、これら個体別資料のブロックでの分布状態を理解することによって、それぞれの個体別資料の消費段階を推定することが可能となり、さらにブロック間や遺跡間での個体別資料の分布状態を認識することによって、個体別資料の動的な消費活動を復元することが試みられており、石器群を理解する上での有効な分類作業として考えられている。さらに、石器個々の理解以外にも、個体別資料としてのまとまりが把握されることによって、剥片剥離の内容や剥離された剥片のあり方や、石器製作の有無、及び石器器種の存在等の確認が可能となるとともに、文化層への帰属問題や、遺跡やブロック群の形成過程を復元するための有効な単位として利用できるものとなってきた。以下では、これら個体別資料それぞれの内容や分布状態を第４表と第75図を利用して見ていくことにするが、紙面の関係で特徴的な個体別資料を通じて概観していくことにしたい。

本文化層で確認された1,388点の石器類は、118種類の個体別資料に分類されたことは前述したが、この内の66個体（点）は同一の個体別資料が確認できなかった単独個体別資料として認識されており、残りの52個体が複数以上の資料数を持っている個体別資料であった。したがって、1,322点が２点以上の資料数を持つ個体別資料であり、これら個々の個体別資料の分布状態と石器類の内容を見ていくことによって、遺跡内における各個体別資料の様相を理解していくことにしたい。ただ、単独個体別資料として分類された66点は、検出されたブロック内では同一の個体別資料が確認されなかったものであることから、本遺跡の調査範囲外

に分布しているブロックか、或いは本遺跡以外のいずれかの遺跡（場所）で剥片剥離されたものであることが推定されるとともに、これらが剥片剥離された状態で調査区内のブロックに持ち込まれたものであることが想定できるものと思われる。そして、66個体の中には石器器種として完成された状態のものがナイフ形石器、尖頭器、削器等に24点が確認されており、単独個体別資料には完成された石器の状態で調査区に持ち込まれているものと、残りの42点のように剥片剥離された後の剥片として持ち込まれているものがあることが理解される。このような単独個体別資料のあり方から、遺跡外から単体の状態で多くの石器類が遺跡内に持ち込まれていることが理解されることから、調査区に残されていた66個体の単独個体別資料以外にも多くの単独個体別資料が持ち込まれていることが推定されるが、遺跡の移動に伴う状態で再度遺跡外に持ち出された単独個体別資料も、多量に存在していたことが窺えるものと思われる。以下では、この単独個体別資料以外の複数（２点以上）の資料数で構成された個体別資料を利用して、個々の個体別資料がどのような状態で遺跡内に分布しているかを見ていくことにするが、個々の個体別資料の内容からそれぞれを類型化して記述してしていくことにしたい。なお、類型の内容は栗原中丸遺跡第Ⅴ文化層（鈴木　1984）の分析に準拠したものである。

１）個体別資料の分布

個体別資料を構成している石器類や剥片等は、検出されたすべての資料が同一のブロックから集中的に分布するような状況のものは稀で、多くの個体別資料がいくつものブロックにかけて分散して出土することが一般的である。このような個体別資料の特徴のある分布状態を利用して、ブロック間の関係や同時性の検討に始まって、剥片剥離技術（工程）の復元やブロック間、遺跡間の人間行動の復元にまで踏み込んだ論考が試みられており、個体別資料の分類、分析は遺跡やブロックを認識するためには不可欠な整理方法と考えられている。以下では本文化層で確認された複数の資料数を持つ52個体に関して、これらの分布状態を見ていくことにするが、前述したようにそれぞれの個体別資料の内容をブロック別に次のように類型化し、これを通じて各ブロックで利用された個体別資料の内容を捉えていくことにしたい。

１．石器類Ⅰ：　調整が施されている各種の石器、及び敲石、磨石等の礫石器が該当する。
２．石器類Ⅱ：　加工痕のある剥片や使用痕のある剥片、石刃等と、同一ブロック内に複数（２点以上）の同一個体別資料が認められなかった剥片が該当する。
３．剥片類　：　同じブロックに、同一の個体別資料に分類された複数（２点以上）の剥片が認められているもの。
４　石　　核：石核が該当する。

各個体別資料の数量はそれぞれによって相違があり、10点以上の資料数を持つ個体別資料は20個体と僅かであったが、これらの中で最も多量の資料数が確認されているのは個体別資料番号№27の429点で、この個体を含めて100点を超える資料数を持っていた個体が３個体あり、100点以下で50点以上の個体も５個体が確認されており、20個体の中には多量の資料数を持つ個体も存在していた。しかし、これらとは逆に資料数の最も少ない２点で構成されている個体は16個体別資料あり、これらを含めた資料数が２点以上で10点以下の個体は32個体を数えるが、それほど資料数の多くないこれらの個体は、あまり剥片剥離の対象とはなっていなかったことが推定される個体別資料である。そして、これに単独個体別資料の66個体を加える98個体は頻繁に剥片剥離を施しているとは考えられない個体であることから、遺跡内で集中的に剥片剥離が加えられている個体は比較的少ないもので、全個体別資料の約16.9％（20個体）を占めているにすぎなかったことが理解される。したがって、本遺跡で確認された大部分のブロックでは、それほど頻繁には剥片剥離作業や石器

製作作業を行っていなかったことが推察されるとともに、これらの作業を行っていた痕跡を認めることのできないブロックも存在していることが推察される状況にあった。このような個体別資料の概要からは、遺跡内やブロックでは常に石器製作や剥片剥離作業が行われている訳ではなく、簡単な作業だけしか行われていない遺跡やブロックも存在していることが理解されるものと思われる。

これらの個体別資料の中で資料数の多い個体の分布を見てみると、一箇所のブロックだけに集中的に確認されている個体別資料は殆ど認められず、大多数のものがいくつかの複数のブロックにかけて分布が認められており、１個体の個体別資料が一箇所のブロックで収束するものではないことが理解されるとともに、資料数の多少に関わらず複数のブロックに分布している個体別資料が多く認められることが分かる。以下では、このような個体別資料のブロックごとの分布の内容を前述した石器類Ⅰや石器類Ⅱで構成されるものや、剥片類で構成される個体に分け、さらに石核の有無によって下記のように個体別資料を類別し、記述していくことにしたい。

類型Ａ：　同一母岩の剥片類と石核が認められた個体別資料である。両者の存在から、その場所（ブロック）において剥片剥離や石器製作等の作業が行われていたことが推定されるとともに、石核がそのブロックにそのまま残されていることから、そのブロックでこれらの作業を終了させた個体別資料であることが想定されるものである。

類型Ｂ：　剥片類は確認されたが、石核が認められなかった個体別資料である。類型Ａと同じように、その場所（ブロック）で剥片剥離や石器製作等の作業が行われていたことが理解されるが、その場所での作業を終了させてから石核を他の場所（ブロックや遺跡）に持ち出していることが推定される個体別資料。

類型Ｃ：　剥片類は殆ど認められず、個体別資料が石器類Ⅰと石器類Ⅱで構成されている個体別資料。この類型Ｃは類型Ａ・類型Ｂとは剥片類の有無によって大きな違いがあり、その場所（ブロック）では石器製作や剥片剥離作業等は行われずに、他のブロックや遺跡から持ち込まれたと考えられる石器類Ⅰと石器類Ⅱが残されていたものと推察されるもの。

類型Ｄ：　類型Ｃに該当する石器類に石核が加わって構成される個体別資料。

以上のような類別によって、単独個体別資料を除く52個体の個体別資料のブロックにおける分布状態を見たのが第75図で、類型Ａは□印、類型Ｂは△印、類型Ｃが●印、類型Ｄを○印で図示したものである。この図からは多くの個体別資料が複数のブロックにまたがって分布していることが理解されるが、中には類型Ｂを単独のブロックに分布させているものも確認されているが、これらは数点以上、10数点以下の資料数で構成されており、個体別資料の中には単独のブロックで何等かの簡単な作業を行っているものも存在していたことがわかる。そして、前述したように、この類別は石核を保有していないことから、そのブロックに持ち込んだ石核に対して数回以上の剥片剥離を加えた後、石核を他の場所に持ち去ったものなのか、或いは数点で構成される個体別資料では、いずれかのブロックか遺跡で剥片剥離されたものが複数で持ち込まれ、そしてそのブロックに残されたものであることが想定されるものである。ひとつのブロックに類型Ｂを残していたこれらの個体別資料以外では、全ての個体が複数のブロックにかけて各類型を分布させており、それらは資料数の少ない個体別資料であっても同様の分布か認められている。そして、このような分布は近接したブロック間に認められることが多く、しかもそのような分布のまとまりが複数で形成されている個体別資料も存在していることが看取される状況にあった。このような分布状態を具体的に見てみると、資料数の少ない個体別資料は必然的に類型Ｃを複数のブロックに分布させているものが多かったが、これらは他のブロックや遺跡外から持ち込まれた可能性の高いもので、出土したブロックで作出されたとは考えられないものであ

第４表　第Ⅱ文化層個体別資料のブロック内外別分類表

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	ハンマー	ピエス	R・F	U・F	掻器＋ノッチ	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
1	黒曜石	1	1									1					3		5	1	1	3		B
	（天城柏峠群）	3		1													6	1	8	1		6	1	A
		4															1		1		1			C
		7		2	1	1						2				4	34		44	4	6	34		B
		11										1							1		1			C
		12															1		1		1			C
		16										1							1		1			C
		29										1					2		3		1	2		B
		計	1	3	1	1						6				4	47	1	64	6	12	45	1	
2	黒曜石	1															4		4			4		B
	（天城柏峠群）	3		1													20		21	1		20		B
		6															2		2			2		B
		7	1							1		2					9		13	2	2	9		B
		10															1		1		1			C
		19															1		1		1			C
		29	1																1	1				C
		計	2	1						1		2					37		43	4	4	35		
3	黒曜石	1															3	1	4			3	1	A
	（天城柏峠群）	3															3		3			3		B
		4															1		1		1			C
		計															7	1	8		1	6	1	
4	黒曜石	1															3		3			3		B
	（天城柏峠群）	計															3		3			3		
5	黒曜石	1															1		1		1			単
	（箱根畑宿群）	計															1		1		1			
6	黒曜石	1															5		5			5		B
	（蓼科冷山群）	29										1							1		1			C
		外4										1							1		1			C
		計										2					5		7		2	5		
7	黒曜石	1															1		1		1			単
	（天城柏峠群）	計															1		1		1			
8	黒曜石	1		1								2					10		13	1	2	10		B
	（蓼科冷山群）	計		1								2					10		13	1	2	10		
9	黒曜石	1	1																1	1				単
	（和田鷹山群）	計	1																1	1				
10	黒曜石	1			1												4		5	1		4		B
	（天城柏峠群）	3														1	2		3		1	2		B
		計			1											1	6		8	1	1	6		
11	黒曜石	1															1		1		1			単
	（天城柏峠群）	計															1		1		1			
12	黒曜石	1															1		1		1			単
	（箱根畑宿群）	計															1		1		1			
13	黒曜石	1															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	6															8		8			8		B
		7															1		1		1			C
		8															1		1		1			C
		9															1		1		1			C
		10															1		1		1			C
		14										1							1		1			C
		計															13		14		6	8		
14	黒曜石	1										1							1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	3															1		1		1			C
		6															1		1		1			C
		7	1									2				3	13		19	1	5	13		B
		計	1									3				3	15		22	1	8	13		
15	黒曜石	1															2		2			2		B
	（天城柏峠群）	3										1					3		4		1	3		B
		5															1		1		1			C
		6															1		1		1			C
		7									1			1		1	11		14	1	2	11		B
		計									1	1		1		1	18		22	1	5	16		

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	ハンマー	ピエス	R・F	U・F	掻器＋ノッチ	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
16	黒曜石	2				1													1	1				C
	（蓼科冷山群）	3		1															1	1				C
		計		1		1													2	2				
17	黒曜石	2	1																1	1				C
	（箱根畑宿群）	10										1							1		1			C
		計	1									1							2	1	1			
18	玉髄	3		1															1	1				C
		7		1															1	1				C
		計		2															2	2				
19	黒曜石	3		1								1					5		7	1	1	5		B
	（天城柏峠群）	6									1							1	2		1		1	D
		7														2	2		4		2	2		B
		17															1		1		1			C
		28			1														1	1				C
		計		1	1						1	1				2	8	1	15	2	5	7	1	
20	黒曜石	3		1															1	1				単
	（諏訪星ケ台群）	計		1															1	1				
21	黒曜石	3		1													1		2	1	1			C
	（天城柏峠群）	4		1													1		2	1	1			C
		計		2													2		4	2	2			
22	黒曜石	3																1	1				1	単
	（天城柏峠群）	計																1	1				1	
23	黒曜石	4																1	1				1	単
	「天城柏峠群」	計																1	1				1	
24	黒曜石	5															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	6	1								1	1				2	23		28	1	4	23		B
		7										1					3		4		1	3		B
		外1									1								1		1			C
		計	1								2	2				2	27		34	1	7	26		
25	黒曜石	5										1							1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	6															1		1		1			C
		7															8		8			8		B
		計										1					9		10		2	8		
26	黒曜石	5															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	6															28		28			28		B
		7															11	1	12			11	1	A
		10															2		2			2		B
		12															1		1		1			C
		16															2		2			2		B
		17															1		1		1			C
		19															7		7			7		B
		22															1		1		1			C
		26															1		1		1			C
		29															1		1		1			C
		計															56	1	57		6	50	1	
27	黒曜石	5	1																1	1				C
	（箱根畑宿群）	10		1													3		4	1		3		B
		13															2		2			2		B
		14															1		1		1			C
		15															1		1		1			C
		16										4					60		64		4	60		B
		17															1		1		1			C
		18															1		1		1			C
		19		2								2					343		347	2	2	343		B
		20										1							1		1			C
		21															1		1		1			C
		22															3		3			3		B
		23															1		1		1			C
		外2															1		1		1			C
		計	1	3								7					418		429	4	14	411		

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	ハンマー	ピエス	R・F	U・F	掻器＋ノッチ	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
28	黒曜石	6										1							1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	7		1								1				1	14		17	1	2	14		B
		28														1			1		1			C
		計		1								2				2	14		19	1	4	14		
29	チャート	6															3		3			3		B
		7															2		2			2		B
		10															2		2			2		B
		13																1	1				1	D
		計															7	1	8			7	1	
30	黒曜石	6															1		1		1			単
	（箱根畑宿群）	計															1		1		1			
31	黒曜石	6	1														1		2	1	1			C
	（箱根畑宿群）	7	1								1						1		3	1	1	1		C
		11	2														1		3	2	1			C
		16															2		2			2		B
		17										2					5		7		2	5		B
		19															32		32			32		B
		21															1		1		1			C
		22		1								1					2		4	1	1	2		B
		23										1					2		3		1	2		B
		25															2		2			2		B
		27															1		1		1			C
		28															1		1		1			C
		29	1														1		2	1	1			C
		外3															1		1		1			C
		計	5	1							1	4					53		64	6	12	46		
32	黒曜石	6										1						1	1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	7																1	1				1	D
		計										1						1	2		1		1	
33	黒曜石	6															1		1		1			単
	「箱根畑宿群」	計															1		1		1			
34	黒曜石	6										1					2		3		1	2		B
	（和田鷹山群）	7															2		2			2		B
		10															1		1		1			C
		14															1		1		1			C
		計										1					6		7		3	4		
35	黒曜石	6															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	12															1		1		1			C
		19															16		16			16		B
		21															1		1		1			C
		22															2		2			2		B
		25	1																1	1				C
		29	1														1		2	1	1			C
		31										1					1		2		2			C
		計	2									1					23		26	2	6	18		
36	黒曜石	6															1		1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	7										1					7		8		1	7		B
		14										1							1		1			C
		17															1		1		1			C
		19															1		1		1			C
		計										2					10		12		5	7		
37	黒曜石	6				1						1							2	1	1			C
	（諏訪星ケ台群）	7	1														3		4	1		3		B
		計	1			1						1					3		6	2	1	3		
38	黒曜石	6															3		3			3		B
	（箱根畑宿群）	7															1		1		1			C
		10															1		1		1			C
		12															1		1		1			C
		15															1		1		1			C
		16		1													46	1	48	1		46	1	A
		19	1														3		4	1		3		B
		22										1							1		1			C
		23		1															1	1				C
		25															1		1		1			C
		計	1	2								1					57	1	62	3	6	52	1	

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	ハンマー	ピエス	R・F	U・F	掻器＋ノッチ	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
39	黒曜石	6	1																1	1				単
	（蓼科冷山群）	計	1																1	1				
40	黒曜石	7		1								1					10		12	1	1	10		B
	（和田鷹山群）	計		1								1					10		12	1	1	10		
41	チャート	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
42	黒曜石	7															1		1		1			単
	（天城柏峠群）	計															1		1		1			
43	黒曜石	7		1															1	1				単
	（諏訪星ケ台群）	計		1															1	1				
44	黒曜石	7	1																1	1				単
	（和田芙蓉ライト群）	計	1																1	1				
45	黒曜石	7					1					1							2	1	1			C
	（諏訪星ケ台群）	11	1																1	1				C
		12															1		1		1			C
		22			1														1	1				C
		計	1		1		1					1					1		5	3	2			
46	黒曜石	7															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	29															1		1		1			C
		計															2		2		2			
47	黒曜石	7										1					1		2		2			C
	（諏訪星ケ台群）	16		1															1	1				C
		23	1																1	1				C
		計	1	1								1					1		4	2	2			
48	ガラス質黒色安山岩	7		1															1	1				単
		計		1															1	1				
49	黒曜石	7		1															1	1				単
	（天城柏峠群）	計		1															1	1				
50	黒曜石	7	2																2	2				C
	（和田鷹山群）	8										1							1		1			C
		12															1		1		1			C
		14															1		1		1			C
		15															1		1		1			C
		19	1																1	1				C
		20															1		1		1			C
		24										1							1		1			C
		計	3									2					4		9	3	6			
51	ガラス質黒色安山岩	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
52	黒曜石	7															2		2			2		B
	（箱根畑宿群）	14															1		1		1			C
		22	1																1	1				C
		25	1																1	1				C
		28									1						1		2		2			C
		計	2								1						4		7	2	3	2		
53	チャート	8										2							2		2			C
		計										2							2		2			
54	黒曜石	8	1																1	1				単
	（箱根畑宿群）	計	1																1	1				
55	凝灰岩	9															1		1		1			単
		計															1		1		1			
56	黒曜石	9									1								1		1			単
	（和田鷹山群）	計									1								1		1			
57	黒曜石	9															1		1		1			単
	（和田鷹山群）	計															1		1		1			
58	粘板岩	9															2		2			2		B
		10															1		1		1			C
		計															3		3		1	2		
59	ホルンフェルス	10														1			1		1			単
		計														1			1		1			
60	黒曜石	10		1															1	1				単
	（神津島恩馳島群）	計		1															1	1				

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	ハンマー	ピエス	R・F	U・F	掻器＋ノッチ	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
61	黒曜石	10															1		1		1			C
	（和田鷹山群）	15															1		1		1			C
		計															2		2		2			
62	ガラス質黒色安山岩	10																1	1				1	単
		計																1	1				1	
63	ガラス質黒色安山岩	10		1															1	1				C
		12															1		1		1			C
		計		1													1		2	1	1			
64	黒曜石	10															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	12															1		1		1			C
		14															1		1		1			C
		15															1		1		1			C
		16										1					9		10		1	9		B
		18															1		1		1			C
		19									1						83		84		1	83		B
		22															1		1		1			C
		26															2		2			2		B
		28		1															1	1				C
		計		1							1	1					100		103	1	8	94		
65	ホルンフェルス	10														1			1		1			C
		18	1																1	1				C
		計	1													1			2	1	1			
66	粘板岩	10							1										1	1				単
		計							1										1	1				
67	黒曜石	10															1		1		1			単
	「箱根畑宿群」	計															1		1		1			
68	黒曜石	10				1													1	1				単
	（箱根畑宿群）	計				1													1	1				
69	黒曜石	10																1	1				1	単
	（天城柏峠群）	計																1	1				1	
70	黒曜石	10															1		1		1			単
	「箱根畑宿群」	計															1		1		1			
71	粘板岩	10															1		1		1			単
		計															1		1		1			
72	黒曜石	10		1															1	1				単
	（諏訪星ケ台群）	計		1															1	1				
73	黒曜石	11															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	15															1		1		1			C
		16		1		1						1					37		40	2	1	37		B
		19															5		5			5		B
		21		1															1	1				C
		25															1		1		1			C
		26															1		1		1			C
		計		2		1						1					46		50	3	5	42		
74	黒曜石	12										1							1		1			単
	（箱根畑宿群）	計										1							1		1			
75	ガラス質黒色安山岩	12										1							1		1			単
		計										1							1		1			
76	黒曜石	12	1																1	1				C
	（和田土屋橋西群）	19	1																1	1				C
		計	2																2	2				
77	黒曜石	12															1		1		1			単
	「箱根畑宿群」	計															1		1		1			
78	チャート	12		2								1					5		8	2	1	5		B
		計		2								1					5		8	2	1	5		
79	黒曜石	12				1													1	1				単
	（和田鷹山群）	計				1													1	1				

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	ハンマー	ピエス	R・F	U・F	掻器＋ノッチ	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
80	ガラス質黒色安山岩	12		1															1	1				単
		計		1															1	1				
81	黒曜石	12										2							2		2			C
	（神津島恩馳島群）	計										2							2		2			
82	黒曜石	12		1													5		6	1		5		B
	（箱根黒岩橋群）	13															1		1		1			C
		29										1							1		1			C
		計		1								1					6		8	1	2	5		
83	ガラス質黒色安山岩	13															1		1		1			C
		26		1															1	1				C
		計		1													1		2	1	1			
84	チャート	13		1															1	1				単
		計		1															1	1				
85	黒曜石	14		1								1							2	1	1			C
	（和田鷹山群）	計		1								1							2	1	1			
86	ホルンフェルス	14		1															1	1				単
		計		1															1	1				
87	流紋岩	14	1																1	1				単
		計	1																1	1				
88	ホルンフェルス	14															1		1		1			C
		15															1		1		1			C
		計															2		2		2			
89	黒曜石	14															1		1		1			単
	（箱根黒岩橋群）	計															1		1		1			
90	安山岩	15		1															1	1				C
	（トロトロ石）	28	1																1	1				C
		計	1	1															1	2				
91	黒曜石	15															1		1		1			単
	（諏訪星ケ台群）	計															1		1		1			
92	黒曜石	15															1		1		1			単
	（和田鷹山群）	計															1		1		1			
93	黒曜石	16										1							1		1			単
	（箱根畑宿群）	計										1							1		1			
94	ガラス質黒色安山岩	16															1		1		1			単
		計															1		1		1			
95	玉髄	16				1													1	1				単
		計				1													1	1				
96	黒曜石	16															8		8			8		B
	（箱根畑宿群）	19	1														110		111	1		110		B
		計	1														118		119	1		118		
97	ガラス質黒色安山岩	16	1																1	1				単
		計	1																1	1				
98	ガラス質黒色安山岩	16		1															1	1				単
		計		1															1	1				
99	流紋岩	17															1		1		1			単
		計															1		1		1			
100	黒曜石	17	1																1	1				単
	（箱根畑宿群）	計	1																1	1				
101	黒曜石	18										1							1		1			単
	（和田芙蓉ライト群）	計										1							1		1			
102	黒曜石	19															1		1		1			C
	（箱根黒岩橋群）	22															3		3			3		B
		26															1		1		1			C
		計															5		5		2	3		
103	ガラス質黒色安山岩	19										1							1		1			単
		計										1							1		1			
104	ガラス質黒色安山岩	19															1		1		1			単
		計															1		1		1			
105	黒曜石	20	1																1	1				単
	（箱根畑宿群）	計	1																1	1				
106	安山岩	20						1											1	1				単
		計						1											1	1				

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	ハンマー	ピエス	R・F	U・F	掻器＋ノッチ	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
107	黒曜石	22									1								1		1			C
	（和田鷹山群）	23											1						1	1				C
		計									1		1						2	1	1			
108	黒曜石	22										1							1		1			単
	（和田小深沢群）	計										1							1		1			
109	黒曜石	24	1																1	1				単
	（箱根畑宿群）	計	1																1	1				
110	ガラス質黒色安山岩	27															1		1		1			単
		計															1		1		1			
111	安山岩	28															1		1		1			単
	（トロトロ石）	計															1		1		1			
112	黒曜石	28															1		1		1			単
	（箱根畑宿群）	計	0														1		1		1			
113	黒曜石	29	1																1	1				単
	「諏訪星ケ台群」	計	1																1	1				
114	黒曜石	29										1							1		1			単
	「天城柏峠群」	計										1							1		1			
115	ホルンフェルス	29														1			1		1			単
		計														1			1		1			
116	瑪瑙	30										1							1		1			単
		計										1							1		1			
117	黒曜石	30															1		1		1			単
	（天城柏峠群）	計															1		1		1			
118	黒曜石	外5	1																1	1				単
	（諏訪星ケ台群）	計	1																1	1				
単独個体別資料合計			11	10		3		1			1	8				2	25	4	66	26	36		4	
複数個体別資料合計			28	31	3	4	1			1	8	56	1	1		16	1165	7	1322	70	164	1081	7	
総合計			39	41	3	7	1	1		1	9	64	1	1		18	1190	11	1388	96	200	1081	11	

※黒曜石の産地同定は蛍光X線分析法（ＥＤＸ）によるものである。
※原石欄の（　）の原石産地は蛍光X線分析によって推定されたものである。
※原石欄の「　」の原石産地は測定不可や未測定資料を、視覚により推定したものである。

った。これに対して類型Ａ・類型Ｂを持つ資料数の比較的多い個体別資料は、剥片剥離や石器製作作業等の対象となった可能性の高いものであり、これらは類型Ａ・類型Ｂを持つブロックの周辺のブロックに類型Ｃや類型Ｄを分布させているものが多く、26個体が確認されている。これらの個体別資料を構成している資料数の中には、他の遺跡で製作されたものが持ち込まれている可能性はあるものの、大部分のものは遺跡内の類型Ａや類型Ｂが確認されたブロックで製作された可能性が高いことが推察されるものである。そして、この26個体の個体別資料には類型Ａと類型Ｂが確認されたブロックに残されていたものと、類型Ｃと類型Ｄが分布していたブロックに何等かの目的で持ち出され、そのブロックに残されているものの違いがあることが理解されるとともに、同じ類型を複数のブロックに分布させている個体別資料も数多く存在していることがわかる。そして、このような分布状態が多くの個体別資料に認められることから、個体別資料はブロック間を移動しながら先々のブロックで剥片剥離等の作業を行っていたことが推定されるとともに、剥片剥離されたものの一部をそれら以外のブロックへ持ち込んでいることが推察される状況にあった。そして、このような広範な個体別資料の分布が認められた複数のブロックは、関連性のあるブロックとして認識することが可能と思われる。しかしながら、個々の個体別資料がどのような集団によって消費されたかは明確に捉えることはできないが､少なくともこのような広範な個体別資料の分布を形成したのは同一集団によるものであり、複数のブロックで構成されるこのような個体別資料の分布範囲は、生活空間や居住空間等を示す何等かの単位（範囲）として認識することが可能と思われるとともに、遺跡を構成するひとつの単位として理解することができるものと考えられている。

個体別資料の中には、いままで見てきた類型Ａ・類型Ｂと類型Ｃ・類型Ｄを複数のブロックに分布させて

いるものの他に、類型Ａ・類型Ｂが認められずに類型Ｃ・類型Ｄによって構成されている個体別資料が20個体存在している。そして、この中でも単一のブロックだけに分布が認められたのは３個体と少なく、これ以外の17個体は資料数が少ない個体であっても複数のブロックに分布していた。これら類型Ｃ・類型Ｄによって構成されている個体別資料の20個体と、前述した単独個体別資料の66個体の合計86個体は、遺跡内（調査範囲内）において剥片剥離や石器加工作業の対象となった痕跡の認められない個体であり、遺跡外（調査範囲外）で製作､剥離されたものが遺跡内やブロックに持ち込まれた個体であることが判断できるものである。

以上のように、本文化層で確認された個体別資料には剥片剥離の対象になっている個体と、完成された石器や剥離された剥片の状態で持ち込まれ、そして残されたものに二分されることが理解されるものと思われる。その中で、前者の多少に関わらず剥片剥離の対象になった可能性のある個体は32個体で、これらは全個体別資料の内の約27.1％を占めていたにすぎない。この他の約72.9％を占める86個体の個体別資料は、前述したように遺跡外から石器や剥片として完成された状態で、単体の形で遺跡内に持ち込まれたものであることが判断されたが、このような両者の個体別資料の状態を見てみると、文化層を構成している個体別資料は全てが遺跡内で生産、製作されたものではなく、三割弱の個体別資料に対して、いくらかの剥片剥離や石器加工作業が施されていただけであり、遺跡内で何等かの作業の対象になった個体はそれほど多くはなかったことが理解されるものと思われる。したがって、本遺跡で確認されたブロックの全てで頻繁に石器製作作業は行われていなかったことが判断されるとともに、石器類が充足していたのか、或いは石器製作に用いるような母岩を多量に持ち込んでいなかったことが推定されるものと思われる。ただ、文化層を構成している個体別資料の多くは、遺跡外から持ち込まれた類型Ｃ・類型Ｄに分類されるものであったことから、出土した石器群の大部分は遺跡外から持ち込まれた石器群であることは明らかであり、遺跡内で製作されている石器類は割合と少ないものであったことが理解できると共に、このような状況が遺跡を構成する個体別資料のあり方としては、通常の状態であったことが想像できるものと思われる。

２）個々の個体別資料の分布

今までは、個体別資料の分布状態を類別を通じて概観してきたが、以下では複数のブロックにかけて分布が認められる個体別資料個々の分布状態を見ていくことにしたい。

１．類型Ｃ、類型Ｄで構成されている個体別資料

個体別資料番号№16：第２、第３ブロックに、合計２点の石器類が分布していた個体別資料である。両ブロックは約4.5ｍの距離を隔てて位置しているが、隣り合った状態で分布が確認されているものである。両ブロックに分布していた個体別資料番号№16は、約14ｍの範囲の中で分布が確認されていた。

個体別資料番号№17：第２、第10ブロックに合計２点の分布が確認された個体別資料である。両ブロックは約25ｍの距離を隔てて位置しており、離れた位置にそれぞれが単独で分布しているようであり、個体別資料番号№16や後述する№21のように隣接したブロックに分布が認められる状況とは違う、個体別資料の分布形態が存在しているようである。

個体別資料番号№21：第３、第４ブロックに、合計４点の石器類が認められた個体別資料である。両ブロックは隣接した状態で分布が確認されており、両ブロックに分布していた個体別資料番号№21は約12ｍの範囲の中から検出されている。

個体別資料番号№32：第６、第７ブロックに、合計２点の石器類の出土が認められた個体別資料である。両ブロックは分布範囲を接するように位置しており、約10ｍほどの範囲の中に分布が確認された個体別資料

である。

個体別資料番号№45：第７、第11、第12、第22ブロックに合計５点の石器類が確認された個体別資料である。第７、第11ブロックは約２ｍの距離を隔てて位置しているが、隣り合った状態で検出されている。これらと第12ブロックと第22ブロックは他のブロックを間に分布させている状態で確認されており、それぞれは約 5.5mと約９ｍの距離を隔てて分布していた。隣接している第７、第11ブロックは約12mの範囲を形成しているが、第12ブロックを含めると約20m、第22ブロックまで含めると約25mの範囲に本個体の散漫な分布が形成されていることが理解されるが、第12、第22ブロックは第７、第11ブロックとは隣接する位置関係ではないため、第７、第11ブロックの２ブロックを個体別資料の分布のひとつのまとまりとして捉えておきたい。そして、第12・第22ブロックはそれぞれのブロックで形成された、単独の個体別資料の分布のまとまりとして理解できることから、本個体には３箇所の個体別資料の分布のまとまりが存在していることが判断されるとともに、個体別資料の分布のまとまりには単一のブロックで形成されることもあったことが理解されよう。

個体別資料番号№50：第７、第８、第12、第14、第15、第19、第20、第24ブロックに、９点の石器類が分布していた個体別資料である。第７と第８ブロック、第12、第14、第15ブロック、第19と第20ブロックはそれぞれ隣接して位置しているが、前二者は約７ｍ、後二者も約５ｍの距離を隔てて分布が確認されたブロックで、これらの間には本個体を保有していないブロックの分布が確認されている。そして、単一のブロックで構成されている第24ブロックは、最も近い第15ブロックとは約５ｍの距離を隔てて分布が確認されているものであり、ブロックの構成数に違いはあるものの、４箇所の個体別資料の分布のまとまりが存在している個体別資料である。これらの分布の大きさは、前者が約11m、後二者は約16mと約12mであり、このような個体別資料の分布のまとまりは10数mの規模のものが一般的なものであったのかも知れない。

個体別資料番号№63：第10、第12ブロックに分布していた個体別資料で、資料数は２点である。両ブロックは隣接して位置し、約12mの範囲に分布が確認された個体別資料である。

個体別資料番号№65：第10、第18ブロックに分布が確認された個体別資料で、資料数は２点である。両ブロックは約 1.5mほど離れて分布が確認されているが、隣り合った位置に形成されており、約９ｍの範囲に分布していた個体別資料である。

個体別資料番号№76：第12、第19ブロックで確認された個体別資料で、石器数は２点である。両ブロックは約５ｍの距離を置いて分布し、両者の間には第16、第17ブロックが位置していることから、それぞれのブロック単独で個体別資料の分布のまとまりを形成したもので、２箇所のまとまりが存在していたことが推定される個体別資料である。

個体別資料番号№ 107：第22、第23ブロックに、合計２点の石器類が分布していた個体別資料である。第22、第23ブロックは隣接して位置し、約12mの範囲に個体別資料の分布が認められたものである。したがって、本個体別資料では２ブロックで形成された一箇所の個体別資料の分布のまとまりを持っていたことが、想定されるものである。

以上のように類型Ｃと類型Ｄで構成されている個体別資料の中で、複数のブロックに分布する個体の状況を簡単に見てきたが、これらの個体別資料の分布にはいくつかの共通点があることが理解されるとともに、それらは個体別資料の一般的なあり方として認識できるものと思われる。それは、これらの個体の中で最も多くの資料数を持っていたのは個体別資料番号№50の９点であったが、殆どの個体は数点程度の資料数によって構成されており、類型Ｃと類型Ｄで構成されている個体別資料の中には、10点を超えるような資料数を持つ個体は確認されなかった。これらの分布状態を見てみると、隣接した２～３箇所のブロックで確認され

るものが大勢を占めていることや、しかもこれらに分布していた個体別資料は10数ｍほどの範囲に殆どのものが収まる傾向にあり、ブロック範囲を超えた状態の散漫な個体別資料のまとまりが形成されていることが窺える状況にあった。そして、このような隣接したブロック間に形成された個体別資料のまとまりが、数ｍ～20数ｍの距離を隔てて複数で確認されているものや、一方の個体別資料のまとまりが単独のブロックで構成されているもの、及び双方の個体別資料のまとまりが単独のブロックで構成されているもの等があり、それぞれの個体別資料の資料数によって構成内容に違いはあるものの、共通した分布状態を示していることが理解されるものと思われる。

2．類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成される個体別資料

個体別資料番号№１：８ブロックに分布が確認された個体別資料で、各ブロックに分布していた類別は、第３ブロックに資料数８点の類型Ａを、第１（資料数５点）、第７（資料数44点）、第29ブロック（資料数３点）に類型Ｂを、第４、第11、第12、第16ブロックに資料数各１点の類型Ｃの分布が認められた。これらの分布を見てみると、第３と第４ブロック、第12と第16ブロックは隣接して分布し、これらはそれぞれが約12ｍの範囲に収まる分布を示しており、前述してきた類型Ｃと類型Ｄで構成される個体別資料の分布規模とも矛盾しない状態である。これ以外の第７と第11ブロックも２ｍほどの距離を置くものの、隣り合って位置しており、これも約12ｍの範囲の中に個体別資料の分布が確認されているものである。これらは約５～７ｍの距離を隔てて位置しており、２箇所のブロックで構成された個体別資料の分布のまとまりが３箇所存在することが認識されるとともに、最も近い第16ブロックから約12ｍ離れている第29ブロックにも、単一のブロックで構成される個体別資料の分布が確認されていることから、合計４箇所に別れて分布していたことが理解される個体別資料である。

個体別資料番号№３：３ブロックで確認された個体別資料である。それぞれのブロックでの類別は、第１ブロックには資料数４点の類型Ａが、第３ブロック（資料数３点）には類型Ｂ、第４ブロック（資料数１点）の類型Ｃが確認されている。第３、第４ブロックは隣接して位置し、約12ｍの範囲に収まる分布を示していたが、これらと第１ブロックは約10ｍの距離を隔てて分布しており、個体別資料番号№３では２箇所の個体別資料の分布のまとまりが形成されていたことが窺えるものである。

個体別資料番号№13：７ブロックに分布していた個体別資料で、それぞれのブロックに分布していた類別は、第６ブロックに資料数８点の類型Ｂが、第１、第７、第８、第９、第10、第14ブロックに資料数各１点の類型Ｃの分布が認められている。第６～第10ブロックの５ブロックは隣接して分布し、約16ｍの範囲の中にまとまる分布を示していたが、これらとは第１ブロックは約28ｍ、第14ブロックは約12ｍの距離を置いて分布しており、本個体別資料では複数のブロックで構成される個体別資料の分布のまとまりが１箇所、単一のブロックで構成される個体別資料のまとまりが２箇所存在し、合計３箇所に別れて分布が確認されている個体であった。そして、複数のブロックで構成される個体別資料のまとまりは、類型Ｂを分布させている第６ブロックの周辺に類型Ｃを持つ複数のブロックが展開しており、個体別資料の分布のあり方の一端を現していることが窺えるものと思われる。

個体別資料番号№19：５ブロックで分布が確認された個体別資料である。各ブロックに分布していた類別は、第３（資料数７点）、第７ブロック（資料数４点）に類型Ｂを、第17と第28ブロックに資料数各１点の類型Ｃが、第６ブロックに資料数２点の類型Ｄが確認されている。この中で第６と第７ブロックは隣接して分布しており、約10ｍの範囲に収まるが、これらと第３ブロックは約10ｍ、第17ブロックは約９ｍ、第17ブロックと第28ブロックは約13ｍの距離を隔てて分布しており、複数のブロックで構成される個体別資料の分

布のまとまりが１箇所と、単一のブロックで構成される個体別資料のまとまりが３箇所、合計４箇所の個体別資料の分布が確認されたものである。

個体別資料番号№24：３ブロックとブロック外１で確認された個体別資料で、それぞれのブロック内外に分布していた類別は、第６（資料数28点）と第７ブロック（資料数４点）に類型Ｂを、第５ブロックとブロック外１には資料数各１点の類型Ｃが確認されている。第５～第７ブロックは隣接して位置し、約14mの範囲に含まれる状況にあるとともに、ブロック外１も第７ブロックとは約４ｍ程離れてはいるものの、３ブロックの中心から半径７ｍの円の中に含まれる位置関係にあり、３ブロックとブロック外１で個体別資料の分布のまとまりが形成されている状態であることが窺えよう。そして、個体別資料の分布のまとまりの中には隣接するブロック間に共に類型Ｂを分布させているものがあり、ブロックを移動しながら剥片剥離等の何等かの作業が行われていたことが推定できるものであった。

個体別資料番号№25：３ブロックで確認された個体別資料である。各ブロックに分布していた類別は、第７ブロックに資料数８点の類型Ｂを、第５、第６ブロックに資料数各１点の類型Ｃが認められていた。第５～第７ブロックは隣接して位置しており、約14mの範囲に含まれる分布が形成されていた。本個体別資料で確認された個体別資料の分布のまとまりは、類型Ｂを持つ第７ブロックのまわりに類型Ｃを持つ複数のブロックが分布する状況のものであり、類型Ｂを中心にして類型Ｃが分布するというあり方は個体別資料の標準的な分布状態であるのかも知れない。

個体別資料番号№26：11ブロックに分布していた個体別資料である。それぞれのブロックで確認されている類別は、第７ブロックに資料数12点の類型Ａを、第６（資料数28点）、第10（資料数２点）、第16（資料数２点）、第19ブロック（資料数７点）に類型Ｂを、第５、第12、第17、第22、第26、第29ブロックに資料数各１点の類型Ｃが分布していた。これらの中で第５～第７、第10、第12ブロックは東西に並んで連鎖するように分布していたもので、約25mの範囲を形成していた。残る第16、第17、第19、第22、第26ブロックは南北方向に隣接しながら分布していたブロックで、約15mの範囲に収まる状況を示していた。そして、後者の範囲とは約 2.5mの距離を隔てて第26ブロックが位置しており、単一のブロックで構成される個体別資料のまとまりも存在しており、合計３箇所の個体別資料の分布のまとまりが形成されていたことが推定されるものである。ただ、前二者のまとまりは約２ｍの距離しか離れてない状態であり、二つのまとまりとして分割できるのか、やや疑問のある状態を呈している。しかし、両者をまとめると約30mの範囲となってしまうため、今まで見てきた個体別資料の分布のまとまりとは規模が大きく違っていることから、これらを分離し二つのまとまりとして理解したものである。これは、本文化層のように多くのブロックが密集して分布するような状況では、個体別資料の分布のまとまりを正確に捉えることは難しい作業なのかも知れない。

個体別資料番号№27：13ブロックとブロック外２の14箇所で確認された個体別資料である。各ブロックに分布していた類別は、第10（資料数４点）、第13（資料数２点）、第16（資料数64点）、第19（資料数347点）、第22ブロック（資料数３点）には類型Ｂが、第５、第14、第15、第17、第18、第20、第21、第23ブロックとブロック外２には資料数各１点の類型Ｃが確認されている。これらの内、第５ブロックを除く第10、第13～第23ブロックの12ブロックは密集した状態で分布しており、約21mの範囲に収まる分布を示していた。ブロック外２は、第19ブロックと約1.4mの距離を隔てて位置しているが、これら12ブロックで形成されている約21mの範囲の中に分布しており、この個体別資料の分布のまとまりに含まれるものであることが理解されるものである。したがって、この個体別資料の分布のまとまりとは、約９ｍの距離を置いて分布する第５ブロック単一で構成される個体別資料のまとまりと、本個体別資料には２箇所の個体別資料の分布のまとまりが形成されていることが判断されるものと思われる。

個体別資料番号№31：これも13ブロックとブロック外３の14箇所で確認された個体別資料である。各ブロックで確認された類別は、第７（資料数３点）、第16（資料数２点）、第17（資料数７点）、第19（資料数32点）、第22（資料数４点）、第23（資料数３点）、第25ブロック（資料数２点）には類型Ｂが、第11ブロックには資料数３点の、第６、第29ブロックには資料数２点の、第21、第27、第28ブロックとブロック外３からは資料数１点の類型Ｃが確認されている。これらのブロックの中で、第６、第７、第11ブロックは隣接して位置し、約13ｍの範囲に収まる分布を示していた。これとは約５ｍの距離を置いた第16、第17、第19、第21、第22、第23、第25、第27ブロックは密集した状態で分布しており、約15ｍの範囲に収まる状況にあった。残る第28、第29ブロックも隣接して位置するもので、後者の個体別資料の分布のまとまりとは約３ｍの距離を隔てて分布しているものであった。ブロック外３も、これらの中で最も近いブロックとは約４ｍの距離を置いて確認されており、本個体別資料には複数のブロックで構成された個体別資料の分布のまとまりが３箇所と、ブロック外で単独の状態で分布したまとまりと、合計４箇所の個体別資料の分布のまとまりが確認されるものであった。

個体別資料番号№38：10ブロックで分布が確認された個体別資料である。それぞれのブロックに分布していた類別は、第16ブロックに資料数48点の類型Ａが、第６（資料数３点）、第19ブロック（資料数４点）には類型Ｂ、第７、第10、第12、第15、第22、第23、第25ブロックの各ブロックには資料数１点の類型Ｃの分布が認められている。これらのブロックの中では、第６、第７、第10、第12ブロックの一群と、第15、第16、第19、第22、第23、第25ブロックの一群に別れ、それぞれの群では隣接した位置で分布が確認されていたが、両群でも約２ｍの距離しか離れていない状態であった。前者の４ブロックは鎖状に並んで分布し約23ｍの範囲で確認され、後者の６ブロックでは約15ｍの範囲に収まっており、本個体別資料には２箇所の個体別資料の分布のまとまりが認められている。

個体別資料番号№64：10ブロックで分布が確認された個体別資料である。各ブロックで確認された類別は、第16（資料数10点）、第19（資料数84点）、第26ブロック（資料数２点）には類型Ｂが分布し、第10、第12、第14、第15、第18、第22、第28ブロックには資料数１点の類型Ｃの分布が認められている。第10、第12、第14、第15の４ブロックは、鎖状に東西方向に並んで位置し、これらの範囲は約21ｍの大きさを示していた。これに対し、第16、第18、第19、第22、第26、第28ブロックは南北方向に展開しているもので、約19ｍの範囲に分布が確認されている。このように、両群では個体別資料が分布する方向に違いはあるものの、両群は僅か２ｍしか離れていないため、両者の分離が正確なものであるかは若干の不安があるものである。ただ、これらの２群をひとつのまとまりとした場合、個体別資料の分布は約28ｍの大きさとなり、今まで見てきた個体別資料の分布のまとまりとしては最も広範囲なものとなってしまうことから、両群を分離して２箇所の個体別資料の分布のまとまりとして捉えておくことにしたものである。

個体別資料番号№73：７ブロックにかけて分布していた個体別資料である。個々のブロックで確認された類別は、第16（資料数40点）、第19ブロック（資料数５点）には類型Ｂが、第11、第15、第21、第25、第26ブロックでは資料数各１点の類型Ｃが分布していた。これらの中で隣接した複数のブロックでまとまりを形成していたものは２箇所あり、その内の１箇所は第15、第16、第19、第21ブロックの４ブロックで、これらは横並びの状態で隣接して分布し、約17ｍの範囲を形成していた。もう１箇所は第25、第26ブロックの２ブロックで構成されるもので、約７ｍの範囲に収まる状態を示していた。残る第11ブロックは、単一のブロックで構成されたまとまりであり、本個体別資料では個体別資料の分布のまとまりは３箇所存在していたことが認識されるものである。そして、これらの個体別資料の分布のまとまりは、それぞれが約５ｍの距離を隔てて分布しており、その間には個体別資料番号№73を保有しないブロックの分布が認められていた。

個体別資料番号№82：３ブロックで確認された個体別資料である。それぞれのブロックに分布していた類別は、第12ブロックに資料数６点の類型Ｂが、第13と第29ブロックに資料数各１点の類型Ｃが確認されている。第12、第13ブロックは隣接して分布しており、約11ｍの範囲に収まる状態であったが、残る第29ブロックとは約18ｍの距離を隔てて位置している状態であった。したがって、本個体では複数のブロックで構成される個体別資料の分布のまとまりが１箇所と、単一のブロックで構成されるまとまりの、合計２箇所のまとまりが確認されていることが分かる。

個体別資料番号№102：３ブロックに分布が確認された個体別資料である。各ブロックに分布していた類別は、第22ブロックに資料数３点の類型Ｂが、第19、第26ブロックには資料数各１点の類型Ｃが認められている。これら３ブロックは南北方向に並んだ状態で隣接して分布しており、約12ｍの範囲の中に散漫な個体別資料の分布が形成されているものであった。したがって、個体別資料の分布のまとまりは１箇所が確認されているだけで、この３ブロック以外では本個体別資料の分布は認められていない。

以上のように、類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成される個体別資料が、複数のブロックにかけて分布する状態を概観してきたが、これらも前述した類型Ｃと類型Ｄで構成される個体別資料と同じように、一定した分布状態を示していることが看取されることから、これらを個体別資料の分布状態の共通点として認識することができるものと思われる。

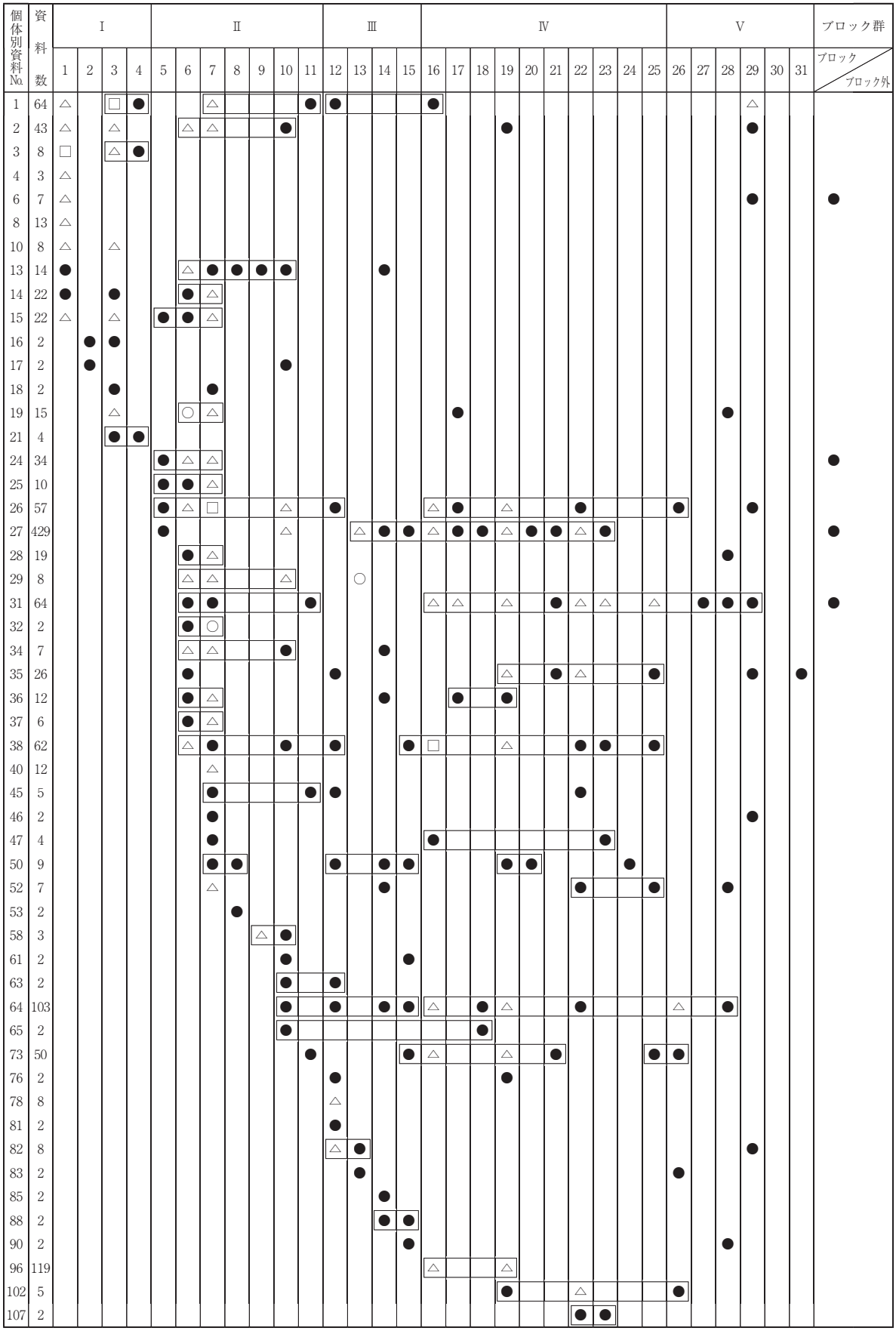
具体的な点を列挙すれば、各個体別資料の資料数には個々で違いはあるものの、単一のブロックに集中して分布していた個体は少なく、大多数のものは複数のブロックにかけて分布が認められていた。それらのあり方は資料数の多寡にかかわらず、隣接した複数のブロックに分布する状況が認められていることから、ブロックとして認識した範囲を超えた広範な個体別資料の散漫な分布が、一定した範囲（数ブロック）でまとまりを形成している状態を観察することができた。このような分布のあり方は各個体別資料で相違するものではなく、個体別資料それぞれで構成するブロックはまちまちであったが、中には同一範囲に分布するブロック間でまとまりを形成している個体別資料が、複数で存在していることも確認できることから、このような個体別資料の分布のあり方は普遍的な状態として認識できるものと思われる。そして、このような隣接するブロック間に同一の個体別資料が分布するというあり方は、前述した類型Ｃと類型Ｄで構成される個体別資料も同様であり、構成している類型が違っても個体別資料は同じような分布状態を示していることが判断されるものと思われる。ただ、このような個体別資料の分布のまとまりは、類型の構成に複数の組み合わせがあるとともに、分布するブロックの数や状態等の相違が著しく、共通部分の確認は容易ではないのが実情である。しかし、このような中にあって、類型Ａや類型Ｂを持つブロックに隣接して類型Ｃや類型Ｄを持つブロックを、単数や複数で分布させているものや、前者を複数の類型Ｂを持つブロックで構成しているもの、或いは隣接した複数のブロックに類型Ｃや類型Ｄを分布するだけで、そのまとまり中には類型Ａや類型Ｂを持つブロックが認められずに、他のブロックやまとまりで確認されているもの等の存在が確認できるとともに、これ以外にも、単一のブロックに類型Ｂや類型Ｃを分布させて、ひとつの個体別資料の分布のまとまりを構成しているものがあることが理解されており、個体別資料の分布のあり方は何種類かに集約できる可能性がありそうである。これらの中で、複数のブロックに分布が確認された個体別資料の分布のまとまりの規模はまちまちであったが、20数ｍの大きさを示していたものは稀で、ほとんどのものは15ｍ前後から10ｍほどの規模に収まっており、多くのまとまりが一定した大きさを形成していたことが理解できる状況にあった。このように、個体別資料の分布のまとまりには幾つかの共通点が認められることから、これらのまとまりの範囲は遺跡に形成されている何等かの有意な範囲として認識できるものと思われる。

そして、類型Ａや類型Ｂを持つブロックを中心的存在として、その周囲に衛星的に類型Ｃや類型Ｄを分布

していた個体別資料からは、その個体別資料に対してその場所（類型Ａや類型Ｂを持つブロック）で剥片剥離や石器加工作業が行われ、その場所から類型Ｃや類型Ｄを持つブロックに石器類を持ち出している状況を推察することが可能である。また、個体別資料の中には隣接したブロック間に類型Ａや類型Ｂを持つものがあることから、個体別資料がそれらのブロックを移動しながら剥片剥離され、消費されていることが理解されるものと思われる。これ以外の類型Ｃや類型Ｄで構成される個体別資料と単独個体別資料に分類された86個体は、剥片剥離作業等の対象にはなっていないことが判断される個体であることから、個体別資料は類型Ａや類型Ｂの存在によって剥片剥離作業が行われている個体と、行っていない個体に大別されることが理解できるものと思われる。さらに、第75図を見ると類型Ａや類型Ｂを多く持つブロックは何箇所かのブロックに偏る傾向があることが看取されるが、それらは構成数の多いブロックが相当する傾向にあるものの、構成数の比較的少ないブロックでも類型Ｂを持つものがあり、単純にブロックの構成数だけで剥片剥離作業等の有無を決定することはできないことが判断されるものと思われる。

３）ブロック群について

いままで山中城Ｅ遺跡の第Ⅱ文化層を構成していた1,388点を個体別資料に分類し、その個体別資料を通じて分布状態を概観してきたが、この中で31箇所のブロックのほとんどが相互に関連しながら形成されていることが、複数のブロックにかけて分布している個体別資料の状態から窺うことが可能であった。ただ、第30ブロックだけは他のブロックと個体別資料の共有が認められず、しかも石器類（２点）のすべてが単独個体別資料として分類されており、個体別資料のあり方からは関連性の明確ではないブロックである。しかしながら、出土位置や第Ⅱ文化層の他ブロックとの位置関係から、本文化層の含まれる可能性が最も高いと判断したものである。このように第Ⅱ文化層を構成していた31ブロックは、それぞれのブロックで共通する個体別資料に相違はあるものの、同一集団によって残されたブロック群であることが推定される状況にあったが、確認された31ブロックの全てが同時に形成されたものであるという確証は得られていないのが実情であった。それは、個体別資料の分布状態は一様ではないものの、多くのものが限定されたブロック間に個体別資料の分布のまとまりを形成している状態にあることや、そしてこのまとまりを複数で持つ個体があり、しかもこれらの複数のまとまりは異なるブロック間に形成されていることから、これらの個体別資料の分布のまとまりは、それぞれが限定された範囲（ブロック）の中で収束していた可能性が高いことが窺えるものである。さらに、これら複数の個体別資料の分布のまとまりの間では、ほとんど接合関係を認めることはできないことから、これらのまとまりがブロック間を移動するような短い時間的尺度によって、形成されたものではないことが推定される状況にある。したがって、このような個体別資料の分布のまとまりが複数の個体別資料によって形成されているような一群のブロック（分布域）は、何等かの状況によって生じた範囲で、しかもブロックを超えた範囲が想定されていることから、遺跡内に存在する何等かの単位として認識できるものと思われる。以下では第75図を利用してこれらのまとまりの分布状態を見ていくことにするが、図中には各ブロックに分布する個体別資料の中で、隣接する複数のブロックに各類型を分布して個体別資料の分布のまとまりを形成しているブロック間を□で囲って図示してある。一般的に多くのブロックで構成される遺跡では、このような個体別資料のまとまりの分布状態によって、出土したブロックが幾つかのブロック群に分割されることが明らかになってきており、個々のブロック群は同一集団による回帰的な集落地のひとつであり、時間的前後関係を持って形成されたものであることが推定されている。このような理解を念頭に置きながら本文化層の31ブロックを見てみると、個体別資料の分布のまとまりによって形成されている範囲が確定的なのは第１～第４ブロックの一群で、それ以外のブロックに分布しているまとまりは、個々の個体



第75図　第Ⅱ文化層個体別資料の分布とブロック群

でまとまりの範囲がまちまちであり、想定される範囲以上の広さで個体別資料の分布が認められるものも存在していた。したがって、以下で示すブロック群の範囲以上の広さで分布が認められた個体別資料も存在しており、本文化層のようにブロックが密集状態で分布している遺跡では、ブロック群の確定を難しいものとしている。本文化層では、以下のような５箇所のブロック群が把握された。

ブロック群Ⅰ　第１～第４ブロックで構成されるブロック群である。これらは南北方向に点々と分布し､約27m×約10mの細長い範囲を形成しているものである。比較的資料数の多い第１、第３ブロックに、隣接した状態で資料数の少ないブロックを分布させているブロック群である。構成ブロック数は４である。

ブロック群Ⅱ　第５～第11ブロックによって構成されているものである。隣接した位置で確認され資料数の比較的多い第６、第７ブロックを中心にして、その周りに資料数の少ないブロックが分布している状況を示している。必然的に分布範囲は円形に近いもので、約18m×約16mの大きさに展開していた。構成ブロック数は７である。

ブロック群Ⅲ　第12～第15ブロックで構成されているブロック群である。４ブロックは東西方向に並んだ状態で分布し、約17m×約８mの範囲に展開されていたものである。各ブロックは散漫な分布を示しているものが殆どで、ブロック群全体でも数点の類型Ｂが確認されているにすぎない。なお、ブロック群Ⅱと後述するブロック群Ⅳとはブロック範囲が２m前後しか離れておらず、近接する位置関係で形成されているものである。構成ブロック数は４である。

ブロック群Ⅳ　第16～第25ブロックで構成されている。これらは約17m×約21mの範囲に展開されているブロック群で、本文化層の中では最も出土量の多い第19ブロックと三番目に多い第16ブロックを中心として、その周りに資料数の少ないブロックを分布させているものである。前にも触れたが、本ブロック群とブロック群Ⅲとは隣接する状態で位置しているが、それに加えてブロック群Ⅱとブロック群Ⅴとも２m程度離れているだけであり、極めて近い位置関係で形成されたブロック群である。したがって、前述したように個体別資料の分布のまとまりが、他のブロック群にまで広がりを見せているものが散見される状態である。構成ブロック数は10である。

ブロック群Ⅴ　第26～第31ブロックで構成されるブロック群である。ブロック群を構成している各ブロックは資料数の少ないものがほとんどを占めており、類型Ｂはブロック群の中でも２個体が確認されているだけであった。ブロック群は約18m×約15mの範囲を形成していたが、この中には前述したように単独個体別資料で構成された第30ブロックが存在し、他のブロックとは個体別資料の共有が認められていないものであったが、出土位置や他の文化層の分布状態から本文化層に含めたものである。ブロック群を構成しているブロック数は６である。

以上のような５ブロック群にまとめることができると思われるが、確認された31箇所のブロックの殆どが密集状態で分布している状況であり、近接するブロック群にも個体別資料の分布のまとまりが広がっている個体が数多く認められていることは前述した。しかも個体によっては近接する複数のブロック群にかけて個体別資料のまとまりを分布させているものがあり、ブロック群の認識に混乱が生じている可能性のあることは否めない状況である。しかしながら、幾つかのブロック群には共通する部分もあることから、以下ではこれらの共通点を確認していくことにしたい。

ブロック群のブロック構成数を見ると、ブロック群Ⅳの10ブロックが最も多く、ブロック群ⅠとⅢの４ブロックが少ない構成のものであったが、ブロック群ⅡやⅢのように調査範囲外に分布範囲が広がる可能性のあるブロック群もあり、平均的なブロック構成数は明らかではないものの、４～10の構成数で多くのものは10未満のブロック数で構成されているようであった。個体別資料はこれらのブロック群の中でブロックを超えたまとまりを形成していたが、その範囲はブロック群の全ブロックに分布するような個体は認められず、殆どのものは一部のブロック（２～５ブロック）に分布している状態であった。そして、ブロック群はこのような個体別資料の分布が個体と分布するブロックを替えて形成されたもので、しかも多く個体別資料が共通した範囲（ブロック）に石器類を分布させていることによって認識されたものであり、一定した何等かの活動範囲を現していることが推定されるものと思われる。そして、これらのブロック群は、個体別資料のまとまりからはそれぞれが独立した範囲として考えることも可能であるが、多くの個体別資料がブロック群の範囲を超えた分布が確認されており、これらのブロック群が無関係に成立したものではないことが理解されるものである。したがって、これらのブロック群は何等かの状況によって生じた現象と考えられるが、現時点ではブロック群は数多くの個体別資料の共有が認められることから、これらのブロック群が同一集団によって残されたものであることが推定されるにすぎない。そして、これらのブロック群間には頻繁な接合関係も認められることはできないことから、ブロック群が同時期に存在していた可能性も低いことが推定されるものである。以上のような個体別資料のあり方からは、ブロック群間の関連性は明らかであることから、同一集団による回帰的な集落構造（戸沢編　1974、鈴木　1984）によって残されたもので、これらのブロック群間では、いずれかの遺跡でこれら個体別資料の一部が消費されていたことが想定されるものである。このように本文化層においても、他の遺跡と同様の集落形態が形成されていたことが推定されたが、もしこのような推定が正しいものであるならば、ブロック群には前後関係が認識できる筈であることから、以下ではブロック群間の関係を検討していくことにしたい。

では具体的に、回帰的な集落構造とこれらの前後関係を見ていくことにするが、これらの検討を行うにはブロック群間にまたがって分布する各個体別資料の内容の確認が有効であることから、それら類型の分布状態を見ていくことにする。

個体別資料番号№13は、ブロック群Ⅱに単数の類型Ｂと複数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅰとブロック群Ⅲにそれぞれ単数の類型Ｃを分布させていた。

個体別資料番号№14は、ブロック群Ⅱに単数の類型Ｂと類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅰに複数の類型Ｃを分布させているもの。

個体別資料番号№29は、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｂを分布し、ブロック群Ⅲに単数の類型Ｄが確認された個体別資料である。

個体別資料番号№34は、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｂと単数の類型Ｃを、ブロック群Ⅲに単数の類型Ｃを分布させていた。

個体別資料番号№36は、ブロック群Ⅱに単数の類型Ｂと類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅲに単数の類型Ｃを、ブロック群Ⅳに複数の類型Ｃを分布させていた。

個体別資料番号№73は、ブロック群Ⅳに複数の類型Ｂと単数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅲとブロック群Ⅴに複数の類型Ｃを分布していた個体別資料である。

個体別資料番号№102は、ブロック群Ⅳに単数の類型Ｂと類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅴに単数の類型Ｃを分布させているものである。

個体別資料（母岩、石核）は、剥片剥離の進行とともにその体積を減少させ、最終的には類型Ｃと残核で

ある類型Ｄとして残されることが理解されるが、遺跡内には類型Ｃで構成されている個体や単独個体別資料として分類されるものも多量に確認されていることから、それらを剥離した石核を保有しなくなっても、これらの石器類の中には割合と長い期間、石器群の構成石器として存続していたものがあったことが理解されるものと思われる。このような個体別資料の消長のあり方をもとに、これらの個体別資料の分布状態を見てみると、個体別資料番号№13ではブロック群Ⅱからブロック群Ⅰとブロック群Ⅲへの移行が、個体別資料番号№14は、ブロック群Ⅱからブロック群Ⅰへ、個体別資料番号№29、№34はブロック群Ⅱからブロック群Ⅲへの移行が、個体別資料番号№36は、ブロック群Ⅱからブロック群Ⅲとブロック群Ⅳに、個体別資料番号№73は、ブロック群Ⅳからブロック群Ⅲとブロック群Ⅴへの移行が、個体別資料番号№102は、ブロック群Ⅳからブロック群Ⅴに移行していることが推定されるものである。このようにブロック群間の前後関係を個体別資料の消費状態から推察してみたが、資料数が比較的多く、ブロック群の中に多量の類型Ａ・Ｂを持っていたブロック群ⅡとⅣから資料数の少ないブロック群Ⅰ、Ⅲ、Ⅴへの移行が推定される状況にある。ただ、ブロック群ⅡとⅣでは関連性の高いブロック群が違い、ブロック群Ⅱはブロック群ⅠとⅢに、ブロック群Ⅳはブロック群Ⅴとの関係がより高い傾向にあることが窺えるものの、個体別資料の中にはブロック群ⅡとⅣの双方に類型Ｂを分布しているものと、ブロック群Ⅱだけに類型Ｂを分布している個体が認められていた。そして、このような個体別資料の分布状態からは、ブロック群Ⅱが形成される前に複数の新しい石材を入手していることや、ブロック群ⅡとⅣには同一個体の多くの類型Ｂを分布していることから、両ブロック群はそれほど間を置かずに形成されたものであることが推察できるものと思われる。そしてブロック群Ⅰはブロック群Ⅱ、Ⅲ、Ⅴとは複数以上の個体別資料の共有が認められるものの、ブロック群Ⅳとは僅かに認められるだけであった。このような状態から、ブロック群Ⅰとブロック群Ⅳは、確認された５ブロック群の中では最も関連性の低い関係であったことが窺えるものと思われる。そして、前述したようにブロック群Ⅱからブロック群ⅠとⅢに、ブロック群Ⅳからブロック群Ⅴに移行したことが推察できることから、これらのブロック群の前後関係を大胆に推定してみると、最初にブロック群Ⅳが形成され、いずれかの遺跡をへた後にブロック群Ⅱとブロック群Ⅴが残され、再度いずれかの遺跡へ移動した後にブロック群Ⅰとブロック群Ⅲが形成されたことが想像できると思われる。ただ、個体別資料の中には少数ではあるものの、推定された前後関係と逆の類別を分布しているものがあり、個体別資料の分布のあり方は一様ではなく、複雑な様相を呈していることが窺えることから、推定された前後関係は飽くまでも可能性の高い状況ではあるものの、断定するのは難しいのが現状と思われる。そして、推定されたこれらの順序には、ひとつのブロック群（ブロック群Ⅳ）が二つのブロック群に別れて戻ってきたような状況が推察されているものの、これらにも時間的な前後関係が存在するのか、或いはブロック群が分割するような現象が集団内に起こったのかは明らかではないことから、今後も検討を加えなければならない問題点は多いことが理解できると思われる。

以上のように個体別資料の分布状態からブロック群を認識し、これらブロック群の関連性に検討を加えてきた。この中で、ブロック群はそれぞれの範囲の中で独立している傾向が強いものの、ブロック群間では多くの個体別資料の共有関係があり、ブロック群が無関係に成立している訳ではないことが推察される状況にあった。このような個体別資料の状態から、本文化層でも回帰的な集落が営まれていた可能性が高いことが推定され、しかも最低でも３回に亘って本遺跡にブロック群を形成していたことが窺えるものであった。ただ、ブロックとブロック群の多くが極めて密集した状態で形成されており、個体別資料の分布のまとまりやブロック群の設定が混乱している可能性もあることから、細部においては多くの問題点を残すものとなっている。そして、これらのブロック群は、同一集団（一家族か？）による回帰的な集落構造によって残されたものと推定されるが、これ以外のひとつの可能性としてブロック群が一家族の専有地で、遺跡が複数の家族

によって形成されたものである可能性も排除できないものであった。しかしながら、このような場合には個体別資料が複数の家族（同集団の）に共有、管理されていたことになることや、ブロック群間に多くの接合関係が認められないことからも、あまり現実的な理解とは思えない状況であった。したがって、これらのブロック群は同一集団による回帰的な集落構造を現している蓋然性が高いことが､理解されるものと思われる。

第５表　第Ⅱ文化層ブロック内外別石器組成表

	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	掻器＋ノッチ	削器	彫器	ノッチ	叩石	ハンマー・ストーン	ドリル	ピエス・エスキーユ	R・F	U・F	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計
１ブロック	2	1	1										4			39	1	48
２ブロック	1				1													2
３ブロック		7											2		1	41	2	53
４ブロック		1														3	1	5
５ブロック	1												1			3		5
６ブロック	3				1							2	5		2	77	1	91
７ブロック	7	8	1		1	1	1				1	2	12		11	139	2	186
８ブロック	1												3			1		5
９ブロック												1				5		6
10ブロック		4			1				1				1		2	17	2	28
11ブロック	3												1			2		6
12ブロック	1	4			1								5			19		30
13ブロック		1														4	1	6
14ブロック	1	2											3			7		13
15ブロック		1														9		10
16ブロック	1	4			2								8			165	1	181
17ブロック	1												2			10		13
18ブロック	1												1			2		4
19ブロック	4	2										1	3			603		613
20ブロック	1							1					1			1		4
21ブロック		1														3		4
22ブロック	1	2										1	3			12		19
23ブロック	1	1		1									1			3		7
24ブロック	1												1					2
25ブロック	2															4		6
26ブロック		1														5		6
27ブロック																2		2
28ブロック	1	1	1									1			1	4		9
29ブロック	4												4		1	6		15
30ブロック													1			1		2
31ブロック													1			1		2
ブロック外１												1						1
ブロック外２																1		1
ブロック外３																1		1
ブロック外４													1					1
ブロック外５	1																	1
合計	39	41	3	1	7	1	1	1	1		1	9	64		18	1,190	11	1,388

（５）位置付けと問題点

山中城Ｅ遺跡で第Ⅱ文化層として認識されたのは、尖頭器を多量に保有するナイフ形石器石器群で、現在までに当地方で調査されたナイフ形石器石器群の中ではあまり類例の知られていない石器群であった。確認された石器類はナイフ形石器、尖頭器の他には、掻器、削器、掻器＋ノッチ、ノッチ、彫器、ピエス・エスキーユ、叩石、ハンマー・ストーン等が検出されており、比較的豊富な器種類が組成されていた。石器類の中で最も特徴的なのは、主体的器種であるナイフ形石器と比肩する量の尖頭器を持っていることで、しかも尖頭器の形態はバラエティに富み、未製品も確認されていることからも石器群の中で尖頭器の占める有用性が増していることが窺える状況にある。そして、ナイフ形石器の中にも、従前に確認されている形態とは大きく相違するものが認められており、従来のナイフ形石器石器群とは石器群の様相に変化が認められる石器群であった。そして、ナイフ形石器より出自が新しい尖頭器を保有することから、ナイフ形石器石器群の中では最も新しい終末期の石器群として理解できるものであり、ナイフ形石器石器群の終末期に検討を加えるには格好の石器群と思われる。したがって、本文化層で確認された石器群の特徴を整理し、記述することによってまとめに変えることにしたい。

ナイフ形石器について：欠損品や未製品を含めて39点が確認された。これらは二側縁加工のものと一側縁加工のものに大別され、未製品を含めて９類に細分されており、ナイフ形石器に認められる諸形態のものが存在していた。この中で特徴的だった点をあげると、比較的大形の二側縁加工のナイフ形石器は幅広厚手の器体が製作されているものが殆どで、柳葉形を呈するような例は僅かに認められるにすぎなかった。そして一側縁加工の中には、通常の一側縁加工のナイフ形石器が先端の製作だけに調整が集中されているのとは違い、一側縁の殆どに調整を加えて基部も作り出しているものがあり、プロポーションとしては二側縁加工のナイフ形石器に類似している形状（第Ⅱ群ｃ類31～33）のものがあった。このような例は、一側縁加工と二側縁加工のナイフ形石器を折衷したものと推定されることから、従来形態的相違が明確にされていたものに対して、それらを緩和している状況が看取されるとともに、これらの明確な相違の必要性が低下していることが窺えるものと思われる。このような従来と違う特徴は調整技術の中にも認められており、通常通りブランティング加工で丁寧に調整を施しているものの他に、素材の鋭い縁辺を削除するような簡単な調整で器体が製作されているもので、調整は鋭角でブランティング加工のような急斜な角度には調整されていないものが認められている（11・16・21）。さらに、極めて荒い調整で側縁を形成しているもので、ブランティング加工のような丁寧な加工状態とは大きく相違するもの（17・31）があり、従来のナイフ形石器の製作技術とは異なる加工が施されていることは明らかであり、加工技術をブランティング加工だけに限定することなく、ナイフ形石器の製作が行われていたことが窺える。このようにナイフ形石器の形態と加工技術には、従来のナイフ形石器石器群には認められなかった特徴が散見しており、ナイフ形石器石器群が変容しているとともに、それが顕在化していることが推察されるものと思われる。

尖頭器について：未製品や、剥片として剥離されてしまった先端部片を含めて41点が確認されたが、この中には接合して完形品となったものが６点あり、実質では35点（先端部片も除く）の尖頭器が存在していた。尖頭器には両面加工、片面加工、周縁加工、半両面加工の形状のものが認められており、尖頭器の特徴的な加工状態のものは殆どが確認されており、尖頭器の加工技術は完成していることが理解できる状況にあった。そして未製品の中に１点だけであるが、所謂「有樋尖頭器」の範疇に含まれる形態のものが確認されており、本文化層には加工状態の違う５種類の尖頭器が存在していたことが分かる。これら尖頭器の素材には、横長剥片、縦長剥片、石刃等が利用されており、素材を限定しているような状況は認められなかったが、ナイフ形石器の素材となる石刃を素材としているものが存在していることは、両器種間で素材の共有が計られてい

たことが窺えるものの、尖頭器全体の中では主体的な素材とはなっていないことが推察できる状況にある。したがって、多量に出土した両面加工の尖頭器を製作するには、素材そのものに一定量の大きさと体積が必要であることから、縦長剥片や石刃は尖頭器を製作するには不向きな素材であったことが推定できるものと思われる。このような推定が妥当であるならば、尖頭器の製作にはナイフ形石器との素材の共有が計られていたものの、素材としての許容範囲が狭い石刃では製作できる大きさや形状は限られてしまうため、徐々に素材としての重要性が損なわれていったものと考えられ、本文化層の石器群はこのような過程にあることが想像できるものと思われる。なお、尖頭器の製作時に剥離されてしまった先端部片が存在していることは前述したが、このような資料の存在は、確認されたブロックの中で尖頭器の製作が行われていた可能性が高いことが理解される。しかし､ナイフ形石器石器群の中では組成として尖頭器の存在は認められているものの、遺跡内で製作された痕跡の認められない尖頭器が殆どを占めており、ナイフ形石器石器群と尖頭器の関係が明確に捉えられていない遺跡が多いのが現状であった。本文化層ではそれほど顕著なものではないものの、ナイフ形石器と尖頭器の製作が行われており、両器種によって石器群が維持されていることが判断されるものであった。したがって、本文化層はナイフ形石器と尖頭器の関係を検討するには格好な石器群であり、今後の調査、研究に益するところが大きいことが指摘できるものと思われる。

その他の石器類について：掻器、削器、彫器、ノッチ等が出土している。掻器は出土量は少なかったが、所謂「先刃式掻器」と「拇指形掻器」の範疇に入るものが確認されており、本文化層では大きさや形状にバラエティが認められることが分かる。そして、ナイフ形石器石器群の多くは石刃を素材とする先刃式掻器との結び付きが強いが、本文化層では拇指形掻器の方が出土量が多い状態にあり、ナイフ形石器石器群の中での先刃式掻器の立場が後退していることが推察できる状況にある。削器も小形の石刃素材のものと、大形の剥片素材のものが認められており、石刃素材ではない削器が製作されていることが理解される。彫器とノッチも各１点であったが確認されている。ただ、双方とも縦長剥片か石刃を素材として製作され、ノッチは強靭な刃部と器体が製作されていたが、彫器は彫刀面と調整面の関係が明確ではなく、一応彫器として理解したものの器種として疑問の残るものであった。したがって、本文化層の該当する時期に彫器が組成されるかどうかは明確ではなく、今後の調査、研究で検討しなければならない課題として認識しておきたい。以上のように、ナイフ形石器と尖頭器以外の器種の内容を概観してみたが、これらの中にも石刃以外の剥片を素材とした石器類が確実に製作されていることが判断されるとともに、石刃の素材としての存在が低下していることが窺えるものと思われる。

剥片剥離技術について：少量ではあるが石刃が検出されていることや、ナイフ形石器を初めとして尖頭器、掻器、削器、使用痕のある剥片等に石刃を素材として利用しているものがあり、多くの石刃を量産するような典型的な石刃技法ではないものの､縦長の素材を剥離する剥片剥離技術は保有していたことが理解できる。しかし出土した石核には、多くの剥片剥離が施されたとは考えられないものや、90度や180度の打面転位を行いながら剥片剥離が進められているもの、打面調整と剥片剥離を交互に入れ替えて剥片剥離を進めているもの、剥片剥離作業面を限定し、前後左右の面を打面として求心的な剥片剥離が行われているもの等が認められている。この内の前者では石刃や縦長剥片の生産は可能であるが、後三者では縦長の素材を剥離することは難しい石核であり、多くの石刃や縦長剥片を生産していた可能性は低いことが推定されると共に、素材としての石刃の有用性が顧みられなくなっている状況が看取されるものである。そして求心的な剥片剥離の存在は、目的的剥片である石刃を製作する技術とは相容れない剥片剥離技術の保有を意味しており、ナイフ形石器石器群の製作とともに駆使されてきた石刃技法が、石器群の技術基盤から退かなければならない何等かの現象が、石器群に生じていることが理解できるものと思われる。

本文化層の位置付けと問題点：本遺跡で第Ⅱ文化層として捉えられた石器群は、比肩する量のナイフ形石器と尖頭器を持つナイフ形石器石器群で、当地方のローム層最上層である所謂「休場層」に殆どの石器類が包含されていたものであった。この様な石器組成や出土層位の特徴から、本文化層はナイフ形石器石器群の終末期の石器群であることが推定されるものと思われる。ナイフ形石器石器群の変遷の中で、尖頭器が普遍的に組成されるようになるのは所謂「砂川期」（田中　1979）、「砂川型式期」（田中　1984）に比定される時期以降であり、この時期は先年当地方で編まれた『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』（前嶋他　1995）に対比すれば「第４期ａ段階」に相当する時期であった。したがって、本文化層は「第４期ａ段階」以降の時期に比定されることが明らかであったが、「第４期ａ段階」は技術基盤として石刃技法が駆使されているナイフ形石器石器群で、多量の石刃素材のナイフ形石器と石刃が組成されることが一般的であり、尖頭器は数点程度が組成されているにすぎないものであった。このような「第４期ａ段階」の特徴と、本文化層の特徴とを比較してみると、尖頭器を多量に保有していたり、掻器や削器に石刃素材ではなく剥片素材のものが製作されていたりと、石器群の内容が異なるとともに、技術基盤である石刃技法の衰退が窺えるものであり、「第４期ａ段階」との相違は明らかな石器群であった。したがって、本文化層は「第４期ａ段階」より新しい時期に比定されると思われるが、当地方では「第４期ａ段階」以降の石器群は明確な状態で整理されている訳ではなく、不明な点が多いのが現状であった。さらに、近接する相模野台地の遺跡群では、ナイフ形石器石器群の後に尖頭器を主体的器種とする尖頭器石器群の時期が存在することが明らかになってきているが（鈴木・矢島　1988）、当地方でも尖頭器石器群は検出されてはいるものの、その内容が明確に捉えられていないのが実情である。前述したように本文化層は尖頭器を多量に保有するナイフ形石器石器群であり、後続するであろう尖頭器石器群の前段階の石器群であることが推定されるとともに、「第４期ｂ段階」は尖頭器の組成量はａ段階と大差のない状態の石器群であることから、本文化層は『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』の「第４期ｃ段階」に比定できるものと考えている。ただ、本文化層のような特徴を持つ石器群は類例が少なく、僅かに長泉町八分平Ｂ遺跡があげられるだけであるが、本遺跡と同じく笹原山中バイパスの建設に伴って調査された山中城遺跡や願合寺Ａ遺跡ではナイフ形石器を主体とし、少量の尖頭器を保有する石器群が確認されており、これらの石器群も本文化層と同じ「第４期ｃ段階」に比定されている（伊藤・麻生・小池2014a・2014b）。したがって、「第４期ｃ段階」には尖頭器の保有状態に違いのあるナイフ形石器石器群が存在していたことが明らかとなってきており、当該期の全ての石器群が本文化層のような石器組成を示すとは限らないことから、今後は各石器群の構造的理解を深めることによって「第４期ｃ段階」の理解が進むことに期待したい。そして、本文化層では技術基盤であった石刃技法の退行が顕著に認められているが、このような現象の原因は石器群に多量に保有されるようになった尖頭器に起因するものと考えられることから、当該期の技術基盤の内容が検討されるとともに、尖頭器との関係も追及していく必要があるものと思われる。

このように、本文化層は『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』の「第４期ｃ段階」に比定することができたが、当該期に比定されている石器群は個々の遺跡で様相が大きく異なるものが多く、「第４期ｃ段階」の石器群の内容も明確に把握されていないのが現状である。そして、後続するであろう尖頭器石器群との関連も明らかではないのが実情であることから、両石器群の継続性の有無を含めて尖頭器石器群との関係も追及していく必要があると思われ、「第４期ｃ段階」以降の尖頭器のあり方は当該期の石器群を理解する上での重要な要素と成り得るものである（後述）。

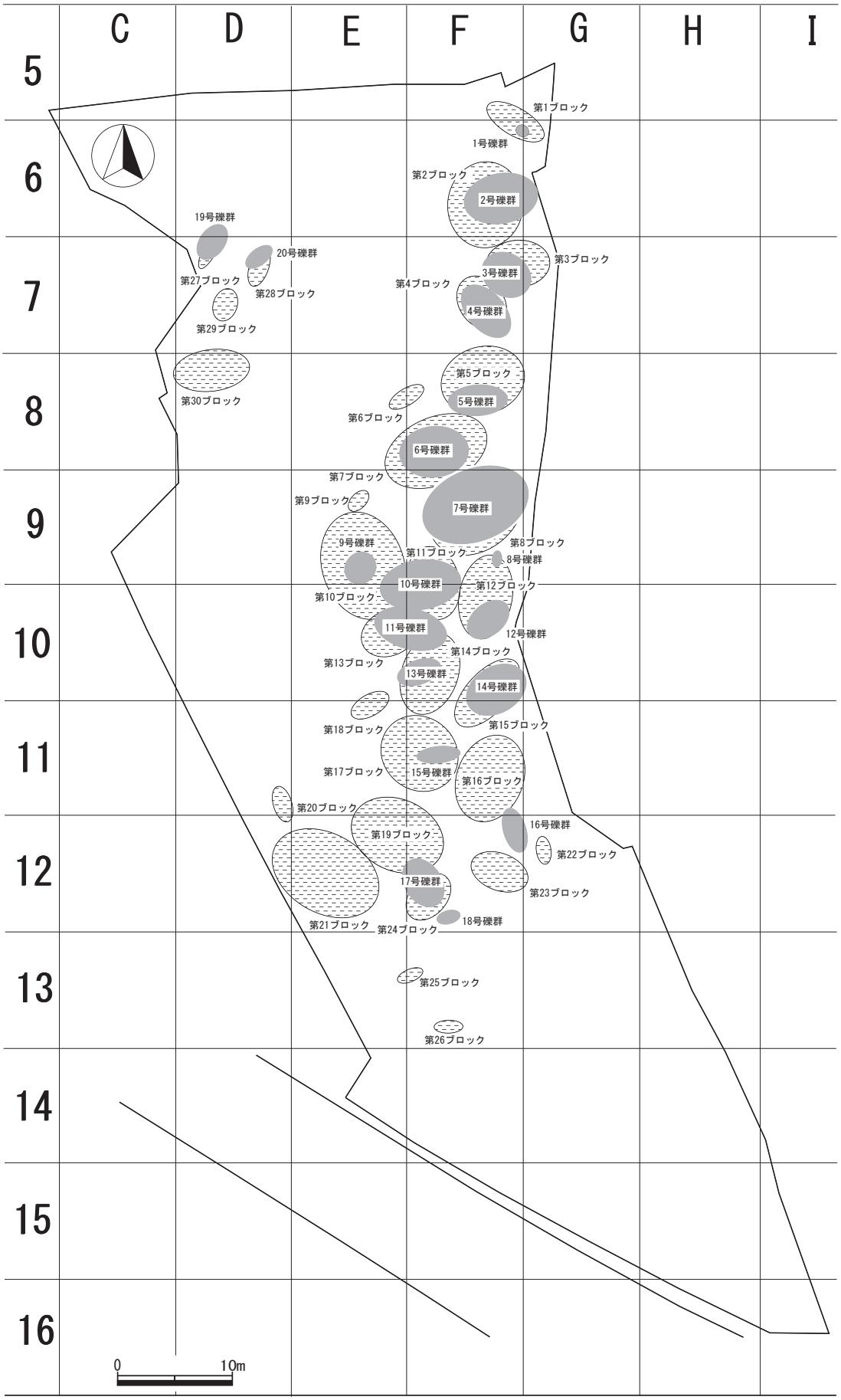
３．第Ⅲ文化層

（１）第Ⅲ文化層の概要

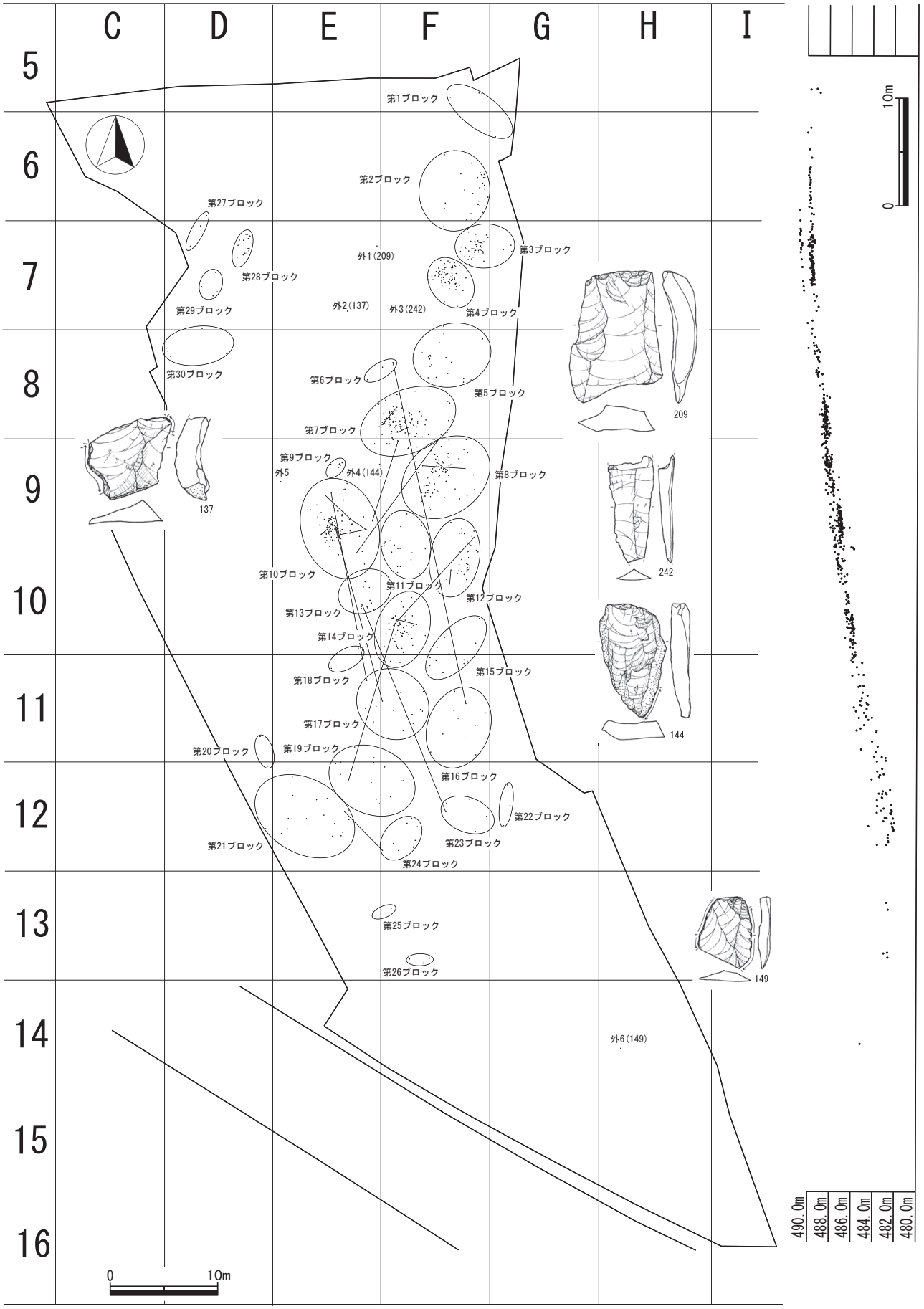
山中城Ｅ遺跡では旧石器時代の文化層は三枚が確認され、第Ⅲ文化層はその中では最も古い時代の様相を示す文化層であった。しかしながら、前述してきた第Ⅰ文化層～第Ⅱ文化層も当地方の基本層序である第６層の所謂「休場層」（ローム層最上層）の上層（ＹＬＵ層）から第12層のＢＢ０層にかけて出土が認められ、第Ⅲ文化層を構成している石器類の多くが、第８層の休場層中層（ＹＬＭ層）から第10層の下層（ＹＬＬ層）で検出される傾向が認められるものの、３文化層で出土層位が重複している状況であることは否めない事実であった。ただ、出土層位の若干の違いと、石器組成や個々の器種の形態的な相違が認められることから、３文化層の分離が可能になったものである。文化層の分離は、出土した全ての石器類を個体別資料に分類し、個々の個体別資料の組成や出土位置、及び出土層位などに検討を加えて行ったものであり、資料数の多い個体別資料に関しては総合的に判断することが可能であったが、単独のものや資料数の少ない個体は資料数の多い個体の出土状態を参考にして帰属の判断をしたものである。したがって、単独のものや資料数の少ない個体の中には、文化層に混乱のある個体も存在する可能性があるが、大きな間違いや問題を生じさせるようなことはないものと思っている。

第Ⅲ文化層として確認されたブロックは30箇所で、それ以外にブロック外で検出された６点の石器類を含めて763点の石器類で構成されている。石器類の内訳は、ナイフ形石器54点、尖頭器９点、掻器８点、削器８点、彫器７点、ノッチ４点、掻器＋彫器１点、ドリル１点、ピエス・エスキーユ１点、加工痕のある剥片10点、使用痕のある剥片56点、石刃・折石刃119点、石核17点、剥片・砕片468点であった。以上のような組成から、本文化層はナイフ形石器を主体とし、少量の尖頭器を伴うナイフ形石器石器群として捉えることができるものと思われる。ブロックは第Ⅱ文化層と同様に、標高に沿うようなブロックが南北方向にベルト状に展開し、それは80ｍ以上の長さとなっており、広範囲に亘って遺跡が形成されていたことが窺える。またこのブロック列より下がったレベルで、10数ｍと短いものであるが、もう一列のブロック列が確認されており、遺跡を展開していくにあたって何等かの規制や順序等が存在したのかも知れない。ブロック以外では、礫群が20箇所と配石が20点確認され、それらは351点の礫で構成されており、石器類と合わせると1,114点の石器群で第Ⅲ文化層が構成されていたことがわかる。ただ、ブロック群は北側と東側の調査範囲外に伸びていく可能性があり、本文化層は出土した石器群以上の資料数で構成されている可能性が高いことが推定されることから、出土した石器組成が文化層全体の内容の全てを現している訳ではないことを、念頭に置いておく必要があるものと思われる。

本文化層の石器類も黒曜石製のものが多く確認されているが、それに近い量の個体が認められたホルンフェルスや、目に付く程度に存在していたガラス質黒色安山岩、凝灰岩、流紋岩、チャート等と、少量であるが検出されている玉髄、粘板岩、赤玉石（鉄石英）、石英、頁岩、硅質頁岩、安山岩、安山岩（トロトロ石）等によって、石器類が製作されていた。黒曜石は比較的近距離の産地である箱根畑宿群と天城柏峠群の他に、長野県を産地とする諏訪星ヶ台群、和田鷹山群、和田芙蓉ライト群、和田土屋橋西群、蓼科冷山群等のものが同定されている。この中で比較的多く利用されている産地は諏訪星ヶ台群や箱根畑宿群で、第Ⅱ文化層で多用されていた天城柏峠群などの使用頻度は低い傾向にあった。このように、本文化層では黒曜石の利用頻度はそれほど高くなく、黒曜石以外の石材も石器製作の対象として大いに活用されていることが理解されるとともに、石器製作を黒曜石だけに頼ることなく多種多様な石材が利用されていることが窺える。尚、本文化層でもブロックや礫群に、遺物出土層位と遺物レベルが一致しないものがある。



第76図　第Ⅲ文化層のブロックと礫群の分布



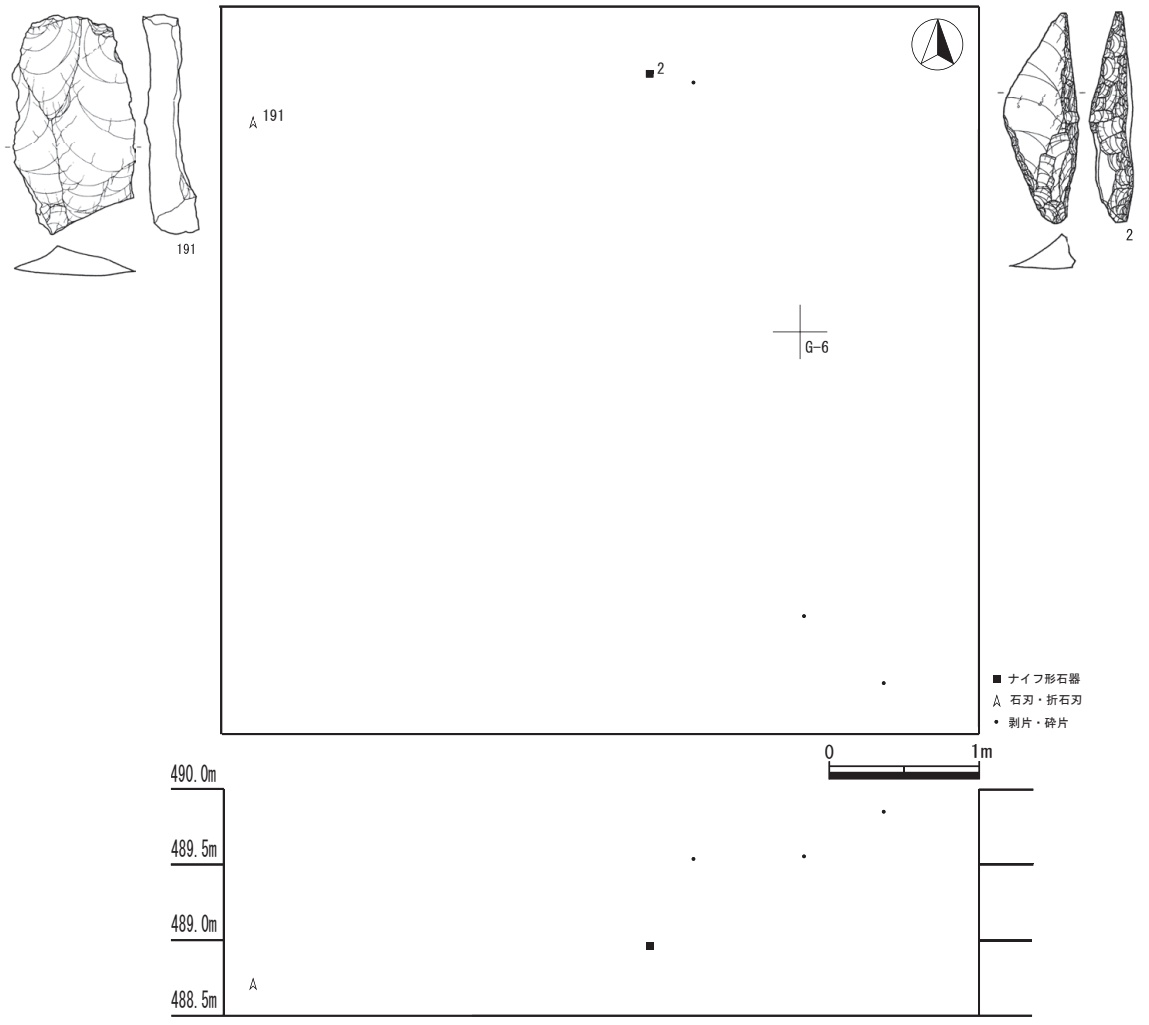
第77図　第Ⅲ文化層のブロックと単独石器の分布

（２）検出された遺構

１）ブロック

第１ブロック（第78図）

第１ブロックは調査範囲の最も北側で検出されたブロックで、南側に位置する第２ブロックとは約2.5mの距離を隔てて分布が確認されている。分布していたグリッドはＦ－５とＧ―６で、ブロックの規模は長軸約5.6m、短軸約3.0mを測り、長楕円形の分布が形成されていた。石器類は、この範囲の北側から東南側にかけて分布範囲の外側を示すように点在している状態で、ブロックの中央から南側と西側にかけては石器類の分布の認められない空白域となっていた。出土した石器類は、ナイフ形石器１点、石刃１点、剥片・砕片３点の合計５点で、ナイフ形石器と石刃と剥片１点がガラス質黒色安山岩製で、残りの剥片２点は黒曜石製であった。これら５点は全て別個体に分類されたが、この内のガラス質黒色安山岩のナイフ形石器と剥片１点は単独個体別資料に、残りの黒曜石の剥片２点とガラス質黒色安山岩製の石刃１点は、ともに第２ブロックや第３ブロック等で同一の個体別資料が確認されており、第１ブロックが単独で形成されたものではないことが判断される状況を示していた。そして、出土石器の全てが別個体であったことから、第１ブロックでは剥片剥離や石器製作などの作業を行っていないことと、石器類の全てを他のブロックや遺跡から持ち込んだものであることが推定されるものであった。これらの石器類は、第５層のローム漸移層から、当地方のローム層の最上層である所謂「休場層」の下層段階のYLL層にかけて、点在するような垂直分布が形成されて



第78図　第Ⅲ文化層第１ブロック石器分布図

おり、出土層位に集中するような状況は認められなかった。石器類が検出された標高は、最も低いものが約488.68m、高いレベルで出土したものは約489.85mで、これらには約1.17mの高低差が生じており、出土レベルにも偏りは認められなかった。

第２ブロック（第79図）

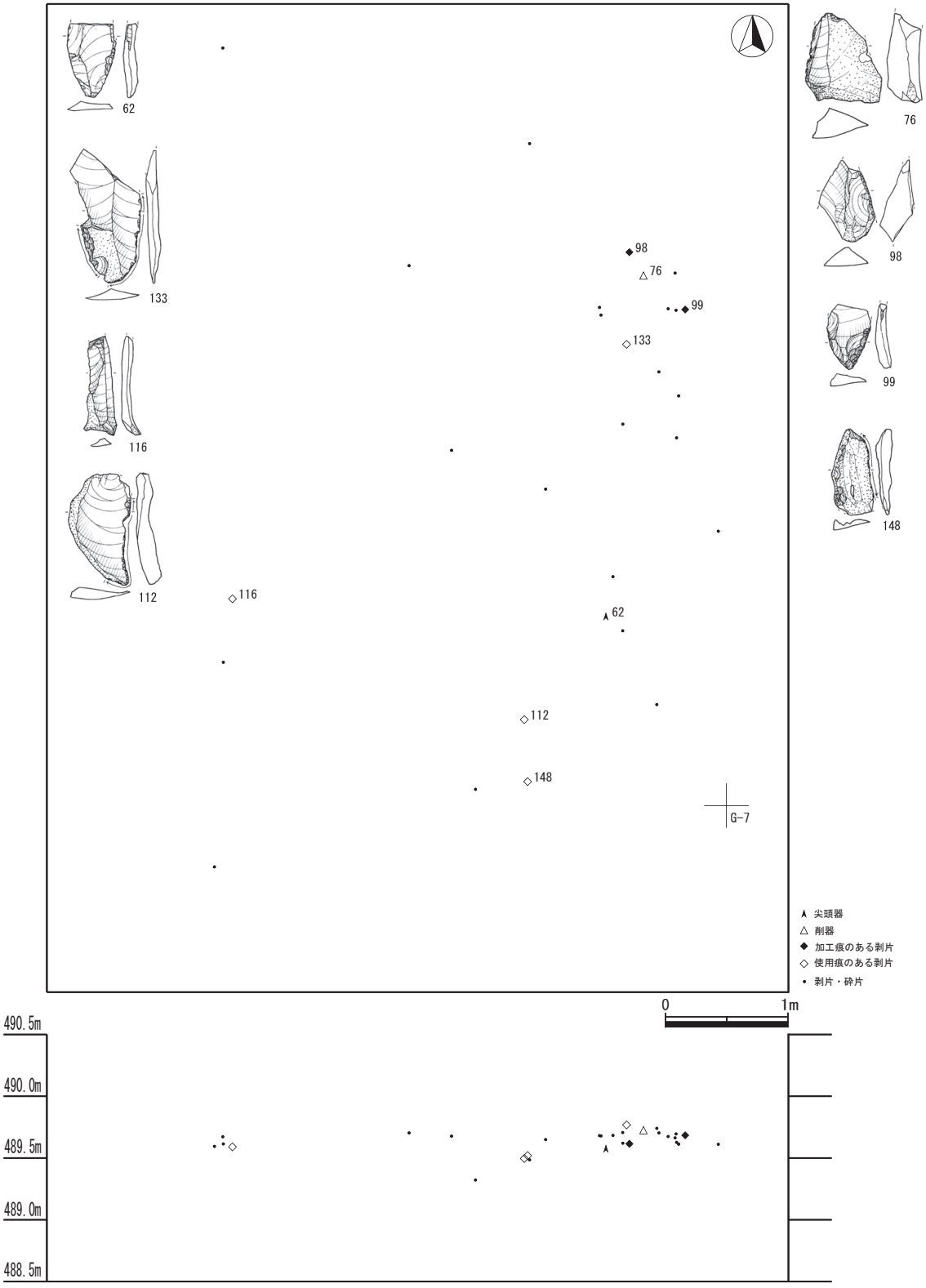
第２ブロックは第１ブロックの南側約2.5mで確認されたブロックで、南側には第３ブロックがブロック範囲を接するように近接して位置している。確認されたグリッドはＦ－６～７グリッドで、ブロックの規模は長軸約5.5m、短軸約4.3mを測り、小判形の分布範囲が形成されていた。石器類の出土状態は、東側で幾分出土量の多い場所があるものの、全体的には分布範囲の中で散漫な分布を見せており、外縁部にいくに従い点在するような状況を示している。出土した石器群は尖頭器１点、削器１点、加工痕のある剥片２点、使用痕のある剥片４点、剥片・砕片21点の合計29点で、これらの大部分の石器類は黒曜石を原材として製作されていたが、尖頭器の１点はチャート製であった。29点の石器類は９個体の個体別資料に分類されたことから、本ブロックを構成する個体別資料の中には複数以上の資料数を持つ個体があり、それも複数個体存在している状況から、ブロック内で何等かの石器加工や剥片剥離等の作業が行われていたことが推定されよう。石器類が出土した層位は、本地域のローム層最上層である所謂「休場層」の中層である第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけてであったが､大多数の石器類は第８層のＹＬＭ層から検出される状況であった。これらが検出された標高は、最も低いものが約489.32mで、高い例は約489.77mであり、約45cmのレベル差のある垂直分布が確認されたが、大部分のものが489.60m前後のレベルで出土しており、割合まとまった出土状態を示していた。

第３ブロック（第80図）

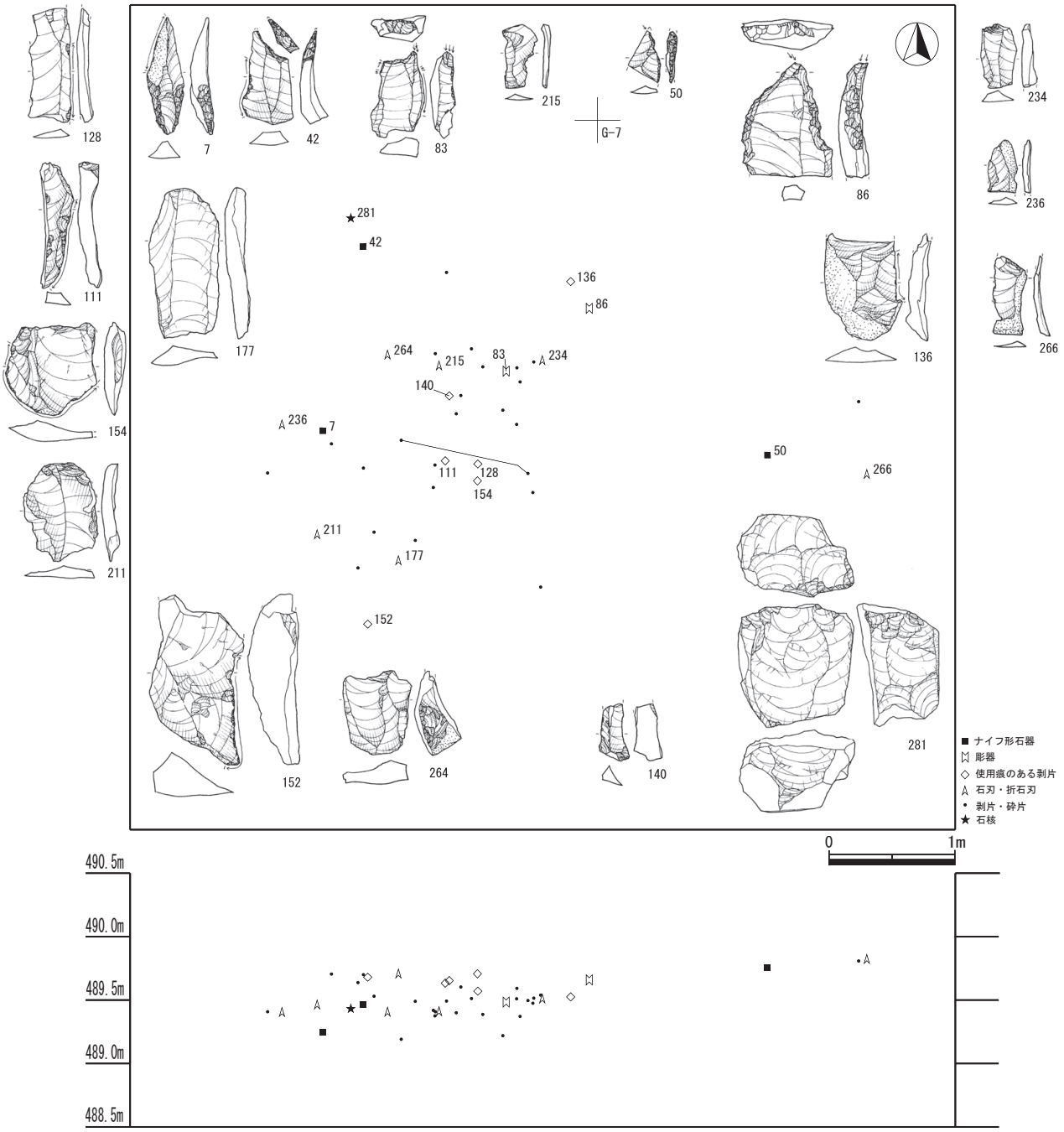
Ｆ－７とＧ－７グリッドにかけて分布が認められたブロックで、北側を第２ブロックと、南西側を第４ブロックと分布範囲を接するように位置している。ブロックは長軸約５m、短軸約3.5mの大きさで、ブロックの西側に石器類がやや集中して出土している場所があり、西側ではそこから外縁部にいくに従い散漫な分布を示していた。これに対して東側では、数点が外縁部に点在しているだけであり、ブロックの東西で出土量に大きな違いが認められている。出土した石器類は43点で、これらの内訳はナイフ形石器３点、彫器２点、使用痕のある剥片６点、石刃７点、石核１点、剥片・砕片24点であった。第１ブロックとは逆に、尖頭器を持たずにナイフ形石器を複数で保有していたことから、それぞれのブロックでは器種の偏りがあることを垣間見せており、石器群の全体を把握する時には留意しなくてはならない事柄と思われる。出土した43点は21個体の個体別資料に分類され、それらは黒曜石が14個体、凝灰岩が１個体、チャートが４個体、ガラス質黒色安山岩１個体、安山岩（トロトロ石）１個体であった。本ブロックでも黒曜石の占める割合が高い状態であったが、多種類の石材も利用されていることがわかるとともに、石器製作に対応する石材は限定されていなかったことが理解されよう。石器類は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけて検出され、過半数のものはＹＬＭ層から出土する傾向が認められている。これらが確認されたレベルは最も低いものが標高約489.19mで、高かったものは標高約489.82mであり、垂直分布には約63cmの高低差が生じていた。そして、石器類の多くは標高489.50m前後のレベルに集まる傾向にあり、ここを中心とした凸レンズ状の垂直分布が確認できることから、本ブロックではまとまりのある垂直分布が形成されていたことが窺える。

第４ブロック（第81図）

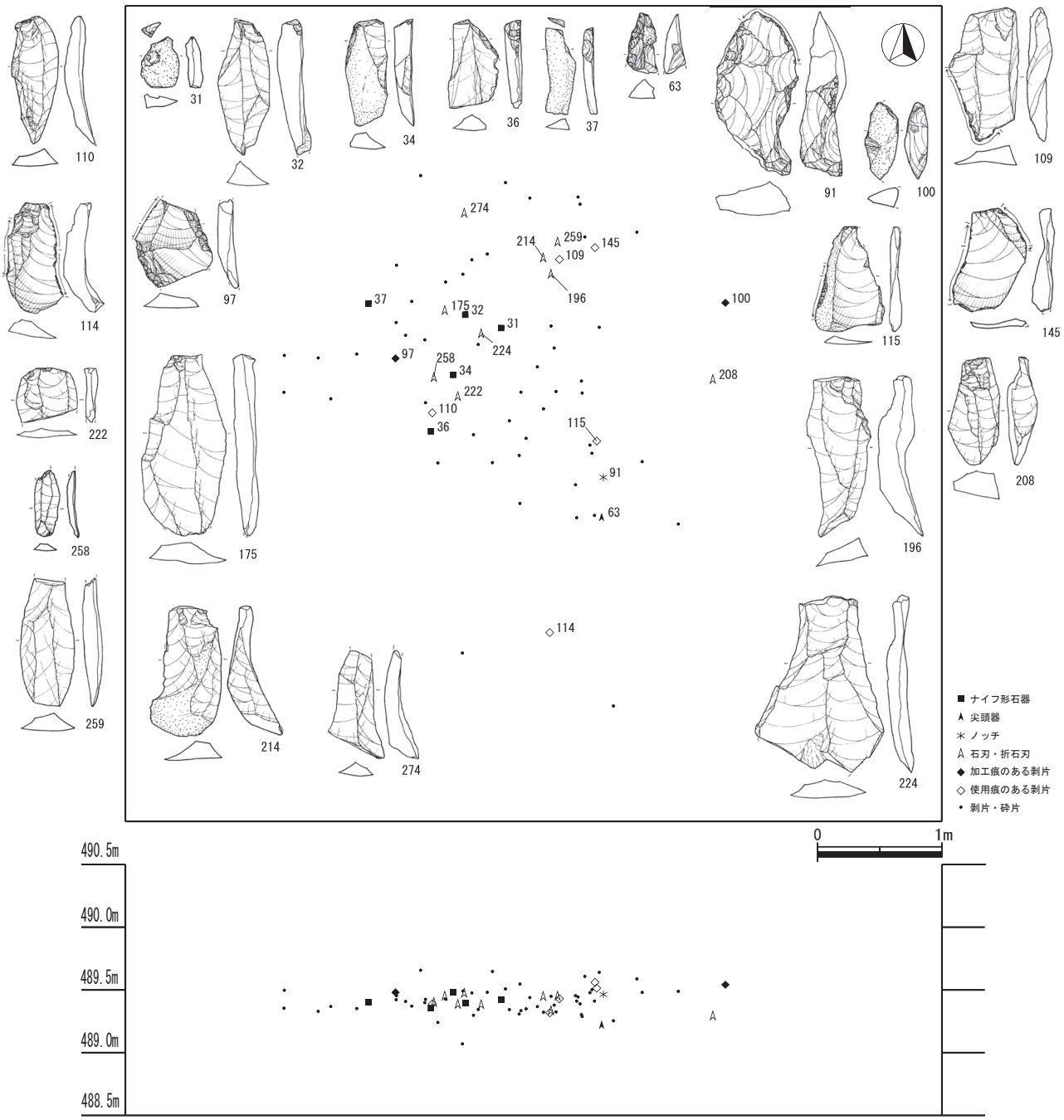
北側でブロック範囲を第３ブロックと接し、第５ブロックの北約1.5mの位置に分布が確認されたブロックで、Ｆ－７グリッドの中央部で検出された。ブロックの大きさは長軸約4.5m、短軸約3.8mを測り、石器類はブロックの中央部で集中する傾向が認められるものの、外縁部にいくに従い疎らな分布状態を呈してい



第79図　第Ⅲ文化層第２ブロック石器分布図



第80図　第Ⅲ文化層第３ブロック石器分布図



第81図　第Ⅲ文化層第４ブロック石器分布図

た。確認された石器類は、ナイフ形石器５点、尖頭器１点、ノッチ１点、加工痕のある剥片２点、使用痕のある剥片５点、石刃９点、剥片・砕片48点の合計71点で、検出されたブロックの中でも比較的出土量の多いブロックであった。石器類を構成していた個体別資料も多く40個体に分類されたが、これらの内訳は黒曜石が８個体、流紋岩５個体、安山岩（トロトロ石）２個体、ガラス質黒色安山岩13個体、ホルンフェルス１個体、凝灰岩が７個体、玉髄１個体、石英１個体、安山岩１個体、赤玉石１個体であり、本ブロックでも多種多様な石材が石器製作に使用されていたことが窺えよう。これらも第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけて出土していたが、多くのものは第８層のＹＬＭ層を中心に確認されており、比較的まとまった出土状態を呈していた。標高では約489.07ｍから約489.66ｍにかけて包含され、約59cmの高低差が生じていたが、

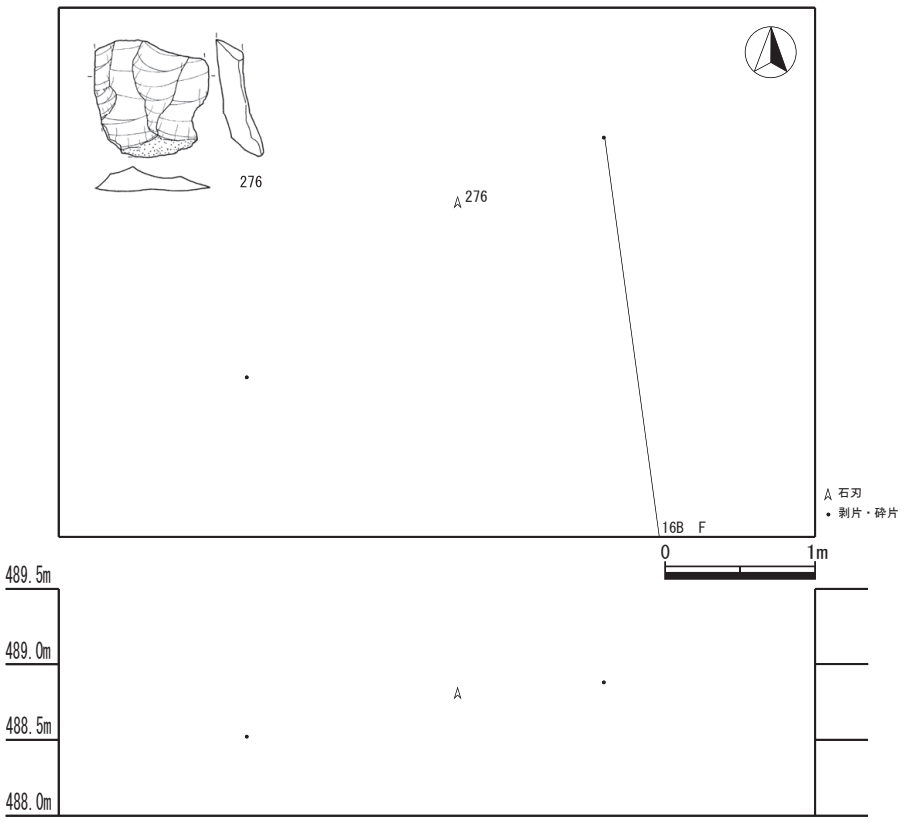
多くの石器類は標高約489.40m付近から集中して検出されており、薄い凸レンズ状の垂直分布が形成されていた。

第５ブロック（第81図）

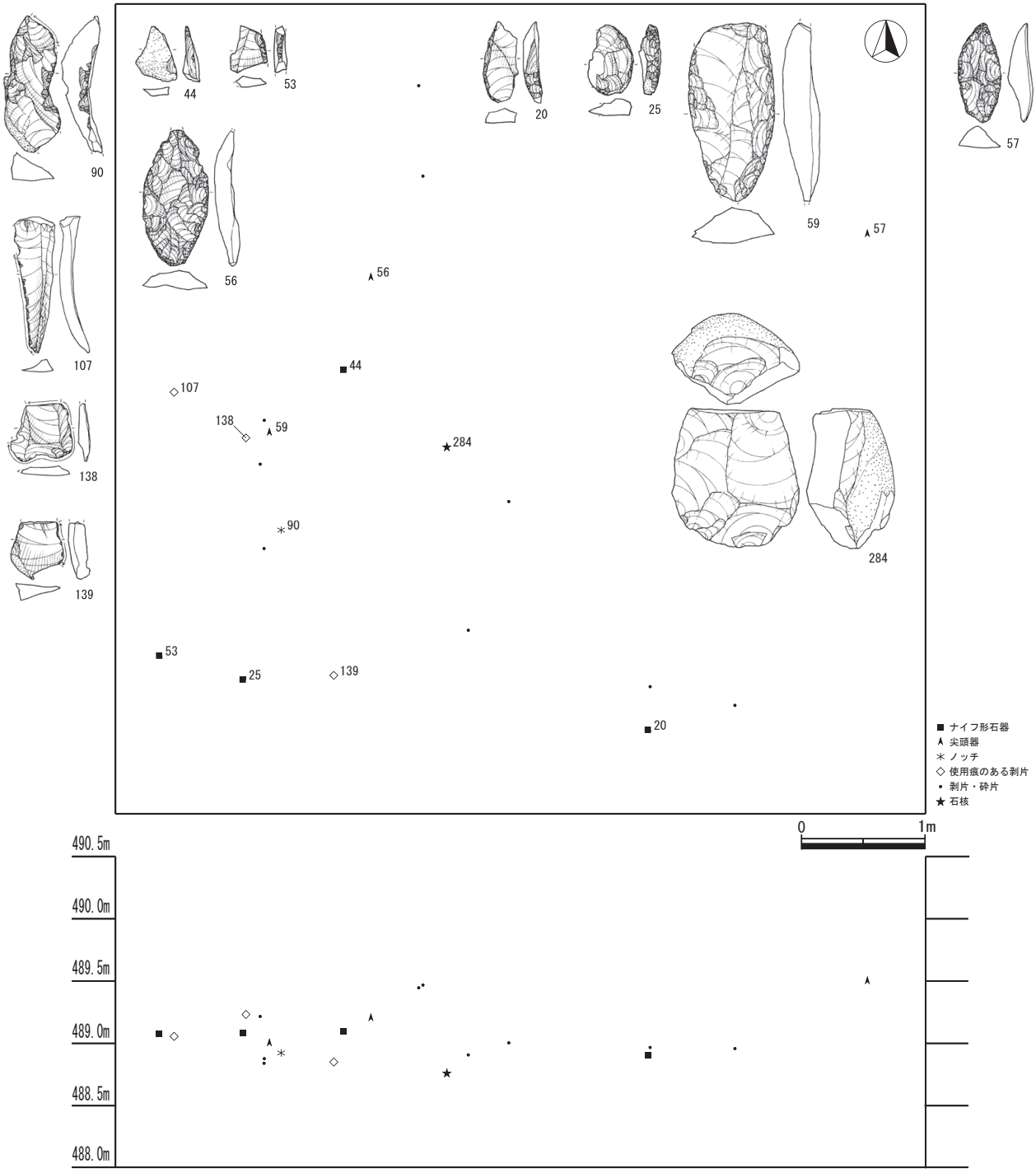
Ｆ－７～８グリッドにかけて分布が確認されたブロックで、第４ブロックの南側約1.5m、第６ブロックの東側約２mの位置で検出された。ブロックの規模は長軸約5.5m、短軸約５mを測り、検出されたブロックの中では中程度の大きさであったが、確認された石器類は南側に偏って出土する傾向があるものの、全体的には散漫な分布を示しており、北側では数点が点在するだけであった。出土した石器類は、ナイフ形石器４点、尖頭器３点、ノッチ１点、使用痕のある剥片３点、石核１点、剥片・砕片９点の合計21点で、出土点数はそれほど多くはなかったが、検出された器種の量は他の石器数の多いブロックと比べても遜色のない出土量であった。これらの石器類は16個体の個体別資料に分類され、その内訳は黒曜石が11個体、ホルンフェルス３個体、流紋岩１個体、ガラス質黒色安山岩１個体と把握されており、本ブロックでは黒曜石が多く利用されていることが判断されるものと思われる。しかしながら、この黒曜石製の石器類は本ブロック内では資料数１点の個体が殆どであることから、ブロック内では黒曜石に対して剥片剥離や石器加工作業等を行っていなかったことが推定されよう。石器類が出土した層位は、第７層のＹＬ－Ｓ１層から第10層のＹＬＬ層にかけてであったが、大部分のものは第８層のＹＬＭ層から出土しており、一定した層位から検出されていることが窺えよう。石器類の中で最も低いレベルから出土したのは標高約488.76mで、一番高いレベルのものは標高約489.51mであり、出土レベルには約75cmの高低差が生じていた。ただ石器類の多くは489.00m付近のレベルで確認されており、皿状のまとまった垂直分布が形成されていた。

第６ブロック（第82図）

第５ブロックの西側約２m、第７ブロックの北側約1.5mで確認されたブロックで、Ｅ－８とＦ－８グリ



第82図　第Ⅲ文化層第６ブロック石器分布図



第83図　第Ⅲ文化層第５ブロック石器分布図

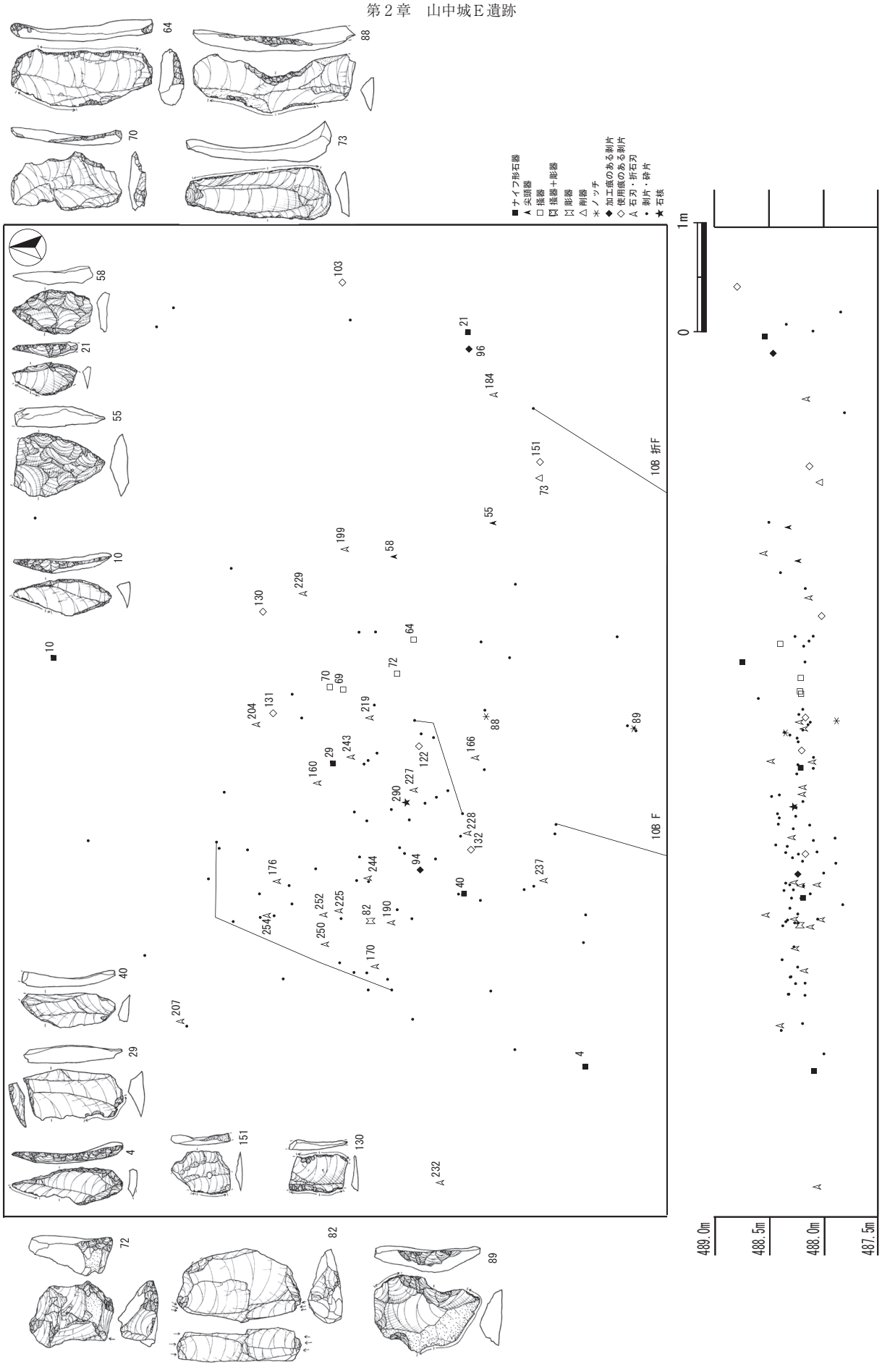
ッドにまたがった状態で分布していた。ブロックを構成している石器類は、ほぼ一直線に並ぶ状態で確認された３点だけであり、長軸は約３ｍを測るものの短軸の長さを明確に捉えることは難しい状況にあるが、径３ｍ程のブロックが想定できるのかも知れない。確認された石器類は石刃・折石刃１点、剥片・砕片２点の合計３点で、ホルンフェルス２個体と安山岩（トロトロ石）１個体の３個体に分類されており、個体別資料の中には複数の資料数を持つ個体が認められなかったことから、これらの石器類は他のブロックか他の遺跡からこのままの形状で持ち込まれたものであることが理解されよう。検出された層位は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけてで、標高では約488.52mから約488.88mにかけて包含されており、約36cmのレベル差のある垂直分布が形成されていた。

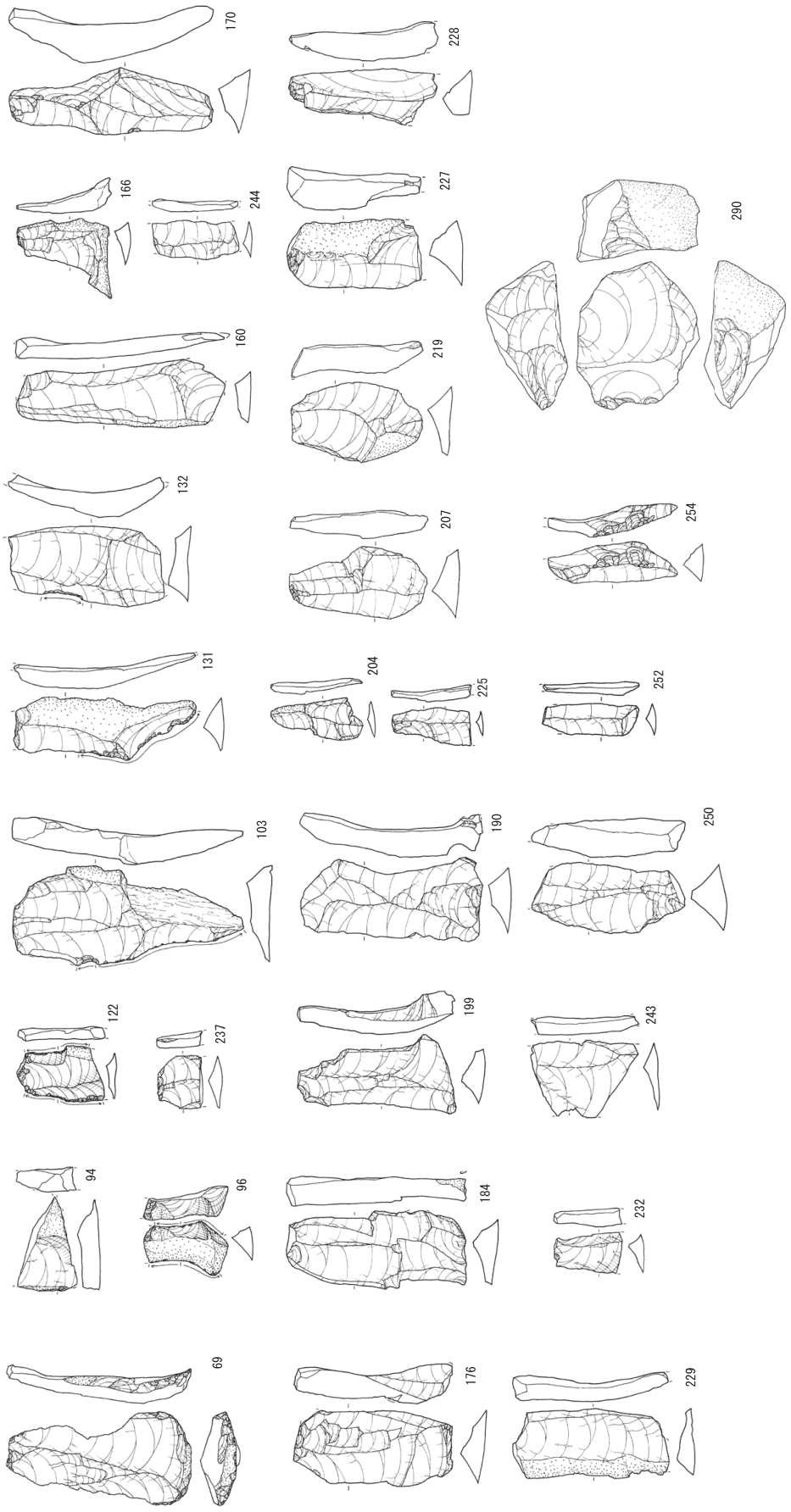
第７ブロック（第84図）

Ｅ－８～９、Ｆ－８～９グリッドの４グリッドにまたがって確認されたブロックで、石器類は長軸約8.5m、短軸約5.5mの範囲に分布しており、本文化層を構成しているブロックの中では比較的大きなブロックである。第10ブロックの北東約４ｍ、第11ブロックの北約5.5mに位置し、第８ブロックとは南東部でブロック範囲を接するような近接した状態で分布している。出土した石器類は多量で、Ｆ－８グリッド南西部付近を中心にして外縁部にいくに従い散漫な分布を示していたが、著しく集中して出土するような箇所は認められなかった。そして、北～東側にかけては、ブロックの外縁部に点在する状態で石器類が分布しており、その内側は分布の空白域となっていた。石器類の内訳は、ナイフ形石器５点、尖頭器２点、掻器３点、削器１点、彫器１点、ノッチ２点、掻器＋彫器１点、加工痕のある剥片２点、使用痕のある剥片６点、石刃・折石刃21点、石核１点、剥片・砕片78の合計123点で、本文化層のブロックの中では最も出土量が多く、しかも豊富な石器群が残されていたブロックである。 123点の石器類は68個体の個体別資料に分類され、それらの石材は黒曜石が15個体、ホルンフェルス17個体、ガラス質黒色安山岩15個体、硅質頁岩２個体、チャート１個体、流紋岩６個体、安山岩（トロトロ石）６個体、凝灰岩が３個体、石英１個体、玉髄１個体、安山岩１個体であった。石器類は第８層のＹＬＭ層から第12層のＢＢ０層にかけての層位から確認され、標高約487.82mから標高約488.80mの間に包含されており、約98cmの高低差を持つ垂直分布が形成されていた。ただ、石器類は標高488.35m前後のレベルで多くのものが出土しており、比較的まとまった出土状態を示していた。

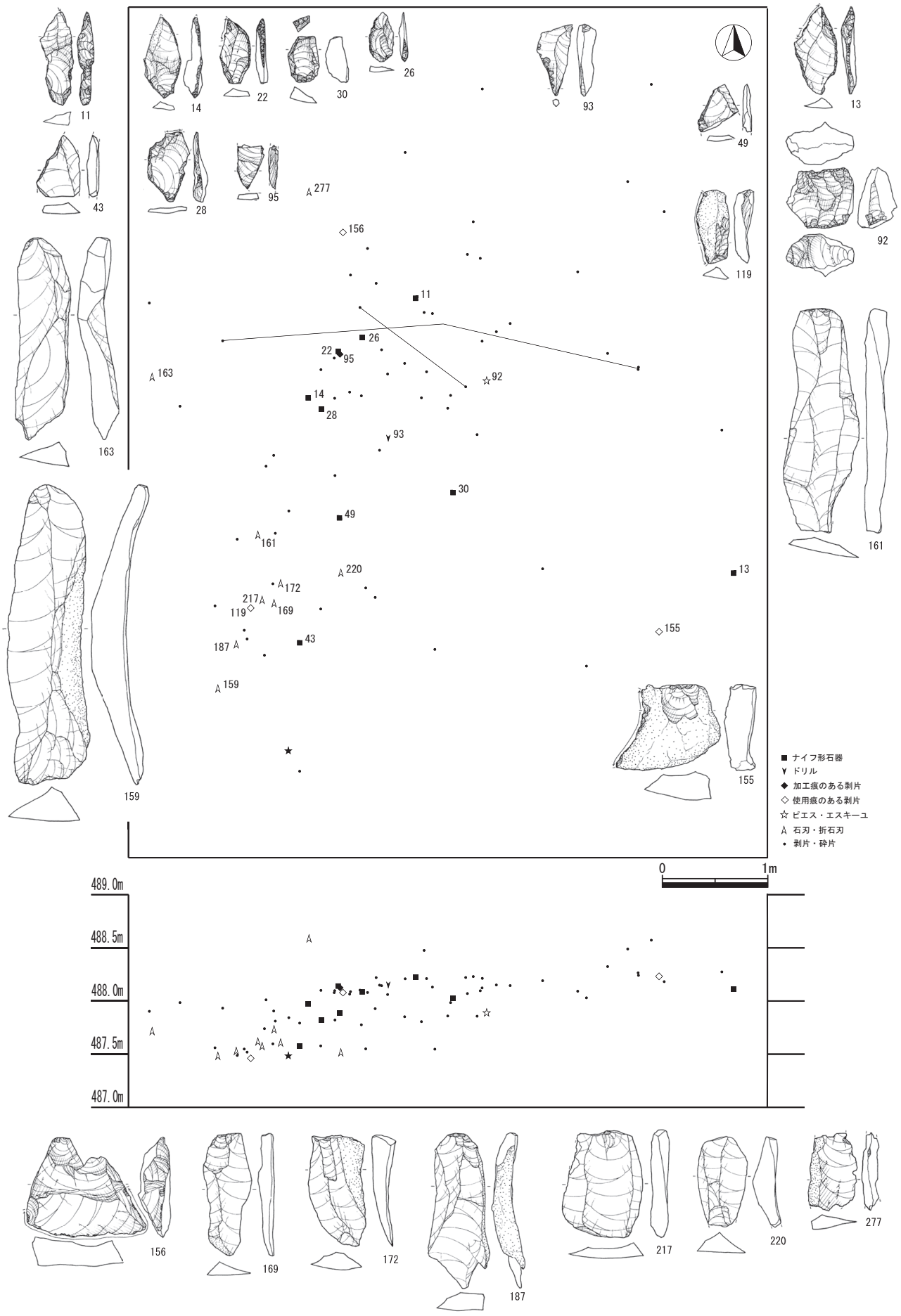
第８ブロック（第85図）

第７ブロックの南東でブロック範囲を接するように位置するブロックで、第９ブロックの東約6.5mで分布が確認されたものである。Ｆ－９グリッドの北東部に分布し、長軸約7.5m、短軸約６ｍの規模のブロックで、石器類はブロックの中心部からややまとまって出土しているが、集中的に検出されているような状態ではなく、分布密度が比較的高い状況であった。中心部以外でも南西部に幾分密な場所があったが、全体的には散漫な分布が認められるだけであり、ブロックの中で集中的に剥片剥離や石器加工作業を行っていたような場所は確認できなかった。出土した石器類は83点で、ナイフ形石器９点、ドリル１点、ピエス・エスキーユ１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片３点、石刃・折石刃９点、石核１点、剥片・砕片58点がこれらの内訳である。83点の石器類は33種類の個体別資料に分類され、これらの石材は黒曜石が10個体、ホルンフェルス14個体、ガラス質黒色安山岩４個体、赤玉石（鉄石英）１個体、流紋岩２個体、チャート１個体、安山岩（トロトロ石）１個体が確認されており、個体数の上では黒曜石の比率はそれほど高くないことが理解されるものと思われる。石器類が包含されていた層位は、第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけてであったが、過半数のものは第８層のＹＬＭ層から検出されており、割合一定した出土状態にあったことが窺えよう。標高では約487.46mから約488.59mの間に包含されており、約1.13mの高低差のある垂直分布が形成されていたが、標高488.00mを中心とした傾斜したレンズ状の分布が認められており、傾斜地


■ ナイフ形石器
▲ 尖頭器
□ 掻器
⊠ 掻器＋彫器
⊠ 彫器
△ 削器
⋇ ノッチ
◆ 加工痕のある剥片
◇ 使用痕のある剥片
人 石刃・折石刃
• 剥片・砕片
★ 石核
10B 折F
10B F
1m
0
489.0m
488.5m
488.0m
487.5m



第84図　第Ⅲ文化層第７ブロック石器分布図

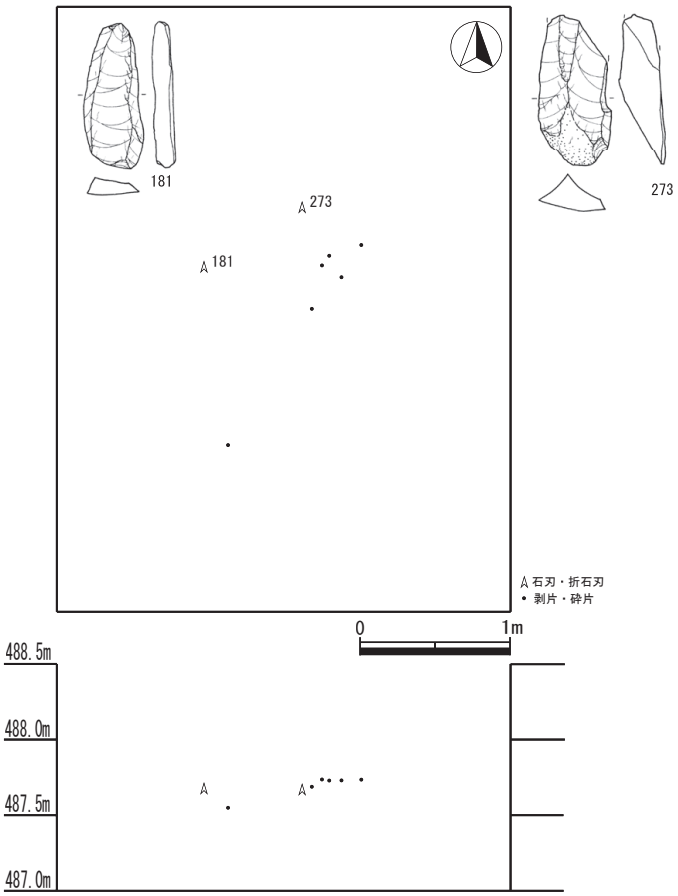


第85図　第Ⅲ文化層第８ブロック石器分布図

に立地したブロックであったことが推察される状況である。

第９ブロック（第86図）

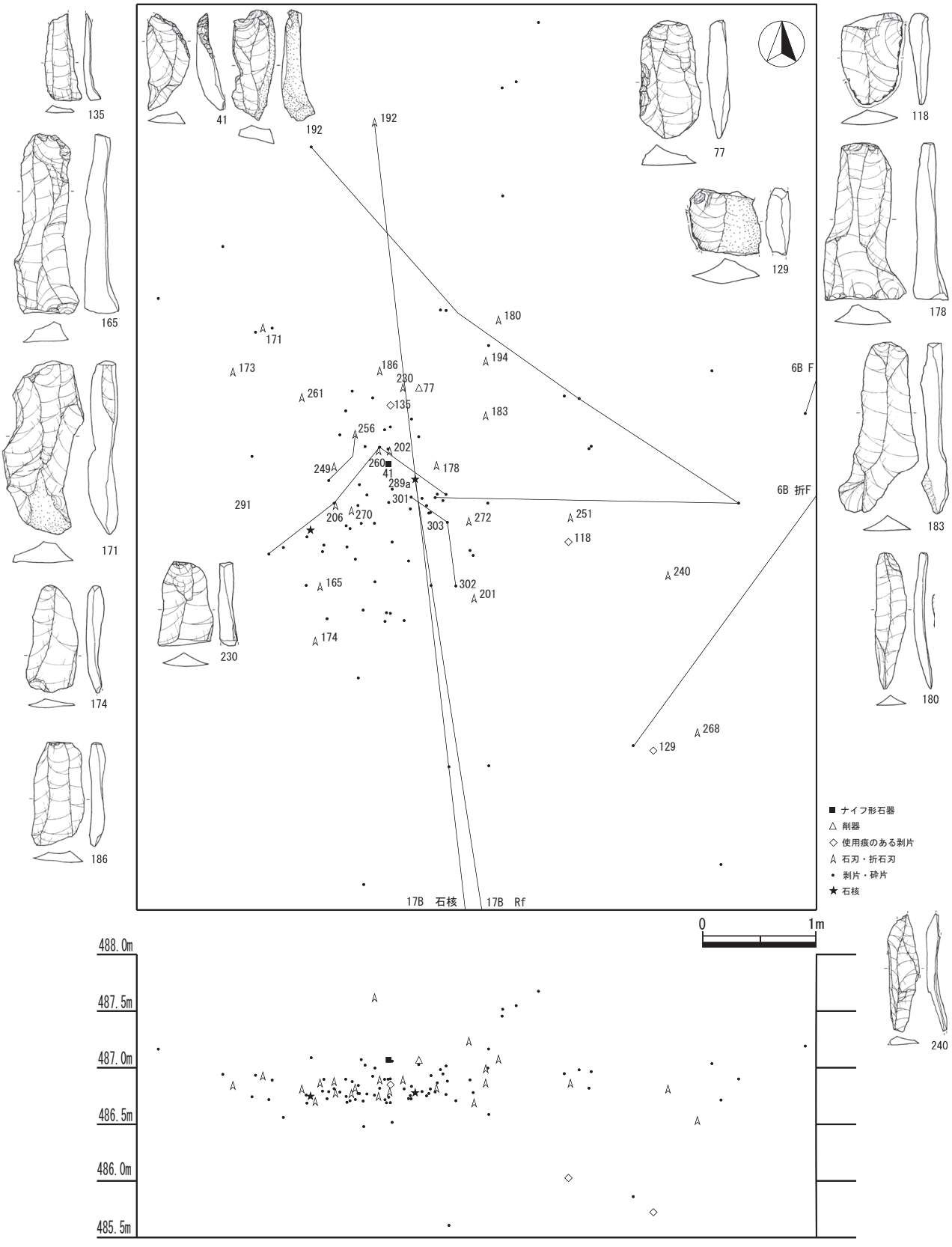
第９ブロックは第７ブロックの南西約３m、第８ブロックの西側約6.5mに位置し、南側では第10ブロックと分布範囲を接するような近接した状態で確認されたブロックである。Ｅ－９グリッド中央北側で確認され、ブロックの規模は長軸約1.8m、短軸約1.2mと本文化層で検出されたブロックの中では最も小さいブロックであった。石器類は８点が確認され、その内の７点が径１m程の範囲から検出されており、限定された場所から出土していることが認識できるものと思われる。検出された石器類は、石刃・折石刃２点、剥片・砕片６点の合計８点で、これらは全てホルンフェルスで製作されていたが、４種類の個体別資料に分類された。石器類は第８層のＹＬM層から第10層のＹＬＬ層にかけて包含されていたが、その内の多くのものが第８層のＹＬM層で検出されており、ほぼ限定的な層位から出土していることが推定されるものと思われる。確認された標高からも同様の指摘が可能で、すべての石器類が約487.55mから約487.74mの約19cmのレベル幅の中から検出されており、極めて限定的な垂直分布が形成されていた。



第86図　第Ⅲ文化層第９ブロック石器分布図

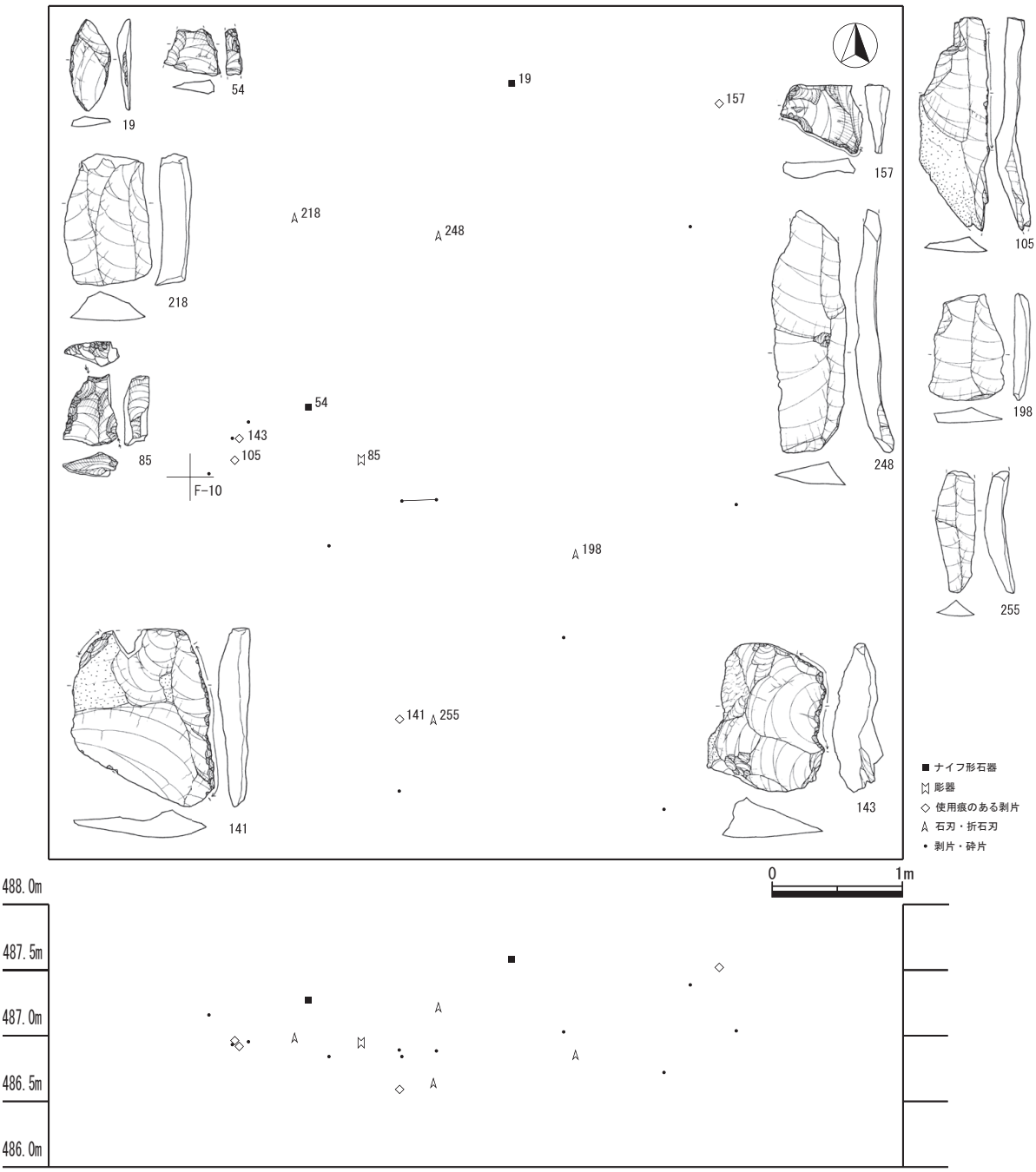
第10ブロック（第87図）

第10ブロックは、第９ブロックの南でブロック範囲を接するように位置し、第11ブロックの西約１m、第13ブロックの北約１mで確認されたブロックで、Ｅ－９とＥ－10グリッドにまたがって分布していた。ブロックの規模は比較的大きく、長軸は約7.5m、短軸が約5.5mを測り、石器類はＥ－９グリッド南側の径２m程の範囲で集中的に出土する箇所があり、ここから南北と東側にかけて散漫な分布がブロックの外縁部にかけて観察されており､集中部から飛び散ったような様子を見せている。出土した石器類はナイフ形石器１点、削器１点、使用痕のある剥片３点、石刃・折石刃23点、石核２点、剥片・砕片81点の合計111点で、ナイフ形石器等の器種の出土量は少ないものの、石刃・折石刃と剥片・砕片が比較的多く認められており、本ブロックでは剥片剥離等の作業が行われていた可能性があることが推定できるものと思われる。これらは46種類の個体別資料に分類されたが、それらの石材の内訳はホルンフェルスが33個体、安山岩（トロトロ石）２個体、ガラス質黒色安山岩４個体、凝灰岩が２個体、黒曜石が３個体、安山岩１個体、赤玉石（鉄石英）１個体であり、本ブロックでは多くのホルンフェルスに対して剥片剥離等の作業が行われていることが予想される状況にある。石器類は第８層のＹＬM層から第12層のＢＢ０層にかけて出土し、標高約485.61mから487.68mから検出され、約2.07mに及ぶ垂直分布が形成されていたが、石器類の多くはＹＬM層とＹＬＬ層の境付近で検出されており、約80cmほどの帯状の集中域が確認できる。



第87図　第Ⅲ文化層第10ブロック石器分布図

173
194
201
202
206
249
251
256
260
261
268
270
272
301
302
303
291
a
b
289a



第88図　第Ⅲ文化層第11ブロック石器分布図

第11ブロック（第88図）

本ブロックは西側では第10ブロックと、北東側では第８ブロック、東では第12ブロックとブロック範囲を接する状態で確認されたブロックで、Ｆ－９とＦ－10グリッドの２グリッドにまたがって分布していた。ブロックの大きさは長軸が約5.5m、短軸は約4.5mで、中程度の規模のものであったが、出土した石器類は比較的少なく、22点が確認されただけであった。石器類はブロックの中で散漫な分布を見せており、南側の方が若干出土量が多い傾向はあるものの、集中的に検出されたような場所は認められなかった。出土した22点の内訳は、ナイフ形石器２点、彫器１点、使用痕のある剥片４点、石刃・折石刃４点、剥片・砕片11点であり、出土量が少ないにも関わらず数種類の器種を保有しているブロックであったことが理解されよう。石器類は18種類の個体別資料に分類され、それらはホルンフェルスが８個体、黒曜石が５個体、凝灰岩が２個体、

安山岩（トロトロ石）２個体、砂岩１個体であり、本ブロックでもホルンフェルスの利用が突出していることが窺えよう。石器類は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけて出土していたが、大部分のものはＹＬＭ層から検出されており、一定した出土状態であったことが推定できる。標高では約486.59mから約487.59mにかけて包含されており、約１mの高低差のある垂直分布が認められていたが、標高486.90m前後のレベルに幾分集まっている様子が観察できる。

第12ブロック（第89図）

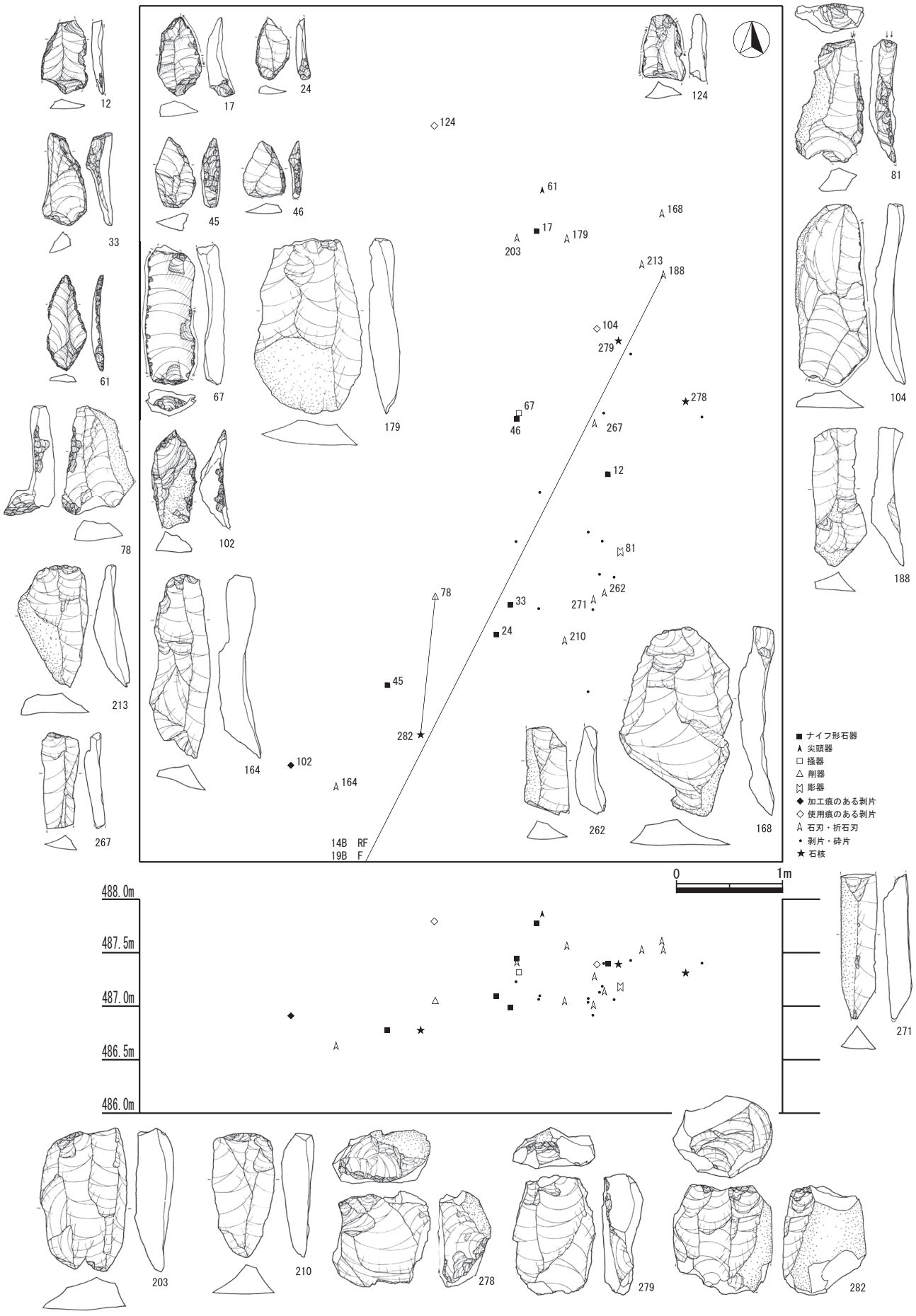
第８ブロックの南約1.7m、第15ブロックの北約３mに位置し、西側で第11ブロックと分布範囲を接する状態で確認されたブロックである。ブロックはＦ－９とＦ－10グリッドの東側に分布し、長軸が約6.3m、短軸が約４mの大きさであったが、石器類は東側に偏る状態で三日月状の分布を見せており、西側は空白域となっていた。出土した石器類は、ナイフ形石器６点、尖頭器１点、掻器１点、削器１点、彫器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片２点、石刃・折石刃10点、石核３点、剥片・砕片12点の合計38点で、出土量はそれほど多い訳ではないにも関わらず、石器器種が豊富なブロックである。これらは26種類の個体別資料に分類されており、その内訳はホルンフェルスが13個体、黒曜石が５個体、ガラス質黒色安山岩３個体、凝灰岩が２個体、赤玉石（鉄石英）１個体、流紋岩１個体、チャート１個体であり、本ブロックでもホルンフェルスの個体が多いことが分かる。これらは第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけて確認されているが、一方の層位に偏ることなく等分に近い出土状態であった。垂直分布を見てみると、標高約486.63mから約487.86mにかけて包含され、約1.23mに及ぶ高低差が認められたが、石器類の多くは487.20m付近を中心に分布しており、やや斜めのレンズ状を呈していた。

第13ブロック（第90図）

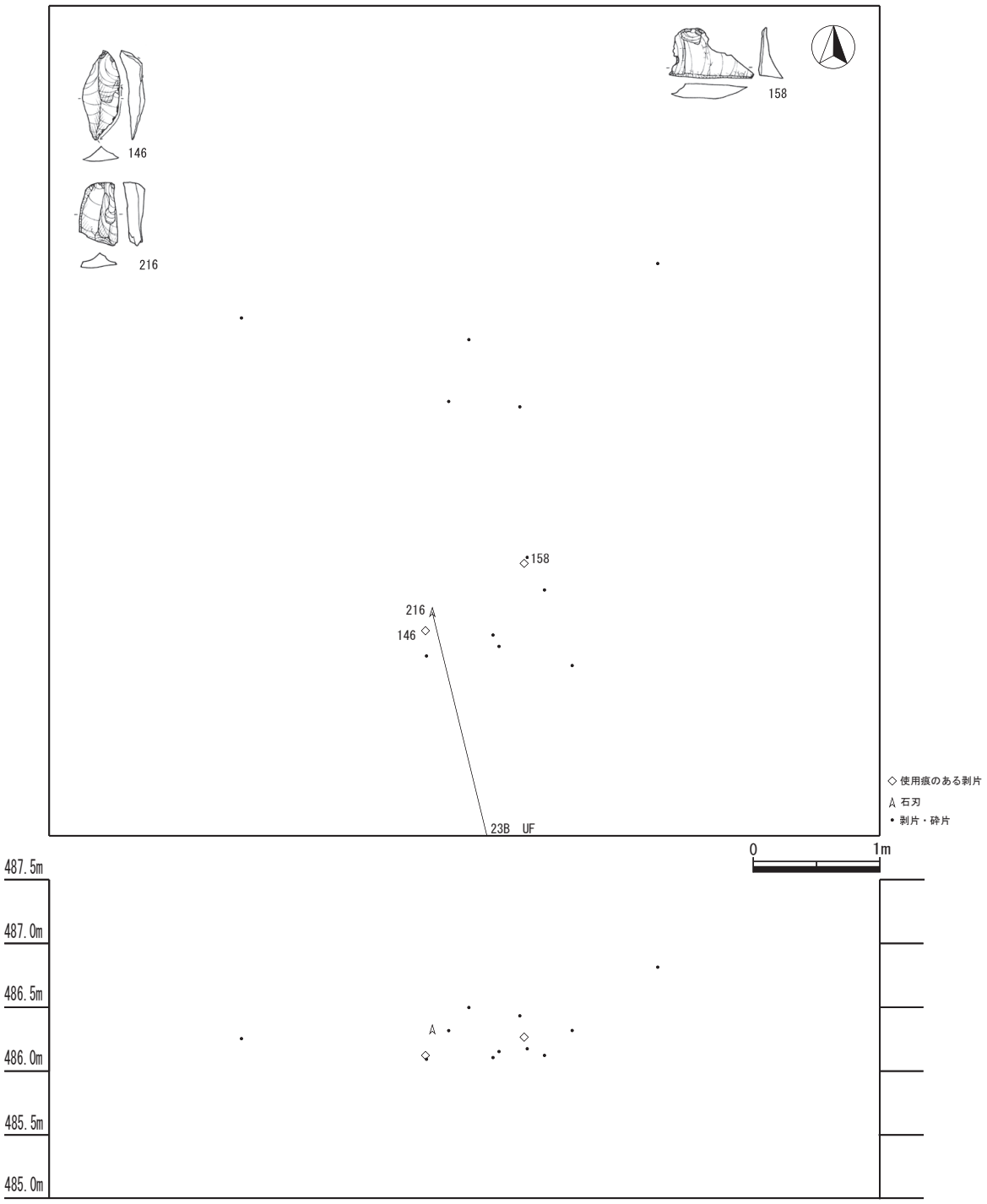
本ブロックはＥ－10とＦ－10グリッドにかけて分布が認められたブロックで、第18ブロックの北約３mに位置し、北側を第10ブロック、北東側を第11ブロックと分布範囲を接するような状態で確認されたものである。ブロックの大きさは長軸が約3.5m、短軸が約３mで、第Ⅲ文化層の中では小規模なブロックであった。出土した石器類は14点と少なかったが、ブロックの南側では過半数の石器類が径１m程の範囲から出土している状況があり、ブロックの中に分布のまとまる箇所があることが想定できるものと思われる。この場所以外では、北側に数点の石器類が点在するだけであり、全体的には疎らな分布が形成されている状態である。確認された石器類は、使用痕のある剥片２点、石刃・折石刃１点、剥片・砕片11点で、調整剥離が施されているような定形器種は確認されていない。個体別資料は８個体が認識され、その内訳は黒曜石が５個体、安山岩（トロトロ石）２個体、玉髄１個体で、本ブロックではホルンフェルス製の石器は認められなかった。これらが出土した層位は、第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層にかけてであり、標高約486.09mから約486.81mにかけて包含され、約72cmの高低差のある垂直分布が形成されていた。ただ、石器類の多くは標高約486.40m付近を中心としてまとまっており、割合と限定された層位から出土していることが窺えるものと思われる。

第14ブロック（第91図）

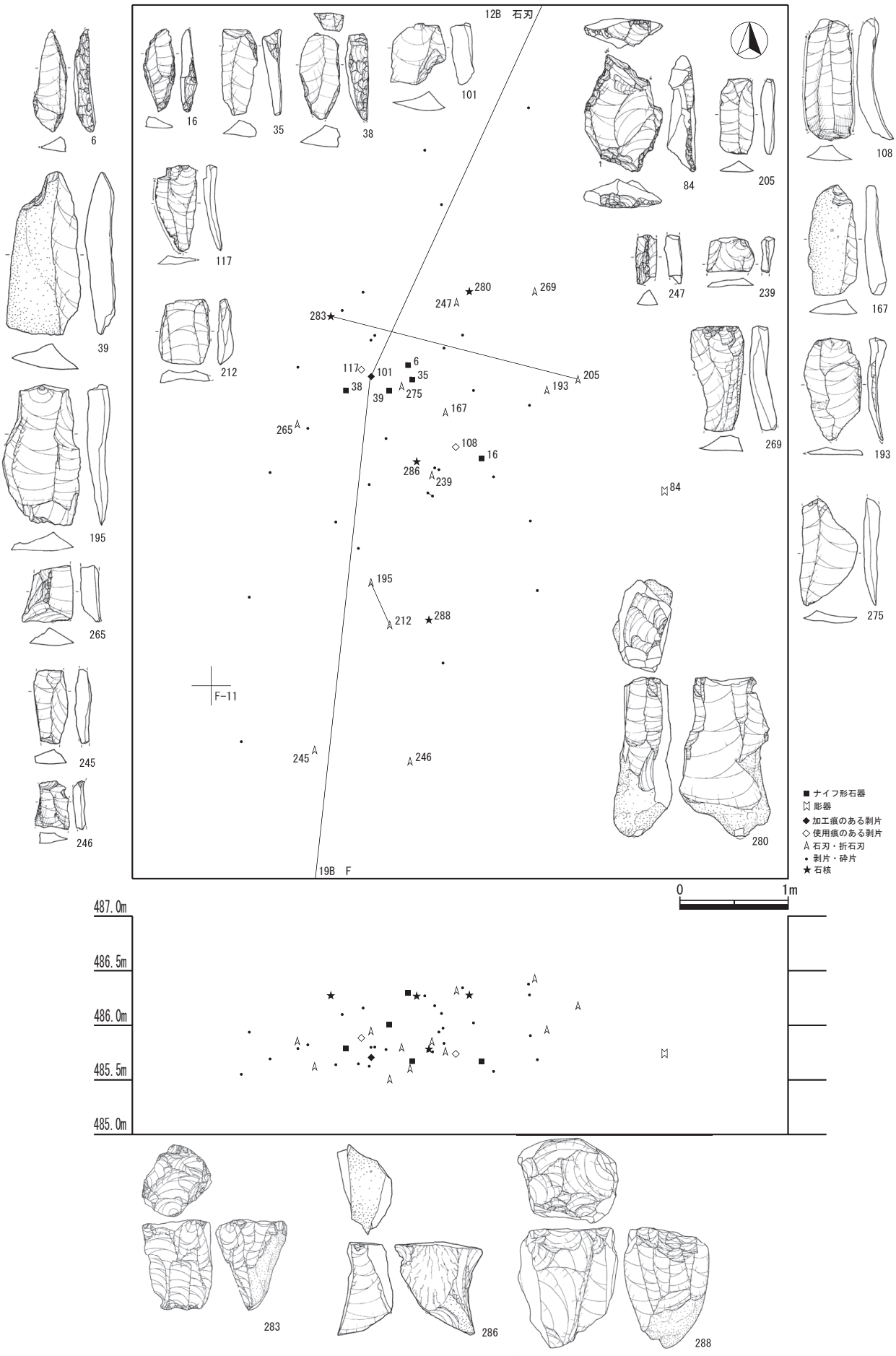
本ブロックは、第11ブロックの南側約1.5m、第13ブロックの南東約１mに位置し、東側では第15ブロックとブロック範囲を接するような状態で確認されたブロックで、Ｆ－10とＦ－11グリッドにまたがって分布が認められたものである。ブロックの大きさは長軸は約6.5m、短軸が約４mを測り、石器類はＦ－10グリッドの南西部付近に多くのものが集まる傾向にあり、外縁部には数点の石器類が点在しているだけであった。ただ、この多くの石器が集まっている場所は出土が著しく集中するといった様子ではなく、全体的に出土の密度が高いような状態のものであり、この場所で頻繁に剥片剥離等の作業を行っていたと言うよりも、簡単



第89図　第Ⅲ文化層第12ブロック石器分布図



第90図　第Ⅲ文化層第13ブロック石器分布図



第91図　第Ⅲ文化層第14ブロック石器分布図

な作業が行われたことが推定できるものと思われる。確認された石器類は、ナイフ形石器５点、彫器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片２点、石刃・折石刃12点、石核４点、剥片・砕片28点の合計53点で、石器類の出土量は比較的多いブロックである。これらは23個体の個体別資料に分類されたが、個体の石材の種類を見てみると、ホルンフェルスが６個体、黒曜石が５個体、凝灰岩が３個体、ガラス質黒色安山岩２個体、安山岩２個体、安山岩（トロトロ石）２個体、流紋岩１個体、チャート１個体、頁岩１個体が確認されており、本ブロックも黒曜石への依存はそれほど高くなく、多様な石材が利用されていることが理解されよう。出土した石器類は第５層のローム漸移層から第10層のＹＬＬ層にかけて包含されていたが、過半数のものは第８層のＹＬＭ層から検出されており、比較的まとまりのある出土状態であったことが窺える。検出された標高は、最も低いものが約485.51ｍで、高い標高のものは約486.43ｍであり、約92cmの高低差のある凸レンズ状の垂直分布が認められていた。

第15ブロック（第92図）

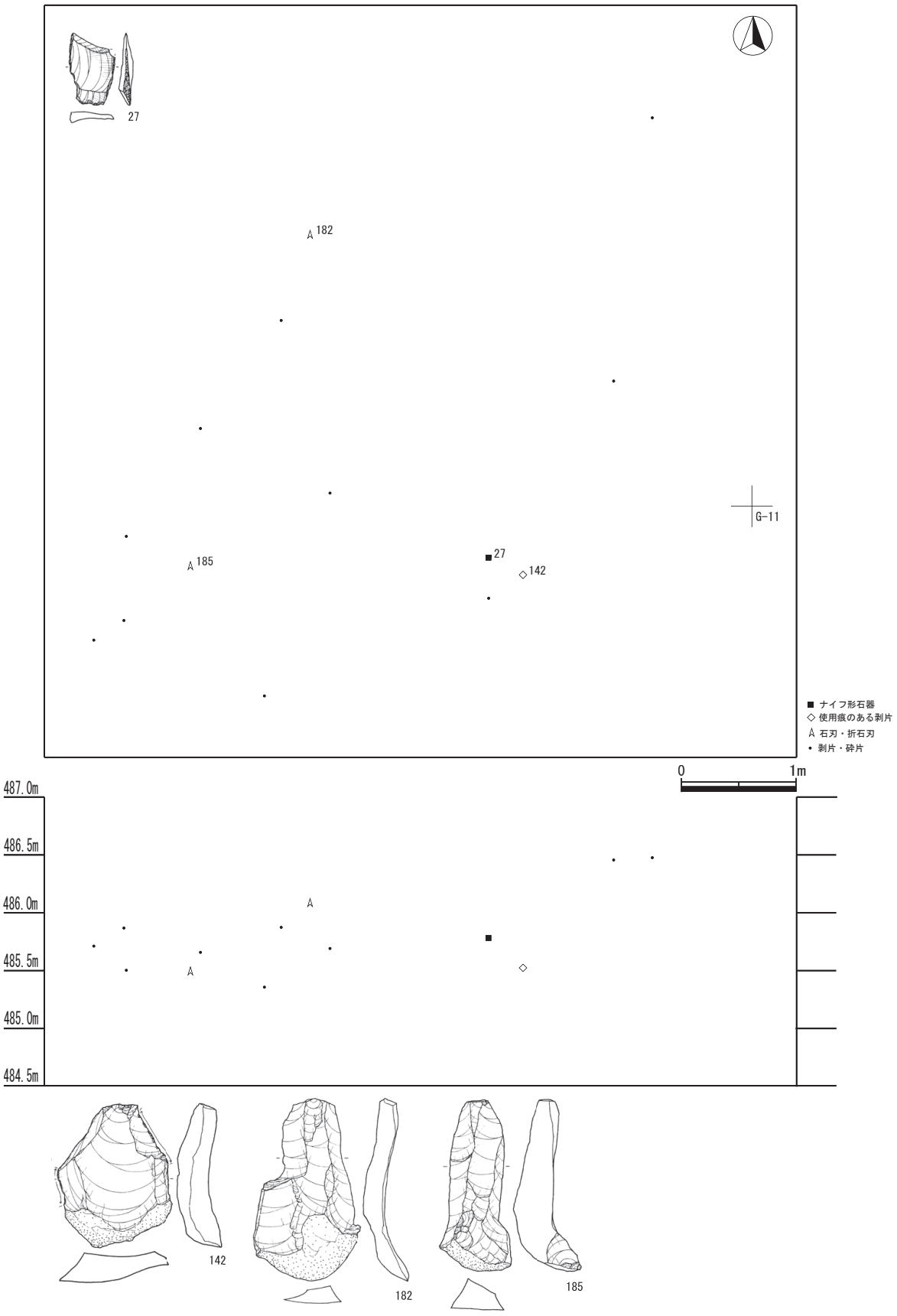
第15ブロックは、第16ブロックの北約1.5m、第17ブロックの北東約1.5ｍで確認されたブロックで、西側にはブロックを接する状態で第14ブロックが位置しており、必然的に本ブロックもＦ－10とＦ－11グリッドにかけて分布が認められたものである。ブロックは長軸は約７ｍ、短軸が約４ｍを測り、中程度の大きさであったが、出土した石器類は14点と少なく、ブロックの外縁部に疎らな分布が認められるだけで、中央部分には数点が点在しているだけであった。確認された14点の内訳は、ナイフ形石器１点、使用痕のある剥片１点、石刃・折石刃２点、剥片・砕片10点で、これらは10種類の個体別資料に分類された。個体別資料の石材はホルンフェルスが６個体、黒曜石が３個体、赤玉石（鉄石英）１個体で、本ブロックでもホルンフェルスを多用している傾向が窺える。石器類の出土した層位は第６層のＹＬＵ層から第10層のＹＬＬ層に及んでいたが、過半数のものは第８層のＹＬＭ層で検出されており、安定した出土状態であったことが理解されよう。確認された標高は約485.36ｍから約486.48ｍまでであり、約1.12ｍのレベル差のある垂直分布が認められている。

第16ブロック（第93図）

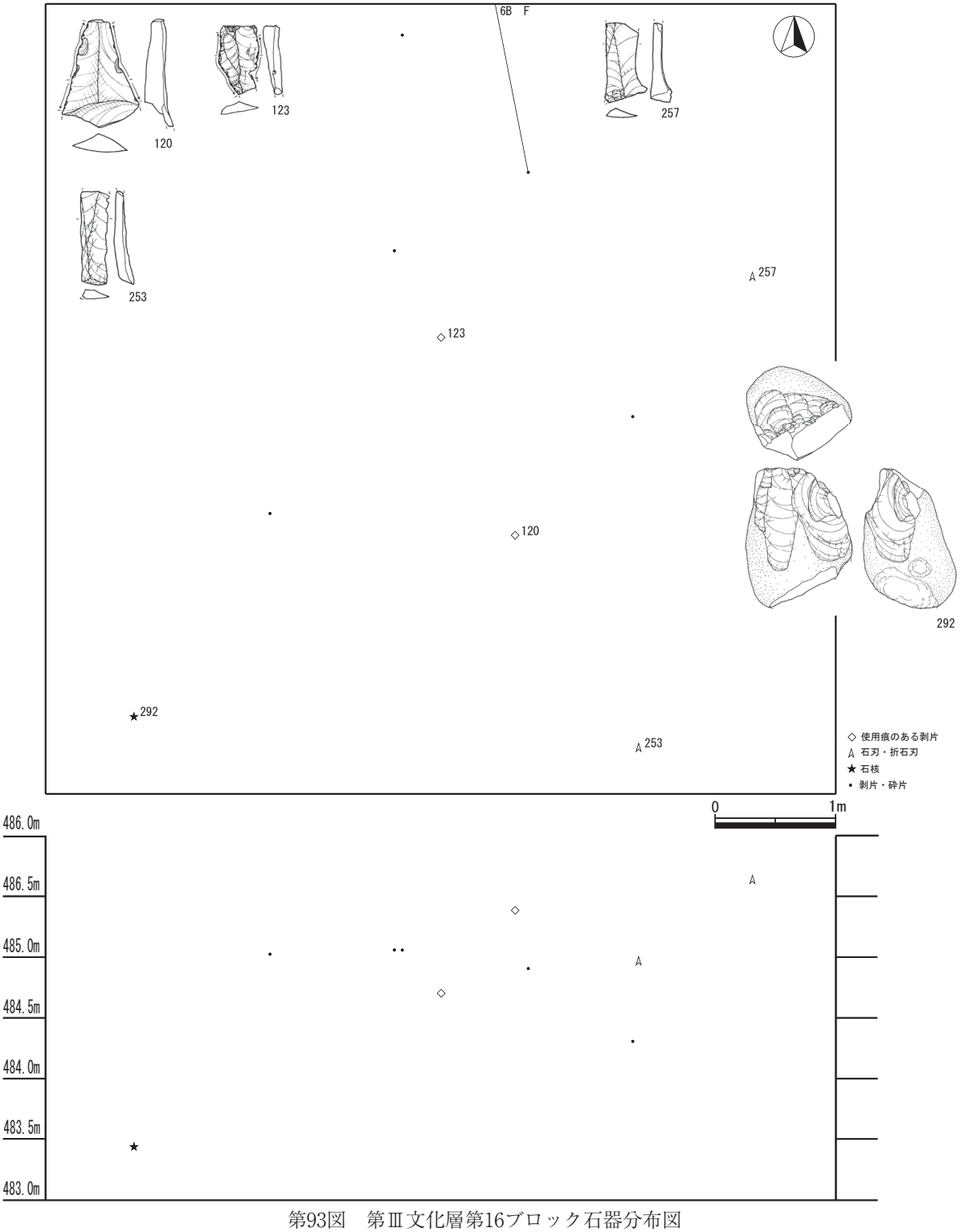
第15ブロックの南約1.5m、第23ブロックの北約3.5m、第17ブロックの東側約1.5ｍの位置で分布が確認されたブロックで、Ｆ－11グリッドの南東部で検出された。ブロックの大きさは長軸が約6.5m、短軸は約５ｍで、本文化層のブロックの中では中程度の規模のものであったが、石器類の分布はブロック全体に点在するような状態であり、集中的に出土するような箇所は認められなかった。確認された石器類は使用痕のある剥片２点、石刃・折石刃２点、石核１点、剥片・砕片５点の合計10点で、これらを構成していた石材はホルンフェルスが４個体、黒曜石が３個体、ガラス質黒色安山岩１個体、硅質頁岩１個体で、合計９個体の個体別資料として分類された。検出された層位は第５層のローム漸移層から第10層のＹＬＬ層にかけてであったが、出土量が少ないためか極めて散漫で広範囲な垂直分布が形成されていた。石器類が確認された標高は約483.44ｍから約485.64ｍまでで、垂直分布は約2.2ｍに及ぶ高低差が生じており、本ブロックでは出土レベルに疑問のあるものが含まれているようである。

第17ブロック（第94図）

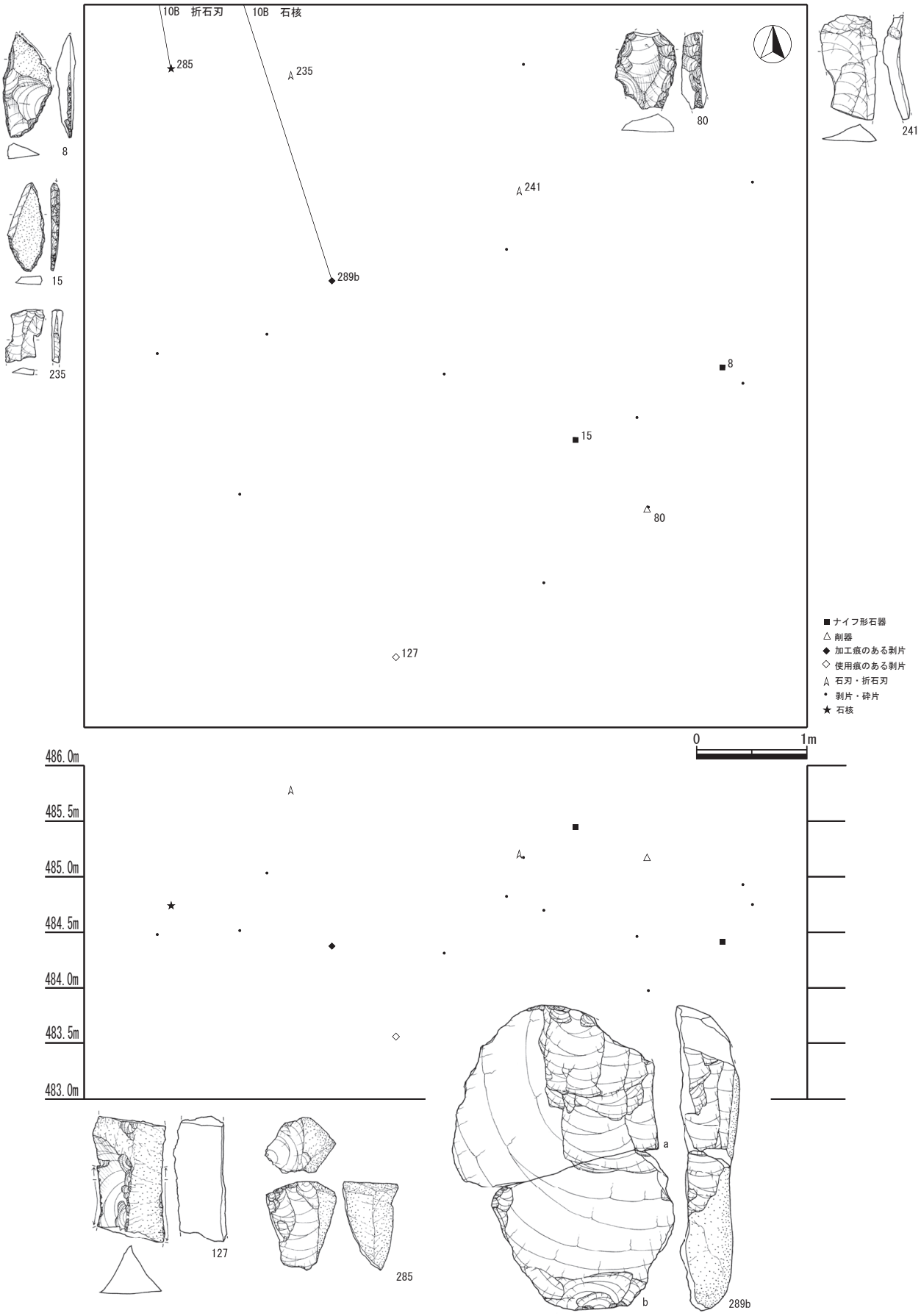
第17ブロックは、第14ブロックの南約1.3m、第16ブロックの西側約1.5m、第19ブロックの北約1.5ｍの場所で確認されたブロックで、Ｅ－11とＦ－11グリッドにまたがった状態で分布していた。ブロックの規模は長軸が約６ｍ、短軸は約5.8ｍの大きさで、円形に近い範囲の中に全体的に散漫な石器類の分布が認められている状態で、石器類が集中的に出土するような場所は認められなかった。出土した石器類はナイフ形石器２点、削器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片１点、石刃・折石刃２点、石核１点、剥片・



第92図　第Ⅲ文化層第15ブロック石器分布図



第93図　第Ⅲ文化層第16ブロック石器分布図

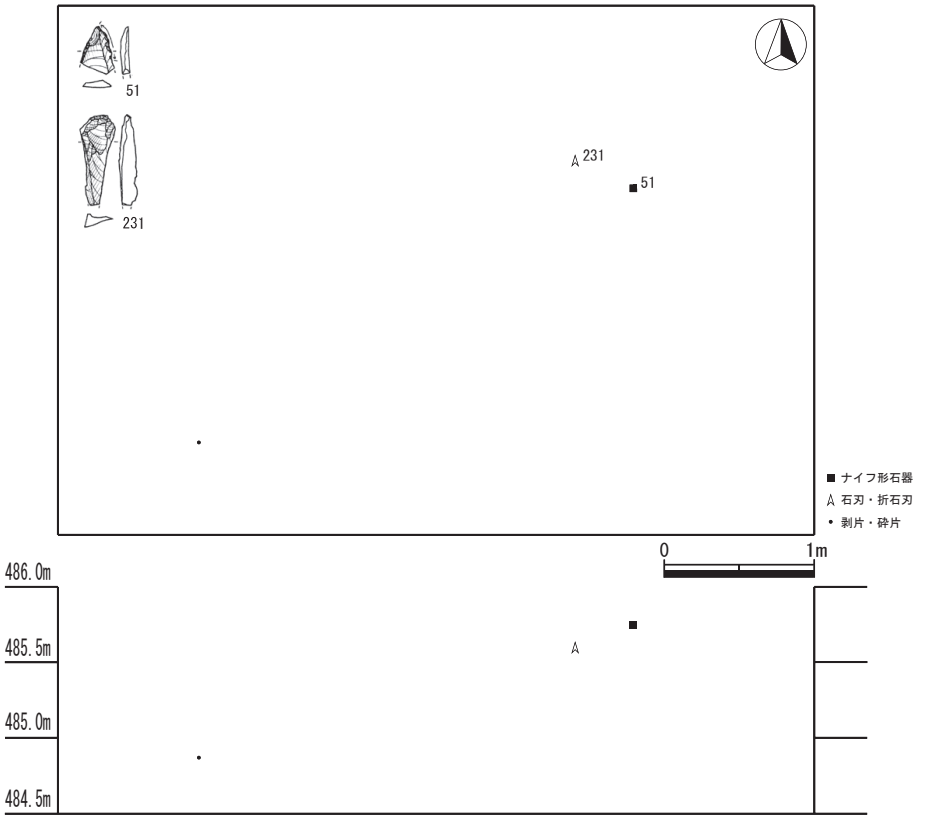


第94図　第Ⅲ文化層第17ブロック石器分布図

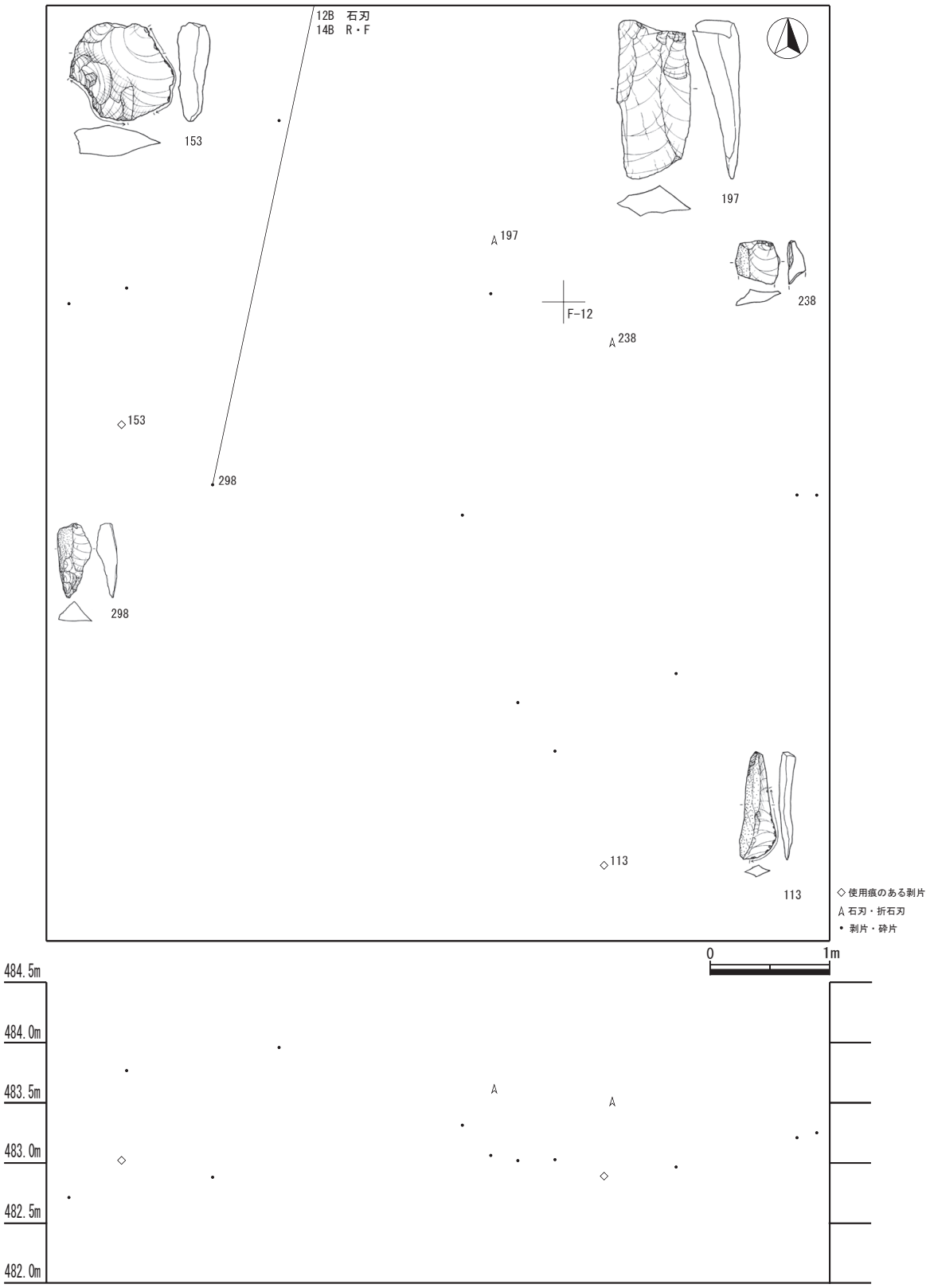
砕片11点の合計19点で、これらの石器類は全て本ブロック内では資料数１点の個体別資料として分類されており、第17ブロックは19個体別資料で構成されていたことが判断されよう。19種類の個体はホルンフェルスが７個体、ガラス質黒色安山岩４個体、黒曜石が４個体、安山岩（トロトロ石）２個体、安山岩１個体、赤玉石（鉄石英）１個体であり、前述したようにこれらの石器類は全て単独の資料数でブロック内に存在していたことから、剥片剥離や石器加工の作業をいずれかの場所で行った後、本ブロックに持ち込まれたものであることが理解できるものと思われる。石器類は第５層のローム漸移層から第10層のＹＬＬ層にかけて確認されており、本ブロックも散漫な垂直分布が形成されており、出土層位の中でまとまって検出されたような層は認められなかった。石器類の中で最も低いレベルから出土したのは標高約483.56mで、一番高い標高を示していたのは約485.78mで、約2.22mにもなる高低差が垂直分布に生じており、本ブロックでも出土レベルに疑問のあるものが含まれているようである。

第18ブロック（第95図）

第14ブロックの西側約1.3m、第17ブロックの北西約１mで確認されたブロックで、Ｅ－10とＥ－11グリッドにまたがった状態で分布していた。検出された石器類は３点と少なく、これらの内２点が近接した位置で出土し、もう１点が約3.5m距離を隔てて分布しており、ブロックの規模は長軸が約3.5m、短軸は約３m程度の大きさが想定できるのかも知れない。出土した石器類はナイフ形石器１点、石刃・折石刃１点、剥片・砕片１点で、それぞれがブロック内では資料数１点の個体として認識されたことから、ブロックを構成していた個体別資料は３個体で、これらは剥片剥離や石器加工の作業をいずれかの場所で行った後、本ブロックに持ち込まれたものであることが理解されよう。３個体は黒曜石が２個体、ガラス質黒色安山岩が１個体であった。石器類が出土したのは第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、標高約484.87mから約485.75mにかけて包含されており、約88cmの高低差のある垂直分布が認められた。



第95図　第Ⅲ文化層第18ブロック石器分布図



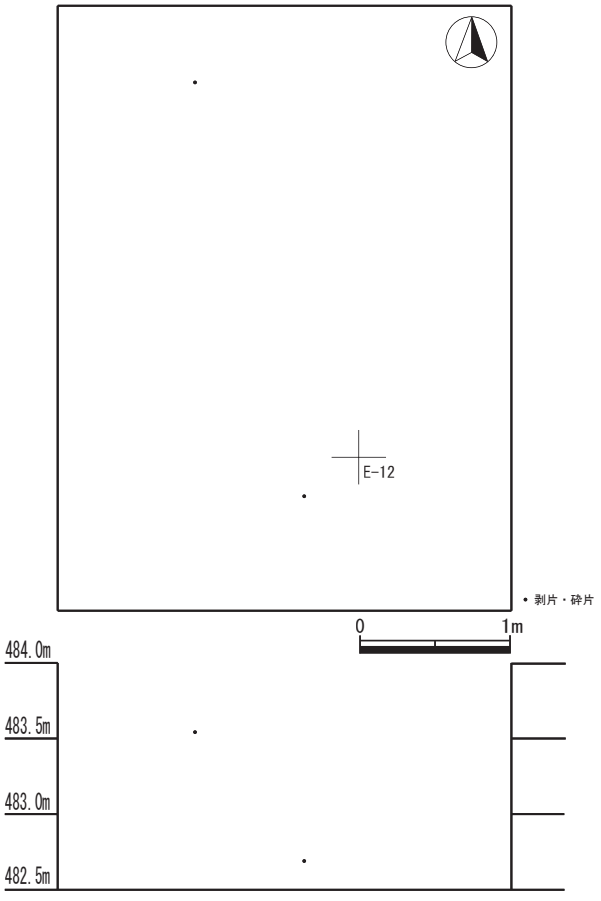
第96図　第Ⅲ文化層第19ブロック石器分布図

第19ブロック（第96図）

第17ブロックの南約1.5m、第22ブロックの西側約3.5m、第21ブロックの北東約１mで確認されたブロックで、グリッドで言うとＥ－11～12、とＦ－12グリッドにかけて分布していたが、石器類は出土しなかったものの、Ｆ－11グリッドにもブロック範囲がかかる可能性があるものである。ブロックの大きさは長軸が約7.5m、短軸が約４mで、石器類はこのブロック範囲の中で点在するような疎らな分布を見せており、集中的に出土するような場所や状態は確認できなかった。検出された石器類は、使用痕のある剥片２点、石刃・折石刃２点、剥片・砕片11点の合計15点で、調整加工が施されている石器類は出土しなかった。15点の石器類は13種類の個体別資料に分類されており、それらの石材の内訳は黒曜石が７個体、ガラス質黒色安山岩２個体、ホルンフェルスが１個体、安山岩１個体、安山岩（トロトロ石）１個体、凝灰岩が１個体であり、黒曜石の個体数は比較的多かったものの、他の多種多様な石材も使用されていることが理解されよう。石器類の出土した層位は第５層のローム漸移層から第10層のＹＬＬ層にかけてであったが、過半数のものは第８層のＹＬＭ層から検出される傾向が認められた。ただ、出土した標高は最も低いものが約482.71mで、一番高かったものが約483.96mであり、地形の傾斜のためか約1.25mに及ぶ垂直分布が形成されていた。

第20ブロック（第97図）

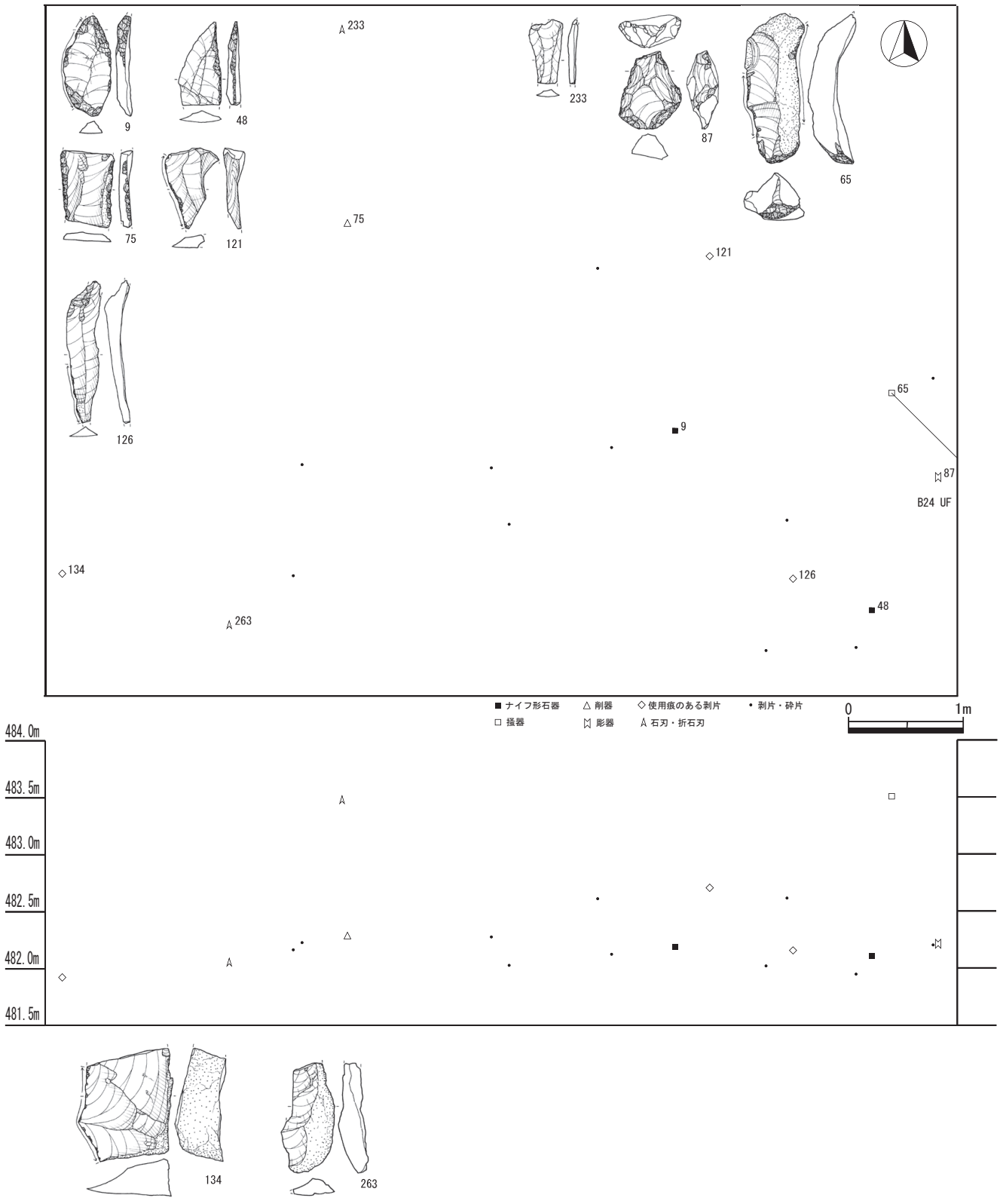
第19ブロックの西約５m、第21ブロックの北約1.5mの場所に分布が認められたブロックで、Ｄ－11、Ｄ－12グリッドにまたがって検出された。出土した石器類は２点と少なく、約３mの距離を隔てて確認されており、ブロックは長軸約３m前後の大きさが想定できるものと思われる。出土した石器類は剥片・砕片が２点で、これらは安山岩（トロトロ石）１個体と瑪瑙が１個体の２個体で構成されていた。これらの出土層位は第５層のローム漸移層と第７層のＹＬ－Ｓ１層からで、それぞれは標高約482.69mと約483.54mで検出されており、約85cmに及ぶ垂直分布が認められている。



第97図　第Ⅲ文化層第20ブロック石器分布図

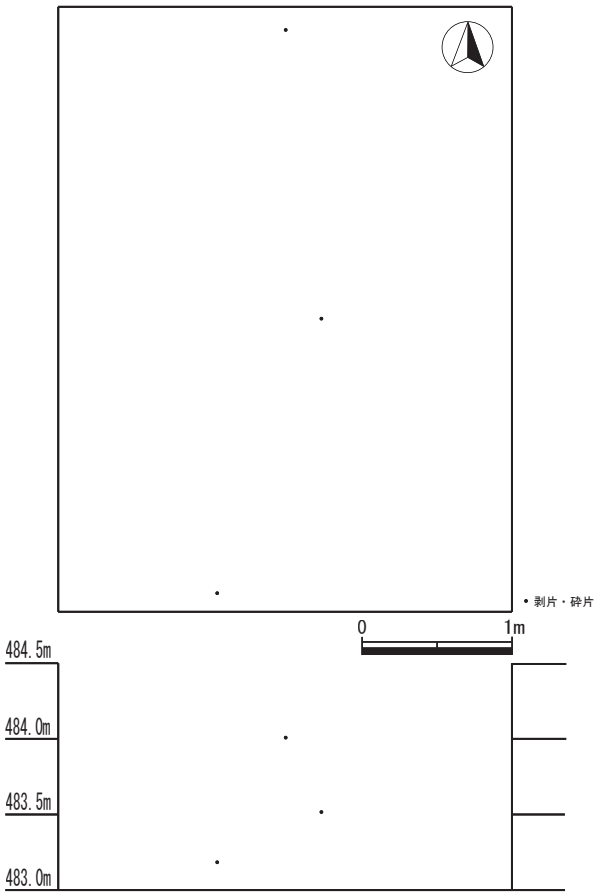
第21ブロック（第98図）

本ブロックは第20ブロックの南約1.5m、第19ブロックの南西約１mで確認されたブロックで、Ｄ－12とＥ－12グリッドにまたがって分布していたものである。本ブロックは、本文化層で確認されたブロックの中でも大きな規模で長軸約８m、短軸約７mを測るが、石器類は東側で若干密度が濃い傾向にあるものの、散漫な分布がブロック全体に広がっている状態であった。出土が確認された石器類は、ナイフ形石器２点、掻器１点、削器１点、彫器１点、使用痕のある剥片３点、石刃・折石刃２点、剥片・砕片10点の合計20点であった。これら20点は14種類の個体別資料に分類されており、それらの内訳は黒曜石６個体、ガラス質黒色安山岩２個体、流紋岩２個体、玉髄１個体、ホルンフェルス１個体、安山岩（トロトロ石）１個体、頁岩１個体であり、本ブロックに於いても多様な



第98図　第Ⅲ文化層第21ブロック石器分布図

石材が利用されていたことが理解されよう。これら石器類が検出された層位は第５層のローム漸移層から第８層のＹＬＭ層にかけてであったが、石器類の大部分は第８層のＹＬＭ層から出土しており、幾分まとまりのある出土状態が認められている。石器類の中で一番低いレベルで検出されたのは標高約481.93ｍで、最も高かったものは約483.51ｍであり、約1.58ｍに及ぶ垂直分布が形成されていたが、ローム漸移層から出土した２点を除くと標高482.30ｍを中心とした約80cm程のレベル幅に収まっており、比較的まとまりのある垂直分布であったことが窺えるものと思われる。



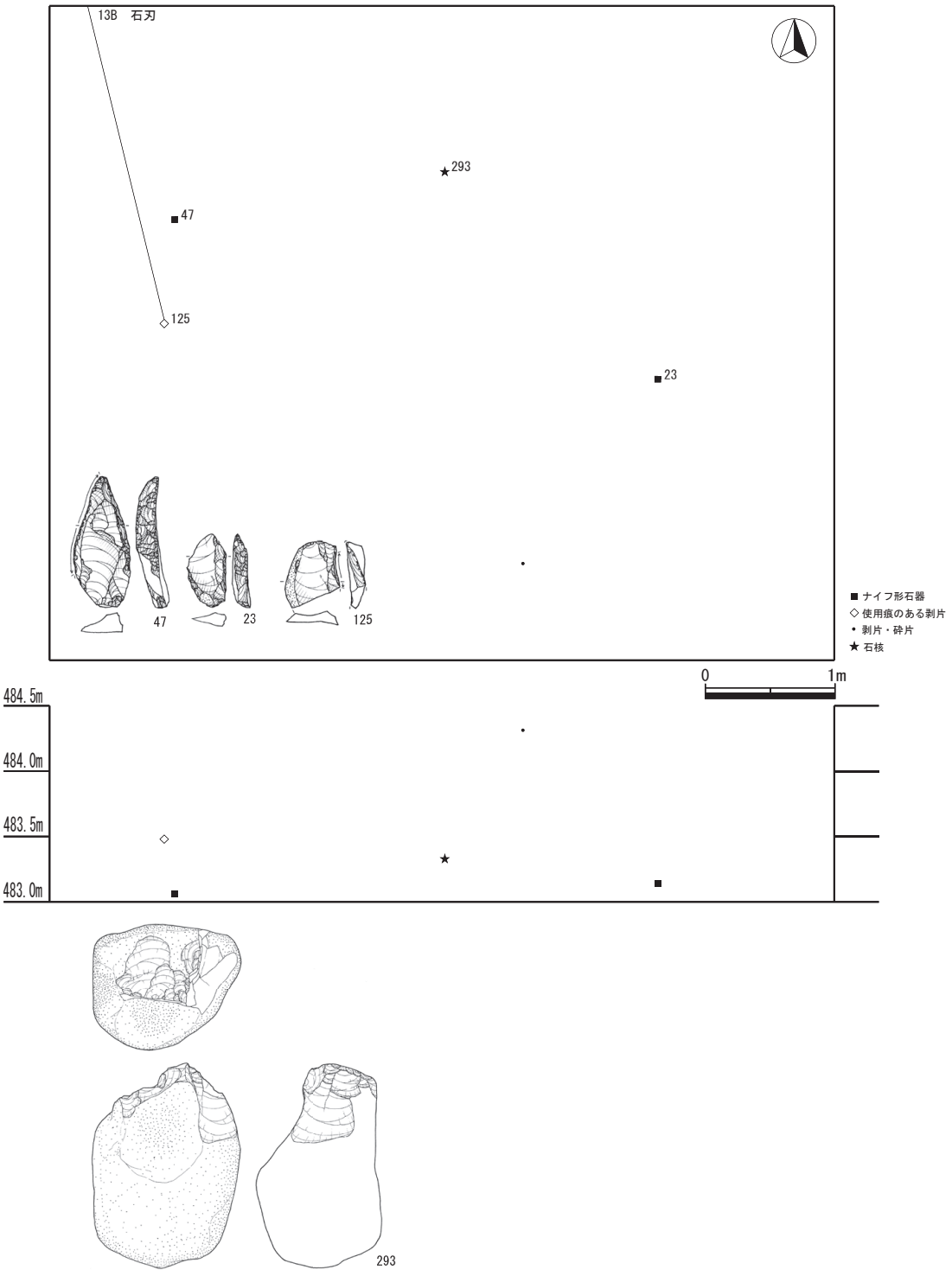
第99図　第Ⅲ文化層第22ブロック石器分布図

第22ブロック（第99図）

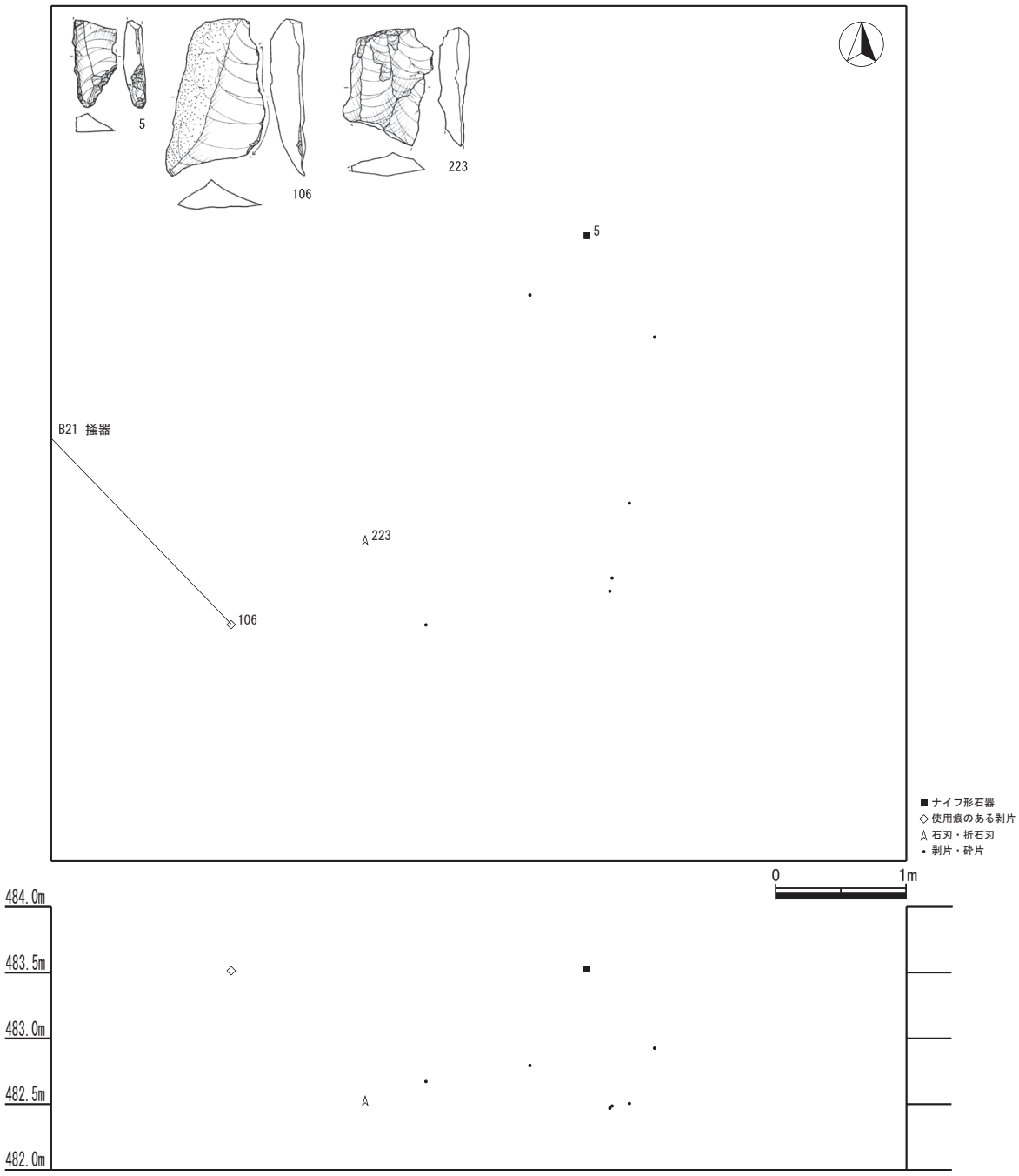
Ｇ－12グリッド西よりで確認されたブロックで、調査範囲の最も東寄りに位置しているブロックである。西側では第23ブロックと分布範囲を接するように近接して確認され、第16ブロックの南南東約3.5ｍに分布しているもので、ブロックの大きさは長軸約４ｍを測る。確認された石器類は、ほぼ一直線に分布していた３点で構成されており、短軸の長さを推定する術はないが、径４ｍ程度の規模のブロックが想定されるのかも知れない。石器類の器種は剥片・砕片が３点で、調整加工を施しているような石器類は確認されていない。これら３点は黒曜石製であったが別種類の個体として認識されており、本ブロックは３個体の個体別資料によって構成されていたことが理解されるものと思われる。検出された層位は、第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、標高では約483.18ｍから約484.01ｍに包含されており、垂直分布には約83cmのレベル差が生じていた。

第23ブロック（第100図）

第22ブロックの西側でブロック範囲を接するような位置で確認されたブロックで、第16ブロックの南側約3.5m、第19ブロックの東約3.5mの距離を隔てて分布していた。グリッドではＦ－12グリッドに位置し、長軸約4.5m、短軸が約3.5mの大きさであったが、石器類はこのブロックの外縁部に点在するように５点が認められただけで、石器類が集中的に出土するような箇所や状況は認められなかった。出土した５点の石器類は、ナイフ形石器２点、使用痕のある剥片１点、石核１点、剥片・砕片１点であり、本ブロックでは剥片剥離や石器加工のような作業は行われていないことが想定できるものと思われる。５点の石器類は５点とも資料数１点の個体別資料として認識されたことにより、本ブロックは５個体の個体別資料によって構成されていたことが判断された。これらの個体の石材は黒曜石３個体、ホルンフェルス１個体、凝灰岩１個体で、出土量の少ない本ブロックでも多種類の石材によって構成されていることが分かる。石器類の出土した層位は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてで、標高では約483.06ｍから約484.31ｍにかけて包含されており、約1.25ｍに及ぶレベル差のある垂直分布が形成されていた。



第100図　第Ⅲ文化層第23ブロック石器分布図

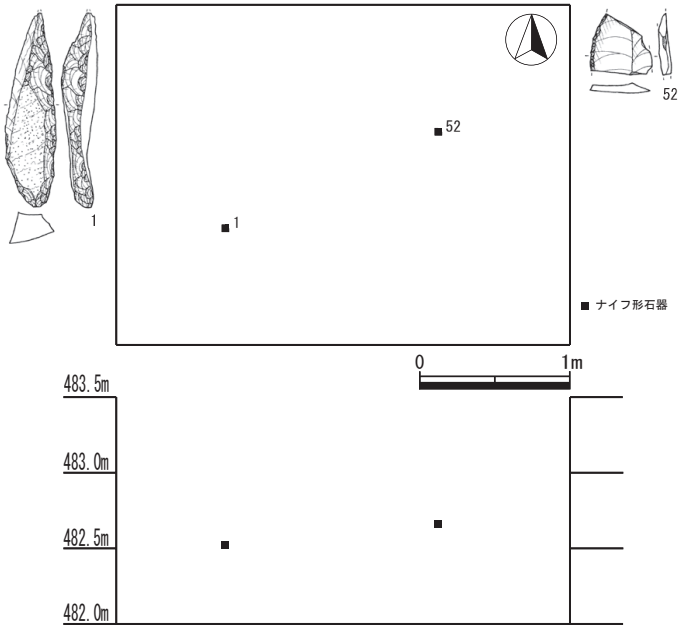


第101図　第Ⅲ文化層第24ブロック石器分布図

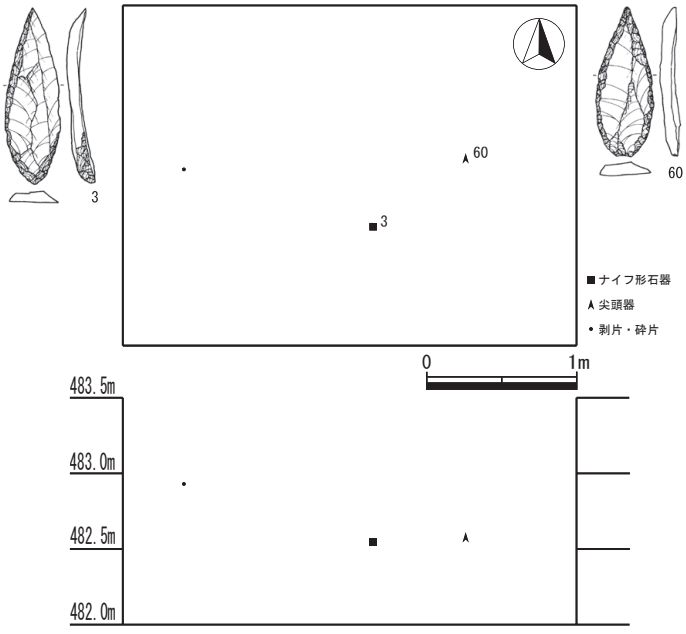
第24ブロック（第101図）

第21ブロックの東約３ｍ、第25ブロックの北側約５ｍに位置し、北西側で第19ブロックとブロック範囲を接するような状態で分布が確認されたブロックである。グリッドではＦ－12グリッドの南西部に位置し、ブロックの規模は長軸約４ｍ、短軸が約３ｍの大きさで、本文化層の中では比較的小規模なブロックであった。石器類はこのブロックの外縁部に沿って点在するような状態で分布しており、石器類が集中して出土するような場所は確認できなかった。出土した石器類は、ナイフ形石器１点、使用痕のある剥片１点、石刃・折石刃１点、剥片・砕片６点の合計９点で、これらは７種類の個体別資料に分類された。個体別資料の石材は全て黒曜石であったが、この内の６個体は本ブロックの中では資料数１点の個体別資料であり、複数（３点）

の資料数を持っていたのは１個体にすぎなかった。したがって、本ブロック内で剥片剥離や石器加工作業の対象となった可能性のある個体は３点の資料数を持っていた個体に限られており、ブロック内で頻繁に作業を行っていた可能性は著しく低いことが理解されよう。石器類が出土した層位は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけてであったが、殆どのものが第８層のＹＬＭ層から検出されており、比較的まとまった出土状態であったことが窺える。これらの垂直分布は、標高約482.47mから標高約483.53mにかけて認められ、約1.06mのレベル差が存在していたが、最も高い483.53mから検出されたものを除くと482.60m前後の標高に殆どのものが確認されており、比較的まとまりを持った出土状態であった。



第102図　第Ⅲ文化層第25ブロック石器分布図



第103図　第Ⅲ文化層第26ブロック石器分布図

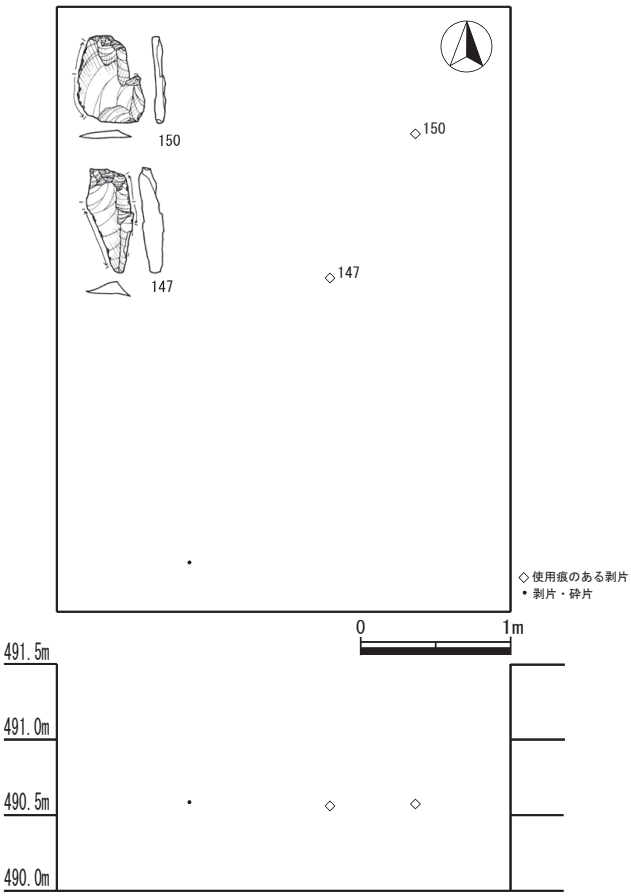
第25ブロック（第102図）

第24ブロックの南約５ｍ、第26ブロックの北北西約３ｍの場所で確認されたブロックで、Ｅ－13とＦ－13グリッドにまたがる状態で分布していた。ブロックを構成している石器類は２点で、約1.3mの距離を置いて出土しており、ブロックは径２ｍ程の大きさが想定されるものと思われる。確認された石器類はナイフ形石器が２点で、これ以外の器種や剥片類は出土しておらず、ナイフ形石器だけが出土するという特異な状態のブロックである。この２点は黒曜石とガラス質黒色安山岩製であり、それぞれが別の個体として認識されることから、本ブロックは２個体の個体別資料で構成されていたことが分かる。２点とも第８層のＹＬＭ層から検出され、これらが出土した標高は約482.52mと約482.66mで、約14cmのレベル差が生じていた。

第26ブロック（第103図）

第25ブロックの南南東約３ｍに位置し、本文化層を構成しているブロックの中では、最も南に分布していたものである。グリッドではＦ－13グリッド南西側に位置し、ブロックは長軸約２ｍ、短軸約１ｍを測る小規模なもので、石器類はこの範囲の中に点在するような状態で３点が分布していた。確認された石器類は、ナイフ形石器１点、尖頭器１点、剥片・砕片１点の合計３点で、この３点は別個体として分類されたことから、本ブロックには各々現状の形状のまま持ち込まれたものであることが推測できるものと思われる。そし

て、これらの石器類の石材はガラス質黒色安山岩が２個体、凝灰岩１個体で、黒曜石は確認されなかった。石器類は第７層のＹＬ－Ｓ１層から第８層のＹＬＭ層にかけて出土し、標高約482.55mから標高約482.93mの中で検出されており、垂直分布には約38cmのレベル差が生じていたが、層位的にはまとまった出土状態を示していた。



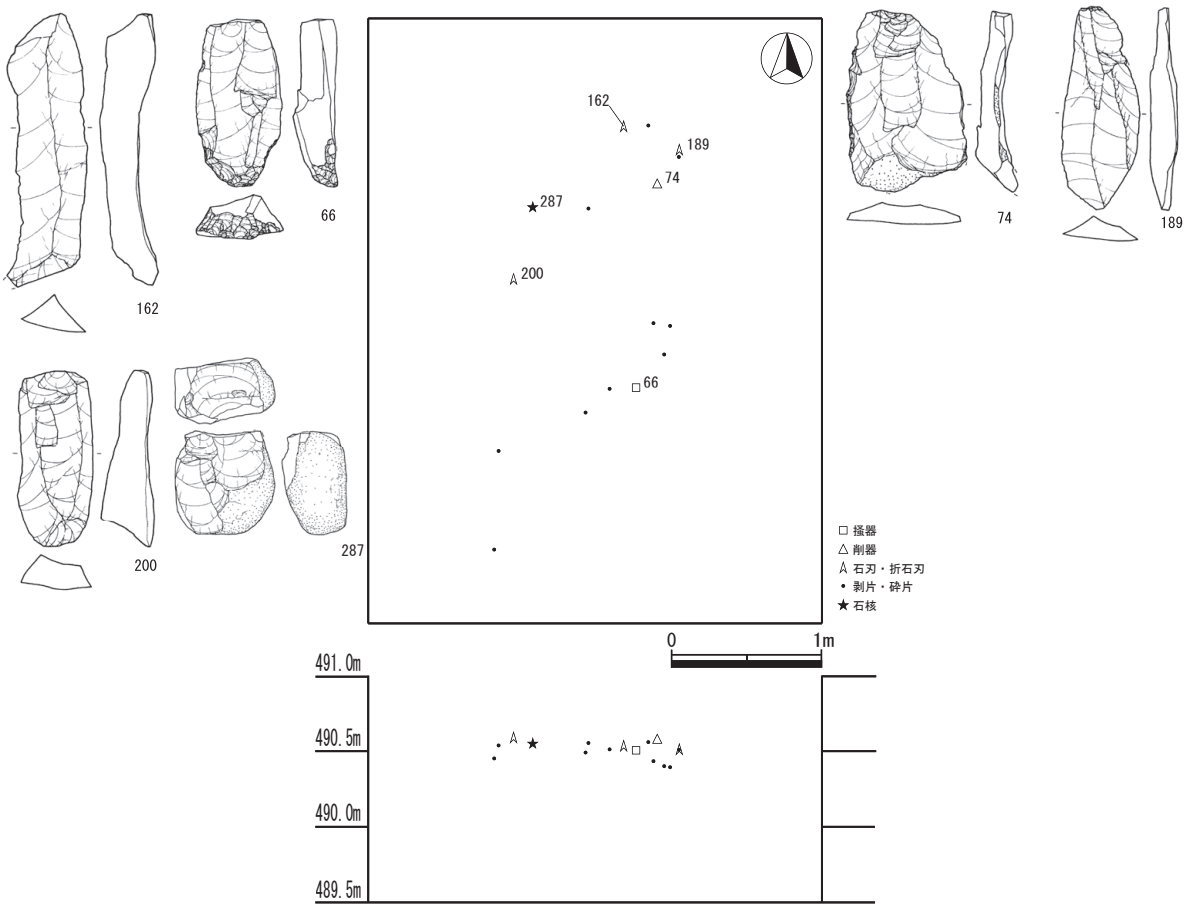
第104図　第Ⅲ文化層第27ブロック石器分布図

第27ブロック（第104図）

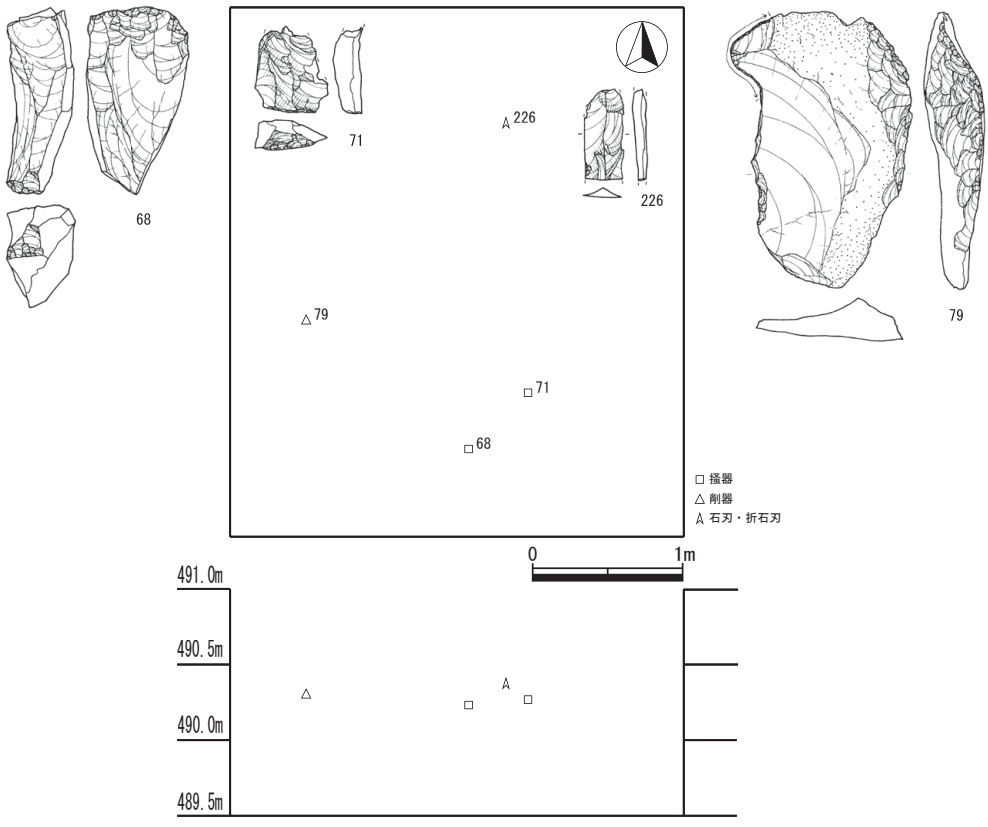
Ｄ－６～Ｄ－７グリッドで確認されたブロックで、第１～第27ブロックで形成されていたブロック群（列）の西側に分布していたブロック群（第26～第29ブロック）の中のひとつである。第１ブロックの西約20mに位置し、第27ブロックの北西約２ｍで確認されたブロックで、直線的に分布している３点の石器類によって構成されており、その石器間の距離は約 3.5mであった。したがって、径が約3.5mぐらいの比較的小規模なブロックとして想定できるのものと思われる。検出された石器類は、使用痕のある剥片２点、剥片・砕片１点の合計３点で、石材は全て黒曜石であった。これらは２種類の個体別資料として分類されており、本ブロックは２個体の個体別資料によって構成されていたことが分かる。石器類は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけて包含されていたが、垂直分布では標高約490.56mから標高約490.59mの約３cmのレベル差の中で検出されており、ほぼ同一面上から出土しているような様相を示していた。

第28ブロック（第105図）

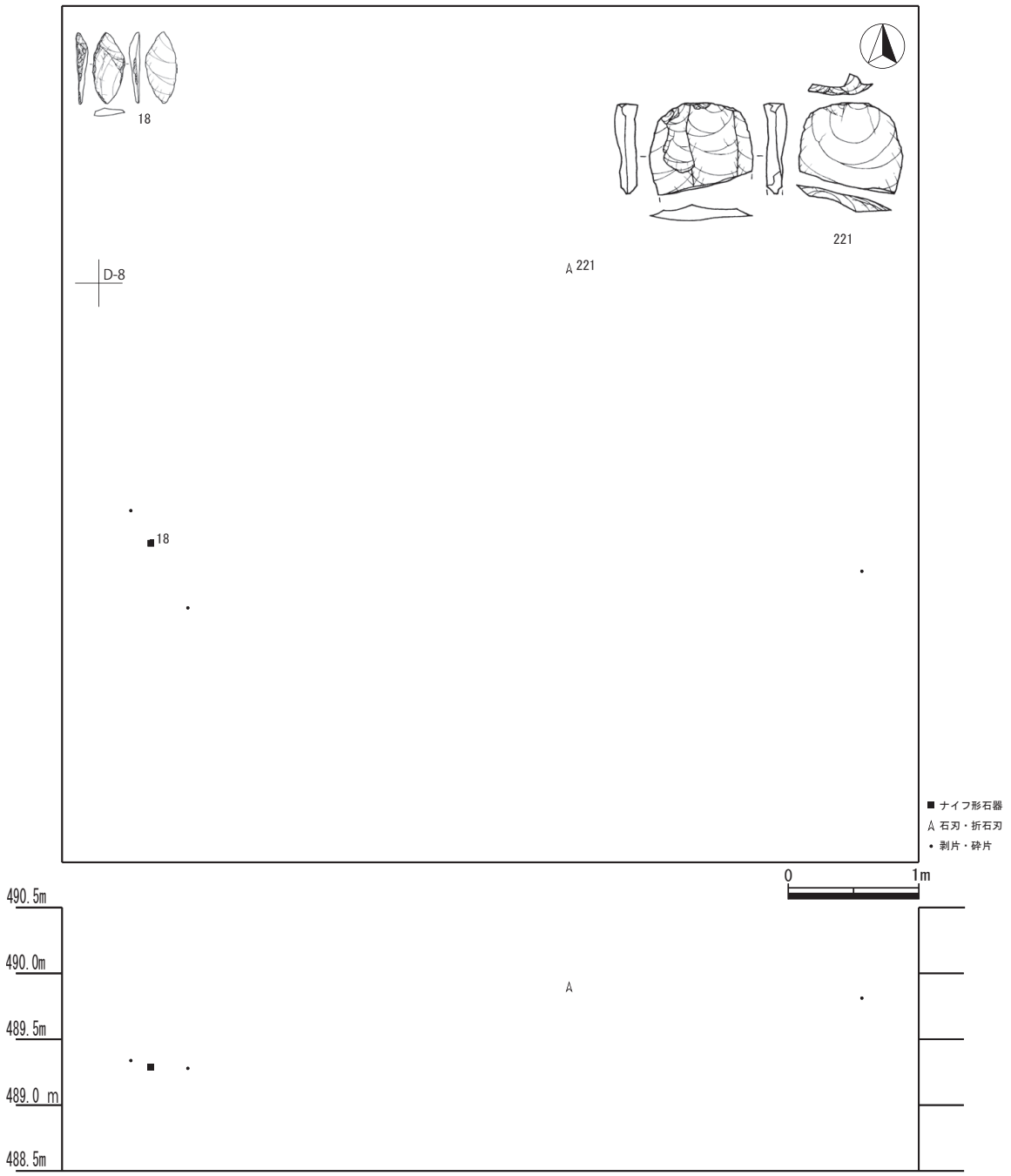
第27ブロックの南東約２ｍ、第２ブロックの東約18.5mで確認されたブロックで、Ｄ－７グリッドの北東部に位置している。ブロックの規模は長軸約3.2m、短軸約1.5mを測り、出土したブロックの中では小規模な大きさのものであった。石器類はブロックの南北二方向に別れて分布しており、ブロックの中央部には幅70cmほどの分布の空白部が形成されている状況であり、何等かの場として機能していたのかもしれない。出土した石器類は掻器１点、削器１点、石刃・折石刃３点、石核１点、剥片・砕片10点の合計16点で、これらは12種類の個体別資料として認識された。12個体別資料の石材は、ホルンフェルス３個体、流紋岩３個体、ガラス質黒色安山岩２個体、安山岩（トロトロ石）２個体、凝灰岩１個体、安山岩１個体で、本ブロックでは黒曜石は検出されなかったが、多様な石材が使用されていることが理解されよう。石器類は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけて確認され、垂直分布では標高約490.39mから標高約490.59mの間から出土しており、これらには約20cmの高低差が認められていた。しかし石器類は、他のブロックに比べると垂直分布幅の狭い限定された層位から検出されており、まとまりのある出土状態であったことが理解されよう。



第105図　第Ⅲ文化層第28ブロック石器分布図



第106図　第Ⅲ文化層第29ブロック石器分布図



第107図　第Ⅲ文化層第30ブロック石器分布図

第29ブロック（第106図）

第28ブロックの南西約１ｍ、第29ブロックの北約２ｍ、第３ブロックの西約18mに位置していたブロックで、Ｄ－７グリッドの中央で確認された。ブロックの大きさは長軸約2.5m、短軸約２ｍを測り、検出されたブロックの中では小規模なものであった。出土した石器類も４点と少なく、ブロックの外縁部に転々と分布する状態で、ブロックの中央部は分布の空白域となっており、石器類が集中的に出土するような場所は認められなかった。確認された器種は掻器２点、削器１点、石刃・折石刃１点の合計４点で、本ブロックでは加工具と思われる掻器、削器の集中的な保有と、剥片類が１点も確認されなかったことが特徴的である。この４点も全て別個体の個体別資料として認識され、石材別では黒曜石が２個体、ガラス質黒色安山岩１個体、赤玉石（鉄石英）１個体の４個体別資料であった。これらの石器類は第７層のＹＬ－Ｓ１層から第８層のＹ

ＬＭ層にかけて出土し、垂直分布は標高約490.23mから標高約490.38mの間で形成されており、約15cmのレベル幅が生じていたが、層位的にもレベル的にもまとまった状態で出土したことが窺えるものと思われる。

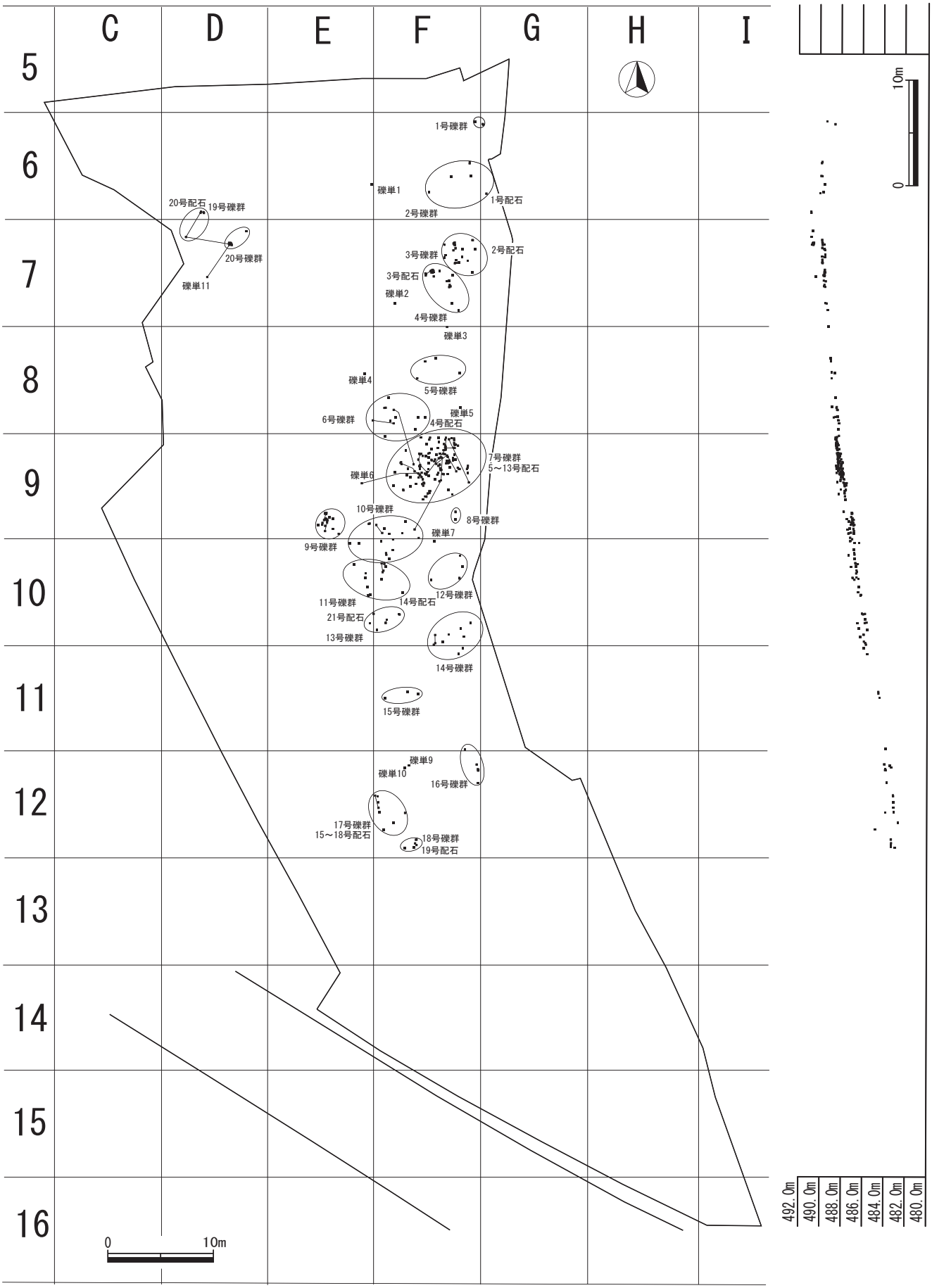
第30ブロック（第107図）

第29ブロックの南約２m、第５ブロックの西側約12mに分布していたブロックで、Ｄ－７～８グリッドに位置していた。ブロックの大きさは長軸約６m、短軸約４mを測り、中程度の規模であったが、石器類はブロック範囲の外縁部に点々と分布するだけで、ブロックの中央部は分布の空白域となっている。出土した石器類はナイフ形石器１点、石刃・折石刃１点、剥片・砕片３点の合計５点で、これら５点は本ブロック内には同一の個体が認められなかったことから、５点とも別個体の個体別資料として認識されており、本ブロックが５個体別資料で構成されていたことが理解される。これらの石材は黒曜石が４個体、流紋岩１個体であり、黒曜石が主体的に利用されている状態ではあるが、黒曜石だけに偏るのではなく違う石材も使用していることが分かる。石器類は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけて出土し、垂直分布は標高約489.28mから標高約489.90mの間に分布しており、約62cmのレベル差が生じていた。

以上のブロックを構成していた石器類の他に、単独で分布していたブロック外の石器が６点確認されている。それらの内容を列記すると、ブロック外１は、Ｅ－７グリッド北東部で出土したホルンフェルス製の石刃で、第12層のＢＢ０層の標高約489.24mから出土した。ブロック外２はＥ－７グリッド南東部で出土した黒曜石製の使用痕のある剥片で、第７層のＹＬ－Ｓ１層の標高約488.89mから検出されたものである。ブロック外３はＦ－７グリッド南西部で確認されたガラス質黒色安山岩製の石刃で、第10層のＹＬＬ層の標高約489.07mから出土したものである。ブロック外４はＥ－９グリッド北東部に位置し、第６～第10ブロックに囲まれた地区の中央から出土した。確認された石器は黒曜石製の使用痕のある剥片で、第８層のＹＬＭ層の標高約488.01mから検出された。ブロック外５はＥ－９グリッド西側で確認された黒曜石製の剥片で、第７層のＹＬ－Ｓ１層の標高約487.00mから出土したものである。ブロック外６は、Ｈ－14グリッド西側で確認された黒曜石製の使用痕のある剥片で、本文化層を構成している石器類の中で最も南で出土したものである。第６層のＹＬＵ層から検出され、標高は約486.12mであった。

２）礫群と配石

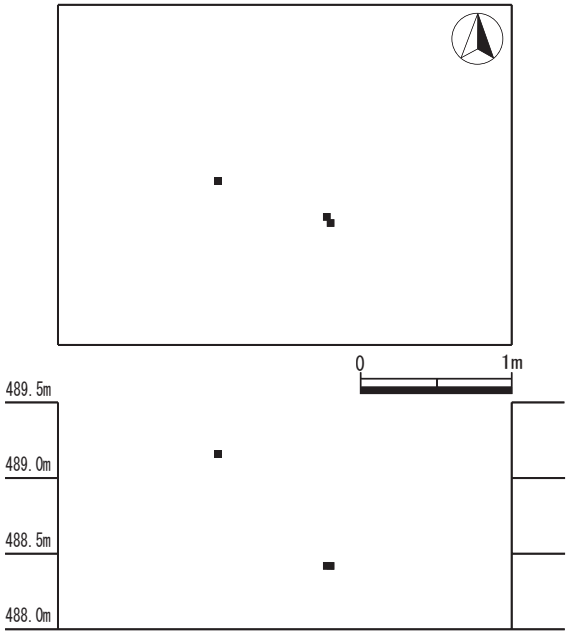
所謂石器製作に使用された石材以外の石で、一般的に焼成を受け、赤化した状態で確認されているものである。これらは礫そのものの状態で使用されているが、焼成を受けたためか割れていることが多く、しかも石器類と同様に散漫な分布を形成していることが一般的である。このような分布範囲を礫群として捉えていくが、第Ⅲ文化層からは構成点数の多寡はあるものの、20箇所の礫群が確認されたとともに、礫群範囲外から単独で確認された10点を加えた合計 331点の資料で構成されていた。そして、これら礫群以外では900g以上の重量を示す礫で、所謂「配石」として認識される礫が20点確認されており、礫関係の資料点数は合計351点が出土していることになる。ただ、配石として理解した20点の礫は、すべて礫群として把握された900g以下の礫の分布範囲の中で確認されており、礫群との関連性が深いことが窺えることから、配石としての個々の図化は行わずに礫群の中で図示して記述していくことにした。



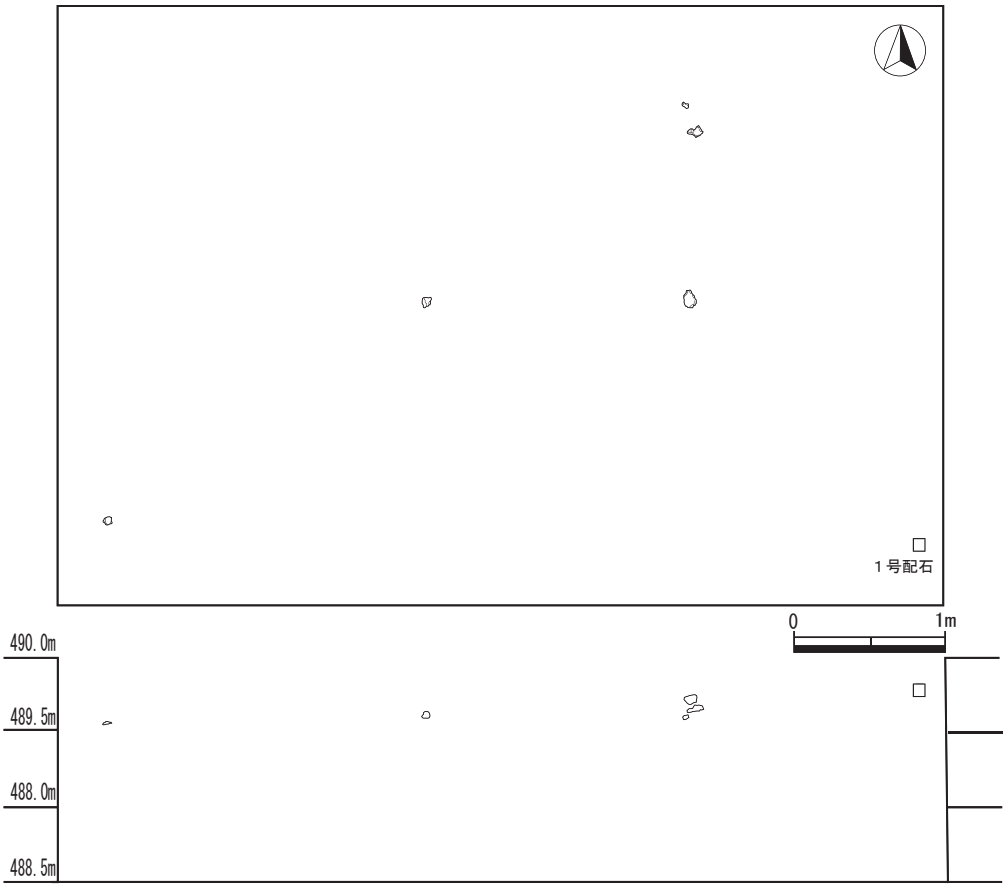
第108図　第Ⅲ文化層の礫群と単独礫の分布

１号礫群（第109図）

１号礫群は調査範囲の最も北側に分布し、２号礫群の北側約３ｍ、Ｆ－６とＧ－６グリッドの北側の境付近で確認された小規模な礫群で、第１ブロックの中央南側に位置し、ブロックに内在するような状態で確認されている。検出された礫は３点と少なく、この内の２点が隣接して位置し、後１点がこれらと約80cmの距離を隔てて分布していた。隣接して出土した２点は第12層のＢＢ０層で確認され、残る１点は上層の第８層のＹＬＭ層から検出されており、これらは約74.2cmの高低差のある垂直分布を形成していた。３点とも欠損礫で、１点が半欠品、２点が２割程度の断片の状態で検出されているが、接合関係は認められなかった。最も軽いものは38ｇ、重いものは84ｇで、３点の平均は約65ｇを計り、比較的小形の礫で構成され



第109図　第Ⅲ文化層１号礫群分布図



第110図　第Ⅲ文化層２号礫群・１号配石分布図

ている礫群であった。この内の最も重い礫に赤化が認められ、焼成を受けているようであったが、他の２点には赤化や焼成を受けているような痕跡は認められなかった。３点とも石材は安山岩である。

２号礫群（第110図）

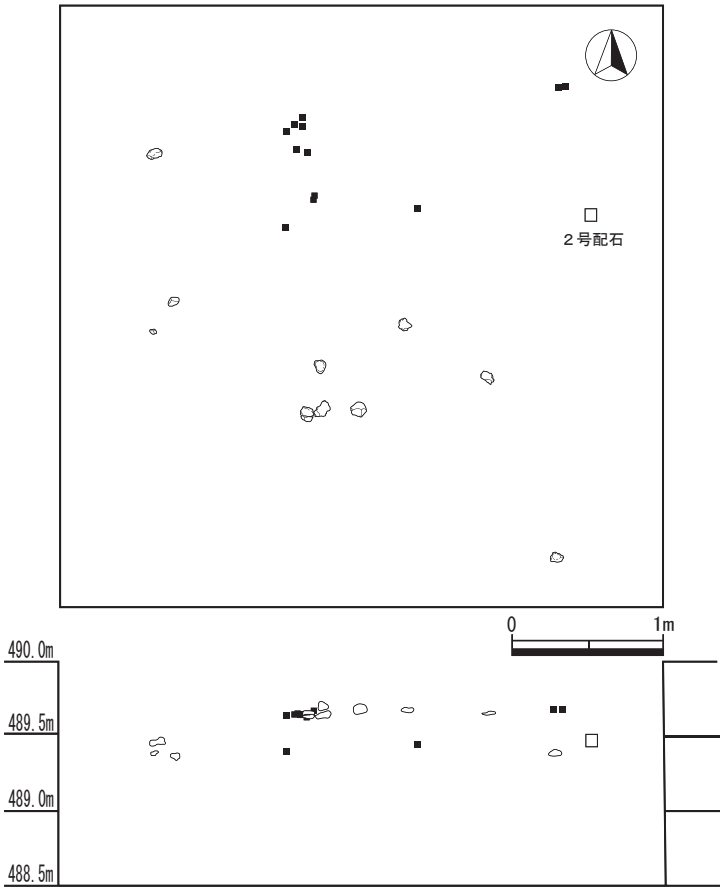
Ｆ－６グリッドからＧ－６グリッドにかけて確認された礫群で、１号礫群の南約４ｍで、石器群の分布範囲である第２ブロックの中央部に位置していた。確認された礫数は５点と少なく、分布範囲の北側に多くのものが分布している状態であったが、南東部では１号配石が検出されており、配石を含めると６点の資料数で構成されていた礫群である。分布範囲は長軸約5.5m、短軸約４ｍを測り、この分布範囲の外縁部に点在するように構成礫が分布しており、礫が集中して検出されるような状態は認められなかった。これらの構成礫（配石を含めて）は、標高約489.55mから標高約489.87mにかけて出土し、約32cmの高低差が確認されるものの、全て第８層のＹＬＭ層から出土しており、傾斜地に分布していることを鑑みれば、ほぼ同一面上に存在していたことが窺える状況を示していた。礫は完形礫の状態のものが３点､破礫状態のものが２点で、後者の内訳は８割のものと３割のものが各１点であった。なお、完形礫のものの中には煤の付着している礫が１点認められている。これらの礫で最も軽い礫は25ｇ、一番重いものは411gで、これら礫群５点の合計は876gであり、平均すると約175gを示していた。

１号配石（第110図）

２号礫群の分布範囲の南東端に分布していた配石で、1,157gを計る礫である。２号礫群を構成している礫の中では最も高い場所から出土しており、その標高は約489.87mを示していたが、最も高い南西斜面の東端に位置することから、２号礫群の垂直分布との相違は認められないものである。１号配石は９割程度の礫で、一部欠落している部分が認められているが、この欠損が焼成による火跳ねによるものかは礫の赤化が著しくないため推定することはできなかった。

３号礫群（第111図）

２号礫群の南約４ｍで確認された礫群で、Ｆ－７グリッドの北東側に分布していたものである。これも石器類の分布範囲である第３ブロックと分布範囲が重なっており、関連性の高い状況を窺わせている。礫類は長軸約４ｍ、短軸約３ｍの範囲に分布し、中央部分に幾分集まる傾向を示しているが、第３ブロックの石器類の集中部分とは若干西側にずれている状況が認められており、石器類と礫類の集中箇所は一致していない。３号礫群は23点の礫で構成されていたが、本礫群の東端でも２号配石が分布しており、この２号配石を含めると構成礫は24点となる。これらの礫は標高約489.35mから標高約489.67mにかけて垂直分布を形成し



第111図　第Ⅲ文化層３号礫群・２号配石分布図

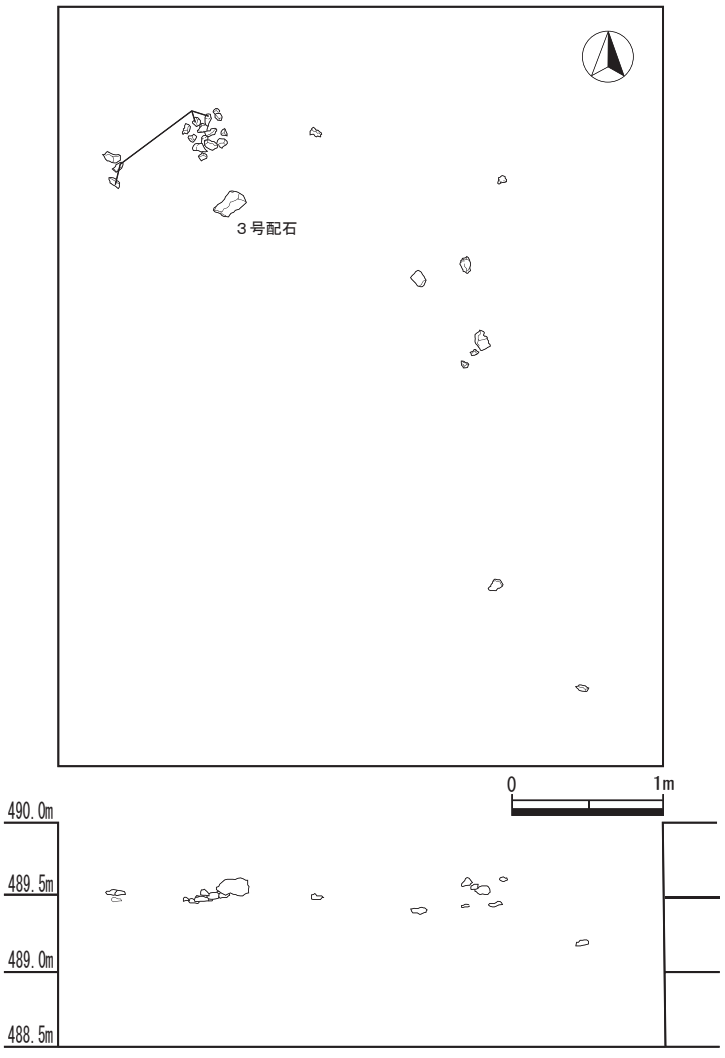
ており、約32cmのレベル差が認められている。しかし、全ての礫は第８層のＹＬＭ層から検出されていることから､このレベル差は遺跡の傾斜によって生じている可能性が大きいものと推察することができる｡個々の礫の重量は最も軽いものが14ｇで、重いものは670ｇを計り、23点を合計すると4,486ｇで、平均すると約195gを示している。これらの礫も焼成を受け赤化し、破損礫となったものが多く認められており、完形礫のものは５点が確認されているにすぎない。完形礫以外では、７割以上が存在していると推定されるものは６点、半欠品で４～６割程度のものが８点、２～３割程度の破片は４点が確認されているものの、これらには接合は確認されなかったことから、破損礫の状態で本礫群に持ち込まれたものか、或いは欠落している部分を他の場所に持ち出していることが推定される状況にある。

２号配石（第111図）

３号礫群の東端で確認された配石で、第８層のＹＬＭ層と第10層のＹＬＬ層を分けるスコリア層（ＹＬ－Ｓ１層）に乗るようにして検出された。配石の重さは1,488gで、完形礫であり、焼成による赤化を認めることはできなかった。出土した標高は約489.47ｍである。

４号礫群（第112図）

３号礫群の南側で、分布範囲を接するように位置していた礫群で、Ｆ－７グリッドの中央から南東側にかけて分布が認められたものである。これも石器ブロックである第４ブロックと分布範囲が重複しており、両者の関連性を窺わせる状態にある。礫は分布範囲の北側に集中する箇所があり、傾斜に沿う状態で南東側に散漫な分布を見せており、その規模は長軸約4.5m、短軸約２ｍを測る。出土した層位は、殆どのものが第８層のＹＬＭ層から検出されていたが、２点ほどは第10層のＹＬＬ層から確認されている。礫の中で最も標高の高い位置で確認されたのは約489.55ｍで、低いレベルで出土したのは約489.13mであり、これらには約42cmの高低差が生じていた。本礫群は26点の礫と１点の配石によって構成され、礫の中で最も重いものは614gで、一番軽いものは25ｇであった。26点の合計は4,168gを示しており、これらを平均すると約160gであった。礫は完形礫で確認されたものは１点にすぎず、多くのものが破損した状態で確認されており、それらは半欠品で４～６割程度のものが14点、２～３割程度の破片は６点、１割以下の断片のものが５点を占めているものの、多くの接合関係を認めることはできなかった。そして、これらの礫は全て焼成を受



第112図　第Ⅲ文化層４号礫群・３号配石分布図

けており、その過程で破損したものであることが推定されるものであった。なお、礫の中には煤の付着しているものが認められている。

３号配石（第112図）

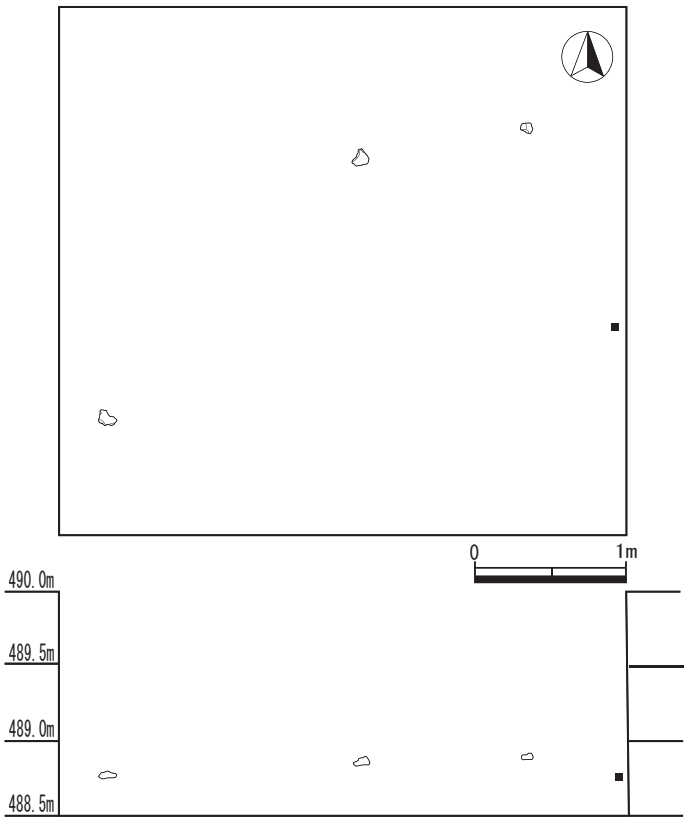
４号礫群の中央部で確認された配石で、礫群の集中部の南側に位置していた。第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約489.46ｍで確認されたものである。重量は3,860gを計り、形状は角礫状であるが表面全体は風化が認められており、完形礫と思われるものである。表面は赤化しておらず、焼成を受けているかは明確に判断できなかった。

５号礫群（第113図）

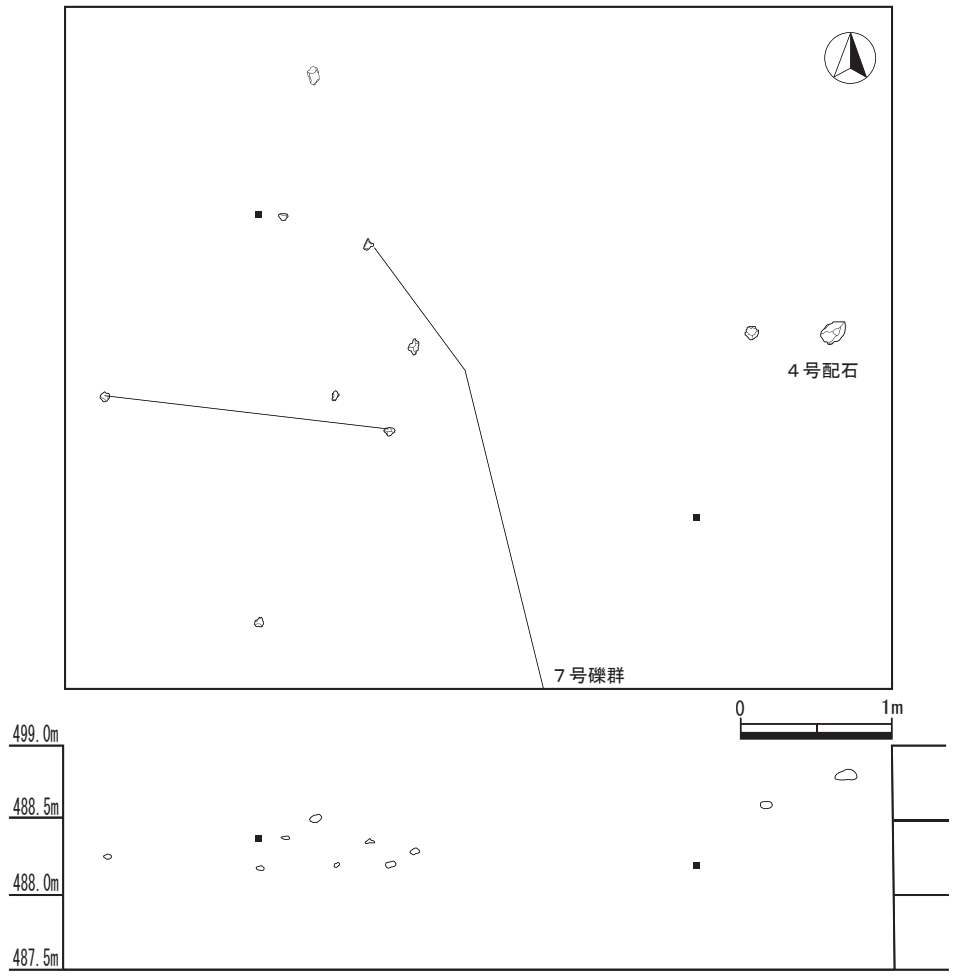
Ｆ－８グリッドの中央で確認された礫群で、４号礫群の南約4.5ｍに位置している。これも石器ブロックと重複しており、第５ブロックの南側で分布が確認されている。礫群を構成している礫は４点と少量で、これらが長軸約４ｍ、短軸約２ｍの範囲の外縁部に点在するように分布しており、分布範囲の中央と南側では礫の分布が認められない状況を呈していた。これらの礫は、第８層のＹＬＭ層から検出されたものが多いが、その内の１点は第10層のＹＬＬ層から確認されている。出土した標高は、約488.75ｍから約488.88ｍにかけてであり、約13cmの高低差が認められてはいるものの、長軸約４ｍを測る分布範囲の中でのレベル差であり、地形の傾斜による違いである可能性の高いものである。礫は焼成を受けて赤化していたが、完形礫が２点、７割程度のもの１点、５割ほどの半欠品が１点で、必然的に重量の重いものが多く、最も軽いものは129gで、重いものは521gであった。４点の合計は1,512gで、その平均が378gであることから、１号～３号礫群の構成礫に比べると倍近い平均値を示していた。

６号礫群（第114図）

５号礫群の南西側約３ｍに位置し、Ｆ－８グリッド南西部に多くの礫を分布させるとともに、Ｆ－９、Ｅ－８グリッドにかけて分布範囲を形成していた礫群である。これも石器ブロックである第７ブロックと重複し、その中央部に分布している状況で、しかも同じＦ－８グリッド南西部に集中域を認めることができることから、両者は密接な関連性があることが窺えよう。確認された礫は、分布範囲の東端に位置している４号配石を加えると12点（したがって、礫群の構成点数は11点）で、これらは長軸約５ｍ、短軸約3.5ｍの範囲を形成し、前述したように過半数の資料がＦ－８グリッド南西部からまとまって出土していた。これらの礫は、２点ほどが第８層のＹＬＭ層から検出されていたが、それ以外の大部分のものは第10層のＹＬＬ層から確認されており、１号～４号礫群に比べると幾分深い層位から検出された傾向のある礫群であった。出土した標高は約488.11ｍから約488.41ｍにかけてであり、約



第113図　第Ⅲ文化層５号礫群分布図



第114図　第Ⅲ文化層６号礫群・４号配石分布図

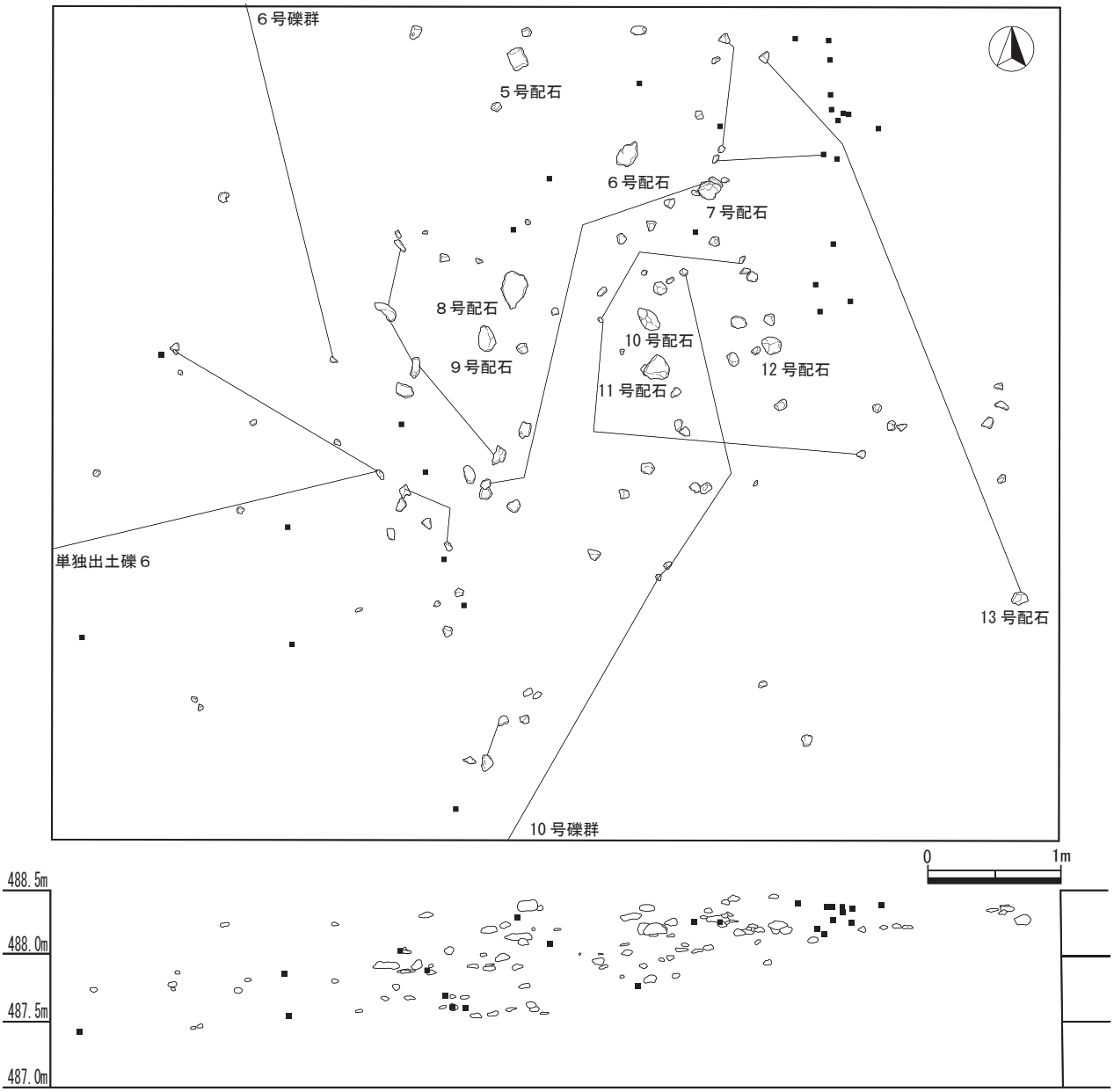
30cmに及ぶ高低差を持って検出されている。本礫群の構成礫も完形礫は２点と少なく、８割ほどのものが１点、５割ほどの半欠品が３点、２～３割程度の破片は２点、１割以下の断片のものが３点で、全てのものが焼成を受け、赤化した状態で確認されている。この中で最も軽いものは１gで、重いものは410gであった。そして11点の合計は1,291gで、これらの平均値は約117gである。

４号配石（第114図）

６号礫群の東端に位置していた配石で、第８層のＹＬＭ層から出土した。検出された標高は約488.57mを測り、一緒に分布範囲を形成している６号礫群の構成礫に比べるとやや高いレベルから出土しているが、地形的には南西斜面の東端に位置していることから、傾斜の上部から検出されたものであり、６号礫群の構成礫の出土層位とは大きな相違はないものと考えられる。配石の重さは2,888gで、焼成を受け赤化しているような状態は認められなかった。礫は完形礫である。

７号礫群（第115図）

出土した礫群の中では最も大規模なもので、126点の礫と９点の配石、合計135点で構成されている例である。これらの礫はＦ－９グリッドの中央から東北側にかけて分布し、長軸約７m、短軸約 6.5mの範囲を形成しており、石器類の分布である第８ブロックと分布範囲が重なる状態で確認されている。礫はこの分布範囲の中に均等にちりばめたような状態で分布しており、集中して出土するような箇所は認められなかった。礫の中で最も軽い資料は６ｇで、これに対して重いものは800gのものが確認されており、重量の幅は広いことが窺える。そして、全資料126点の合計は24,662g で、平均すると約196gであり、平均値は他の礫群（１



第115図　第Ⅲ文化層７号礫群・５～13号配石分布図

～３号礫群）と近い数値を示しており、この様な平均値が一般的なものであったのかも知れない。これらの礫が検出された標高は約487.46mから約488.43mにかけてであり、約97cmのレベル差を持って出土していたが、これも地形の傾斜と広範囲の分布状態によって生じたものと考えられるものであった。礫の多くは破損礫で、完形礫であったものは28点、７割から９割程度のものが14点、４割から６割の半欠品が32点、２割から３割の破片が27点、１割以下の断片のものが25点を占めており、約77.8％が欠損した礫であった。殆どの礫が焼成を受け、赤化した状態のものであり、煤の付着していたものも数点確認されている。大多数のものは第８層のＹＬＭ層から出土していたが、第10層のＹＬＬ層から検出されたものが十数点確認されている。

５号配石（第115図）

７号礫群の中央北端で出土した配石で、重さは2,550gを計る。第８層のＹＬＭ層から出土しており、共伴する７号礫群の構成礫と同一の層位から出土している。検出された標高は約488.34mで、周辺の礫群の構成礫とも出土レベルに大きな相違は認められなかった。礫は完形礫で、焼成を受け、赤化しているような様

子は認められなかった。

６号配石（第115図）

５号配石の南東約1.2m、７号礫群の中央北側に確認された配石で、重量は2,218gを計る。これも第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約488.26mから検出されたものであり、出土レベルに７号礫群の構成礫との矛盾は認められなかった。これも完形礫で、赤化しているような様子は認められなかったことから、焼成を受けているかは明確には判断できなかった。

７号配石（第115図）

６号配石の東側で隣接して確認された配石で、重量は942gである。これも第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約488.25mから検出されており、共伴する７号礫群の構成礫と同一の層位、レベルから出土している状態である。礫は５割ほどの破損礫で、周辺に分布していた破礫３点と接合が認められており、著しく赤化しているような様子は認められないものの、焼成を受け、剥落した可能性の高いものであった。

８号配石（第115図）

６号礫群の中央西側で確認された配石で、重量は4,600gを計り、確認され配石の中では大形のものである。本例も第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約488.11mから検出されており、周辺に分布している７号礫群の構成礫のレベルとも大きな相違は認められなかった。礫は完形礫で、これも赤化しているような様子は認められなかった。

９号配石（第115図）

８号配石の南西で近接して確認された配石で、礫の重さは2,382gである。本例も第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約488.16mから検出されており、７号礫群の構成礫の出土レベルとも大きな相違の認められないものである。礫は半欠品であったが、接合関係は認められなかった。また、著しく赤化しているような様子も認められなかった。

10号配石（第115図）

７号礫群の中央部で確認された配石で、９号配石の東約1.2mに位置していた。重量が3,050gの完形礫で、標高約488.15mの第８層のＹＬＭ層から出土している。これも周辺に分布している７号礫群の構成礫とは、出土レベルに大きな相違が認められておらず、ほぼ同一面上に分布しているような状態であった。また、本例も著しく赤化しているような様子は認められなかった。

11号配石（第115図）

10号配石の南で近接した状態で確認された配石で、礫の重さは3,320gを計るものである。礫は完形礫で、標高約488.15mの第８層のＹＬＭ層から出土しており、本例も共伴する７号礫群の構成礫と同じようなレベル、層位から出土している状況である。本配石にも焼成を受けたような著しく赤化は認められなかった。

12号配石（第115図）

10号配石の東側約１mに位置していた配石で、配石の中では比較的軽い1,089gの重さの礫である。礫は完形礫で、標高約488.20mの第８層のＹＬＭ層から出土した。これも共伴する７号礫群の構成礫と同じようなレベル、層位から出土しており、関連性を窺わせる出土状態である。本配石にも著しい赤化は認められなかった。

13号配石（第115図）

７号礫群の南東端で出土した配石で、12号配石の南東約2.5mに位置している。礫は重さが1,195gの半欠品で、第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約488.24mから検出されたものである。これも７号礫群の構成礫のレベル幅の中から出土しており、関連する存在であることが窺える。本配石にも著しい赤化は認められな

かったが、３点の破損礫と接合関係にあることから、焼成を受けている可能性のあるものである。

８号礫群（第116図）

７号礫群の南約1.3mで確認された小規模な礫群で、Ｆ－９グリッドの南東部に位置している。礫群の構成礫は３点で、南北方向に並ぶようにして分布しており、その長軸は約70cmほどであった。これも石器類の分布である第12ブロックの北側と重複しており、両者の関連性を窺わせる状態を示していた。出土した層位は、第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけてであり、標高では約487.38mから約487.66mにかけて検出されており、垂直分布には約28cmのレベル差が生じていた。礫は３点とも焼成を受けて赤化し、完形礫のもの１点、４割程度の半欠品１点、１割以下の断片１点であった。これらの重量は、最も軽いものが33ｇで、重いものは130gであった。これら３点の合計は219gで、平均すると約73ｇであった。

９号礫群（第116図）

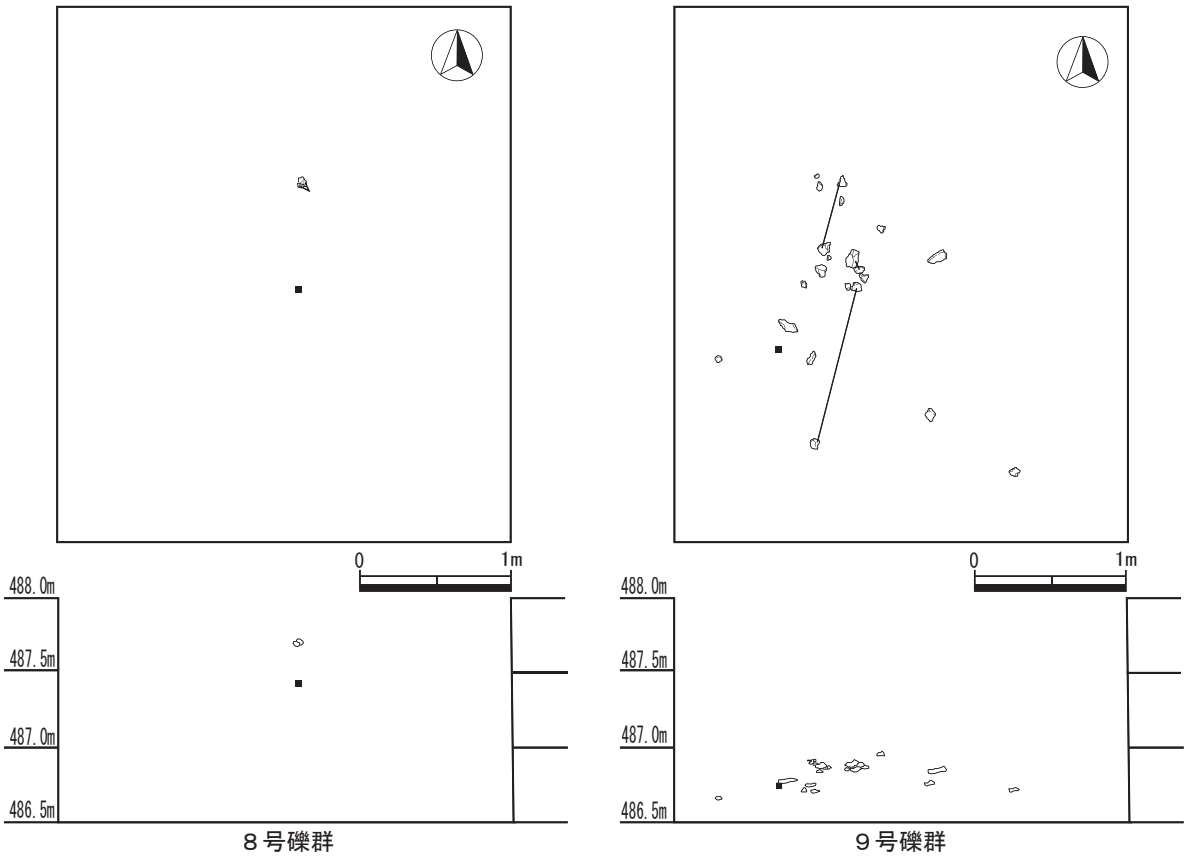
Ｅ－９グリッド中央南側に分布していた礫群で、長軸約2.4m、短軸約1.6mの範囲に23点の礫が確認されている。礫は半数ほどが礫群中央部に集まり、残りの礫がこの周辺に散漫に分布するような状態であり、比較的まとまった出土状態を示していた。本礫群も石器ブロックの第10ブロックと重複関係にあり、しかも石器類の集中箇所と同じ場所に礫群のまとまりも形成されており、両者が密接な関係にあることを窺うことができる状態にある。礫群が出土した層位は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけてで、標高では約486.65mから約486.94mの間に垂直分布が形成されており、約29cmの高低差が認められている。礫は多くのものが破損礫で、僅かに４点の完形礫が存在していたが、他は７割から９割のものが１点、４割から６割の半欠品が５点、２割から３割の破片が８点、１割以下の断片のものが５点であり、礫の完存率は約17.4％を占めているにすぎなかった。この中で一番軽い礫は７ｇで、最も重いものは593gであり、23点の合計は2,630gで、それらの平均値は約114gであった。そして、これらの内、破損礫は全て焼成を受け赤化している状態であったが、完形礫の４点は著しい赤化は認められず、焼成を受けているかは明確に判断できない状態にあった。

10号礫群（第117図）

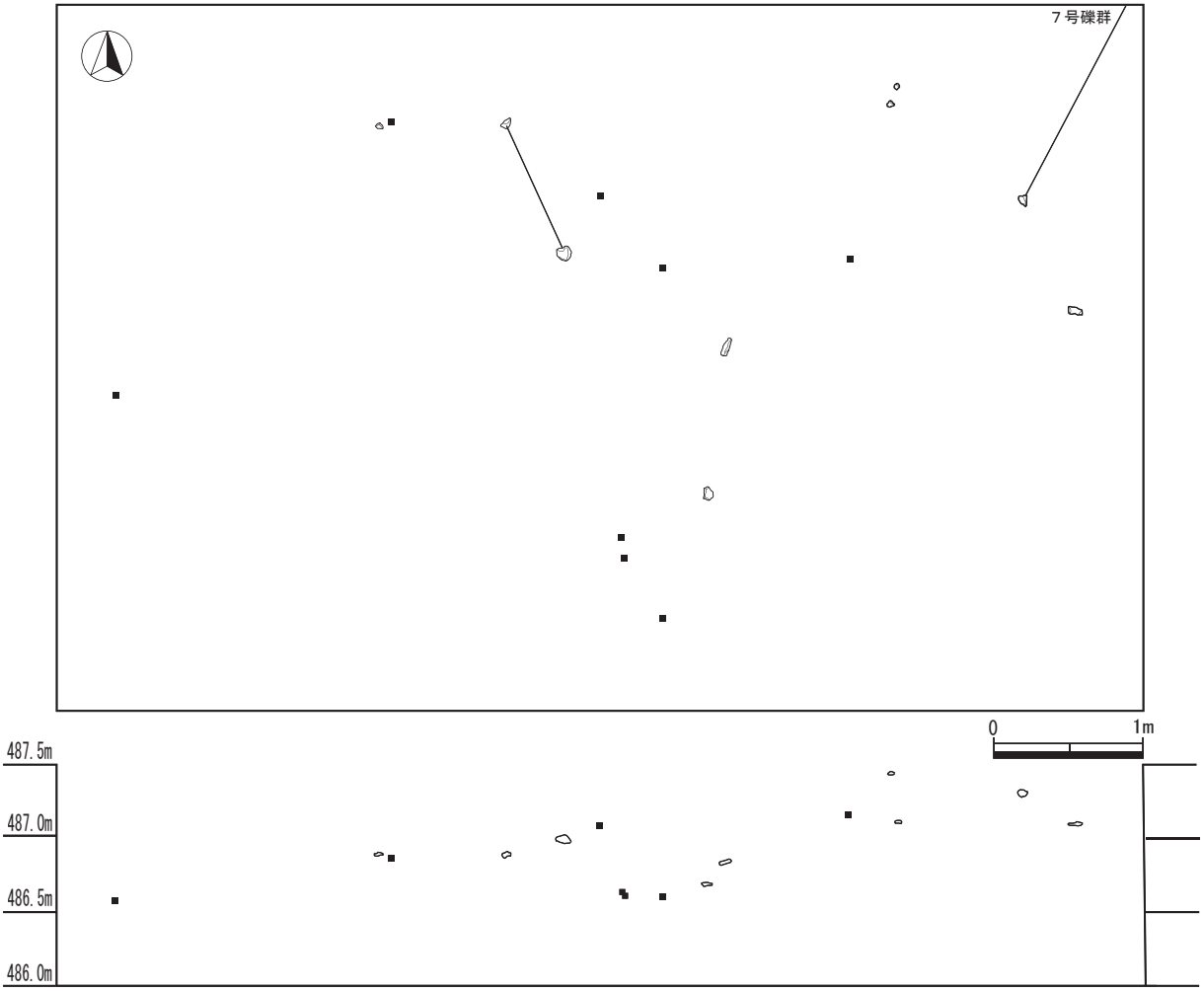
Ｅ－９～10、Ｆ－９～10グリッドにまたがって分布していた礫群で、長軸約6.5m、短軸約3.6mの範囲に15点の礫が点在するような状態で分布が確認されたものである。この分布範囲はブロックの第10、第11ブロックにまたがって形成されており、前述してきた礫群では一箇所のブロック内に内在するような状態で形成されているものが多かったことに比べると、相違のあるものであった。礫の出土層位は、第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけてで、標高では約486.61mから約487.32mの間に包含されており、約71cmのレベル差のある垂直分布が形成されていたが、この高低差も地形の傾斜によるものと考えられる状態であった。出土した礫の中では完形礫のものは１点と少なく、他のものは７割から９割が残っていると考えられるものが３点、２割から３割の破片が３点、１割以下の断片が８点であり、本礫群でも破損礫の占める割合が高いことが判断されるものと思われる。出土した15点の内、最も軽いものは５ｇで、一番重量のあるものは721gであった。15点を合計すると1,637gで、これらを平均すると約109gとなった。殆どのものに焼成を受けたような赤化が認められている。

11号礫群（第118図）

10号礫群の南で、分布範囲を接するように位置していた礫群で、Ｅ－10とＦ－10グリッドにまたがる状態で確認された。本礫群も、第13ブロックと第14ブロックの北側にまたがって分布しており、複数のブロック間に分布の認められた例である。分布範囲の東南端に14号配石が位置し、これを合わせると16点の礫で構成されている礫群である。分布範囲の規模は長軸約5.2m、短軸約４mで、この範囲の中央部に殆どの礫が集



第116図　第Ⅲ文化層８・９・12号礫群分布図



第117図　第Ⅲ文化層10号礫群分布図

まっている傾向はあるものの、集中するような箇所は認められなかった。出土した礫は殆どが第８層のＹＬＭ層から検出されており、ほぼ同一層位に包含されていたことが窺えるが、標高では約486.07ｍから約486.66ｍまでの範囲で確認されており、約59cmの高低差のある垂直分布が形成されていた。本礫群は完形礫が７点と比較的多く認められており、他も７割から９割が残っているものが３点、２割から３割の破片が３点、１割程度の断片が２点と、破片や断片になった破損礫の割合の低い礫群であった。これら15点を合計すると4,924gで、この内で最も軽い礫は43ｇ、重いものは877gをであった。これらを平均すると、約328gで、完形礫の多さからも判るように他の礫群に比べると重量のある礫で構成されていた礫群である。そして、礫の殆どに焼成を受けたような赤化が認められている。

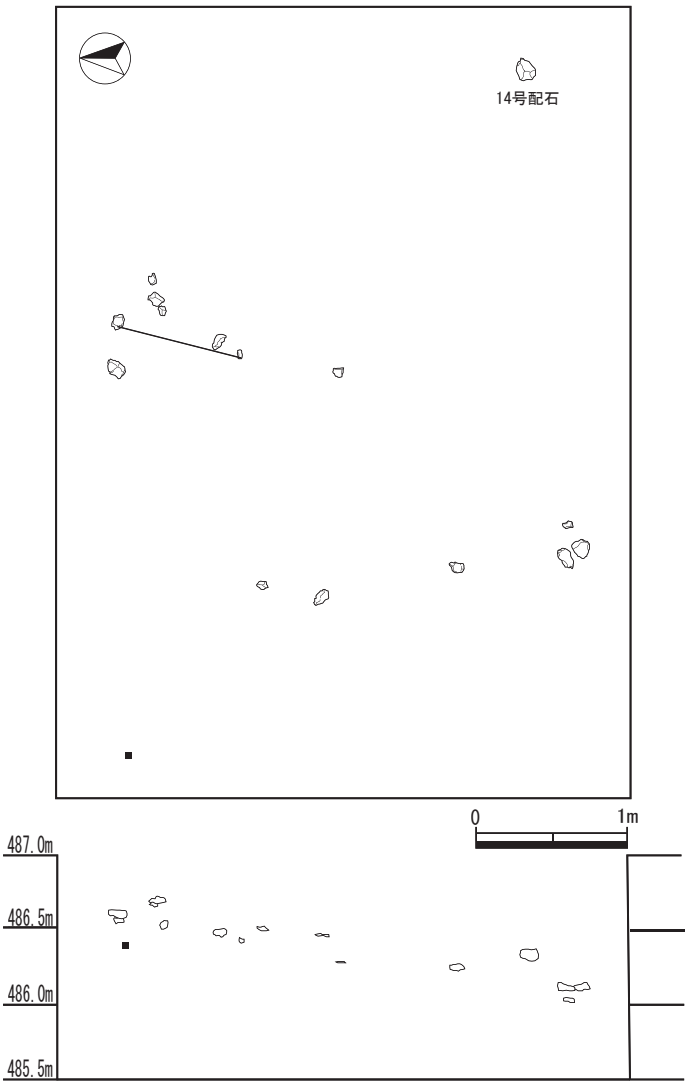
14号配石（第118図）

11号礫群の東南端に位置していた配石で、重さが1,652gを計るものである。これは第８層のＹＬＭ層上部のスコリア層（ＹＬ－Ｓ１層）から検出されており、層位で見ると11号礫群の構成礫に比べるとやや上部から確認されている状況である。ただ、標高では約486.27ｍから出土しており、11号礫群のそれほど上部から確認された訳ではないことが理解されることから、これも地形の傾斜や立地状態等に吸収されてしまう現象なのかも知れない。礫は完形礫で、著しく赤化しているような様子は認められなかった。

12号礫群（第116図）

11号礫群の東約2.5ｍで確認された礫群で、Ｆ－10グリッドの北東部に位置している。礫群の大きさは長

軸約3.5m、短軸約２ｍで、礫はこの範囲の外縁部に点在するように分布しており、中央部は分布の空白域となっている。必然的に礫が集中するような場所は認められず、検出された礫も５点と少ないものであった。本礫群も石器ブロックである第12ブロックの南側と重複しており、両者の密接な関係を窺わせる状態である。礫の多くは第８層のＹＬＭ層から出土していたが、１点だけ第10層のＹＬＬ層でも確認されており、高低差のある垂直分布が形成されていたことを窺わせている。標高で見てみると、約486.65ｍから約487.19ｍの約54cmのレベル差が認められているが、これも地形の傾斜によって生じた現象である可能性の高いものである。構成礫の内、完形礫であったものは１点で、それ以外の４点は全て１割程度かそれ以下の断片で占められており、礫群として把握したものの視覚的な礫の集積状態を認めることのできないものである。この中で最も軽いものは22ｇで、重いものは666gであった。５点の合計は776gで、これらの平均値は約155gであった。５点は焼成を受け、赤化が認められている。



第118図　第Ⅲ文化層11号礫群・14号配石分布図

13号礫群（第119図）

11号礫群の南約1.5mで確認された礫群で、Ｅ－10とＦ－10グリッドにまたがって分布していたものである。礫群の大きさは長軸約３m、短軸約1.6mを測り、礫はこの範囲の外縁部に点在しているような分布を示しており、礫がまとまって出土するような場所は確認されなかった。本礫群も石器ブロックの第14ブロック南側に重複する状態で確認されており、ブロックとの関連性が推察される状態である。本礫群は８点の礫で構成されていたが、これも殆どの礫は破損したもので占められており、完形礫は１点が確認されているにすぎなかった。これ以外では４割から６割程度の半欠品が５点、２割から３割程の破片が２点で、この中で最も軽かったものの重さは54ｇであった。これに対して一番重かったものは764gで、８点の合計は1,502gとなり、これらの平均値は約188gを示しており、本礫群も他の多くの礫群の重量と類似した平均値であることが理解される。これらが出土した層位は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけてであり、標高では約485.43mから約485.94mの間で検出されており、約51cmのレベル差が認められている。礫の全てに焼成を受けたと思われる赤化が認められている。

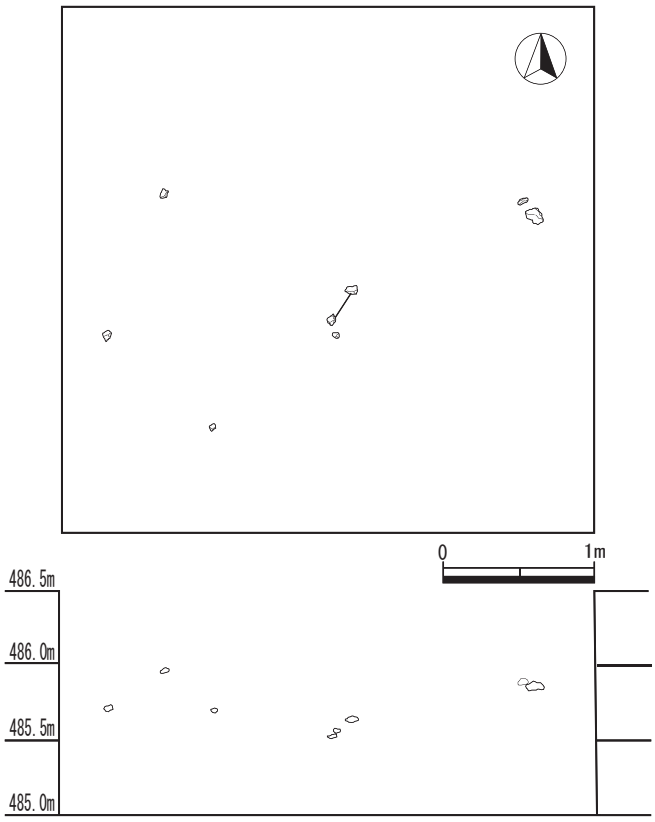
14号礫群（第120図）

Ｆ－10とＦ－11グリッドにかけて分布していた礫群で、12号礫群の南約４ｍに位置している。礫群を構成

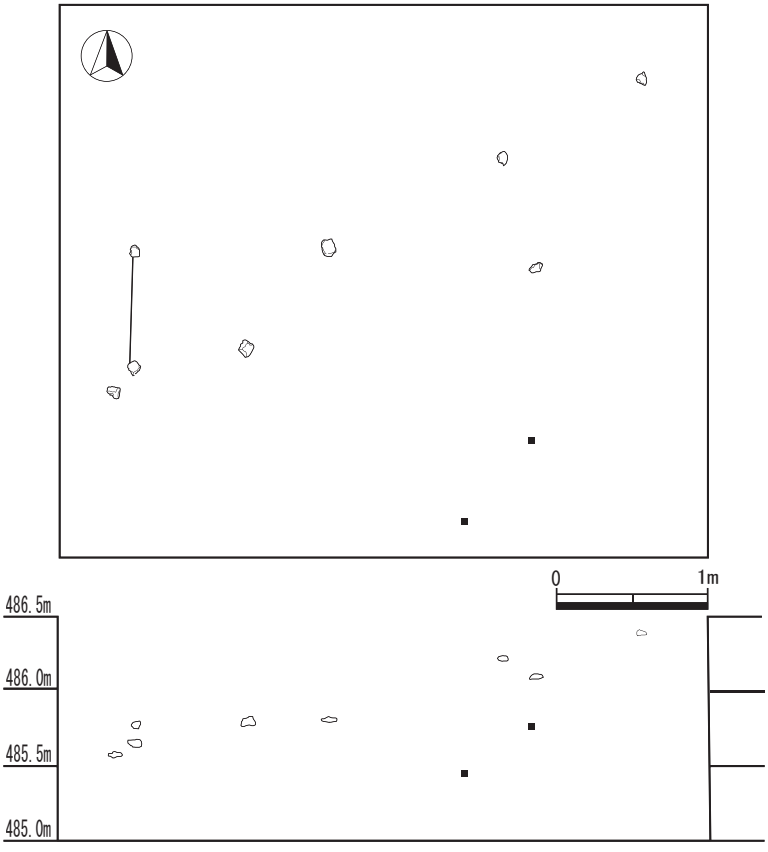
していた礫は10点で、これらが長軸約４ｍ、短軸約３ｍの範囲の中で散漫な分布を見せており、礫が集中して出土するような箇所は認められなかった。本礫群も第15ブロックと重複状態にあり、石器ブロックに伴って形成されているような傾向が窺える状況であった。礫の出土した層位は第８層のＹＬＭ層から第10層のＹＬＬ層にかけてであったが、大部分のものはＹＬＭ層から検出されており、層位の上では一定した層から確認されている状況にある。検出された標高は約485.46ｍから約486.36ｍにかけてで、約90cmのレベル差が生じていたが、前述したように出土層位には大きな相違は認められないことから、地形の傾斜によるレベル差として理解できるものと思われる。礫は完形礫が６点と多く、他は７割から９割程度の大きさのもの１点、４割から６割程度の半欠品が３点で、この半欠品の内２点が接合して完形礫となるものもあり、他の礫群に比べると完形礫の遺存率の高い礫群であった。最も軽い礫は183g（完形礫）で、重いものは872gを示しており、10点を合計すると3,593gで、平均値は約359gである。これら構成礫は全て焼成を受けているらしく、赤化が認められている。

15号礫群（第121図）

Ｆ－11グリッド中央西よりで確認された礫群で、13号礫群の南約６ｍに位置していた。礫群は南北方向にへの字状に点在する３点の礫で構成され、長軸約3.2m、短軸約0.5ｍの分布範囲を形成しており、礫群の中では最も小規模なものであった。ま



第119図　第Ⅲ文化層13号礫群分布図

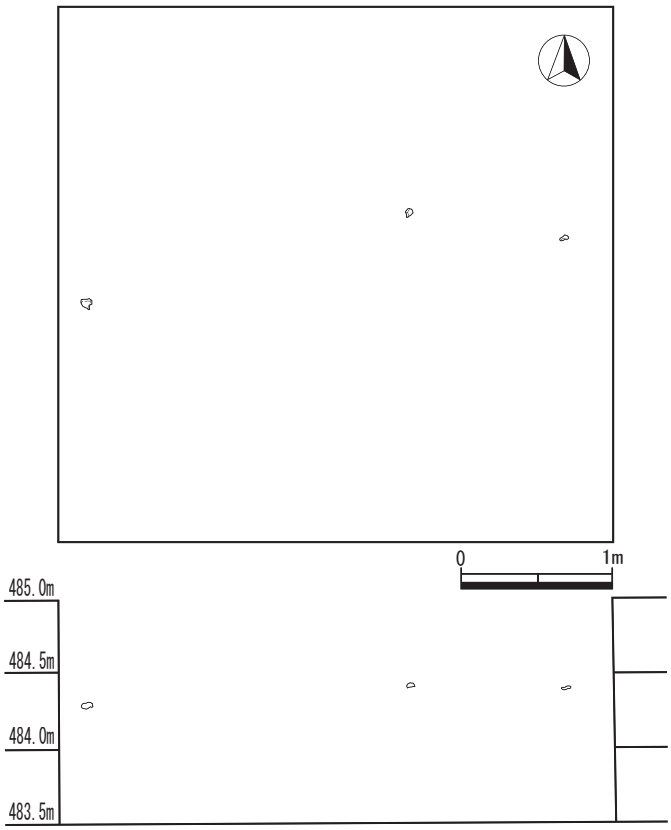


第120図　第Ⅲ文化層14号礫群分布図

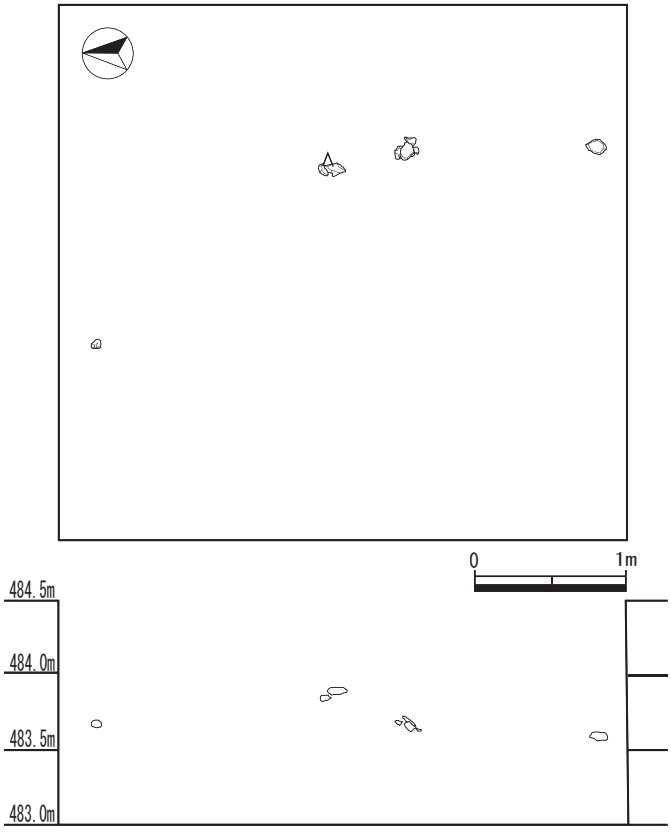
た、本礫群も第17ブロックと重複しており、石器ブロックと分布範囲をほぼ共有している状態は、他の礫群とも共通する現象である。出土層位は３点とも第10層のＹＬＬ層で、本文化層で確認された礫群の中では最も下層から検出されたことが窺える例である。出土した標高は約484.26mから約484.40mにかけてで、約14cmの高低差が認められているが、これは地形の傾斜によるものでほぼ同一面上から出土している可能性の高いものであった。礫は３点とも焼成を受けて赤化し、破損礫となっており、完形礫は確認されなかった。その内訳は、４割から６割程度の半欠品が２点、３割程度の破片が１点で、この内で最も軽いものは20ｇを示し、重いものは126gであった。３点の合計は200gで、平均値は約67ｇを計測している。

16号礫群（第122図）

Ｆ－11とＦ－12グリッドの東側で、両グリッドにまたがって分布していた礫群である。14号礫群の南約8.5mに位置し、第16ブロックと第23ブロックの間の石器ブロックの空白域に形成されていた礫群で、石器ブロックとの重複の認められない数少ない礫群である。礫群は長軸約3.5m、短軸約１mの大きさで、９点の礫の多くが中央部分に集まっている傾向が認められるものの、この内の５点は接合してしまうため、個体としては５個体が点在する状態のものであり、礫の集中するような様子は認められなかった。これらは全て第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約483.64mから約484.85mにかけて検出されたもので、約21cmの垂直分布幅が形成されていた。このレベル差も地形の傾斜に起因するものと考えられることから、同一面に残された礫であったことが推定されるものである。礫は完形礫は認められなかったが、表面が火跳ねによって剥落し９割以上が存在するもの１点、７割から９割が残っているもの２点、４割から６



第121図　第Ⅲ文化層15号礫群分布図



第122図　第Ⅲ文化層16号礫群分布図

割程度の半欠品が１点、２割から３割程度の破片が４点、１割程度の断片が１点で、前述したように、この中には接合後にほぼ完形礫になったものが存在する。これらは最も軽いものが34ｇ、重いものは772g、合計すると2,604gであり、平均すると約323gであった。ただ、この中で前述した５点の接合例は接合後の重量が966gとなり、完形礫の場合には配石に分類される重さであった。さらにこの個体は表面が著しく赤化しており礫群の構成礫であることが判断されることから、900g以上の礫でも礫群の礫として使用されていることが理解できる例である。これ以外の４点も焼成を受けて赤化しており、その内の２点には煤が付着していた。

17号礫群（第123図）

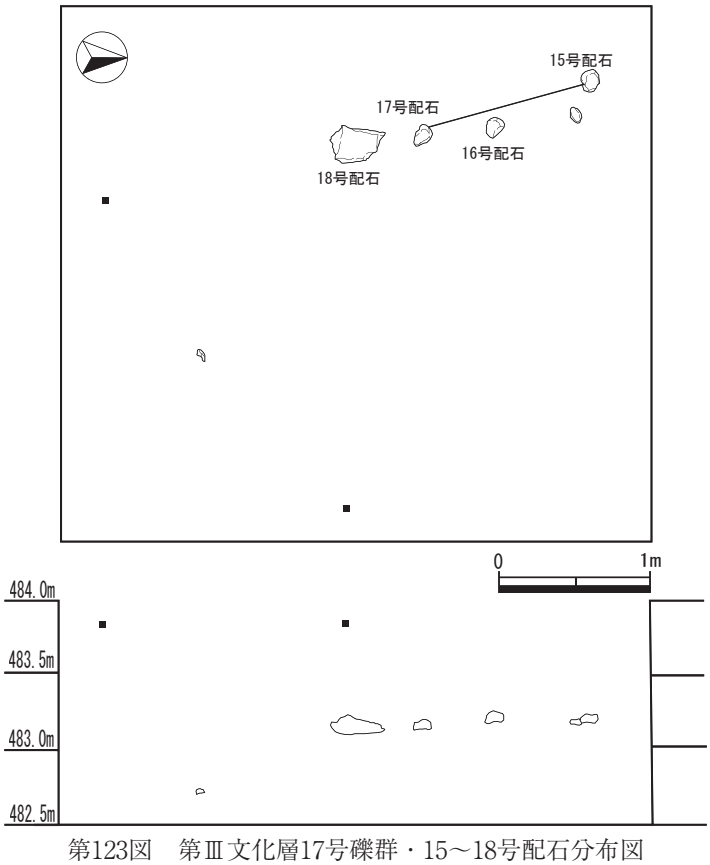
Ｆ－12グリッド西側で確認された礫群で、15号礫群の南約９ｍに位置している。礫群は長軸約3.5m、短軸約３ｍの大きさで、４点の構成礫と４点の配石で構成された礫群である。礫群を構成する礫は、この範囲の外縁部に点在するような状態で分布しており、中央部は分布の空白域となっていたが、この空白域には南北方向に並ぶように４点の配石が分布しており、特異な様子を見せる礫群であった。本礫群も石器ブロックの第19ブロックと第24ブロックに重複しており、分布範囲が共有されていることが理解できるものと思われる。礫は第６層のＹＬＵ層から第８層のＹＬＭ層にかけて出土し、標高約482.55mから標高約483.74mに包含されており、約1.19cmの高低差のある垂直分布が形成されていたが、この内の数点は出土レベルが不自然なものである。礫は６割程度の半欠品が１点認められていたが、他の３点は完形礫であり、完形礫の遺存率の高い礫群であった。この内で一番軽かったのは123gで、重かったのが475gを示しており、合計すると982gで、平均値は約246gであった。完形礫の中の１点は、赤化しているような状態は認められなかったが、他の３点は焼成を受け、表面が赤く変色していた。

15号配石（第123図）

16号礫群の北端に位置していた配石で、1,286gを計る礫である。礫は半欠品で、標高約483.03mのＹＬＭ層（第８層）から出土した。これも共伴する17号礫群の構成礫と同じようなレベル、層位から検出されており、両者は密接な関係があったことを窺わせている。礫は著しい赤化は認められなかったが、表面が変質し、黒ずんでいることから、焼成を受けている可能性のあるものであった。

16号配石（第123図）

15号配石の南約70cmに位置していた配石で、1,697gの礫である。礫は完形礫で、第８層のＹＬＭ層から出土し、標高は約483.03mで確認されており、前述した15号配石とほぼ同一レベルから検出されている。礫は一部に赤化が認められるようであり、焼成を受けた可能性がある例である。



第123図　第Ⅲ文化層17号礫群・15～18号配石分布図

17号配石（第123図）

16号配石の南約50cmで確認された配石で、1,148gを計る半欠品の礫である。これも第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約482.98mで検出されたものである。礫は著しい赤化は認められなかったが、表面が変質し、黒ずんでいる状態であった。この様な状態は前述した15号配石も同様であることから、接合を試みたところ接合して2,416gの完形礫となった。したがって、２kg以上の礫であっても焼成を加える場合があることが理解されるとともに、これらは焼成を加えられる度に破損し、小形化して礫群の構成礫へと変化していくことが予想される状況である。

18号配石（第123図）

17号配石の南約45cmで確認された配石で、本遺跡で確認された配石の中では最も重い5,380gを計るものである。これも第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約482.95mから検出されたもので、近接して確認された15号～18号配石の標高を見てみると、これらが同一面上の傾斜地に展開していたことを窺わせるものであった。礫には赤化は認められないことから、焼成は加えられていないようである。

18号礫群（第124図）

17号礫群の南東約２mで確認された小規模な礫群で、Ｆ－12グリッドの中央南に分布が認められたものである。本礫群も石器ブロックと重複しない例で、第24ブロックの南側に分布範囲を接するように位置していた。出土した礫は配石（19号配石）を含めて６点で、これらは長軸約1.5m、短軸約0.5mの範囲に散漫な分布を見せており、一箇所にまとまって検出されるような傾向は認められなかった。ほとんどの礫は第８層のＹＬＭ層から出土しているが、第10層のＹＬＬ層からも１点が検出されており、ＹＬＭ層からＹＬＬ層にかけて包含されていたことが推察されるものである。標高では約482.87mから約483.23mにかけて確認されており、約36cmのレベル差が認められている。礫は５点とも焼成を受け、赤化が認められているとともに、全て破損礫で完形礫のものは確認されなかった。その内訳は、火跳ねして表面が剥落しているもので９割程度が残るもの１点、４割から６割程度の半欠品のものが３点、１割以下の断片のものは１点に分類された。５点の中で最も軽いものは61ｇで、重いものは238gを計り、合計すると725gとなり、平均値は約145gであった。

19号配石（第124図）

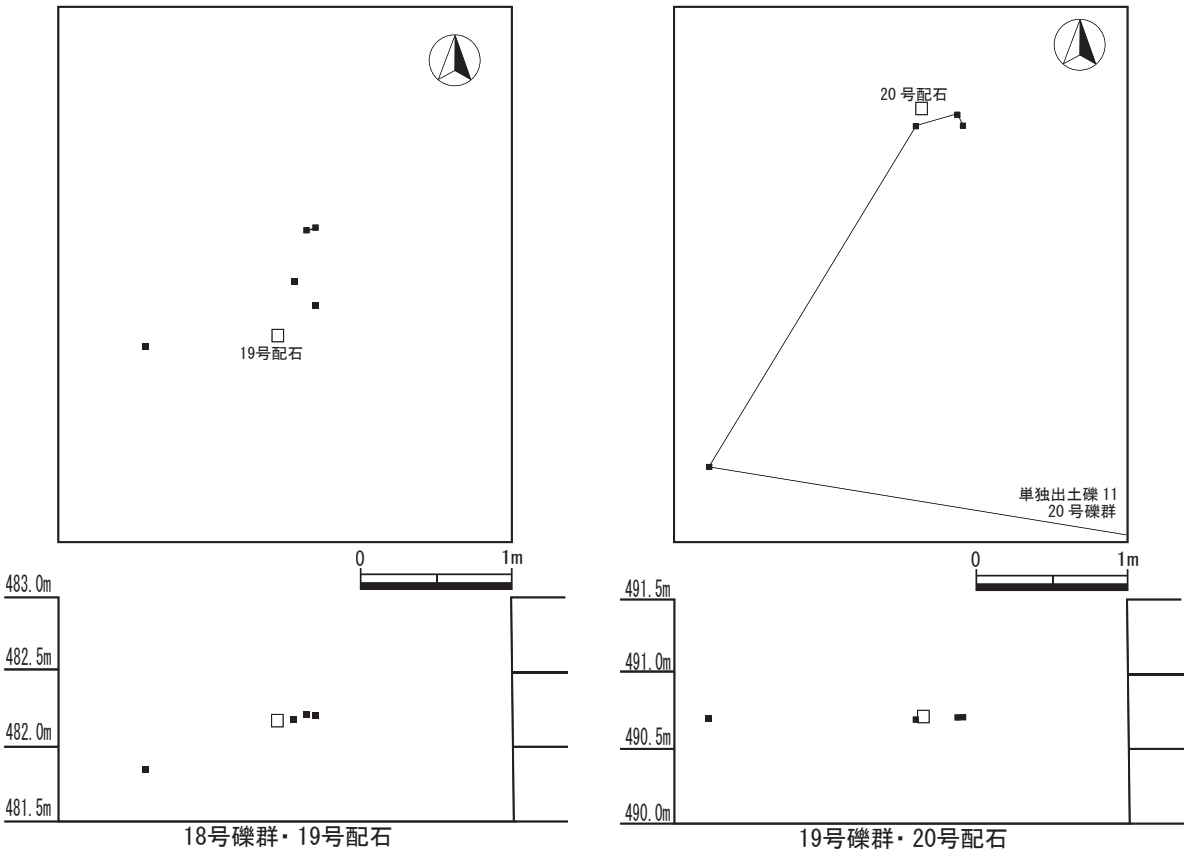
18号礫群の中央部で確認された配石で、1,739gを計る完形礫である。これは第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約483.19mから検出されたもので、共存する18号礫群の出土レベルとも大きな違いの認められない出土状態であった。礫は著しい赤化は認められないことから、焼成を受けているかどうかは判断できなかった。

19号礫群（第124図）

Ｄ－６からＤ－７グリッドにかけて分布が認められた礫群で、３号礫群の西約24mに位置していた。分布範囲の中に20号配石が存在し、本礫群の構成礫４点と合わせて５点で構成されるものである。礫は配石を含めた４点が分布範囲の北側にまとまり、後１点が南西側に離れて位置する状態で、長軸約2.8m、短軸約0.6mの範囲を形成していたものである。本礫群も石器ブロックの第27ブロックと重複しており、他の礫群と類似したあり方を示している。礫は全て第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約490.68mから標高約490.69mの間約１cmに垂直分布が形成されており、これらが同一面上に展開していたことが窺える状況にある。礫は全て焼成を受け、赤化していたが、大形のものが多く、完形礫が２点、７割から９割程度のもの１点、３割程度の破片が１点であった。これらの重量は、最も軽いものが252gで、重いものは564gであり、４点を合計すると1,403gとなり、これらを平均すると約351gであった。

20号配石（第124図）

19号礫群北端に位置していた配石で、967gの礫である。第８層のＹＬＭ層から出土し、標高約490.69m



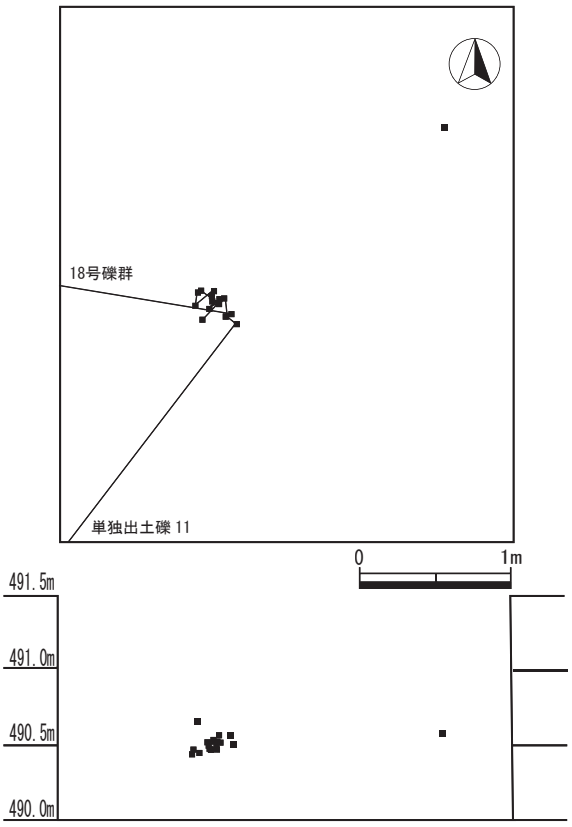
第124図　第Ⅲ文化層18・19号礫群・19・20号配石分布図

から検出されており、共存する19号礫群の礫と同層位、同レベルで確認されている。礫は表面に火跳ねが認められており、焼成を加えられていることが明らかで、礫群と同様の利用が為されていたことが窺える資料である。礫は火跳ね分を欠くことから９割程度の遺存率である。

20号礫群（第125図）

19号礫群の東約３ｍに位置し、Ｄ－７グリッドの北東部分に分布していた礫群である。本礫群も石器ブロックの第28ブロックと分布範囲が重複しており、ブロックとの共伴が認められるものであった。出土した礫は19点と比較的多く、本礫群も分布範囲の南西部に18点がかたまって出土し、少し離れた北東部に１点が分布するような状態で、この範囲は長軸約2.1m、短軸約0.5mの規模であった。ただ、まとまって出土した18点の内16点は接合し、１個体の礫であることが明らかとなっており、礫としての個体は４個体が確認されているにすぎなかった。出土した層位は、殆どのものが第８層のＹＬM層と第10層のＹＬＬ層を分けているスコリア層（ＹＬ－Ｓ２層）に乗るように検出されており、３点ほどが上層のＹＬＵ層とＹＬM層から出土しただけであり、ほぼ一定した層位から出土したことが判断できるものである。これらは標高約490.43mから約490.64mにかけて出土しており、約21cmのレベル差が認められている。礫は完形礫が１点、７割程度のもの１点、６割程の半欠品が１点、接合した16点は全て１割以下の断片であった。これらの中で最も軽い資料は２ｇで、重いものは439gを計る。19点の合計は1,600gで、１点の平均値は約84ｇであった。

以上の礫群を構成していた礫以外に、礫群外（図では単独出土礫）とした礫が10点存在する。それらを列記すると、外１はＥ－６グリッド東側で第12層のＢＢ０層から出土した21ｇの破損礫で、赤化が認められている。外２はＦ－７グリッド南西部の第８層のＹＬM層から出土した完形礫で、165gを計り、焼成を受け



第125図　第Ⅲ文化層20号礫群分布図

たらしく赤化していた。外３はＦ－８グリッド中央北側で、第８層のＹＬM層から出土した。礫は１割以下の破損礫で、重さは32ｇを計り、赤化が認められている。外４はＥ－８グリッド中央東側で確認され、第12層のＢＢ０層から出土した41ｇの２割程度の破損礫である。これも焼成を受けたらしく赤化していた。外５はＦ－８グリッド南東部に分布していた礫で、表面に一部火跳ねの痕跡があるが、ほぼ完形の礫である。重さは317gを計り、赤化していた。出土層位は第８層のＹＬM層である。外６はＥ－９グリッド中央東側で確認された２割程度の破損礫で、ＹＬM層とＹＬＬ層を分けているスコリア層のＹＬ－Ｓ２層（第９層）から出土した。重量は76ｇで、焼成を受けたらしく赤化していた。外７はＦ－10グリッド中央北側で出土した半欠品の礫で、第10層のＹＬＬ層から検出された。礫の重さは263gで、赤化していた。外８は欠番である。外９は、Ｆ－12グリッド中央北側の第８層のＹＬM層から出土した完形の礫で、重量は263gであった。礫は焼成を受けたらしく赤化していた。外10は外９と隣接して出土したもので、両者は50cm程の距離を隔てているにすぎないものである。外10は第８層のＹＬM層で検出された４割程度の破損礫で、その重さは157gを計る。これも赤化が認められている。外11はＤ－７グリッド中央部で確認された礫で、199gのものであった。これはＹＬM層とＹＬＬ層を分けるスコリア層の第９層のＹＬ－Ｓ２層から出土し、９割程度が遺存する破損礫であった。これにも赤化が認められ、焼成を受けているようであった。なお、これら礫群外で２点以下の単独に近い状態で出土した礫でも、石器ブロックの分布範囲の中に含まれていたもの（４点）や、その外縁部に分布していたもの（４点）が認められており、石器ブロックと礫群の分布範囲以外で単独で出土していたものは２点と極めて少ない状態であった。したがって、多くのブロックが礫数の多寡はあるものの礫群と共伴するように分布しているというあり方は、ブロックと礫群が極めて密接な関係にあったことが予想されるものと思われる。

（３）出土遺物

１）石　器

今回、山中城Ｅ遺跡で確認された旧石器時代の石器群は３枚の重層遺跡として捉えられ、この内の第Ⅲ文化層として認識された文化層は少量の尖頭器を保有するナイフ形石器石器群であった。石器群は30箇所のブロックに分布していた石器類と、ブロック外に分布していた６点の石器類の合計763点の石器類で構成されていたが、ブロックの中には発掘調査範囲外へブロック範囲が広がっている可能性のあるもの（例えば第11ブロック）があることや、調査範囲の中でブロック群の全てが調査されている可能性は低いことから、今回の調査で得られた石器類が本文化層を構成していた石器群の全てではないことが予測される状況を示していた。したがって、出土した石器類が本文化層の石器群の全てを網羅している可能性は低いことを念頭に置きながら、第Ⅲ文化層の内容を捉えていくことにしたい。

確認された石器類763点の内訳は、ナイフ形石器54点、尖頭器９点、掻器８点、削器８点、彫器７点、ノッチ４点、掻器＋彫器１点、ドリル１点、ピエス・エスキーユ１点、加工痕のある剥片10点、使用痕のある剥片56点、石刃・折石刃119点、石核17点、剥片・砕片468点で、前述したように少量の尖頭器を保有するナイフ形石器石器群で、石刃・折石刃を多量に保有していることと、掻器、削器、彫器、ノッチ等の器種をコンスタントに保有している石器群であった。以下では各器種の特徴を確認しながら、石器群全体の内容も把握できるように記述していくことにしたい。

ナイフ形石器（第126～129図１～54）

本文化層で確認されたナイフ形石器は54点で､石器群全体の中では約７％を占めているにすぎなかったが、器種として製作された石器類に限れば57.6％を示しており、本文化層の主体的な器種であったことが理解できるものと思われる。ブロック数を考えれば、それほど多くの点数が出土していた訳ではないが、多様な形状のナイフ形石器が確認されており、それらは第Ⅱ文化層のナイフ形石器と同様に、第Ⅰ群：二側縁加工のもの、第Ⅱ群：一側縁加工のもの、第Ⅲ群：欠損のため形状が不明のもの、に大別し、さらに、この中で大きさや形状によって細分したものである。以下ではそれぞれの類別の特徴を捉えていくことにしたい。

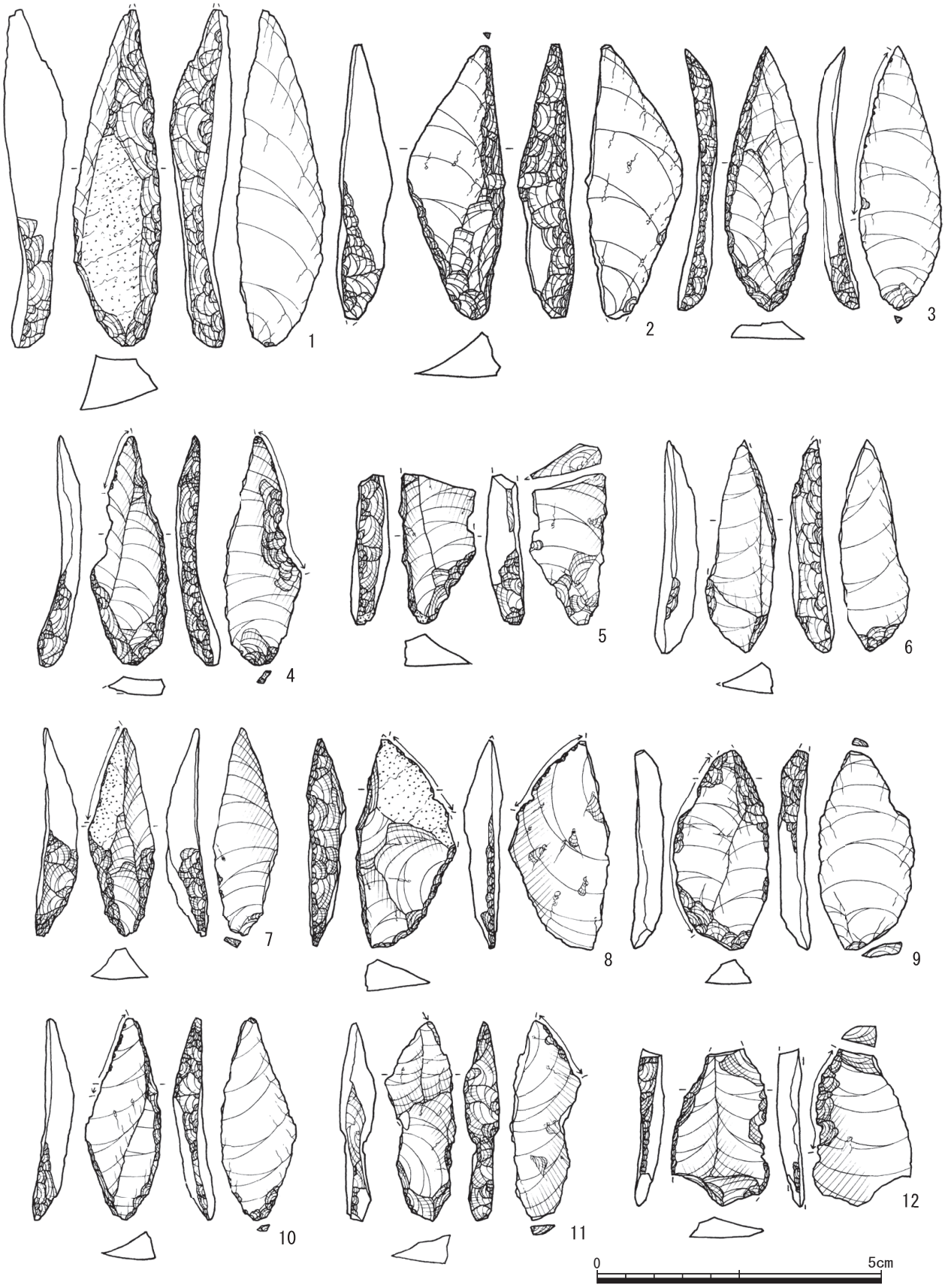
第Ⅰ群ａ類（第126図１）

大きさが５cm以上ある大形のナイフ形石器で、１点が確認された。先端を調査時に欠損するが、素材である厚手の石刃の形状を大きく改変して、器体整形されているものである。器体の整形にはブランティング加工が用いられ、素材末端側に先端部を製作しながら右側縁の形状も整えられている。左側縁の基部も、同様のブランティング加工によって調整されると同時に基部全体が整えられおり、必然的に素材打面が除去される状態に調整されている。ただ、ブランティング加工は全て主要剥離面側から施されていたが、その調整状態は荒いもので、基部などでは急斜で良好な側縁が形成されていたが、先端部付近では角度の小さい大雑把な側縁が製作されており、それほど丁寧な調整を施しているとは言えない状態であった。裏面では、基端に調整時の衝撃剥離のような微細な剥離が認められる他は未調整であり、素材石刃の主要剥離面がそのまま残っている。器体の中央部には石核の礫面が大きく残っていたが、ナイフ形石器の刃部を形成している剥離痕と、素材石刃の主要剥離面は同一方向の剥離で構成されており、素材として利用された石刃は一端に打面が設置された単設打面石核より剥離されたことが推定されるものと思われる。

第Ⅰ群ｂ類（第126図２～第127図16）

５cm以下で３cm以上の中形の大きさのものを、ｂ類とした。ただ、中には欠損のため３cm以下のものも存在している（第125図５・12）が、これらは欠損部を復元すればｂ類の大きさになると思われることから、本類に含めたものである。多くのものが鋭角で鋭い先端部が形成されていたが、やや鈍角で所謂「切出形石器」に近い先端部をもつもの（８・11）や、素材の鋭い末端をそのまま利用して先端部としているため、先端部の製作に関する調整を施していないもの（７）等が存在しており、形状には若干のバラエティが認められている。本類もａ類と同様に、素材の一方の側縁に調整を加えて先端部を作製し、もう一方の側縁の下半にも調整を施して基部が形成されているものであり、先端部を形成している側縁には全縁に調整を加えているものが大部分を占めていたが、中には素材の縁辺を一部残しているもの（14）や、先端部と基部を極めて限定的な調整だけで製作し、素材の側縁の多くが残っているもの（９）、もう一方の側縁には極めて簡単な調整を施しているだけで基部の整形を殆ど行っていないもの（６・11・16）、前述したように素材の特徴を利用して調整による先端部を作製していないもの（７）等があり、調整状態も一定したものでないことが窺えよう。これらの調整にもブランティング加工が用いられ、器体が製作されているものが殆どを占めていたが、中にはブランティング加工より鋭角な調整で先端部と基部が作製されているもの（９）があり、調整方法も限定的でなかったことが理解できるものと思われる。ブランティング加工は丁寧に主要剥離面側から施されているものが多かったが、中には荒く大雑把なブランティング調整で整形しているもの（５・11・16）や、剥離面側からもブランティング加工が施されているもの（２・６～７・10～11・13・15）があり、ブランティング加工も多様な方法で用いられていることが理解されるとともに、後者の剥離面と主要剥離面の両方向からブランティング加工を加えているものは、調整状態に精粗の違いはあるものの総じて急斜な直角に近い側縁が形成されており、この様な状態の側縁が意識されていたのかも知れない。そして、剥離面と主要剥離面双方からブランティング加工が加えられている部位は、先端部（２・10・13・15）と中央部（６・11）、基部（７）に認められていたが、先端部周辺に施されるものが多く基部に行われる例は少ない傾向にあることが分かる。これは機能部と考えられる先端部を、より丁寧に調整しようとしているものと考えられるとともに、入念な調整が先端部に対しては行われていたことが理解できるものと思われる。この様な先端部の整形に比べると基部の製作は大雑把なものが多く、丁寧に調整を施されているもの（３～４）は極めて少なく、基端に素材打面を残していたり（４）、縁辺を折り取ったような折断面で構成されているもの（７・９～11・13）や、素材の縁辺が残っているもの（５・16）、細かな剥離で素材の縁辺を取り除いただけのもの（８・14～15）等があり、基部には一定した形状がそれほど求められていなかったことが窺えるものと思われる。主要剥離面側に調整が認められるもの（３～７・９～10・14・16）があるが、その内の多くは数回程度の細かな調整が施されているだけで、調整意図を明確に推定することは難しい例が大半を占めていたが、中には素材の打瘤部を除去しようとしているもの（４）や、素材の反り（10）や肥厚した素材末端部（16）の除去か軽減を行ったと思われるものがあり、意図的に主要剥離面側に調整を行うこともあったことが理解されるものである。

これらには石刃を素材としているものが大部分を占めていたが、中には縦横の大きさに差がなく、方形に近い形状の剥片が素材となっているもの（８）や、縦長剥片素材と思われるもの（11）があり、素材を石刃に限定することなく加工が可能な剥片も素材として利用されていることが分かる。素材として利用されている石刃は、多くのもの（３～７・９～10・12～13・15～16）が剥離面と主要剥離面を同一方向の剥離で構成された単設打面石核より剥離されていることが理解されるが、石刃素材の14と剥片素材の８には主要剥離面とは180度剥離方向が違う剥離が認められており、両端に打面が設置された両設打面石核も保有していたこ

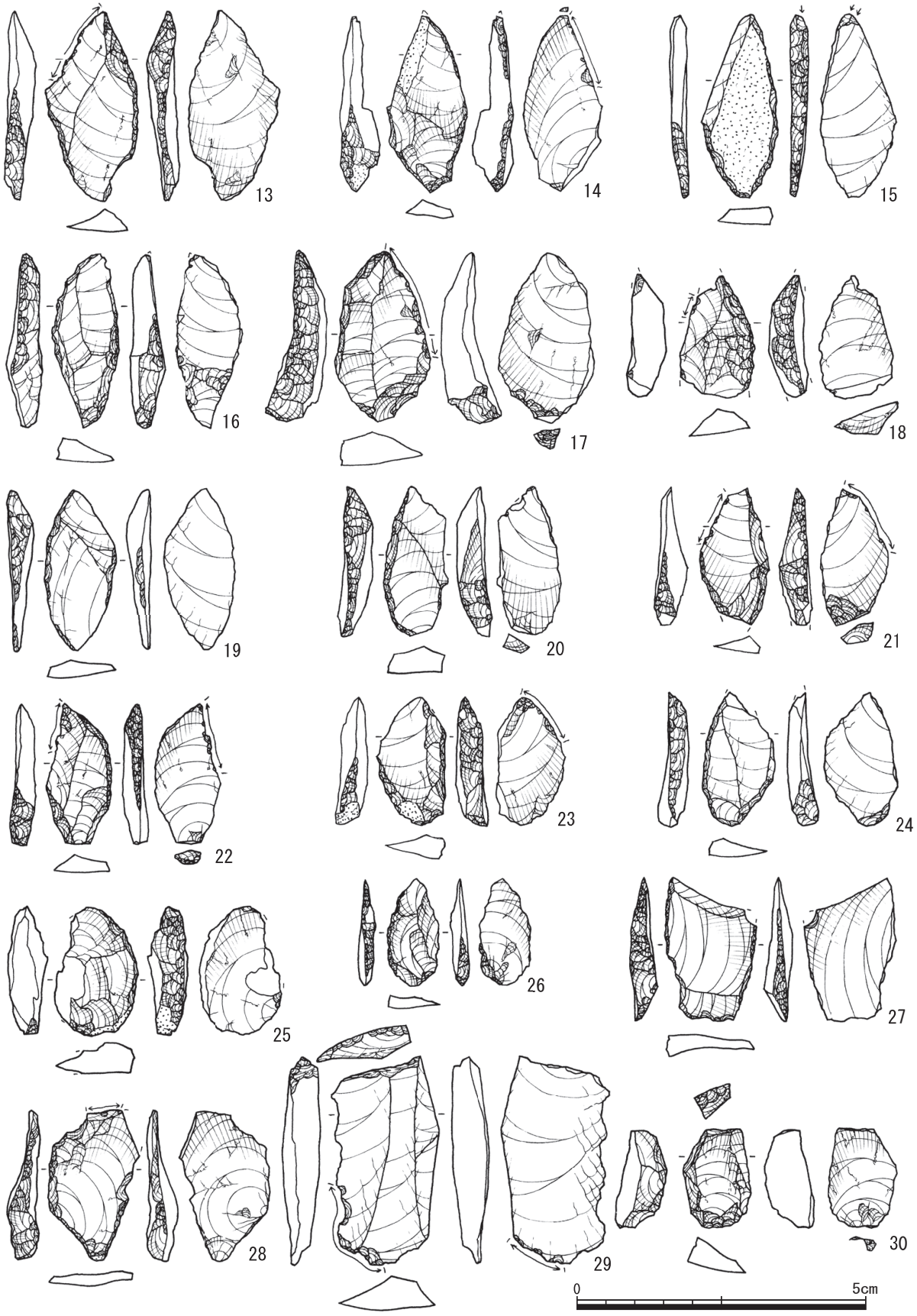


第126図　第Ⅲ文化層出土石器（１）

とが判断されるものと思われる。３～４・７～14の刃部には、使用痕と思われる微細な剥離が観察されており、何等かの使用によって刃こぼれが生じたものと推定されるものである。そして、この中には刃部を抉るように欠損してしまったもの（３・９・12）もあり、先端部以外でも使用による大きな欠損が生じることがあることが理解できるものと思われる。また、10～11・15には使用によって生じたと思われる衝撃剥離が先端部から主要剥離面側（15）やブランティング面（10～11・15）に向かって認められており、先端部には使用による大きな力が加わっていたことが判断できるものとなっている。

第Ⅰ群ｃ類（第127図17～図26）

小形の二側縁加工のナイフ形石器で、３cm以下の大きさのものである。10点が確認されたが、この中にも基部を欠損して全体的な大きさが不明のもの（18）も存在しているが、基部調整のあり方や先端部の形状から３cm以上の大きさである可能性は低いことから、本類に含めたものである。最も小形の26を除けば、本類の大部分のものはａ～ｂ類に比べても横幅に大きな相違は認められていないことから、多くのものが長さが減少した寸詰まりの形状を呈しており、必然的に刃部の角度は大きなものとなっている。本類も素材の一方の側縁に調整を加えて先端部が形成され、もう一方の側縁の下半に調整を施して基部が製作されているものである。ただ、この中には先端部の整形は十分に行われているものの、もう一方の側縁や基部の調整には素材の縁辺を取り除くような細かな剥離で部分的に行われているだけで、素材の縁辺が広範囲で残っているもの（19）や、先端部の製作と基部の調整を別の側縁で行い、基部の先端部側の側縁には素材の縁辺が残っているもので、素材打面もそのまま残されているもの（22）、22と一部が共通するかも知れないが、基端に素材の縁辺が残っており、未調整のもの（19・23・25～26）や、基端に折断面が残っており基部の全体に調整を施していないもの（20）等があり、調整状態は多様であることが理解されよう。調整には殆どブランティング加工が用いられていたが、荒い加工状態のものが多く、丁寧に調整されていたもの（22）は少ない傾向にあった。ブランティング加工の大部分は主要剥離面側から施されていたが、中には剥離面側からの調整が施されているもの（19～20・23～24・26）も認められており、場合によっては調整を二方向から施して器体整形が行われていたことが窺えよう。そして、これらの中にはブランティング加工と折断技法と併用して側縁を形成しているもの（19・23）や、ブランティングより角度の小さい調整によって整形されているもの（18・26）があり、ブランティング以外の調整方法もナイフ形石器の製作に利用していることが理解されよう。主要剥離面側への調整は、基部の厚さの軽減を行っているものと思われる17と21・24の３点以外は未調整であり、調整の認められた３点も積極的に器体を改変していくような調整ではないことから、ナイフ形石器の使用に際して主要剥離面側への調整は必要不可欠な作業ではなかったことが窺えるものと思われる。これらの製作に利用された素材は石刃と思われるもの（17～18・20～24）が多かったが、中には縦長剥片製のもの（19）や、横長剥片を素材としたもの（25～26）があり、素材の形状は限定されていなかったことが分かる。石刃素材のものの中には、剥離面と主要剥離面の剥離方向が同じもの（21～24）と、180度剥離方向の違う剥離が混ざっているもの（17～18・20）があり、これらの素材を剥離した石核には上設打面だけが設置された単設打面石核と、両端に打面が形成された両設打面石核があったことが判断できるものと思われる。17～18・21～23の刃部には、使用痕と考えられる微細な刃こぼれが認められており、何等かの作業に利用されていることが推定されよう。中でも23の主要剥離面側には､先端部からの衝撃剥離が認められており、使用頻度が高かったことが窺える状態である。



第127図　第Ⅲ文化層出土石器（２）

第Ⅰ群ｄ類（第127図27・28）

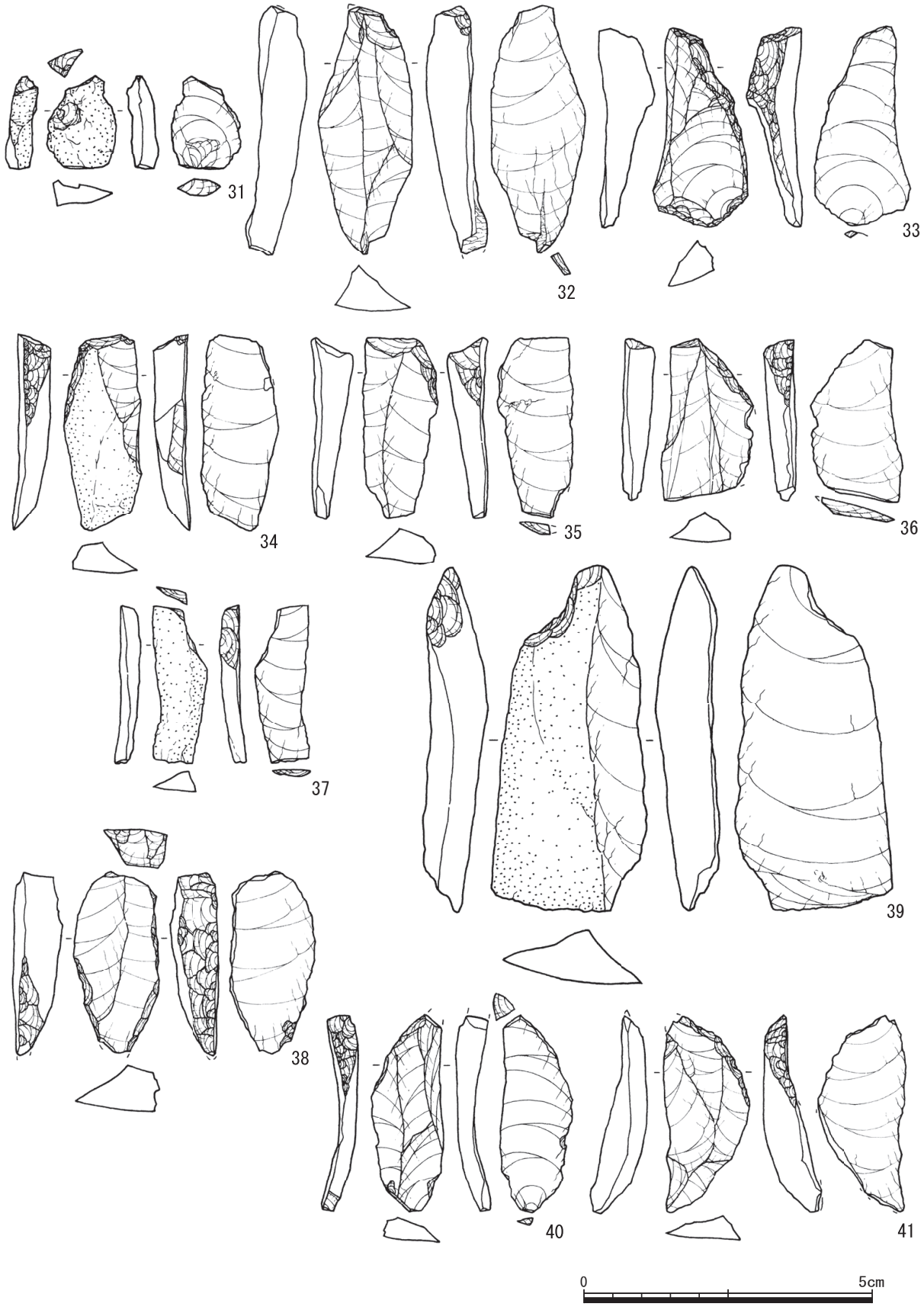
所謂「台形石器」に類似する形態のもので、器体の上部に刃部が形成されているものである。必然的に素材の打面部と末端部に調整を施して器体が製作されており、基端には素材の縁辺がそのまま残っている。調整剥離にはブランティング加工が用いられ、丁寧に直線的な側縁が作製されているもの（27）と、荒い凸凹した側縁が形成されているもの（28）があり、この内の28では基部をＶ字状に調整してあり、状態的には第Ⅰ群ａ～ｃ類のナイフ形石器に共通するあり方である。ブランティングは27の右側縁が主要剥離面からの調整に限られていたが、27の左側縁と28の両側縁では剥離面、主要剥離面双方からの調整が認められており、打撃方向を頻繁に入れ替えて製作されていることが窺えよう。２点とも主要剥離面には調整は施されておらず未調整であるが、27は素材剥片の打瘤部は殆ど取り去られているものの、28には素材剥片の打瘤部の大半が残っており、この形態のナイフ形石器の使用には打瘤部の存在は排除されるべき事項ではなかったことが推定されるものである。27は縦横の長さが余り違わない方形に近い形状の剥片、28には横長剥片が素材として利用されていたが、27の剥離面と主要剥離面の剥離痕は全て同一方向の剥離によって構成されており、この素材は石刃製作の過程の中で剥離された剥片であった可能性が高いものと思われる。２点とも刃部の一部を欠損していたが、28の刃部には使用によって生じたと思われる細かな剥離が観察される。

第Ⅱ群ａ類（第127図29～31）

素材剥片の一端を横切るような調整を施して先端部が形成されているもので、３点が確認されているが、この内の２点（30・31）は極めて小形であり、一側縁加工のナイフ形石器として機能できるかどうか不安のあるものである。29は石刃を素材とし、この素材の打面部を折断した後に細かな調整を加えて折断面が整えられているもので、第Ⅰ群の二側縁加工のナイフ形石器に比べれば極めて簡単な調整で製作されていることが分かる。30では石刃を、31は縦長剥片を素材とし、両者とも素材の末端部に数回の調整を施しただけで器体整形されているもので、先端を意図的に製作しているとは思えない形状のものである。調整は29・30が主要剥離面側から、31では剥離面側から施してあり、調整方向は一定していなかったことが理解されるものと思われる。この様に、本類は極めて簡単な調整で製作されていることが分かるとともに、器種としての形態は殆ど素材の形状とあり方によって決定されており、素材の形状が最も重要な製作条件であったことが窺える。そして、極めて簡単な調整で製作されていることから、素材となる剥片が存在していたならば直ぐに作ることが可能であり、30・31などはその場限りで製作されて残されたものなのかも知れない。なお、29の左側縁から末端にかけて、使用痕と思われる微細な剥離が観察できる。

第Ⅱ群ｂ類（第128図32～37）

先端部の形状はａ類と同様で、素材を横切るよう調整で製作されているものであるが、この調整面に連続するように素材の側縁にも調整を施して、接続部にはコーナーが形成されているものである。本類も比較的簡単な調整を施して整形されているもの（32・35・37）が多かったが、側縁側の調整がこれらに比べれば丁寧に加えられているもの（34・36）や、多くの荒い調整を施しているもの（33）が存在していた。確認された６点の内５点が、素材の打面側を除去するようにして先端部が形成されており、器体の大きさを十分考慮にいれて製作していることが窺えよう。この様な推定を補足するように、６点の内３点（35～37）が末端部を折断面で形成しており、これも大きさの修正を行ったものであることが想定できるものと思われる。調整はブランティング加工で行われ、大部分のものが主要剥離面側からの調整によって整形されていたが、33と37には剥離面側からの調整も認められており、調整方向は限定されていなかったことが理解されよう。上端



第128図　第Ⅲ文化層出土石器（３）

の先端を構成している剥離は、37が折断面で構成されているのに対し、それ以外のものは一回の大きな剥離で形成しているものが多く（32・34～36）認められており、先端が折断面で形成されることには何等かの不都合があったことが窺える。なお、32と34・36は、この先端の剥離を行った後、側縁の調整を行っているもので、35が側縁の調整の後で先端の整形剥離が行われていた。蛇足ながら33は複数の剥離によって先端が形成されたものである。

これらの素材は37が縦長剥片の他は石刃で、その多くのもの（33～36）が剥離面と主要剥離面を構成する剥離痕が同一方向の剥離によって形成されていることから、単設打面石核から剥離されたことが想定されるものであった。唯一32には、主要剥離面と剥離方向が 180度違う剥離面が確認されており、上下に打面が設置された両設打面石核から剥離されたものであることが推定される例である。この様に本類の素材の大部分には、組織的な工程から目的的に生産された石刃が利用されていることが理解されるとともに、本類の形態的特徴から素材としての石刃とは極めて密接な関係にある形態であることが想像できるものと思われる。

第Ⅱ群ｃ類（第128図38）

１点が確認されたもので、調整のあり方からは第Ⅰ群に含まれるべきものと考えられる例であるが、先端の形状が第Ⅰ群と言うよりも第Ⅱ群ａ～ｂ類に類似していることから、第Ⅱ群として理解したものである。したがって、先端部の形状は第Ⅱ群で、中央部から基部にかけては第Ⅰ群の形態を示しており、両群の特徴を折衷したものとなっている。調整には比較的丁寧にブランティング加工が施され、厚手の素材に対しても急斜な状態の右側面と先端が形成されていたが、これらに比べると左側面の調整は荒いもので、素材の鋭い縁辺を取り除く程度の剥離が行われていただけであった。これらのブランティングの殆どは主要剥離面側から施されていたが、器体中央部の最も厚手の部分には剥離面側から数回のブランティングが加えられていた。なお、中央部と先端部の調整加工の前後関係は明確には捉えられないが、第Ⅱ群が基部には殆ど調整を行う必要のない形態のものであることから、38は先端部を欠損した第Ⅰ群のナイフ形石器を再加工して、新たな先端を形成したものであることが推定できるものと思われる。38の剥離面と主要剥離面は上設打面からの剥離痕で占められており、素材には石刃が利用されていることが判断される。基端を欠損するが、これは風化によって石材の表面が剥落したものである。

第Ⅱ群ｄ類（第128図39～第129図43）

素材の長軸に対して斜めに調整を施し、上端に先端部を製作しているもので、５点が確認された。今まで見てきた第Ⅱ群ａ～ｃ類が明確な先端部を作製していなかったのに対し、角度が大きくそれほど鋭いものではないが明瞭な先端部が形成されているものである。ただ、先端の形状は一律ではなく、39のようにあまり鋭い先端が作製されていないものや、これとは逆に先端だけを尖らせているもの（42）等が存在しており、形態にはバラエティがあるようである。そして、40は調査以前に、41は調査時に先端を欠損し、43は風化によって先端が剥落しているものであるが、この３点も角度の小さな先端が製作されていたと思われる例である。調整にはブランティング加工が用いられ、急斜で丁寧な調整が施されているもの（40）は少なく、先端だけを入念に調整しているもの（42）や、荒い調整で整形されているもの（39・41・43）の方が主体的であったことが分かる。ブランティング加工は殆どのものは主要剥離面側から施されていたが、40では先端部分が剥離面側からの調整で占められており、入念に急斜な先端が製作されたことを窺わせる例である。43は基部を調査時に欠損するため不明であるが、これ以外の４点には基部や主要剥離面側に調整は施されておらず、本類がａ～ｂ類と同じように素材の形状と先端部の作製だけで器体を構成していることが明らかで、第Ⅰ群

のナイフ形石器に比べれば簡単に製作できるものであったことが理解できるものである。39は幅広で大形の石刃を素材とした例で、これ以外の４点は比較的小形の石刃を素材に利用して器体の製作が行われているが、この中には素材の打面側に先端部を作製しているもの（39・41・42）と、これとは逆に素材の末端側に先端部を作製しているもの（40・43）があり、素材石刃の利用方法は限定されていなかったことが窺えるものと思われる。素材となった石刃の剥離面と主要剥離面には、主要剥離面と同一方向の剥離痕で占められていたもの（39・40・42・43）が多かったが、41には主要剥離面とは180度違う剥離痕が確認されていることから、素材となった石刃の生産には上設打面が形成された単設打面石核と両端に打面を持つ両設打面石核が用意され、これらの石核から組織的な工程によって剥離されたものであることが判断されるものと思われる。42の刃部には、使用痕と考えられる刃こぼれが観察できる。

第Ⅱ群ｅ類（第129図44～47）

素材の一側縁の大部分に調整を施して、器体と先端部を作製しているもので４点が確認された。ただ、中には素材を折断したか、あるいは欠損したものを利用し、この折断面に簡単な調整を加えて先端部を形成したもの（44）があり、比較的丁寧な調整で製作されていた他の３点（45～47）とは大きな相違が認められている。比較的大形の47以外は２cm前後の小形のもので占められており、本類には小形のものが求められていた可能性が高いことが想像される。調整にはブランティング加工が用いられ、簡単な調整で製作されていた44は剥離面側からの剥離で、46では主要剥離面側からの調整に限られていたが、45と47には剥離面、主要剥離面双方からの剥離が施されており、ブランティング面をより急斜に加工しようとした意図が窺えるものである。そして、第Ⅱ群ａ～ｂ・ｄ～ｅ類に総じて言えることは、調整範囲が広範囲になるに従い丁寧さが増しており、それは先端部の作製と先端の角度と密接な関係にあることが窺えるものである。剥片を素材としている44以外は石刃を素材として製作されているもの（45～47）で、これらの素材に利用されていた石刃は剥離面と主要剥離面を構成している剥離痕が全て同一方向の剥離で形成されていることから、単設打面石核から剥離された石刃が素材として利用されていることが判断できるものと思われる。なお、これらの石核には調整打面が形成されていたもの（47）と、平坦打面の可能性の高いもの（45）があることが基端に残されている打面から推察することができる。44と47の刃部には、使用痕と思われる微細な刃こぼれが観察される。

第Ⅲ群ａ類（第129図48～51）

欠損のため形態の不明なもので、先端部片を一括した。これらには荒い調整の施されているもの（48・49）や、簡単な調整の施されているもの（48・51）があり、49の先端などは素材を折断したような剥離で形成されているもので、未製品の可能性もあるものである。ただ、丁寧な先端部が形成されているもの（50）や、使用痕と思われる微細な剥離が認められるもの（51）も存在しており、49を除けば使用時に欠損した可能性の高いものである。調整には細かなブランティング加工が主要剥離面側から施されていたものが多かったが、前述した未製品の可能性のある49には剥離面側からの剥離も認められており、調整が進行している時点では剥離方向を限定していなかった可能性が高いものと思われる。４点とも素材は石刃と思われ、ともに剥離面は主要剥離面と同一方向の剥離で占められており、一定した剥片剥離工程の中から生産された定形剥片（石刃）を素材に利用していることが理解されるものと思われる。なお、これらにも素材打面側を先端部に加工したもの（49・50）と、素材末端側を先端部としたもの（48・51）があり、素材の利用方法は限定されていなかったことが分かる。50の先端は衝撃剥離と思われる剥離で欠損しており、これも使用痕として捉えることができるものと考えている。

第Ⅲ群ｂ類（第129図52～54）

両端を欠損し、中央部だけが確認されたものである。ただ、53の先端部は調査時に欠損したもので、54は製作時に欠損した可能性の高いものであり、確実にナイフ形石器の完成後に両端が欠損したと考えられるものは52だけであった。調整は主要剥離面側から施されたブランティングで、未製品の可能性の高い54には荒いブランティングが、52と53では細かなブランティングによって器体整形が行われている。ただ、53はやや角度の小さいブランティングが行われており、これも未製品の可能性があるのかも知れない。52～54の剥離面を構成している剥離痕は、全て主要剥離面と同じ剥離方向で占められており、これらの素材として利用されていたのは、組織的な剥片剥離工程より生産された石刃であったことが理解されるものである。

尖頭器（第129図55～第130図62）

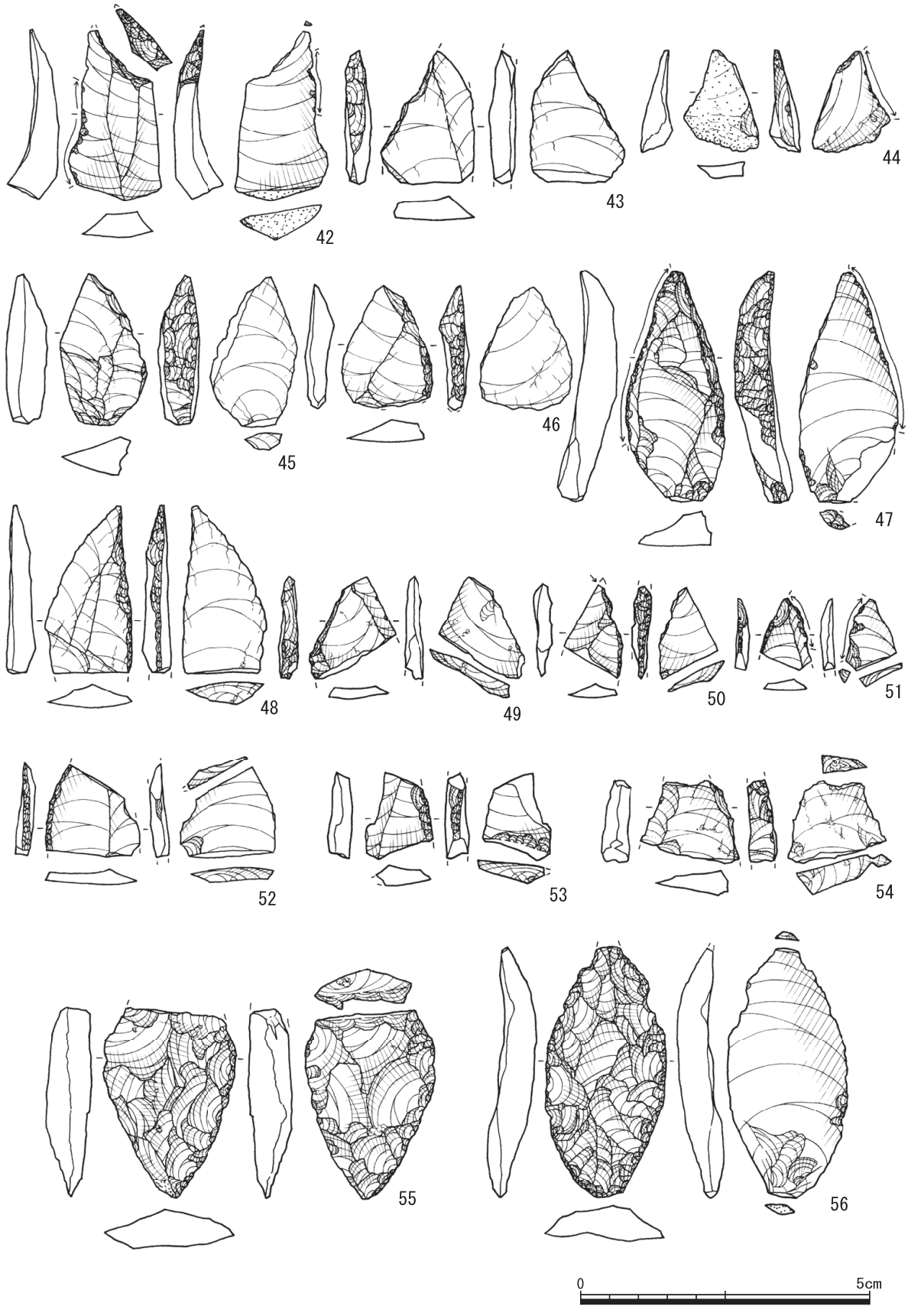
後述する尖頭器未製品を含めて、９点が確認された。これらにはａ類：両面加工のもの、ｂ類：片面加工のもの、ｃ類：半両面加工のもの、が存在していたが、ｃ類の半両面加工のものの中には周縁加工に近く、両者の折衷したような形状のものが認められており、出土した尖頭器の形態は多様である。

ａ類（第129図55）

両面加工の尖頭器で１点が検出された。先端部を欠損しているが、基部の両側縁はやや直線的で、器体の中央部から先端部に向かって強く湾曲しており、形態的には菱形に近いやや幅広の木葉形を呈する器体が作製されていたようである。器体の製作は、荒い調整で両面を剥離してから縁辺に細かな調整を施して整形しているが、この細かな調整は表裏面とも右側縁側だけに施されており、整形剥離を片面側だけで行っていることが明らかで、やや簡略化した調整となっている。これを裏付けるように、右側縁の縁辺は大きく波打っている状態で、直線的な縁辺を製作するまでには至っていないことが右側面図から窺うことができる。なお、器体の両面は左右の縁辺からの調整剥離で覆われており、素材剥片の剥離痕と思われる剥離は確認することができなかった。したがって、55の素材となったものが、どの様な形状のものであったかは推定することはできなかった。

ｂ類（第129図56～第130図58）

片面加工の尖頭器で３点が検出された。56と58の表面には、一部ではあるが素材剥片の剥離痕が認められるものの、57の表面はすべて調整剥離で覆われており、入念な調整が加えられていることが窺えるものである。形態は小形の木葉形を呈し、ほぼ左右対称形に整形されており、比較的丁寧な調整が施されている。ただ、56では基部の側縁部は細かな調整で丁寧に調整されているのに比べ、先端部の縁辺には凹凸があり細かな調整も部分的に施されている状態であり、ひとつの器体の中でも部位によって調整状態が違うものが認められている。58も同様で、先端部は比較的丁寧に調整されていたが、基部や基端は大雑把な剥離を加えた後に部分的には細かな剥離で整形が行われているものの、基端や基部の左側縁などは細かな剥離は加えられることなく、調整が終了されているものである。この様な両者に比べると57は、器体のほぼ全縁に細かな剥離を施して調整されており、両側縁の凸凹を軽減しながら直線に近い縁辺を作製していたことが窺える。58は横長剥片を、56・57は縦長剥片か石刃が素材として利用されていたことが推定されるが、両側縁からの多くの調整が施されていることを考えれば、幅広の素材が用意されていたことが想像できるものと思われる。なお、56と57の基端には、自然面（56）と調整打面（57）で構成される素材剥片の打面が残っており、基端の調整はあまり入念に行われなかったことが窺えるものである。



第129図　第Ⅲ文化層出土石器（４）

Ｃ類（第130図59～62）

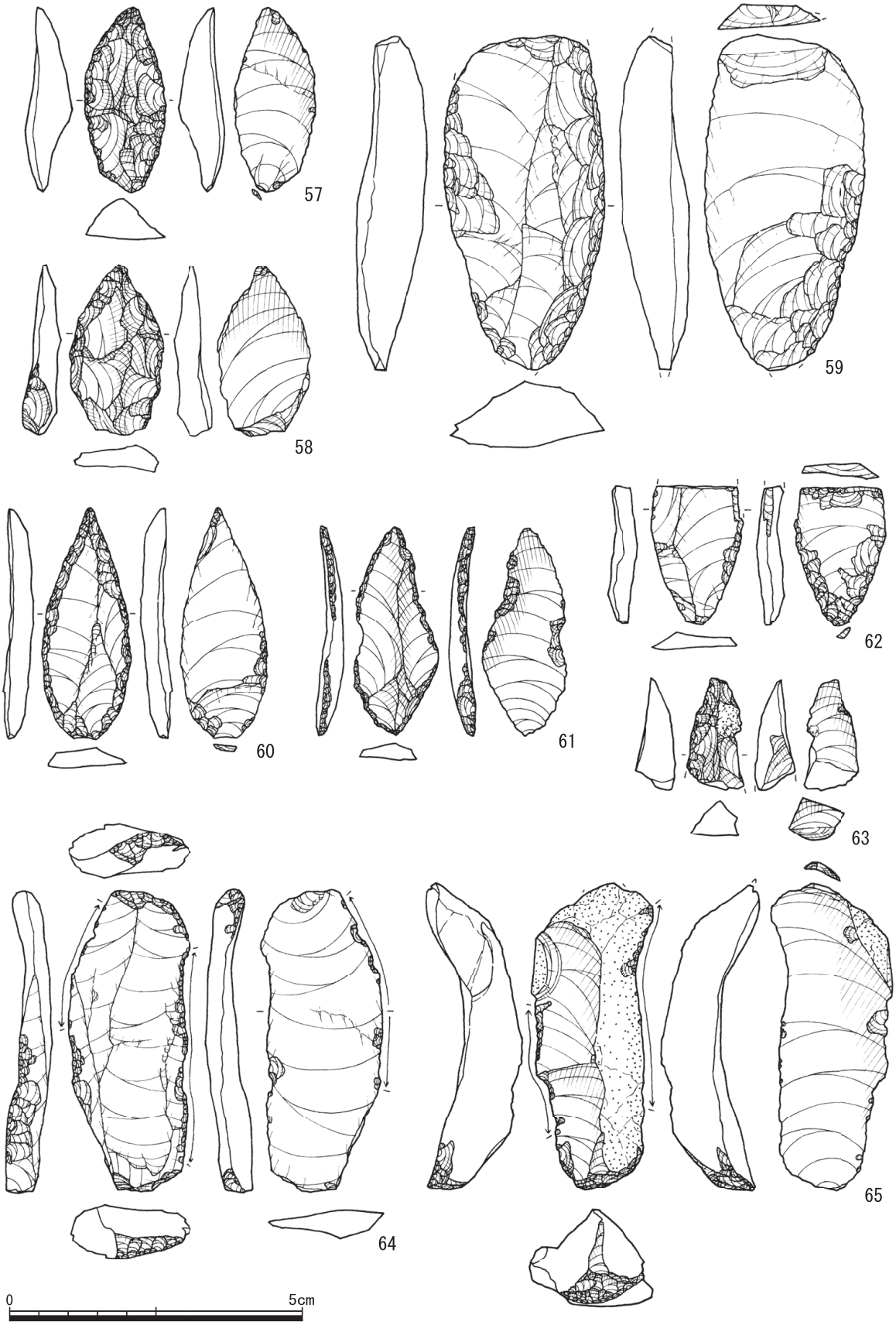
所謂「半両面加工」の尖頭器が該当するが、前述したように周縁加工のものに裏面調整を加えているもの（60・61）があり、形態的には多様なものである。59は厚手幅広の石刃を素材とし、両側縁から調整を施して器体整形されているもので、ほぼ左右対称な状態に調整されている。調整は比較的厚手の右側縁側に集中的に施され、素材を大きく改変していることが推定できるが、これに対して左側縁の基部側では主要剥離面側に調整を施し、素材の打瘤部の除去とともに正面中央部の剥離で左側縁の縁辺を直線的に調整しているようであり、側面から見て左右の縁辺が直線に近い状態になるように、調整の仕方や頻度に変化を持たせて整形していたことが理解できるものと思われる。先端部は調査前に欠損していたが、基端は風化による剥落で欠損したものである。60・61は石刃、或いは縦長剥片を素材とし、ほぼ全縁に細かな調整を施しながら先端部と基部を形成しているもので、60などは左右対称な状態に丁寧に整形されていたが、61では素材の形状に沿って調整を施しているようで、器体のプロポーションは凹凸が著しく整った状態には整形されていないものである。さらに、61に施されていた調整は、通常ではナイフ形石器の整形に利用されるブランティング加工に類似した急斜な調整であり、一般的な尖頭器の調整状態とは相違のあるものであった。60の主要剥離面側の調整は先端部と基部に認められているが、基部の調整はナイフ形石器の基部調整で度々認められる素材の打瘤部の除去を目的にした調整と考えられ、先端部の調整とともに側縁の縁辺を直線的にするために行われた調整であるものと思われる。これに対して61の主要剥離面側に認められる調整は、器体の中央部に調整が加えられているものであるが、この剥離によって側縁に凹みが生じてしまっており、尖頭器の側縁の調整としては不必要な調整と思われ、調整目的を推察することのできない調整であった。62も石刃を素材に利用した半両面加工の尖頭器の基部片であるが、調整の殆どは裏面の主要剥離面側に認められ、正面には右側縁側に部分的に認められただけであった。裏面に認められた剥離はやや荒い調整ではあったが、基部を左右対称の状態に整形しており、器体整形は完成されていた可能性が高いものと思われる。基端には素材打面が一部残っている。なお、先端部の欠損に伴って、裏面の上端と右側縁に沿って衝撃剥離が生じており、62が何等かの作業に使用されたことが窺えるものである。また、この衝撃剥離の一部を切るように裏面の右側縁から数回の剥離が加えられているが、その剥離目的は不明のものである。

尖頭器未製品（第130図63）

63は先端部片で、片面加工のものである。調整の殆どは左側縁側から施され、右側縁からは数回の調整が認められるだけであり、いまだに鋭い先端は作製されていない状態であることから、未製品として判断したものである。ただ、右側縁側に十分な調整を行う前にも関わらず、一般的に認められる尖頭器の先端部に比べると幅の狭い先端が形成されており、これ以上調整を進めるには強度が足りなかった可能性があるものと思われる。したがって、63の先端部は調整を進めていく過程で欠損してしまった可能性が高いものと想像されるが、63と同一個体別資料に分類されたものは合計４点と少ないことから、調査範囲内でこの個体に対しての尖頭器製作作業は行われなかったことが理解されるとともに、いずれかの場所で剥離されたものを持ち込んだものか、或いは未製品の状態で遺跡内に持ち込まれ、確認されたブロックで数回程度の簡単な剥離を施した時に欠損し、それが残ったのかも知れない。

掻　器（第130図64～第132図71）

８点が確認され、それらの殆どが所謂「先刃式掻器」と呼称される素材の一端に、刃部が作製されているものであった。ただ、中には素材の両端に刃部が形成されているもの（64）や、寸詰まりの素材の一端に刃

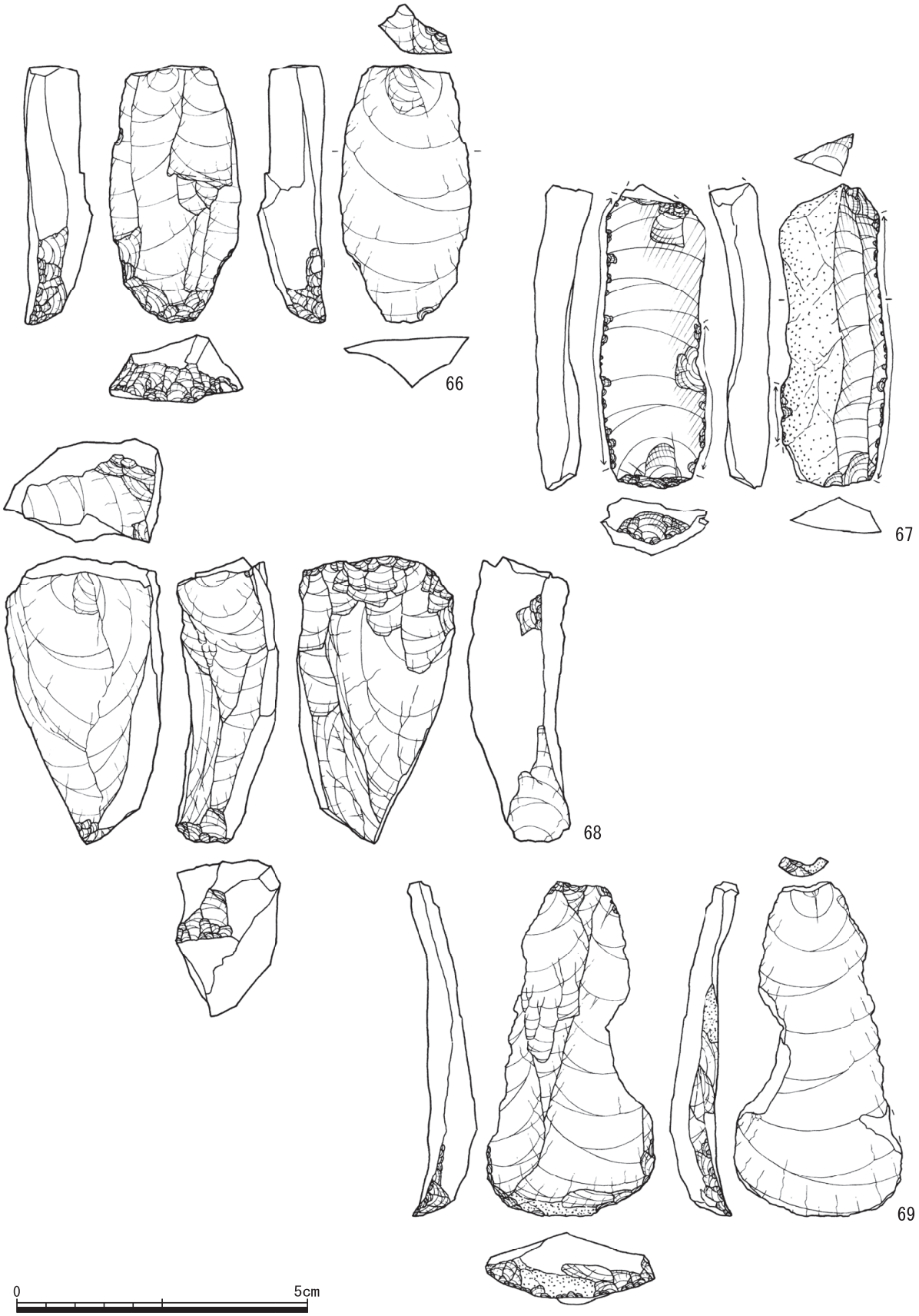


第130図　第Ⅲ文化層出土石器（５）

部が作製されているもの（71）、縦長剥片を素材とし、その末端に刃部が形成されているもの（68）等があり、刃部が末端に作製されていることに相違はないが、素材の形状には幾らかの許容範囲があったことが窺えるものである。

64は石刃を素材とし、その両端に主要剥離面側から調整を施して刃部を作製しているものであり、必然的に素材の打面部は刃部の作製のために取り除かれている状態である。刃部はそれほど広範囲なものではなかったが、強靭な刃部が丁寧に製作されていることから、あまり幅広な刃部は必要なかったことと、力を充分に刃部に伝えるには丁度良い刃幅であったことが、推定できるものと思われる。なお、左側縁の下部に急斜な調整が加えられているが、下端の刃部に関係する調整か、或いは削器を併用しようと調整を施したものと考えられるものの、現状では下端の刃部とはとぎれた調整であったり、削器の刃部とは角度が違うため調整目的を推察することができない剥離である。また、両側縁の縁辺には、使用痕と考えられる細かな剥離が観察できる。そして、両端の刃部には、使用による潰れが認められている。65も素材の石刃の打面側に刃部を製作した掻器で、必然的に素材打面は除去されている。刃部はやや荒い調整を主要剥離面側から施し、強靭な刃部が形成されていたが、刃部の範囲は両側縁に多少かかる状態に延長されており、64に比べれば広範囲な刃部が形成されていた。ただ、両者の刃幅には大差がなく、ほぼ同程度の機能面を持つ器種が製作されていることが窺えよう。65の両側縁にも微細な剥離が認められており、使用によって生じた使用痕と思われる。66も石刃を素材とし、これの末端側に刃部を形成しているものである。刃部の調整は荒い剥離で主要剥離面側から行われていたが、刃部を舌状の形状に整形しているとともに、調整を両側縁に一部延長することによって刃幅を少し絞っている様子が看取される。この様な推定が妥当であるならば、本例では素材の幅より狭い刃幅を欲していたことが推定できるものと思われる。上端には素材の打面が残っており、刃部の製作に関する調整以外は未調整である。67は素材の打面側に刃部が作製されている掻器であるが、今まで見てきたものが主要剥離面側から調整を施して刃部が製作されていたのに対し、本例は剥離面側から調整を加え主要剥離面側に刃部が形成されているものである。刃部は素材の打面を取り除いた程度の小範囲で作製されており、両側縁に延長することなく端部だけに調整が施されていた。本例は素材自体の最大幅が狭く、前述してきたような狭い刃幅に調整する必要がなかったものと考えられることから、両側縁に調整が及ばなかったものと思われる。素材に利用されているのは石刃で、末端（図では上端）の一部を欠損している。また、両側縁には使用痕と思われる微細な剥離が広範囲に認められている。

68は縦長剥片の末端に、掻器の刃部が作製されているものである。刃部は、素材の下設打面から剥離された右側面（図では裏面）を打面として施されており、左側面（図では正面）に作製されている。したがって、図の左側面が素材の主要剥離面であり、やや変則な状態で刃部が製作されているものである。刃部は比較的簡単な調整で作製されているが、素材の側縁面に刃部を形成させている構造的な特色から極めて強靭な刃部が作出されており、特徴的な器体となっている。この様な構造的な特徴からか、本例も刃幅の狭い器体が製作されており、前述してきた64～67と共通する条件が68の器体に存在していたことが推定されるものである。正面の右側縁（図では裏面）に数回の剥離が認められるが、調整目的は不明である。69～71は64～67に比べると簡単な調整で刃部が製作されているもので、素材の形状を大きく改変しているようなものは少ない例である。69は素材の末端に刃部が作製されているものであるが、刃部の調整は両側縁から末端にかけてのコーナー部に集中しており、素材の下縁には調整剥離と言うよりも使用による刃こぼれと考えられる細かな剥離が認められるだけであった。そして、64～68のような刃幅の狭い器体を製作することなく、素材の形状に沿った刃部が作製されており、本文化層の掻器には数種類の大きさの刃部が求められていたことが想像できるものである。上端には素材打面が残り、掻器としての刃部の作製以外は未調整である。石刃を素材としたも



第131図　第Ⅲ文化層出土石器（６）

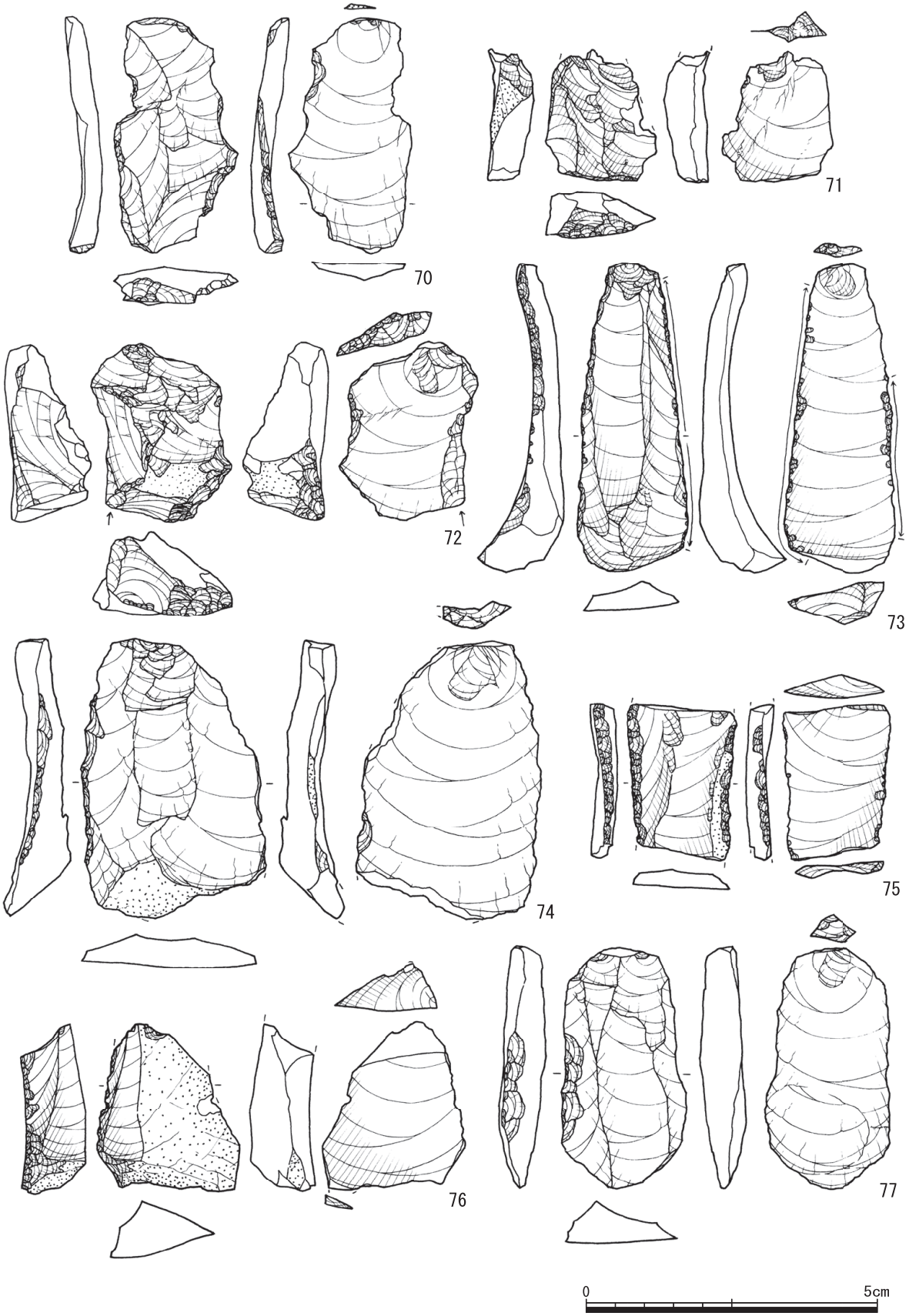
のである。70も石刃を素材とし、簡単な調整で刃部が作製されているものである。刃部は石刃の末端を折断し、この折断面の左側に数回の調整を施して作製されており、刃部を整えているような調整は認められないものである。ただ、右側縁では荒い剥離で素材の鋭い縁辺を取り除くような調整が施されており、本例も刃幅を狭くしようとした意図があったのかも知れない。そして、この右側縁と刃部の調整は極めて大雑把なものであり、器体や機能部が整えられているような様子が認められないことから、未製品の可能性もあるものである。71は、いままで見てきた64～70に比べると寸詰まりな形状のものであり、素材の末端に調整を加えて刃部が形成されていた。素材末端は刃部の調整で殆ど改変されていたが、調整面の一部に折断面が残っていることから、刃部の調整を行う前に素材末端を折り取るような加工が施されていたことが推定できるものである。そして、この折断面を改変するように簡単な調整を加えて刃部が作製されていたが、その刃部は末端部に直線的に作製されており、両側縁に延長されるようなことはなかった。なお、素材の打面部はこの素材の剥離時に弾け飛んだらしく、欠損面には大きな気泡が認められている。前に触れたように素材の末端を折断して掻器の素材として利用していることや、打面部が欠損していることから素材の大きさや形状を推定することは不可能であることから、素材を明確に捉えることは難しい状態である。しかしながら、正面と裏面を構成している剥離痕は同一方向の剥離と 180度違う剥離で占められていることから、石刃を素材としている可能性があるものと思われる。

掻器＋彫器（第132図72）

ひとつの器体の中に、複数の器種の特徴を持つ加工が施されているものである。72は末端部に掻器の刃部が、左側縁に沿って彫器の彫刀面が形成されているもので、彫刀面の作出は掻器の刃部の左端を打面として行われており、相互に補完するような関係が認められている。素材となっているのは末端が肥厚している縦長剥片で、この素材の末端から右側縁にかけて調整を施して掻器の刃部が製作されている。この調整は素材の末端部では比較的大きな剥離で形成されていたが､右側縁にかけてはやや荒い調整を階段状に施しており、調整としてはあまり丁寧とは言えない状態であった。しかし、刃部の縁辺の潰れは著しく、頻繁に使用されていたことが窺える状況を示していた。彫刀面の作出は、この様な掻器の刃部を利用して行われているが、この彫刀面の下端には数回の細かな剥離が認められており､彫器の使用に際して生じた使用痕かも知れない。

削　器（第132図73～第133図80）

８点が検出されたが、この中には素材の側縁に細かな剥離で刃部が形成されているもの（73～76）、荒い剥離で大雑把に刃部が形成されているもの（77・78）、多くの剥離で大規模な調整が施されているが調整の多くが階段状剥離となってしまっているもの（79）、両側縁に荒い調整が施されているもの（80）等の別があり、形態的には多様な状況を見せている。73～76は石刃を素材として利用し、その両側縁（75）か、左側縁（73・74・76）に調整を施して刃部を形成しているものである。刃部の調整は比較的細かな剥離で急斜な状態に整形されているものが多く、しかも細かな剥離が濃密に切り合っている状況を見せており（73・75・76）、使用頻度が高かったことを推定できる状況にあった。この推定を裏付けるように、73・75・76の刃部には使用によると考えられる潰れが顕著に認められている。なお､75は両端､76は打面側を欠損しているが､これが意図的に器体を小形にしたものか、あるいは使用時に欠損したものかの判断はできなかったが、少なくともこれらの大きさでは指先での使用は可能であるものの､手全体での使用は不可能と思われることから、あまり力強い作業には使われなかったことが想像できるものと思われる。77・78は素材の石刃に対して大雑把な調整を加えて刃部が作製されているものであるが､その刃部は前述した73～76に比べると剥離が大きく、



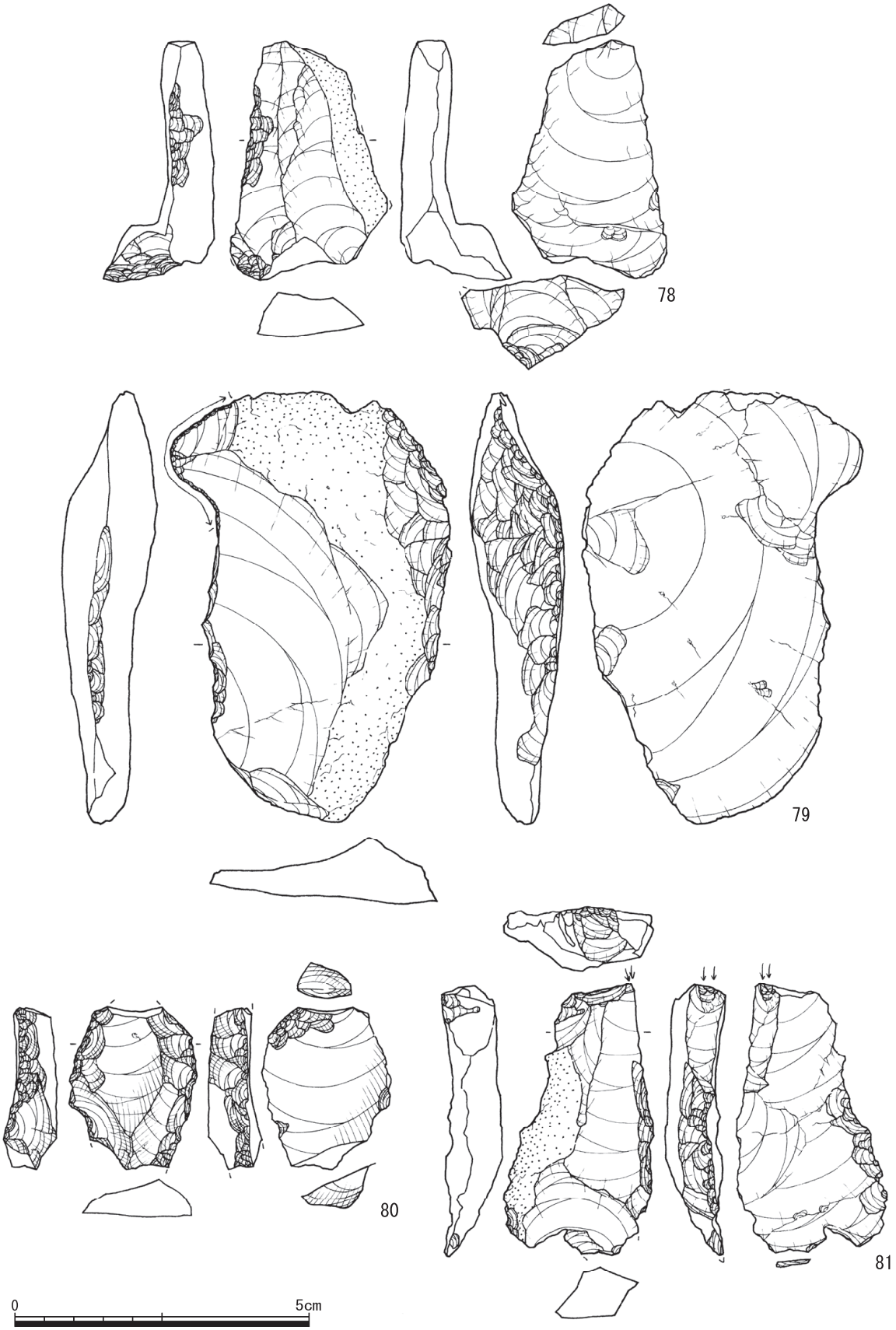
第132図　第Ⅲ文化層出土石器（７）

しかも調整の剥離数は極めて少ないもので、簡単な調整で製作された可能性の高いものである。したがって、この様な形状の削器は、その場限りで使用するために急遽作製された可能性があるものと考えられることから、石器の中には何等かの欠損をすることで廃棄される以外にも、使い捨て感覚で製作されたものも存在していたのかも知れない。78の正面には下設打面からの剥離が認められると共に、末端には下設打面の一部が取り込まれて剥離されている。79は大形厚手の横長剥片を素材とし、その打面部に多くの調整を施して刃部が形成されているものであるが、大きな調整の殆どが素材の中央部に届いていなかったり、その後の調整も階段状剥離となっているものが多く、良好な刃部が形成されているとは言えない状態のものである。刃部の縁辺にも使用による潰れ等が顕著に認められるような状況にはなく、荒い凹凸のある縁辺が形成されている状態であるため、未製品の可能性もあるものと思われる。なお、素材末端（図では左側縁）にも荒い剥離が認められるが、その調整目的は不明なものである。そして、この剥離の上部に存在している舌状に突出した縁辺に、使用によると思われる細かな剥離が密集して認められるとともに、縁辺には使用によると思われる光沢が顕著に認められており、削器以外にも（掻器か？）使用されていることが理解されるものと思われる。80は両側縁に大雑把な剥離が施されているもので、両端を欠損する。調整の中で、左側縁下端や右側縁上端に施された剥離は素材の形状を大きく変えようとしている調整であり、いままで見てきた73～79では施されることのない調整であった。このような調整の特徴から、80は両側縁に調整を加えながら素材の形状を改変して製作される、尖頭器等の器種の欠損品を削器として転用したものと考えることができるものと思われる。そして、両端の欠損後は両側縁に比較的急斜な状態の小さな剥離を施して、刃部が作製されているものである。なお、裏面の調整は削器の製作とは関係のない剥離と思われることから、前段階の尖頭器等の製作に関連した調整として捉えることができるものと思われる。

彫　器（第133図81～第134図86）

後述する彫器の未製品と考えられるもの（87）を含めて、７点が確認された。これらの多くが所謂「小坂型」彫器（高橋　1963）の範疇に含まれる形状のものであり、当該期において定形化した彫器の保有を窺わせる良好な資料となるものである。

81はやや幅広の石刃を素材とし、その素材の打面部を荒い調整によって削除して彫刃面作出のための打面を作製しているもので、彫刃面はこの調整面を打面として右側縁に沿った状態で形成されていた。彫刃面が作製された右側縁では、彫刃面作出前に素材の縁辺を取り除くような荒い調整が施されていたが、彫刃面はこの調整面の一部を壊すような状態で作製されていた。なお、左側縁にも右側縁と同じような荒い調整が主要剥離面側に認められており、左側縁側にも彫刃面を作出しようとしたものなのかも知れない。83はやや小形の彫器で、これも素材打面部を抉り取るように内湾した調整を施し、この調整面を打面として右側縁に沿って数条の彫刃面が作製されているものである。ただ、前述した81とは異なるのは、彫刃面の下側に存在していた調整剥離が施されていないことであり、彫刃面の作出に関しては大きな相違はないものの、それ以外の調整には多様性があるようである。なお、裏面の右側縁下部に荒い調整が施されているが、素材の幅を減少させようとしたものか、或いは素材の縁辺を除去したものと考えられるものである。また、彫刃面作出によって形成された右側縁には、使用で生じたと思われる微細な剥離が顕著に認められ、縁辺には光沢も確認することができる。以上の２点が彫刃面を一箇所で作製していたものであったが、82・84・85は複数の側縁か、複数の方向から彫刃面が作製されているものである。82も幅広厚手の石刃を素材とし、その左側縁側に上下二方向からの彫刃面が作製されている例である。彫刃面作出のための打面の作製は、上端では現在の上方向からの彫刃面の上部を打面として施されていたが、下端では彫刃面側からの調整と裏面の主要剥離面側

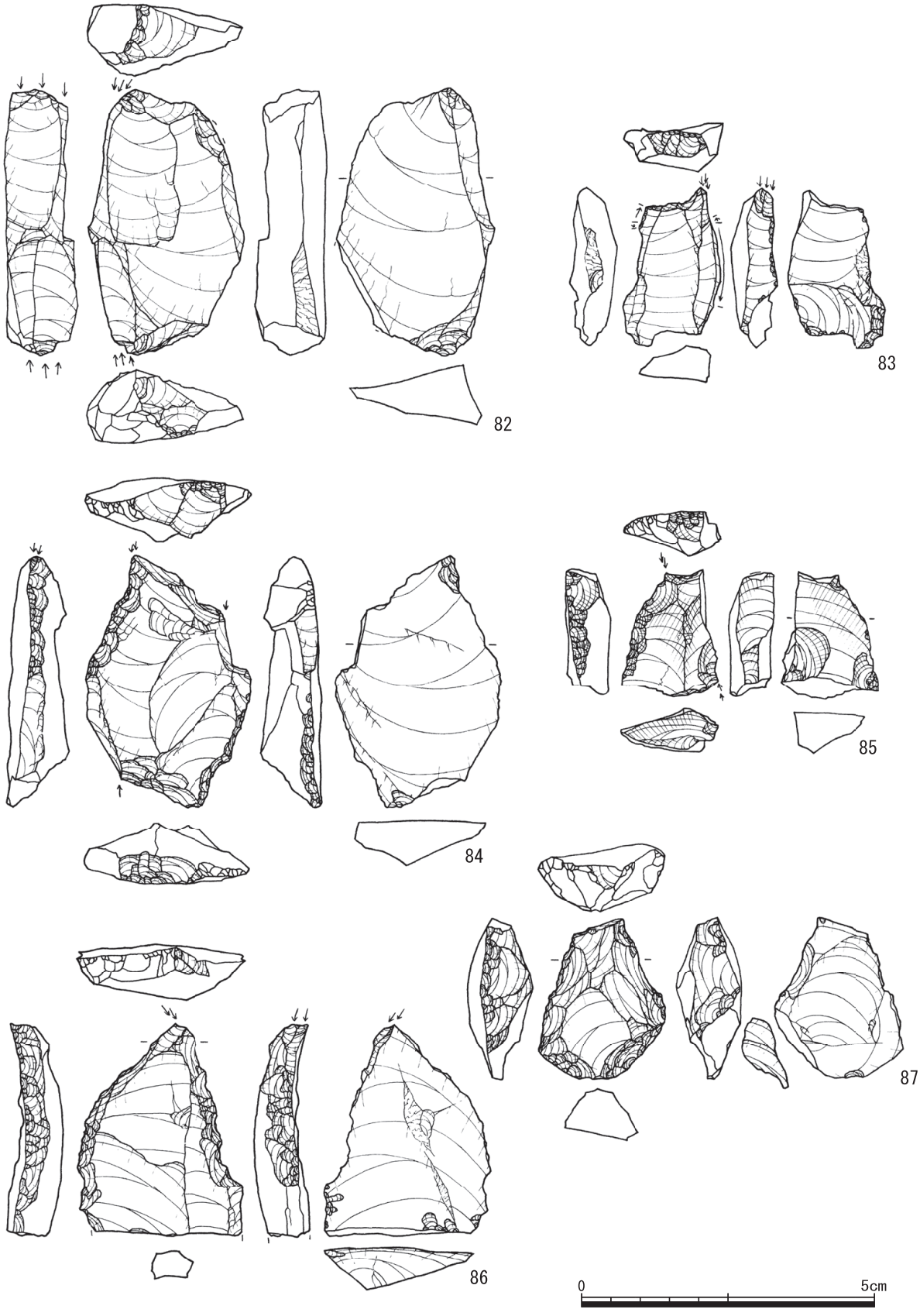


第133図　第Ⅲ文化層出土石器（８）

からの調整が認められている。ただ、下端では打面の調整と彫刀面作出の前後関係を捉えることはできなかったが、上下二方向とも複数の彫刀面が作製されていることから、これらの作業を繰り返しながら彫器として利用されていたことが理解できるものと思われる。なお、裏面に下端からの数回の剥離が認められているが、彫刀面を作出するための剥離とは考えられないことから、器体の厚さを減少させようとしたか、或いは下端からの彫刀面作出のための何等かの調整剥離かも知れないものである。84も上下二方向から彫刀面が作出されているものであるが、二方向共この彫刀面の上端はこれらを剥離する打面である調整によって切られており､両端に施されている調整の方が彫刀面より新しい剥離であることが判断されるものである。そして、彫刀面が剥離される縁辺には81で認められていたのと同じ荒い調整が施されており、下端の左側縁に形成された彫刀面によって一部が壊されていることから、これらには共通した作製方法が用いられていることが窺えるものである。また反対の右側縁にも荒い調整が認められているが、これは上端からの彫刀面が届いていないため上端の彫刀面作出との関係は不明と言わざるを得ないものである。しかし、この様な調整が未計画で施されているとは考えられないことから、下端の右側縁にも彫刀面を作出することを計画していたのかも知れない。これを暗示するように、左側縁の上端には上部の調整面を打面とした小さな剥離が認められており、彫刀面の作出を試みた可能性が考えられる剥離がある。85も小形の彫器で、両側縁に彫刀面を作出しようとしたものであるが、左側縁に上端の調整面を打面として施した小さな剥離は階段状になってしまっており、彫刀面の作出には失敗してしまった例である。しかし、前述した81や84と同様に、彫刀面を作出する前には左側縁に荒い調整が施されており、調整過程は共通していることが理解できるものと思われる。上端の調整は、83と同じ様に内湾する状態に丁寧に調整されていたが、これに比べると下端は折断面と細かな剥離で構成されているだけで、打面として利用するために形状を整えているようには見受けられなかった。しかし、この下面を打面として右側縁に彫刀面が作出されており、しかも彫刀面を作出する以前には彫刀面の幅を狭くするためか表裏面に簡単な調整が施されており、彫刀面を製作するための準備作業を行っていることが理解されるものである。そして、彫刀面は新旧２条が存在するが、その内の古い彫刀面は表裏面に施された調整剥離と器体を半截するような状態で作製されており、器体を彫刀面によって大きく改変している例である。素材は石刃と思われるが、調整や彫刀面作製によって素材の形状を推定できる状態にないため、明確には判断できなかった。81～85は前に触れたように「小坂型」彫器の範疇に含まれるものであったが、86は長野県上ゲ屋遺跡（樋口･森島･小林　1962）で確認された「上ゲ屋型」彫器に含まれる形態のものである。基部を欠損するが、幅広の石刃を素材とし、両側縁に裏面の主要剥離面側から急斜な荒い調整を加え、素材末端を絞って突出した部分を作出している。この後に、左側縁上部を打面として右側縁側に数回の剥離を施して彫刀面が作出されており、この彫刀面によって右側縁上部に施されていた調整面の一部は除かれてしまっている。さらに、彫刀面の作出のための調整剥離と考えられ剥離が正面上端に認められているが、これは彫刀面に切られているものの、左側縁の上部に施されている調整の上端を切って剥離されており、器体の上部の厚さを減じるような何等かの目的で行われた調整剥離と思われるものである。

彫器未製品（第134図87）

彫器の特徴である彫刀面は作出されていないが、器体の調整状態が「上ヶ屋型」彫器に類似していることから彫器の未製品として捉えたものである。素材に横長剥片を利用し、長軸の一端に突出した部分を作製するために左右両側縁から比較的丁寧な調整が施されているものである。上端はフラットな状態に一枚の剥離で形成されているが、左側縁の調整剥離によって切られており、左側縁上部の調整剥離より古い剥離であることが判断できるものである。しかし、この後に彫刀面の作出を行うことなく放棄されているもので、彫刀



第134図　第Ⅲ文化層出土石器（９）

面の作出には何等かの不都合があったことが推定されるものである。或いは、84の小坂型彫器のように作出する側縁を変えながら彫刃面を作り直しているものがあるように、87も彫刃面の作り替えによって上端と両側縁を再加工したものなのかも知れない。

ノッチ（第135図88～91）

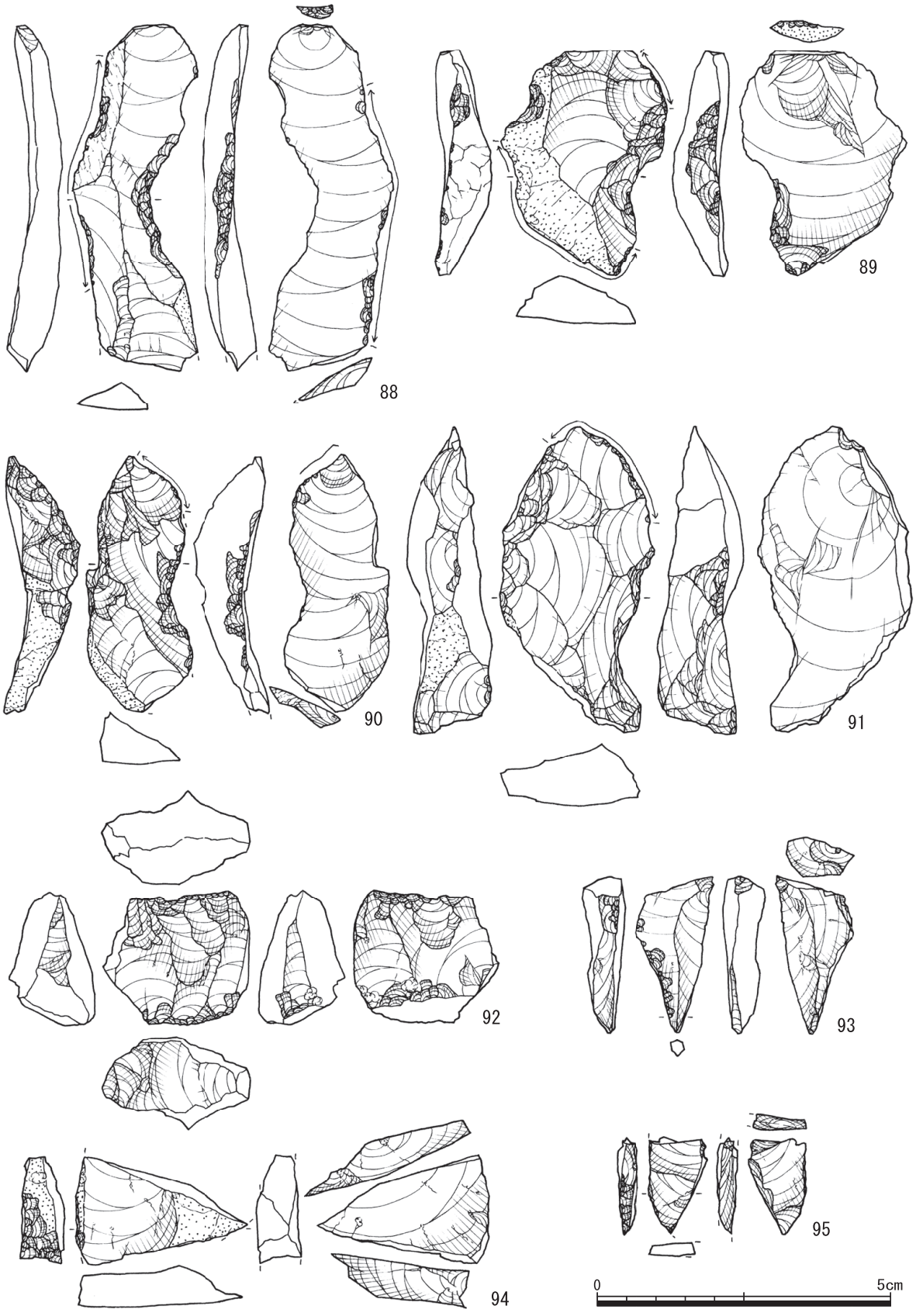
素材の右側縁に凹刃を作製しているもので、４点が確認された。素材に利用されているのは石刃（88）、縦長剥片（89・90）、横長剥片（91）で、素材には限定された形状は必要とされていなかったことが窺えるとともに、刃部の作製には最も長い縁辺が選択されていることが分かる。88はやや鋭角でそれほど強靭ではない凹刃が素材の中央部に形成されているものである。調整剥離は不揃いで、中央部では小さい剥離が重複するような状態で、縁辺には使用によると考えられる潰れが顕著に認められている。なお、刃部とは逆の左側縁には、使用による刃こぼれと思われる微細な剥離が観察される。89はやや寸詰まりの縦長剥片を素材として、右側縁に強靭な凹刃が作られているものである。ただ調整剥離は荒く大雑把なものであり、凹刃を丁寧に作出しようとする意図は稀薄であったことが窺えるものである。また、凹刃の内側の主要剥離面には数枚の剥離が認められるが、これなどは使用による衝撃剥離の可能性がある剥離である。左側縁の上部には、数回の剥離で形成された小さなノッチ部が存在しており、左側縁にも凹刃の作製を試みていたようである。左側縁下部と右側縁上部の縁辺には、使用によって生じたと考えられる小さな剥離が観察されることから、使用痕のある剥片としても利用されていたことが推定できよう。90も縦長剥片の右側縁中央部に、凹刃が製作されているものである。刃部の調整はそれほど剥離数は多くはないものの、比較的堅牢な刃部が作製されており、縁辺には使用によると思われる潰れが認められている。素材の末端を欠損しているが、本例でも右側縁に使用によって出来たと思われる小さな剥離が認められている。91は肉厚な横長剥片の末端に、極めて荒く大雑把な調整を加えて刃部が作製されているものである。調整は素材を抉るような剥離を数回に亘り施しているが、この剥離の一部は急斜な階段状剥離となってしまっており、88～90に認められた刃部の様相とは大きな相違があるものである。ただ、この様な調整剥離の後に、細かな剥離で所々が整形されている状況が認められているものの、刃部の縁辺の凹凸は大きく是正されることなく調整が終了しているようである。したがって、刃部の状態としては整ったものではないことから、未製品の可能性もあると思われる例である。これも、右側縁に使用痕と考えられる微細な剥離が認められる。

ピエス・エスキーユ（第135図92）

１点が確認された。両極打法によって形成されたものであることから、両端は多くの剥離によって構成される稜線状の縁辺となることが一般的なピエス・エスキーユである。しかしながら92では、上端は稜線状の縁辺となっていたものの、下端には打面状の面が存在しており、一方が面であっても利用されることがあったことが理解されよう。この下面の表裏の縁辺には、両極打法によって生じた小さな剥離が階段状剥離となって密集した状態で確認されるとともに、上縁にもこれに対応するような階段状剥離となった小さな剥離が認められており、このような形状のものに両極打法が用いられていることが推定できるものである。なお、下面は複数の剥離で構成されている複剥離打面と考えられることから、92のピエス・エスキーユは小さくなった石核（残核）を再利用したのかも知れない。

ドリル（第135図93）

折断剥片を利用して作製されたドリルで、一般的な調整剥離で整えられているものとは形状の異なる例で

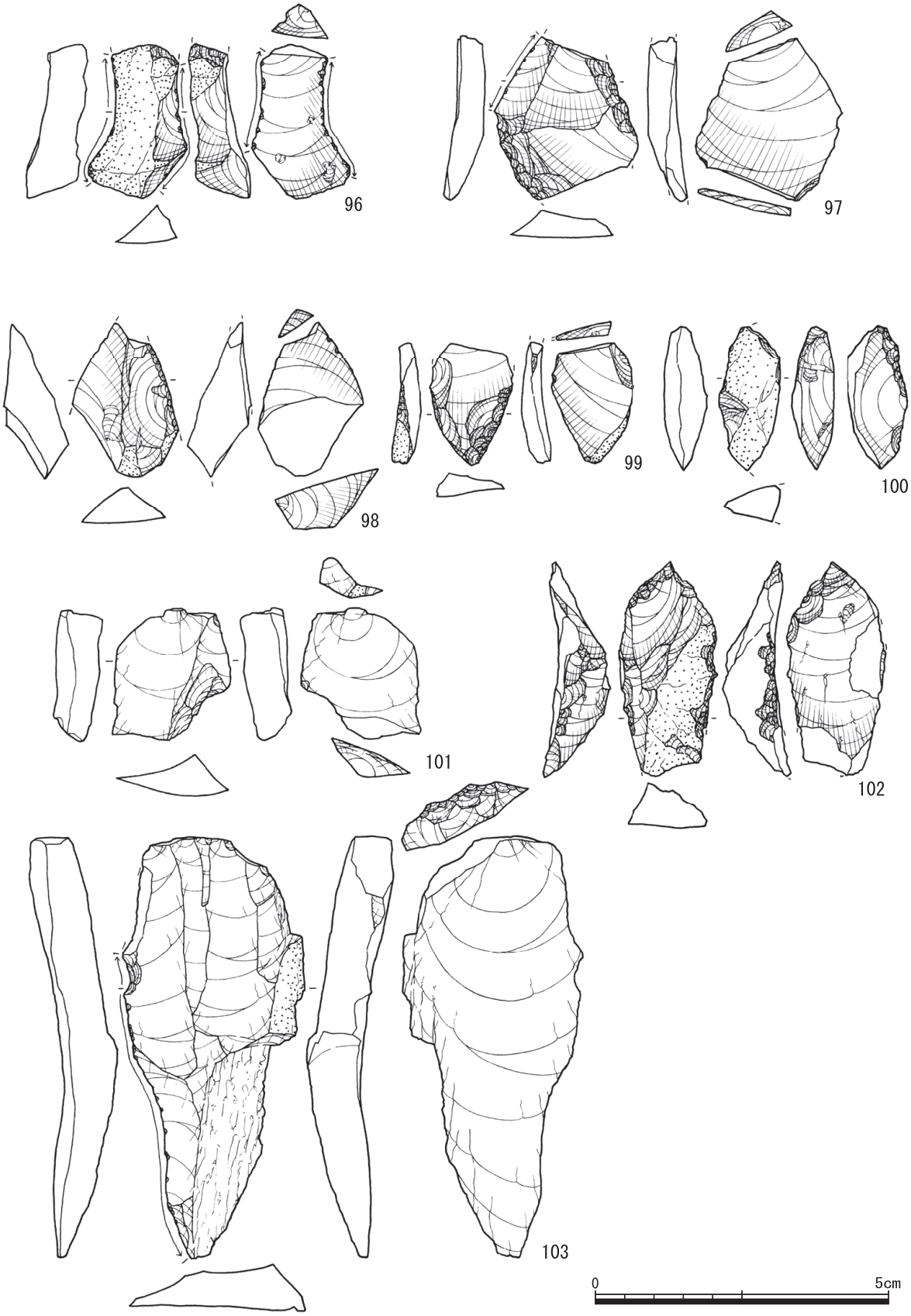


第135図　第Ⅲ文化層出土石器（10）

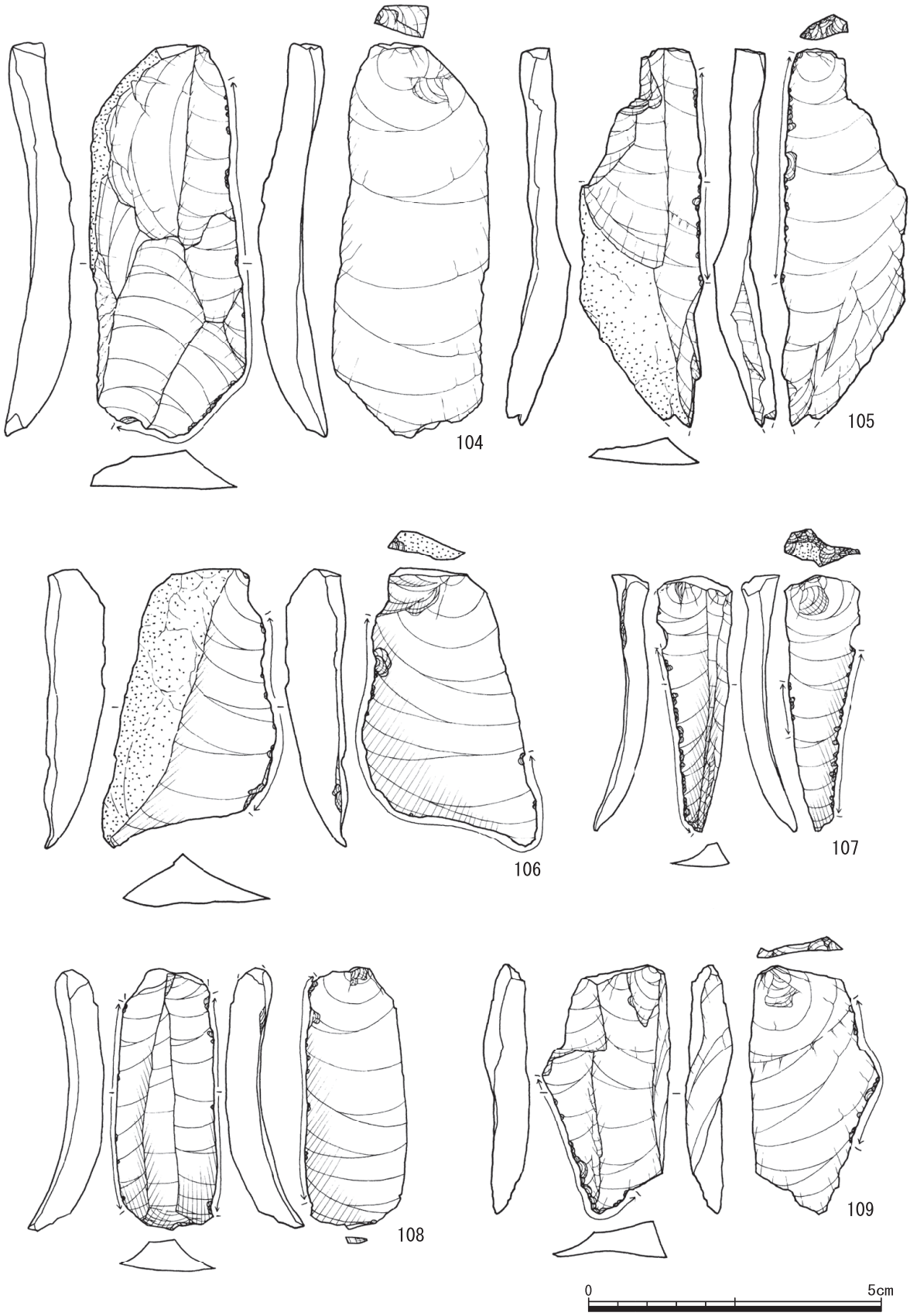
ある。折断剥片（裏面が主要剥離面と思われる）に対して両極打法を行い、表裏両面に剥離と、右側縁に樋状剥離のような剥離が施され、断面六角形の先端部が製作されている。さらに、左側面を打面とした小さな剥離が正面の左側縁に確認されているが、この剥離の縁辺は潰れが著しいことから、ドリルとしての回転運動によって生じた使用痕なのかも知れない。

加工痕のある剥片（第135図94～第136図102）

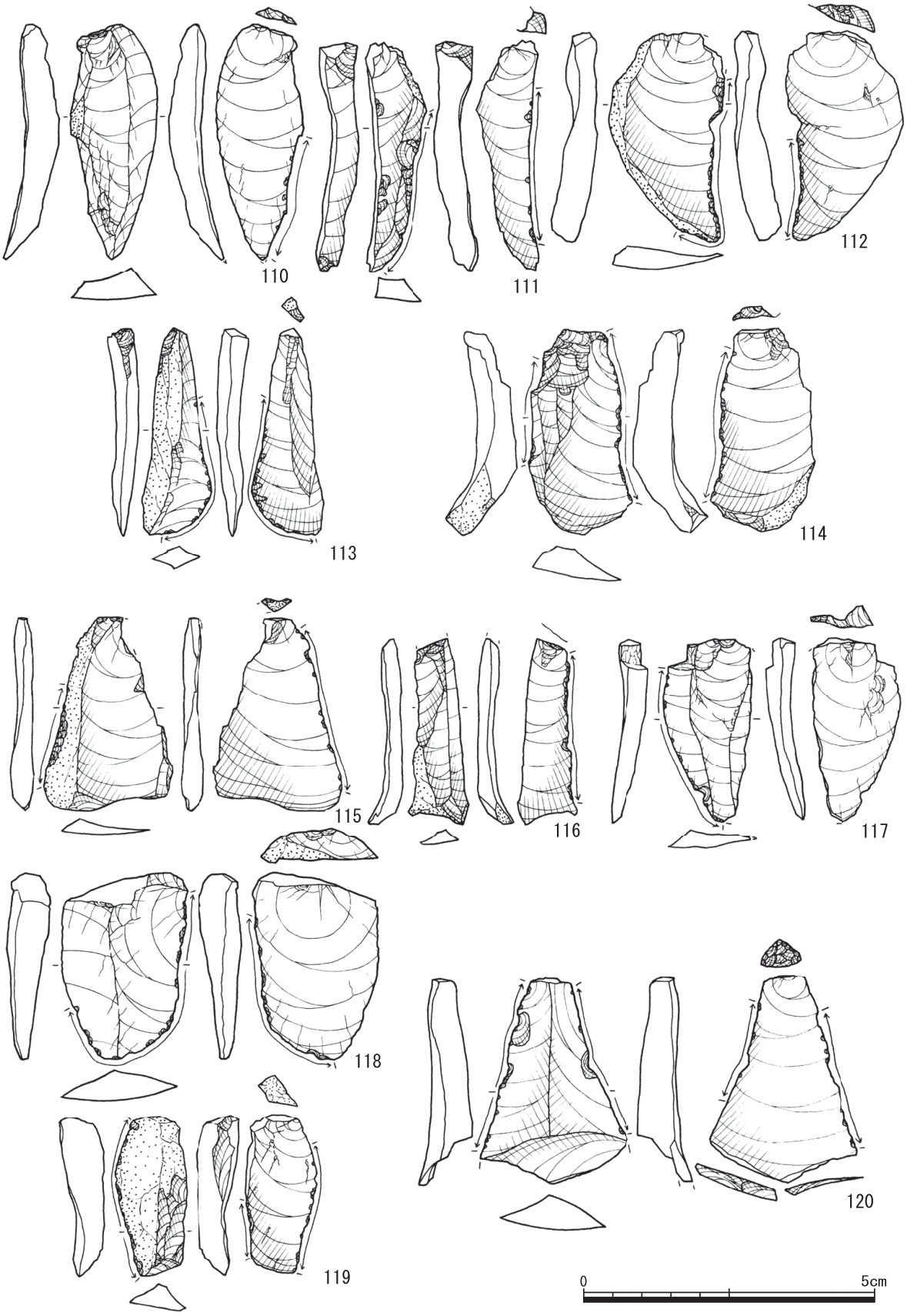
10点が確認されているが、この中に石核と接合するものが１点あり、これに就いては後述する石核の項で触れるため、９点を図示してある。大部分のものが何等かの器種の製作時に欠損したと思われるものであるが、その器種を特定することが難しいものを一括したものである。94～96は、側縁の一部にブランティング調整と思われる急斜な剥離が認められるものである。調整は主要剥離面側からに限られているもの（95）も存在したが、主要剥離面と剥離面の二方向から施されているもの（94・96）もあり、ブランティング加工が調整に用いられていることと共に、ナイフ形石器の製作作業の特徴と共通していることが理解されるものと思われる。したがって、これらはナイフ形石器の製作に関する何等かの欠損品である可能性が高く、94や96は調整の早い段階に欠損してしまったことが推定できる例である。なお、96は両側縁に使用痕と考えられる刃こぼれが認められており、欠損後に使用痕のある剥片に転用されたことが窺える例である。石刃素材である。97～101は縁辺の一部に面的剥離が認められるものであるが、この中には両側縁から調整が施されているもの（97・99）と、一方の側縁からだけ行われているもの（98・100・101）が存在していたが、大きく欠損するものが多いため全体的な形状は不明のものである。97は幅広な素材に対し、両側縁から器幅を減少させようとしているような荒い面的剥離を施しているもので、両端を欠いている。左側縁上部には素材の縁辺が残っているが、これが意図的に残されているものだとしたら、ナイフ形石器の製作途中の例である可能性が考えられるとともに、ナイフ形石器の製作初期段階では面的剥離も利用していたことが判断できるものと思われる。なお、本例も左側縁に使用痕と考えられる微細な剥離が認められており、欠損後も何等かの作業に使用されたことが推定できるものと思われる。98は何等かの器種の先端部片と考えられるもので、調整は右側だけに限って施されている。その調整は右半分の殆どを覆っている主要剥離面側からの一枚の剥離と、縁辺に連続して施されている細かな剥離であり、荒い面的剥離を施してから縁辺の整形をしているようである。両端の欠損部を見てみると、これらの調整の行われた調整面から欠損していることが理解されるため、この欠損は調整時に生じたものであることが判断されるものであり、何等かの器種の未製品であったことが推定されるものである。99は正面の両側縁から簡単な面的調整が施されているもので、上部を欠損する。左側縁の下部には縁辺を潰すような細かな剥離があり、裏面にも一枚の剥離が施されているが、全て部分的調整であって、これらの調整の関連性を推定するのが難しい例である。100は打面部の主要剥離面側に荒い調整が施されているもので、素材打面は除去されている。この調整の延長上の剥離によるものか、素材の打瘤部を剥離してしまい断片となってしまったものである。101は折石刃状の素材に対し、抉るような荒い急斜な調整が施されているものである。末端側を欠損しているが、これは抉るように施された調整剥離によって欠損したものであり、石刃を素材としてノッチのような凹刃を持つ器種の製作を意図していたのかも知れない。102は縦長剥片の両側縁に荒い急斜な調整が施されているもので、縁辺は凹凸が著しい。上端の表裏面にも素材打面部を除去するような荒い剥離が施されているが、これら調整の関連性は不明と言わざるを得ない。



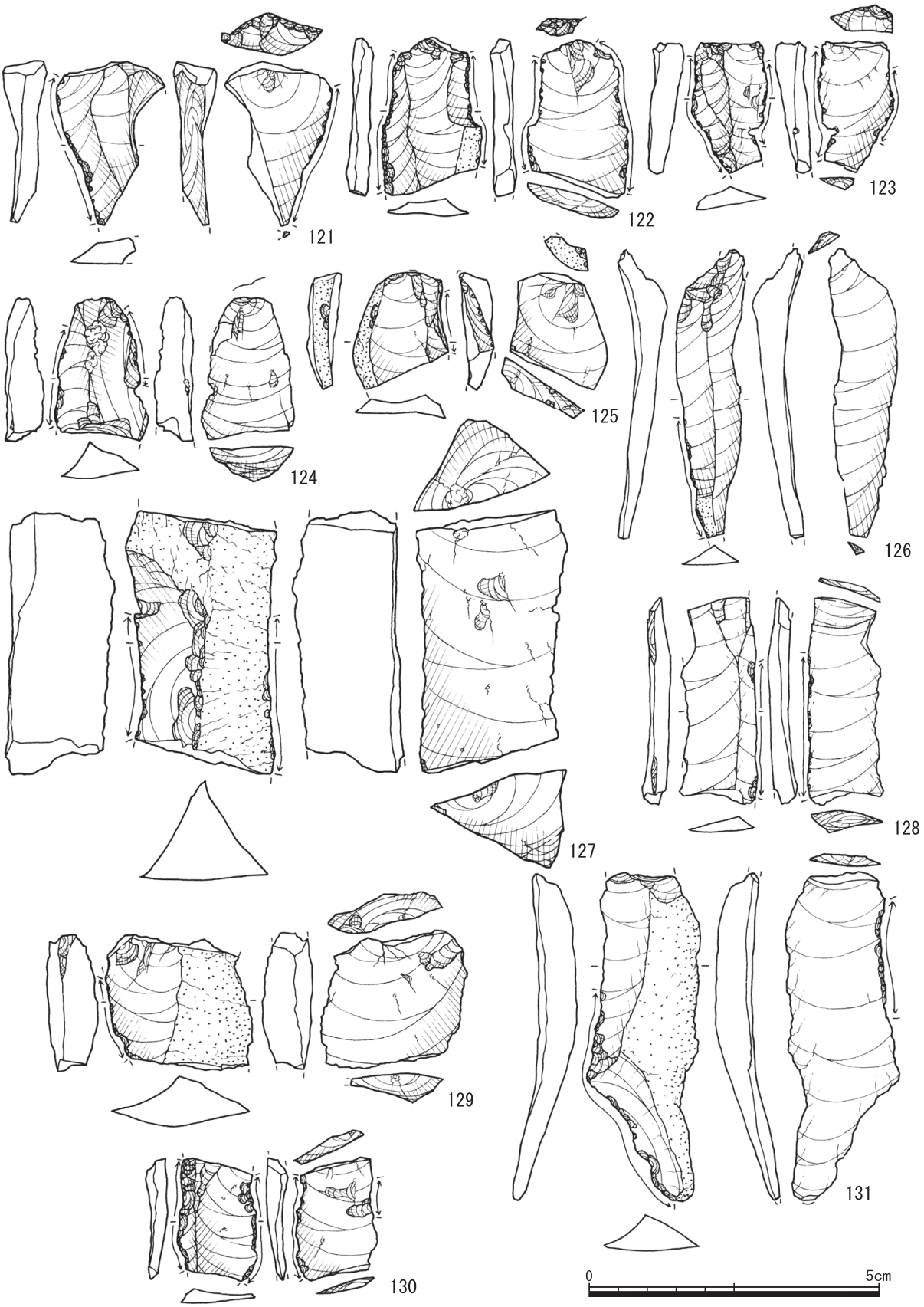
第136図　第Ⅲ文化層出土石器（11）



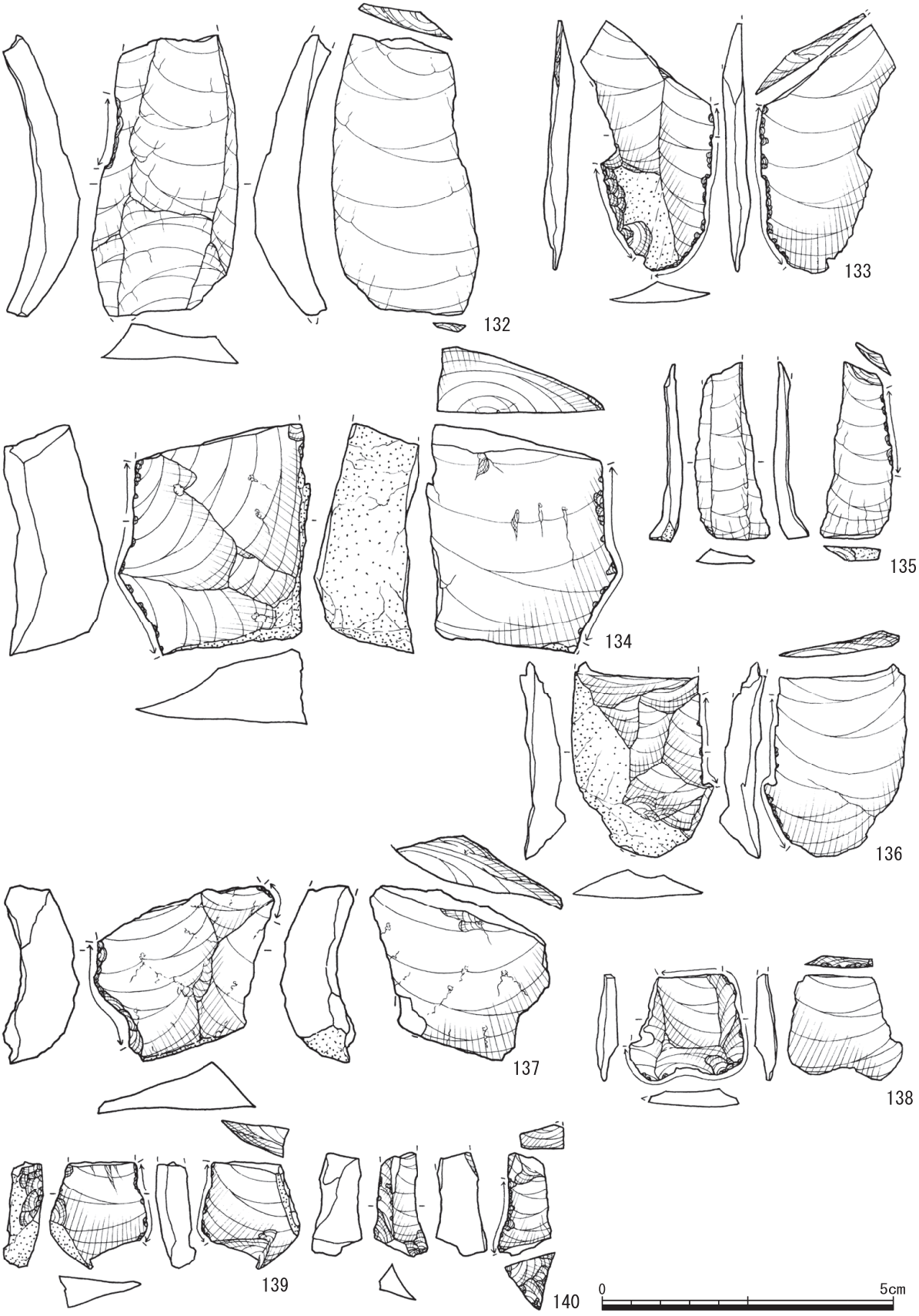
第137図　第Ⅲ文化層出土石器（12）



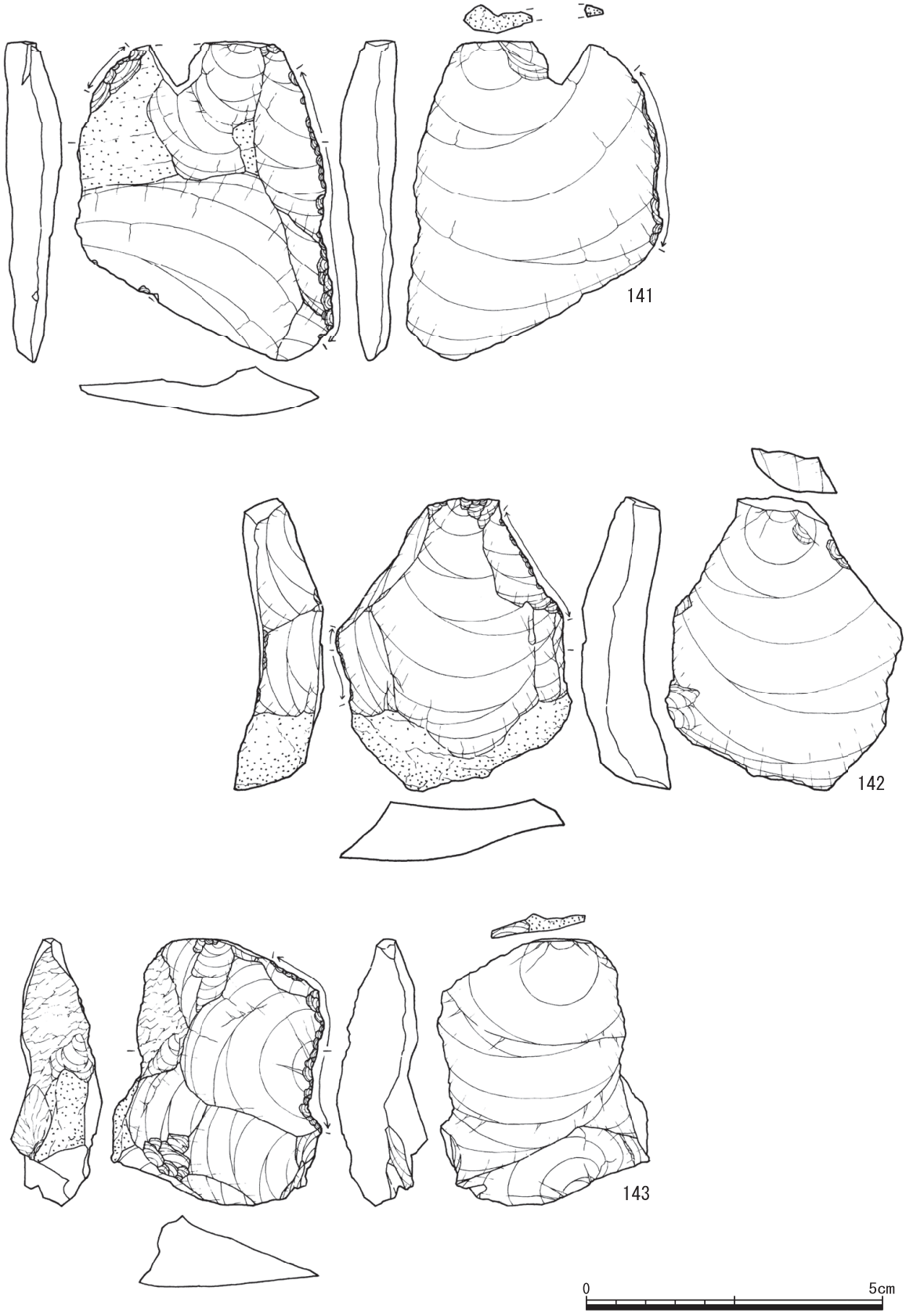
第138図　第Ⅲ文化層出土石器（13）



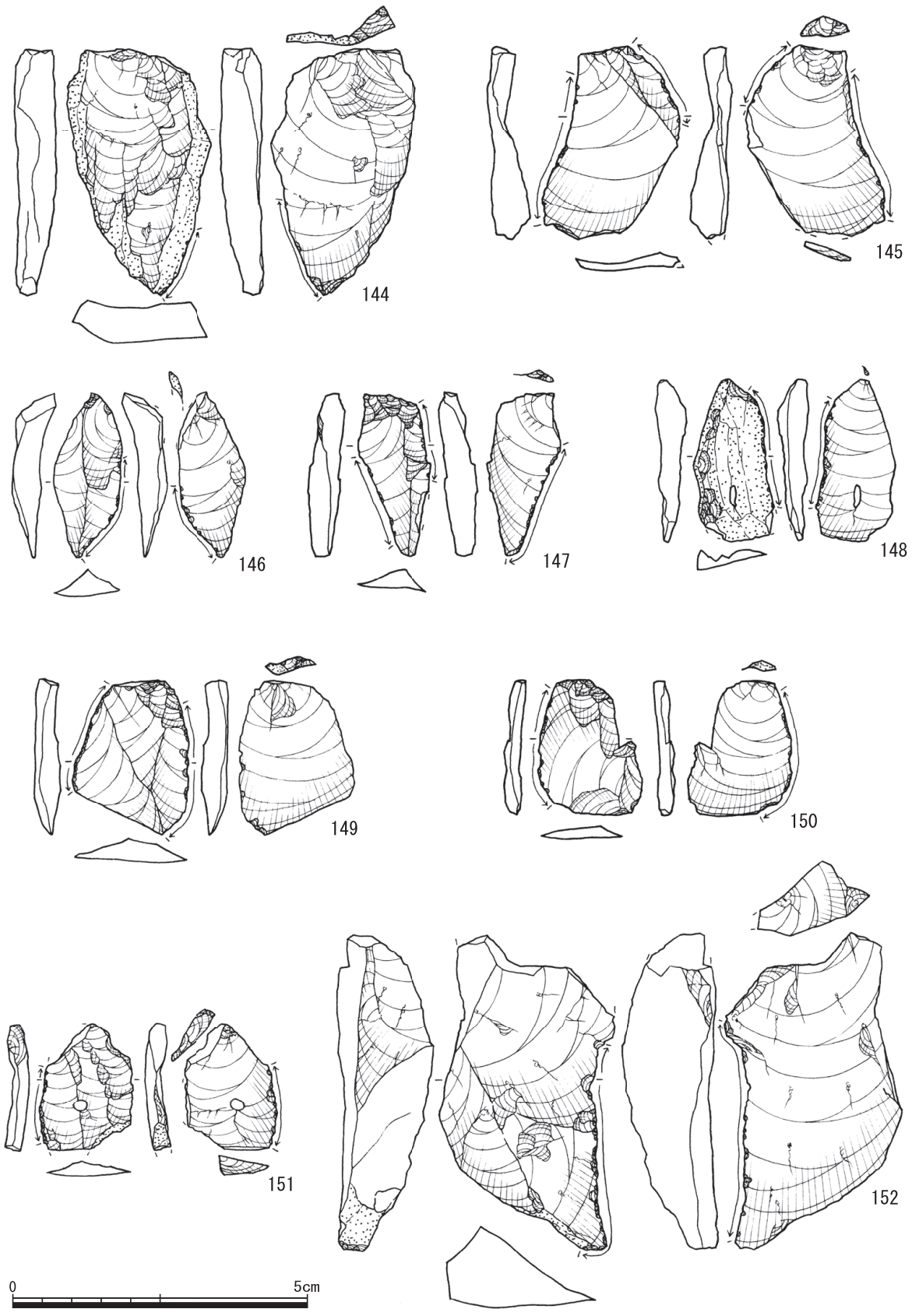
第139図　第Ⅲ文化層出土石器（14）



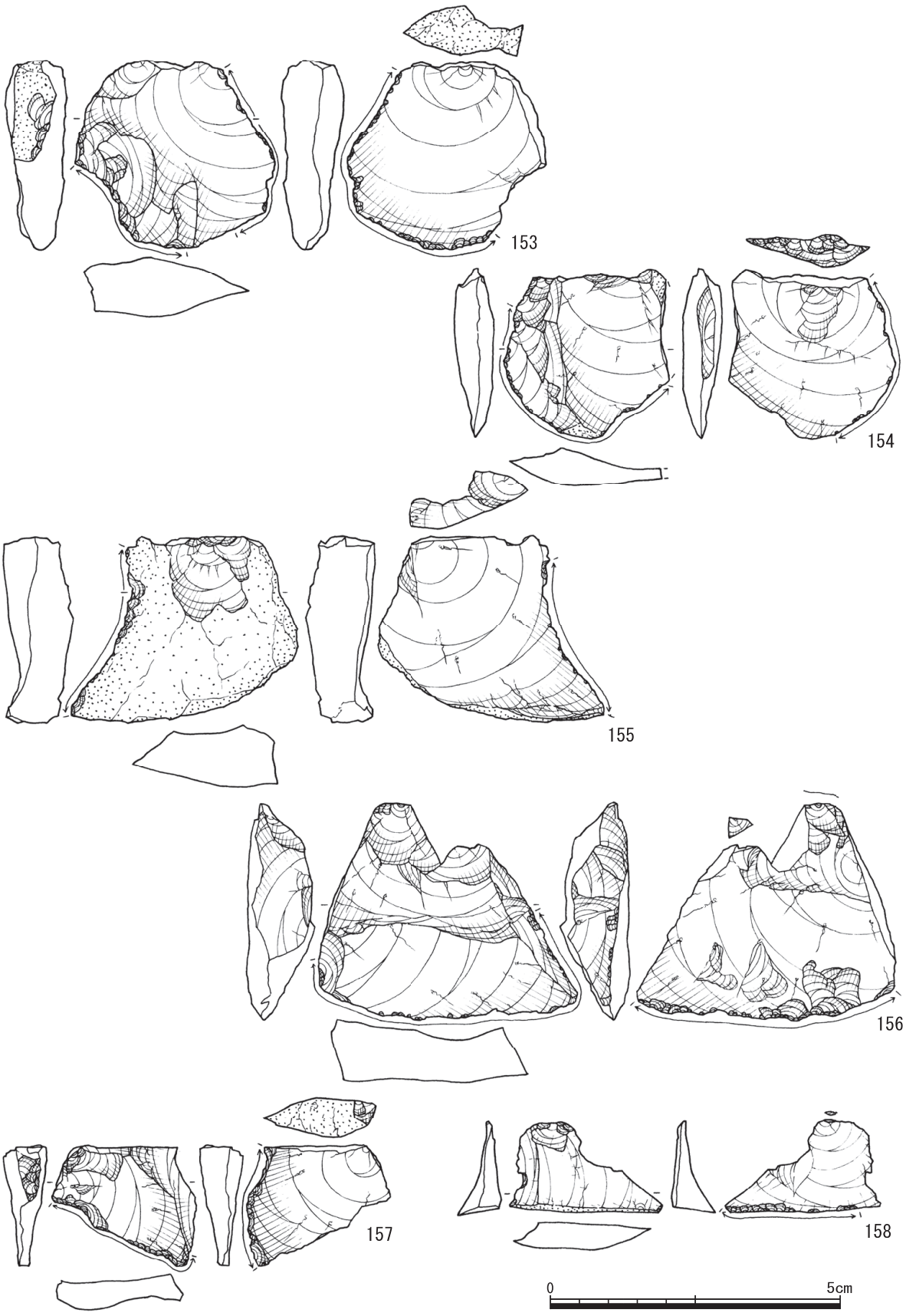
第140図　第Ⅲ文化層出土石器（15）



第141図　第Ⅲ文化層出土石器（16）



第142図　第Ⅲ文化層出土石器（17）



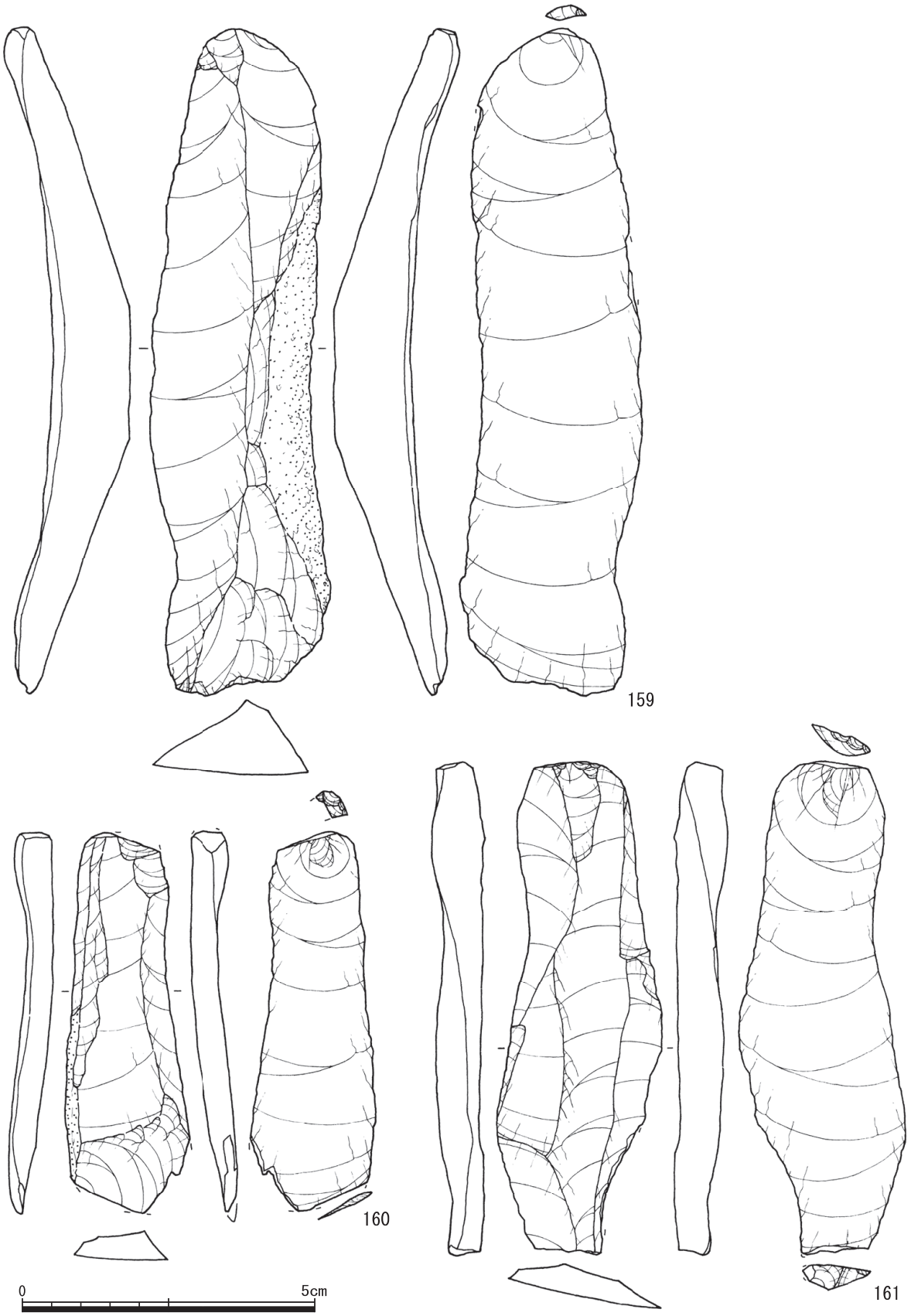
第143図　第Ⅲ文化層出土石器（18）

使用痕のある剥片（第136図103～第143図158）

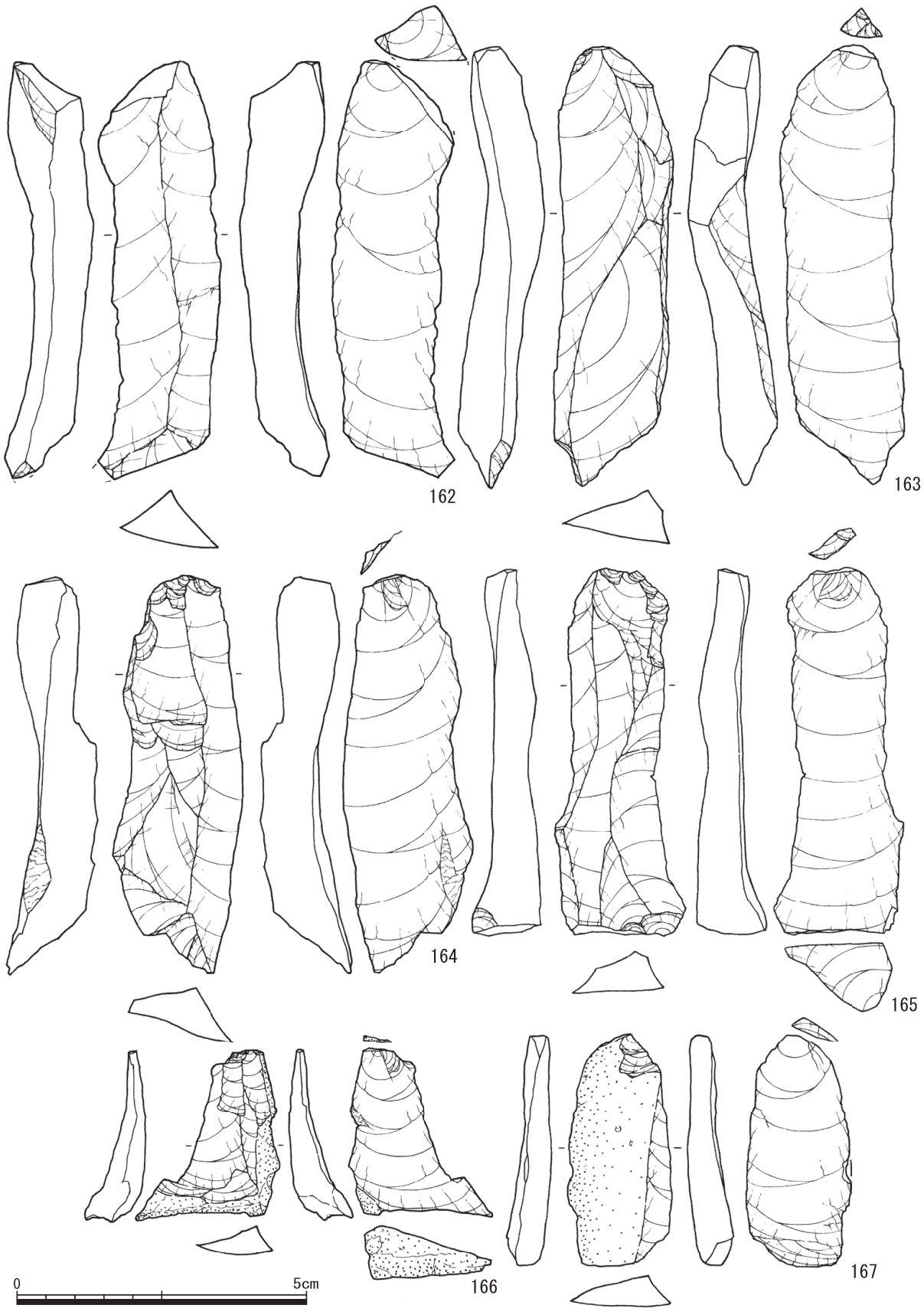
56点が確認されているが、前述してきたように各器種や加工痕のある剥片等の縁辺にも、使用で生じたと考えられる微細な剥離が認められるものがあり、縁辺の使用が確認できる石器数の総量は56点以上であるとが明らかである。これらは石刃に認められるもの（103～119）、折石刃に認められるもの（120～140）、縦長剥片に確認されるもの（141～150）、折剥片に認められるもの（151・152）、横長剥片に観察されるもの（153～158）の別があるが、大部分は縦長の素材を使用しており、縦長の方が利便性が高かったことが推定される状況にある。使用痕と考えられる微細な剥離は、一方の側縁だけに確認できるもの（103～105・110・112・113・115～117・121・125・126・128・129・131・132・134～137・139・140・143・144・146・148・150～152・154・155）や、双方の側縁に観察できるもの（106～109・111・114・118～120・122・124・127・130・133・138・142・145・147・149・153）、素材の末端にも観察されるもの（104・106・109・112・113・118・138・153・154・156～158）等の違いはあるものの、総じて素材の最も長い縁辺を利用しているようであり、平行した二側縁が形成されている石刃では、両側縁に使用痕と思われる剥離が認められるものが多いことは妥当な状況と言えよう。この様なあり方は横長剥片に使用痕の認められるものも同様で、多くのものが最も長い縁辺である末端に使用痕を確認することができる。ただ、このような使用痕が認められる縁辺では、表裏の一方の面だけに認められるもの（103・104・110・111・116・117等）と、両面に認められるもの（105～109・112～115・118～124等）があり、縁辺の利用方法は多様であったことが窺える状況である。

石刃・折石刃（第144図159～第159図277）

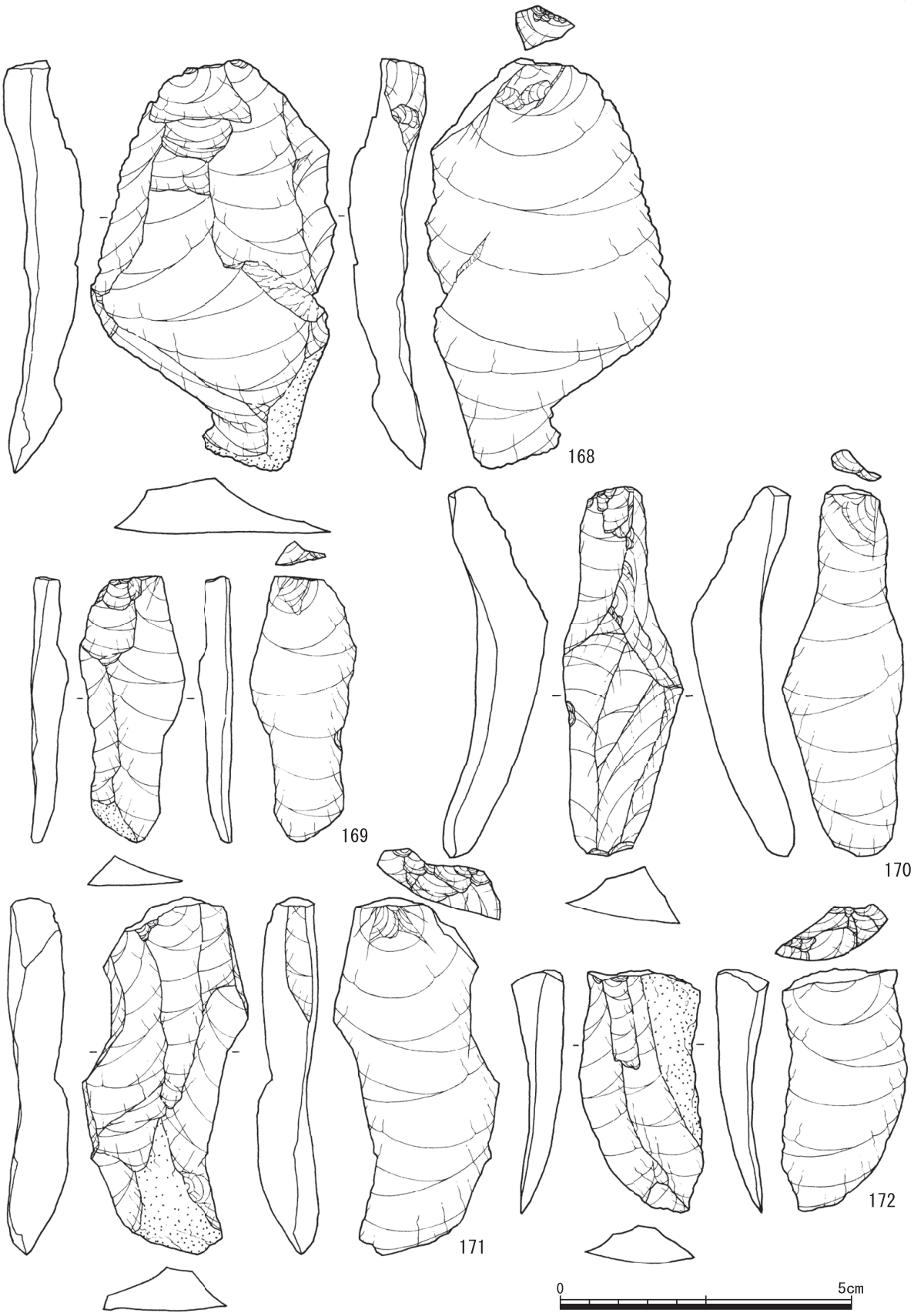
折石刃を含めて119点が確認された。119点は本文化層の石器類の総点数763点の約15.6％を占めており、石器類の中では最も高率な器種である。さらに、前述してきたようにナイフ形石器を初めとして尖頭器、掻器、削器、彫器、ノッチ、加工痕のある剥片、使用痕のある剥片等の器種に多くの石刃が素材として利用されており、これらを含めれば少なく見積もっても200点以上の石刃を保有していたことは明らかで、本文化層の器種類が石刃の生産によって成立していたことが推定されるものと思われる。これらは一定した剥片剥離方向を持つ工程から作製されたものが大部分を占めており、その中では剥離面と主要剥離面で観察される剥離痕が同一方向の剥離で構成されているもの（166～169・171・172・174・175・179・181～183・184・192～194・196～198・200～202・205・207～210・213～219・221～225・229～239・243～246・248・252・253・255・256・258～271・273～277）と、主要剥離面とは 180度剥離方向の違う剥離痕が存在するもの（161・164・165・170・173・176～178・180・184・185・167・189～191・199・204・211・212・220・227・240～242・247・249～251・254・257・272）があり、この中には下端に下設打面の一部を取り込んでいるもの（161・165・176・178・184・190・191・199・257）も存在していた。これらの二方向以外では、石核調整剥離か剥片剥離かは明確ではないものの、主要剥離面とは90度剥離方向の違う剥離痕が存在するもの（157・158・163・164・188・195・203・206・226・251・254）も認められていたが、これ以外でも石刃中央部の稜から90度剥離方向の違う稜上剥離を行っているもの（170・185・247・254・265）や、剥片剥離作業面を打面として側面調整を行っているもの（246・264）があり、石核調整剥離の中には打面を90度転位して行うものがあったことが理解できると思われる。確認された119点の石刃・折石刃の中で最も大形のものは159の113.8mmであり、これに対して一番小形のものは打面部を剥片剥離時に欠損している258で、21.0mmの大きさであった。これら以外の石刃は40～70mmのものが多く認められており、大きさにバラエティはあるもののナイフ形石器等の大きさよりも、やや大きい石刃が量産されていることが判断されると思われる。そして、石刃に調整を施してナイフ形石器を初めとする各器種が製作されていることから、生産された石刃によ



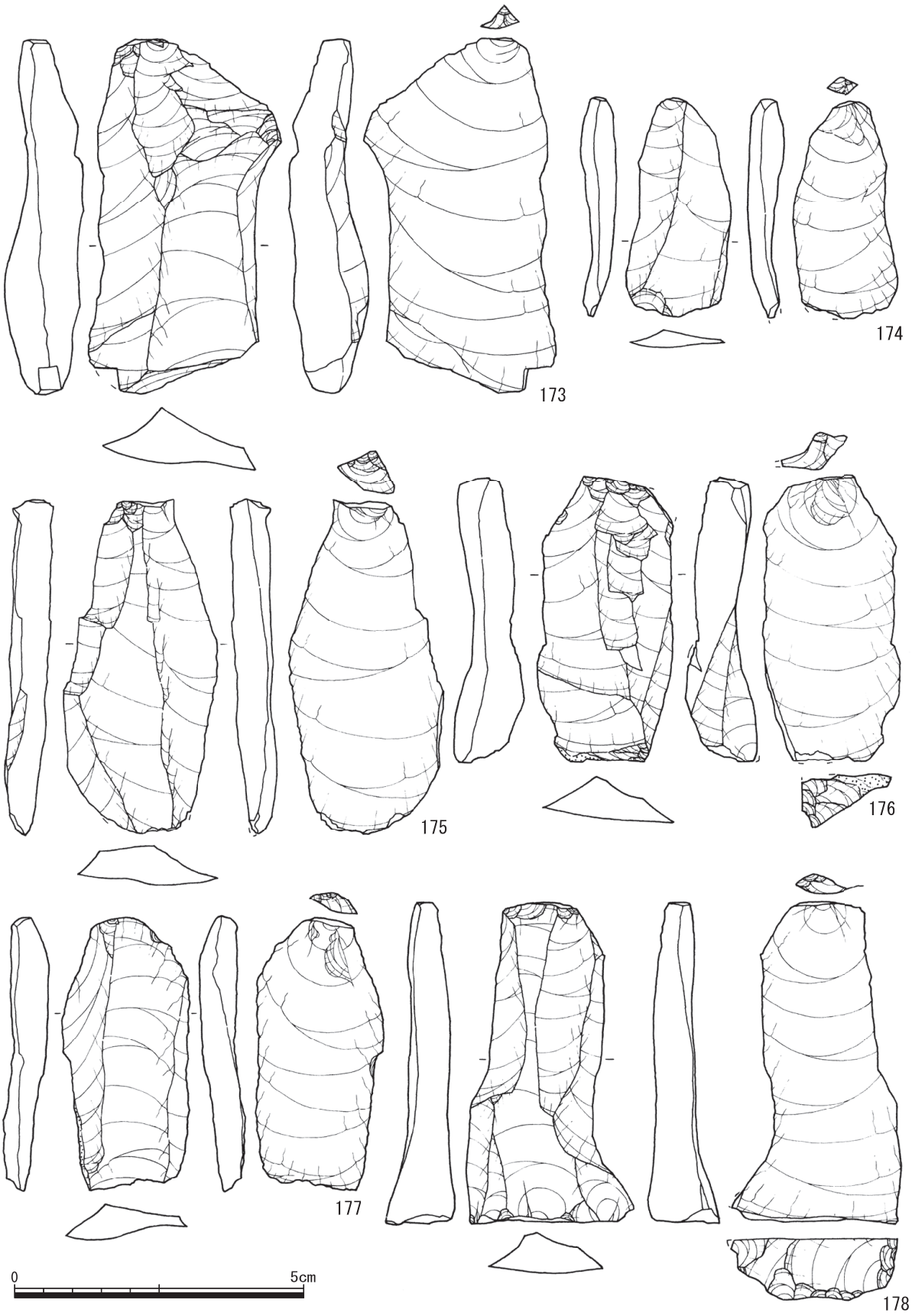
第144図　第Ⅲ文化層出土石器（19）



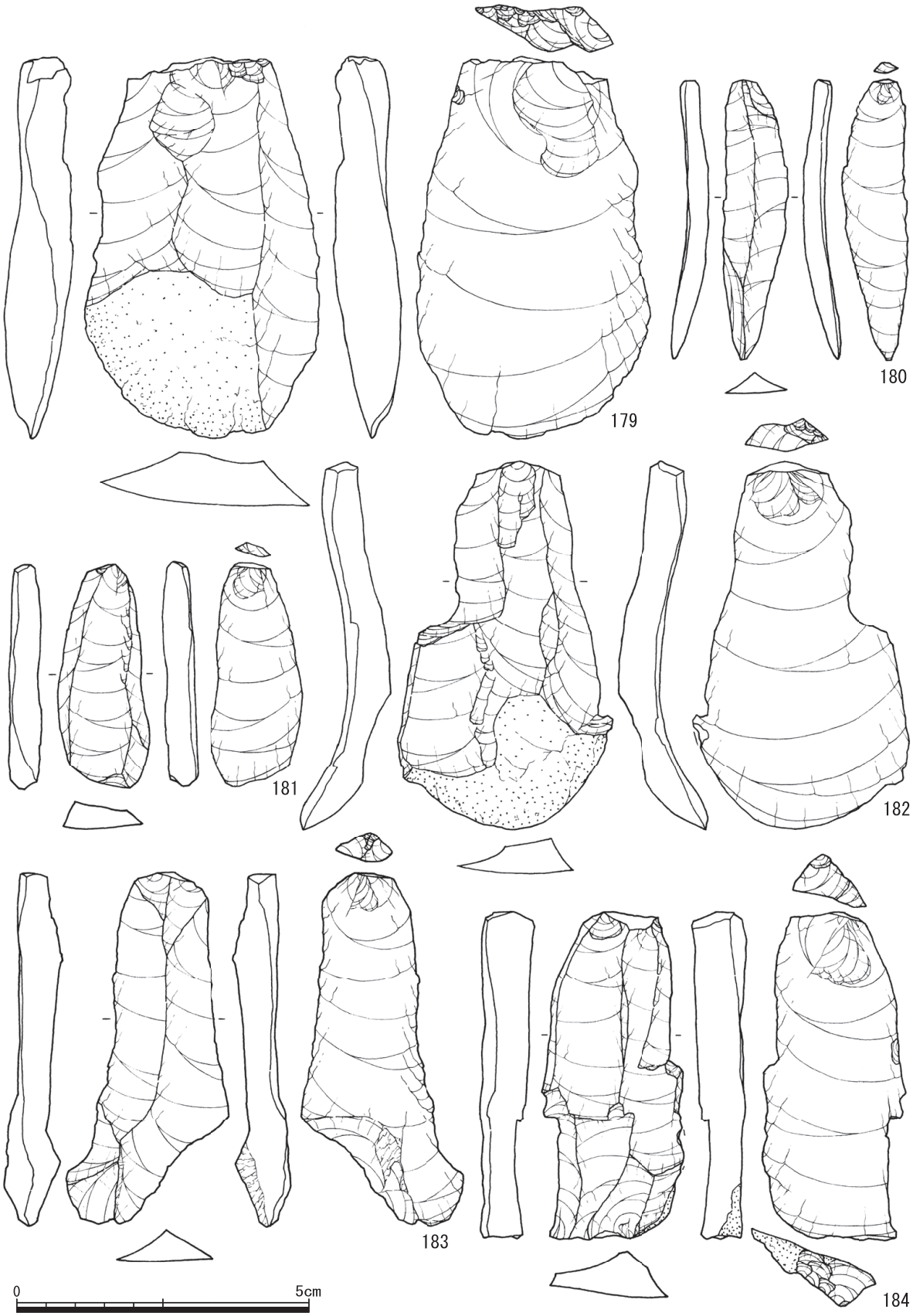
第145図　第Ⅲ文化層出土石器（20）



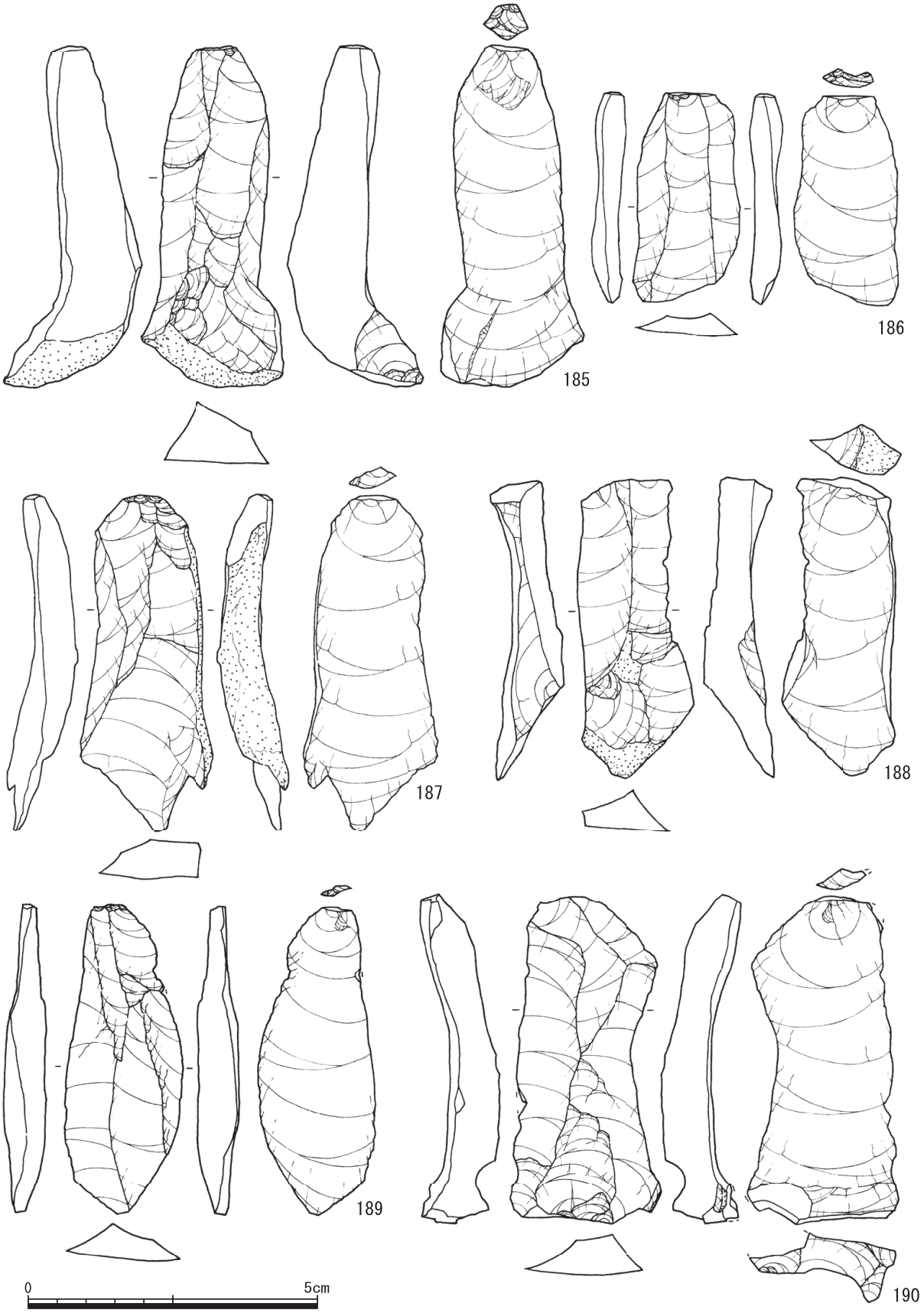
第146図　第Ⅲ文化層出土石器（21）



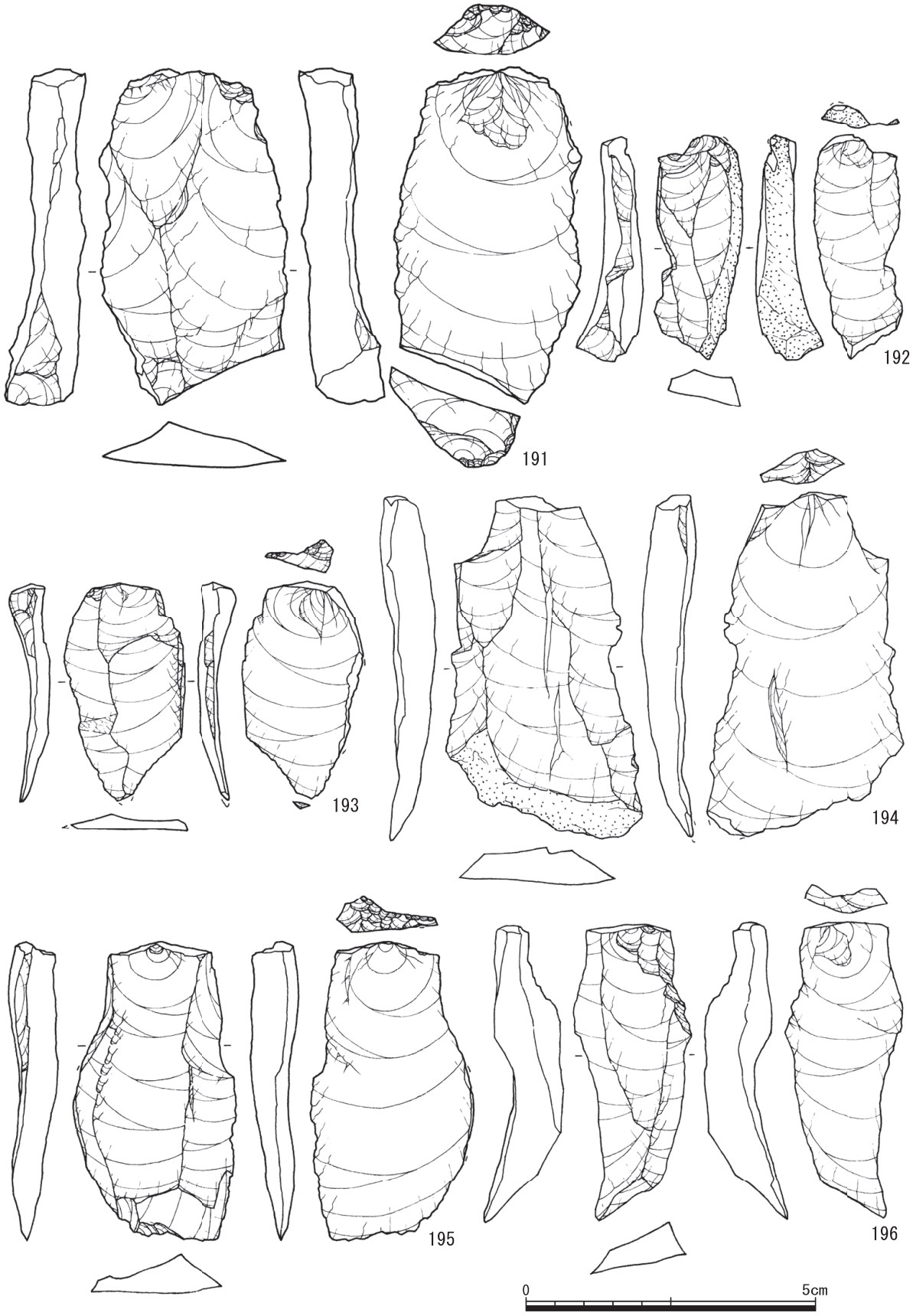
第147図　第Ⅲ文化層出土石器（22）



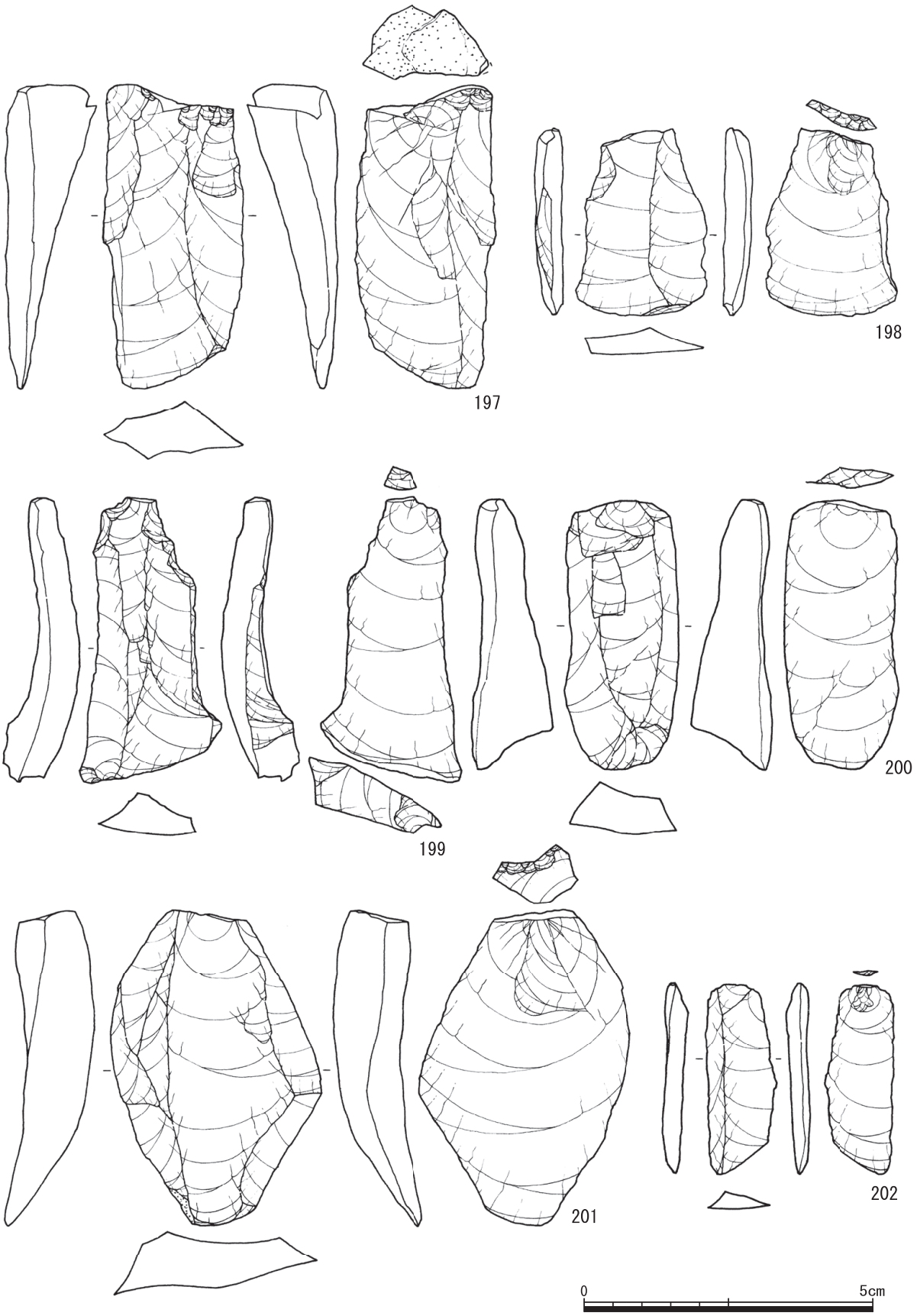
第148図　第Ⅲ文化層出土石器（23）



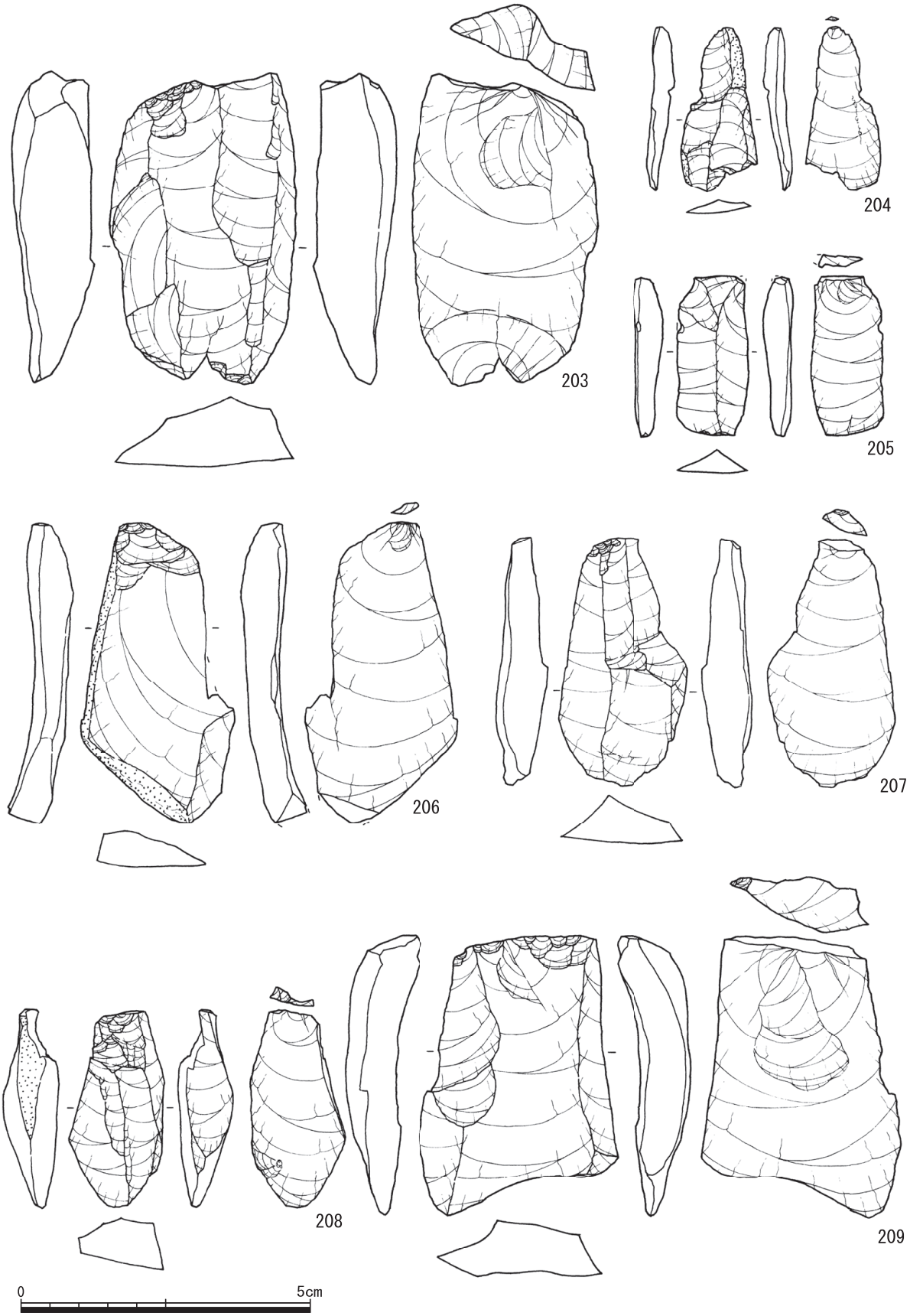
第149図　第Ⅲ文化層出土石器（24）



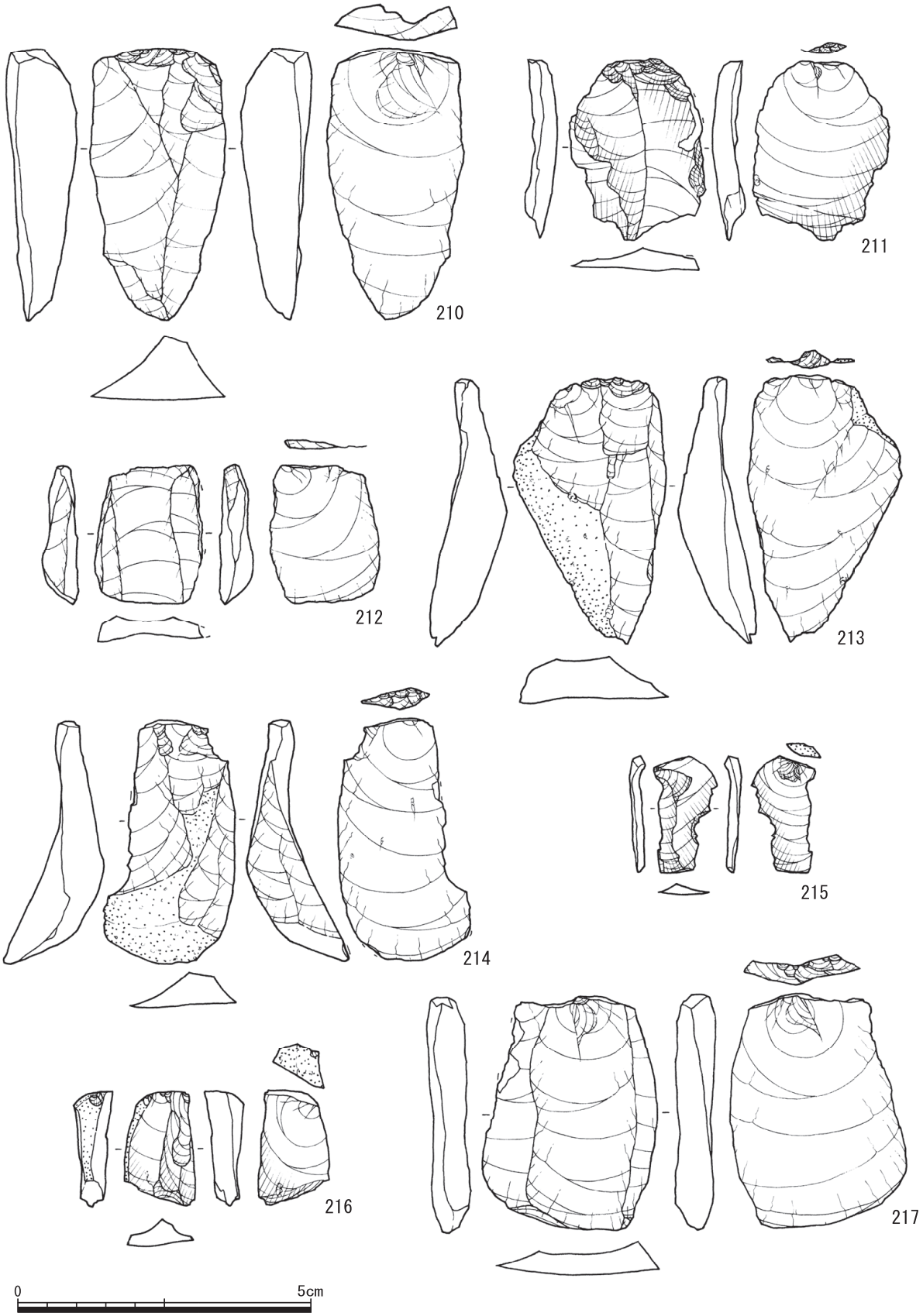
第150図　第Ⅲ文化層出土石器（25）



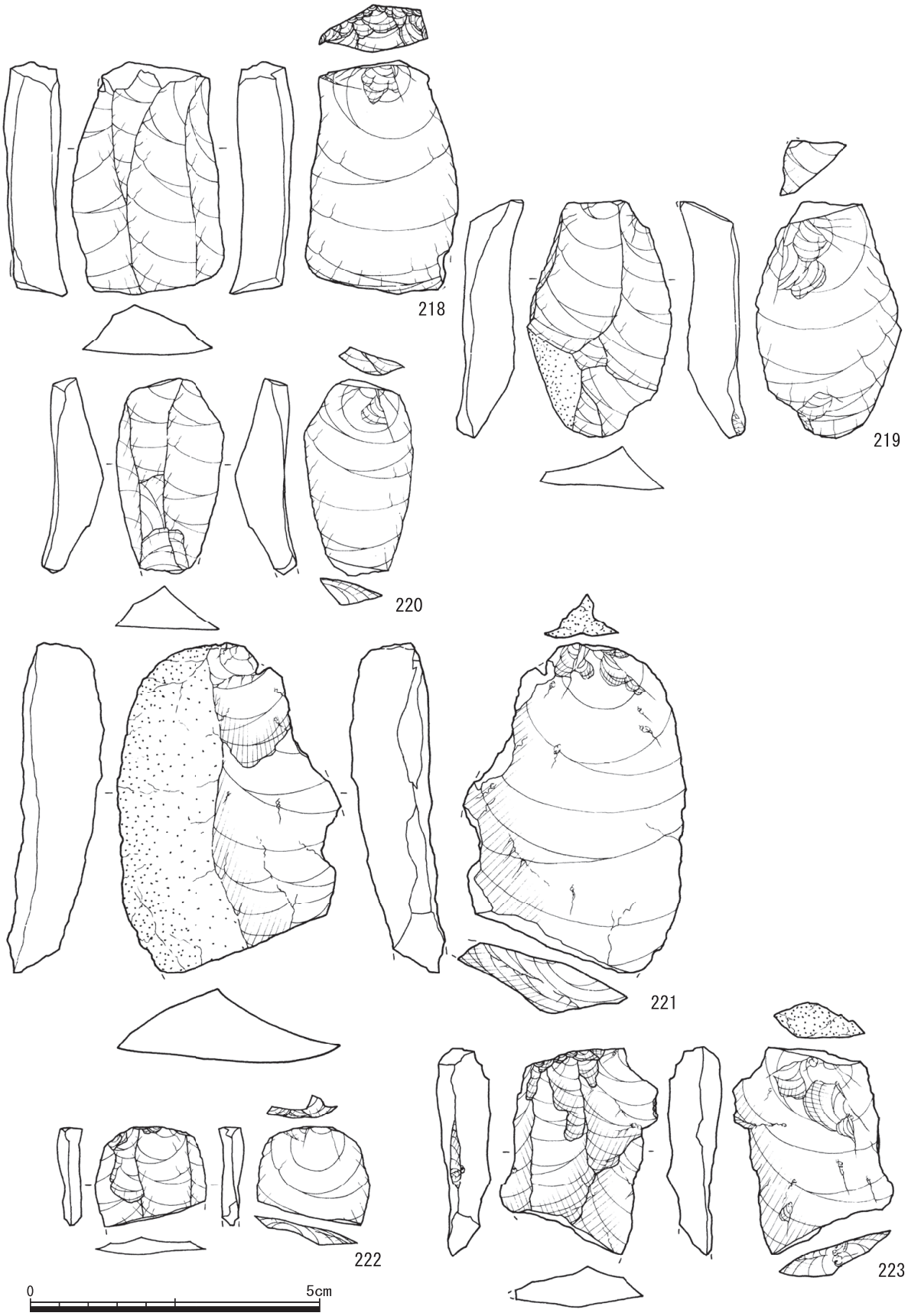
第151図　第Ⅲ文化層出土石器（26）



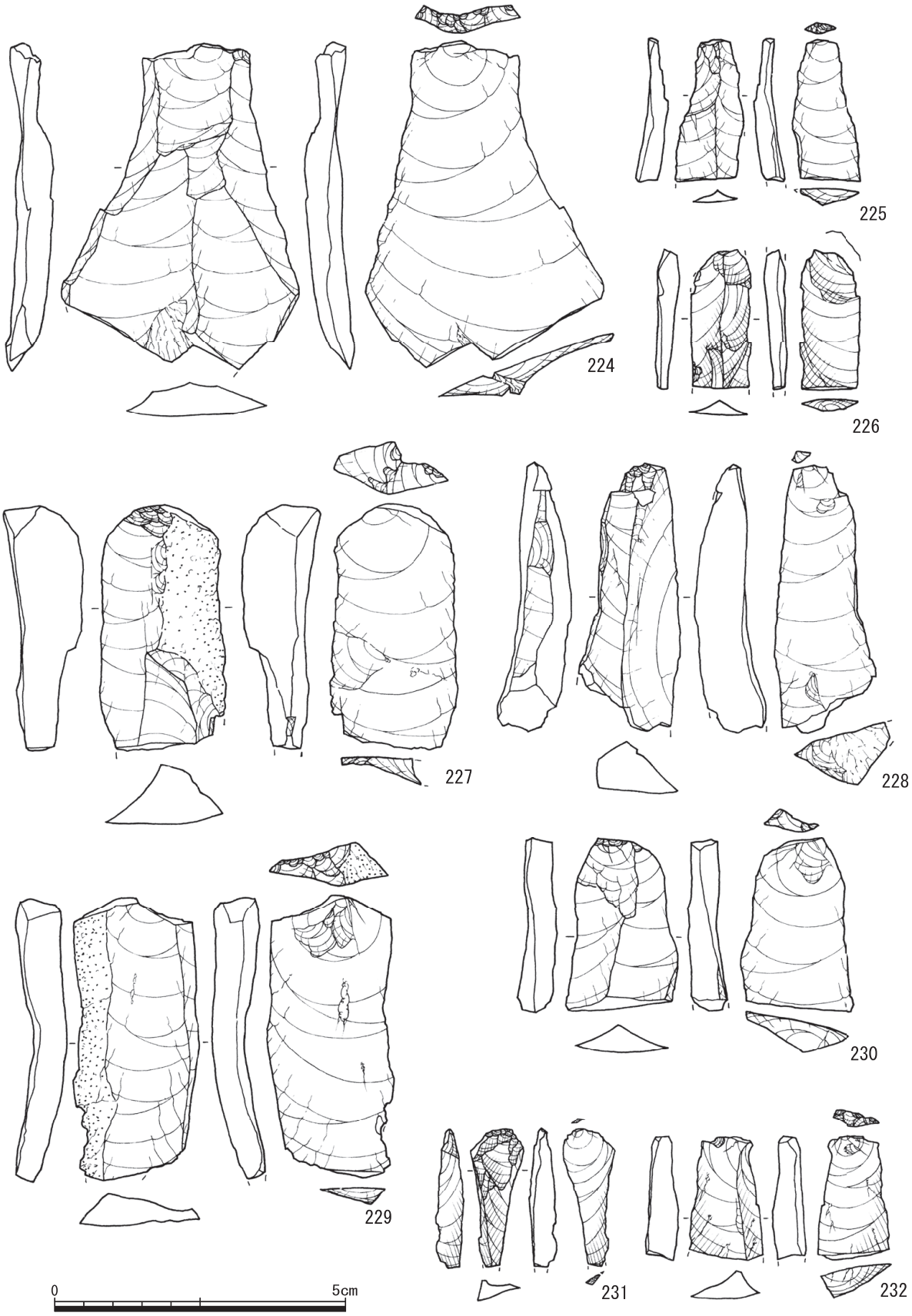
第152図　第Ⅲ文化層出土石器（27）



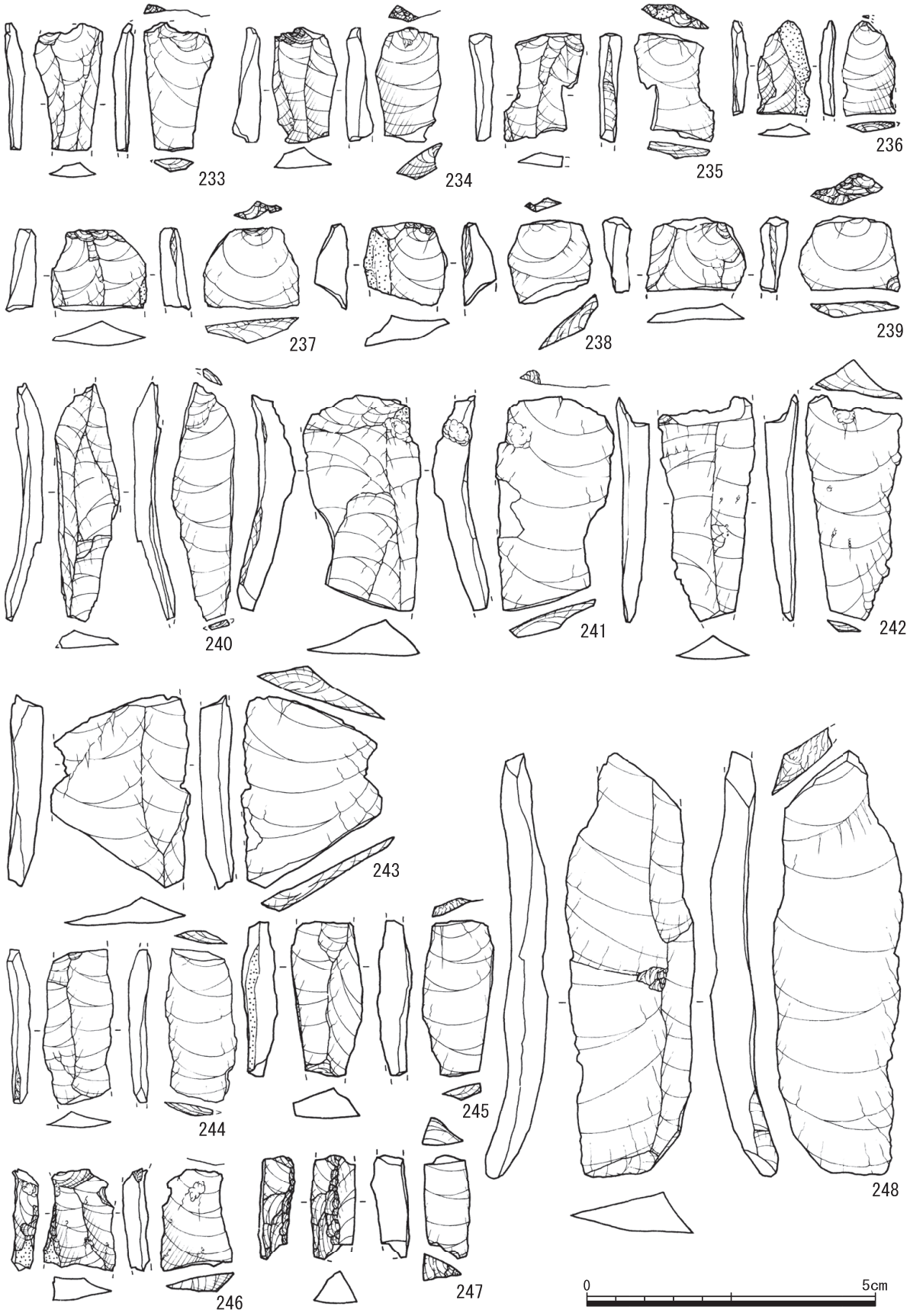
第153図　第Ⅲ文化層出土石器（28）



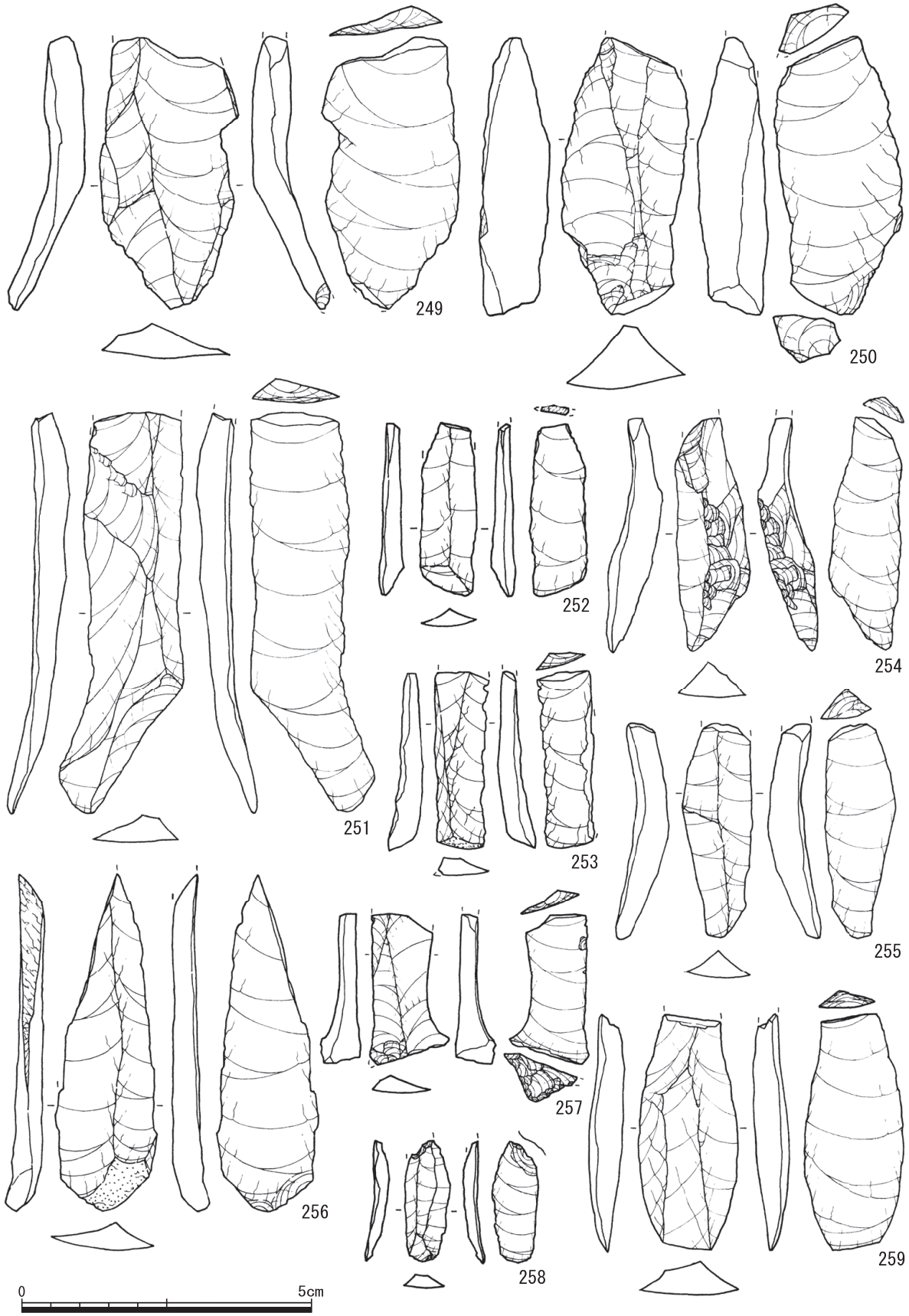
第154図　第Ⅲ文化層出土石器（29）



第155図　第Ⅲ文化層出土石器（30）

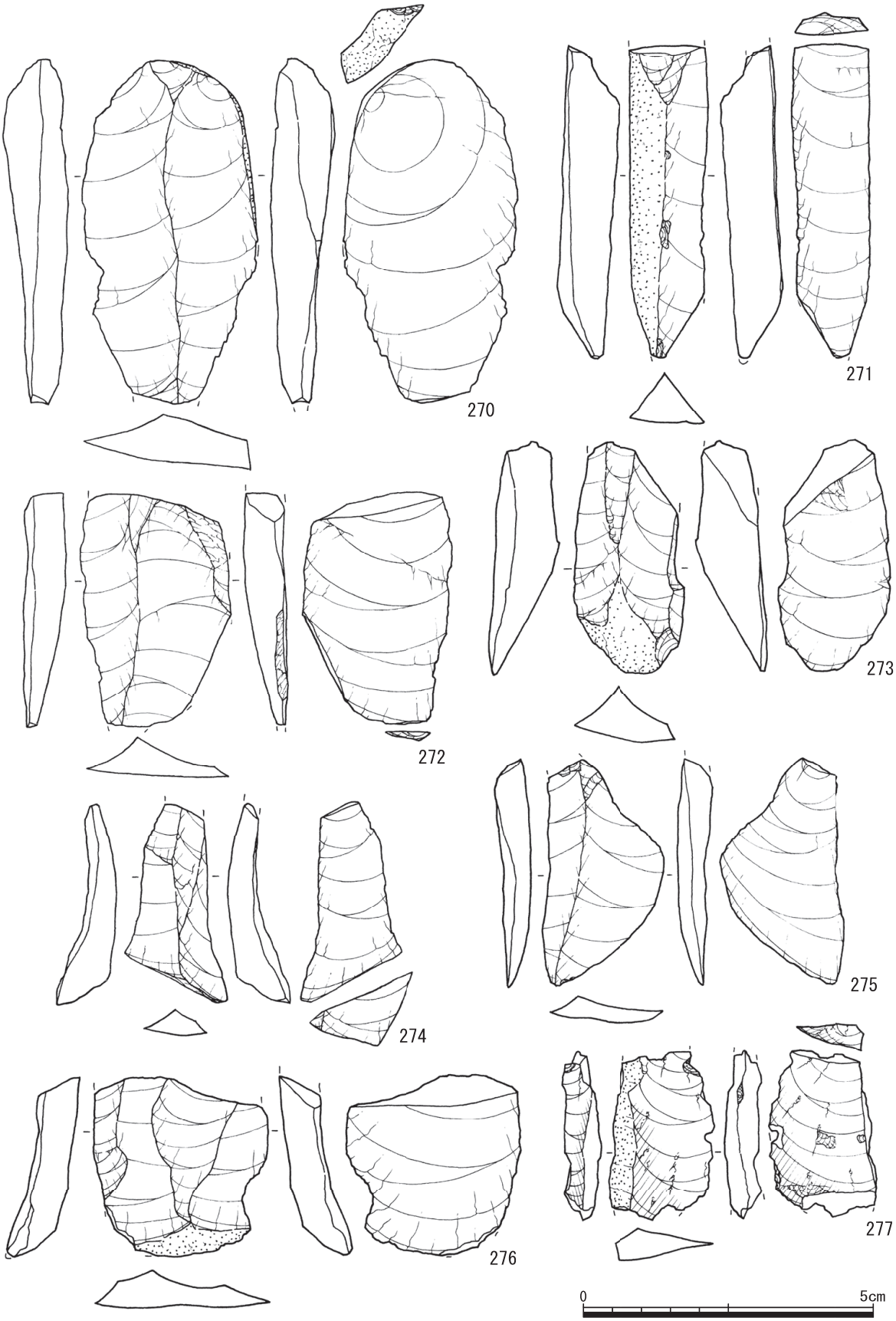


第156図　第Ⅲ文化層出土石器（31）



第157図　第Ⅲ文化層出土石器（32）

第158図　第Ⅲ文化層出土石器（33）



第159図　第Ⅲ文化層出土石器（34）

って各器種の大きさが決定されることが理解できよう。また、上端に残っている打面を見てみると、多くのものは複数の剥離で構成されている調整打面であったが、中には一枚の剥離で構成された平坦打面である可能性のあるものや（164・167・180・181・190・205・206・210・212・219・228）、自然面を打面としているもの（166・192・197・215・216・221・223）が目に付く程度は確認できる。したがって、基本的には石核に打面調整を施しながら石刃の作出を行っていることが理解されるが、中には殆ど打面調整を行うことなく石刃の剥離を行っている工程の存在も推定されることから、剥片剥離工程の中には簡略化されたやや雑な工程もあったことが予測できるものと思われる。ただ、自然面を打面としているものは石材が黒曜石やガラス質黒色安山岩のものに偏っており、打面調整を行わないのは石材的な何等かの特徴である可能性もあることから、意図的に行わなかったのかも知れない。

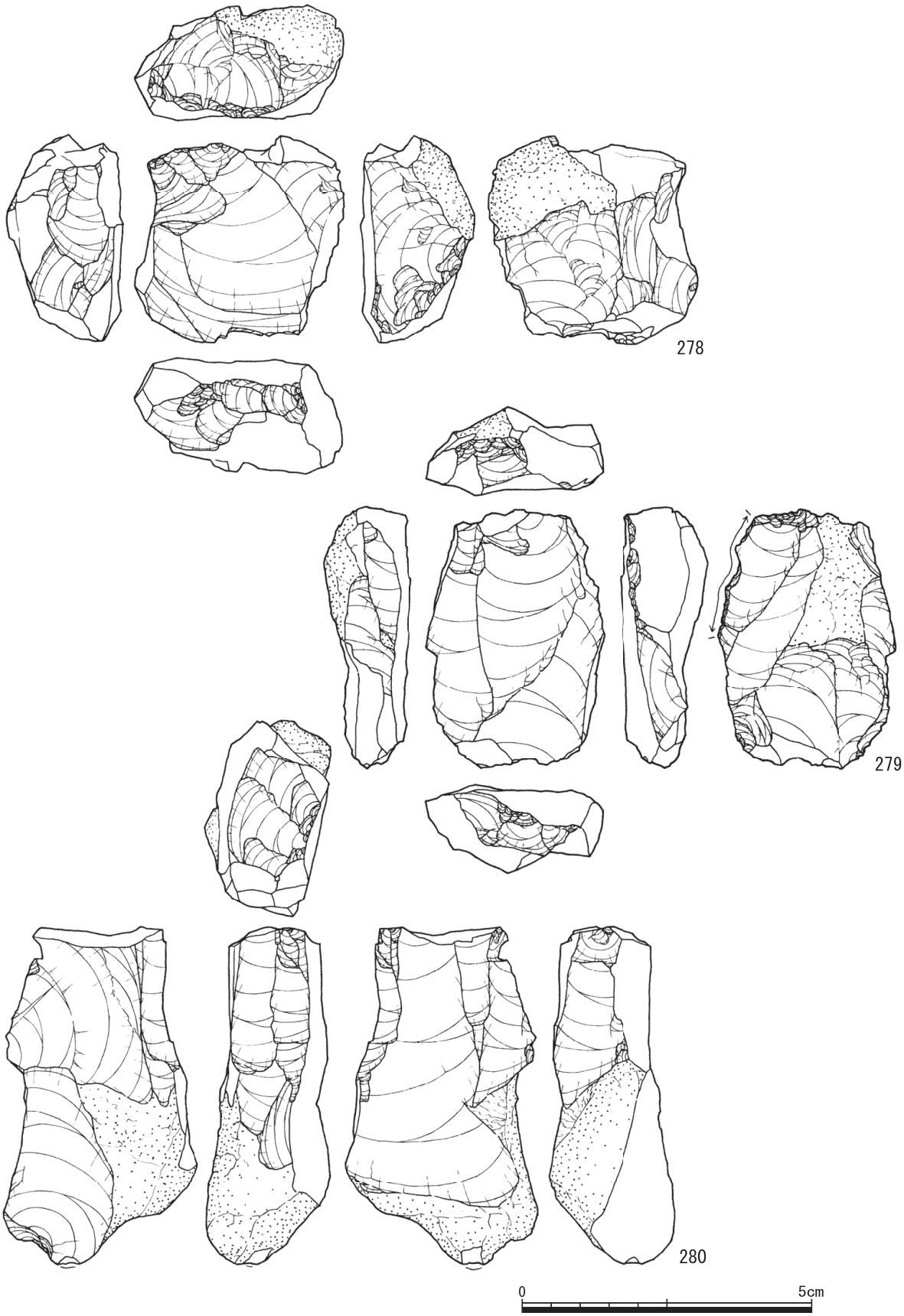
石　核（第160図278～第165図293）

17点が確認され、その内の16点を図示した。残りの１点はホルンフェルス製の石核で、風化、剥落が著しく、図化することが困難なため図示しなかったものである。図示した16点は、ａ類：両端に打面が設置された両設打面石核、ｂ類：上面に打面が設置された単設打面石核、ｃ類：剥片剥離の中に90度・180度の打面転位が行われているもの、ｄ類：礫素材で簡単な打面調整と剥片剥離が行われているもの、に大別される。

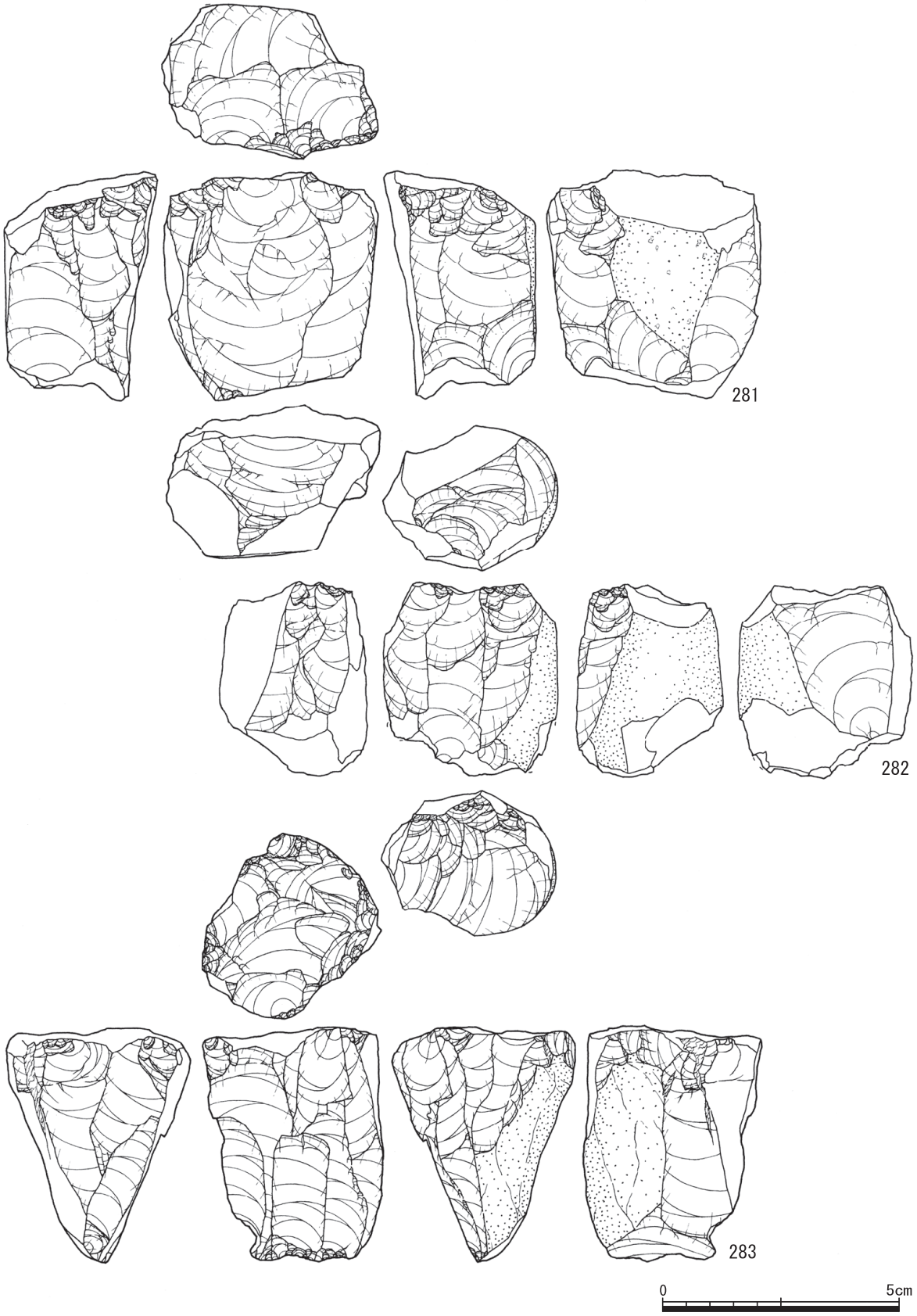
ａ類（第160図278～第161図283）

６点が確認されている。両端に明確な打面を形成されているもの（278・279・281・282）が多かったが、中には傾斜した裏面（283・284）や下端の突出した自然面を打面とした剥片剥離が施されているもの（280）があり、厳密な意味では両設打面石核ではないものも含んでいる。278は小形の石核で、正面には上設打面から、裏面では下設打面からの剥片剥離が施されているものである。ただ、正面の剥片剥離は右側面の剥離に、裏面の剥片剥離は下設打面と左側面の調整によって切られており、剥片剥離の中で最も新しい剥離と思われるものは正面上部の数枚の小さな剥離と､左側面に施された上設打面からの剥離であった。したがって、裏面の剥離は下設打面方向から施されているものの、剥片剥離の中では古い段階の剥離であり、石核調整である可能性もあるものである。そして、剥片剥離の中で頻繁に下設打面や右側面に調整が行われていることから、石核や打面に調整を施しながら剥片剥離作業が進められていることが理解できるものと思われる。

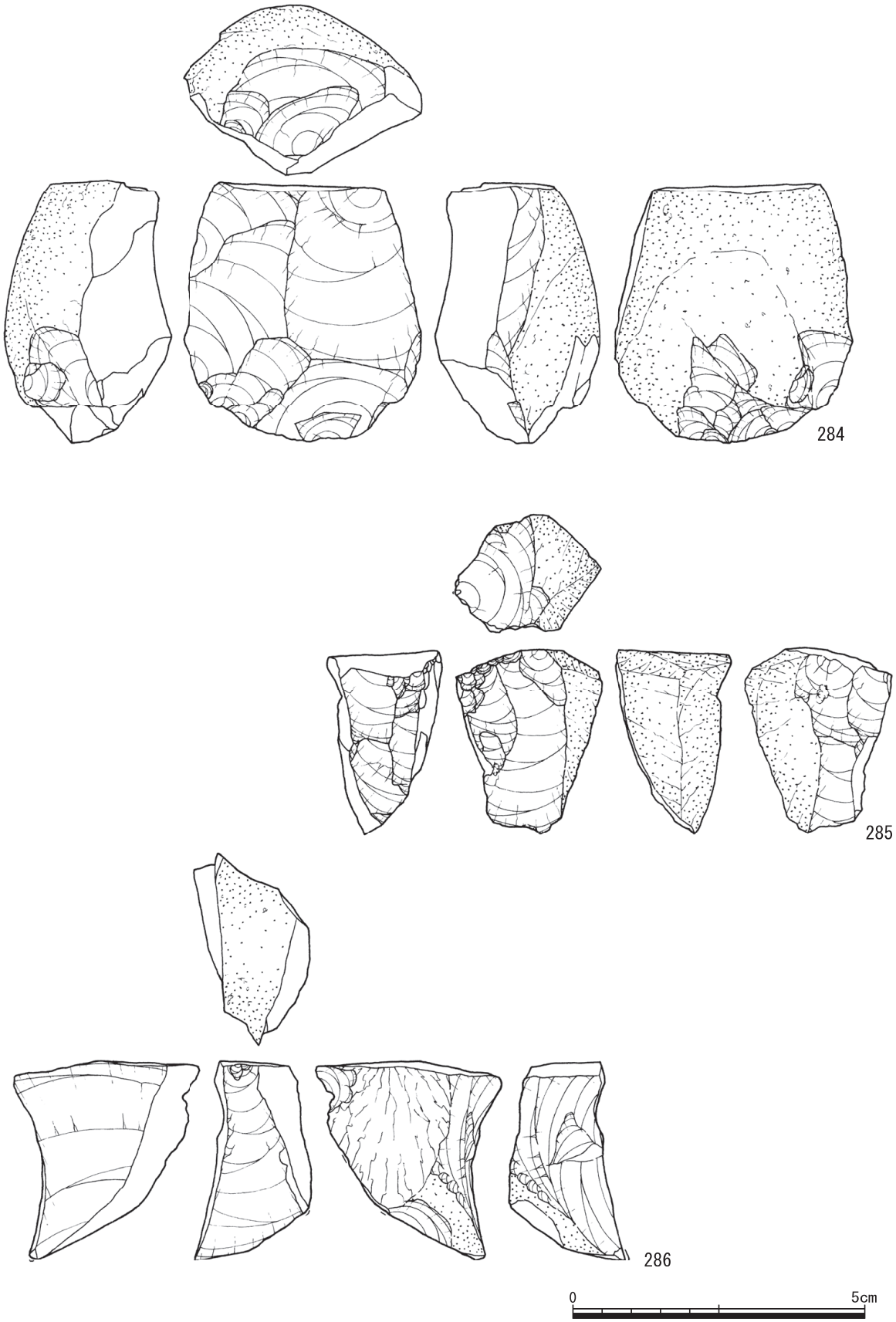
279は、表裏面と左側面に上下両打面からの剥片剥離が認められるもので、この中で最も新しい剥片剥離は裏面の上設打面からの剥離である。これ以外の剥片剥離の殆どは現在の上下打面によって切られており、頻繁に打面調整が行われていたことが判断されるものである。ただ、裏面と左側面の一部には自然面である礫面が残っており、この両面で多くの剥片剥離が行われたとは考えられないことから、上下両方向からの剥離が認められるものの、これらは石核調整を兼用するような剥離であったのかも知れないものである。したがって、剥片剥離の中心になったのは正面で、下設打面からの剥離を切って上設打面からの剥離が加えられており、180度の打面転位を行いながら剥片剥離が行われていたことが理解されるものである。なお、裏面の右側縁に使用で出来たと思われる微細な剥離が観察できるので、残核となった279を何等かの作業に使用していることが推定されるものである。280は正、裏面と左右両面の四面を剥片剥離作業面としたもので、この中で最も新しい剥離は正、裏面の上設打面から施されている小さな剥離であり、これ以外の殆どの四面に加えられている剥片剥離は上設打面の調整剥離に切られており、打面調整を行いながら剥片剥離作業が進められていることが理解される。これらの剥離以外では、左側面と正面に剥片剥離方向とは90度違う剥離が認められるが、この剥離は上設打面や自然面を打面とした下方からの剥片剥離によって切られており、石核



第160図　第Ⅲ文化層出土石器（35）



第161図　第Ⅲ文化層出土石器（36）

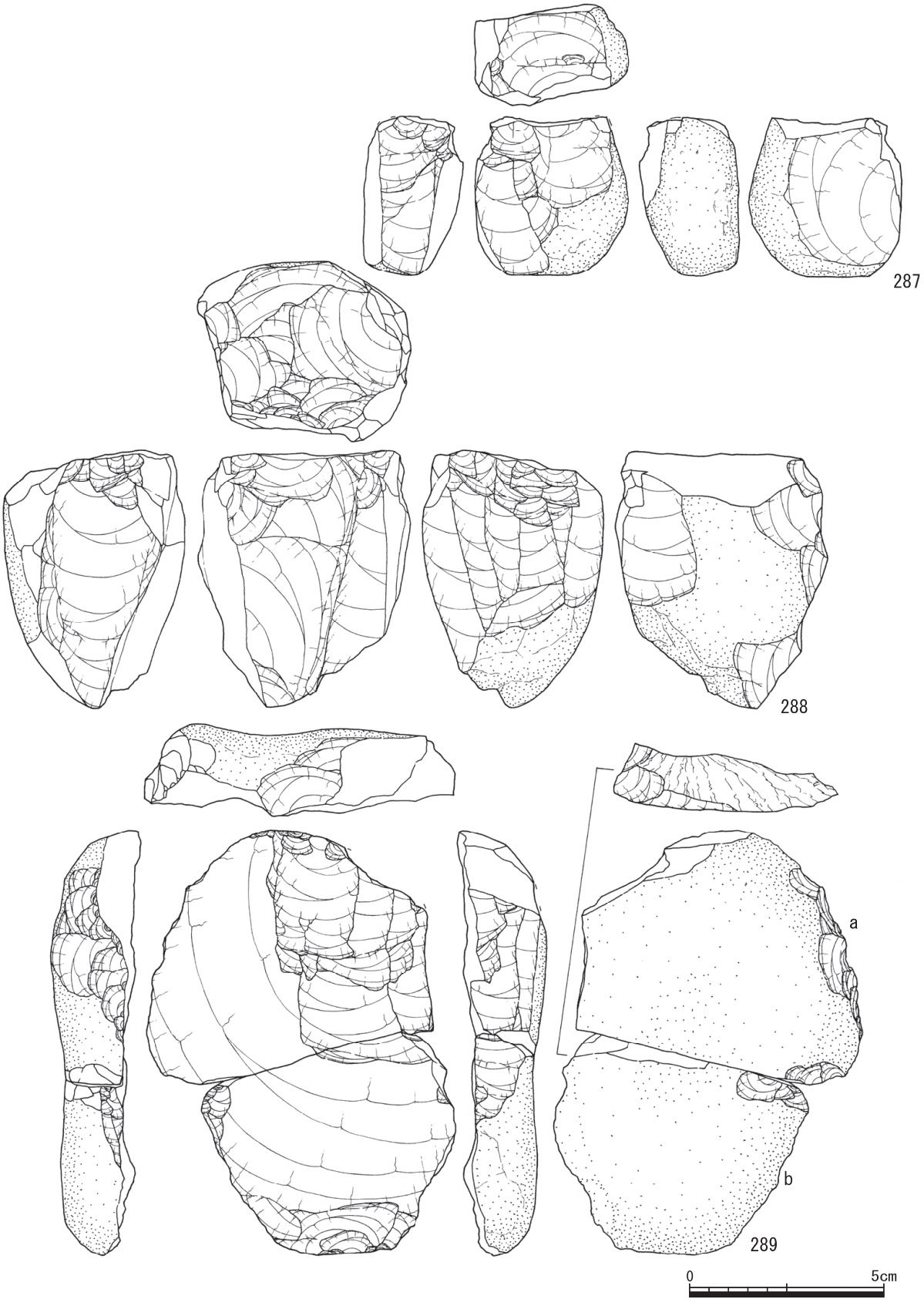


第162図　第Ⅲ文化層出土石器（37）

を構成している剥離の中では比較的早い段階の剥離であることが推定できることから、石核調整である可能性が高い剥離である。したがって、280には簡単な石核調整とともに上設打面が形成され、この打面から正、裏面と左右両面の四面に対して剥片剥離を行った後に、再度打面調整が行われており、打面を作り替えながら剥片剥離作業が進められていたことが理解されるものである。そして、これらの作業のいずれかの段階で自然面を打面とした下方からの剥片剥離が施されており、剥片剥離の中に下設打面からの剥離も組み入れようとしたものか、或いは石核調整のために施された剥離かも知れないものである。281は両端に打面を設置した両設打面石核で、正面と左右側面を剥片剥離作業面としているものである。ただ、正面の剥離は上設打面からの剥離に限られていたが、左右両面では上下両打面からの剥離が認められており、これらの面では正面のように剥離方向が限定されていなかったことが分かる。そして、左右側面の下設打面からの剥離は現在の下設打面によって切られ、下設打面は正面の剥片剥離によって切られていた。さらに、左側面の下設打面からの剥離は現在の上設打面からの剥離に切られ、右側面の下設打面からの剥離は上設打面からの古い剥離を切っている状態であり、頻繁に打面転位を行いながら剥片剥離が行われていると同時に、打面調整が行われていることが推定できるものと思われる。282も両端に打面を設置している両設打面石核で、正、裏面と左側面の三面を剥片剥離作業面としているものである。正面の上設打面からの剥離の殆どは現打面から加えられたもので、これらの剥離によって正面の下設打面からの剥離が切られていたが、この下設打面からの剥離は現在の下設打面の打面調整によって切られていた。左側面の上設打面からの剥離は、裏面の下設打面からの剥離によって切られており、282も上下の打面転位を伴う剥片剥離を行いながら、必要に応じて打面調整を施す工程であったことが推察できるものと思われる。 283は上設打面は形成されているものの、下方からの剥離は傾斜した裏面の末端を打面に転用しているもので、変則的な両設打面石核である。正、裏面と左右両面の四面が剥片剥離作業面となっているが、右側面と裏面には自然面が残っており、正面と左側面が主体的な剥片剥離作業面であったことが推定されるものである。そして、正面と左右側面に残る剥片剥離の多くは下設打面からの剥離に切られており､最終的な剥片剥離は下設打面から施されていることが判断される。正面右側の上設打面からの剥離は、下設打面からの剥離を切っているものの、これより新しい下設打面からの剥離に切られており、明確な下設打面は形成されていなかったが、打面転位を行いながら剥片剥離が進められていたことが推定できるものである。

ｂ類（第162図285～第163図289）

上面に打面が形成された単設打面石核で、５点が確認された。285は、正、裏面と左側面を剥片剥離作業面としているもので、正面と左側面の一部の剥離は現在の打面である平坦打面から施された剥離であるが、左側面や裏面の剥離の殆どは現打面の作製時に切られており、打面の再生を行いながら剥片剥離が行われていることが推定されるとともに、細かな剥離の打面調整は施されなかったことが窺えよう。そして、打面の半分程は自然面で構成されていることから、打面再生剥離以前の打面は礫面を打面とした自然打面であったことが想像されるものである。286は厚手の折剥片を石核に転用したもので、剥片剥離作業面は正面だけに設定されている。打面は自然面で、正面に一枚の剥片剥離が加えられている以外は、右側面上部に剥離が認められるだけであった。したがって、石核となった素材を半截するような剥片剥離以外には調整は殆ど施されていないものであり、極めて特徴的な石核であることが理解されるものである。287は正面と左側面を剥片剥離作業面とした石核で、上設打面は複剥離打面が形成されていた。裏面は平坦な一枚の剥離で形成されているとともに、左側面の剥片剥離に切られていることから、剥片剥離以前の剥離であることが推定されるものである。したがって、裏面の剥離は石核形成のために自然面の除去を目的として施されたものと考えら

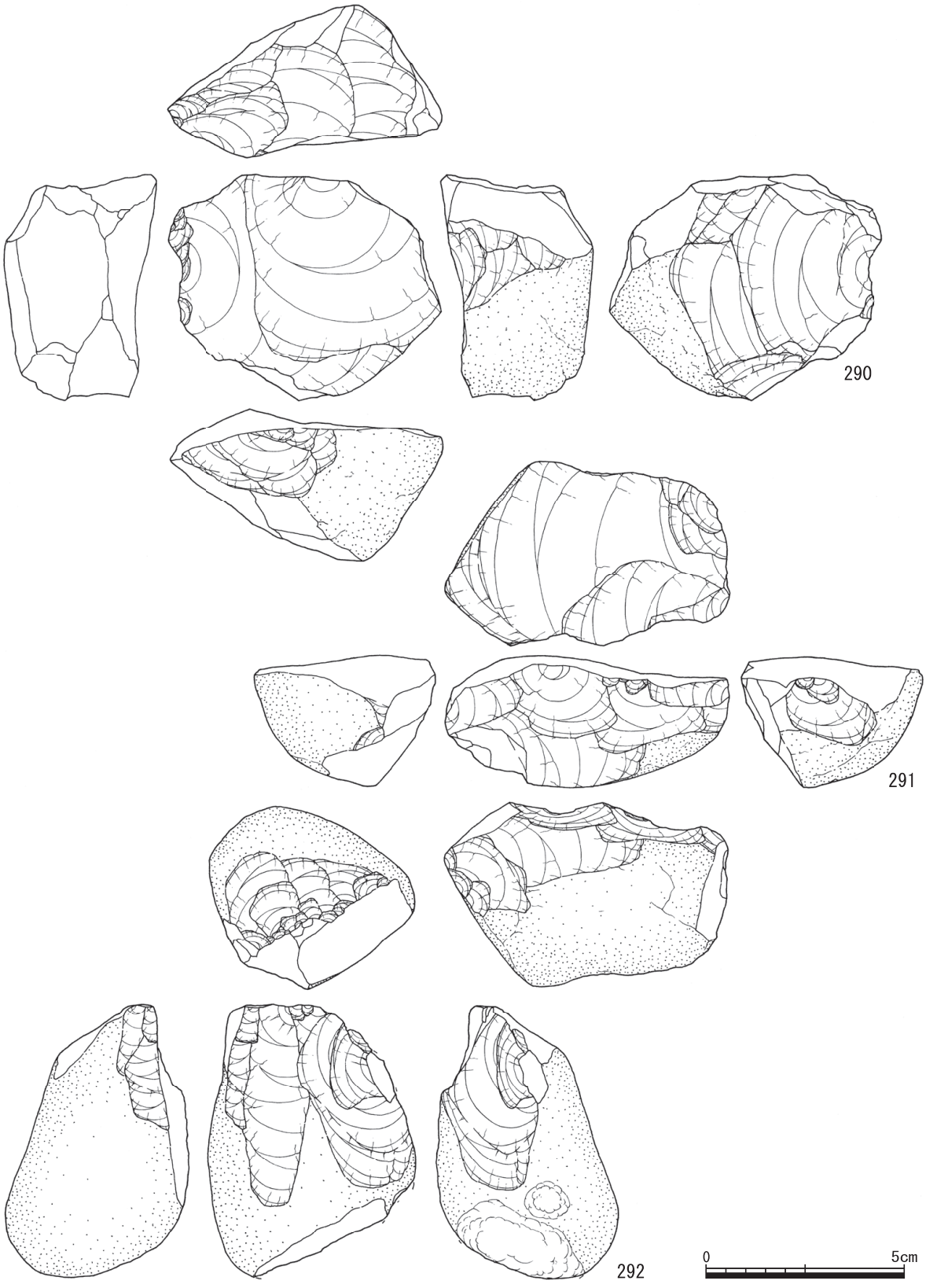


第163図　第Ⅲ文化層出土石器（38）

れ、剥片剥離とは異なる剥離であることが推定できるものと思われる。ただ、礫面を一部に残している正面や、裏面の剥離痕にはネガティヴ・バルブの一部が残っていることから、剥片剥離作業面である正面と左側面で多くの剥片が生産されているとは考えられない状況にある。以上のような推定から、287には、簡単な打面調整と剥片剥離を施すだけの極めて簡略化された剥片剥離工程が行われていたことは明らかで、生産された剥片数も僅かであったことが想定できるものである。288は正面と左右側面を剥片剥離作業面としているが、右側面下部と裏面に自然面を残しているものである。そして、正面と裏面には石核調整と考えられる、剥片剥離とは90度剥離方向の違う剥離が認められており、この剥離痕を切るようにして正面と左側面に上設打面からの剥片剥離が施されていたが、まだ広範囲に90度剥離方向の違う剥離が残っている。したがって、正面と左側面では多くの剥片剥離を行っている可能性は低く、両面で継続的に剥片剥離が行われていたとは考えられない状態である。また、正面と左側面の両面に剥片剥離方向と90度違う剥離が施されていることは、両面で形成される角部に稜部が作出されていたことが推定されることから、左側面から所謂稜付き石刃が剥離されていることが推定できるものである。したがって、比較的多くの剥片剥離が行われているのは右側面であるが、この面に施された新しい剥離の多くが階段状剥離となってしまっており、剥片剥離を継続することが難しいことから放棄されてしまったことが推察されるものである。ただ、右側面から裏面にかけて剥離された剥離面ではネガティヴ・バルブの上部が打面調整によって切られていることから、剥片剥離の進行とともに打面調整も行われていたことが理解できるものと思われる。289は大形厚手の剥片を利用した石核で、内在していた節理面によって欠損したものが接合したものである。ただ、石核下半の289ｂには欠損後に数回の剥離が加えられているため、加工痕のある剥片として分類されていることから、289は石核（289ａ）と加工痕のある剥片の接合例である。素材は大形の横長剥片であるが、打面部は打面調整や風化のために剥落している部分があるため、形状は明確には捉えることができないものである。剥片剥離は正面と右側面にかけて行われ、10枚強の剥片が剥離されていることが判断されるが、剥片素材という石核の制約のためか大形の剥片の作出には至っていないことが看取されるものである。この様な現状を打破するためか左側面にも荒い調整を施し、新たな打面を形成しているようであるが、この打面からは剥片剥離を施すことなく剥離作業が終了してしまっているものである。したがって、剥片剥離時か左側面の調整を施している時に289ｂが欠損し、石核としての利用は放棄されたことが推定できるものである。なお、石核下端からの数回の剥離が認められるが、この剥離は石核の素材剥片を作出した時の衝撃剥離と思われる剥離であり、素材剥片の分割には両極打法のような方法が採られていたことが想像されよう。また、289の欠損後、289ｂには欠損面である節理面を打面とした剥離が左側の表裏面に施され、欠損面にも右側面を打面として数回の剥離が加えられている。しかし、このような剥離では289ｂを再度石核に転用しようとしたとは考えられず、剥離の目的を推察するのは難しい状態である。このような内容から、289ｂは何等かの調整が施されたことは明らかなため、加工痕のある剥片として理解したものである。

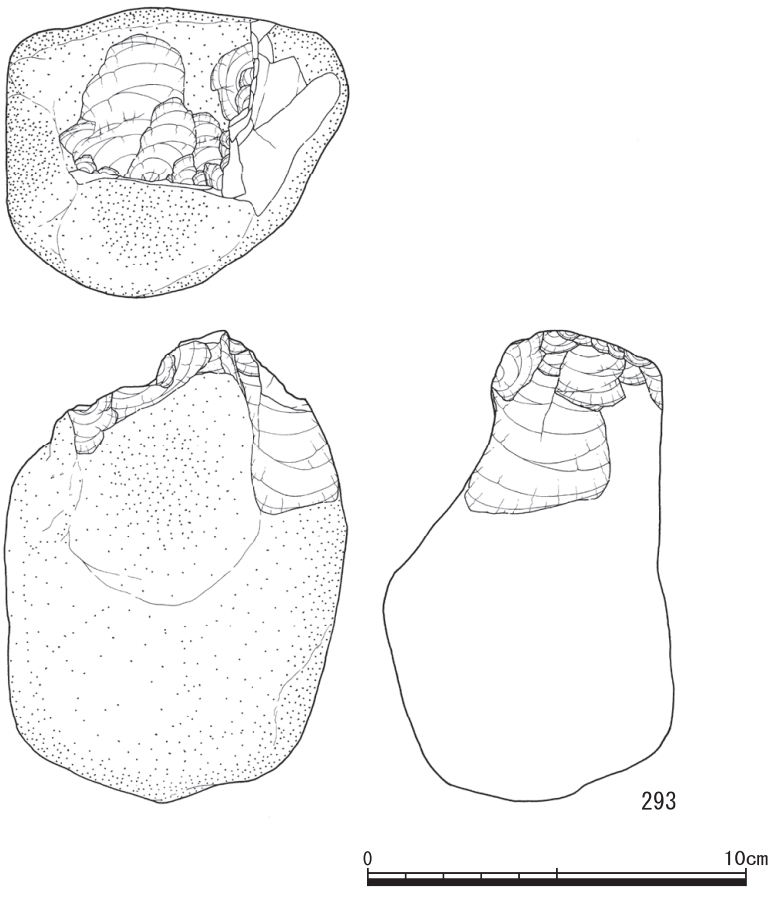
Ｃ類（第162図284・第164図290・291）

剥片剥離作業を90度、180度の打面転位を行いながら進められているもので、３点が確認された。284は拳大の礫を素材とした石核で、上面には数回の剥離で構成される複剥離打面が形成され、裏面下端には正面を打面とした荒い調整を施し、この調整面を下設打面として正面に上下二方向から剥片剥離が加えられているものである。これら上下方向の剥片剥離の前には、左側の自然面や下縁にかけての調整面を打面とした剥離が正面に施されており、正面一箇所の剥片剥離作業面に対し上下と左側の三方向の剥片剥離が施されているものである。一般的に90度の打面転位を行っている石核では、打面が移動するに従って剥片剥離作業面も他



第164図　第Ⅲ文化層出土石器（39）

の面に変更されることが多い。しかし、284では180度の打面転位と同様に90度の打面転位でも同じ剥片剥離作業面で剥離を行っており、極めて特徴的な剥片剥離方法が行われていた。そして、この様に剥片剥離作業面が限定されているものの、剥片剥離方向が限定されていない工程では定形的な剥片を生産することは難しいことが予測されるものである。したがって、剥片剥離技術としては生産される剥片の内容が流動的であることが推定されるとともに、各方向の剥片剥離に対応する打面が作製されていないなど、簡略化した剥片剥離技術であることが窺えるものである。290も正面では上設打面と左側縁から、裏面が右側縁と下設打面方向からの剥片剥離が認められるものである。さらに右側面にも調整剥離が施されているが、この面を利用して剥片剥離は行われていないことから、右側面は打面として意識されていたかどうかは不明である。剥片剥離の中で最も新しい剥離は上設打面からの剥離であり、その前に施されている左側縁からの剥離とともに上下の打面と右側面の一部を切って施されているが、これらの剥離に関連する打面調整などは施しておらず、剥片剥離だけが行われた状態を示していた。そして、上下左右に形成されている調整面や縁辺から剥離方向を限定することなく剥片剥離が行われているが、剥離された剥片は定形剥片には程遠い不整形のものであることが推察されるものである。したがって、290は石核ではあるものの、剥片剥離方向が限定されていなかったり、打面調整を行わなかったりと、一般的な石核とは大きく相違するものであり、極めて特徴的な石核であったことが理解されるものと思われる。291は厚手の縦長剥片を転用した石核で、右側面側が縦長剥片の打面部に相当する。剥片剥離は、縦長剥片の主要剥離面（図では上面）を打面とした剥離が正面に、素材の打面部を調整して形成された右側面の打面から、上面の主要剥離面に対して数回の剥離が施されているものである。正面に施されている剥離は、上面の剥離の一部に切られていることから、上面に加えられた剥離の方が新しい可能性があり、これら二面の剥片剥離作業面で剥離作業を行うには、少なくとも一回の90度の打面転位が行われていることが理解されよう。この様に291では二面の剥片剥離作業面を設定し、これら二面に対して剥片剥離が行われていたが、剥離された剥片は大きさも形状も不揃いなものであり、目的的な剥片を作出しているとは考えられない工程であった。したがって、剥離された剥片を素材として利用することは極めて難しい状況であることから、石核としてのあり方が明確には捉えられないものであった。



第165図　第Ⅲ文化層出土石器（40）

ｄ類（第164図292～第165図293）　礫素材の石核で、打面調整と剥片剥離が行われているものである。292は礫の端部に打面が形

成され、これを打面とした剥片剥離を正面に複数回行っているものである。ただ、この剥片剥離の上端は打面調整によって切られており、これは新たな剥片剥離の準備のためと考えられるものの、打面調整が二回に別れて施されていた確証はないことから、正面の剥片剥離が上設打面を作製するための打面として利用されていた可能性も皆無ではないものと思われる。しかしながら、現状ではこれらの前後関係を明確に捉えることは難しいものの、少なくともそれぞれの面を剥片剥離と打面調整のために有効的に利用し、剥片剥離が進められていたことが理解できるものと思われる。なお、右側面側から剥片剥離作業面を抉り取るような剥離が施されているが、自然面除去等の石核調整とは考えられるものの、調整目的の判然としないものである。また292は焼成を受けて赤化しており、下端も火撥ねによって剥落が認められる。293も礫の一端に打面が形成され、正面と右側面に剥片剥離が施されているものである。しかしながら、剥片剥離は大雑把なもので大部分が階段状剥離となってしまったことから､剥片剥離を継続することなく放棄されてしまったものである。

（２）接合資料

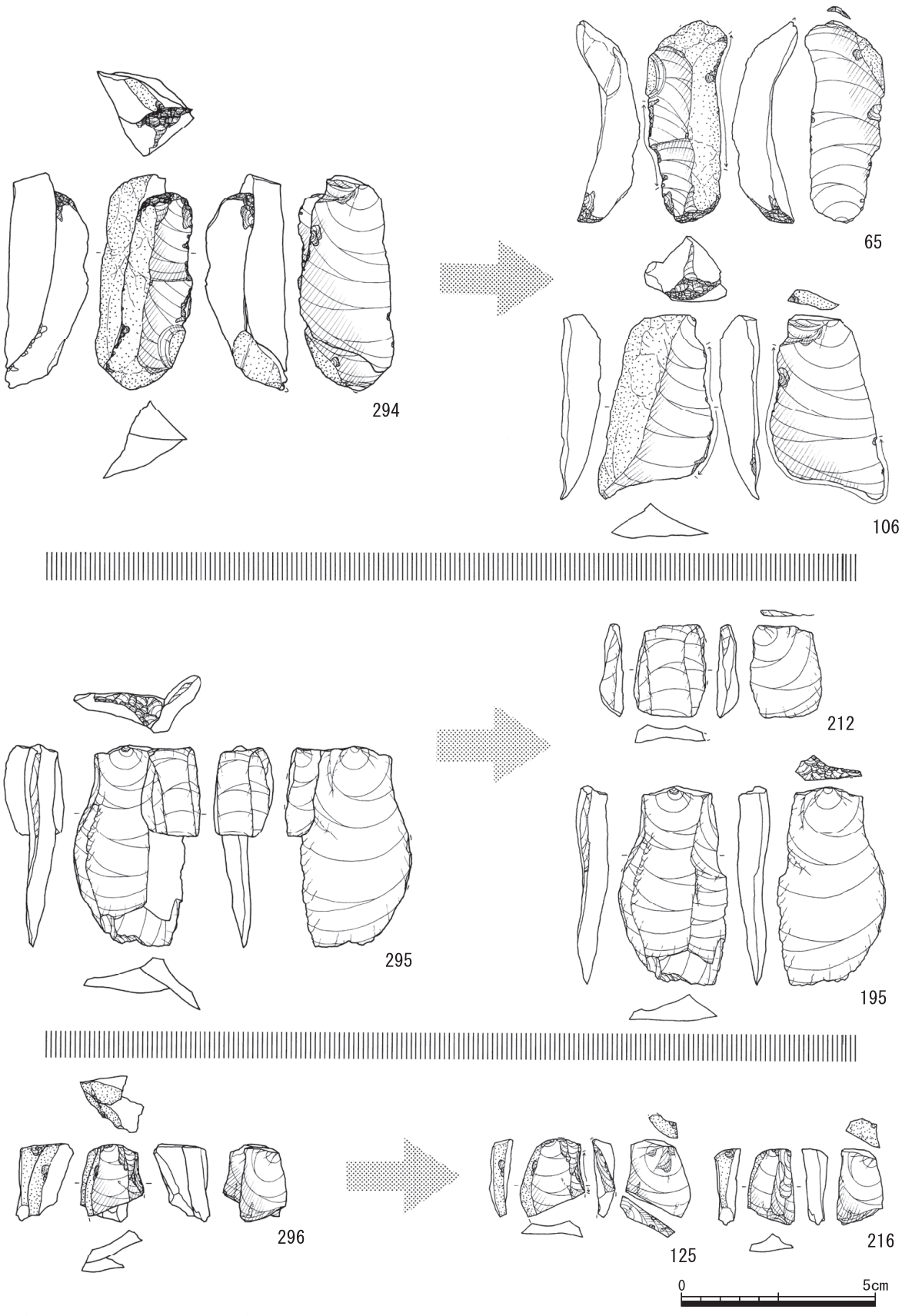
本文化層で確認された接合資料はそれほど多くなく、多量の資料が接合するような状態のものも確認されなかったが、それらの中から幾つかの特徴のある接合資料を図示した。

個体別資料番号№220の接合（第166図294・65・106）

掻器（65）と使用痕のある剥片（106）の接合で、294はこれらの接合状態である。接合状態294を看ると、65と106は同一打面から連続して剥離されていることと、これらが剥離される前にも同一打面から二枚以上の剥片剥離が行われていたことが、65の剥離痕から推察することができる。最も新しく剥離された106は自然面を打面として剥離されており、それ以前に剥離された65を含めた数枚の剥片も同じように自然面打面から作出されていることが想定されるものの､剥片剥離前に細かな剥離で打面調整を施すものがあることから、これらの剥離の全てが自然面を打面として剥離されたものかは断定できないものである。したがって、打面調整を行っていたかは明確には捉えることはできなかったが、ほぼ同一打面から少なくとも四枚の剥片剥離が同一方向に向かって行われたことが理解されるとともに、剥片剥離方向が限定されていたことが窺えるものと思われる。

個体別資料番号№189（ａ）の接合（第166図295・212・195）

石刃２点（212･195）の接合で､295はこれらの接合状態である。石刃は212､195の順で剥離されていたが、212は剥片剥離時に二分割してしまったものの打面側であり、末端部は確認されていない。そして、212の欠損面はヒンジ・フラクチャー状になっており、見た目では完存する寸詰まりの石刃であるが、接合状態をみると倍程度の大きさの石刃であったことが分かる。両者の打面はほぼ同一面と思われるが、212は平坦打面、195は調整打面から剥離されており、同じ打面であっても剥片剥離の場所によって打面の調整状態に違いがあったことが理解されよう。接合状態295を見ると、212と195が剥離される前にもこの２点と同じ方向の剥片剥離が複数回行われていることと、これらの剥離に前後するように左側面側から石核調整と思われる数回の剥離が施されている。さらにこれらの剥離以前には、212の中央から右側面にかけて下設打面からの剥離が認められており、剥片剥離は上下両端に打面を設置された両設打面石核で行われていたことが理解されるものと思われる。したがって、本資料では上下に打面を設置した石核から180度の打面転位を行いながら剥片剥離が進められていることと、これら剥片剥離に関連した打面調整や石核調整と思われる剥離を施して剥片剥離工程が進められていたことが、推定されるものと思われる。



第166図　第Ⅲ文化層出土石器（41）

個体別資料番号№６の接合（第166図296・125・216）

使用痕のある剥片（125）と、寸詰まりな石刃（216）の接合で、これらの接合状態が296である。２点とも自然面である同一打面から剥離されているが、その間では最低でも一枚の剥片が同一打面から剥離されていることと、296の正面にも125剥離前に同じ打面から行われた剥離が認められており、これらを含めれば最低でも５枚の剥片が同一打面から剥片剥離されていることが分かる。しかし、前にも触れたように打面は自然面であり、296の左側面にも自然面が残っていることから、打面調整や石核調整を施すことなく剥片剥離が行われていたことが推定されるものと思われる。したがって、剥片剥離方向を限定して剥片は量産されてはいるものの、剥片剥離工程としては簡略化された工程で剥片剥離が進められていたことが窺えるものである。

個体別資料番号№182の接合（第167図297～299・188・101）

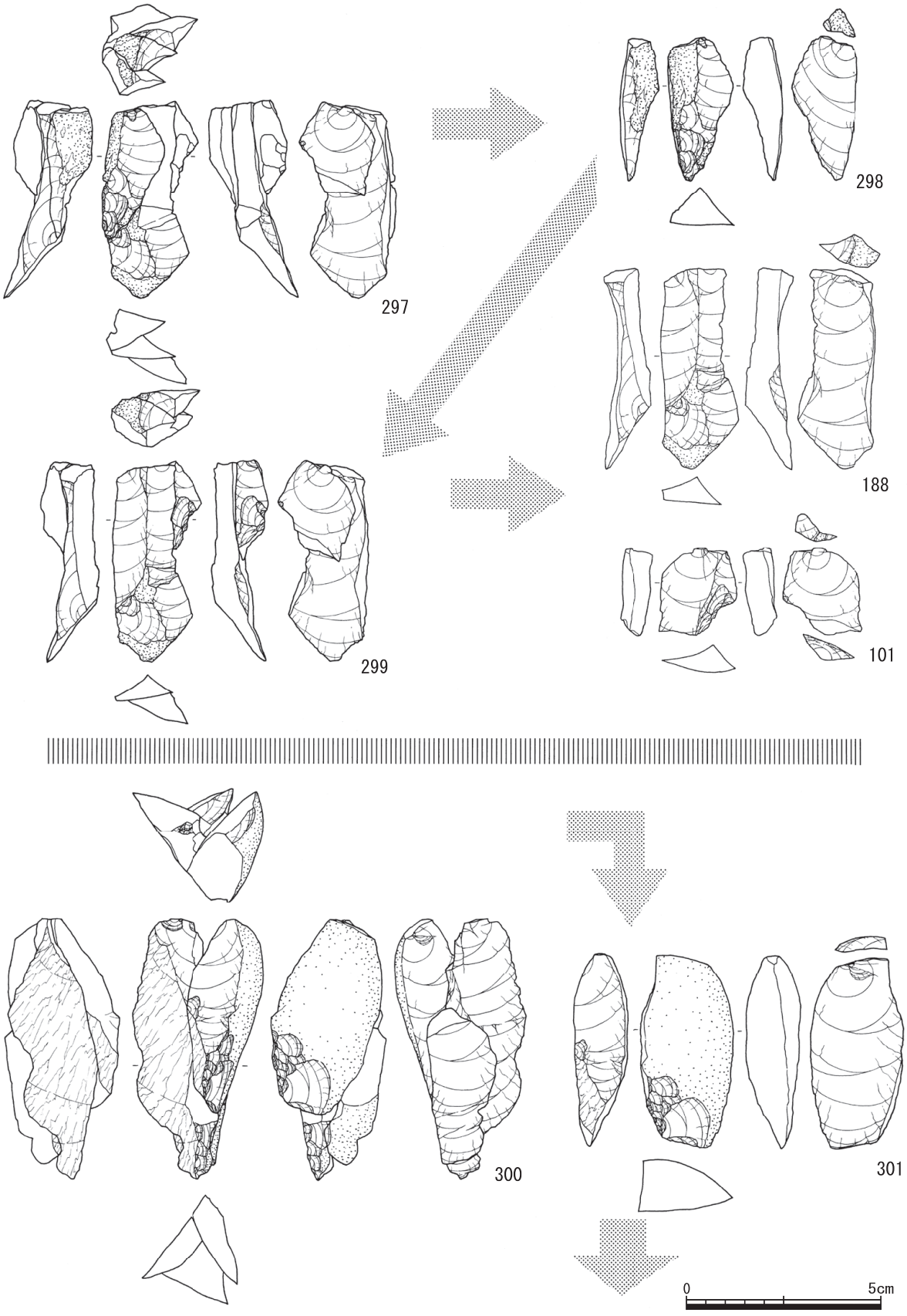
縦長剥片（298）、石刃（188）、加工痕のある剥片（101）の３点の接合で、297がこれらの接合状態であるが、中間図として188と101の接合状態も示してある（299）。接合状態297を見てみると、これら３点が一枚の剥離と自然面で構成された同一打面から剥離されたことが分かるとともに、298を剥離する前には一枚、188の剥離前には３枚、101の剥離前にも最低でも一枚、合計すると少なくとも８枚の剥離が同一打面より施されていることが分かる。そして、これらの剥片剥離を行う前には左側面に石核素材を分割するような剥離と、この分割面を打面とした荒い調整剥離が正面の下半に施されており、これは石核を形成する際に稜部を作出しているものと推察されるものである。したがって、298は形状は整ったものではないが稜付き石刃と同じ目的で剥離されたものと考えられ、剥片剥離の中では最も早い段階で剥離されたものの一枚であることが理解されるものと思われる。ただ、これらの接合資料から類推される剥片剥離工程は、打面調整を施していなかったり、稜の作製も一部分であったりと精密さを欠く内容となっており、全体的には簡略化された工程によって剥片剥離が行われていることが想像できるものと思われる。

個体別資料番号№159の接合（第167図300～第168図303）

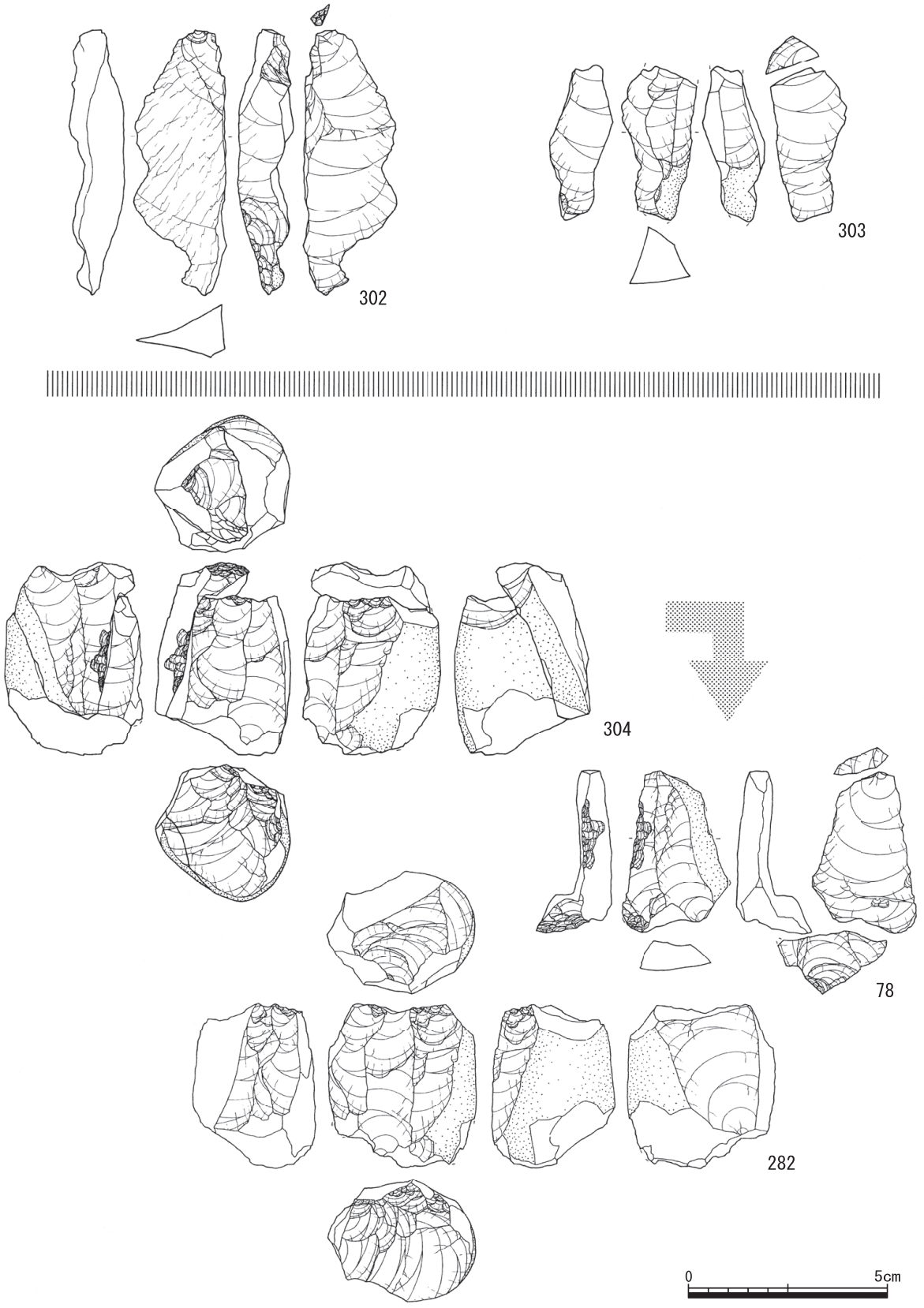
縦長剥片２点（301・302）と、折剥片（303）１点の接合で、これらの接合状態が300である。301には平坦打面が、302は調整打面が残っているが、両者はほぼ同一面を打面として剥離されていることから、302の調整打面は302の剥離前に、302の剥離に関連して行われた可能性が高いものと想像されるものである。３点は301→302→303の順に剥離されているが、301の剥離前と302の剥離前にもこれらと同じ打面から剥片剥離が加えられており、少なくとも合計５点の剥片剥離が行われていたことが判断される。そして、これらの剥片剥離が行われる前には、左側面を構成している節理面を打面とした調整と、301の前に剥離された剥離痕を打面とした調整が右側面側に施されており、これも石核に稜部を作製するための調整であった可能性が高いものと思われる。したがって、剥離されている剥片が縦長剥片で、しかも明確な石核調整が施されていない状態ではあったが、打面調整や稜部の作製が認められるとともに剥片剥離方向も一定していることから、前述した個体別資料番号№182と同じ剥片剥離技術が使われていることが理解されるものと思われる。そして、このように同じ剥片剥離技術が利用されていても、剥片剥離の早い段階では多くの縦長剥片が生産されていることが理解されるものである。

個体別資料番号№176の接合（第168図304・78・282）

石核（282）と削器（78）の接合で、304がこれらの接合状態である。石核（282）に加えられている中で



第167図　第Ⅲ文化層出土石器（42）



第168図　第Ⅲ文化層出土石器（43）

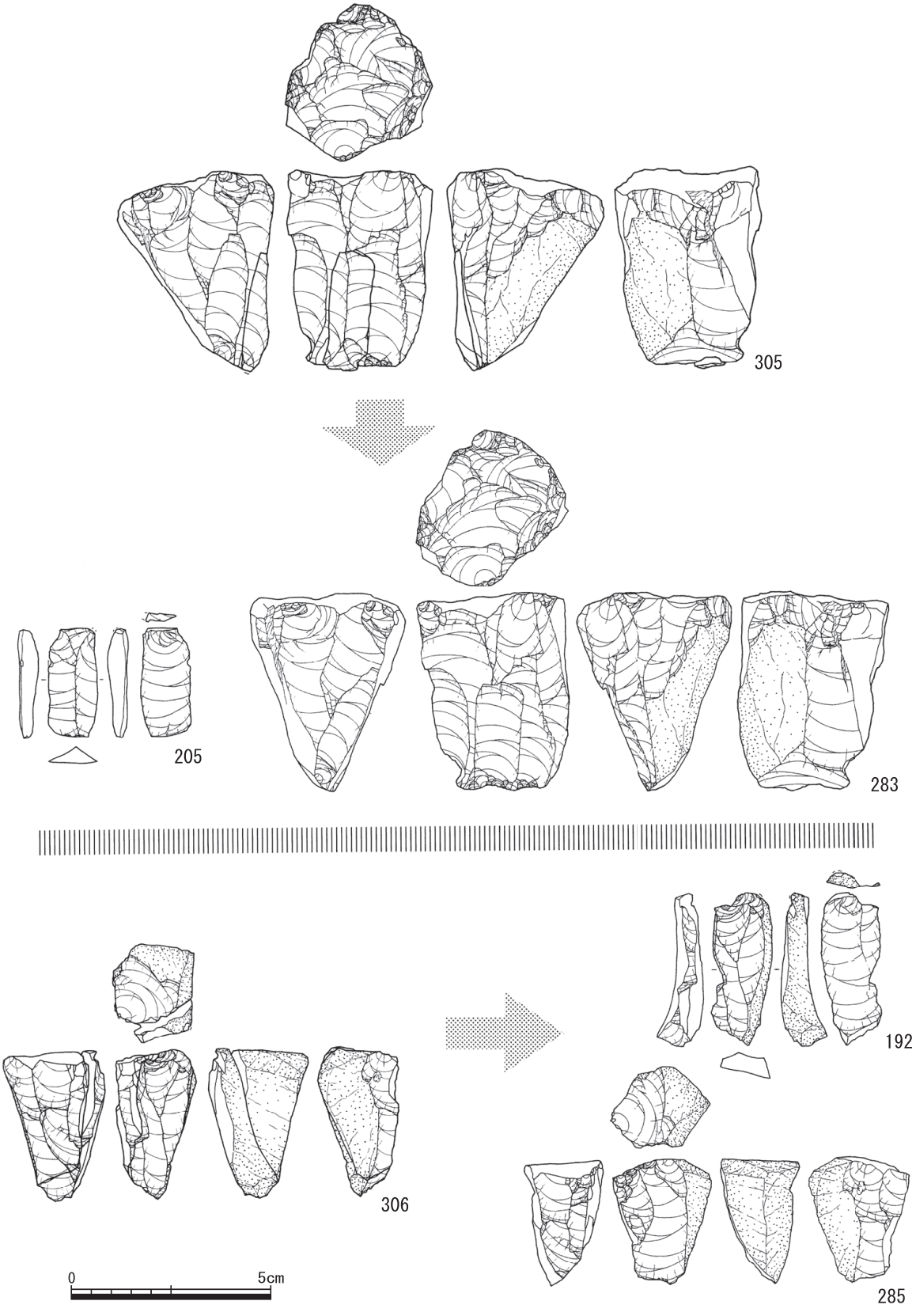
最も新しい剥離は、上設打面から正面と左右側面に施されている剥離であるが、その前にはこれらの剥離に切られた下設打面からの剥片剥離か認められている。この下設打面からの剥離と前後するように78が下設打面から剥離されているとともに、剥離後には上設打面に大規模な打面調整が施されている。そして、78の末端には旧上設打面の一部が残っており、この旧上設打面からの剥片剥離痕が78の正面と282の左側面に形成されていることが観察できる。以上のような剥片剥離の前後関係から大雑把な剥片剥離の順序をたどれば、旧上設打面からの剥片剥離→下設打面からの剥片剥離→上設打面の調整剥離（下設打面の調整も行われた可能性が高い）→現上設打面からの剥片剥離と推移しており、打面を180度転位しながら剥片剥離が進められていることと、剥片剥離に何等かの支障が生じた場合には打面調整を行って原因の修正が行われたことが想定できるものと思われる。

個体別資料番号№189（ｂ）の接合（第169図305・205・283）

石刃（205）と石核（283）の接合で、両者の接合状態が305である。そして、これらとは接合しなかったが前述した個体別資料番号№189（ａ）の接合も同一個体別資料に分類されている。石刃205は石核283から剥片剥離された最後の石刃で、裏面にかけて形成された傾斜打面の下設打面より剥離されている。ただ、この下設打面は石核の下端に明確に面形成された打面ではないため、厳密には下設打面とは言えないかも知れないものであるが、機能的には傾斜打面であっても充分に下設打面の用途が果たされていることから、このような状態のものも下設打面として理解したのである。そして、205は裏面にかけて形成された傾斜打面より剥離されているが、この傾斜打面は一枚の剥離で形成された平坦打面であり、この面の一部を取り込む状態で作出されている。さらに、下設打面からは205を含めた複数枚の剥片剥離が施されているが、上設打面が多くの打面調整を行っているにも関わらず、下設打面には打面調整を施していた痕跡が認められない状態であった。このように状況的には両端に打面を持つ両設打面石核ではあったが、形成されている打面の形状や打面調整の有無など打面によって大きな状況の相違が認められていた。しかしながら、剥片剥離は上下の打面より大きな滞りは感じられない状態で進められており、打面の形状が違っても剥片剥離には大きな障害にならなかったことが理解できると思われる。

個体別資料番号№143の接合（第169図306・192・285）

石刃（192）と石核（285）の接合で、306がこれらの接合状態である。192は306の正面から剥離されているが、それ以前には192の正面から306の左側面にかけて10枚前後の剥片剥離が行われている。192の剥離後には、石核285に一枚の打面調整と正面と左側面にかけて複数の小さな剥離が施されているが、良好な剥片剥離が行われることなく放棄されてしまったものである。306の接合状態を見ると、右側面や裏面、上設打面には大きく自然面が残っており、この接合資料の素材となったのは小形の礫であったことが推定される。そして、192剥離以前には306に打面調整が施されていた形跡を認めることができないことから、306の正面と左側面に施されている剥片剥離は自然面を打面として行われていたか、或いは剥片剥離の直前に細かな打面調整を施している程度のものと考えられることから、大きな剥片を剥離するような打面再生は行われなかった可能性が高いことが推定されるものと思われる。このようなあり方は、石核素材が小形であり、剥片剥離作業面の長さをこれ以上短くしたくなかったことに起因するものと考えられることから、剥片剥離作業面には35mm以上の大きさが求められていたことが想像されるものである。



第169図　第Ⅲ文化層出土石器（44）

（４）個体別資料の分布について

本文化層を構成していた石器類は、ブロック内外合わせて763点で構成されている。これらは個体別資料に分類によって複数の石器点数で構成されていた111種類の個体と、同一の個体別資料が確認されなかった145点（個体）の単独個体別資料に分類され、合わせて256個体の個体別資料として認識された。ブロック内外での内訳は、ブロック内が757点、ブロック外が６点で、ブロック外の内４点はブロック内に同一個体別資料を分布させており、合計761点がブロックを構成していた個体別資料として認識できる個体であり、残りの２点（個体）はブロック内に同一の個体別資料が認められなかったものであるが、第Ⅰ～第Ⅱ文化層のブロックに比べると、第Ⅲ文化層のブロックの近くで確認されていることから、本文化層の構成石器として理解したものである。そして、ブロック内で確認された143点（個体）の単独個体別資料も、ブロックを構成する石器類として存在していることが判断できることから、多くの石器類がいずれかの場所（遺跡・ブロック・河原等）で剥片剥離や石器加工作業を終了させた状態で、本遺跡に持ち込まれたものであることが推定できるものである。したがって、ブロック外で確認された単独個体別資料の２点も、このような状態で遺跡内に持ち込まれたものである可能性があり、単独個体のあり方からも本文化層を構成する石器類として理解できるものと考えている。そして、この145個体（点）の単独個体別資料以外は２点以上の資料数を持つ個体別資料で、以下ではこれらの個体別資料の分布状態を見ていくことにするが、これらも第Ⅱ文化層で行ったように、個体別資料の各ブロックでの分布内容から石器類Ⅰ・石器類Ⅱ・剥片類・石核に分類し、それらを剥片剥離作業と石核の有無から類型Ａ～類型Ｄに類型化して記述していくことにする。

１）個体別資料の分布

第６表は、個体別資料に分類された石器類のブロック内外の分布とその類別を示したもので、この中の個体別資料の類別欄に「単」とあるのは単独個体別資料であることを現しているが、類別に従えばすべて類型Ｃか類型Ｄに分類されるものである。個体別資料に分類された石器類の資料数を見てみると、個体別資料番号№45の26点が最多で、これを含めても10点以上の資料数を持つ個体別資料は16個体が確認されているだけで、単独個体別資料を除く他の95個体は２点以上、９点以下の資料数で構成されている個体であることから、遺跡内やブロック内で集中的に剥片剥離された個体は少量であったことが予測できるものと思われる。さらに、これら以外にも145個体（点）の単独個体別資料が確認されていることから、遺跡やブロックを構成している個体別資料の中で、剥片剥離や石器加工作業の対象になっていたと考えられる個体は少ないもので、全体の１～２割程度の個体（資料数５点以上）であったことが推定できるものである。換言すれば、本遺跡の中ではひとつの個体別資料に対して、集中的な石器加工作業などは行われなかったことが想定されるとともに、石器類が充足していたか、或いは集中的に石器製作が行えるような体積を持つ個体を保有していなかったことが、予測できるものと思われる。以上のような想定から、遺跡の中では常に剥片剥離や石器加工作業を行っている訳ではなく、石器類を補充する必要性や、石材の入手等の条件があって初めて進められたものと考えられ、このような契機が生じなかった場合には、遺跡内では簡単な作業しか行わなかったことが理解されるとともに、このような状況が遺跡としての一般的なあり方であったことが窺えるものと思われる。

出土した763点の石器類の中で、同じ個体別資料が確認できなかった単独個体別資料に分類されたものは145個体あり、残りの618点が複数の資料数を持つ個体別資料の合計で、これらは111個体で構成されていた。したがって、少なくとも145点（個体）の石器類は、本遺跡の調査区以外のいずれかの遺跡（場所）で剥片剥離されたものであることが推定されるとともに、これらが剥片剥離された状態で調査区内（遺跡）に持ち

第6表　第Ⅲ文化層個体別資料のブロック内外別分類表

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器+ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
1	ガラス質黒色安山岩	1														1			1		1			C
		3														1			1		1			C
		計														2			2		2			
2	ガラス質黒色安山岩	1															1		1		1			単
		計															1		1		1			
3	ガラス質黒色安山岩	1	1																1	1				単
		計	1																1	1				
4	黒曜石	1															1		1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	2											1						1		1			C
		3	1										1			2	3		7	1	3	3		B
		7	2																2	2				C
		8															1		1		1			C
		12			1														1	1				C
		15	1																1	1				C
		計	4		1								2			2	5		14	5	6	3		
5	黒曜石	1															1		1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	2															2		2			2		B
		13											1			1			2		2			C
		18														1			1		1			C
		23											1						1		1			C
		計											2			2	3		7		5	2		
6	黒曜石	2															2		2			2		B
	（箱根畑宿群）	3											1						1		1			C
		7											1				3		4		1	3		B
		8	1								1		1				3		6	2	1	3		B
		10															1		1		1			C
		11															1		1		1			C
		13															1		1		1			C
		14															1		1		1			C
		外4											1						1		1			C
		計	1								1		4				12		18	2	8	8		
7	黒曜石	2				1											1		2	1	1			C
	（諏訪星ケ台群）	7				1													1	1				C
		14											1						1		1			
		計				2							1				1		4	2	2			
8	黒曜石	2															2		2			2		B
	（諏訪星ケ台群）	3														1	1		2		2			C
		4											2						2		2			C
		5											1						1		1			C
		13															2		2			2		B
		24															1		1		1			C
		計											3			1	6		10		6	4		
9	黒曜石	2										1	1				6		8		2	6		B
	（諏訪星ケ台群）	3														1			1		1			C
		4											1				1		2		2			C
		5		1															1	1				C
		13															1		1		1			C
		19											1				1		2		2			C
		21											2				1		3		3			C
		計		1								1	5			1	10		18	1	11	6		
10	黒曜石	2										1	1				5		7		2	5		B
	（諏訪星ケ台群）	3														1	1		2		2			C
		4															5		5			5		B
		5															1		1		1			C
		計										1	1			1	12		15		5	10		
11	黒曜石	2											1				3		4		1	3		B
	（諏訪星ケ台群）	3	1										2				3		6	1	2	3		B
		4										1					2		3		1	2		B
		5	1	1															2	2				C
		7												1					1	1				C
		15															2		2			2		B
		19															2		2			2		B
		計	2	1								1	3	1			12		20	4	4	12		

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
12	チャート	2		1															1	1				単
		計		1															1	1				
13	凝灰岩	3																1	1				1	単
		計																1	1				1	
14	黒曜石	3											1						1		1			単
	（箱根畑宿群）	計											1						1		1			
15	チャート	3											1						1		1			単
		計											1						1		1			
16	チャート	3															6		6			6		B
		7															1		1		1			C
		計															7		7		1	6		
17	黒曜石	3															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	5	1																1	1				C
		7															2		2			2		B
		8	1														8		9	1		8		B
		14															1		1		1			C
		15															1		1		1			C
		22															1		1		1			C
		24															1		1		1			C
		外5															1		1		1			C
		計	2														16		18	2	6	10		
18	チャート	3					1												1	1				単
		計					1												1	1				
19	黒曜石	3														1	3		4		1	3		B
	（諏訪星ケ台群）	5	1										1						2	1	1			C
		計	1										1			1	3		6	1	2	3		
20	黒曜石	3															1		1		1			単
	（箱根畑宿群）	計															1		1		1			
21	黒曜石	3															1		1		1			単
	「箱根畑宿群」	計															1		1		1			
22	黒曜石	3	1														1		2	1	1			単
	（諏訪星ケ台群）	計	1														1		2	1	1			
23	黒曜石	3															1		1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	4		1								1							2	1	1			C
		17															1		1		1			C
		計		1								1					2		4	1	3			
24	チャート	3					1												1	1				単
		計					1												1	1				
25	黒曜石	3															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	7														1			1		1			C
		8											1				1		2		2			C
		19															1		1		1			C
		24															3		3			3		B
		計											1			1	6		8		5	3		
26	安山岩	3															1		1		1			C
	（トロトロ石）	7															1		1		1			C
		11														1			1		1			C
		14															2		2			2		B
		計														1	4		5		3	2		
27	流紋岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			
28	安山岩	4															1		1		1			単
	（トロトロ石）	計															1		1		1			
29	ガラス質黒色安山岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			
30	流紋岩	4															2		2			2		B
		計															2		2			2		
31	ガラス質黒色安山岩	4	1																1	1				単
		計	1																1	1				
32	ホルンフェルス	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
33	ガラス質黒色安山岩	4	1																1	1				単
		計	1																1	1				
34	ガラス質黒色安山岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			
35	凝灰岩	4	1													1			2	1	1			C
		計	1													1			2	1	1			
36	ガラス質黒色安山岩	4	1														2		3	1		2		B
		計	1														2		3	1		2		
37	ガラス質黒色安山岩	4															2		2			2		B
		計															2		2			2		
38	ガラス質黒色安山岩	4															8		8			8		B
		7															1		1		1			C
		28															1		1		1			C
		計															10		10		2	8		
39	安山岩	4														1	2		3		1	2		B
	（トロトロ石）	6															1		1		1			C
		7															5		5			5		B
		13															2		2			2		B
		14														1	5		6		1	5		B
		17															1		1		1			C
		計														2	16		18		4	14		
40	ガラス質黒色安山岩	4															2		2			2		B
		計															2		2			2		
41	黒曜石	4															1		1		1			単
	「箱根畑宿群」	計															1		1		1			
42	玉髄	4												1					1	1				単
		計												1					1	1				
43	ガラス質黒色安山岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			
44	黒曜石	4															1		1		1			単
	（箱根畑宿群）	計															1		1		1			
45	黒曜石	4															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	5															1		1		1			C
		7															3		3			3		B
		8	5							1			1			1	8		16	6	2	8		B
		11	1																1	1				C
		12											1						1		1			C
		13															1		1		1			C
		14														1			1		1			C
		24														1			1		1			C
		計	6							1			2			3	14		26	7	8	11		
46	ガラス質黒色安山岩	4											1			1	1		3		3			C
		計											1			1	1		3		3			
47	流紋岩	4	1																1	1				C
		12	1														1		2	1	1			C
		計	2														1		3	2	1			
48	凝灰岩	4	1										1				2		4	1	1	2		B
		計	1										1				2		4	1	1	2		
49	流紋岩	4															1		1		1			C
		7	1																1	1				C
		計	1														1		2	1	1			
50	凝灰岩	4														1			1		1			単
		計														1			1		1			
51	流紋岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			
52	凝灰岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			
53	凝灰岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			
54	ガラス質黒色安山岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
55	凝灰岩	4														1	1		2		2			C
		計														1	1		2		2			
56	石英	4															2		2			2		B
		計															2		2			2		
57	安山岩	4														1			1		1			単
		計														1			1		1			
58	ガラス質黒色安山岩	4														1			1		1			単
		計														1			1		1			
59	赤玉石	4															1		1		1			単
	（鉄石英）	計															1		1		1			
60	ガラス質黒色安山岩	4															1		1		1			単
		計															1		1		1			
61	凝灰岩	4														1			1		1			単
		計														1			1		1			
62	黒曜石	5															1		1		1			単
	「箱根畑宿群」	計															1		1		1			
63	ホルンフェルス	5		1															1	1				C
		8															2		2			2		B
		計		1													2		3	1		2		
64	黒曜石	5												1					1	1				単
	（和田鷹山群）	計												1					1	1				
65	黒曜石	5											1						1		1			C
	（和田鷹山群）	7											1						1		1			C
		計											2						2		2			
66	流紋岩	5															4		4			4		B
		8															1		1		1			C
		計															5		5		1	4		
67	黒曜石	5	1																1	1				単
	（蓼科冷山群）	計	1																1	1				
68	ホルンフェルス	5															1		1		1			C
		7															1		1		1			C
		8														1			1		1			C
		10															1		1		1			C
		11															1		1		1			C
		15															2		2			2		B
		計														1	6		7		5	2		
69	ガラス質黒色安山岩	5															1		1		1			単
		計															1		1		1			
70	ホルンフェルス	5																1	1				1	単
		計																1	1				1	
71	ホルンフェルス	6														1			1		1			C
		7															1		1		1			C
		10															1		1		1			C
		11														1			1		1			C
		12	1													1	2		4	1	1	2		B
		15														1	1		2		2			C
		計	1													4	5		10	1	7	2		
72	ホルンフェルス	6															1		1		1			C
		7					1									2			3	1	2			C
		9														1	1		2		2			C
		10															7		7			7		B
		12															1		1		1			C
		16															2		2			2		B
		17															1		1		1			C
		21														1	2		3		1	2		B
		計					1									4	15		20	1	8	11		
73	ホルンフェルス	7															5		5			5		B
		10															1		1		1			C
		計															6		6		1	5		
74	ガラス質黒色安山岩	7	1																1	1				単
		計	1																1	1				

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
75	ガラス質黒色安山岩	7											1			1			2		2			C
		計											1			1			2		2			
76	黒曜石	7										1							1		1			単
	（諏訪星ケ台群）	計										1							1		1			
77	ガラス質黒色安山岩	7														1			1		1			単
		計														1			1		1			
78	珪質頁岩	7			1														1	1				単
		計			1														1	1				
79	黒曜石	7		1															1	1				単
	（和田鷹山群）	計		1															1	1				
80	ガラス質黒色安山岩	7														1	1		2		2			C
		17														1			1		1			C
		計														2	1		3		3			
81	ホルンフェルス	7															4		4			4		B
		15															1		1		1			C
		計															5		5		1	4		
82	流紋岩	7														1	4		5		1	4		B
		計														1	4		5		1	4		
83	ホルンフェルス	7															5		5			5		B
		8															1		1		1			C
		10															2		2			2		B
		計															8		8		1	7		
84	ガラス質黒色安山岩	7														1	1		2		2			C
		計														1	1		2		2			
85	流紋岩	7	1													1	3		5	1	1	3		B
		20															1		1		1			C
		計	1													1	4		6	1	2	3		
86	安山岩	7															2		2			2		B
	（トロトロ石）	10															1		1		1			C
		13															3		3			3		B
		17															1		1		1			C
		計															7		7		2	5		
87	ホルンフェルス	7														1	2		3		1	2		B
		9														1	3		4		1	3		B
		10														2	6		8		2	6		B
		計														4	11		15		4	11		
88	黒曜石	7											1				2		3		1	2		B
	（蓼科冷山群）	計											1				2		3		1	2		
89	ガラス質黒色安山岩	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
90	安山岩	7															4		4			4		B
	（トロトロ石）	計															4		4			4		
91	ホルンフェルス	7																1	1				1	単
		計																1	1				1	
92	ホルンフェルス	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
93	ホルンフェルス	7															2		2			2		B
		8	1													1	4		6	1	1	4		B
		10														1	8		9		1	8		B
		23															1		1		1			C
		計	1													2	15		18	1	3	14		
94	黒曜石	7										1					1		2		2			C
	（箱根畑宿群）	8										1					2		3		1	2		B
		計										2					3		5		3	2		
95	黒曜石	7															1		1		1			C
	（箱根畑宿群）	8															3		3			3		B
		11															1		1		1			C
		14															1		1		1			C
		24															1		1		1			C
		計															7		7		4	3		
96	珪質頁岩	7							1										1	1				単
		計							1										1	1				

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
97	ホルンフェルス	7															1		1		1			C
		10				1										2	2		5	1	2	2		B
		11															1		1		1			C
		15															1		1		1			C
		17															1		1		1			C
		計				1										2	6		9	1	6	2		
98	ガラス質黒色安山岩	7															1		1		1			C
		10											1						1		1			C
		計											1				1		2		2			
99	ホルンフェルス	7														2	2		4		2	2		B
		8														1			1		1			C
		10															1		1		1			C
		計														3	3		6		4	2		
100	ガラス質黒色安山岩	7			1														1	1				単
		計			1														1	1				
101	ホルンフェルス	7														1	4		5		1	4		B
		10														1	4		5		1	4		B
		12	1														1		2	1	1			C
		計	1													2	9		12	1	3	8		
102	ホルンフェルス	7															2		2			2		B
		計															2		2			2		
103	流紋岩	7															3		3			3		B
		計															3		3			3		
104	流紋岩	7														1			1		1			C
		8															1		1		1			C
		計														1	1		2		2			
105	凝灰岩	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
106	ホルンフェルス	7														1			1		1			単
		計														1			1		1			
107	安山岩	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
108	ホルンフェルス	11														1			1		1			単
		計														1			1		1			
109	流紋岩	7											2						2		2			C
		28														1	1		2		2			C
		計											2			1	1		4		4			
110	凝灰岩	7	1																1	1				単
		計	1																1	1				
111	ガラス質黒色安山岩	7														1			1		1			単
		計														1			1		1			
112	安山岩	7															1		1		1			C
	（トロトロ石）	8															1		1		1			C
		28														1	2		3		1	2		B
		計														1	4		5		3	2		
113	ガラス質黒色安山岩	7			1														1	1				単
		計			1														1	1				
114	ガラス質黒色安山岩	7														1			1		1			単
		計														1			1		1			
115	黒曜石	7		1															1	1				単
	（和田鷹山群）	計		1															1	1				
116	ガラス質黒色安山岩	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
117	凝灰岩	7												1					1	1				単
		計												1					1	1				
118	ホルンフェルス	7														1			1		1			C
		9															1		1		1			C
		10														1	1		2		2			C
		計														2	2		4		4			
119	ガラス質黒色安山岩	7														1			1		1			単
		計														1			1		1			

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
120	石英	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
121	ガラス質黒色安山岩	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
122	安山岩	7														1			1		1			単
	（トロトロ石）	計														1			1		1			
123	玉髄	7															1		1		1			単
		計															1		1		1			
124	黒曜石	7															1		1		1			C
	（天城柏峠群）	10															1		1		1			C
		外2											1						1		1			C
		計											1				2		3		3			
125	ガラス質黒色安山岩	8															3		3			3		B
		計															3		3			3		
126	黒曜石	8															2		2			2		B
	（箱根畑宿群）	11											1						1		1			C
		12										1							1		1			C
		16															1		1		1			C
		17	1																1	1				C
		19															1		1		1			C
		24	1																1	1				C
		30															1		1		1			C
		計	2									1	1				5		9	2	5	2		
127	赤玉石	8															1		1		1			単
	（鉄石英）	計															1		1		1			
128	ガラス質黒色安山岩	8															3		3			3		B
		計															3		3			3		
129	ガラス質黒色安山岩	8															3		3			3		B
		計															3		3			3		
130	黒曜石	8															1		1		1			単
	（和田鷹山群）	計															1		1		1			
131	ホルンフェルス	8															1		1		1			C
		10														1	3		4		1	3		B
		11															2		2			2		B
		12	1																1	1				C
		17															1		1		1			C
		計	1													1	7		9	1	3	5		
132	ホルンフェルス	8															3		3			3		B
		10															1		1		1			C
		15															1		1		1			C
		計															5		5		2	3		
133	黒曜石	8	1																1	1				単
	（箱根畑宿群）	計	1																1	1				
134	ホルンフェルス	8															1		1		1			C
		10														2	1		3		3			C
		12	1														1		2	1	1			C
		計	1													2	3		6	1	5			
135	ホルンフェルス	8															1		1		1			C
		10															2		2			2		B
		12														1			1		1			C
		14	1																1	1				C
		16															1		1		1			C
		計	1													1	4		6	1	3	2		
136	ホルンフェルス	8														3			3		3			C
		10														1	1		2		2			C
		計														4	1		5		5			
137	チャート	8															1		1		1			単
		計															1		1		1			
138	ホルンフェルス	8															1		1		1			C
		10														2			2		2			C
		計														2	1		3		3			
139	ホルンフェルス	8														1			1		1			単
		計														1			1		1			

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
140	ホルンフェルス	8														1			1		1			単
		計														1			1		1			
141	ホルンフェルス	8																1	1				1	単
		計																1	1				1	
142	ガラス質黒色安山岩	8															1		1		1			単
		計															1		1		1			
143	ホルンフェルス	9															1		1		1			単
		計															1		1		1			
144	凝灰岩	10														1			1		1			単
		計														1			1		1			
145	ガラス質黒色安山岩	10														1			1		1			C
		17																1	1				1	D
		計														1		1	2		1		1	
146	凝灰岩	10															1		1		1			C
		12														1			1		1			C
		計														1	1		2		2			
147	ホルンフェルス	10															1		1		1			C
		12														1			1		1			C
		15														1	1		2		2			C
		計														2	2		4		4			
148	ホルンフェルス	10	1																1	1				単
		計	1																1	1				
149	ホルンフェルス	10															1		1		1			C
		12															1		1		1			C
		17															1		1		1			C
		計															3		3		3			
150	ホルンフェルス	10															1		1		1			C
		16																1	1				1	D
		計															1	1	2		1		1	
151	安山岩	10															2		2			2		B
		計															2		2			2		
152	ホルンフェルス	10															1		1		1			C
		14															1		1		1			C
		計															2		2		2			
153	ホルンフェルス	10															9		9			9		B
		計															9		9			9		
154	ホルンフェルス	10															7		7			7		B
		12															1		1		1			C
		計															8		8		1	7		
155	ホルンフェルス	10														2	2		4		2	2		B
		計														2	2		4		2	2		
156	ホルンフェルス	10														1			1		1			単
		計														1			1		1			
157	ガラス質黒色安山岩	10											1						1		1			単
		計											1						1		1			
158	ホルンフェルス	10															4		4			4		B
		19															1		1		1			C
		計															5		5		1	4		
159	安山岩	10																1	1				1	単
	（トロトロ石）	計																1	1				1	
160	ホルンフェルス	10															1		1		1			C
		11															2		2			2		B
		計															3		3		1	2		
161	ホルンフェルス	10															3	1	4			3	1	A
		17										1							1		1			C
		計										1					3	1	5		1	3	1	
162	ホルンフェルス	10														2	1		3		3			C
		計														2	1		3		3			
163	ホルンフェルス	10														1			1		1			単
		計														1			1		1			
164	ホルンフェルス	10														1			1		1			C
		11														1			1		1			C
		計														2			2		2			

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
165	ホルンフェルス	10														1			1		1			単
		計														1			1		1			
166	ガラス質黒色安山岩	10															1		1		1			単
		計															1		1		1			
167	黒曜石	10											1						1		1			単
	（天城柏峠群）	計											1						1		1			
168	赤玉石	10															1		1		1			単
	（鉄石英）	計															1		1		1			
169	ホルンフェルス	11															1		1		1			単
		計															1		1		1			
170	安山岩	11	1																1	1				単
	（トロトロ石）	計	1																1	1				
171	砂岩	11															1		1		1			単
		計															1		1		1			
172	凝灰岩	11											2				1		3		3			C
		計											2				1		3		3			
173	凝灰岩	11											1						1		1			単
		計											1						1		1			
174	黒曜石	11					1												1	1				単
	（蓼科冷山群）	計					1												1	1				
175	ホルンフェルス	11														1			1		1			C
		16															1		1		1			C
		計														1	1		2		2			
176	黒曜石	12	1	1															2	2				C
	（諏訪星ケ台群）	計	1	1															2	2				
177	赤玉石	12					1												1	1				単
	（鉄石英）	計					1												1	1				
178	ホルンフェルス	12				1										1		1	3	1	1		1	D
		計				1										1		1	3	1	1		1	
179	ホルンフェルス	12															3		3			3		B
		計															3		3			3		
180	凝灰岩	12											1			1		1	3		2		1	D
		14														1		1	2		1		1	D
		計											1			2		2	5		3		2	
181	黒曜石	12	1																1	1				単
	（箱根畑宿群）	計	1																1	1				
182	ホルンフェルス	12														1			1		1			単
		計														1			1		1			
183	ガラス質黒色安山岩	12														1			1		1			C
		14															2		2			2		B
		計														1	2		3		1	2		
184	ガラス質黒色安山岩	12														1			1		1			C
		14										1					4		5		1	4		B
		17															1		1		1			C
		19															1		1		1			C
		計										1				1	6		8		4	4		
185	ホルンフェルス	12															1		1		1			C
		14															1		1		1			C
		計															2		2		2			
186	チャート	12																1	1				1	単
		計																1	1				1	
187	ガラス質黒色安山岩	12															1		1		1			単
		計															1		1		1			
188	玉髄	13											1				1		2		2			C
		計											1				1		2		2			
189	ホルンフェルス	14															1		1		1			単
		計															1		1		1			
190	ホルンフェルス	14	1																1	1				単
		計	1																1	1				
191	凝灰岩	14														6	3	1	10		6	3	1	A
		19														1			1		1			C
		計														7	3	1	11		7	3	1	

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
192	安山岩	14	2														3		5	2		3		B
		17															1		1		1			C
		計	2														4		6	2	1	3		
193	安山岩	14																1	1				1	単
		計																1	1				1	
194	ホルンフェルス	14														1	2		3		1	2		B
		計														1	2		3		1	2		
195	頁岩	14	1													1			2	1	1			C
		計	1													1			2	1	1			
196	凝灰岩	14											1				1	1	3		2		1	D
		計											1				1	1	3		2		1	
197	チャート	14					1												1	1				単
		計					1												1	1				
198	流紋岩	14														1			1		1			単
		計														1			1		1			
199	赤玉石	15											1						1		1			単
	（鉄石英）	計											1						1		1			
200	黒曜石	16											1						1		1			C
	（和田土屋橋西群）	22															1		1		1			C
		計											1				1		2		2			
201	珪質頁岩	16														1			1		1			単
		計														1			1		1			
202	ガラス質黒色安山岩	16														1			1		1			単
		計														1			1		1			
203	黒曜石	16											1						1		1			単
	（和田鷹山群）	計											1						1		1			
204	赤玉石	17	1																1	1				単
	（鉄石英）	計	1																1	1				
205	黒曜石	17				1													1	1				単
	（蓼科冷山群）	計				1													1	1				
206	ガラス質黒色安山岩	17														1			1		1			単
		計														1			1		1			
207	ホルンフェルス	17															1		1		1			単
		計															1		1		1			
208	ホルンフェルス	17															1		1		1			単
		計															1		1		1			
209	黒曜石	17											1						1		1			単
	「箱根畑宿群」	計											1						1		1			
210	黒曜石	18	1																1	1				単
	（和田芙蓉ライト群）	計	1																1	1				
211	ガラス質黒色安山岩	18															1		1		1			単
		計															1		1		1			
212	安山岩	19															1		1		1			単
	（トロトロ石）	計															1		1		1			
213	黒曜石	19											1						1		1			C
	（諏訪星ケ台群）	21				1													1	1				C
		計				1							1						2	1	1			
214	黒曜石	19															1		1		1			C
	（和田土屋橋南群）	21															1		1		1			C
		計															2		2		2			
215	黒曜石	19															1		1		1			単
	（和田鷹山群）	計															1		1		1			
216	ガラス質黒色安山岩	19														1			1		1			単
		計														1			1		1			
217	安山岩	19															1		1		1			単
		計															1		1		1			
218	瑪瑙	20															1		1		1			単
		計															1		1		1			
219	頁岩	21														1			1		1			単
		計														1			1		1			
220	安山岩	21															1		1		1			単
	（トロトロ石）	計															1		1		1			

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
221	流紋岩	21															1		1		1			単
		計															1		1		1			
222	黒曜石	21			1														1	1				C
	（諏訪星ケ台群）	24											1						1		1			C
		計			1								1						2	1	1			
223	黒曜石	21															1		1		1			単
	（和田鷹山群）	計															1		1		1			
224	ガラス質黒色安山岩	21															1		1		1			単
		計															1		1		1			
225	流紋岩	21	1														2		3	1		2		B
		計	1														2		3	1		2		
226	玉髄	21					1												1	1				単
		計					1												1	1				
227	黒曜石	21											1						1		1			単
	（和田鷹山群）	計											1						1		1			
228	ガラス質黒色安山岩	21	1																1	1				単
		計	1																1	1				
229	黒曜石	22															1		1		1			単
	（諏訪星ケ台群）	計															1		1		1			
230	黒曜石	23	1																1	1				単
	（和田鷹山群）	計	1																1	1				
231	凝灰岩	23																1	1				1	単
		計																1	1				1	
232	黒曜石	23	1																1	1				単
	（箱根畑宿群）	計	1																1	1				
233	黒曜石	25	1																1	1				C
	（和田鷹山群）	外6											1						1		1			C
		計	1										1						2	1	1			
234	ガラス質黒色安山岩	25	1																1	1				単
		計	1																1	1				
235	ガラス質黒色安山岩	26															1		1		1			単
		計															1		1		1			
236	ガラス質黒色安山岩	26	1																1	1				単
		計	1																1	1				
237	凝灰岩	26		1															1	1				単
		計		1															1	1				
238	黒曜石	27											1				1		2		2			C
	「諏訪星ケ台群」	29			1														1	1				C
		計			1								1				1		3	1	2			
239	黒曜石	27											1						1		1			C
	「和田鷹山群」	29														1			1		1			C
		計											1			1			2		2			
240	ホルンフェルス	28															1	1	2		1		1	D
		計															1	1	2		1		1	
241	流紋岩	28				1													1	1				単
		計				1													1	1				
242	ホルンフェルス	28															1		1		1			単
		計															1		1		1			
243	安山岩	28															1		1		1			単
		計															1		1		1			
244	流紋岩	28			1														1	1				単
		計			1														1	1				
245	ホルンフェルス	28															1		1		1			単
		計															1		1		1			
246	凝灰岩	28														1			1		1			単
		計														1			1		1			
247	安山岩	28															1		1		1			単
	（トロトロ石）	計															1		1		1			
248	ガラス質黒色安山岩	28															1		1		1			単
		計															1		1		1			
249	赤玉石	29				1													1	1				単
	（鉄石英）	計				1													1	1				

個体別資料No.	原　石	ブロック	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	叩石	掻器＋ノッチ	ドリル	ピエス	R・F	U・F	ノッチ	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合　計	石器類Ⅰ	石器類Ⅱ	剥片類	石核	類型
250	ガラス質黒色安山岩	29			1														1	1				単
		計			1														1	1				
251	黒曜石	30														1			1		1			単
	「箱根畑宿群」	計														1			1		1			
252	黒曜石	30															1		1		1			単
	「諏訪星ヶ台群」	計															1		1		1			
253	流紋岩	30															1		1		1			単
		計															1		1		1			
254	黒曜石	30	1																1	1				単
	「箱根畑宿群」	計	1																1	1				
255	ホルンフェルス	外1														1			1		1			単
		計														1			1		1			
256	ガラス質黒色安山岩	外3														1			1		1			単
		計														1			1		1			
単独個体別資料合計			19	4	5	3	6		1			1	9	3		28	58	8	145	41	96		8	
複数個体別資料合計			35	5	3	5	1			1	1	9	47	1		91	410	9	618	52	268	289	9	
総合計			54	9	8	8	7		1	1	1	10	56	4		119	468	17	763	93	364	289	17	

※黒曜石の産地同定は蛍光Ｘ線分析法（ＥＤＸ）によるものである。
※原石欄の（　）の原石産地は蛍光Ｘ線分析によって推定されたものである。
※原石欄の「　」の原石産地は測定不可や未測定資料を、視覚により推定したものである。

込まれたものであることが予測できることは前述した。このような理解から、多くの単独個体別資料が単体のまま（石器器種、剥片を問わずに）持ち込まれていることが推定されるとともに、調査区には145点の単独個体別資料が残されていたことからも、遺跡の移動に伴って再度持ち出された単独個体別資料が相当数存在していたことが窺えるものと思われる。以下では、単独個体別資料以外の複数の資料数（２点以上）で構成されている個体別資料が、どのような状態で遺跡内に分布しているかを第６表と第170・171図を利用して見ていくことにしたい。先ず第170・171図を見てみると、これらの個体別資料の中で資料数の多い個体ほど、複数のブロックにかけて類型Ｂや類型Ｃを分布しているものが多いことが理解されるが、中には資料数は少量ではあるものの単一のブロックにだけ類型Ｂを分布しているものも認められている。したがって、前者のような分布状態からは母岩（石核）がブロック間を移動するに従い、その都度そのブロックで剥片剥離や石器加工作業の対象になっていたことが判断されるとともに、それらのブロックから他のブロックに類型Ｃとして持ち出された石器類があったことが想定される。これに対して後者の分布を示す個体別資料は、単一のブロック内で何等かの作業がその個体に対して行われたことが推定されると同時に、その場所（ブロック）が剥片剥離や石器加工作業を行うような場所であったことが予測できるものと思われる。ただ、これらの中には資料数が最少である２点の個体も確認されており、この中には複数の類型Ｃとして同じブロックに持ち込まれたものも存在する可能性もあるが、これらを明確に区別することは難しいため、ここでは可能性を指摘しておくだけに止めておきたい。

以上のような類型Ｂを持ち、剥片剥離の対象となっていることが推定される個体別資料とは逆に、個体別資料を類型Ｃと類型Ｄによって構成されている個体も確認されており、47個体を数える。これらの中にも類型Ｂを持つ個体別資料と同じように単一のブロックだけに分布しているものも14個体確認されているが、残りの33個体は複数のブロックにかけて分布が認められた個体別資料であった。これらは類別の性格上、資料数の少ない個体が多いことを考えれば、複数のブロックに分布が認められる状況は偶然に由来するものではなく、母岩（石核）の消費過程で生じた何等かの現象を現しているものであり、それらが確認されたブロック間には密接な関連性があることが推定できるものと思われる。さらに、これら類型Ｃと類型Ｄで構成される個体別資料は、単独の個体別資料とともに遺跡内で剥片剥離や石器加工作業を行った痕跡の認められない

個体であり、遺跡外のいずれかで剥片剥離や加工作業を終了させた後に、遺跡内やブロックに持ち込まれたものであることが判断されるものと思われる。したがって、単独個体別資料の145個体を含めた192個体は、本遺跡の中では剥片剥離の対象とはなっていないことが推定されるとともに、残りの66個体に関しては何等かの作業や剥片剥離が行われた可能性のあるもので、それらは全個体別資料の２割強の個体数であったことが推定されるものである。

このように個体別資料の中には、剥片剥離や石器加工作業に関する類型Ａや類型Ｂを持つものと、それらを持たずに、類型Ｃと類型Ｄで構成された剥片剥離や石器加工作業を行っている痕跡の認められない個体に大別されることが理解されたが、さらに両者の中には複数のブロックで分布が認められているものと、単一のブロックだけで出土しているものがあることが分かった。以下では、複数のブロックから出土した個々の個体別資料の分布状態を見ながら、それらの特徴を確認していくことにしたい。

２）個々の個体別資料の分布

１．類型Ｃ、類型Ｄで構成される個体別資料

個体別資料番号№１：第１、第３ブロックから、合計２点の石器類の分布が確認された個体別資料である。分布していた両ブロックは、約８ｍの距離を隔てた状態で検出されており、しかもその間には第２ブロックが位置する関係であり、近接するブロック間の個体別資料の共有とは相違する状態であった。ただ、両ブロックは離れて確認されてはいるものの、両ブロックは約16ｍの範囲に収まる分布を示しており、この様な状態はブロックを越えて形成された大きな分布範囲の中で、別々のブロックに残されていた個体別資料の分布として理解しておきたい。

個体別資料番号№７：第２、第７、第14ブロックから、合計４点の石器類の分布が確認された個体別資料である。これらのブロックは夫々が離れた位置で確認されており、第２と第７ブロックでは約15ｍ、第７と第14ブロックでは約13ｍの距離を隔てて分布しており、隣接したブロック間に分布が確認されなかった個体別資料である。したがって、夫々のブロックで単一で個体別資料の分布のまとまりを形成している可能性の高い個体別資料である。

個体別資料番号№23：第３、第４、第17ブロックから、合計４点の石器類が確認された個体別資料である。第３、第４ブロックは隣接して位置し、約８ｍの範囲の中に収まる分布が形成されていたが、残る第17ブロックとは約35ｍの距離を隔てて分布しており、複数のブロックで構成されている個体別資料の分布のまとまりが１箇所、単一のブロックで構成される個体別資料のまとまりが１箇所、構成内容に違いはあるが、合計２箇所の個体別資料の分布のまとまりを形成していると思われる個体である。

個体別資料番号№47：第４と第12ブロックから、合計２点の石器類の出土が認められた個体別資料である。両ブロックは約19ｍの距離を置いて分布が確認されており、それぞれのブロックが単一の個体別資料のまとまりを形成しているものと考えられることから、本個体には２箇所の個体別資料の分布のまとまりが存在していたことが推定されるものである。

個体別資料番号№65：第５と第７ブロックから、合計２点の石器類が出土した個体別資料である。両ブロックは隣接して位置し、約14ｍの範囲に収まる分布を示しており、この２ブロックで個体別資料の分布のまとまりを形成しているものである。

個体別資料番号№80：第７と第17ブロックから、合計３点の石器類が確認された個体別資料である。両ブロックは約21ｍの距離を隔てて分布しており、個々のブロックで単一のブロックで構成される個体別資料の分布のまとまりが形成されているものである。

個体別資料番号№104：第７、第８ブロックから、合計２点の石器類の分布が確認された個体別資料である。第６、第７ブロックは隣接して位置し、約12mの範囲に分布しているもので、この２ブロックで個体別資料の分布のまとまりを形成しているものである。

個体別資料番号№118：第７、第９、第10ブロックに、合計４点の石器類を分布していた個体別資料である。第９、第10ブロックは隣接した状態で確認されており、約10mの大きさに収まる分布が形成されていたが、これらと第７ブロックは約３ｍの距離を置いて位置している状態であった。これら３ブロックが分布していた範囲は約19mの大きさであり、この３ブロックで個体別資料の分布のまとまりを形成していた可能性もあると思われるが、やや離れた分布が形成されていたことから第７と第９、第10ブロックは別の個体別資料のまとまりとして理解しておきたい。

個体別資料番号№164：第10、第11ブロックから、合計２点の石器類が出土している。両ブロックは隣接して位置しており、約12mの大きさの分布範囲に収まる状態であり、この２ブロックで個体別資料の分布のまとまりが形成されているものである。

個体別資料番号№180：第12と第14ブロックから、合計５点の石器類が出土している個体別資料である。両ブロックは約1.5mほど離れて近接して位置しているが、約15mの大きさの中で確認されており、これらも２ブロックで個体別資料の分布のまとまりを形成している例である。

個体別資料番号№213：第19と第21ブロックから、合計２点の石器類が確認された個体別資料である。両ブロックは約1.5mほど離れて位置しているが、約14mほどの範囲の中で分布が確認されており、第19、第21ブロックにまたがる個体別資料の分布のまとまりが形成されているものである。

個体別資料番号№222：第21と第24ブロックから、合計２点の石器類の出土が認められた個体別資料である。第21と第24ブロックは約1.5mほど離れて分布していたが、約11mの範囲に両ブロックは形成されており、これも近接する２ブロックで個体別資料の分布のまとまりが確認できるものである。

個体別資料番号№238：第27と第29ブロックで、合計３点の石器類の出土が確認された個体別資料である。両ブロックは約2.5mほど離れて分布しているが近接して位置しており、約８ｍほどの大きさの中にブロックが形成されていた。したがって、本個体も近接する２ブロックに、個体別資料の分布のまとまりが形成されていたことが理解されるものである。

以上、類型Ｃ、類型Ｄで構成されている個体別資料の中で、複数のブロックに分布が認められた33個体の内の12個体に関して、その分布状態を簡単に見てきた。その中から個体別資料の分布には幾つかの共通点があることが予想され、それらを個体別資料の一定した特徴や分布状態として認識することができると思われる。それは、これらの中で最も多くの資料数で持っていたのは個体別資料番号№134の６点であったが、他のほとんどの個体は２～４点の資料数で構成されていた。分布状態は、隣接して形成された２～３箇所のブロックにわたって分布が確認されているものと、それぞれが10数m離れて位置する数ブロックに個体別資料を分布しているもので、個々のブロックで個体別資料のまとまりを形成していたもの。そして、これら両者を折衷したような例で、隣接して分布している２箇所のブロックと、これらとは約35m離れた単一のブロックに個体別資料の分布が確認されたもので、離れた位置で構成内容の違う分布が形成されているもの等が確認されており、個体別資料には共通した分布状態が存在していたことが窺えるものと思われる。そして、複数のブロックで形成されていた個体別資料の分布のまとまりは15m以上の大きさのものは確認されず、多くのものは10m前後の規模のであり、分布範囲も一定した大きさを示していることが推察されるものである。以上のように、類型Ｃ、類型Ｄで構成されている個体別資料には、資料数や分布状態、及び分布の規模等に漠然とした共通部分があることが窺えることから、複数のブロックに分布する個体別資料の散漫な分布のま

とまりが現している範囲は、何等かの行動の範囲を示していることが想定できるものと思われる。そして、このような個体別資料で構成されている範囲が、複数の個体別資料によって形成されているものであるならば、その蓋然性はより高いものとなるものと思われることから、次では類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成される個体別資料の分布状態を見ていくことにしたい。

２．類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成される個体別資料

個体別資料番号№４：７ブロックで分布が確認された個体別資料である。夫々のブロックで確認された類別は、第３ブロックに資料数７点の類型Ｂが分布し、第７ブロックに資料数２点の類型Ｃが、第１、第２、第８、第12、第15ブロックでは資料数各１点の類型Ｃが確認されている。この中で第１～第３ブロックの３ブロックと、第７～第８、第12ブロックの３ブロックは約６ｍの距離を隔てて分布し、夫々が南北方向に並んで位置しているもので、前者は約11ｍ、後者は約18ｍの範囲の中で分布が確認されている。そして、後者の分布とは約3.5ｍ離れて位置している第15ブロックにも個体別資料の分布が確認されており、これもやや離れてはいるものの、後者に近い分布を示すことから、これに含めて理解しておきたい資料である。したがって、本個体ではブロックの構成数に違いはあるが、調査区内で２箇所の個体別資料の分布のまとまりが形成されていると判断されるものである。

個体別資料番号№６：８ブックとブロック外４で確認された個体別資料で、各ブロックに分布していた類別は、第２（資料数２点）、第７（資料数４点）、第８ブロック（資料数６点）に類型Ｂが、第３、第10、第11、第13、第14ブロックとブロック外４からは資料数各１点の類型Ｃが確認されている。第２と第３ブロックは隣接して位置し、残りの第７、第８、第10、第11、第13、第14ブロックとブロック外４は、ブロック外４を中心にするように密集した状態で楕円形に分布しており、両者は約11ｍの距離を隔てて確認されている。これらの規模は、前者が約11ｍ、後者が約25ｍの範囲に分布が確認されており、調査区内で２箇所の個体別資料のブロックを越えた散漫な分布のまとまりが、存在していたことが理解できよう。

個体別資料番号№９：７ブロックに分布していたことが確認された個体別資料で、ブロック夫々に分布していた類別は、第２ブロックに資料数８点の類型Ｂが、第21ブロックには資料数３点の、第４と第19ブロックでは資料数２点の類型Ｃが確認され、残る第３、第５、第13ブロックには資料数各１点の類型Ｃが分布していた。この内の第２～第５ブロックは、南北方向に並ぶように隣接して位置し約21ｍの範囲に収まる分布を形成し、残る第19と第21ブロックも隣接して分布が確認され、約14ｍの範囲が形成されていたが、前者から約18ｍ、後者から約12ｍ離れて位置する第13ブロックにも個体別資料の分布が確認されており、構成するブロックに違いはあるものの、調査区内に３箇所の個体別資料の分布のまとまりが存在することが判断されるものである。

個体別資料番号№25：５ブロックで確認された個体別資料で、第24ブロックに資料数３点の類型Ｂを、第８ブロックに資料数２点の類型Ｃを、第３、第７、第19ブロックに資料数各１点の類型Ｃを分布していた。この中では、第７と第８ブロック、第19と第24ブロックは隣接して分布し、前者は約12ｍ、後者は約11ｍの範囲の中に分布が確認されているもので、両者は約22ｍの距離を隔てて確認されている。残る第３ブロックは、これらとは約12ｍ離れて位置しており、本個体でも調査区内で３箇所の個体別資料の分布のまとまりが認められているが、この中には複数のブロックで構成されるまとまりと、単一のブロックで構成されるまとまりが存在していることが判断されるものである。そして、複数のブロックで構成されるまとまりには、類型Ｂと類型Ｃで形成されたものと複数の類型Ｃが分布しているものがあり、分布する類別もまとまりによって相違があることが理解される。

個体別資料番号№39：６ブロックで確認された個体別資料である。各ブロックに分布していた類別は、第４（資料数３点）、第７（資料数５点）、第13（資料数２点）、第14ブロック（資料数６点）に類型Ｂが、第６、第17ブロックに資料数各１点の類型Ｃが認められている。これらのブロックの中で、第６と第７ブロック、第13～第14と第17ブロックはそれぞれが近接して分布しており、前者は約９ｍ、後者は約16ｍの範囲を形成している状態であった。両者は約12ｍの距離を隔てて位置していたが、残る第４ブロックも前者から約７ｍ離れて分布しており、構成される類別やブロック数の違う３箇所の個体別資料の分布のまとまりが残されている例である。

個体別資料番号№81：２ブロックから出土した個体別資料で、各ブロックに分布していた類別は、第７ブロックに資料数４点の類型Ｂ、第15ブロックに資料数１点の類型Ｃが確認されている。両ブロックは約17ｍ離れて形成されたブロックであり、これらは単一のブロックで構成された２箇所の個体別資料の分布のまとまりが、存在したものと理解できるものである。

個体別資料番号№95：５ブロックで分布の認められた個体別資料である。それぞれのブロックで確認されている類別は、第８ブロックで資料数３点の類型Ｂが、残る第７、第11、第14、第24ブロックには資料数各１点の類型Ｃが分布していた。このブロックの中で、第７、第８、第11、第14ブロックは南北に連なるように位置し、隣接しながら約25ｍの範囲に分布している状況であった。残る第24ブロックは、これらのブロックとは約13ｍの距離を隔てて分布しており、本個体でもブロック数や分布する類別の異なる個体別資料の分布のまとまりが、２箇所存在していることが理解されるものである。

個体別資料番号№126：８ブロックで分布が確認された個体別資料で、それぞれのブロックに分布していた類別は、第８ブロックに資料数２点の類型Ｂを、第11、第12、第16、第17、第19、第24、第30ブロックに資料数各１点の類型Ｃの分布が確認されている。これらの中で第８、第11、第12ブロックと、第16、第17、第19、第24ブロックはそれぞれ隣接して分布し、前者が約14ｍ、後者が約16ｍの範囲の中で形成されており、両群は約９ｍの距離を隔てて位置している状況であった。これら以外の第30ブロックとは約19ｍの距離を置いて確認されており、本個体でも類型Ｂを含むまとまりや、複数の類型Ｃで構成されるものと、単一のブロックで構成されるもの等、構成内容に違いのある個体別資料の散漫な分布が３箇所、出土したブロック群の中に形成されていたことが推察される。

個体別資料番号№131：５ブロックで確認された個体別資料である。各ブロックに分布していた類別は、第10（資料数４点）と第11ブロック（資料数２点）に類型Ｂを、第８、第12、第17ブロックに資料数各１点の類型Ｃが確認されている。これらの中で第８、第10～第12ブロックは隣接した状態で分布し、約17ｍの範囲の中に収まる大きさを示していたが、残る第16ブロックとは約９ｍの距離を置いて位置しており、本個体では複数のブロックや類別で構成されるものと、単一のブロックと類別で構成されるものの、２種類の個体別資料の散漫な分布のまとまりが認められている。

個体別資料番号№161：２ブロックに分布していた個体別資料である。それぞれのブロックでは、第10ブロックに資料数４点の類型Ａを、これとは約10ｍ離れて位置する第17ブロックに資料数１点の類型Ｃを分布させていた個体別資料である。両ブロックは離れて分布していることから、それぞれで単一のブロックで構成された個体別資料のまとまりとして理解され、本個体では２箇所のまとまりが形成されていることが推定されるものである。

個体別資料番号№184：４ブロックで分布が確認された個体別資料である。個々のブロックで認められた類別は、第14ブロックに資料数５点の類型Ｂが、第12、第17、第19ブロックに資料数各１点の類型Ｃを分布させていた。これらの４ブロックは、南北方向に並ぶように近接して分布しており、約28ｍの細長い範囲を

形成しているものである。ブロックが近接して位置するという分布状態からは、これらをひとつの個体別資料の分布のまとまりとして認識することが妥当と考えられるが、今まで見てきた個体別資料のまとまりに比べると広範囲であり、これが例外的な大きさなのか、或いは二分されるものなのか明確に判断できない状態であることから、本個体の個体別資料の分布のまとまりの数は１か２として理解しておきたい。

以上のように、類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成される個体別資料が、複数のブロックにかけて分布する状態を簡単に見てきたが、これらも類型Ｃと類型Ｄで構成された個体別資料と同じように、一定した状況が認められることから､これらを個体別資料の分布状態の共通点として認識できるものと思われる。各個体別資料の資料数は個々の個体で違いがあるものの、前述したように資料数の比較的少ない個体がほとんどで、10点以上の資料数で構成されているものは僅かに16個体が確認されているにすぎなかった。これらの個体別資料は隣接している複数のブロック間に分布していることが多く、ブロックと言う範囲を超えた広範な個体別資料の分布が､一定した範囲（数ブロック）にまとまりを形成している状況を窺うことができた。このような分布の状態は個々の個体別資料で相違するのではなく、各個体別資料で構成しているブロックはまちまちではあるが、中には同一の複数のブロックにまとまりを形成している個体別資料が複数で存在している状況もあり、個体別資料の分布のあり方としては一般的な状態であることが理解されよう。そして、このような隣接するブロック間に同一の個体別資料が分布するというあり方は、前述した類型Ｃと類型Ｄで構成された個体別資料と同様であり、構成している類型が違っても個体別資料は共通した分布状態が形成されていることが理解されよう。ただ、このような個体別資料の分布のまとまりは、個々の個体別資料によって類型構成がまちまちであり、しかも分布するブロックの数や状態の相違が著しく、共通部分の確認は容易でないのが実情である。しかし、このような中にあって、類型Ａや類型Ｂを持つブロックに隣接して類型Ｃや類型Ｄを持つブロックを、単数や複数で分布させているものや、類型Ａや類型Ｂを持つブロックを複数で持ち、これらに隣接したブロックに類型Ｃや類型Ｄを単数や複数で分布させているもの、複数の類型Ｂを持つブロックで構成され、類型Ｃや類型Ｄを分布するブロックを持たないもの、或いは類型Ａや類型Ｂを分布するブロックを持たず、隣接した複数の類型Ｃや類型Ｄを持つブロックで構成されているもの等の、複数のブロックで構成されているものの他に、単一のブロックに類型Ａや類型Ｂ、類型Ｃや類型Ｄを分布させ、ひとつの個体別資料の分布のまとまりを構成しているものがあることが理解された。これらの個体別資料の分布のまとまりの範囲はまちまちであったが、単一のブロックで構成されるまとまりを除けば、20ｍを超えるような大きさのものは稀で、ほとんどのまとまりは15m前後以下の範囲に収まっており、多くのものが一定した範囲を形成するような状態で、個体別資料の分布が認められていることが理解できるものと思われる。

そして、類型Ａや類型Ｂを持つブロックを中心的存在として、その周囲に類型Ｃや類型Ｄを持つブロックを衛星的に分布させている個体別資料からは、その個体別資料に対してその場所（類型Ａや類型Ｂを持つブロック）で剥片剥離や石器加工作業が行われ、その場所から類型Ｃや類型Ｄを持つブロックに石器類を持ち出している状況を推察することが可能である。また、個体別資料の中には隣接したブロック間に類型Ａや類型Ｂを持つものがあることから、個体別資料がそれらのブロックを移動しながら個々のブロックで剥片剥離等が行われていたことが推定され、母岩や石核がそれらのブロック間を頻繁に移動しながら消費されていることが理解されるものと思われる。そして、これ以外の類型Ｃや類型Ｄで構成されている個体別資料と、単独個体別資料に分類された192個体は、剥片剥離作業等の対象になっていないことが判断される個体であることから、個体別資料には類型Ａや類型Ｂの存在によって剥片剥離等の対象になっている個体と、剥片剥離等の対象になっていない個体に二大別されることが理解されるものと思われる。さらに、第170・171図を見てみると、類型Ａや類型Ｂを多く持つブロックは何箇所かのブロックに偏る傾向にあることが判断され、そ

れらは構成数の多いブロックが該当する状態にあるものの、構成数の比較的少ないブロックでも類型Ｂを持つものが存在しており、単純にブロックの石器数だけで剥片剥離作業等の有無を決定できないことが理解できるものと思われる。

３）ブロック群について

いままで第Ⅲ文化層を構成している石器類763点を個体別資料に分類し、その個体別資料を通じて分布状態を見てきたが、この中で30箇所のブロックが相互に関連しながら形成したものであることが、複数のブロックにまたがって分布している個体別資料の状態から窺うことができた。したがって、それぞれのブロックで共通する個体別資料に違いはあるものの、同一集団によって残されたブロック群であることが推定できる状況にあったが、確認されたすべてのブロックが同時に形成されていたものであるという確証は得られていないのが現状である。それは、個体別資料の分布状態が一様ではなく、多くのものが限定されたブロック間に個体別資料の分布のまとまりを形成している状態にあること、そしてこのまとまりを複数で持つ個体があり、しかもこの二つのまとまりは距離を隔てて位置し、異なるブロック間に形成されていることから、これらの個体別資料の分布のまとまりはそれぞれが限定した範囲（ブロック）の中で収束している可能性が高いことが窺える状態であった。さらに、この二つの個体別資料の分布のまとまり間では多くの接合関係を認めることはできないことから、このまとまりがブロック間を移動するような短い時間的尺度によって形成されたものではないことが、予想される状況にある。したがって、このような複数の個体別資料のまとまりが収束するブロック間（分布域）は何等かの状況によって生じた範囲で、しかもブロックを超えた範囲が想定されることから、遺跡内に形成された大きな単位として認識できるものと思われる。以下では第170・171図を通してこれらのまとまりの分布状態を見ていくことにするが、図中では各ブロックに分布する個体別資料の中で、隣接する複数のブロックに各類型を分布して個体別資料の分布のまとまりを形成しているブロック間を□で囲って図示してある。一般的に多くのブロックで構成されている遺跡では、このような個体別資料のまとまりの分布状態によって、確認されたブロックが幾つかのブロック群に分離されることが明らかになってきており、個々のブロック群は同一集団における回帰的な集落地のひとつであり、時間的な前後関係を持って形成されたことが推定されている。このような理解を念頭に置きながら本文化層の30ブロックを見てみると、個々の個体別資料のまとまりが同じようなブロック間に分布する状況から、以下のようなブロック群に分割できるものと思われる。

ブロック群Ⅰ　第１～第６ブロックで構成されるブロック群である。これらは南北に連なるように分布していたブロック群で、北側の調査範囲外に分布が広がる可能性のあるものである。ブロック群の規模は、約29m×約10m以上で、資料数の比較的豊富な第３、第４ブロックを中心にして、その外側に散漫な分布を示すブロックが分布している状態である。構成ブロック数は６である。

ブロック群Ⅱ　第７～第15ブロックの、９ブロックで構成されるブロック群である。これらも南北方向に密集しながら広がるブロック群で、約26m×約16mの範囲に分布が認められているものである。比較的石器数の多い第７、第８、第10、第12、第14ブロックの間に、石器数の少ないブロックが分布するような状態であり、ブロックの密集度は高いものである。なお、ブロック群Ⅰとは隣接した状態で位置している。

ブロック群Ⅲ　第16～第26ブロックで構成されるブロック群である。これらも南北方向に広がるブロック群であるが、殆どのブロックが比較的少量の石器数で構成されているものであった。そ

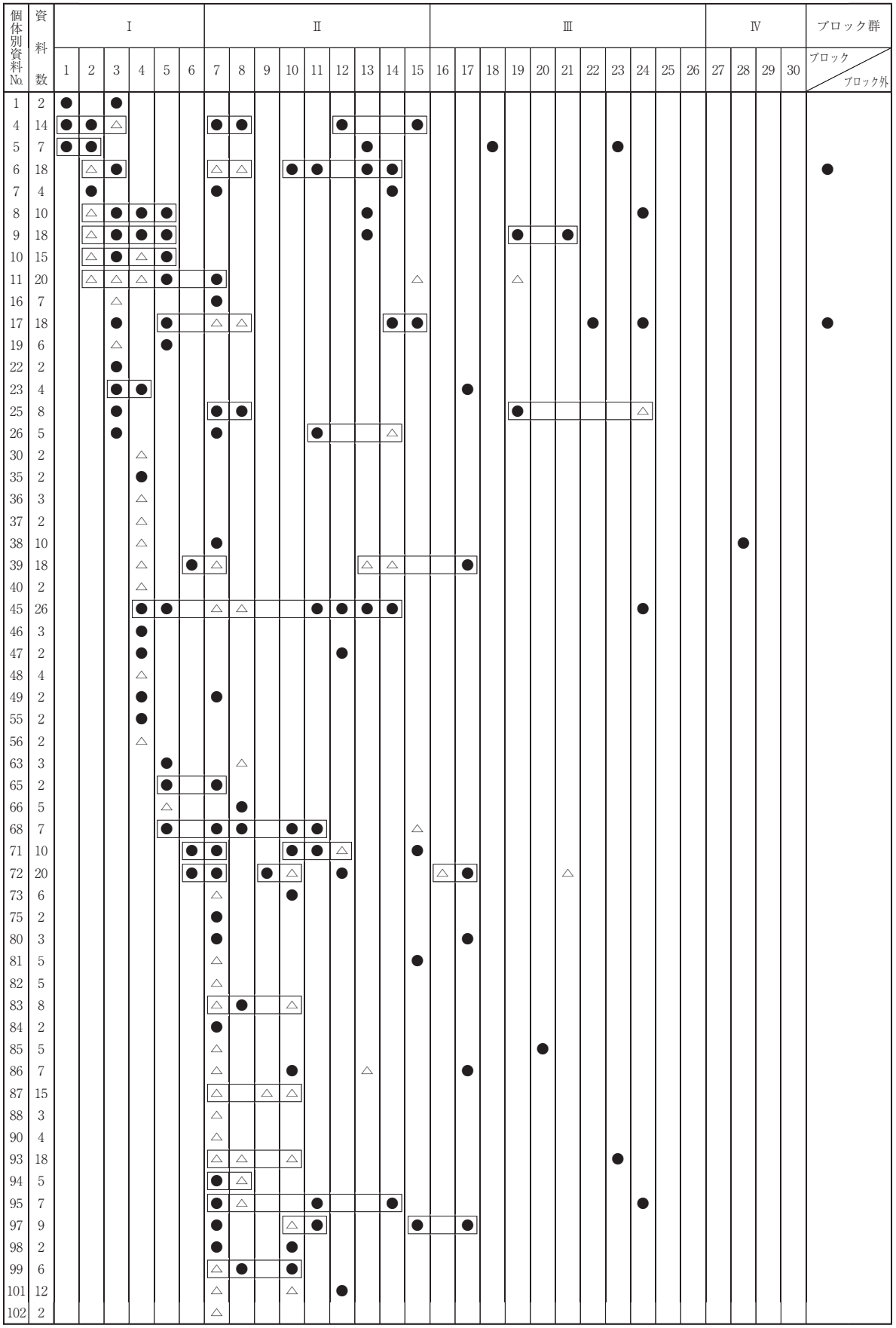
して、ブロック群を構成しているこれらのブロックは約30m×約22mの範囲の中で分布が確認されているが、ブロック群ⅠやⅡに比べると散漫な分布状態を示していた。なお、これらのブロックの中で、第25と第26ブロックは出土した石器数も少なく、しかも他のブロックとは個体別資料の共有が認められていないものであり、本ブロック群に含めて良いのか不安のあるものである。本ブロック群も、ブロック群Ⅱと隣接する分布状態を示している。構成ブロック数は11である。

ブロック群Ⅳ　第27～第30ブロックで構成されたブロック群である。これらも南北方向に並ぶように位置し、約14m×約８mの範囲の中に散漫なブロックの分布が認められたものである。やや出土量の多い第28ブロックを中心とし、他のブロックはその西側で南北に並ぶように位置していたが、これらから出土した石器数は極めて少ないものであった。本ブロック群は、ブロック群Ⅰ～Ⅲとは離れて位置しており、最も近いブロック群Ⅰとは約12mの距離を隔てて確認されているものである。構成ブロック数は４である。

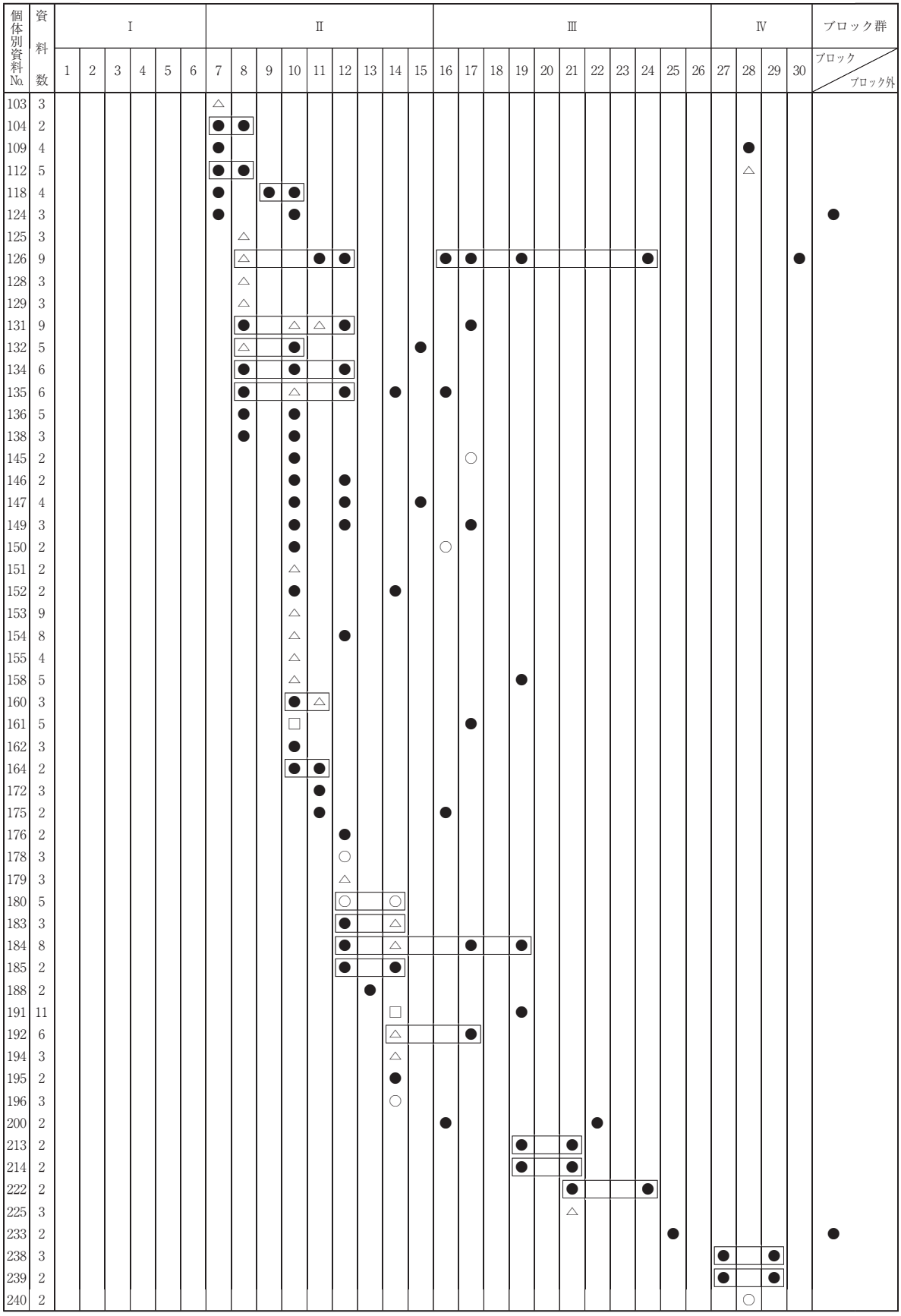
以上のようなブロック群にまとめられると考えられるが、前述したようにブロック群Ⅰ～Ⅲの３ブロック群は南北方向に隣接する状態で分布しており、分布状態からは明確な区別ができるような状況ではないのが現状である。しかもブロック群Ⅰとブロック群Ⅱ、ブロック群Ⅱとブロック群Ⅲにまたがって個体別資料の分布のまとまりが形成されているものが数個体存在しており、個体別資料の分布からもブロック群の確定を難しいものとしている。ただ、本文化層のように多くのブロックが密集状態で出土する遺跡では、複数のブロック群に存在している個体別資料の分布が近接する場合もあるものと考えられるとともに、このような事象が生じることは有り得るものと考えられることから、ブロック群を設定する場合には留意する必要があるものと思われる。そして、ブロック群を構成していたブロックは、ブロック群ⅡとⅢが10箇所前後とほぼ同数であったが、ブロック群ⅠとⅣは半数以下のブロック数であった。ただ、両ブロック群とも調査範囲外に分布を広げる可能性があり、これらのブロック数で構成されていたかどうかは明確ではないことから、全てのブロック群が10箇所前後のブロック数で構成されていた可能性もあるものと思われる。個体別資料は、これらのブロック群の中でブロックを超えたまとまりを形成しているが、その範囲はブロック群のほとんどのブロックに分布するものと、その一部のブロック（２～３ブロック）に分布するものの違いがあり、中でも後者の分布を示す個体が大部分を占めていることが理解される。これらのブロック群は、個体別資料のまとまりからはそれぞれが独立した範囲として考えることもできるが、多くの個体別資料ではブロック群の範囲を超えた分布が確認されており、これらのブロック群が決して無関係に成立したものではないことが判断できるものと思われる。したがって、これらのブロック群は何等かの状況によって生じた現象として考えられるが、現時点ではブロック群には多くの個体別資料の共有が認められることから、これらのブロック群が同一集団によって残されたものであることが推定できるにすぎない。そして、これらのブロック群間には接合関係の認められるブロック群と、認められないブロック群間があることから、ブロック群が同時期に存在していたことを証明することも難しいことが理解されると思われる。以上のような個体別資料のあり方から、これらのブロック群は同一集団による回帰的な集落構造（戸沢他　1974・鈴木　1984）によって形成されたことが推定されるとともに、本文化層では本遺跡を一過性の集落地として残しているのではなく、複数回訪れる集落地として選択されていることが窺えるものである。

では、回帰的な集落構造を示すものは何かと言えば、ブロック群間に分布している個体別資料の内容であり、以下ではそれらの個体のいくつかを見ていくことにしたい。

個体別資料番号№６は、ブロック群Ⅰに単数の類型Ｂと類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｂと類



第170図　第Ⅲ文化層個体別資料の分布とブロック群（１）



第171図　第Ⅲ文化層個体別資料の分布とブロック群（２）

型Ｃを分布させている個体別資料である。さらにブロック外にも分布するが、これは除外する。

個体別資料番号№８はブロック群Ⅰに単数の類型Ｂと複数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅱに単数の類型Ｂを、ブロック群Ⅲには単数の類型Ｃを分布させていた。

個体別資料番号№９は、ブロック群Ⅰに単数の類型Ｂと複数の類型Ｃを分布し、ブロック群Ⅱには単数の類型Ｃを、ブロック群Ⅲには複数の類型Ｃが確認された個体である。

個体別資料番号№25は、ブロック群Ⅰに単数の類型Ｃを、ブロック群Ⅱには複数の類型Ｃ、ブロック群Ⅲには単数の類型Ｂと類型Ｃを分布していた個体別資料である。

個体別資料番号№38はブロック群Ⅰに単数の類型Ｂを、ブロック群Ⅱには単数の類型Ｃ、ブロック群Ⅳには単数の類型Ｃを分布していた個体別資料である。

個体別資料番号№45はブロック群Ⅰに複数の類型Ｃを分布し、ブロック群Ⅱには複数の類型Ｂと類型Ｃを、ブロック群Ⅲには単数の類型Ｃが認められた個体別資料である。

個体別資料番号№72はブロック群Ⅰに単数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅱには単数の類型Ｂと複数の類型Ｃを、ブロック群Ⅲには複数の類型Ｂと単数の類型Ｃが分布していた個体別資料である。

個体別資料番号№93はブロック群Ⅱに複数の類型Ｂを、ブロック群Ⅲには単数の類型Ｃを分布していた個体別資料である。

個体別資料番号№97は、ブロック群Ⅱに単数の類型Ｂと複数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅲには単数の類型Ｃが確認された個体別資料である。

個体別資料番号№112はブロック群Ⅱに複数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅳに単数の類型Ｂを分布していた個体別資料である。

個体別資料番号№126は、ブロック群Ⅱに単数の類型Ｂと複数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅲには複数の類型Ｃ、ブロック群Ⅳには単数の類型Ｃを分布していた個体別資料である。

個体別資料番号№131は、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｂと類型Ｃを分布し、ブロック群Ⅲでは単数の類型Ｃが確認された個体別資料である。

個体別資料（母岩、石核）は剥片剥離の進行とともに体積を減少させ、最終的には類型Ｃと残核である類型Ｄとして残されることが理解されるが、類型Ｃで構成される個体や単独個体別資料に分類される石器類が各ブロックに多量に存在している現状からは、それらを剥離した石核を保有しなくなってからも、これらの石器類の中には割合と長い期間にわたって、石器群の構成石器として保有されていたことが理解されるものと思われる。このような個体別資料の消長のあり方をもとに、個体別資料の分布状態を見てみると、ブロック群Ⅰはブロック群Ⅱと、ブロック群Ⅱはブロック群Ⅲと、ブロック群Ⅳはブロック群Ⅱとで最も多くの個体別資料の共有が認められており、状況としては隣接するブロック間に多くの個体別資料の共有が認められていることが分かる。しかしながら、各ブロック群を構成している全ての個体が共有されている訳ではなく、各ブロック群だけで確認されている個体もあることから、これらの個体別資料の共有の有無や数量によるあり方と、前述したブロック群間における個体別資料の類別の分布によって、ブロック群の前後関係を推定していくことにしたい。

前述したように、ブロック群Ⅰはブロック群Ⅱと最も多くの個体別資料の共有が認められ、その数は22個体を数える。これに対してブロック群Ⅰとブロック群Ⅲは８個体で、共有する個体別資料の数は半数以下となっており、ブロック群Ⅰとブロック群Ⅲの関連性はブロック群Ⅱに比べると低下していることが理解されよう。そして、ブロック群間に分布していた個体別資料番号№６、№38では、ブロック群Ⅰに類型Ｂを、ブロック群Ⅱに類型Ｃの分布が確認されており、ブロック群Ⅰからブロック群Ⅱへの移行が推察される状況に

ある。ただ、前述した個体別資料の中には個体別資料番号№６、№38とは逆に、ブロック群Ⅱに類型Ｂを持ち、ブロック群Ⅰに類型Ｃを分布させた個体（個体別資料番号№45、№72）も存在することから、類別の分布状態が一方向へ偏っていないことが分かる。ブロック群Ⅱとブロック群Ⅲの両ブロックでも共有する個体は22個体あり、関連性の強いブロック群であることが予想できる。しかも両ブロックでは個体別資料番号№93、№97、№131のようにブロック群Ⅱに類型Ｂを持ち、ブロック群Ⅲに類型Ｃを分布させた個体が多く認められている。ただ、両ブロック間にもこれらとは逆の類型の分布を示す個体（個体別資料番号№25）が認められていたが、このブロック群Ⅲに分布していた個体別資料番号№25の類型Ｂは石器数３点で構成されており、類型Ｃ３点が同一ブロックに分布していた可能性もあることから、類型Ｂを多く分布するブロック群Ⅱから、それらの類型Ｃを分布していたブロック群Ⅲへの移行を推定することができるものと思われる。そしてブロック群Ⅳは、前述したように構成しているブロックや石器数が少なく、ブロック群間で個体別資料の共有が認められたのは個体別資料番号№38、№109、№112、№126の４個体であった。この内の個体別資料番号№109と№112はブロック群Ⅱと個体別資料を共有し、№38はブロック群Ⅰとブロック群Ⅱに、№126はブロック群Ⅱとブロック群Ⅲに個体別資料を分布しており、４個体ともブロック群Ⅱと共有していることが分かる。この４個体の中で類型Ｂを持っていたのは個体別資料番号№38、№112と№126で、№38はブロック群Ⅰに類型Ｂを持ち、類型Ｃをブロック群Ⅱとブロック群Ⅳに分布しているもので、№112は類型Ｂをブロック群Ⅳに、類型Ｃをブロック群Ⅱに持っていたもので、№126はブロック群Ⅱに類型Ｂを持ち、類型Ｃをブロック群Ⅲとブロック群Ⅳに分布しているものであった。したがって、ブロック群Ⅱとブロック群Ⅳでも、類型Ｂと類型Ｃの分布が逆のブロック間に分布しているものが存在していたが、個体別資料番号№126のブロック群Ⅰに分布していた類型Ｂは資料数２点の類型Ｂであり、これも類型Ｃが２点存在していた可能性があると思われることから、類型Ｂを持っていたブロック群Ⅳから類型Ｃを分布していたブロック群Ⅱへ、移行したことが想像できるものと思われる。

以上のように、ブロック群Ⅰとブロック群Ⅱの関係は類別の分布状態からは明確には捉えられなかったが、ブロック群Ⅳからブロック群Ⅱへ、ブロック群Ⅱからブロック群Ⅲへの移行を推定することができた。残るブロック群Ⅰはブロック群Ⅱとの関係が最も高いことが個体別資料の共有関係から推定されているが、その前後関係を推察できる要件を欠いている状態であった。しかしながら、前述したようにブロック群Ⅱ（ブロック数９）からはブロック群Ⅲ（11）への移行が推定されており、重ねてブロック群Ⅱ（９）からブロック群Ⅰ（５）への移行は２ブロック群（合計16）への移行となることから考えづらい現象と思われることから、ブロック群Ⅱからブロック群Ⅰへの移行は可能性が低いことが理解されるものと思われる。したがって、ブロック群Ⅰ（５）からブロック群Ⅱ（９）へ移行した可能性が高いものと考えられることから、ブロック群Ⅰ（５）とブロック群Ⅳ（４）からブロック群Ⅱ（９）へ、ブロック群Ⅱからブロック群Ⅲ（11）への移行が、他の遺跡で形成されたブロック群を介して本遺跡で残されていたものと想像することができるものと考えている。また、このような回帰的な集落構造の参考になるかどうかは明らかではないが、合計３回の本遺跡への来訪が推定された中で、それぞれの来訪時に形成されていたブロック数にも大きな違いがないことが判断されており、それぞれの来訪時の期間に大きな相違はなかったことが想定できるものと思われる。そして、各ブロック群は資料数の比較的多いブロックの周辺に、資料数の少ないブロックが分布する状態は共通しており、大きな違いは認められなかった。ただ、ブロック群の分布は極めて隣接した状態で確認されており、ブロック群の重複も考えられる状況ではあるが、しかし隣接する場所に分布するブロックの殆どは資料数の少ないブロックであり、石器類の分布状態からは重複の有無を判断できる状況にはないのが現状である。したがって、ブロック群が重複しながら形成されている可能性は否定できるものではないが、遺跡に回帰し

てブロック群を形成する場合には、それ以前に形成されたブロック群（集落地）が認識されており、その隣に新たなブロック群（集落地）を構築していることが推定されることから、何等かの原因で前回の集落地域を避けて新たな集落（ブロック群）を作っていることが理解されるとともに、回帰した時間は割合と短いもので、長くても１年以内であることが想像できるものと思われる。

以上のように、本文化層で確認された30箇所のブロックは４箇所のブロック群に分類され、これらのブロック群が同一集団の回帰的な集落構造の所産で、本文化層では合計３回の来訪があったことが推定された。したがって、それぞれの来訪前にはいずれかの場所で遺跡（ブロック群）が形成されていたことが予想されることから､本遺跡に移動する前の遺跡と最後に移動していった遺跡を含めれば､最低でも７箇所の遺跡（ブロック群）を残していることが理解されるとともに、これらの複数のブロック群では同一の個体別資料が継続して使用されていることから、比較的短期間の中で移動を繰り返していたことが推定されるものと思われる。このように本文化層に残されたブロックは、同一集団による回帰的な集落構造の所産であることが推定されたが、このような推定を妥当性のあるものにするには、同時代に比定される遺跡とで石器類の接合関係が確認されることが必要であり、今後は遺跡内だけではなく、遺跡間の接合関係の確認も積極的に行うことが重要であるものと思われる。そして、このような作業と接合関係の確認があって初めて回帰的な集落構造が実体化するものと考えられることから、今後の調査と整理作業に期待したい。

（４）位置付けと問題点

本文化層で確認された石器群はナイフ形石器を主体的器種とし、少量の尖頭器を伴うナイフ形石器石器群であった。それぞれの石器類に関しては前述していることから、ここでは各器種と石器群の特徴を見ていくことによって、本文化層のまとめとしたい。

ナイフ形石器について：54点が確認された。形状の不明な欠損品を除けば、全て二側縁加工と一側縁加工の形態のもので占められており、形態的な斉一性が認められる状態にあった。これらは大きさや調整の状態から３群10類に分類されており、通常に認められるナイフ形石器の諸形態のほとんどが確認されている状況である。ただ、当地方では良質の石材の入手が難しいことに関連してか、比較的小形のナイフ形石器が主体を占める傾向にあり、第Ⅰ群ａ類としたナイフ形石器のように５cmを超える大きさのものは僅かに認められるだけであった。これらの中には剥片を素材として製作されているものも存在していたが、殆どのものは石刃を素材として製作されており、技術基盤としての石刃技法との結び付きが強固であることが窺えるものであった。

尖頭器について：未製品を含めて９点が確認されている。これらの中には、両面加工、片面加工、半両面加工のものが確認され、しかも後者の中には周縁加工に近いものが含まれており、尖頭器に認められる諸形態のものが存在していることが理解されよう。素材の形状を推定することが不可能な両面加工の１点を除き、それ以外の殆どは素材に石刃か幅広の縦長剥片が利用されており、ナイフ形石器と同様に素材としての石刃との関係が密接であることが推察できる内容を示していた。したがって、ナイフ形石器を製作するために発達、発展したと思われる石刃技法の中で、尖頭器の素材を消化しようとしている様子が窺えるとともに、その延長の中で多くの尖頭器の製作も行われていることが理解されるものである。このような尖頭器の特徴からは、組成として組み込まれた尖頭器を、元来はナイフ形石器を製作するために整備された技術基盤である、石刃技法を中心としたナイフ形石器製作技術体系の中で製作が計られていることに他ならず、尖頭器の製作をもナイフ形石器製作技術体系に組み込もうとしているように見受けられる。しかしながら、両面加工の尖頭器を作製するには想定する尖頭器の倍程度の大きさの素材が最低限必要であることから、石刃や縦長剥片を素材とした本文化層の尖頭器では、必然的に片面加工、半両面加工や周縁加工のものが大勢を占める結果となってしまっており、両面加工の尖頭器の製作には不向きな素材の選択であったことは明らかである。したがって、尖頭器に求められていた形状が片面加工等の石刃や縦長剥片を素材したものでなく、両面加工のものであったとしたら、ナイフ形石器製作技術体系以外の加工技術を駆使する必要があることは明らかであり、石器群の中にナイフ形石器製作技術体系以外の、尖頭器製作に利用される技術体系を発達させる条件が熟成されてきていることが想像できるものと思われる。

その他の石器類：掻器、削器、彫器、ノッチ、ドリル、ピエス・エスキーユ、石刃等が出土している。掻器は寸詰まりのものや、簡単な調整で刃部が製作されているものもあったが、所謂「先刃式掻器」の範疇に含まれるものが殆どを占めており、画一的な掻器を保有していたことが分かる。削器は石刃や縦長剥片の側縁に比較的簡単な調整で刃部を作製しているものが大勢であったが、１点だけ大形の横長剥片を素材としたものが確認されている。ただ、この刃部は極めて荒い調整で製作されており、刃部としての使用が可能であるのか疑問の残るものであった。彫器は比較的出土量は多く、しかも所謂「小坂型」と「上ゲ屋型」彫器の範疇に含まれる形態のものであり、限定された形状の彫器が量産されていたことが窺える。これらの他にナイフ形石器やノッチを含めた器種は、殆どのものが石刃を素材として製作されており、これらが石刃技法を技術基盤とするナイフ形石器製作技術体系の中で、製作されていることが理解できるものであった。このような理解を裏付けるように、各ブロックに分布していた石刃・折石刃は119点を数えており、本文化層の主

体的器種であるナイフ形石器の２倍以上の出土量を誇っている。さらに前述した器種以外にも使用痕のある剥片も石刃素材のものが多量に確認されており、本文化層の中では少なく見積っても200点以上の石刃が生産されていることが判断される状況であり、本文化層にとっては石刃は切り離すことのできない存在であることが理解できるものと思われる。

第７表　第Ⅲ文化層ブロック内外別石器組成表

	ナイフ形石器	尖頭器	掻器	削器	彫器	ノッチ	掻器＋彫器	叩石	磨石	ドリル	ピエス・エスキーユ	R・F	U・F	原石	石刃・折石刃	剥片・砕片	石核	合計
１ブロック	1														1	3		5
２ブロック		1		1								2	4			21		29
３ブロック	3				2								6		7	24	1	43
４ブロック	5	1				1						2	5		9	48		71
５ブロック	4	3				1							3			9	1	21
６ブロック															1	2		3
７ブロック	5	2	3	1	1	2	1					2	6		21	78	1	123
８ブロック	9									1	1	1	3		9	58	1	83
９ブロック															2	6		8
10ブロック	1			1									3		23	81	2	111
11ブロック	2				1								4		4	11		22
12ブロック	6	1	1	1	1							1	2		10	12	3	38
13ブロック													2		1	11		14
14ブロック	5				1							1	2		12	28	4	53
15ブロック	1												1		2	10		14
16ブロック													2		2	5	1	10
17ブロック	2			1								1	1		2	11	1	19
18ブロック	1														1	1		3
19ブロック													2		2	11		15
20ブロック																2		2
21ブロック	2		1	1	1								3		2	10		20
22ブロック																3		3
23ブロック	2												1			1	1	5
24ブロック	1												1		1	6		9
25ブロック	2																	2
26ブロック	1	1														1		3
27ブロック													2			1		3
28ブロック			1	1											3	10	1	16
29ブロック			2	1											1			4
30ブロック	1														1	3		5
ブロック外１															1			1
ブロック外２													1					1
ブロック外３															1			1
ブロック外４													1					1
ブロック外５																1		1
ブロック外６													1					1
合計	54	9	8	8	7	4	1			1	1	10	56		119	468	17	763

剥片剥離技術について：出土した石核の多くは上部や両端に打面を設置したもので、石刃を生産することのできる石核であった。ただ、中には90度の打面転位を行いながら剥片剥離が行われているものも確認されており、石刃を剥片剥離する石刃技法以外の剥片剥離技術も利用されていたことが窺える。ただ、このような剥片剥離技術がナイフ形石器等の製作に関係して利用されている形跡は認められないことから、どのような目的で利用されたかは明らかではなく、その存在理由は不明である。したがって、本文化層では石刃を生産する石刃技法が技術基盤として存在し、それ以外に90度の打面転位を行いながら剥片剥離を進める技術が伴っていることが理解されたが、これら２種類の剥片剥離技術の関係は捉えられていないのが現状である。

本文化層の位置付けと問題点：第Ⅲ文化層として捉えられた石器群は、少量の尖頭器を伴うナイフ形石器石器群であることは前述した。石器群に尖頭器を伴うことから､ナイフ形石器石器群の中でも新しい時期で、しかも終末段階の石器群であることが推定されるものである。ただ、石器群の特徴としては前述してきたように石刃技法を中心とした技術基盤を持ち、これから生産された石刃を素材として石器器種の殆どが製作されており、ナイフ形石器石器群として成熟した石器群が形成されている状態にあった。そしてナイフ形石器や掻器、彫器等は、大きさの大小はあるものの画一的な形態のものが生産されており、ナイフ形石器石器群の中でも特徴のある石器群が形成されていることが理解されるものであった。当地方の旧石器時代編年は、1995年に『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』（静岡県考古学会　1995）が提示され、石器群の整理作業が進められている。この中で尖頭器が組成に加わるのは第４期ａ段階からであり、当該期はナイフ形石器石器群の最盛期と評価されている所謂「砂川期」（田中　1979)､「砂川型式期」（田中　1984）に対比されている時期であった。所謂「砂川期」は、多くの形態のナイフ形石器と、少量の尖頭器、掻器、削器、彫器、ノッチ、ピエス・エスキーユ等を組成とし、技術基盤として石刃技法が駆使されており、多量の石刃が生産されている時期である。このような「砂川期」の特徴は、前述してきた本文化層の特徴と良く共通しており､本文化層が「砂川期」に比定される石器群で､当地方の旧石器時代編年に対比すれば「第４期ａ段階」に相当する石器群であることが理解できるものであった。ただ、当地方は大形で良質の石器石材の入手が困難なためか、ナイフ形石器を初めとして、掻器、削器、彫器等では比較的小形に製作されているものが目に付く状況にあり、所謂「砂川期」の石器群に比べると全体的に小ぶりな印象のものが大勢を占めている傾向が認められることから、当地方の「砂川期」の石器群を検討する上で留意しなければならない問題点であるものと思われる。そして、本文化層の後には本遺跡で第Ⅱ文化層として捉えられた、ナイフ形石器と尖頭器の出土量が同程度を示すナイフ形石器石器群が確認されており、両文化層の関連性も追及して行かなければならない課題と思われる。それは第Ⅱ文化層が、ナイフ形石器石器群の最終末段階の「第４期ｃ段階」（前嶋　1995）に比定される石器群であり、ナイフ形石器石器群としての内容が変質していることが推定される状況にあることから、ナイフ形石器石器群への尖頭器の受容はナイフ形石器石器群を大きく変容させる契機になっていることが推察できるものである。したがって、本遺跡の第Ⅲ文化層から第Ⅱ文化層への変遷は、ナイフ形石器石器群の終末段階を検討する上で極めて重要な様相を示しているものと思われることから、今後の調査、研究に益するところが大きいことが理解されるものと思われる。そして、このようなナイフ形石器石器群の終末段階における重層遺跡が確認できたことは、所謂「休場層」に形成されたナイフ形石器石器群の再検討が必要になることは明らかであり、これらの問題点も今後の調査、研究を行う上での検討課題となることを指摘しておきたい。

第２節　縄文時代の遺構と遺物

１．検出された遺構

山中城Ｅ遺跡の調査で検出された縄文時代の遺構は、８－１地点と８－４・５地点で検出された土坑29基と柱穴１基である。これらの土坑は８－１・５地点調査範囲の中央部から南に集中して分布し、更に南方の８－４地点に続い分布している（第172・173図）。今回調査範囲は南北に緩やかに傾斜しており、斜面中位から下位に向かって集中して構築されているようである。一部の土坑を除き、形態から「陥し穴」とされる土坑であると考えられる。

出土遺物は、縄文時代草創期末葉～早期前葉の撚糸文土器、早期後半の条痕文土器、前期後半の諸磯式土器と有舌尖頭器・石鏃・打製石斧・剥片などの石器類である。

（１）土　坑

第１号土坑（第174図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＨ－13グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484ｍ付近である。規模は長径102㎝、短径48㎝、深さ約16㎝を測る。平面形はやや不整な楕円形、断面形は逆台形を呈している。主軸方位はＮ－76°－Ｗである。出土遺物は無い。

第２号土坑（第174図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＧ－12グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約485ｍ付近である。本土坑は北側部分が第５次調査地点となり、その部分では検出できなかった。検出した範囲での規模は長径約141㎝、短径約243㎝、深さ約104㎝を測る。平面形はやや不整な楕円形と推定される。断面形は上部が開く朝顔形を呈している。主軸方位はＮ－25°－Ｗである。出土遺物は無い。

第３号土坑（第174図）

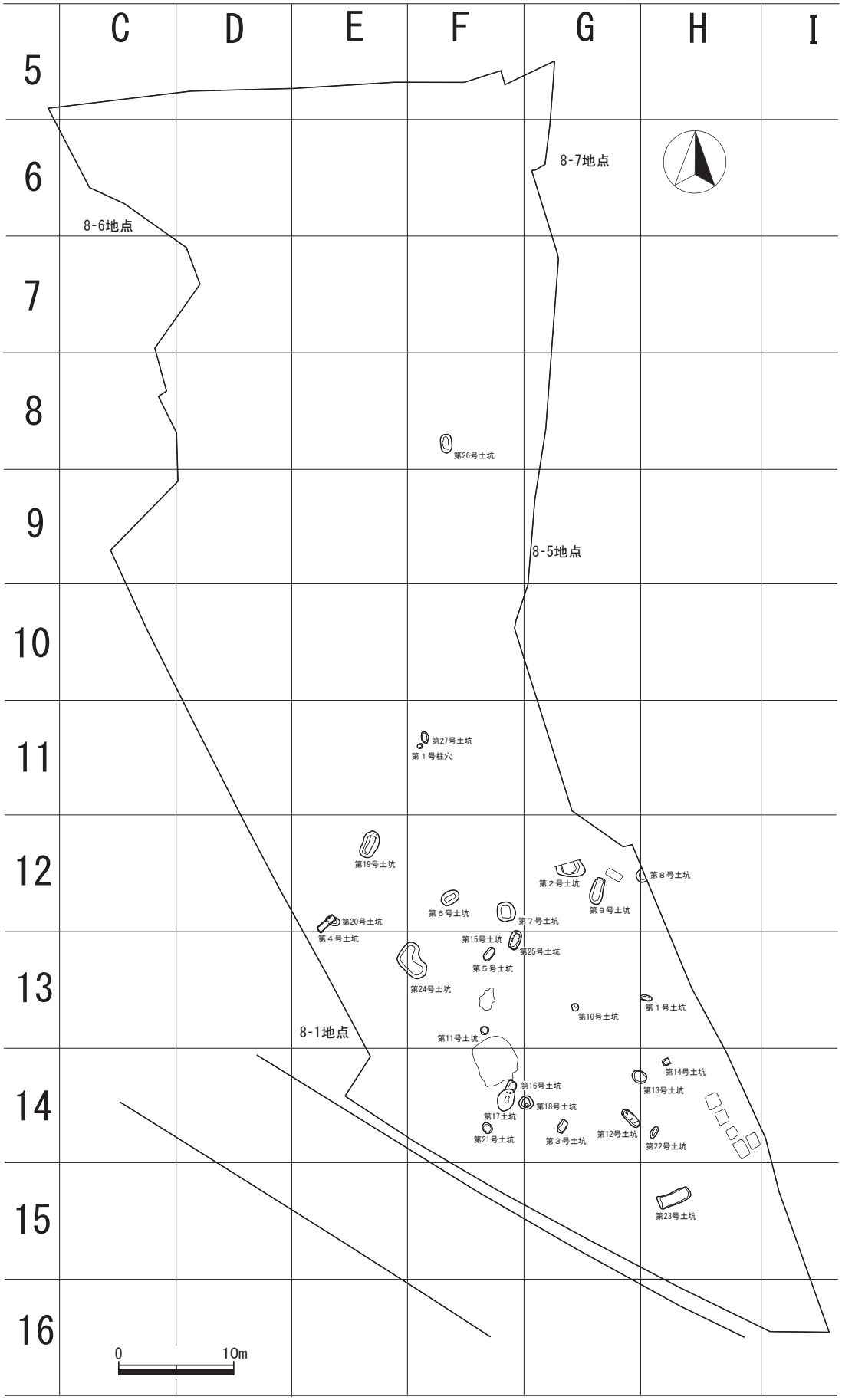
本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＧ－14グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約483.5ｍ付近である。規模は長径113㎝、短径63㎝、深さ17㎝を測る。平面形はやや不整な楕円形である。北東部分の短辺壁がオーバーハングしている。断面形は上部が開く朝顔形を呈している。主軸方位はＮ－39°－Ｅである。出土遺物は無い。

第４号土坑（第174図）

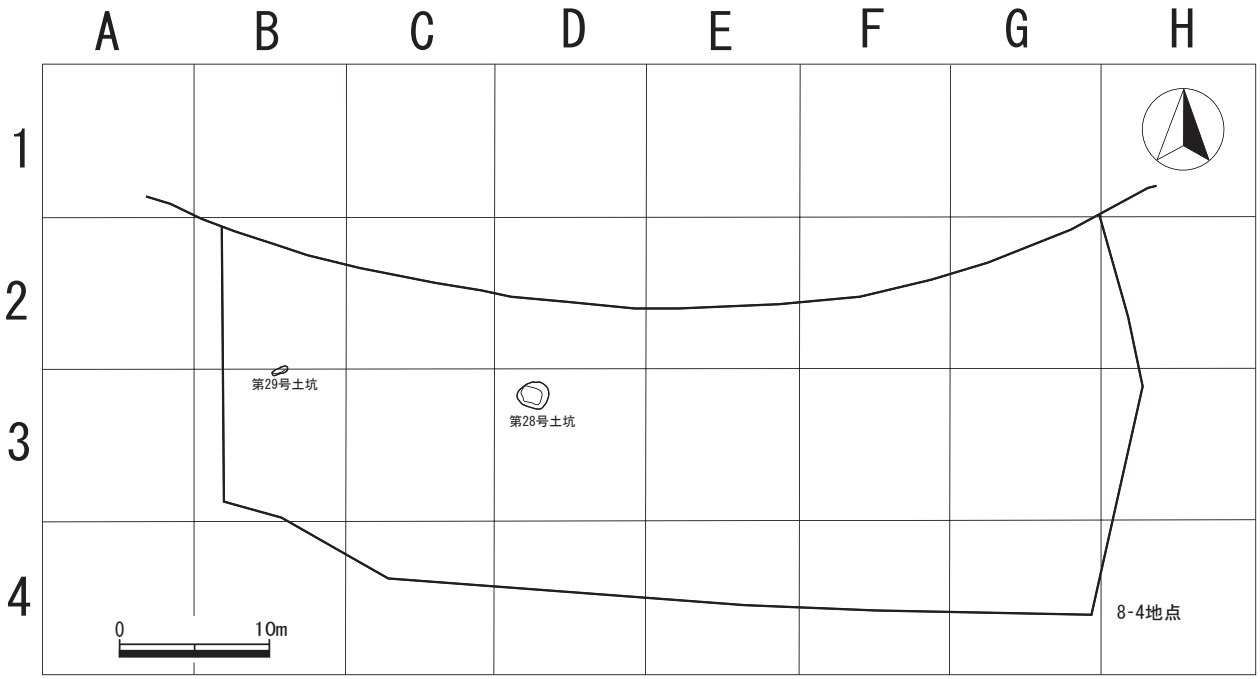
本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＥ－12グリッドに位置する。第20号土坑と重複するが、写真では重複関係に不明な点が認められる。土坑の検出面は標高約484.2ｍ付近である。規模は長軸182㎝、短軸54㎝、深さ82㎝を測る。平面形は隅の丸い長方形である。断面形は台形を呈している。主軸方位はＮ－52°－Ｅである。覆土は暗褐色土を中心とする自然堆積土で、上部には炭化材粒子を含んでいる。出土遺物は無い。

第５号土坑（第174図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－13グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484ｍ付近である。規模は長径128㎝、短径68㎝、深さ71㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。断



第172図　縄文時代遺構配置図（１）



第173図　縄文時代遺構配置図（２）

面形はＵ字形である。主軸方位はＮ－40°－Ｅである。

覆土は暗褐色土を中心とする自然堆積土で、ロームブロックを微量に含んでいる。出土遺物は無い。

第６号土坑（第174図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－12グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約483m付近である。規模は長径163cm、短径111cm、深さ53cmを測る。平面形は胴張楕円形を呈する。断面形は上部が大きく開くＵ字形である。主軸方位はＮ－62°－Ｅである。出土遺物は無い。

第７号土坑（第175図）

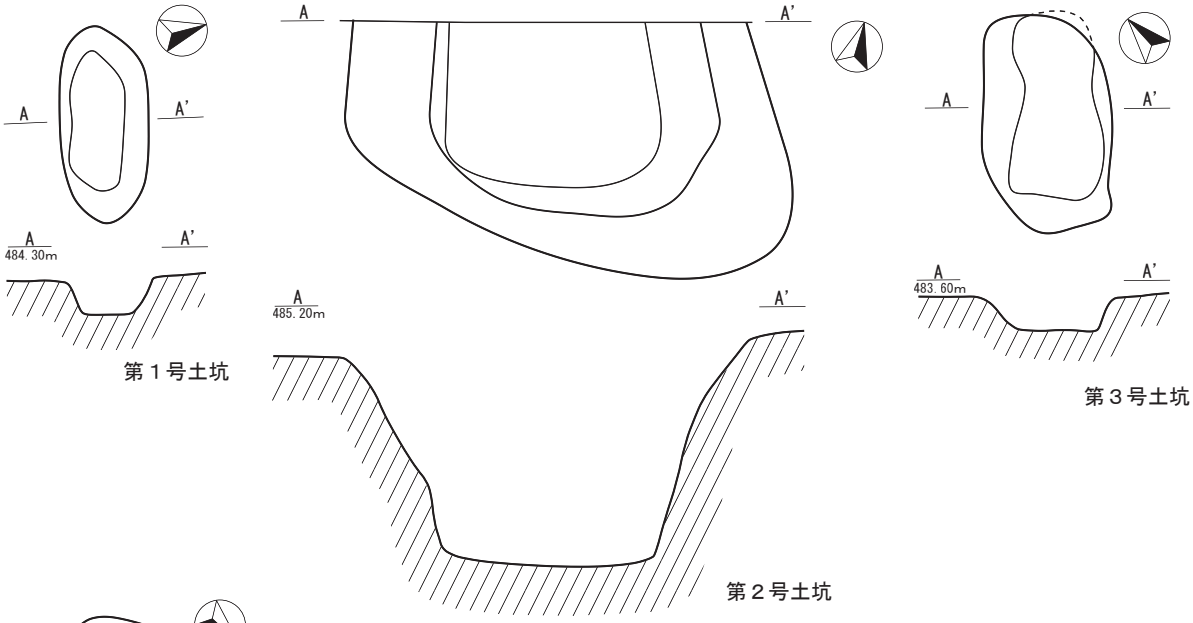
本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－12グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。規模は長軸165cm、短軸157cm、深さ70cmを測る。平面形は胴張隅丸方形を呈する。断面形は上部が大きく開く逆台形である。主軸方位はＮ－６°－Ｅである。覆土は茶褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

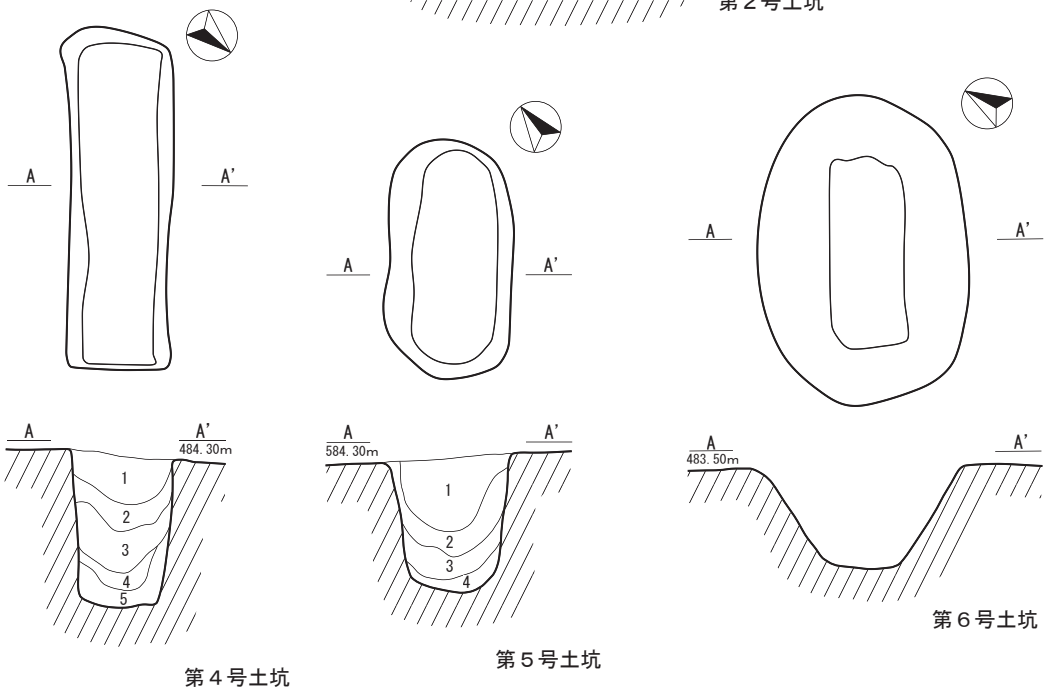
第８号土坑（第175図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＧ・Ｈ－12グリッドに位置する。東側は調査範囲外となり、ほぼ1/2を調査した。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。検出した規模は長径70cm、短径116cm、深さ68cmを測る。平面形は楕円形を呈する。断面形は上部が弱く開く逆台形である。主軸方位はＮ－67°－Ｅである。覆土は明褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第９号土坑（第175図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＧ－12グリッドに位置する。土坑の検出





第４号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	弱	有	ラピリ、赤色・橙色スコリア少量混入。
2	暗褐色土層	無	有	炭化物を少量混入。
3	暗褐色土層	無	有	ラピリ、スコリア少量混入。
4	暗褐色土層	無	有	粘性が少し有る。
5	明褐色土層	無	強	ロームブロック微量混入。

第５号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	径３～５㎜橙色スコリア微量混入。
2	褐色土層	有	弱	ロームブロック微量混入。
3	褐色土層	有	弱	径３㎜前後赤色スコリア微量混入。
4	褐色土層	無	無	ロームブロック微量混入。

第174図　第１～６号土坑

面は標高約484.5m付近である。規模は長軸233㎝、短軸109㎝、深さ95㎝を測る。平面形は長楕円形を呈する。断面形は箱形である。主軸方位はＮ－15°－Ｅである。覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第10号土坑（第175図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＧ－13グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。規模は長径58㎝、短径55㎝、深さ23㎝を測る。本土坑は小規模で、柱穴となる可能性がある。平面形は楕円形を呈する。断面形は上部が弱く開くＵ字形である。覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第11号土坑（第175図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－13グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。規模は径69㎝、深さ53㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。断面形は上部が開くＵ字形である。覆土は褐色土～黄褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第12号土坑（第175図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＧ－14グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。規模は長径193㎝、短径73㎝、深さ54㎝を測る。平面形は長楕円形を呈する。断面形は箱形である。主軸方位はＮ－52°－Ｗである。底面には径10㎝の小柱穴が８基構築されている。覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第13号土坑（第176図）

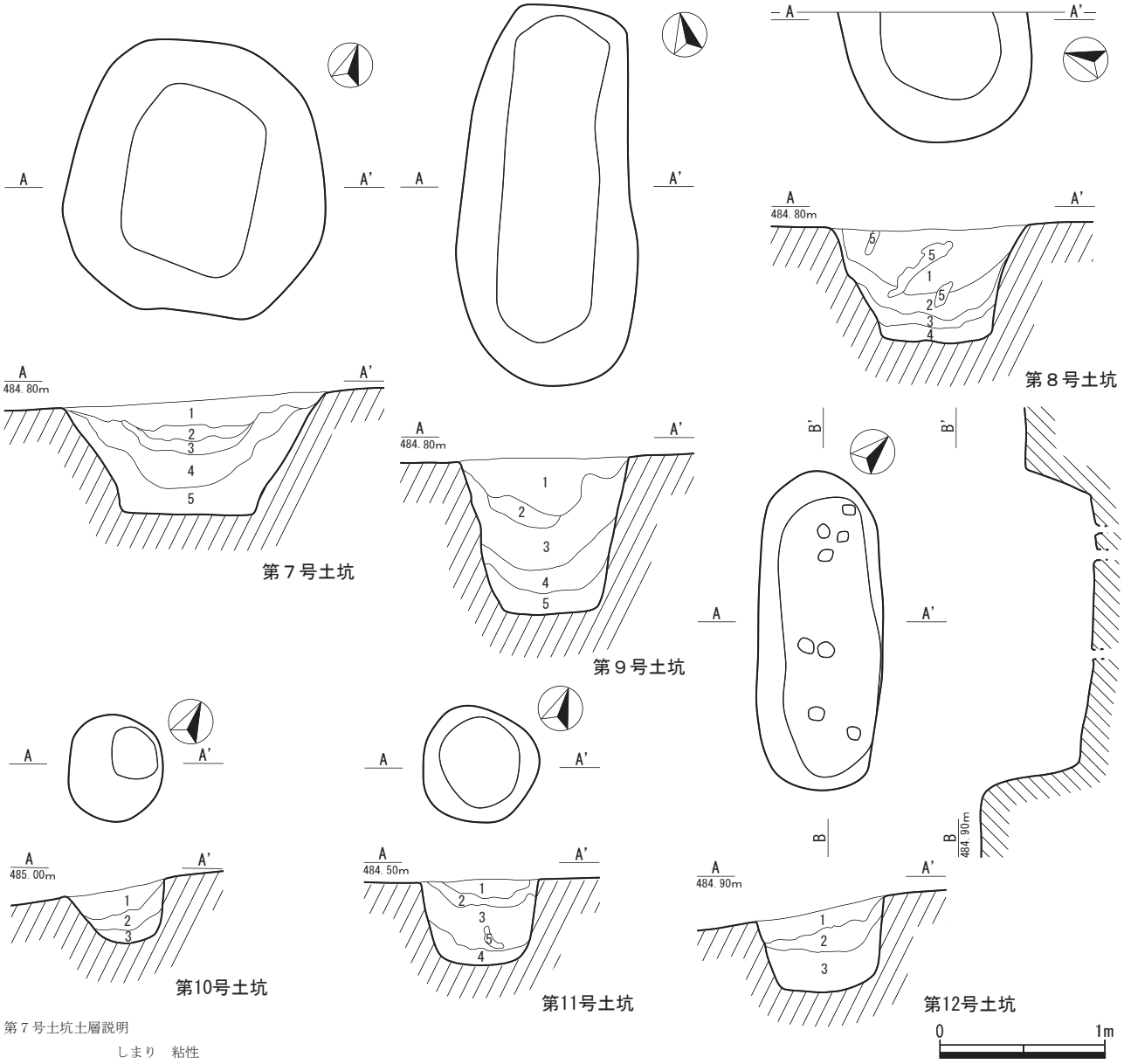
本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＧ・Ｈ－14グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約485.5m付近である。規模は長径130㎝、短径105㎝、深さ73㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。断面形は箱形である。主軸方位はＮ－70°－Ｗである。覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第14号土坑（第176図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＨ－14グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約485m付近である。本土坑の東側部分は検出していない。検出した部分の規模は長径63㎝、短径58㎝、深さ32㎝を測る。平面形は楕円形を呈すると推定される。断面形は上部が開く逆台形である。主軸方位はＮ－63°－Ｅである。出土遺物は無い。

第15号土坑（第176図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－13グリッドに位置する。第25号土坑と重複するが、写真では重複関係に不明な点が認められる。土坑の検出面は標高約485.5m付近である。規模は長径162㎝、短径94㎝、深さ93㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。断面形は箱形である。主軸方位はＮ－70°－Ｗである。覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。



第７号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	茶褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色スコリア混入。
2	赤褐色土層	強	弱	径１㎜赤色、黒色スコリア多量混入。
3	茶褐色土層	有	弱	径１㎜赤色、黒色スコリア、砂粒混入。
4	茶褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色、黒色、橙色スコリア混入。
5	黄褐色土層	有	弱	径１～２㎜黒色・橙色スコリア、ローム粒子微量、赤色スコリア少量混入。

第９号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	茶褐色土層	有	弱	赤色スコリア少量混入。
2	明褐色土層	有	弱	径1～2㎜赤色、黒色、橙色スコリア混入。
3	黄褐色土層	有	弱	赤色、黒色、橙色スコリア混入。ローム全体に混入。
4	暗黄褐色土層	有	弱	３層と類似するが、ロームの混入が少ない。
5	暗褐色土層	有	弱	根のよる撹乱。

第12号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	径１㎜赤色スコリア混入。
2	褐色土層	有	有	径１㎜赤色、橙色スコリア微量、ローム粒子混入。
3	褐色土層	有	弱	径２～３㎜赤色、橙色スコリア少量混入。

第８号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	茶褐色土層	有	弱	径３～５㎜赤色スコリア、やや小さい黒色スコリア混入。
2	赤褐色土層	有	弱	径２～３㎜赤色スコリア混入。
3	明褐色土層	有	弱	径２～３㎜赤色スコリア中量、黒色スコリア少量混入。
4	明褐色土層	有	弱	径１～３㎜赤色スコリア、径１～５㎜黒色スコリア混入。
5	明褐色土層	有	弱	径２～３㎜赤色、黒色スコリア多量混入。赤色スコリアが多い。

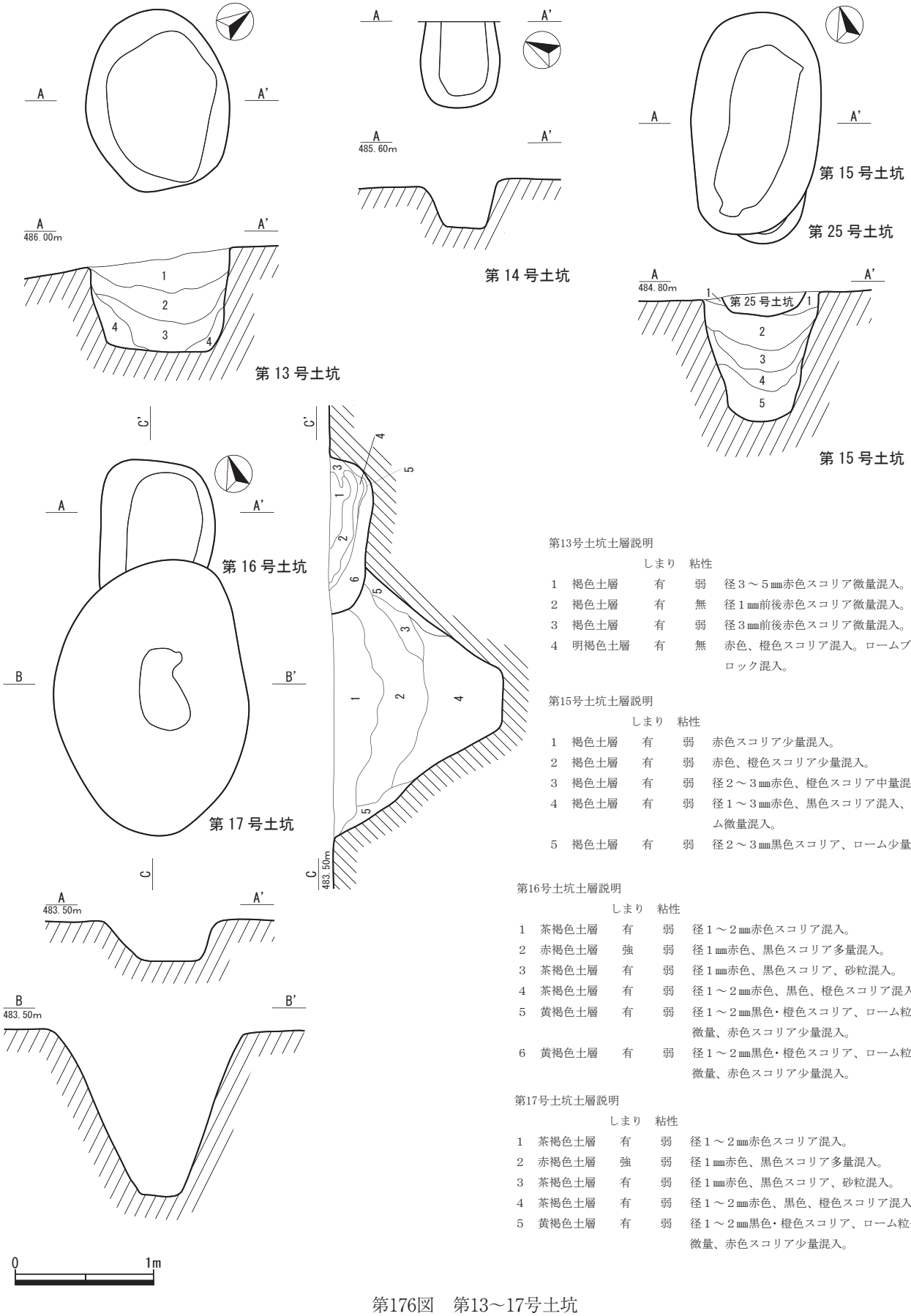
第10号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	赤色スコリア微量、炭化物混入。
2	褐色土層	有	弱	赤色スコリア少量混入。
3	褐色土層	有	弱	赤色スコリア微量、炭化物量混入。

第11号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	赤色スコリア、炭化物微量混入。
2	褐色土層	有	弱	赤色、黒色スコリア、ロームブロック混入。
3	褐色土層	有	有	赤色スコリア微量、ローム粒子混入。
4	黄褐色土層	有	有	径３㎜前後赤色、橙色スコリア混入。
5	黄褐色土層	無	有	赤色スコリア混入するローム。根か？

第175図　第７～12号土坑



第13号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	径３～５㎜赤色スコリア微量混入。
2	褐色土層	有	無	径１㎜前後赤色スコリア微量混入。
3	褐色土層	有	弱	径３㎜前後赤色スコリア微量混入。
4	明褐色土層	有	無	赤色、橙色スコリア混入。ロームブロック混入。

第15号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	赤色スコリア少量混入。
2	褐色土層	有	弱	赤色、橙色スコリア少量混入。
3	褐色土層	有	弱	径２～３㎜赤色、橙色スコリア中量混入。
4	褐色土層	有	弱	径１～３㎜赤色、黒色スコリア混入、ローム微量混入。
5	褐色土層	有	弱	径２～３㎜黒色スコリア、ローム少量混入。

第16号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	茶褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色スコリア混入。
2	赤褐色土層	強	弱	径１㎜赤色、黒色スコリア多量混入。
3	茶褐色土層	有	弱	径１㎜赤色、黒色スコリア、砂粒混入。
4	茶褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色、黒色、橙色スコリア混入。
5	黄褐色土層	有	弱	径１～２㎜黒色・橙色スコリア、ローム粒子微量、赤色スコリア少量混入。
6	黄褐色土層	有	弱	径１～２㎜黒色・橙色スコリア、ローム粒子微量、赤色スコリア少量混入。

第17号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	茶褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色スコリア混入。
2	赤褐色土層	強	弱	径１㎜赤色、黒色スコリア多量混入。
3	茶褐色土層	有	弱	径１㎜赤色、黒色スコリア、砂粒混入。
4	茶褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色、黒色、橙色スコリア混入。
5	黄褐色土層	有	弱	径１～２㎜黒色・橙色スコリア、ローム粒子微量、赤色スコリア少量混入。

第176図　第13～17号土坑

第16・17号土坑（第176図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－14グリッドに位置する。第16・17号土坑は重複している。土坑の検出面は標高約483.5m付近である。第16号土坑は第17号土坑の北側部分に重複し、第17号土坑を切って構築されている。

第16号土坑の規模は長径112cm、短径81cm、深さ30cmを測る。平面形は隅丸方形を呈する。断面形は浅いＵ字形である。主軸方位はＮ－15°－Ｅである。覆土は茶褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第17号土坑の規模は長径201cm、短径140cm、深さ121cmを測る。平面形は不整楕円形を呈する。断面形は上部が大きく開く逆台形である。主軸方位はＮ－10°－Ｅである。覆土は茶褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第18号土坑（第177図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ・Ｇ－14グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。規模は長径125cm、短径121cm、深さ93cmを測る。平面形は楕円形を呈する。断面形はＵ字形である。主軸方位はＮ－５°－Ｅである。底面には長径43cm、短径38cmの小柱穴が１基構築されている。覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第19号土坑（第177図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＥ－12グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484m付近である。規模は長径235cm、短径144cm、深さ94cmを測る。平面形は長楕円形を呈する。断面形は上部が少し開くＵ字形である。本土坑は北東短辺の壁がオーバーハングしている。主軸方位はＮ－30°－Ｅである。覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第20号土坑（第177図）

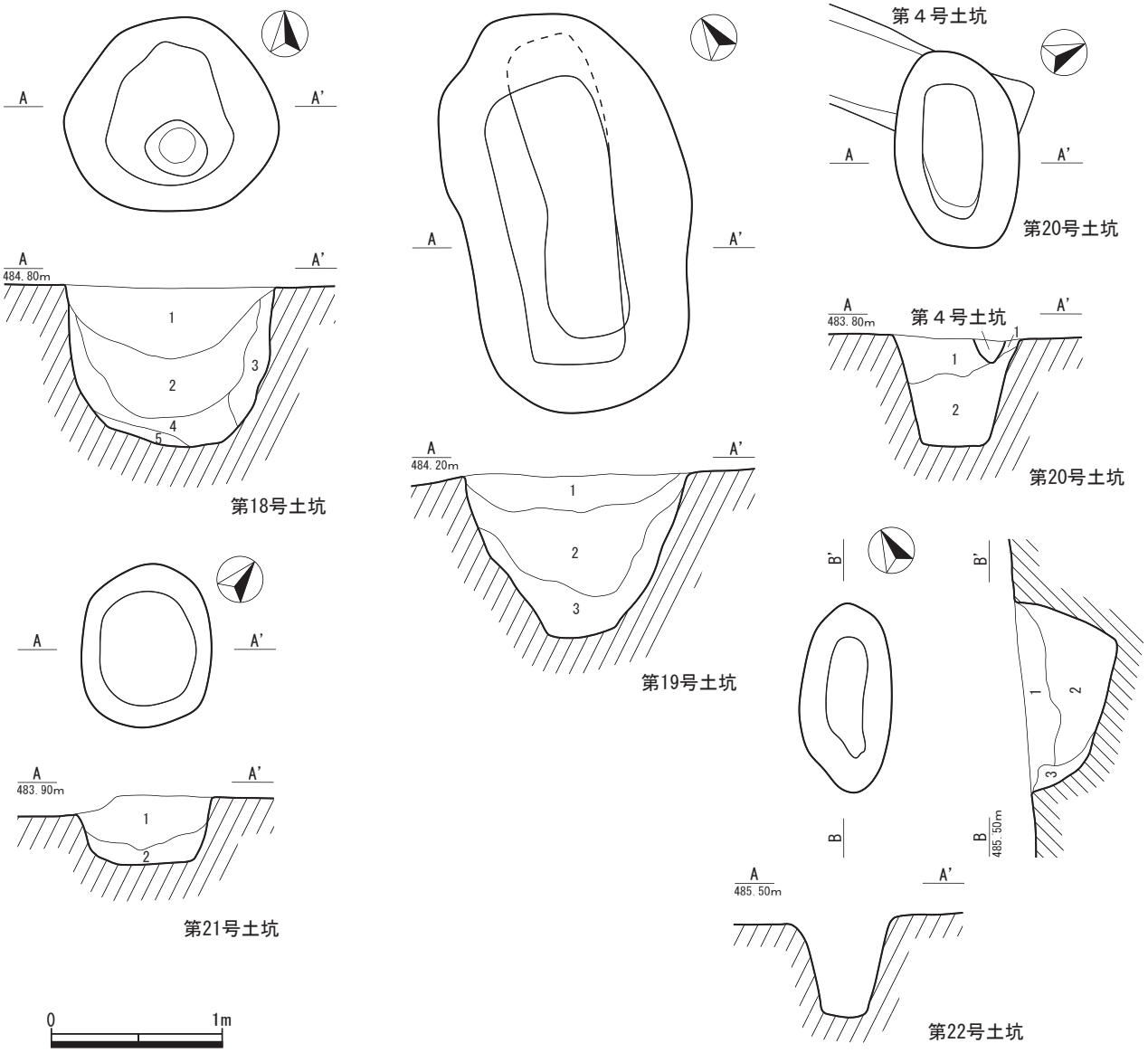
本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＥ－12グリッドに位置する。第４号土坑と重複するが、写真では重複関係に不明な点が認められる。土坑の検出面は標高約483.6m付近である。規模は長径115cm、短径72cm、深さ63cmを測る。平面形は長楕円形である。断面形は上部がやや開く逆台形を呈している。主軸方位はＮ－70°－Ｅである。覆土は明褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第21号土坑（第177図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－14グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約483.8m付近である。規模は長径97cm、短径76cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形を呈する。断面形はＵ字形である。本土坑は北東短辺の壁がオーバーハングしている。主軸方位はＮ－36°－Ｗである。覆土は明褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第22号土坑（第177図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＨ－14グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約485m付近である。規模は長径102cm、短径54cm、深さ58cmを測る。平面形は長楕円形を呈する。断面形はＵ字形である。本土坑は北東短辺の壁がオーバーハングしている。主軸方位はＮ－28°－Ｗである。



第18号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色スコリア混微量入。
2	褐色土層	有	弱	径３㎜赤色スコリア、径５㎜黒色スコリア微量混入。
3	明褐色土層	強	弱	径３～５㎜赤色、黒色スコリア混入。SCAスコリアブロック混入。
4	褐色土層	有	弱	径２～３㎜赤色、黒色スコリア少量混入。径１㎝ロームブロック混入。
5	黄褐色土層	有	弱	地山ローム層

第19号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	強	強	径１～３㎜橙色スコリア微量混入。
2	褐色土層	強	強	径１～５㎜橙色スコリア少量、径１㎜黒色スコリア微量混入。
3	明褐色土層	有	弱	径１～５㎜茶褐色スコリア少量。

第20号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	明褐色土層	弱	強	径１～２㎜黒色、橙色スコリア微量混入。
2	明褐色土層	強	強	径１㎜橙路スコリア微量混入。１層より明るい。

第21号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	明褐色土層	有	強	径２㎜橙色スコリア微量混入。
2	明褐色土層	強	強	径２～３㎜黒色、橙色スコリア少量混入。

第22号土坑土層説明

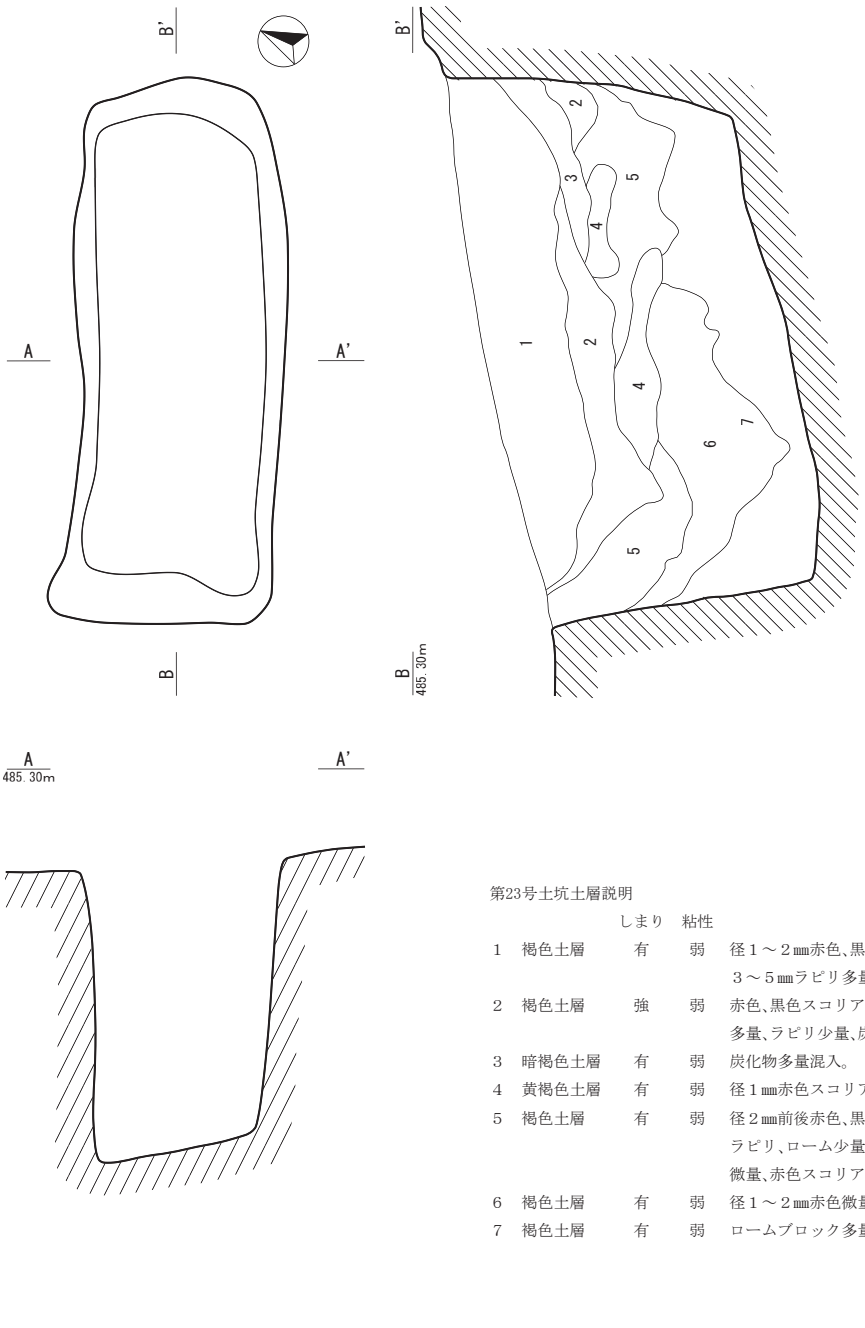
		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色スコリア微量混入。
2	褐色土層	有	弱	径３㎜前後赤色、黒色スコリア混入。
3	明褐色土層	有	弱	径３～５㎜赤色スコリア多量混入。

第177図　第18～22号土坑

覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第23号土坑（第178図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＨ－15グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。規模は長軸292㎝、短軸108㎝、深さ162㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈する。断面形は箱形である。主軸方位はＮ－36°－Ｗである。覆土は褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。



第23号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色、黒色、橙色スコリア、径３～５㎜ラピリ多量混入。
2	褐色土層	強	弱	赤色、黒色スコリア混入。ロームブロック多量、ラピリ少量、炭化物微量混入。
3	暗褐色土層	有	弱	炭化物多量混入。
4	黄褐色土層	有	弱	径１㎜赤色スコリア、ロームブロック混入。
5	褐色土層	有	弱	径２㎜前後赤色、黒色スコリア微量、径３～５㎜ラピリ、ローム少量。微量、赤色スコリア少量混入。
6	褐色土層	有	弱	径１～２㎜赤色微量、ラピリ混入。
7	褐色土層	有	弱	ロームブロック多量混入。。

0　1m

第178図　第23号土坑

第24号土坑（第179図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＥ・Ｆ－13グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484m付近である。規模は長径295㎝、短径226㎝、深さ60㎝を測る。平面形は不整楕円形を呈する。本土坑は、北東にＬ形に曲がるように見え、２基の土坑が重複しているようにも観察されるが、断面では明確に重複関係を把握できなかった。断面形は皿状を呈する。主軸方位はＮ－36°－Ｗである。覆土は明褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第25号土坑（第179図）

本土坑は、本地点の第１次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－13グリッドに位置する。第15号土坑と重複するが、写真では重複関係に不明な点が認められる。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。規模は長径146㎝、短径63㎝、深さ８㎝を測る。平面形は長楕円形を呈する。断面形は皿状である。主軸方位はＮ－18°－Ｅである。覆土は暗褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第26号土坑（第179図）

本土坑は、本地点の第５次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－８グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約483.8m付近である。規模は長径160㎝、短径95㎝、深さ50㎝を測る。平面形は長楕円形を呈する。断面形は　である。主軸方位はＮ－15°－Ｗである。覆土は明褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

第27号土坑（第179図）

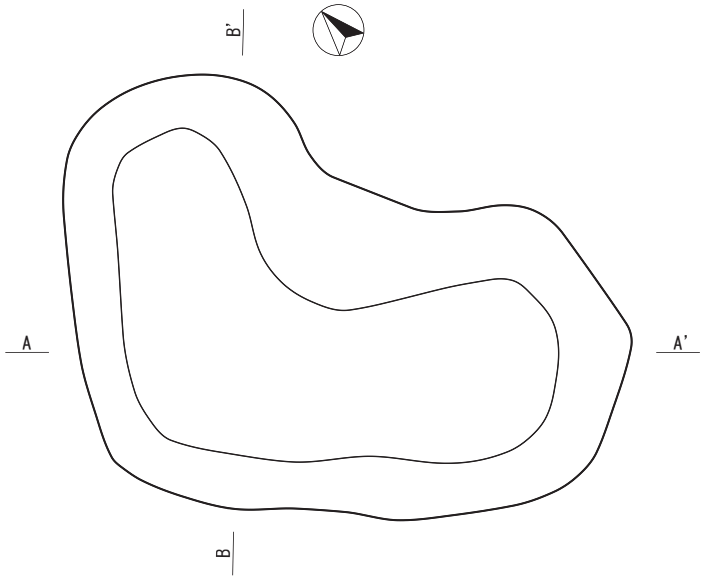
本土坑は、本地点の第５次調査検出土坑である。調査範囲南側のＦ－11グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約483.8m付近である。規模は長径98㎝、短径65㎝、深さ102㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。断面形はＵ字形である。主軸方位はＮ－７°－Ｗである。覆土は明褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。

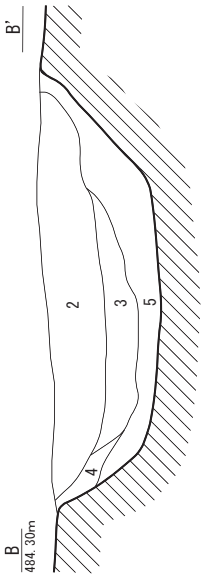
第28号土坑（第180図）

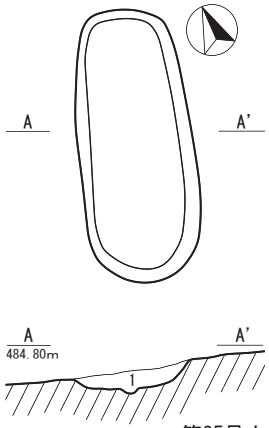
本土坑は、本地点の第４次調査検出土坑である。調査範囲南側のＤ－３グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484.1m付近である。規模は長径203㎝、短径175㎝、深さ130㎝を測る。平面形は隅丸方形を呈する。断面形は逆台形で上部が大きく開いている。主軸方位はＮ－99°－Ｅである。覆土は暗褐色土を中心とする自然堆積土である。

第29号土坑（第180図）

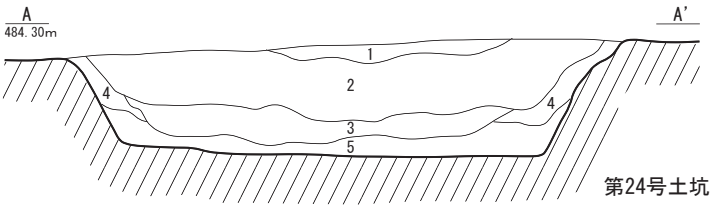
本土坑は、本地点の第４次調査検出土坑である。調査範囲南側のＢ－２・３グリッドに位置する。土坑の検出面は標高約484.5m付近である。規模は長径112㎝、短径46㎝、深さ38㎝を測る。平面形は長楕円形を呈する。断面形はＵ字形である。主軸方位はＮ－57°－Ｅである。覆土は暗褐色土を中心とする自然堆積土である。出土遺物は無い。



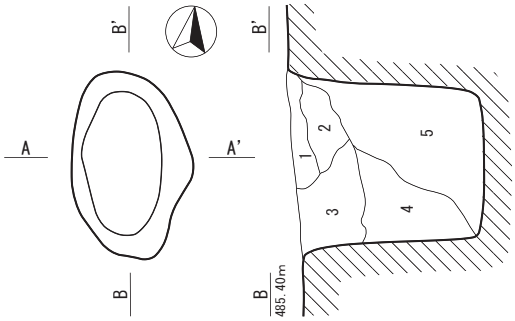


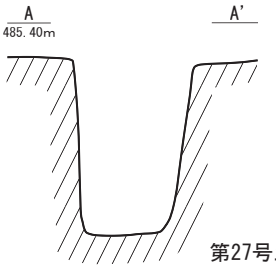


第25号土坑

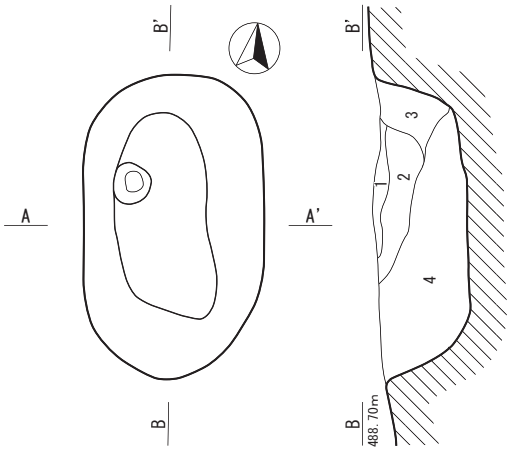


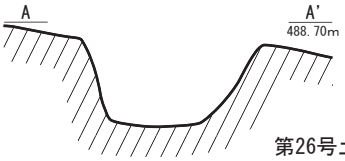
第24号土坑





第27号土坑





第26号土坑

第24号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	明褐色土層	弱	強	径１㎜橙色スコリア微量混入。ローム多く明るい。
2	明褐色土層	弱	強	径２～３㎜赤褐色スコリア少量混入。
3	明褐色土層	強	強	径１～２㎜橙色スコリア少量混入。
4	明褐色土層	弱	強	径１～３㎜橙色スコリア少量、ロームを多く含み明るい。
5	明褐色土層	弱	強	径１～３㎜赤褐色、黒色スコリア少量混入。

第39号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	暗褐色土層	有	有	径３～５㎜赤色スコリアブロック状混入。径１～２㎜黒色スコリア微量混入。

第26号土坑土層説明

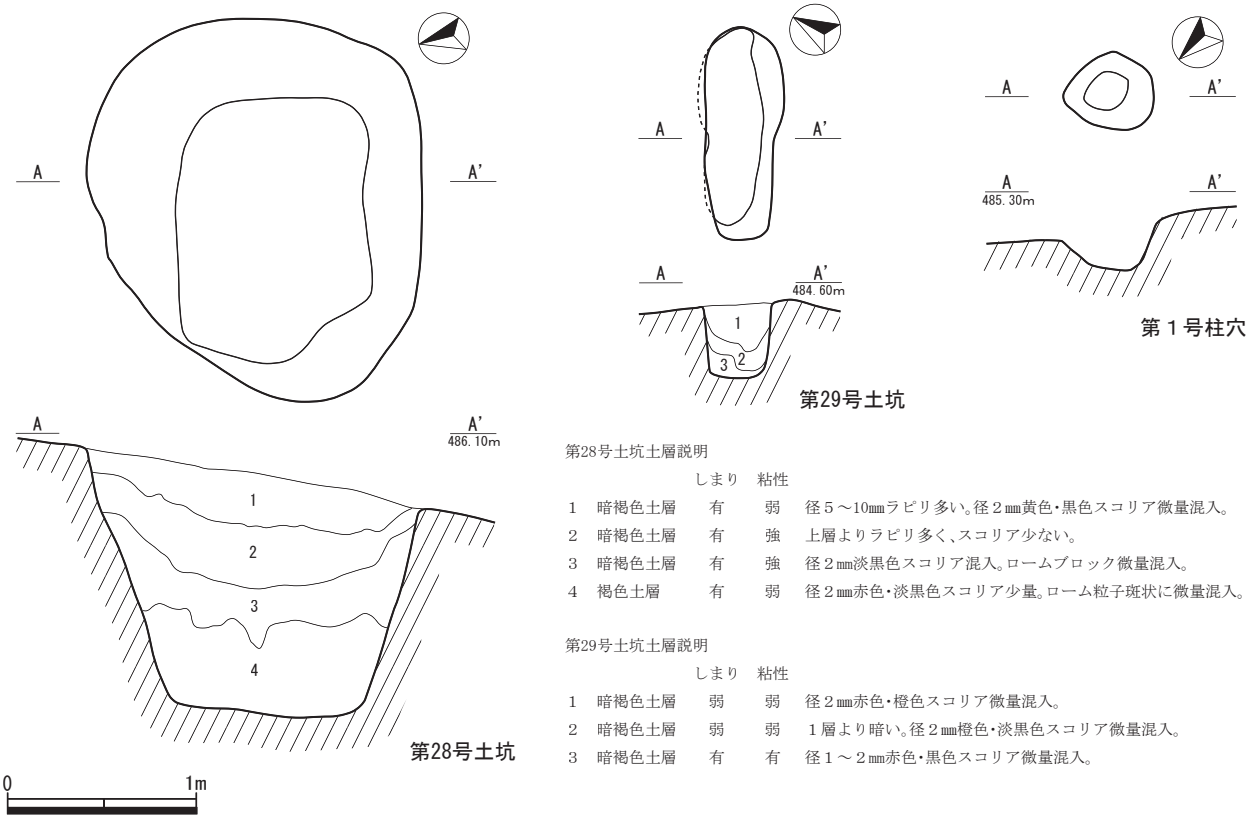
		しまり	粘性	
1	暗褐色土層	有	有	径２㎜黒色粒子・赤色スコリア微量混入。
2	暗黄褐色土層	強	有	ローム粒子多く、白色粒子微量混入。
3	暗黄褐色土層	有	強	黒色粒子・ローム粒子混入。
4	暗褐色土層	弱	強	径３㎜赤色スコリア・黒色粒子微量、ローム粒子多く混入。

第27号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	暗灰褐色土層	弱	有	サラサラしている。ローム粒子・ラピリ微量混入。
2	暗灰褐色土層	弱	強	１層より粗く、ローム粒子多く混入。
3	暗灰褐色土層	有	強	径１㎜黒色スコリア多く混入。粘りある。
4	暗褐色土層	有	有	径1～２㎜黒色スコリア少量。ローム粒子微量。
5	暗灰褐色土層	有	強	径２～３㎜黒色スコリア多く、ローム粒子微量。

0　1m

第179図　第24～27号土坑



第28号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	暗褐色土層	有	弱	径５～10㎜ラピリ多い。径２㎜黄色・黒色スコリア微量混入。
2	暗褐色土層	有	強	上層よりラピリ多く、スコリア少ない。
3	暗褐色土層	有	強	径２㎜淡黒色スコリア混入。ロームブロック微量混入。
4	褐色土層	有	弱	径２㎜赤色・淡黒色スコリア少量。ローム粒子斑状に微量混入。

第29号土坑土層説明

		しまり	粘性	
1	暗褐色土層	弱	弱	径２㎜赤色・橙色スコリア微量混入。
2	暗褐色土層	弱	弱	１層より暗い。径２㎜橙色・淡黒色スコリア微量混入。
3	暗褐色土層	有	有	径１～２㎜赤色・黒色スコリア微量混入。

第180図　第28・29号土坑・第１号柱穴

（２）柱　穴

第１号柱穴（第180図）

本柱穴は、本地点の第５次調査検出柱穴である。調査範囲南側のＦ－11グリッドに位置する。柱穴の検出面は標高約485.1m付近である。規模は長径36㎝、短径32㎝、深さ53㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。断面形はＵ字形である。主軸方位はＮ－36°－Ｗである。出土遺物は無い。

第８表　土坑番号新旧対応表

旧番号	新番号
８－１地点第６号土坑	第１号土坑
８－１地点第７号土坑	第２号土坑
８－１地点第８号土坑	第３号土坑
８－１地点第９号土坑	第４号土坑
８－１地点第10号土坑	第５号土坑
８－１地点第11号土坑	第６号土坑
８－１地点第12号土坑	第７号土坑
８－１地点第13号土坑	第８号土坑
８－１地点第14号土坑	第９号土坑
８－１地点第15号土坑	第10号土坑
８－１地点第16号土坑	第11号土坑
８－１地点第17号土坑	第12号土坑
８－１地点第18号土坑	第13号土坑
８－１地点第19号土坑	第14号土坑

旧番号	新番号
８－１地点第20号土坑	第15号土坑
８－１地点第21号土坑	第16号土坑
８－１地点第22号土坑	第17号土坑
８－１地点第23号土坑	第18号土坑
８－１地点第31号土坑	第19号土坑
８－１地点第33号土坑	第20号土坑
８－１地点第34号土坑	第21号土坑
８－１地点第35号土坑	第22号土坑
８－１地点第36号土坑	第23号土坑
８－１地点第37号土坑	第24号土坑
８－１地点第39号土坑	第25号土坑
８－５地点第１号土坑	第26号土坑
８－５地点第２号土坑	第27号土坑
８－４地点第３号土坑	第28号土坑

２．出土遺物

本遺跡から出土した縄文時代の遺物は、調査区の南半部を中心に出土した。図示した土器はいずれも包含層から出土したものである。以下に出土した遺物について記述する。

（１）土　器

本地点からは草創期末葉～早期前葉、早期後半および前期後半の土器が出土したほか、土製円盤１点が出土している。以下、第182図に図示した資料10点について詳述する。

１は草創期末葉～早期前葉に属すと考えられる駿豆撚糸文系の同一個体土器であり、器形を推定して配置した。口縁部がわずかに外反し、底部は乳頭状を呈する尖底の深鉢である。口縁部には幅の狭い無文帯が認められ、その下方と底部近くには斜行するやや細めの撚糸文を施し、胴部には撚糸文を縦位に施文する。器壁が薄手かつ堅緻な土器で、胎土には金雲母と白色砂粒を多く含む。やや厚手でかつ軽しょうな胎土をもつ若宮型土器とは明らかに異なるものであり、時期的にもより新しくなる可能性がある。

２～６は胎土に繊維を含む早期後半段階に比定される土器である。２と３は同一個体と考えられる資料であるが、両者の位置関係が不明瞭なため分離して図化を行った。２は直立する口縁部をもちゆるい波状を呈する深鉢で、口唇部に斜位のキザミが連続して加えられる。口縁部には浅い条線による鋸歯状文が施され、鋸歯状文の間には押引文が充填される。文様帯の下端は横位の押引文によって区画される。３は２の胴部破片で、条線の一部が認められる。胎土に含まれる繊維は少量で、早期後半鵜ヶ島台式に属する土器と考えられる。４～６は同一個体と推定される内外面とも無文の土器で、４・５は胴下部、６は底部付近にあたる。器壁はやや厚手で砂粒を多く含み、繊維は少量である。

７～９は前期後半諸磯ｂ式土器である。７は平縁の深鉢口縁部破片で、口縁部は折り返し口縁となる。折り返し部には半截竹管による角押文状の文様が施され、口縁部から胴部にかけては平行沈線による崩れた肋骨文が描かれる。８は無文の鉢である。口縁部が内湾する器形を呈し、口唇部は平坦に整形される。推定口径14.5㎝、推定底径7.2㎝、器高11.5㎝を測る。９は無文の浅鉢の口縁部から胴下部にかけてで、口縁部が「く」の字に強く内屈し胴部中位に段をもつ器形を呈する。口縁部に焼成前に穿たれた小孔が１ヵ所に残存する。推定口径30.0㎝、現存高12.2㎝を測る。

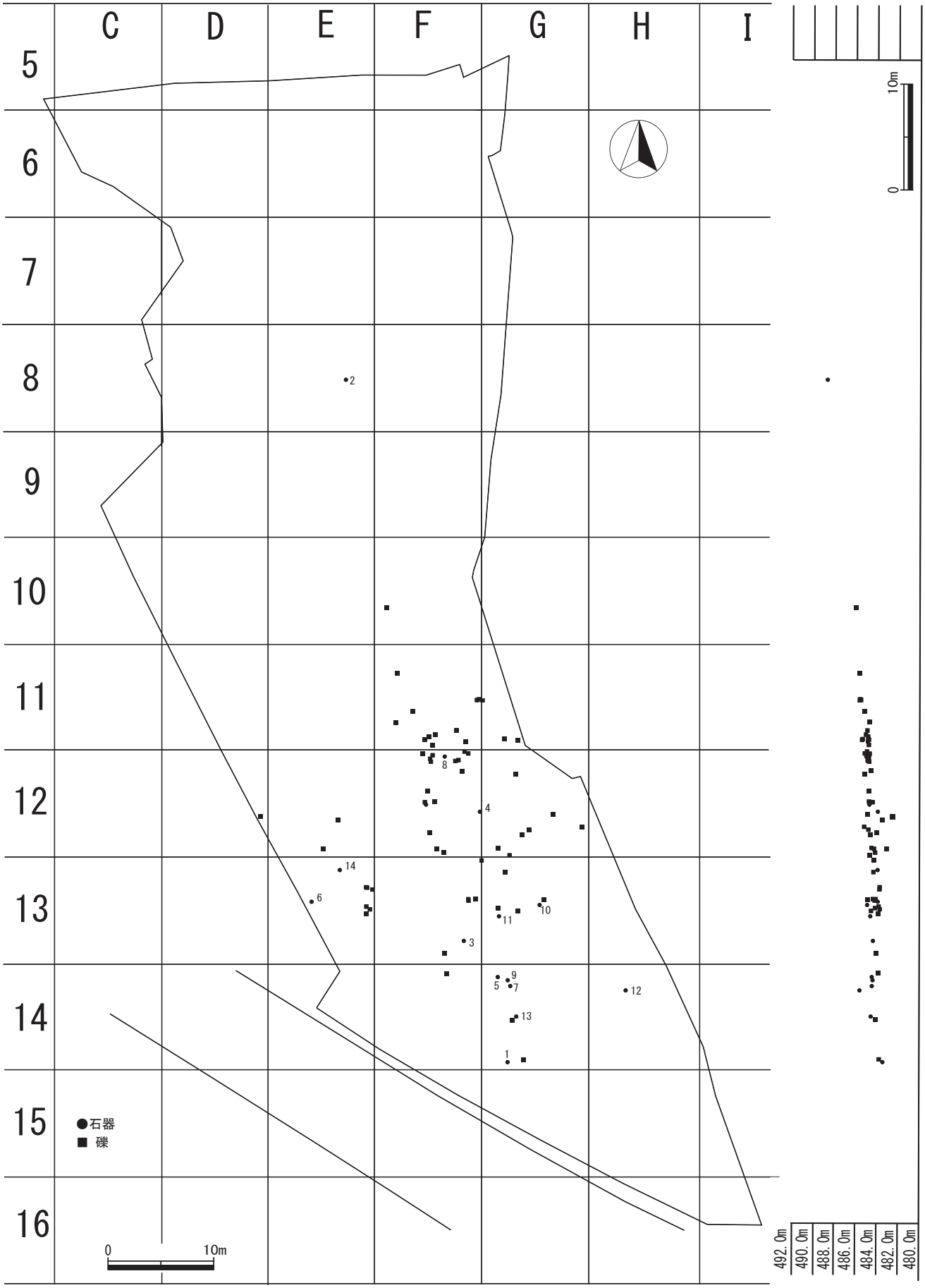
10は土製円盤である。長さ1.5㎝を測る小形品で、側縁が研磨されて平面形は整った楕円形を呈する。

（２）石　器

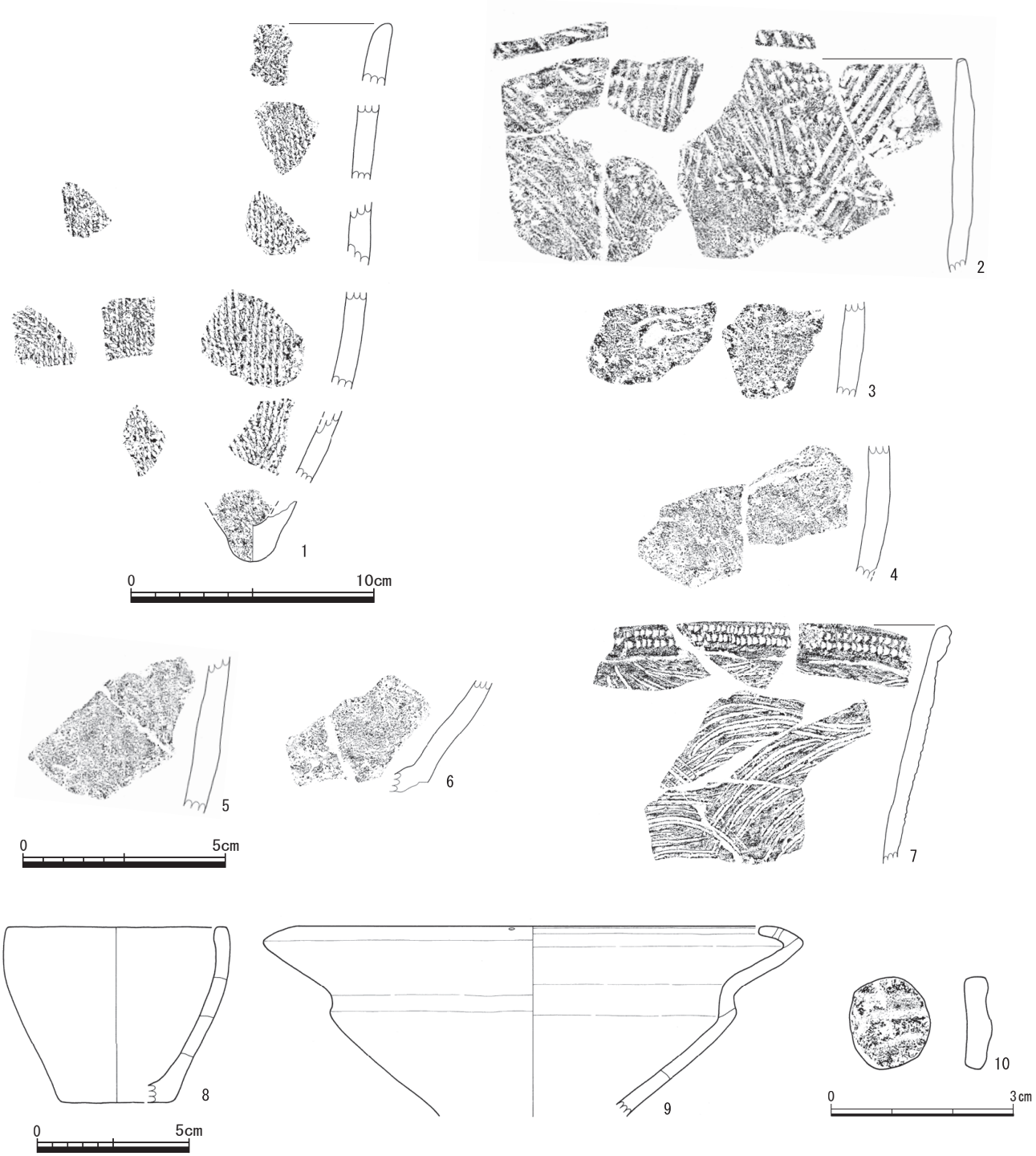
本遺跡からは縄文時代の石器が計15点出土した。器種別の内訳は有舌尖頭器２点、石鏃10点、打製石斧２点、剥片類１点である。以下に図示した石器について説明を加える。

有舌尖頭器（第183図１～２）

１は凝灰岩製で身の長い器体のものであるが、先端部と舌部を欠損する。器体はほぼ左右対称形に作製されていたが、逆刺部は尖った鋭利なものではなく、円弧状の縁辺が形成されて舌部へと移行していく状態であった。表裏面とも両側縁側からの調整で全面が覆われており、素材の剥離面と思われる剥離は確認できないことから、素材の形状を推定することはできない状態にある。表裏面に施されている調整剥離はやや荒いものの、前述したように素材面の全面を改変していることから、調整は大規模に行われていたことが推定できるものである。この後には両側縁に細かな調整を施して、プロポーションと縁辺が整えられていたが、裏面の左側縁では部分的に施されている程度であり、部位や縁辺によっては調整方法に変化を持たせていたことが理解できると思われる。２は黒曜石製の有舌尖頭器であるが、当地方では黒曜石製の有舌尖頭器は稀少



第181図　縄文時代遺物分布図



第182図　縄文時代出土土器

であることから大形の石鏃かとも考えたものの、石鏃とすると器幅があることや先端部があまり鋭く製作されていないこと、縁辺が細かな調整で整形されていないこと等、石鏃との違いも大きいことから有舌尖頭器として理解したものである。器体は寸詰まりの形状を呈し、縁辺には小さな凹凸が顕著に認められるものの、ほぼ左右対称形に製作されているものである。器体の調整は、左右の側縁から加えられた剥離によって全面が覆われており、本例も素材の形状や剥離痕を残すことなく改変されており、素材の様子を窺うことができない。一般的にはこの後に細かな剥離で縁辺の整形が行われることが多いが、前述したように本例の縁辺には細かな剥離は殆ど施されることなく調整は終了されており、特異な形状を呈している。

石　鏃（第183図３～12）

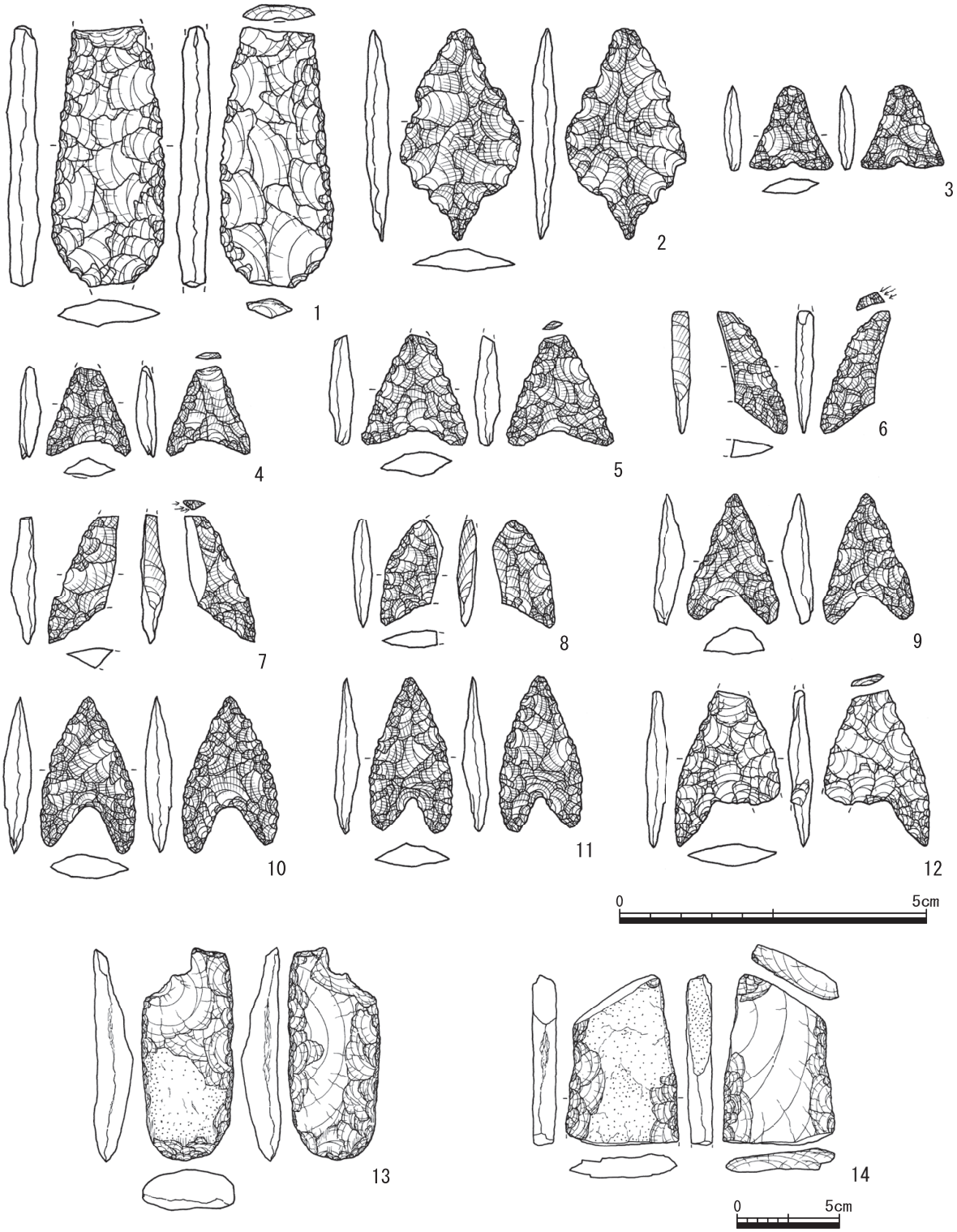
10点が確認されている。全て所謂「凹基無茎鏃」であるが、基部のわたくりの状態等によって３類に分類された。

ａ類（第183図３～５）

わたくりが浅く、所謂「平基無茎鏃」に近い基部が形成されているもので、３点が確認された。比較的小形のもの（３～４）が多く、４～５は先端部を欠損しているため不明であるが、３にはあまり鋭い先端が製作されていなかった。左右の側縁はほぼ左右対称に整形されているものが多かったが、わたくりの形状は多様で、下縁の中央部に凹部が形成されているもの（３）や、わたくりの抉り部が左右のどちらかに偏っているもの（４～５）があり、わたくり部分の調整はあまり入念に行っていなかったことが推定できるものと思われる。表裏両面とも調整剥離で覆われており、素材の剥離痕を確認することはできないことから、これらも素材を大きく改変して製作されていることが推察されるものである。さらに左右の側縁では、細かな剥離を施して縁辺の整形が行われているものが殆どを占めていたが、中には細かな剥離を両面に施すのではなく、片面だけ（表裏面とも左側縁）に施して縁辺が整えられているもの（５）があり、簡略化した調整が施されているものも存在していた。４～５の先端部の欠損は裏面に剥離を伴って生じており、使用による欠損で剥離は衝撃剥離である可能性の高いものである。

ｂ類（第183図６～９）

ａ類に比べるとわたくりの深い「凹基無茎鏃」で、基端にアーチ状の抉り部が形成されているものである。４点が確認されたが、この内の３点は左右に分割されるような欠損をしており、特徴的な形状で出土したものである。やや荒い調整で製作さているもの（７）も確認されているが、殆どのものは丁寧に調整されており、素材の剥離痕と思われる剥離は確認されていない。器体の整形に伴って施される細かな剥離は４点とも両側縁に認められているが、全体的に施されているもの（９）は比較的少なく、多くのもの（６～８）が先端部と逆刺部に集中的に施されていることが観察できることから、これらの部分には機能部として入念な調整が加えられていたことが推定できるものと思われる。なお、前述したように６～８の３点は、左右に分割されるような特徴的な欠損をしているものであるが、これらの欠損面を見ると３点ともわたくりの部分から欠損が生じていることが観察されることから、わたくりの調整時に欠損した可能性もあるものと思われる。しかしながら、わたくりの調整時の欠損であるならば、最も欠損に対して抵抗力のある６～８のような縦方向の欠損が生じる可能性は低く、どちらか一方の脚部の欠損が起こるものと思われる。したがって、これら６～８の欠損は何等かの硬い物に当たった時の衝撃が、石鏃を挟んで固定していた部分から生じたことにより起こったものと想像されることから、石鏃を使用した際の衝撃の反発剥離による欠損として理解できるかも知れない。また６～７には、この反発剥離の延長された状態の細かな剥離が先端部分に生じており、欠損した時の衝撃の大きさが窺えるものである。



第183図　縄文時代出土石器

Ｃ類（第183図10～12）

逆Ｖ字状（10～11）や、逆台形状（12）の深いわたくりが作製されているもので、３点が確認された。この中には、左右の脚部の長さが違うもの（10～11）も存在していたが、全体的なプロポーションは左右対称形に整形されており、丁寧に作出されていることが窺えるものである。これらの３点も、調整剥離は表裏面の全面に施されており、素材剥片の剥離痕を確認することはできない状態にまで調整が進んでいた。縁辺を整えるために施されている細かな剥離は、10～11には表裏面の全縁に認められていたが、12では脚部と先端部寄りの部分と、正面の左側縁には認められていたものの、器体の中央部では施されていない箇所も存在していた。したがって、このような細かな剥離は器体の全縁に加えられているものも多かったが、中には先端部と脚部の整形に集中的に施されているものもあり、機能部だけを入念に調整するような場合もあったことが理解できるものと思われる。なお、12の表面上部には使用による衝撃剥離が認められており、必然的に先端部を欠損している例である。さらに右脚部も欠損しているが、これも折れた状態のものではなく剥離痕を伴う欠損であることから、先端部の衝撃剥離と同時に生じた反発剥離である可能性のあるものである。

打製石斧（第183図13・14）

２点が確認されたが、14は刃部を欠損する。13は小形の打製石斧で、横長剥片を素材としている。調整は素材の末端側と打面側に集中的に施しており、ほぼ平行した左右両側縁が形成されている。これらの調整の多くは階段状剥離になっており、両側縁の中央部は潰れが著しい。刃部は円刃状で、比較的丁寧に調整されている。なお、刃部には使用によって生じたと思われる摩耗痕と擦痕が認められている。14はやや大形の打製石斧で刃部側を欠損する半欠品である。本例も横長剥片を素材とし、素材の打面側と末端側に剥離を施して両側縁の調整を行っているが、右側縁の基部寄りには素材の打面部である自然面が大きく残されていた。調整はやや荒いものの、両側縁は直線状に整形されており、器体の形状が整えられていたことが窺えよう。側縁部の潰れは、左側縁の上部だけに認められている。

第３節　江戸時代以降の遺構と遺物

１．検出された遺構

今回の調査で検出された近世期の遺構は、調査区北端を横切る箱根旧街道、調査区の中央部をほぼ南北に横切り北側部分で東に曲がる第１号溝状遺構、調査範囲北側Ｄ－９グリッドからＦ－６グリッドで第１号溝状遺構と重複し、ほぼ同一方向に延びる第２号溝状遺構である。この遺構の詳細は後述するが、覆土下面に硬化面を持ち、複数回修復など掘り直しがされている道路状遺構と考えられる遺構である。

出土遺物は、溝状遺構覆土中と遺構外から18世紀代の陶磁器類などが出土している。

（１）箱根旧街道（第184図）

Ｅ地点調査範囲の北端Ｃ～Ｆ－５・６グリッドを横切る。調査範囲内で約35m確認した。上幅最大で約９ｍを測る切通しで、底面の幅は２間（3.6m）を測る。北東から南西に底面で約4.3m下がっている。

石畳の敷石は北西部（Ｅ・Ｆ－５グリッド）付近で縁石が５石並んで検出され、原形を留めている可能性がある。その他、礫が散在するが現位置を留めているかは不明である。掘り方覆土は安山岩礫片を含む明褐色土である。使用石材は安山岩（橄欖石斜方輝石単斜輝石安山岩）・（橄欖石複斜輝石安山岩）である。出土遺物はない。

底面掘り方や切通し法面に小柱穴が検出されたが、箱根旧街道に伴うものかは不明である。

（２）溝状遺構

第１号溝状遺構（第186・187図）

Ｅ地点調査範囲を南北に、Ｅ～Ｇ－６～15グリッドにかけて横切る溝状遺構である。本溝状遺構は北側部分に第２号溝状遺構が重複し、ほぼ同一方向に向かい構築されている。南側は国道１号に切られている。最も低い南側部分では標高約485m付近で検出され、北側に斜面を登るように標高約489.5m付近に弧状に延びている。標高の高い北側Ｆ－６グリッド付近で削平を受けている。このため検出した長さは88mで、南側の最も幅の広い部分では、幅7.3mで深さは150㎝、中間部分のＦ－12グリッド付近で幅3.8m、深さ100㎝、第２号溝状遺構が重複する部分では幅2.8m、深さ68㎝、北端部Ｆ－６グリッドでは幅90㎝、深さ10㎝である。標高の低い部分は深い形状である。断面形の観察では、上部が大きく開く朝顔形若しくは上部が開く逆台形を呈している。また、重複が著しく、５～６回程度改修などの掘り直しが行われているようである。

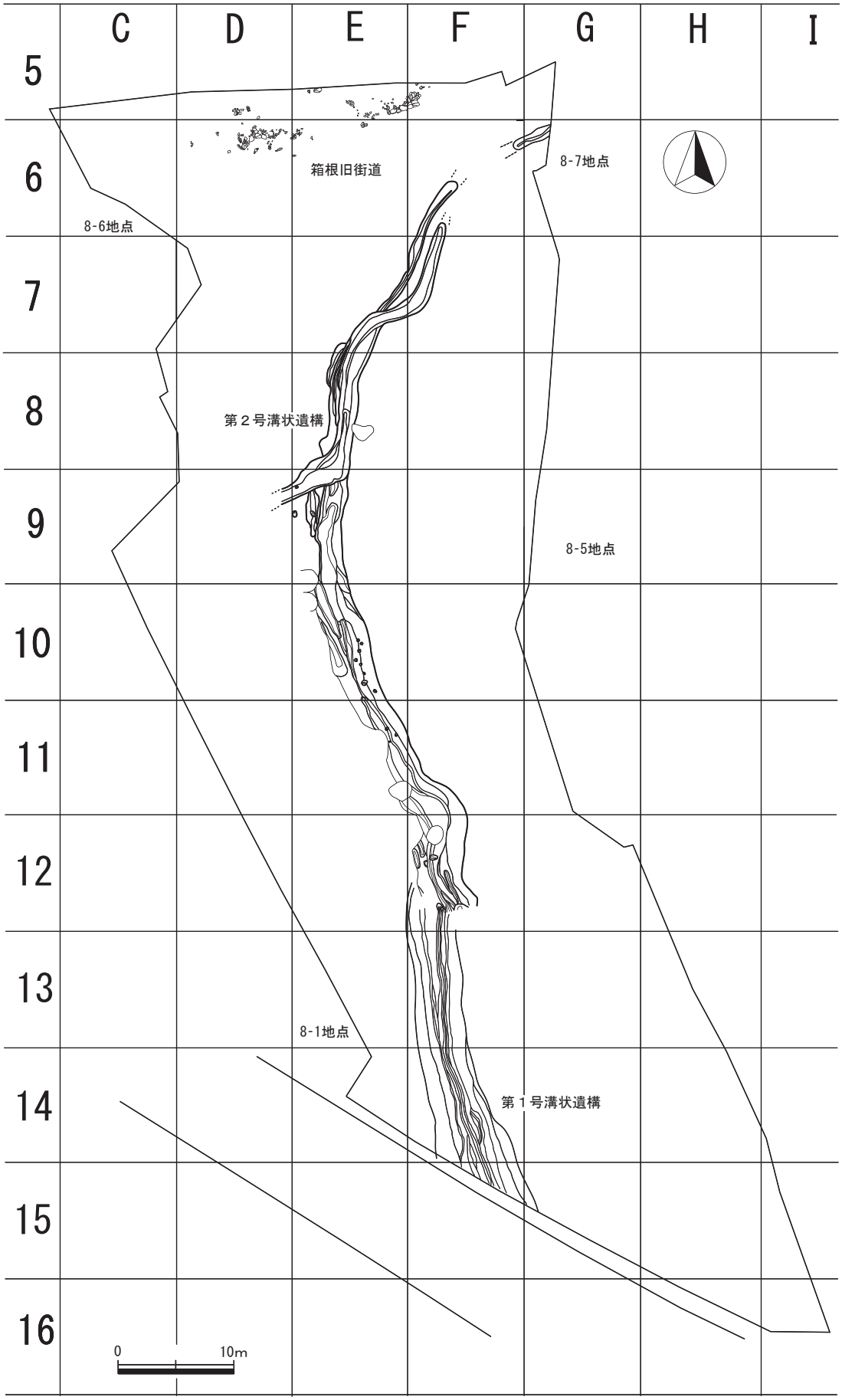
このような形状の溝状遺構は、通常道路状遺構とされている溝状遺構と考えられる。覆土中にはロームを含む硬化面が認められており、道路状遺構とする証左である。

出土遺物は南側で覆土中から17世紀～19世紀中葉までの年代幅があり、江戸期を通じて繰り返し改修された使用されていた可能性がある。

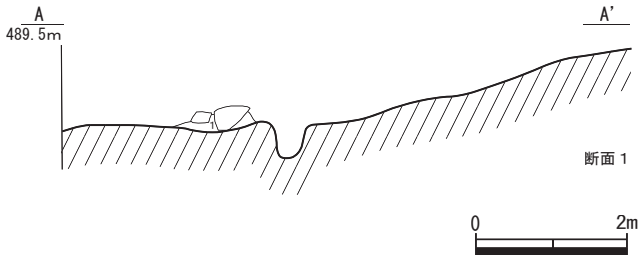
第２号溝状遺構（第187図）

調査範囲のＤ－９グリッドから北東に延びる溝状遺構で、Ｆ・Ｇ－６グリッドに蛇行しながら延びていると推定される。第１号溝状遺構と重複し、断面観察では第１号溝状遺構を切っていると考えられる。南側部分では幅2.8m、深さ68㎝、北側部分で削平により消滅する部分では、幅48㎝、深さ10㎝を測る。また、北東Ｆ・Ｇ－６グリッドでは幅1.1m、深さ18㎝を測る。

本溝状遺構も平面形状や覆土の観察から複数回の重複が認められる。覆土はローム土を多く含み、硬化面

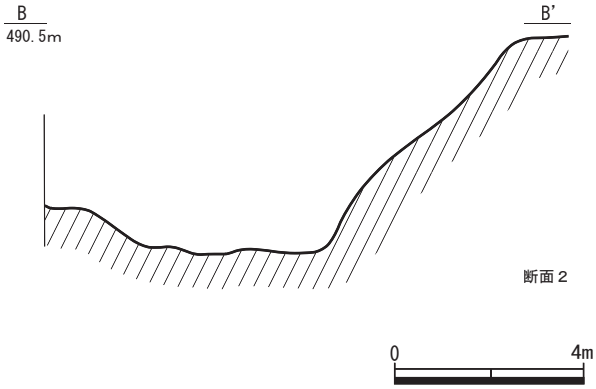


第184図　近世遺構配置図



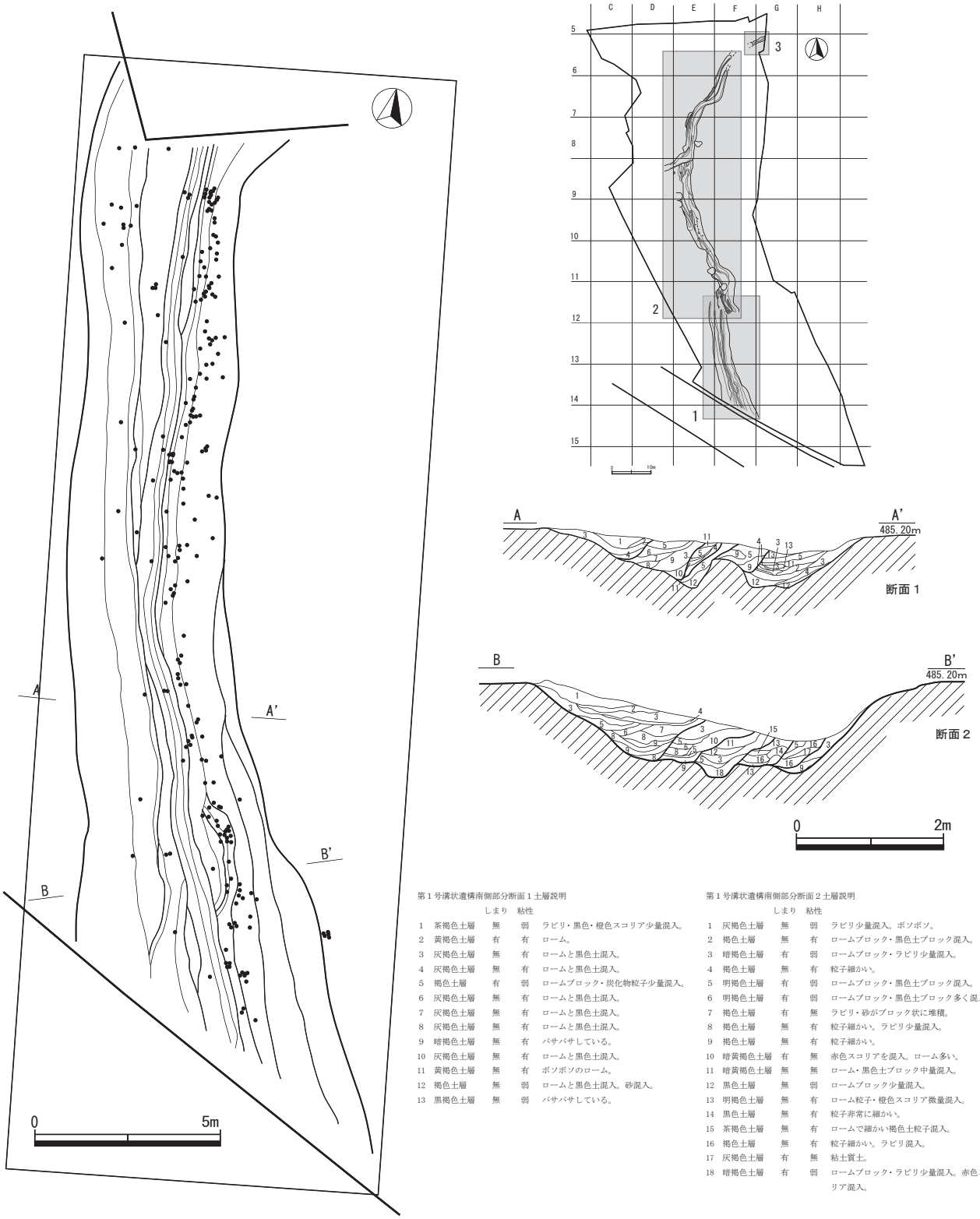
箱根旧街道土層説明

		しまり	粘性	
1	明褐色土層	弱	弱	ロームブロックを少量含む。安山岩岩片入る。



第185図　箱根旧街道

も認められる。これらのことから第１号溝状遺構同様に道路状遺構と推定される遺構であり、第１号溝状遺構の廃絶後に新たに構築された可能性が高いと考えられる。



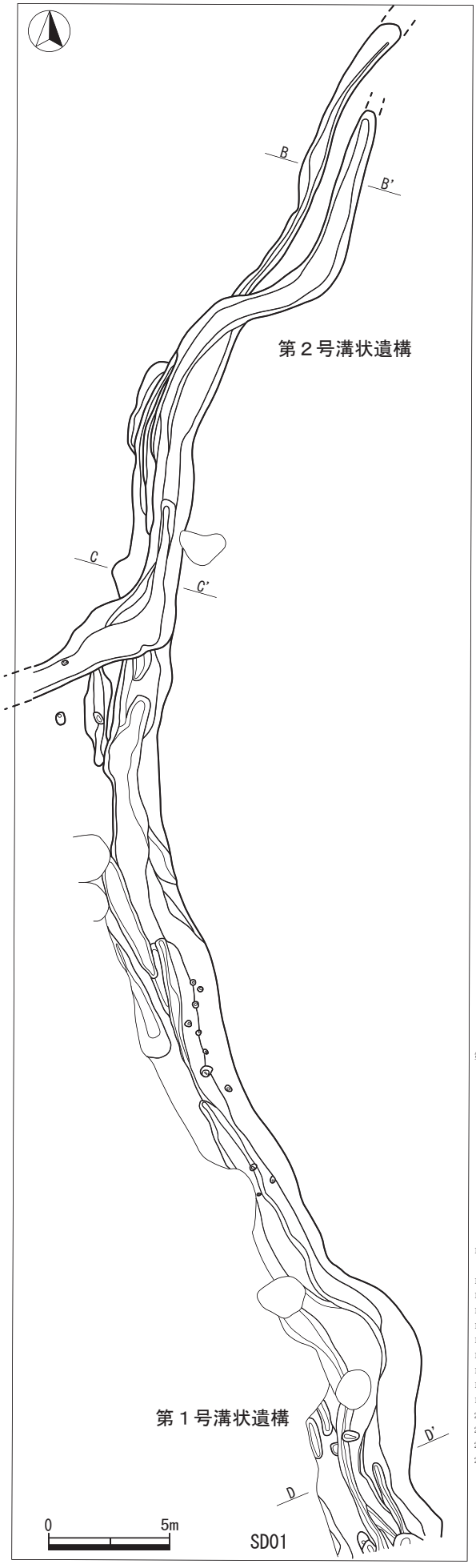
第１号溝状遺構南側部分断面１土層説明

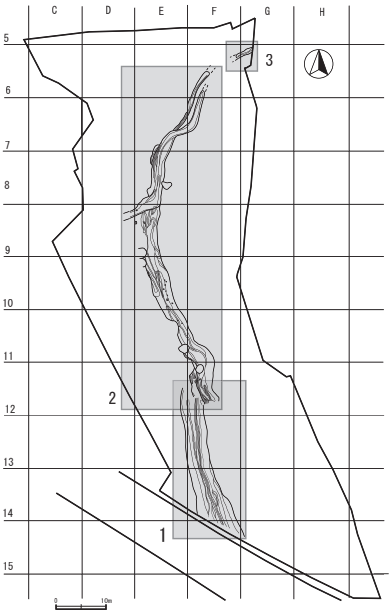
		しまり	粘性	
1	茶褐色土層	無	弱	ラピリ・黒色・橙色スコリア少量混入。
2	黄褐色土層	有	有	ローム。
3	灰褐色土層	無	有	ロームと黒色土混入。
4	灰褐色土層	無	有	ロームと黒色土混入。
5	褐色土層	有	弱	ロームブロック・炭化物粒子少量混入。
6	灰褐色土層	無	有	ロームと黒色土混入。
7	灰褐色土層	無	有	ロームと黒色土混入。
8	灰褐色土層	無	有	ロームと黒色土混入。
9	暗褐色土層	無	有	パサパサしている。
10	灰褐色土層	無	有	ロームと黒色土混入。
11	黄褐色土層	無	有	ボソボソのローム。
12	褐色土層	無	弱	ロームと黒色土混入。砂混入。
13	黒褐色土層	無	弱	パサパサしている。

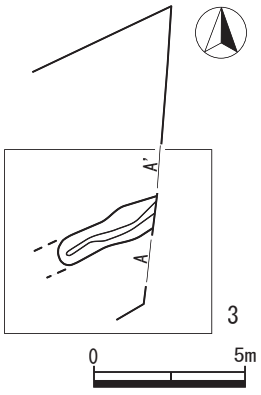
第１号溝状遺構南側部分断面２土層説明

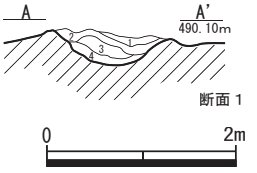
		しまり	粘性	
1	灰褐色土層	無	弱	ラピリ少量混入。ボソボソ。
2	褐色土層	無	有	ロームブロック・黒色土ブロック混入。
3	暗褐色土層	有	弱	ロームブロック・ラピリ少量混入。
4	褐色土層	無	有	粒子細かい。
5	明褐色土層	有	弱	ロームブロック・黒色土ブロック混入。
6	明褐色土層	有	弱	ロームブロック・黒色土ブロック多く混入。
7	褐色土層	有	無	ラピリ・砂がブロック状に堆積。
8	褐色土層	無	有	粒子細かい。ラピリ少量混入。
9	褐色土層	無	有	粒子細かい。
10	暗黄褐色土層	有	無	赤色スコリアを混入。ローム多い。
11	暗黄褐色土層	無	無	ローム・黒色土ブロック中量混入。
12	黒色土層	無	弱	ロームブロック少量混入。
13	明褐色土層	無	有	ローム粒子・橙色スコリア微量混入。
14	黒色土層	無	有	粒子非常に細かい。
15	茶褐色土層	無	有	ロームで細かい褐色土粒子混入。
16	褐色土層	無	有	粒子細かい。ラピリ混入。
17	灰褐色土層	有	無	粘土質土。
18	暗褐色土層	有	弱	ロームブロック・ラピリ少量混入。赤色スコリア混入。

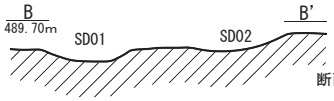
第186図　第１号溝状遺構（１）

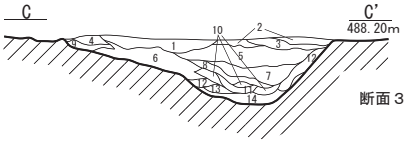


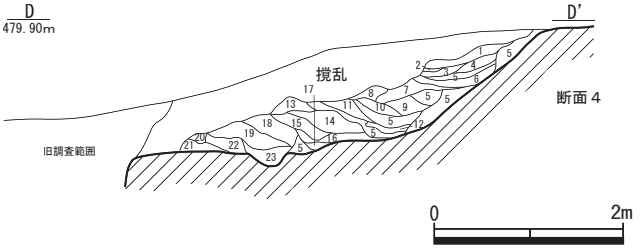












第１号溝状遺構北側部分断面４土層説明

		しまり	粘性	
1	暗褐色土層	有	弱	ローム・炭化粒子少量混入。
2	暗褐色土層	有	有	ロームブロック多く混入。
3	暗灰褐色土層	有	強	炭化物粒子微量混入。
4	暗褐色土層	強	弱	ローム粒子多く混入。
5	黄褐色土層	弱	弱	ローム
6	暗褐色土層	有	無	炭化物粒子混入。全体の粒子細かい。
7	暗茶褐色土層	有	弱	ローム粒子・炭化物粒子・赤色スコリア混入。
8	暗黄褐色土層	強	有	径１cmロームブロックローム多く混入。炭化物粒子・赤色スコリア微量。
9	黒褐色土層	弱	有	ローム粒子多く混入。
10	暗茶褐色土層	有	無	ローム粒子・橙色スコリア少量。炭化物粒子混入。
11	暗茶褐色土層	有	有	ローム粒子小量混入。
12	黒褐色土層	弱	弱	ローム粒子多く混入。ボソボソしている。
13	暗茶褐色土層	強	無	下部にローム粒子多く混入。
14	黒褐色土層	強	有	ローム粒子微量混入。粒子細かい。
15	暗黄褐色土層	有	有	黒色土粒子少量混入。
16	暗褐色土層	弱	弱	ローム粒子多く、黄色の色性強い。
17	黄褐色土層	有	有	ローム。粗くボソボソしている。
18	暗茶褐色土層	強	無	ローム粒子、橙色スコリア微量混入。
19	暗褐色土層	強	有	ロームブロック、炭化物混入。
20	暗茶褐色土層	弱	無	ローム粒子微量混入。
21	暗茶褐色土層	有	有	ローム粒子多く、黒色土粒子微量混入。
22	黒褐色土層	有	有	径１～３cmロームブロック混入。
23	暗黄褐色土層	強	無	ローム粒子混入。

第１号溝状遺構北側部分・第２号溝状遺構断面１土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	弱	有	ラピリ、赤色・橙色スコリア少量混入。
2	暗褐色土層	無	有	炭化物を少量混入。
3	暗褐色土層	無	有	ラピリ、スコリア少量混入。
4	暗褐色土層	無	有	粘性が少し有る。

第１号溝状遺構北側部分・第２号溝状遺構断面3土層説明

		しまり	粘性	
1	暗褐色土層	強	無	ローム・炭化粒子多く混入。
2	暗黄褐色土層	強	無	ローム粒子多く、炭化物微量混入。
3	暗褐色土層	強	無	径3cmロームブロック多く混入。
4	黒褐色土層	強	弱	ローム粒子・炭化粒子多く混入。
5	暗褐色土層	強	弱	径2～5cmロームブロック、炭化物混入。
6	黒褐色土層	強	有	ローム粒子多く混入。
7	暗茶褐色土層	有	有	径1～3cmロームブロック混入。ローム粒子多く、炭化物微量混入。
8	黄褐色土層	有	強	ローム多く混入。
9	暗黄褐色土層	強	無	ローム粒子混入。
10	暗黄褐色土層	強	弱	炭化物混入。
11	黒褐色土層	強	弱	ローム粒子微量混入。
12	暗茶褐色土層	弱	弱	ローム粒子微量混入。
13	暗黄褐色土層	有	弱	ローム多く、炭化物微量混入。
14	黄褐色土層	強	有	ローム多く、黒色土少量混入。

第187図　第１号溝状遺構（２）・第２号溝状遺構

２．出土遺物

（１）遺構出土遺物

第１号溝状遺構出土遺物（第186・187図）

本溝からは15世紀末から19世紀代にわたる遺物が出土している。以下、16・17・18・19世紀の４期に区分し、説明する。

＜15世紀末～16世紀代＞

１）陶　器（１・２）

１・２は瀬戸・美濃産施釉陶器で大窯期の製品である。１は丸皿で、灰釉が施釉され、見込みに印花が施されている。２は擂鉢で、錆釉が施釉されている。15世紀末～16世紀前半代の製品と思われる。

＜17世紀代＞

１）磁　器（３～８）

磁器類は全て肥前産である。３・４は初期伊万里丸碗で、３には一重網手文、４の高台部には一重圏線が染付される。５・６は初期伊万里の瓶で、５には雲文、６の底部には高台部に一重圏線が染付される。１～６は1640～1650年代の製品であろう。７・８は色絵磁器で、７の碗の見込みには釉剥ぎ部分に黒色により三重圏線が、８の内面にも同様に釉剥ぎ部分に黒色により三重圏線と、内面に意匠不明の文様が朱色で描かれている。７・８は1670年代～1740年代の製品である。

２）陶　器（９～16）

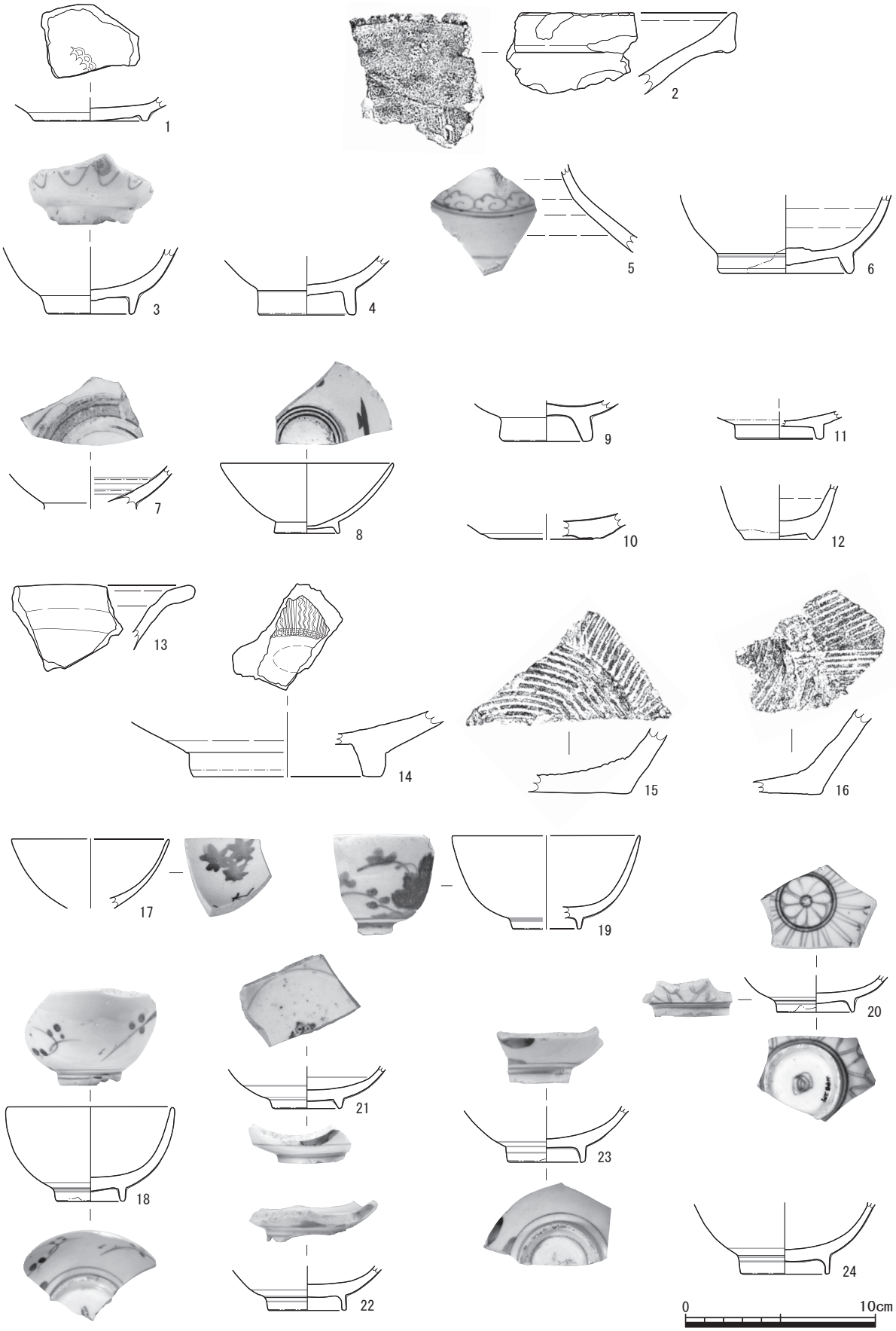
９は肥前産の呉器手碗で、1650年代～1740年代の製品である。10は志野皿で17世紀前半代の製品である。11は肥前産の京焼風陶器皿で、見込みに鉄絵による山水文が描かれている。1670年代～1740年代の製品である。12は瀬戸・美濃産の鉄釉が施釉される壺で、16世紀末～17世紀代の製品と考えられる。13は瀬戸・美濃産の笠原鉢で17世紀代の製品、14は肥前産の三島手鉢で、見込みには白泥による象嵌が施されている。17世紀末～18世紀初頭の製品である。15・16は瀬戸・美濃産の鉄釉が施釉される擂鉢で、大枠17世紀代の製品である。

＜18世紀代＞

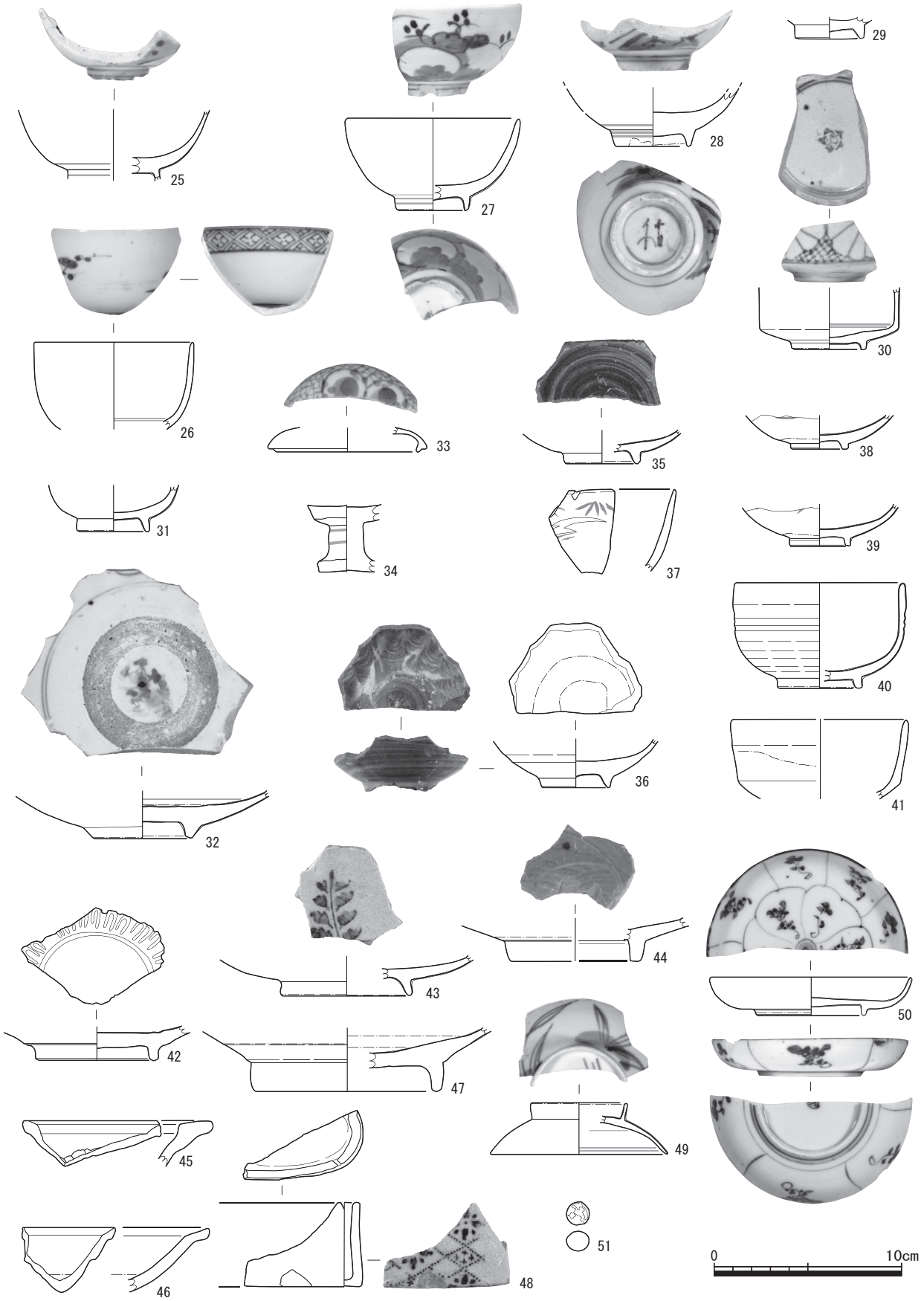
１）磁　器（17～32）

磁器類は全て肥前産である。17～24は1700年代～1780年代に制作年代が求められる丸碗である。17の内面にはコンニャク印判による楓文、18の外面には梅樹文と高台内には崩れ大明と思われる底裏銘、19の外面には草花文、20の内・外面には二重網手文と見込みには菊花文、21の外面には草花文と見込みには五弁花文、22の外面には草花文、23の外面には草花文と高台内には崩れ大明と思われる底裏銘、24の高台内には一重圏線が染付されている。25・26は腰張碗で、25の外面には草花文が、26の外面には梅樹文、口縁部内面には四方襷文が染付されている。1700年代～1780年代の製品である。27・28は厚手碗で、27の外面には草花文、高台内には判読不明の底裏銘が染付される。28の外面には梅樹文、高台内には崩れ「大明年製」の底裏銘が染付される。1710年代～1810年代の製品である。29は細別不明の碗であるが、18世紀代の製品と思われる。30は筒茶碗で、外面には氷裂文と菊花文、見込みには二重圏線内にコンニャク印判による五弁花文が染付される。1760年代～1810年代の製品である。31は小碗で1680年代～1860年代の製品である。

32は染付輪禿皿で、いわゆる「くらわんか」の皿である。見込みは輪禿げされ、コンニャク印判による五弁花文が染付される。17世紀後半代～18世紀代の製品であろう。33は蓋物鉢の蓋で、外面には氷裂文と花文と思われる文様が染付されている。1740年代～1770年代の製品である。34は仏飯器の脚部で、二重圏線が巡る。1690年代～1780年代の製品である。



第188図　第１号溝状遺構出土遺物（１）



第189図　第１号溝状遺構出土遺物（２）

２）陶　器（35～48）

35・36は肥前産で、白泥による刷毛目が施される。1690年代～1740年代の製品である。37～41は瀬戸・美濃産の碗類である。37～39は色絵碗で、竹葉文や草花文が朱・黒・緑の色絵により描かれている。1760年代～1820年代の製品であろう。40は腰錆小服碗で上半に灰釉・下半に鉄釉が施釉さる。1725年代～1750年代の製品である。41はせんじ碗で、腰錆小服碗と同様に上下で灰釉・鉄釉と掛け分けられている。1730年代～1820年代の製品である。42・43は瀬戸・美濃産の皿である。42は型押しによる菊皿であり、18世紀第２・３四半期の製品と思われる。43は灰釉に鉄絵により草花文が描かれている。大枠18世紀代の製品と思われる。44は肥前産の刷毛目鉢で、内外面に白泥による刷毛目が施されている。18世紀前半～中葉の製品である。45は志戸呂産と思われる鉢である。18世紀前半～中葉の製品と思われる。46・47は瀬戸・美濃産輪禿鉢で、18世紀後半代の製品である。48は摺絵による鉄絵が施される鬢盥である。17世紀末～18世紀初頭の製品である。

＜19世紀代＞

１）磁　器（49・50）

49は肥前産磁器の広東碗蓋で、外面には笹文、内面には二重圏線＋一重圏線が染付されている。1790年代～1810年代の製品である。50は瀬戸・美濃産磁器の染付小皿である。内面・見込みには草花文と捻花が染付され、高台内には判読不明の底裏銘が施されている。1860年代の製品である。

２）金属製品（51）

51は火縄銃の銃弾と思われる鉛製品である。径1.1～1.2㎝、重量5.2gを測る。

写真資料（図版63）

図示しえなかった遺物を写真資料として提示した。

１）磁　器（１～10）

全て肥前産磁器である。１は壺の頸部破片で、若杉と交差斜線が染付される。２は壺の底部破片である。高台部に二重圏線が染付される。18世紀以降の製品と思われる。３は初期伊万里の筒碗の底部破片で、腰部に一重圏線が染付される。1640年代～1650年代の製品であろう。４は色絵碗で、朱・黒・藍により花文が描かれている。1670年代～18世紀代の製品と思われる。５は丸碗で、格子に竹林が染付されている。６・７・８は厚手碗の底部破片で、６・７には梅樹文と思われる文様、８の高台部には二重圏線が染付されている。９は小碗の破片である。10は皿の口縁部破片である。５～10は大枠、17世紀後半代～18世紀代の製品と考えられる。

２）陶　器（11～25）

写真資料としてものは全て瀬戸・美濃産である。11は大窯期の天目茶碗である。16世紀後半代の製品。12は志野茶碗の破片で17世紀前半の製品。13は灰釉碗で、18世紀の製品であろう。14～16は志野皿で17世紀前半代の製品である。17は灰釉が施釉される鉢の口縁部破片で18世紀代の製品である。18は鉄釉が施釉されている、大窯期と思われる壺の破片で16世紀後半の製品であろう。19は赤津半胴甕の底部破片で、19世紀前半代の製品。20は鉄釉が施釉される壺の破片と思われる。18世紀代～19世紀前半代の製品と考えられる。21はちろりと思われる破片で鉄絵が施されている。18世紀後半代の製品と思われる。22は灰釉が施釉される香炉の破片である。17世紀代～18世紀代の製品であろう。23～25は擂鉢の破片で、23・24には錆釉が施釉される大窯期で16世紀代、25は鉄釉が施釉され、見込みの擂目は摩耗が著しい。17世紀代の製品と思われる。

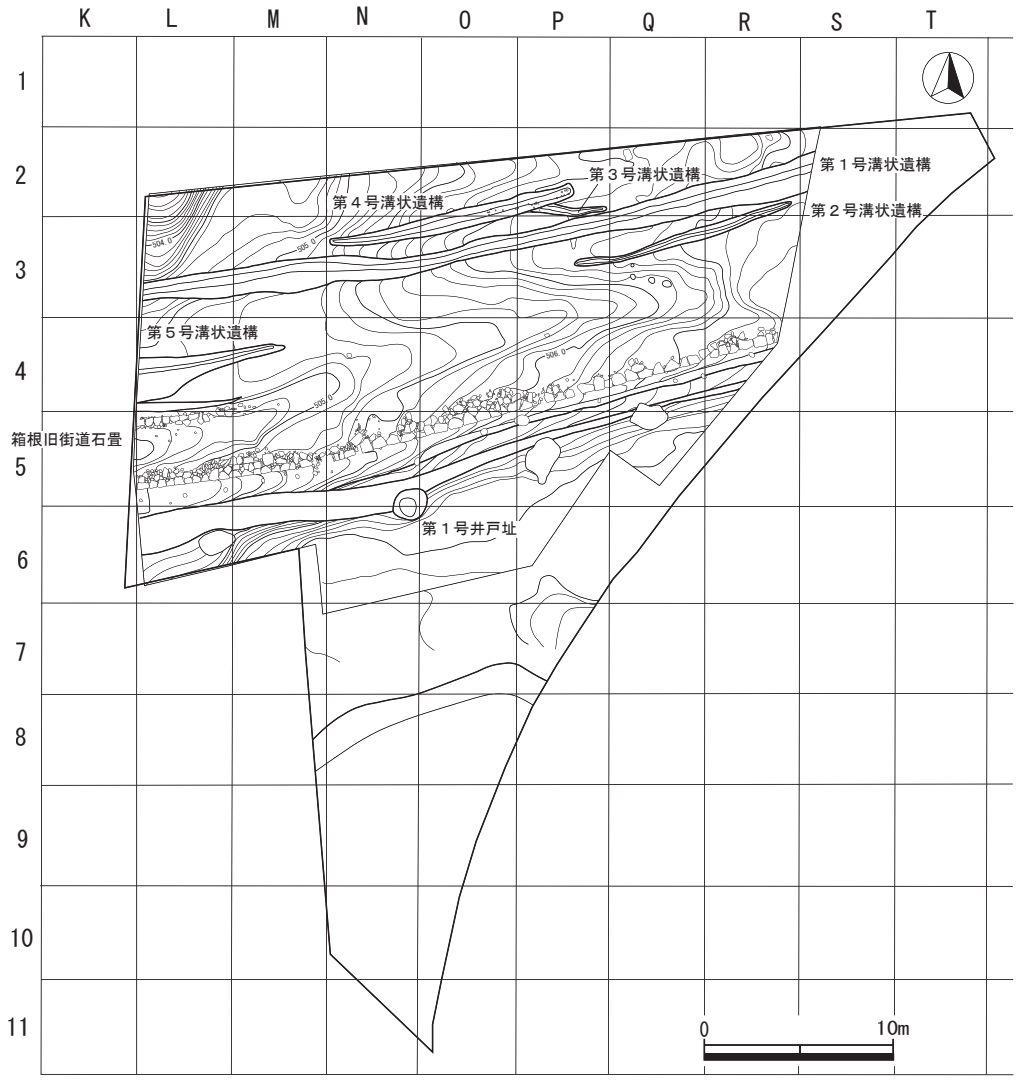
第３章　山中城Ｄ遺跡

（笹原山中バイパス第９地点）

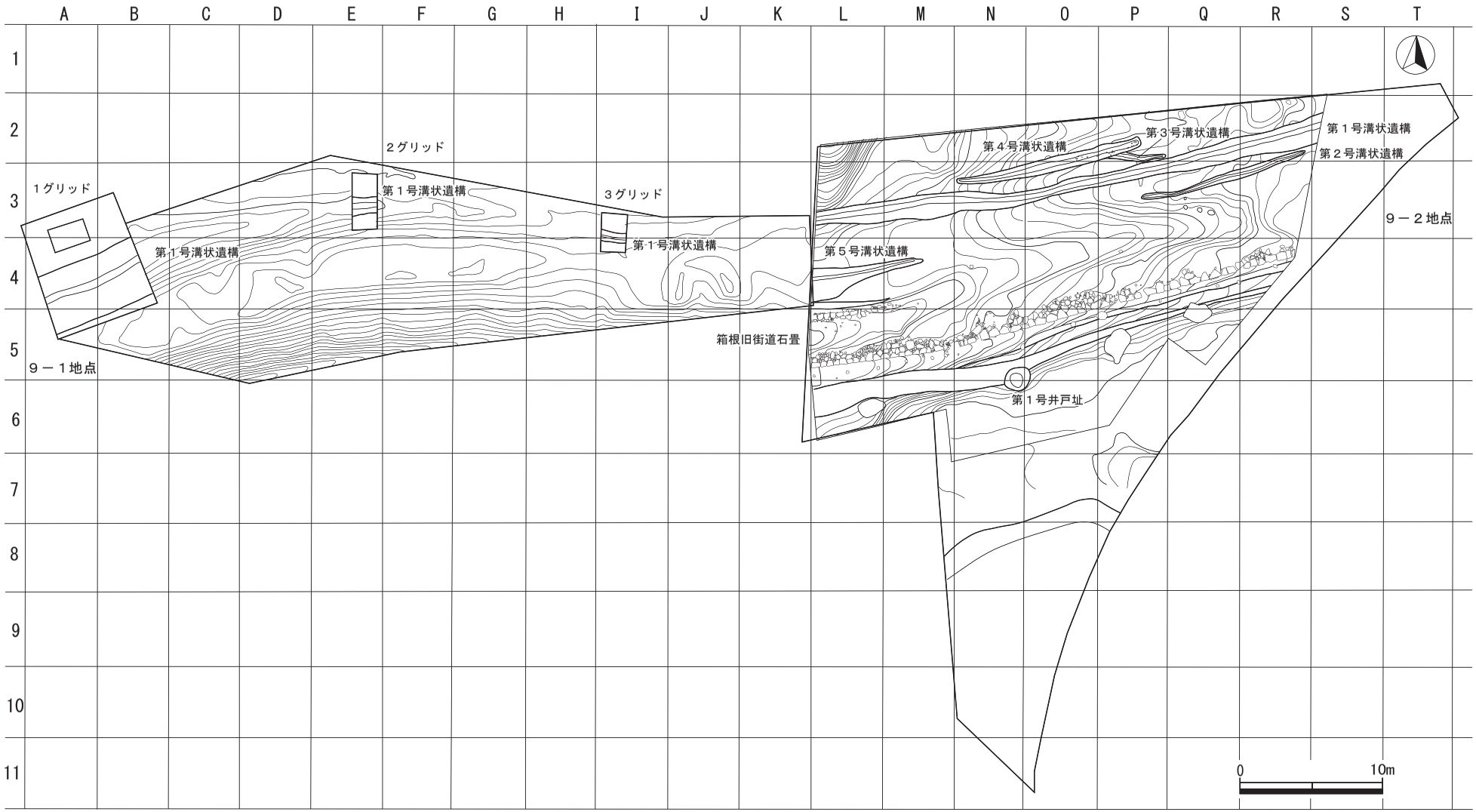
１．検出された江戸時代以降の遺構

山中城Ｄ遺跡の調査では、江戸時代以降に属すると考えられる遺構として、箱根旧街道石畳、溝状遺構、土坑が検出された。

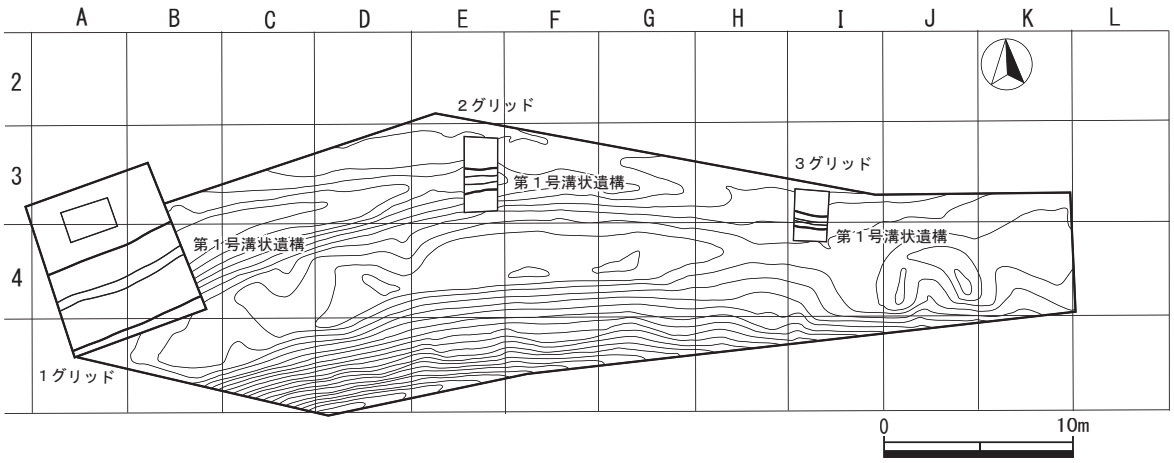
山中城Ｄ遺跡の調査は、一般国道１号笹原山中バイパス建設工事に先立って、平成５年に実施した９－１地点と平成16年に行った９－２地点の調査である。上述した遺構は主に９－１地点の調査で検出された遺構であり、９－２地点は、１・２・３グリッドを設定し、部分調査を実施した地点である（第190～192図）。



第190図　山中城Ｄ遺跡９－１地点全体図



第191図　山中城Ｄ遺跡９－１・２地点全体図



第192図　山中城Ｄ遺跡９－２地点全体図

（１）箱根旧街道石畳（第193・194図）

箱根旧街道石畳は、９－１地点中央部南寄りのＬ～Ｒ－４・５グリッドに位置し、調査範囲の東端から西端に延びている。東側部分では南縁石列が残存しているのみで、南北両側の縁石列が残っているのは９－１地点調査範囲西端部5.4mのみである。確認した長さは34.8m､幅は南北両縁石列が残る西側部分で3.6m（２間）を測る。石畳は上幅5.2～６mの皿状掘り込み（石畳掘り方と呼ぶ）底面に幅２間（3.6m）で石を敷設している。

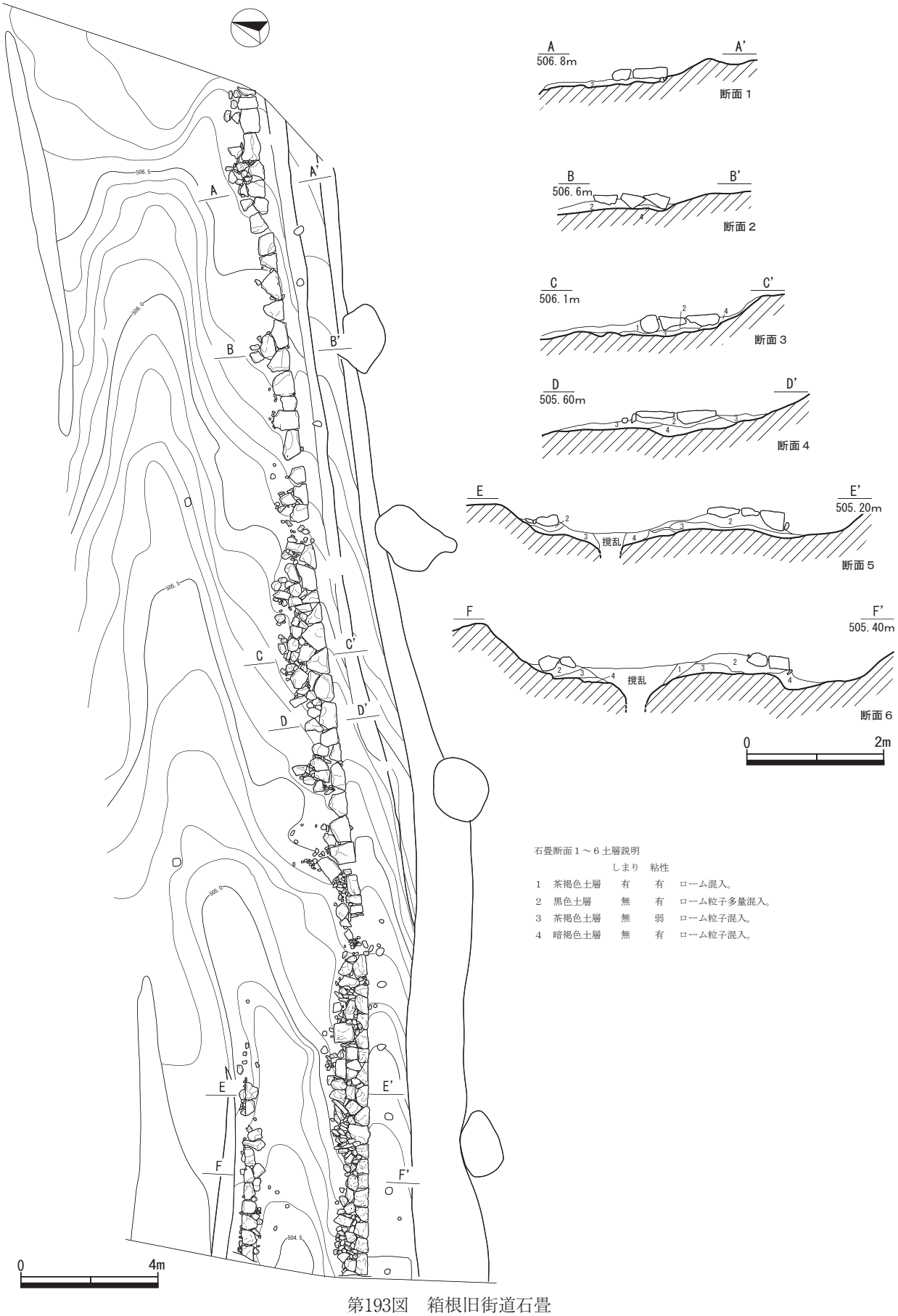
石畳を構成する石列上面の標高は、東端部で約506.6m、中央部で約505.8m、西端部は約505.0mで東から西に向かい34.8mで凡そ1.8m下がっている。主軸方位は東側から中央部のＮ～Ｒ－４・５グリッドまではＮ－70°－Ｅ、西側部分Ｌ・Ｍ－５グリッドでは主軸方位はＮ－63°－Ｅとなり、Ｍ－５グリッド東側で北方向に少し屈折している。

検出された石畳は、縁石列を構成している礫の大きさは、30～70㎝で厚さ20㎝を測る。南面と北面それぞれ直線的に面が通るように配列されている。石畳が少し屈曲する部分の東側と西側では、使用礫の大きさや素材形状、配列方法などに差が認められる。屈折点の東側では、やや大きい石材を用いている。これらは方形板状礫を用いており、敷設方法は石畳掘り方底面に直に石材を配するもので、石畳石材を補強する栗石やや大きい礫が比較的緩く入れられているようである。屈折点西側は、風化礫を加工して敷設し、栗石の密集度も高いようである。このような素材や敷設工法の違いは何に由来するのか興味深い。

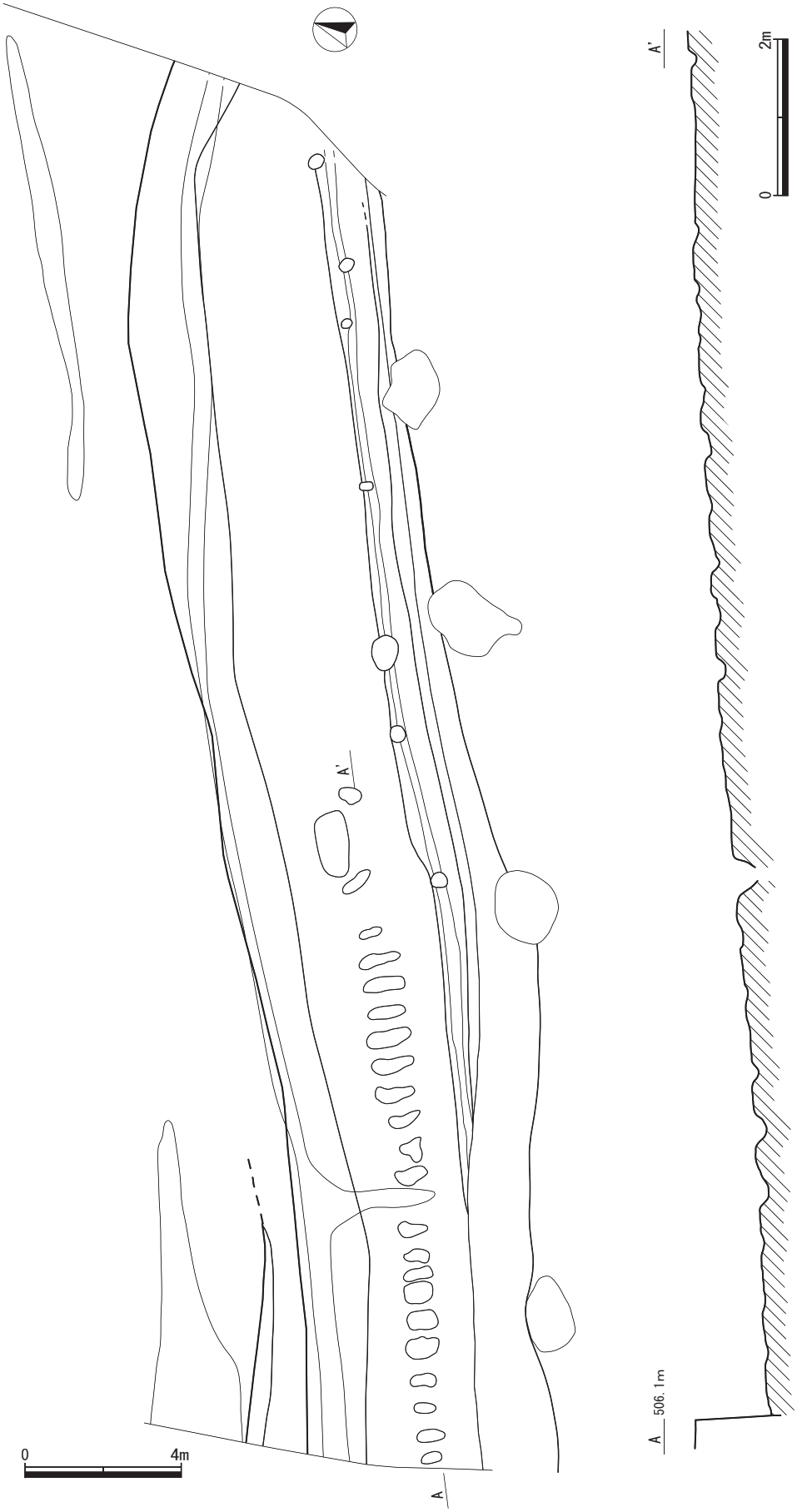
石畳の石材は安山岩（橄欖石斜方輝石単斜輝石安山岩）・（橄欖石複斜輝石安山岩）である。三島市山中付近の地質は、箱根火山古期外輪山溶岩と湯河原火山安山岩溶岩の境界（久野　1972）とされている。石畳の石材は湯河原火山安山岩溶岩由来の石材である可能性がある。掘り方の覆土は主に締りのない茶褐色土又は黒色土でロームの混入が著しい。

石畳を構成している礫と覆土を除去すると、石畳掘り方底面には、並板状凹凸といわれる凹凸が傾斜の強くなる西側約1/3ほどの部分に構築されている。また、南北両端部にも掘り方面で側溝状の溝が検出され、石畳敷設以前は南北に側溝が構築される構造であったと推定される。

出土遺物は、掘り方面から江戸時代後葉の肥前染付磁器類が出土している。改修時の遺物と推定される。



第193図　箱根旧街道石畳



第194図　箱根旧街道石畳掘り方

（２）溝状遺構

溝状遺構は、５条検出された。いずれも出土遺物は無く所属時期は明確ではないが、覆土の状況などから近世以降の溝状遺構と考えたい。

第１号溝状遺構（第195・196図）

本遺構は９－２地点から９－１地点にわたり検出した溝状遺構である。９－１地点では調査範囲の東端から西端に向かい、主軸方位はＮ－80°－Ｅである。本遺構は９－１地点の北寄り中央部Ｌ～Ｓ－２・３グリッドに位置している。箱根旧街道石畳・第２～５号溝状遺構と並行し、北側に３・４号溝状遺構、南側に第２号溝状遺構が隣接している。

確認面は標高約506m付近である。長さ36.2m、幅は中央部で狭く70㎝、東端部が最も広く2.1mである。深さは東側から中央部が浅く18㎝で西に向かい40㎝を測り深くなる。断面形も深さの浅い東側から中央部は浅い皿状で、深くなる西側は上部が弱く開くＵ字状を呈する。覆土は下層に宝永火山灰層を含んでいる。出土遺物は無い。

９－２地点は、１・２・３グリッドを設定し部分調査を実施した地点である。このため、本溝状遺構は９－２地点の西側１グリッド、中央部２グリッド、東側３グリッドの３地点に分かれて検出されたものである。この３ヶ所で検出された溝状遺構を一連の溝状遺構と考え、東側の９－１地点で検出した第１号溝状遺構と同一溝と考えたい。なお、本遺構は西側では丘陵を上るように曲がりながら北東に向かい、２グリッド付近から東に向かい尾根上を東に延びている。１グリッドでは長さ８ｍを確認した。幅４ｍで、主軸方位はＮ－78°－Ｅである。確認面は約503.5m程である。２グリッドでは長さ1.8㎝を確認した。幅は1.1ｍを測る。主軸方位はＮ－82°－Ｅである。３グリッドでは長1.7ｍを確認した。幅は細くなり80㎝である。主軸方位はＮ－102°－Ｅである。断面形は上部がやや開くＶ字状を呈している。出土遺物は無い。

第２号溝状遺構（第195図）

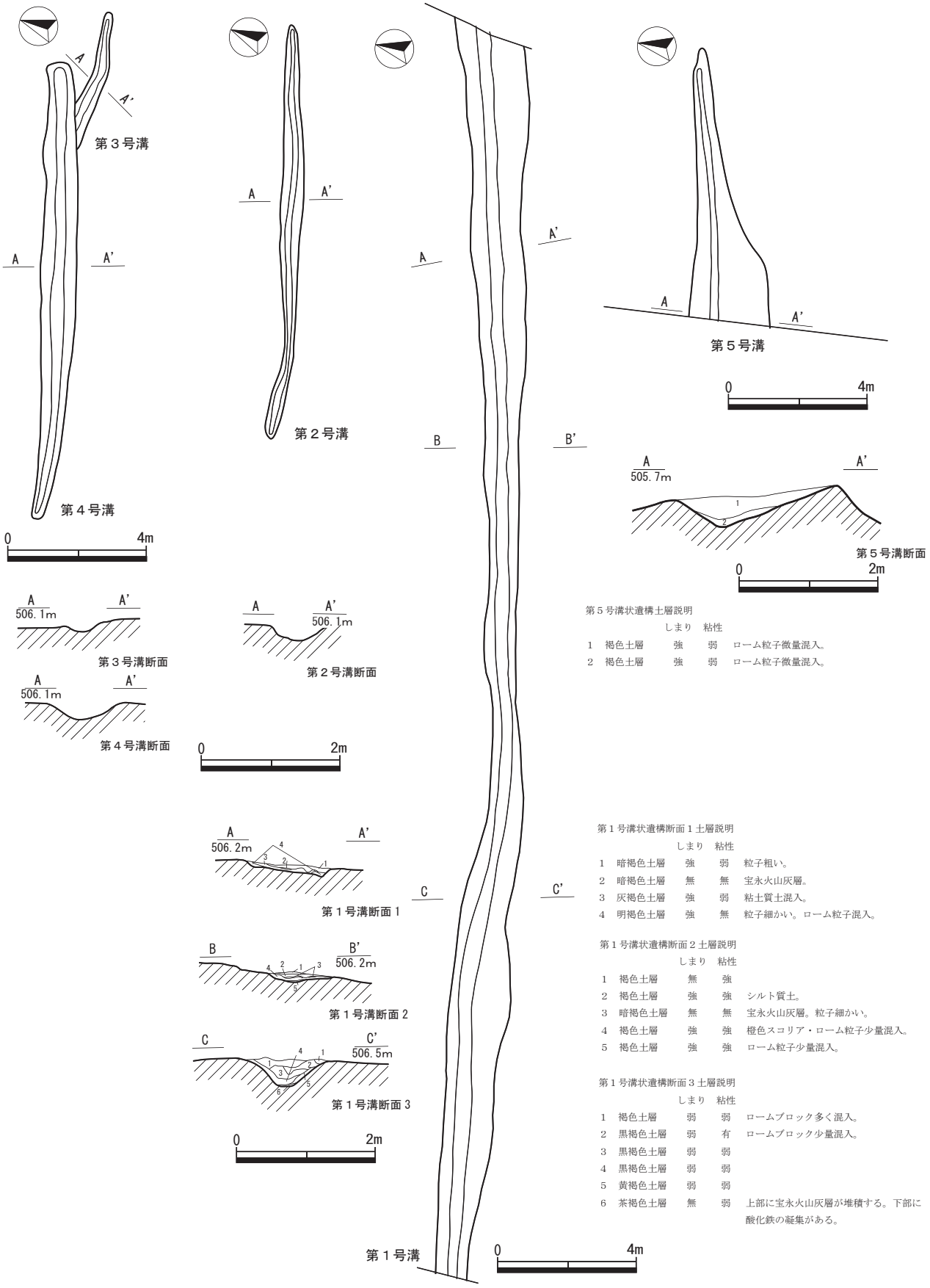
本遺構は９－１地点東側Ｐ～Ｒ－２・３グリッドに位置している。主軸方位はＮ－69°－Ｅで、北東から南西方向に延びる。箱根旧街道石畳・第１・３～５号溝状遺構と並行し、北側には第１号溝状遺構が近接する。確認面は標高約506m付近である。規模は長さ12m、幅は80～100cm、深さ20cmを測る。断面形は崩れた台形である。出土遺物はない。

第３号溝状遺構（第195図）

本遺構は９－１地点の北寄り中央部Ｐ－２グリッドに位置している。主軸方位はＮ－87°－Ｅで、東から西方向に延びる。箱根旧街道石畳・第１・２・３～５号溝状遺構と並行し、南側には第１号溝状遺構が接している。西側には第４号溝状遺構が重複しているが新旧関係は不明である。確認面は標高約506m付近である。確認した長さは４ｍ、幅は40cm、深さ18cmを測る。断面形は台形である。出土遺物はない。

第４号溝状遺構（第195図）

本遺構は９－１地点の北寄り中央部Ｎ～Ｐ－２・３グリッドに位置している。主軸方位はＮ－77°－Ｅで、北東から南西方向に直線的に延びる。箱根旧街道石畳・第１～３・５号溝状遺構と並行し、南側には第１号溝状遺構が接している。東側には第３号溝状遺構が重複しているが新旧関係は不明である。確認面は標高約506m付近である。規模は長さ13m、幅は45～100cm、深さ20cmを測る。断面形は上部が大きく開くＵ字状である。東側から中央部で礫が出土した。



第５号溝状遺構土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	強	弱	ローム粒子微量混入。
2	褐色土層	強	弱	ローム粒子微量混入。

第１号溝状遺構断面１土層説明

		しまり	粘性	
1	暗褐色土層	強	弱	粒子粗い。
2	暗褐色土層	無	無	宝永火山灰層。
3	灰褐色土層	強	弱	粘土質土混入。
4	明褐色土層	強	無	粒子細かい。ローム粒子混入。

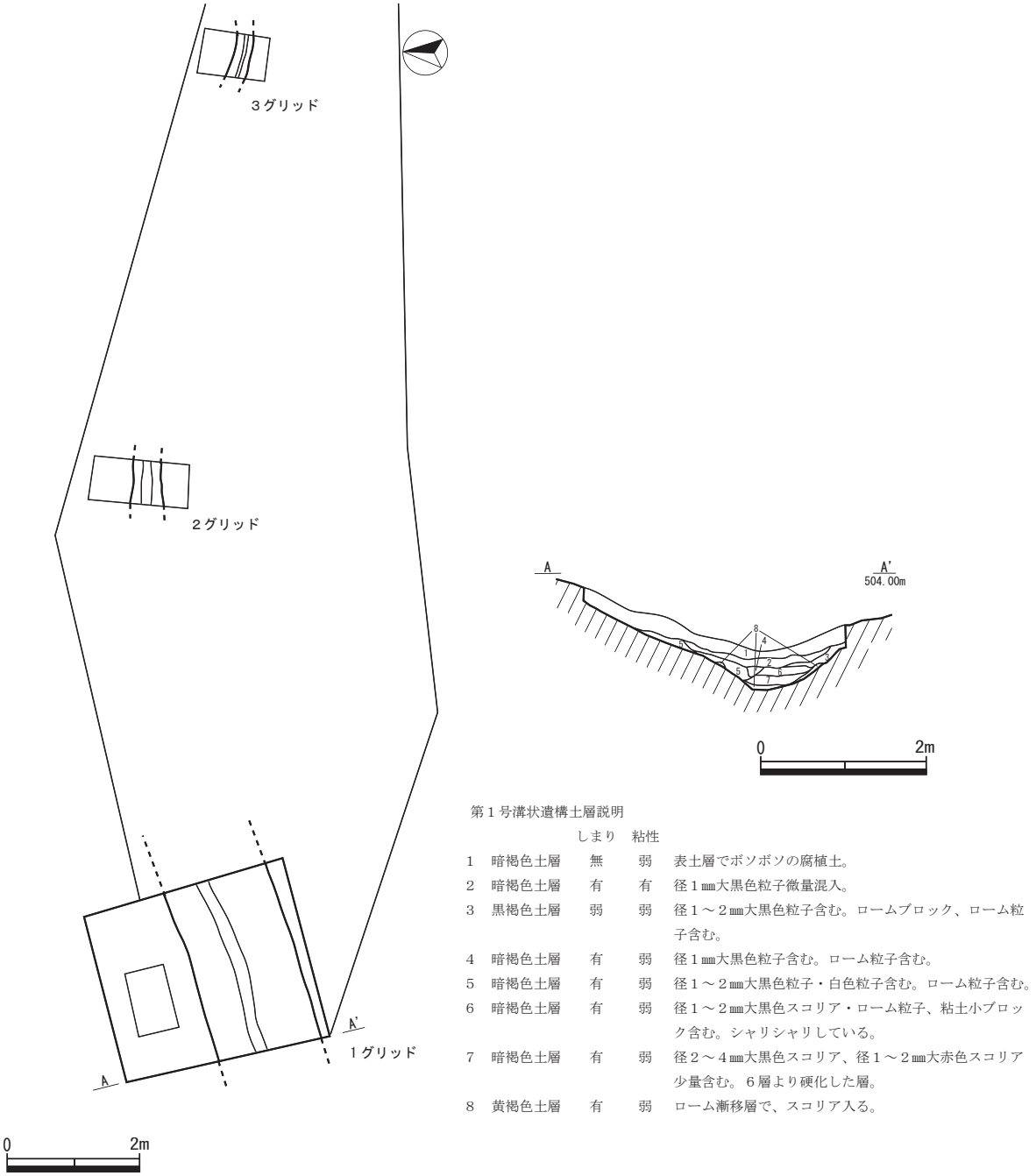
第１号溝状遺構断面２土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	無	強	
2	褐色土層	強	強	シルト質土。
3	暗褐色土層	無	無	宝永火山灰層。粒子細かい。
4	褐色土層	強	強	橙色スコリア・ローム粒子少量混入。
5	褐色土層	強	強	ローム粒子少量混入。

第１号溝状遺構断面３土層説明

		しまり	粘性	
1	褐色土層	弱	弱	ロームブロック多く混入。
2	黒褐色土層	弱	有	ロームブロック少量混入。
3	黒褐色土層	弱	弱	
4	黒褐色土層	弱	弱	
5	黄褐色土層	弱	弱	
6	茶褐色土層	無	弱	上部に宝永火山灰層が堆積する。下部に酸化鉄の凝集がある。

第195図　第１～５号溝状遺構



第１号溝状遺構土層説明

		しまり	粘性	
1	暗褐色土層	無	弱	表土層でボソボソの腐植土。
2	暗褐色土層	有	有	径１㎜大黒色粒子微量混入。
3	黒褐色土層	弱	弱	径１～２㎜大黒色粒子含む。ロームブロック、ローム粒子含む。
4	暗褐色土層	有	弱	径１㎜大黒色粒子含む。ローム粒子含む。
5	暗褐色土層	有	弱	径１～２㎜大黒色粒子・白色粒子含む。ローム粒子含む。
6	暗褐色土層	有	弱	径１～２㎜大黒色スコリア・ローム粒子、粘土小ブロック含む。シャリシャリしている。
7	暗褐色土層	有	弱	径２～４㎜大黒色スコリア、径１～２㎜大赤色スコリア少量含む。６層より硬化した層。
8	黄褐色土層	有	弱	ローム漸移層で、スコリア入る。

第196図　９－２地点第１号溝状遺構

第５号溝状遺構（第195図）

本遺構は９－１地点の西端部Ｌ・Ｍ－４グリッドに位置し、Ｍ－４グリッドから西へ延びる溝状遺構である。軸方位はＮ－74°－Ｅで、西に向かい幅が広くなるがほぼ直線的に延びている。箱根旧街道石畳・第１～４号溝状遺構と並行し、南側には箱根旧街道石畳が近接している。確認面の標高約505m付近である。確認した範囲での規模は長さ6.8mで、幅は東端部が狭く48cm、西端部では広くなり2.4m、深さは40cmを測る。断面形はＶ字状である。主覆土はローム粒子を含む褐色土である。出土遺物は無い。

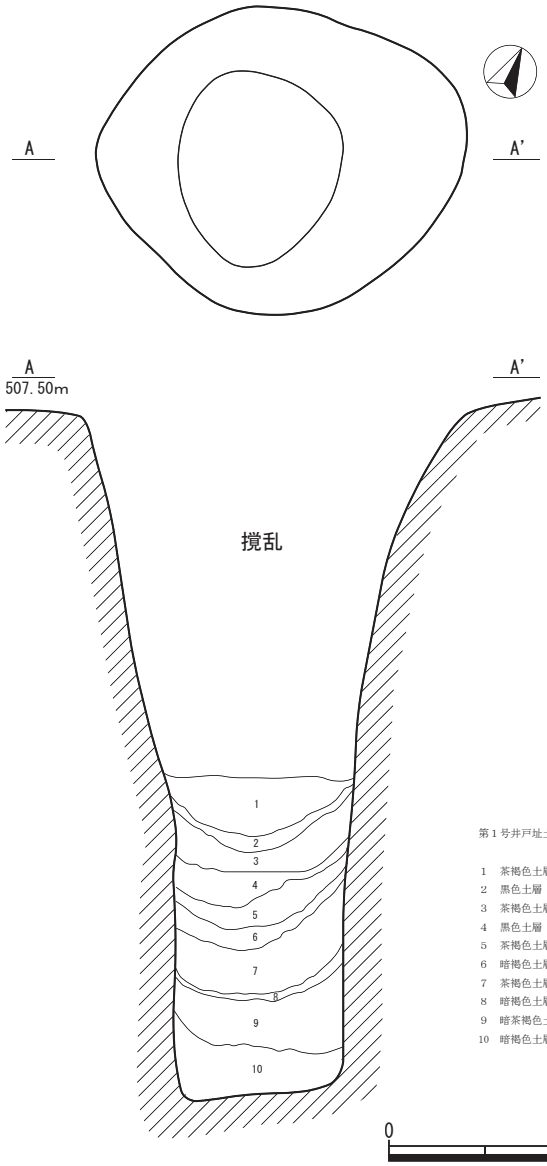
（３）井戸址

第１号井戸址（第197図）

本遺構はＮ・Ｏ－５・６グリッドに位置している。箱根旧街道石畳の南側に構築されている。

遺構の検出面は標高約507m付近である。平面形は不整な楕円形を呈し、底面のプランは上場プランと直交方向に長い長楕円形を呈している。規模は長径約188㎝、短径約161㎝、深さ約367㎝を測る。断面形は上部が大きく開く朝顔形で、中位下方からほぼ垂直である。主軸方位はＮ－62°－Ｅである。覆土上半部は撹乱を受け不明であるが、下部は締りのない暗・茶褐色土で、ローム ブロックを多く含んでいる。

出土遺物は無い。



第１号井戸址土層説明

		しまり	粘性	
1	茶褐色土層	無	弱	径５㎜～２㎝ローム ブロック混入。
2	黒色土層	無	有	径３～５㎜炭化材を微量、径３㎜ローム粒子混入。
3	茶褐色土層	無	弱	径５㎜～２㎝ローム ブロック混入。
4	黒色土層	無	有	径３～５㎜炭化材を微量、径３㎜ローム粒子混入。
5	茶褐色土層	無	有	ボソボソしている。粒子粗い。
6	暗褐色土層	無	有	サラサラしている。
7	茶褐色土層	無	弱	径５㎜～２㎝ローム ブロック混入。
8	暗褐色土層	無	有	サラサラしている。
9	暗茶褐色土層	無	有	径５㎜～２㎝ローム ブロック混入、サラサラしている。
10	暗褐色土層	無	有	粒子細かく褐色土ブロック混入。

第197図　第１号井戸址

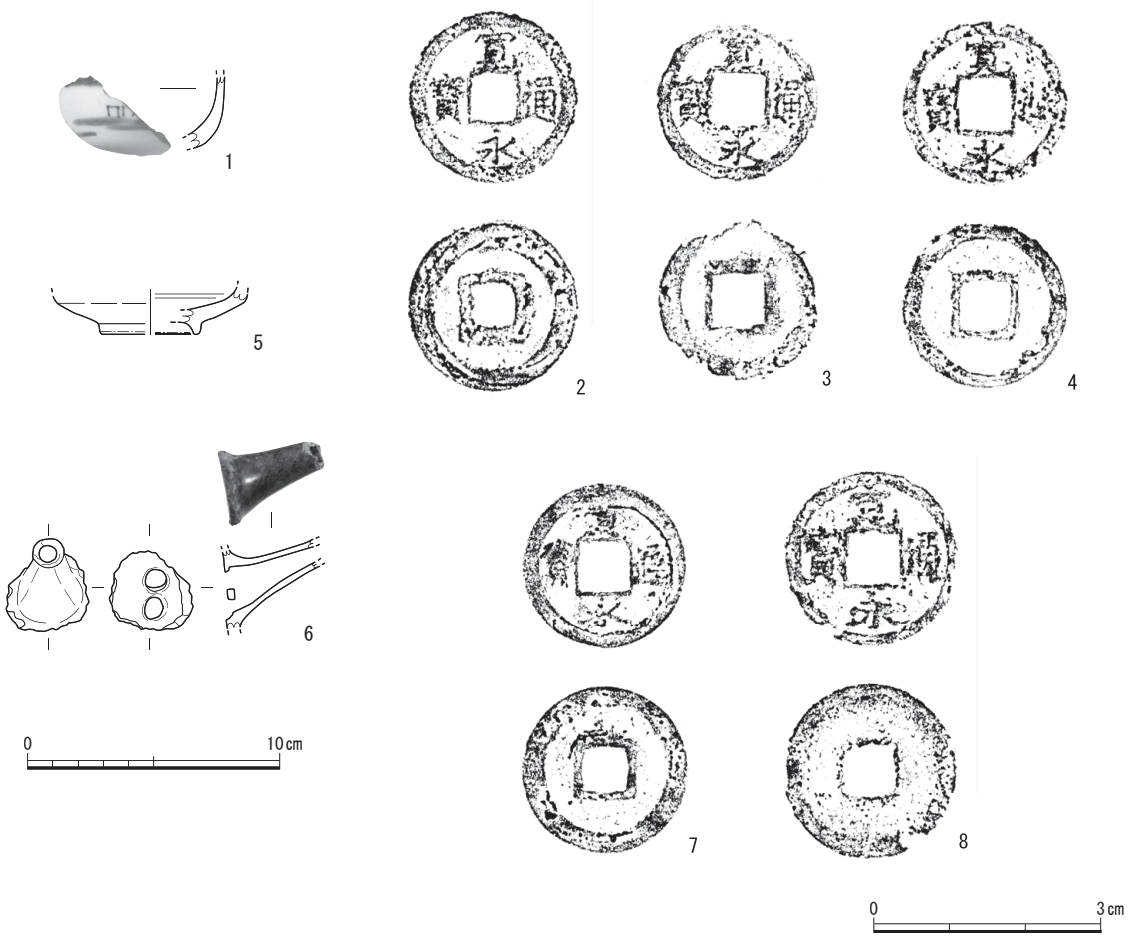
２．出土遺物

（１）遺構出土遺物

箱根旧街道石畳出土遺物（第198図）

１～４は箱根旧街道石畳から出土した遺物である。１は瀬戸・美濃産の湯飲み碗である。外面には海浜風景と思われる文様が染付されている。1820年代～幕末の製品である。２～４は３枚が癒着した状態で出土した新寛永通寶である。

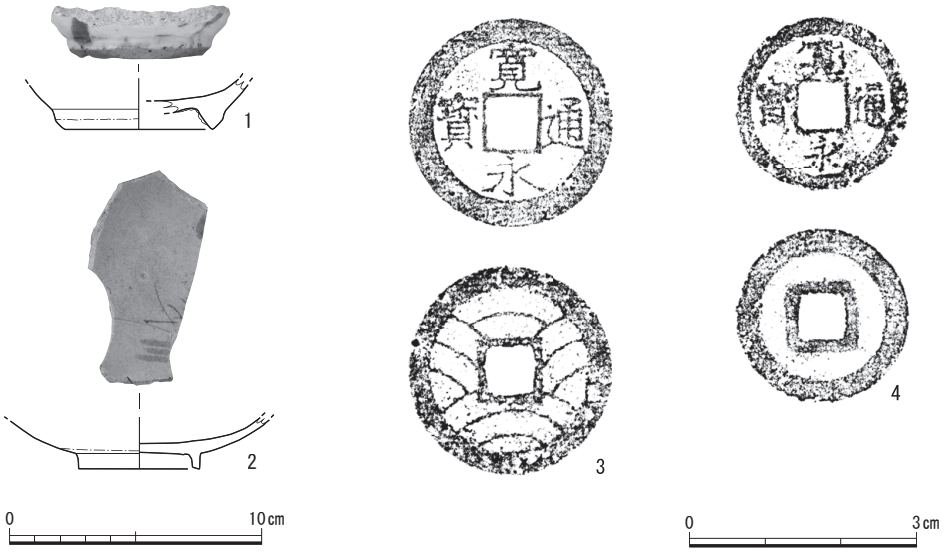
５～８は箱根旧街道石畳の掘り方から出土した遺物である。５は肥前産磁器の筒茶碗である。見込みにはに二重圏線が染付されている。1740年代～1810年代の製品である。６は陶器土瓶の注口部の破片である。暗オリーブ色の鉄釉が施釉されている。７・８は新寛永通寶である。



第198図　箱根旧街道石畳出土遺物

表採遺物（第199図）

１は舶載磁器の青花碗である。外面の青花は文様が判別出来る部分まで残存してはいない。19世紀代（清朝）の製品と思われる。２は肥前産陶器の京焼風陶器碗である。見込みには呉須により山水文が描かれている。17世紀末～18世紀初頭の製品である。３は寛永通寶の四文銭である。４は新寛永通寶である。



第199図　表採遺物

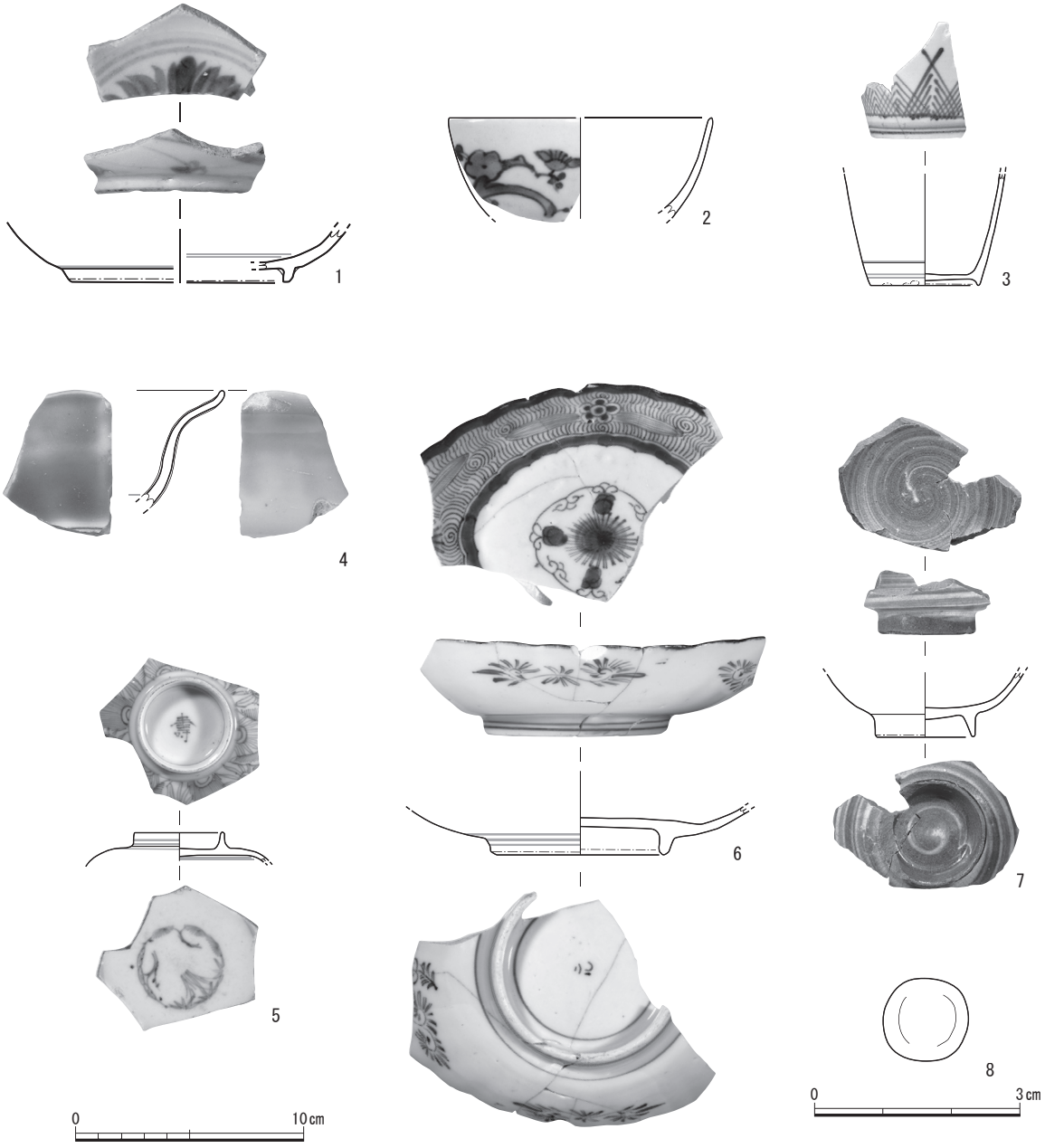
遺構外出土遺物（第200図）

遺構外出土遺物として16世紀代から19世紀中葉（幕末）までの遺物が出土し、８点を図示した。主に試掘トレンチからの出土遺物である。

１は舶載磁器の皿である。中国・景徳鎮産の青花皿であり、裏面には唐草文が染付されている。16世紀後半代（明朝）の製品である。

２は肥前産磁器の丸碗である。外面に梅樹文が染付される。1680年代～1740年代の製品である。３は肥前産磁器の蕎麦猪口である。外面に露草文と二重圏線が染付されている。18世紀代の製品である。４は肥前産磁器の青磁染付鉢である。体部は青磁で、見込みには一重圏線が染付された部分が僅かに残存している。18世紀代の製品である。

５は肥前産磁器碗蓋で、外面に草花文、摘み内には寿字文、内面には松竹梅環文が素描きにより染付される。1830年代～幕末の製品である。６は肥前産磁器の変形皿で、口縁部は輪花状である。内面には梅花・波文、見込みには唐草・花文、裏面には唐草文・一重圏線が染付される。底裏銘は「ニル」と記されている。1830～幕末の製品である。７は肥前産陶器の刷毛目碗である。内外面に白泥による刷毛目が施される。17世紀末～18世紀初頭の製品である。８は鉛製の火縄銃玉である。径1.2㎝、重さ13.4gを測る。大枠として中・近世の製品であろう。



第200図　遺構外出土遺物

第４章　調査の成果と課題

第１節　旧石器時代の山中城Ｅ遺跡

－箱根山西麓に於ける尖頭器の発達過程について－

（１）はじめに

今回、報告することができた山中城Ｅ遺跡では、合計３枚の旧石器時代の文化層が確認され、その内の第Ⅱ、第Ⅲ文化層は、ともに尖頭器を組成とするナイフ形石器石器群として認識することができた。前述してきたように、同じように当地方のローム層の最上層である「休場層」に包含されていた石器群ではあるものの、出土レベルに若干のレベル差が存在したとともに、両文化層ではナイフ形石器の様相や、尖頭器の保有量、剥片剥離技術等に相違があり、第Ⅲ文化層を『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』（シンポジウム実行委員会　1995）の第４期ａ段階に、第Ⅱ文化層を同編年の第４期ｃ段階に比定することができた。したがって、両石器群は時代差のある石器群として把握することができたことから、「休場層」には時代差のあるナイフ形石器石器群が包含されていたことが明らかであるとともに、「休場層」の上層では第４期ｃ段階以降の第５期に位置付けられている本遺跡の第Ⅰ文化層のような細石刃石器群や、本市の山中城跡三ノ丸第１地点第Ⅱ文化層や、東山遺跡第Ⅱ文化層のような尖頭器石器群も包含されており、極めて複雑な様相を呈している層位であることが理解されている。当地方よりローム層の堆積が著しい相模野台地では、層位的な前後関係としてナイフ形石器石器群の終末期から尖頭器石器群へ、尖頭器石器群からは細石刃石器群へと石器群の変遷が進んだことが判明しているが、前述したように箱根山西麓では、これらの時期の石器群は「休場層」中に包含されており、しかも本遺跡のように石器群の重複が認められる遺跡が殆どのため、各時期の石器群の内容を明確に把握することが極めて難しい状況が存在していた。このような地域的な困難さのある中で、昭和49年の塚原初音原遺跡の調査を端緒として、バイパス道路や大規模農道、ゴルフ場等の大規模な開発に伴って多くの遺跡の調査が行われ、その中で旧石器時代の石器群の整理が進んできたことにより、各期の特徴を捉えることが可能になってきた。ただ、「休場層」から出土する石器群の殆どから尖頭器が確認されることが多く、各石器群での尖頭器の在り方が明確に捉えられていないのが現状であった。隣接する相模野台地の遺跡群では、ナイフ形石器石器群の終末期からナイフ形石器石器群を構成する器種として尖頭器が加わり、ナイフ形石器の衰退と共に尖頭器石器群が出現することが確認されており（鈴木・矢島　1988）、以下では、当地方の石器群の中での尖頭器の特徴や状態を捉えながら、このような状況が当地方の遺跡群でも追認できるかどうかを見ていくことにしたい。

（２）各時期の石器群と尖頭器

愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　第４期ａ段階（相模野編年　第Ⅳ期前半　に相当）

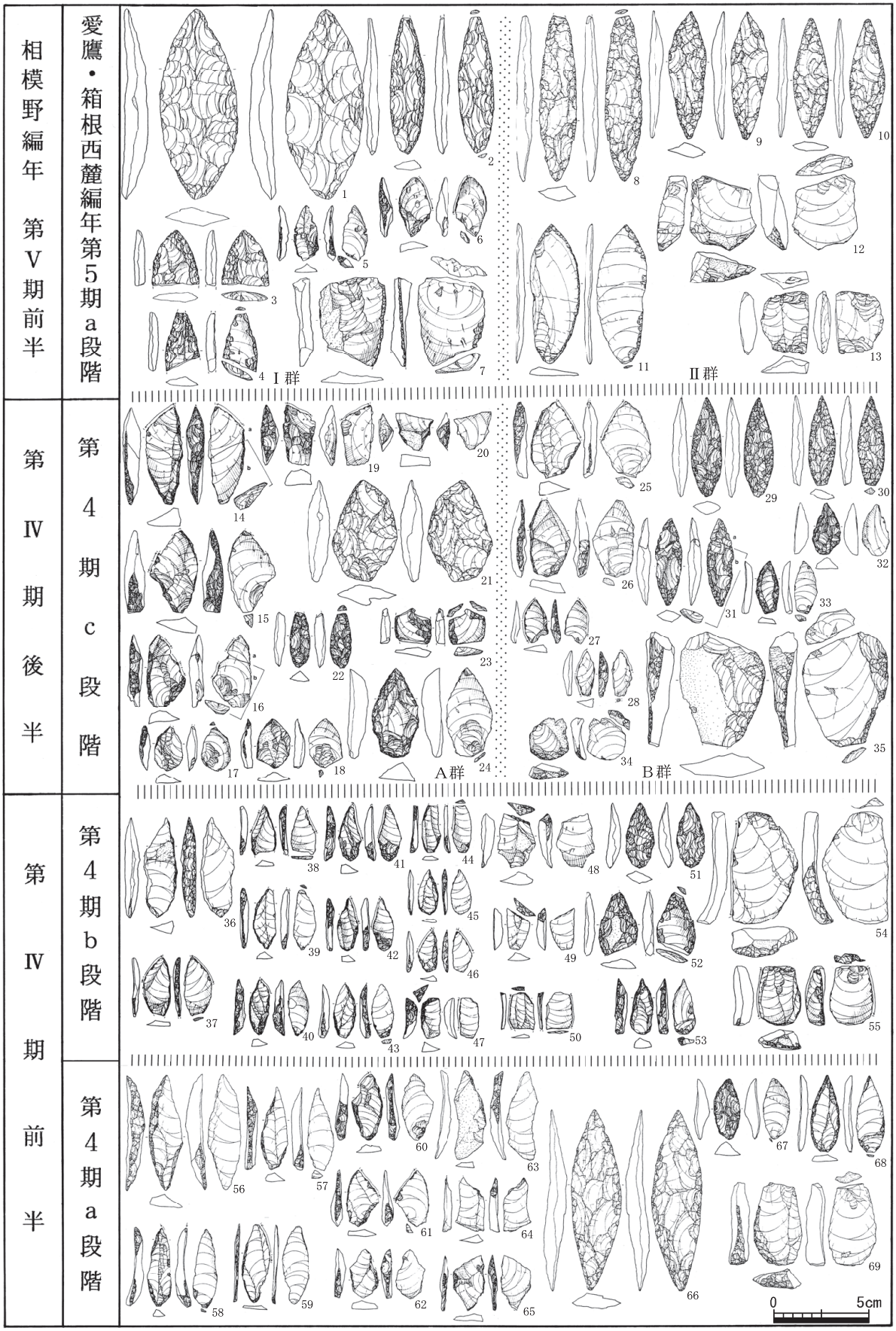
所謂「砂川型式期」に比定される時期で、箱根山麓では本遺跡第Ⅲ文化層（以下では山中城Ｅ遺跡Ⅲと略記）、南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱ（伊藤・寺田　2004）、函南町大奴田場Ａ遺跡（伊藤・長野　1989）、上黒岩遺跡（伊藤・長野　1989）、上野遺跡Ⅱ（伊藤・保坂　2001）等で確認されている。石器群は多量のナイフ形石器を保有するナイフ形石器石器群で、数点程度の尖頭器を伴うことが通例であるが、中には大奴田場Ａ遺跡Ⅱのように尖頭器を組成していない石器群もあり、尖頭器の保有状態は一定していない時期である。ただ、今のところ当地方では尖頭器の組成は当該期からではあるが、相模野台地や武蔵野台地の石器群では、前段

階である第Ⅲ期に組成されている石器群もあり、箱根山麓でも第３期の時期に伴っていた可能性が高いことが想定されるものである。出土しているナイフ形石器は、５㎝前後～２㎝の柳葉形の二側縁加工のもの（56～62）を主体とし、素材を斜めに加工して器体が製作されている一側縁加工のもの（63・64）とで大部分が占められているが、他には刃部が上縁に位置する所謂「台形石器」の形状のもの（65）が数点程度確認されることが多い。尖頭器は両面加工のもの（66）が多いが、中には片面加工のもの（67）や、周縁加工のもの(68)もあり、石器群に組成される段階から加工状態の違う完成された形態のものが確認されていることから、このような状況からも尖頭器の発生段階が第４期ａ段階以前であることが窺えるものである。これら尖頭器の大きさは、10㎝弱の中形のもの（66）と、５㎝前後以下の小形のもの（67・68）があり、ナイフ形石器に比べると大形のものが製作されていることがわかる。ナイフ形石器と尖頭器以外の器種には、先刃式掻器(69)、削器、ノッチ、彫器等があり、これらにも複数の形態が存在するものが多く、石器群としての器種や形態が極めて豊富な時期である。これらの石器類には、素材剥片として石刃が利用されているものが殆どで、石器群の製作には石刃を量産する石刃技法の存在が必要不可欠であったことが推定される。これを証明するように、ナイフ形石器と石刃との出土量は上野遺跡Ⅱでは約0.79倍とやや少ないものの、南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱではナイフ形石器の約1.63倍、本遺跡Ⅲでは約2.20倍を示しており、量産された石刃の中から都合の良い素材が選択されて石器製作が進められたことが推察できることから、石刃技法は石器群の技術基盤として重要な位置を占めていたことが窺える時期である。

これらの石器類が製作されている石材は、黒曜石、凝灰岩、ガラス質黒色安山岩、チャート、ホルンフェルス、赤玉石（鉄石英）、玉髄、流紋岩等が利用されており、本遺跡Ⅲではホルンフェルスが、南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱではガラス質黒色安山岩に、上野遺跡Ⅱでは黒曜石に利用石材が偏る傾向が認められているものの、時期的に石器石材が限定されているような状況は認められなかった。尚、第201図67と68は本遺跡Ⅲ、それ以外の56～66・69は南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱの出土石器である。

愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　第４期ｂ段階（相模野編年　第Ⅳ期前半　に相当）

「砂川型式期」の後半期に比定される時期（第201図36～55）で、図は初音ヶ原Ｂ遺跡第３地点Ⅰ（伊藤・鈴木　1999）の石器類を示したが、他には山中城跡三ノ丸第１地点Ⅲ（伊藤・鈴木　1995）、柳沢Ｃ遺跡Ⅲ（伊藤・長野　1989）等が該当する。当該期もナイフ形石器を主体とし、少量の尖頭器を持つナイフ形石器石器群で、前段階と石器類の構成には相違は認められないものの、確認されたナイフ形石器が平均で１㎝程度小形化（37～50）していることと、尖頭器では中形のものが欠落し、５㎝前後以下の小形の例（51～53）が殆どを占める状況となっている。小形化している傾向は先刃式掻器（55）や、石刃、石核等にも認められており、石器群全体に及んでいることが推定されるが、これらは後述するように大形の長野産黒曜石の入手が難しかったことが関連するものと思われる。尖頭器の形態には両面加工のもの（51）、半両面加工のもの（52）、周縁加工のもの（53）があり、製作される形態が限定されているような状況は認められないが、後二者のように素材の剥離痕を残すものが多いようである。石器類の素材には前段階と同じように石刃が利用されているが、その生産量は減少しており、山中城跡三ノ丸第１地点Ⅲではナイフ形石器の約0.58倍、初音ヶ原Ｂ遺跡第３地点Ⅰでは約0.66倍で、柳沢Ｃ遺跡Ⅲでは約0.96倍と、出土したナイフ形石器を下回る数量しか確認されていない。したがって、多くの石刃等の目的的剥片を生産する剥片剥離技術の利用が低下していることが推定されるとともに、在地系石材と考えられるホルンフェルス製の石核が増加しているが、これに施された剥片剥離技術は前段階の第４期ａ段階で認められていたような頻繁に打面調整を行ったり、打面再生や石核調整等も施されていないものが殆どで、定形剥片である石刃を量産できるとは考えられないものであった。



第201図　箱根山西麓の石器群の変遷

さらに、黒曜石製の石核の中には剥片剥離作業面を固定し、その周縁から求心的な剥片剥離を行うものが存在している等、石刃技法とは異質な剥片剥離技術が複数で確認されており、技術基盤としての石刃技法の存在が後退していることが窺える時期である。たた、ナイフ形石器等の素材には石刃が利用されているものが殆どで、しかも、これは前段階の第４期ａ段階と共通していることから、石刃技法以外の剥片剥離技術の存在理由は明らかではないのが現状である。

石器類の石材は前段階と同じように多様であるが、前段階では遺跡（文化層）毎に偏りが認められる傾向があったものの、第４期ｂ段階では長野県産の黒曜石の利用が一般的となり、それを補完するように凝灰岩、ガラス質黒色安山岩、チャート、赤玉石（鉄石英）、玉髄、流紋岩等が確認されるとともに、前述したようにホルンフェルスが使われる割合が高くなる傾向を示していた。ただ、長野県産の黒曜石は多量に搬入されてはいるものの、第４期ａ段階に比べると小形化しているようであり、遺跡に残された長野県産黒曜石製の石器類、石核、剥片類には大形のものは皆無で、全てが小形のものであった。

愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　第４期ｃ段階（相模野編年　第Ⅳ期後半　に相当）

『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』第４期ｃ段階に比定されている石器群には、本遺跡Ⅱのように比肩する量のナイフ形石器と尖頭器を持つ石器群（25～35）と、第４期ａ～ｂ段階と同じようにナイフ形石器を主体とし、数点の尖頭器を持っている石器群（14～24・願合寺Ａ遺跡Ⅱ）、尖頭器を持たないナイフ形石器石器群（山中城遺跡第19次調査）等があり、様相の異なる石器群が同時期に存在している状況にある。この内の後二者は､尖頭器の組成が安定的でないナイフ形石器石器群の状態を示していると考えられることから、これらをＡ群とし、前者をＢ群として記述していくことにする。

［第４期ｃ段階　Ａ群］

数点の尖頭器を組成しているナイフ形石器石器群で、前述したように中には尖頭器を持たない石器群も存在している。第４期ａ～ｂ段階の殆どのナイフ形石器が石刃を素材とした柳葉形を呈する細身の器体であるのに比べ、第４期ｃ段階のナイフ形石器は厚手幅広の縦長剥片や剥片を素材とする幅広のもの（14～16）が大部分を占め、しかも第４期ｂ段階より大形化している傾向にある。尖頭器は両面加工のもの（21・22）や、半両面加工（23）、片面加工（24）のものがあるが、前者に比べると後二者と周縁加工のものが大勢を占めているようである。大きさは５㎝前後以下の小形のもので占められ、状況としては前段階の第４期ｂ段階と共通しており、尖頭器の在り方には継続性が感じられる状態にある。たた、第４期ｂ段階では明らかではなかったが、当該期ではナイフ形石器と尖頭器の素材には同じ厚手幅広の縦長剥片が利用されているようであり、両器種では素材の共有化が計られていたことが推定されるものであった。そして、これらの素材である縦長剥片を剥離する剥片剥離技術の他に、縦横の長さに大差のない方形に近い剥片を剥離する技術や、第４期ｂ段階でも確認されている求心的な剥片剥離を行う工程等、複数の剥片剥離技術が存在し、これらから剥離された剥片を素材としてナイフ形石器等が製作されており、素材と剥片剥離技術の多様化が進行している時期である。そして、前段階まで永く継続していたナイフ形石器と技術基盤である石刃技法の関係が崩壊してしまっており、縦長剥片剥離技術の退行とともに石器群に占めるナイフ形石器の存在理由が、著しく低下していることが推定される状況にある。

当該期では、石器群で利用されている石材の殆どは黒曜石で占められており、ガラス質黒色安山岩、チャート、玉髄、ホルンフェルス等が少量で確認されているに過ぎない。利用されている黒曜石は当地方の在地系石材である箱根畑宿産のものが多用され、これに次いで天城柏峠産の黒曜石や、長野県産の蓼科、霧ヶ峰、和田峠産のものも少量であるが確認されており、著しく黒曜石に依存している石器群であったことが判明し

ている。前段階の第４期ｂ段階でも黒曜石が主要石材であったが、それらは長野県産のものが大勢を占めており、時期の変遷とともに利用される黒曜石の産地が変更されていることが理解されており、長野県産黒曜石の供給ルートが何らかの原因で細くなったのか、あるいはより近場の産地である箱根畑宿産の黒曜石の性質に則した石器群が形成されたことにより、長野県産の黒曜石は補完する程度の量が搬入されていただけのようである。ただ、それでも少量ながら長野県産黒曜石が確認できるということは、交易ルートを閉ざさない意図があったのかも知れない。

［第４期ｃ段階　Ｂ群］

本遺跡Ⅱが該当する石器群で、ほぼ同数のナイフ形石器と尖頭器を持つナイフ形石器石器群である。ナイフ形石器の特徴は前述したＡ群のナイフ形石器と同様で、幅広厚手の縦長剥片や剥片を素材とした幅広の器体のもの（25・26）や、剥片を素材とし、素材の形状に沿った調整を行っているもの（27）、素材の形状を大きく改変しているもの（28）等が認められており、本群もＡ群と同様に石刃技法によって作出された石刃を素材としたナイフ形石器は認められない。尖頭器は本群でも５㎝前後以下の小形のものが殆どを占め、形態的には両面加工（29・30）のものや、所謂「有樋尖頭器」に相当するもの（31）、片面加工のもの（32）、周縁加工のもの（33）、半両面加工のものがあり、様々な形態に加工されていることが理解される。ただ、未製品を含めると、量的には両面加工のものが過半数を占めていることから、尖頭器の製作は両面加工のものに収斂していく過程を示しているようである。そして、両面加工の尖頭器の製作には想定する器体の数回り大形の剥片が必要であり、ナイフ形石器の素材となっている幅広厚手の縦長剥片や剥片等では29～31の尖頭器の製作は不可能なのは明らかで、両面加工の尖頭器の増加からはナイフ形石器の素材を作出するような剥片剥離技術は不要となることが想定されるものと思われる。したがって、石器群の組成に両面加工の尖頭器が増加するに従い、ナイフ形石器と、その技術基盤となる剥片剥離技術は衰退が加速していくことが想像されるものである。尚、石器類には大形の削器（35）が組成されているのが特徴的である。

Ｂ群の石器群も大部分が黒曜石で製作されており、他の石材ではガラス質黒色安山岩（25）や、玉髄（35）、チャート等が少量で確認されている。黒曜石は箱根畑宿産のものが殆どを占め、これに次いで天城柏峠産や、長野県産も利用されており、石材の利用状態はＡ群と共通する。

愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　第４期ｃ段階（相模野編年　第Ⅴ期前半　に相当）

所謂「尖頭器石器群」に該当し、相模野編年の第Ⅴ期前半に対比される石器群と思われるが、『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』（シンポジウム実行委員会　1995）では第４期ｃ段階に設定されているものである。これも石器群の相違から２群が確認されている。

［第４期ｃ段階　Ⅰ群］

尖頭器を主体とし、少量の形骸化したナイフ形石器を組成している尖頭器石器群である。尖頭器は大部分が両面加工のもの（１～３）で、少量の半両面加工のもの（４）が伴うが、10㎝前後の中形のもの（１・２）が再度出現し、それ以外は５㎝前後の小形のもの（３・４）が大勢を占めており、第４期ａ～ｃ段階で認められていた５㎝以下のものは殆ど作製されていない。ナイフ形石器は、粗い調整で素材を大きく改変しているものの、鋭い先端が作出されていないもの（６）や、素材に簡単な調整を施して基部が作製されているが、先端は素材の縁辺をそのまま残しているもの（５）等、器種としての規範が著しく劣化している状況が認められている。尚、本石器群でも大形の削器（７）が組成されている。

石器類は箱根畑宿産黒曜石（３～７）と、ガラス質黒色安山岩（１～２）で製作されているものが殆どで、他の石材は長野県産黒曜石や玉髄が僅かに認められるだけであり、黒曜石の利用状態は第４期ｃ段階のＡ・Ｂ群と同様で、継続性が推察できる状況にある。ただ、10㎝前後の中形の尖頭器を製作するには箱根畑宿産

黒曜石では難しかったようで、中形の尖頭器はガラス質黒色安山岩製に限られており、中形の尖頭器の必要性からガラス質黒色安山岩が多用されるようになったようである。尚、１～11は山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱ（伊藤・鈴木　1995）の出土石器である。

［第４期ｃ段階　Ⅱ群］

東山遺跡Ⅱ（伊藤・寺田　2004）の出土石器で、石器類の殆どが尖頭器（８～11）で構成される尖頭器石器群である。他には、少量の掻器（12）とピエス・エスキーユ（13）が確認されているが、比較的単純な石器組成を示している石器群である。尖頭器には素材の周縁に加工を施した半両面加工のもの（11）もあったが、これ以外は殆どが両面加工（８～10）であり、調整状態は限定的である。10㎝前後の中形のもの（８）と、５㎝強の小形のもの（９～11）が大勢を占めており、５㎝以下のものは殆ど作製されていない状態は、前述したⅠ群と類似している。掻器と削器の相違があるが、本遺跡では大形の掻器（12）が確認されており、掻器・削器の大形化は尖頭器の増加とともに確立してきた可能性があるものと思われる。これらの石器群は、殆どがガラス質黒色安山岩で作製されており、僅かに赤玉石とトロトロ石（安山岩）が認められているに過ぎず、Ⅰ群には認められた黒曜石は確認されていない。

以上のように、各期の石器群と尖頭器の状態を見てきたが、この中でナイフ形石器石器群の衰退過程と、尖頭器石器群の生成過程、及び両者の関連性を窺うことができた。そして、これら変遷過程には各期の主要石材の在り方が重要な意味を持ち、各期では石材を生かした石器群が生成されていたことが想定されるものであった。このような石器群の変遷の中には幾つかの問題点があり、その内の『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』の第４期ｂ～ｃ段階については前に触れたことがある（伊藤　2014）ので、以下では第４期ｃ段階での尖頭器の在り方と尖頭器石器群の成立について検討を行っていきたい。

（３）第４期ｃ段階の石器群の衰退と尖頭器について

前述してきたように、第４期ｃ段階には、ナイフ形石器を主体とし、少量の尖頭器を持つ石器群のＡ群と、同程度のナイフ形石器と尖頭器を保有する石器群のＢ群が認められている。ただ、これら二種類の石器群は第４期ｃ段階に比定されてはいるものの、両石器群が同時期に存続している石器群のバラエティなのか、あるいは時間差のある石器群であるのか明らかにされていないのが現状であることから、両者の関係を見ていくことにしたい。

Ａ群とＢ群の石器群に認められる大きな違いは尖頭器の出土量で、それ以外のナイフ形石器を初めとする器種の組成や状態などの基本的な内容には相違は認められず、掻器、削器、彫器等が数点ずつ伴うのが通例である。石器類の形態的特徴として、Ａ群の尖頭器はナイフ形石器と共通する幅広厚手の縦長剥片を素材として、片面加工や半両面加工のものが多く製作されている傾向があり、両面加工のものが卓越するような様子は認められなかった。これに対してＢ群では、片面加工、半両面加工や周縁加工のものに比べると両面加工のものが多く作製されているようであり、尖頭器の組成量の増加とともに両面加工品の割合が高くなっているようであった。Ｂ群でも、ナイフ形石器や片面加工等の尖頭器の素材には、幅広厚手の縦長剥片が利用されておりＡ群との相違は認められないが、両面加工の尖頭器は完成された器体の倍以上の大きさの素材が必要であることは明らかであることから、ナイフ形石器等の素材として使用されている幅広厚手の縦長剥片以外の大形の剥片を、素材に運用していることが理解できるものである。したがって、Ａ群に比べるとＢ群では素材の多様化が進んでいることが想定されるとともに、石器類の素材剥片を生産する剥片剥離技術の存在意義が著しく低下していることが窺える。そして、このような推定が妥当なものであるならば、第４期ｃ

段階の石器群の方向性が両面加工の尖頭器の製作に重点を置いた石器群の構成に変化していったことが想像できるものであり、両面加工の尖頭器の増加とともに剥片剥離技術の衰退と、これに依存するナイフ形石器の減少が進んできていることが想定されるものである。したがって、Ｂ群は、永い時間石器群の中で主体的な器種として作製されてきたナイフ形石器の技術体系全体が衰退し、崩壊する過程の石器群であることが推定されるものであった。

そして、このようなＡ群とＢ群として認識された石器群は当地方だけで存在しているのではなく、隣接する旧石器時代遺跡の集中地域である相模野台地の相模野編年第Ⅳ期後半の石器群でも確認されており、これらを挙げてみると、Ａ群に対比されるのは大和市深見諏訪山遺跡Ⅲ（樫田　1983）、神明若宮遺跡Ａ地区Ⅰ（小池　1997）、大和市№210遺跡Ⅰ（小池　1999）、相模原市中村遺跡Ⅳ（伊藤　1987）等で、Ｂ群に相当するのは大和市下鶴間長堀遺跡Ⅱ（中村　1984）や相模原市下森鹿島遺跡Ⅱ（麻生　1993）等が知られている。したがって、両地域ではナイフ形石器石器群の最終末期には類似する石器群が分布し、しかも類似する石器群が二種類も存在していることが理解されることから、両地域は極めて密接な関係（伊藤　2014）にあったことが推定されるものであった。前述したように、第４期ｃ段階には二種類の石器群が存在し、両者には両面加工の尖頭器の多寡や、ナイフ形石器の割合、技術基盤等に相違があることが理解されている。ただ、相模野編年第Ⅳ期後半の石器群でも同様の相違があるのかは、紙面の都合上、ここでは検討することはできないが、少なくとも石器群の組成やナイフ形石器と尖頭器の状態等は、第４期ｃ段階の二種類の石器群の相違と類似しているようであり、両地域のナイフ形石器石器群の最終末期では同じ変遷過程が示されていることが予想されるものである。そして、相模野台地ではナイフ形石器石器群の最終末期の後には第Ⅴ期前半の尖頭器石器群が誕生していることから、第４期ｃ段階の二種類の石器群を素直に尖頭器の発達段階として捉えるとすれば、Ａ群のナイフ形石器を主体とするナイフ形石器石器群から、Ｂ群の比肩する量のナイフ形石器と尖頭器を持つ石器群を経て、第Ⅴ期前半の尖頭器石器群が生成されたものと推察することが可能と思われる。したがって、Ａ群からＢ群へと変遷したことが推定されることから、両群は時間差のある石器群として存在したものと理解しておきたい。

（４）尖頭器石器群の成立

当地方で確認された尖頭器石器群は僅かであり、しかも前述したように『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』の第４期ｃ段階に比定されており（シンポジウム実行委員会　1995）、相模野台地の石器群の変遷とは大きく相違している状態として認識されている（高尾　1996）。ただ、これに対しては、幾度か疑問を提示してきたが（伊藤　1996・2004・2014）、今だ検討されることなく現在に至っているのが現状であった。今回報告することができた山中城Ｅ遺跡Ⅱは、前述してきたように第４期ｃ段階のＢ群の石器群であり、ナイフ形石器石器群終末期から尖頭器石器群が成立する間を埋める石器群と考えられることから、以下では、この流れを探っていくことにしたい。

前述したように、第４期ｃ段階のＢ群に位置付けた本遺跡Ⅱの尖頭器の殆どは黒曜石製で、僅かにチャートや玉髄、ガラス質黒色安山岩、ホルンフェルス製のものが認められている程度である。黒曜石の産地の殆どは箱根畑宿産で、次いで多いのは天城柏峠産と、少量の長野県産のものが認められており、石器群を構成する石材は第４期ｃ段階のＡ群と共通している。そして、尖頭器は５㎝前後以下のもので占められており、画一化した大きさで製作されていることが窺えるとともに、尖頭器の状態も第４期ｃ段階Ａ群と類似しており、両群は関連性の高い石器群であることが理解されるものである。これに対し、第201図で示したⅠ群の山中城跡三ノ丸第１地点ⅡとⅡ群の東山遺跡Ⅱでは10㎝前後の中形のものが作製されるとともに、大部分の

ものが５㎝前後以上の大きさであり、全体的に尖頭器が大形化している傾向が見受けられる。そして、山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱでは殆どの尖頭器が箱根畑宿産黒曜石とガラス質黒色安山岩で作製されており、黒曜石の利用状態は第４期ｃ段階のＢ群の石器群に類似するものの、新しい現象として石材にガラス質黒色安山岩を多用する状況が生まれていることが認識できるものである。山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱでは数点の小形の石核は存在していたものの、何等かの器種の素材剥片を生産するような剥片剥離技術を認めることは困難であり、当該期では目的的な剥片剥離技術は消滅してしまっていることが判断される状況にある。Ⅱ群の東山遺跡Ⅱでは石材の殆どが在地系石材であるガラス質黒色安山岩となり、大きさも中形の10㎝前後以下のもので占められている状態で、画一化した石器群が形成されている。そして、石核は出土しておらず、剥片剥離技術の存在は認められない。尚、第４期ｃ段階のＢ群からⅠ群・Ⅱ群にかけて、大形の掻器や削器が伴っており、特徴的である。このように、箱根西麓で確認された尖頭器石器群には、前時期の第４期ｃ段階の石材構成を踏襲している石器群と、専ら在地系石材のガラス質黒色安山岩を利用する石器群があり、尖頭器石器群として独立化していく過程が見て取れるようである。

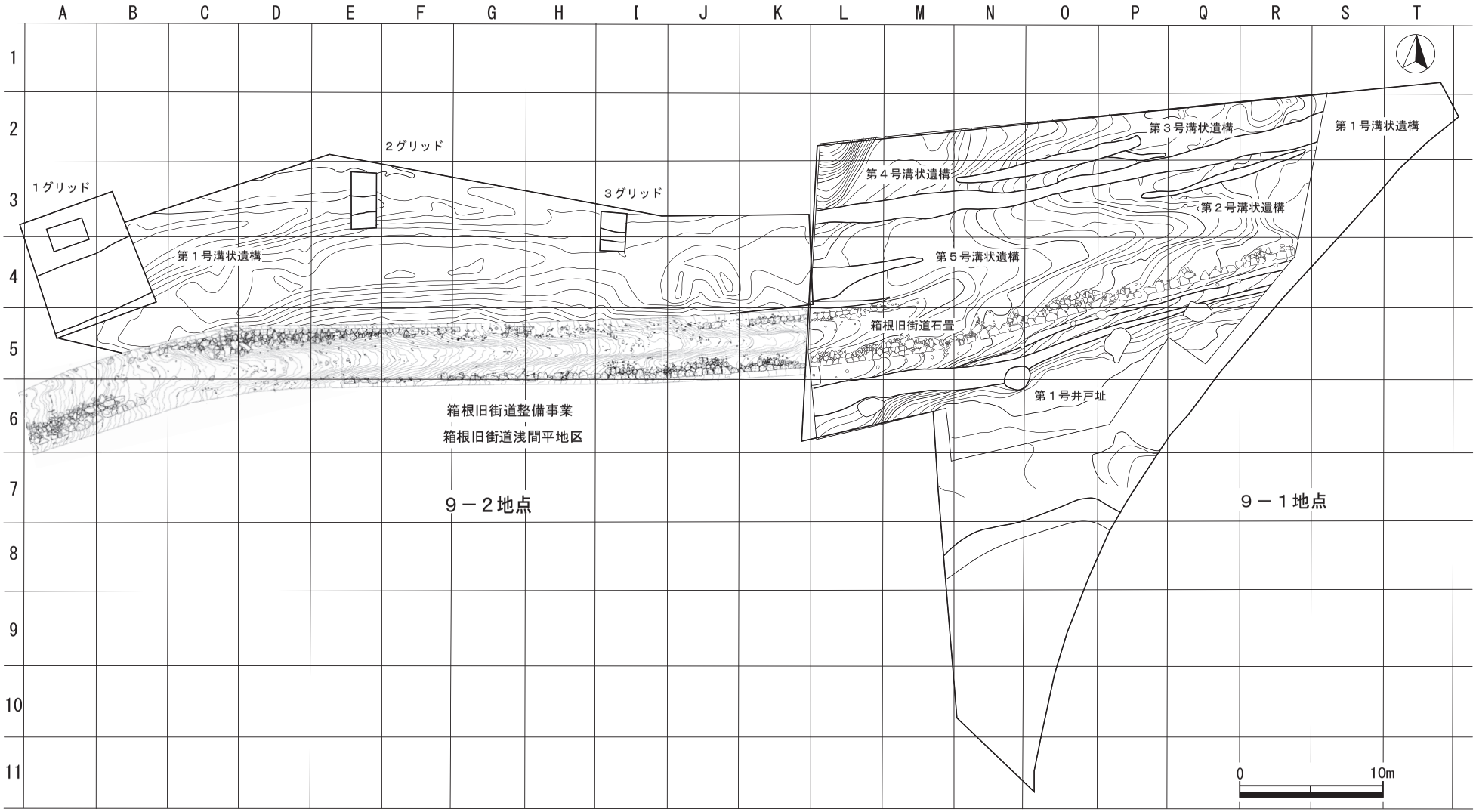
では、これらの石器群と相模野編年第Ⅴ期前半の尖頭器石器群とは類似するのであろうか。相模野台地の尖頭器石器群でも、形骸化したナイフ形石器を伴う遺跡に大和市上野遺跡第１地点Ⅳ（相田　1986）、相模原市中村遺跡Ⅲと、ナイフ形石器を伴わない綾瀬市寺尾遺跡Ⅱ（白石　1980）、藤沢市用田南原遺跡Ⅱ（栗原　2004）、清川村サザランケ（№12）遺跡Ⅲ（鈴木　1996）等があり、尖頭器石器群の在り方は当地方の石器群と共通している。尖頭器の殆どは両面加工のもので、半両面加工や片面加工のものは僅かに認められるだけであり、形態的な特徴も類似している。大きさは上野遺跡第１地点Ⅳで５㎝以下の小形のものが認められるものの、大部分のものは５㎝以上10㎝以下の大きさのであり、尖頭器の大きさも限定的な状況も良く類似している。そして、中村遺跡Ⅲや上野遺跡第１地点Ⅳでも大形剥片を素材とした掻器や削器が出土しており、尖頭器以外の器種の特徴も類似することが明らかであった。これらが作製されていた石材は、ガラス質黒色安山岩、チャート、凝灰岩等の在地系石材で占められ、黒曜石の利用は殆ど認められない状況であり、石材の利用状態も当地方のⅡ群の尖頭器石器群に酷似していることが理解される。

以上のように、相模野編年第Ⅴ期前半の尖頭器石器群の特徴を簡単に見てきたが、尖頭器の状態や形態、石材、大きさ等、当地方の尖頭器石器群に極めて類似する状態であることが明らかであった。そして、東山遺跡Ⅱのように前段階の第４期ｃ段階の特徴を、一切継承していない独立した尖頭器石器群が存在している状況は、相模野編年第Ⅴ期前半の尖頭器石器群と共通した在り方であり、根本的に第４期ｃ段階とは相違する石器群として認識できるものと思われる。したがって、第４期ｃ段階に位置付けられていた山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱと東山遺跡Ⅱは第４期から分離し、第５期ａ段階として理解することが可能であり、第５期ｂ段階となる細石刃石器群まで、相模野台地と同様の石器群の変遷が当地方でも進行していたことが想定されるものである。

第２節　近世期の山中城Ｄ・Ｅ遺跡

山中城Ｄ・Ｅ遺跡は箱根西麓に位置し、「天下の険」として詠われた東海道の難所として知られる箱根旧街道の西坂にあたっている。近世期のおいても五街道の一つである東海道の要衝として機能した。

山中城Ｄ遺跡では確認された近世期以降の遺構は、箱根旧街道石畳と溝状遺構、井戸址である。また、山中城Ｅ遺跡でも遺存状況は良好ではないが、箱根旧街道石畳と溝状遺構が検出された。ここでは、これらの近世以降の年代が想定される遺構・遺物についてまとめたい。



第202図　山中城Ｄ遺跡の箱根旧街道石畳

山中城Ｄ遺跡では、箱根旧街道石畳と溝状遺構５条、井戸址１基が確認された。調査した箱根旧街道石畳は、保存整備により調査された箱根旧街道石畳浅間平地区の東に続く部分で、遺存状況は良好ではなかったが、長さ約34m、両側縁石が残る範囲で幅3.6m（２間）であることを確認した。掘り方には波板状凹凸がある。この掘り方から江戸時代後期の肥前染付磁器広東碗や筒形碗破片や新寛永と呼ばれる寛永通寶などが出土した。主軸方位は東側から中央部まではＮ－70°－Ｅ、西側部分ではＮ－63°－Ｅとなり、北方に少し屈折する。屈折部分の東側と西側では、使用礫の大きさや素材形状、配列方法などに差が認められ、屈折点東側ではやや大きい方形板状礫を用い､石畳掘り方底面に直に石材を配し大きい栗石が緩く入れられる。一方、屈折点西側は、円礫の上面と縁石面を面加工して敷設し、栗石の密集度も高いなどの違いが認められる。この違いは、今回調査地点から西に続く整備・保存された箱根旧街道石畳でも、屈折点で分けられる範囲で同様な素材礫や工法に違いが認められている。

箱根旧街道石畳を構成する礫の石材は安山岩（橄欖石斜方輝石単斜輝石安山岩)･(橄欖石複斜輝石安山岩）である。板状剥離の顕著な素材礫や風化円礫どちらも同一岩相である。三島市山中付近の地質は、箱根火山古期外輪山溶岩と湯河原火山安山岩溶岩の境界（久野　1972）とされ、周辺に石材産地が存在していると推定（パリノサーヴェイ　1999）されているが、明確な露頭など特定はできていない。今後、更に周辺での調査や石材分析などが課題となる。官道である東海道の維持管理と在地系安山岩石畳素材礫の産地・供給など興味深い。

江戸幕府は元和２（1616）年に東海道本道を箱根越えとし、三島宿から箱根峠を超え小田原宿まで下る８里（約32㎞）となる。このルートは三島宿から箱根峠までを西坂､箱根峠から小田原宿までを東坂と呼ばれ、東坂・西坂どちらも「天下の険」と言われるように急峻な道であり、西坂は尾根筋、東坂は谷筋の道で東海道随一の難所である。箱根旧街道石畳の管理・補修は文献史料によれば、地山を掘削した竹（篠竹敷）道から延宝８（1680）年に実施された石道普請により石畳が敷設されたとされ、西坂と東坂ともに石畳が敷設されていた。以後、維持・管理が豆州周辺地域により行われていることが文献史料から確認されている（橋本1999）が、具体的な位置や工法などは不明な点が多い。今回調査地点と隣接する箱根旧街道石畳浅間平地区での調査では、残存していた石畳の素材礫や配列・栗石施工など石畳が屈折する区間（２ヶ所確認）で違いがあることが指摘（辻　1999）されている。このような差は、工人集団や請負した組織・村落などの差、諸費用による施工費による差、或いは年代差のある普請ごとの差など、可能性だけであれば様々な指摘ができる。このような一定範囲での工法や素材礫の差が、延宝８年の石畳敷設時からある事象であるのか、その後の維持管理である普請ごとに起こる事象であるのか定かではない。しかし、今回調査や整備事業調査では掘り方内から江戸後期陶磁器片や新寛永が出土していることなどから、江戸後期に行われた普請の状況を示している部分である可能性は指摘できよう。文献史料から知られている江戸後期の普請は、三島市四ツ谷後藤家文書の『箱根山内石道破損御修覆仕様帳』では、明和６（1769）年に西坂普請が韮山代官により実施されている。次いで、江川家所蔵文庫文書では文政７（1824）年に山中新田村落に金11両を渡し、修復を請け負わせている。近世最後の普請は、文久年間の改修で、文久元（1861）年皇女和宮降嫁に先立ち、西坂の大規模な改修が行われ、文久３（1863）年には上洛する十四代将軍徳川家茂のために東坂が改修されている。これらの改修が､今回調査地点や石畳整備浅間平地区で出土した近世陶磁器の年代観とは一致するものであり、いずれかの普請の可能性が指摘できよう。いずれにしても、東海道の難所箱根石畳の改修・普請は欠損礫を補填、崩れた石列を修復するような程度ではなく、基礎から改修するような大掛かりな補修工事であった可能性があることが、調査から推定されよう。

明治維新後、鉄道の普及により五街道での交通は変容し、明治半ばには東海道線は御殿場ルートではある

が開通する。その後の箱根旧街道石道の利用は、本遺跡より上方の接待茶屋大正時代の写真資料には石畳が写っており、利用時期が大正期まで続いていたことがわかる。因みに、この接待茶屋の開設は、文政７（1824）年に江戸呉服町の商人加勢屋与兵衛によるものであり、文政７（1824）年は江川家所蔵文庫の文書にある山中集落の普請請負年と一致し、茶屋の開設などを含めた西坂改修の一連の事業である可能性もあろう。

１基のみ確認された井戸址は素掘り井戸で、現状では湧水は認められない。構築時期は不明であるが、比較的新しい時代の覆土と推定される。畑地耕作などに用いる溜め井戸として機能した可能性がある。

５条確認された溝状遺構は、ほぼ箱根旧街道石畳と同一軸で北東から南西方向に構築されているもので、延宝８（1680）年に実施された石道普請により石畳が敷設される以前の地山を掘削した竹（篠竹敷）道か又は中世・戦国など箱根旧街道敷設以前の道路側溝として構築された溝状遺構の可能性がある。しかし、溝状遺構からの出土遺物は無く詳細な時期決定はできない。

山中城Ｅ遺跡では、箱根旧街道石畳と溝状遺構２条が確認された。山中城Ｅ遺跡では箱根旧街道が８－６地点北側を通っている。調査範囲北端部で一部が南西から北東方向に延びているが、後世の撹乱を大きく受け、残存状況は極めて悪い。在地安山岩を素材とした石敷きや幅員推定値などＤ遺跡と同じである。一部石畳南側縁石が残存している部分から箱根旧街道ルートの確認ができた意義は大きい。

２条検出されている溝状遺構は、箱根旧街道に直交するよう南方から斜面上部で北東に曲がるものである。特に第１号溝状遺構とした溝は底面に硬化面を複数持ち、道路として機能した可能性がある遺構である。出土遺物から江戸期陶磁器類が出土している。江戸期を通して道として機能していた可能性がある。調査中に聞いた周辺住民の話では、「韮山に向かう道などとして最近まで使用していた道」であるという。東海道箱根旧街道から南方の韮山方面に抜ける韮山街道は、山中城Ｄ遺跡東あたりの尾根上を南方に延びていたと推察されているが、具体的なルートは不明である。本遺跡で確認した第１号溝状遺構をそのような「道」と簡単に比定できないが、南方畑地や更に先に延びる可能性がある道路状の遺構が、江戸期を通じ存在していたことは確かであり、そのような「道」の一つであろうことは言えよう。

また、１点のみではあるが火縄銃の銃弾が出土している。このような資料は山中城に関連する遺物であろうと推定される遺物であり、天正10（1590）年の豊臣秀吉による後北条氏討伐小田原攻めの際の銃弾であろうか。

第５章　自然科学分析

第１節　黒曜石の原産地推定

１．分析法　　エネルギー分散蛍光Ｘ線分析法（ＥＤＸ）

２．分析装置　　セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光Ｘ線分析計　SEA-2110L

３．分析条件　　管電圧　50kV　　管電流　自動設定

測定時間　240sec　　雰囲気　真空

照射径　10㎜

検出器　Si（Li）半導体検出器

４．測定元素　　AL（アルミニウム）、Si（ケイ素）、K（カリウム）、Ca（カルシウム）、Ti（チタン）、Mn（マンガン）、Fe（鉄）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）、Y（イットリウム）、Zr（ジルコニウム）

５．推定結果

第９表に文化層別原産地組成表を示し、第10表に分析結果表を示した。

第９表　文化層別黒曜石産地組成表

文化層	和田芙蓉ライト WDHY	和田鷹山 WDTY	和田小深沢 WDKB	和田土屋橋北 WDTK	和田土屋橋西 WDTN	和田土屋橋南 WDTM	諏訪星ヶ台 SWHD	立科冷山 TSTY	天城柏峠 AGKT	箱根畑宿 HNHJ	箱根黒岩橋 HNKI	神津恩馳島 KZOB	推定不可等	合計
Ⅰ		1					3	2	3	1		23		33
Ⅰ	3	38	1		2		79	22	154	748	13	3	239	1,302
Ⅱ	1	14			2	2	102	5	5	89			20	240
合計	4	53	1	0	4	2	184	29	162	838	13	26	259	1,575

第10表　黒曜石産地分析結果表

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-1	40		和田土屋橋南群	WDTM	WDTM	7.86	0.9992	WDTN	25.8	0.0008
YNE-2	41		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	1	1	KZSN	54.22	0
YNE-3	42		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.07	1	HNKI	79.29	0
YNE-4	43	Ⅱ-39	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.61	1	HNKI	75.9	0
YNE-5	44		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.05	1	KZSN	56.15	0
YNE-6	45		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.49	1	KZSN	55.32	0
YNE-7	46		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.24	1	KZSN	72.01	0
YNE-8	50		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.13	1	KZSN	65.18	0
YNE-9	53		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.09	1	HNKT	112.49	0
YNE-10	231		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.37	1	WDTN	65.59	0
YNE-11	232		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	13.57	1	KZSN	65.28	0
YNE-12	233		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.64	1	WDTN	74.02	0
YNE-13	234		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.96	1	SBIY	80.05	0
YNE-14	235		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.46	1	HNKI	117.68	0
YNE-15	236		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.7	1	KZSN	65.62	0
YNE-16	237		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.38	1	SBIY	88.79	0
YNE-17	238		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.07	1	HNKT	121.62	0
YNE-18	239		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.6	1	HNKT	117.79	0
YNE-19	240		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.13	1	HNKI	139.74	0
YNE-20	241	Ⅱ-33	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.86	1	WDTN	114.53	0
YNE-21	242		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.86	1	HNKI	48.59	0
YNE-22	243		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.91	1	HNKI	95.64	0
YNE-23	244	Ⅱ-67	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.26	1	HNKI	144.68	0
YNE-24	246		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.25	1	HNKT	155.26	0
YNE-25	247		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.47	1	WDTN	62.79	0
YNE-26	248	Ⅰ-5	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.12	1	SBIY	77.06	0
YNE-27	250		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.37	1	HNKT	112.37	0
YNE-28	251		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.58	1	WDTN	67.17	0
YNE-29	252		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.95	1	HNKI	131.85	0
YNE-30	253	Ⅱ-100	天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.53	1	THAY	157.5	0
YNE-31	255		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.83	1	HNKI	80.42	0
YNE-32	256		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.28	1	SBIY	100.55	0
YNE-33	257		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.41	1	SBIY	130.7	0
YNE-34	258		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.88	1	WDTN	66.03	0
YNE-35	259		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.5	1	HNKI	160.68	0
YNE-36	295		天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.01	1	HNKT	116.93	0
YNE-37	296		和田鷹山群	WDTY	WDTY	12.63	0.9971	WDHY	21.87	0.0029
YNE-38	297	Ⅱ-89	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.96	1	HNKT	113.5	0
YNE-39	298	Ⅱ-115	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.93	1	HNKI	61.43	0
YNE-40	299		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE-41	300		和田土屋橋南群	WDTM	WDTM	4.24	0.9999	WDTN	27.36	0.0001
YNE-42	301	Ⅱ-63	天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.28	1	HNKT	184.29	0
YNE-43	302		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.5	1	HNKT	133.3	0
YNE-44	303		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.98	1	SBIY	69.91	0
YNE-45	304	Ⅱ-89	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.14	1	HNKT	86.22	0
YNE-46	305	Ⅱ-59	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.02	1	SBIY	86	0
YNE-47	307		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.91	1	HNKI	140.41	0
YNE-48	327		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.91	1	HNKT	92.17	0
YNE-49	365	Ⅱ-32	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.99	1	HNKI	185.02	0
YNE-50	366		和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.26	0.9682	WDHY	13.67	0.0318
YNE-51	400		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.06	1	HNKI	131.09	0
YNE-52	401		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.72	1	HNKI	115.97	0
YNE-53	402	Ⅱ-127	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.43	1	HNKI	202.25	0
YNE-54	403		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-55	405		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.21	1	SBIY	110.13	0
YNE-56	406		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.39	1	SBIY	70.16	0
YNE-57	407		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	7.78	1	KZSN	45.06	0
YNE-58	408		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.24	1	SBIY	91.34	0
YNE-59	409		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.4	1	HNKT	131.15	0
YNE-60	417		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.43	1	SBIY	116.53	0
YNE-61	418	Ⅱ-50	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.13	1	KZSN	39.3	0
YNE-62	420		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.83	1	HNKI	141.24	0
YNE-63	421		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.8	1	HNKI	140.94	0
YNE-64	422		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.71	1	HNKI	209.63	0
YNE-65	423		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.18	1	HNKI	72.81	0
YNE-66	424		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.17	1	HNKI	158.86	0
YNE-67	426		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.94	1	HNKI	133.85	0
YNE-68	427		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.58	1	HNKI	98.02	0
YNE-69	428		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.54	1	HNKI	100.29	0
YNE-70	429		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.96	1	HNKI	123.67	0
YNE-71	430		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	4.6	1	HNKJ	64.72	0
YNE-72	431	Ⅱ-81	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.59	1	WDHY	21.79	0
YNE-73	432		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.48	1	HNKI	128.05	0
YNE-74	433		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.98	1	HNKI	86.77	0
YNE-75	434		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.04	1	HNKT	108.7	0
YNE-76	436	Ⅲ-152	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.12	1	WDTN	73.6	0
YNE-77	437		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.37	1	SBIY	75.53	0
YNE-78	438		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.39	1	HNKT	119.95	0
YNE-79	439		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.83	1	HNKI	189.52	0
YNE-80	440		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.75	1	HNKI	157.76	0
YNE-81	441		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.83	1	KZSN	57.53	0
YNE-82	442	Ⅱ-61	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.65	1	SBIY	60.25	0
YNE-83	443		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	7.39	1	KZSN	42.69	0
YNE-84	444	Ⅰ-3	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.75	1	KZSN	80.24	0
YNE-85	445		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.03	1	WDTN	77.9	0
YNE-86	446		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	16.4	1	KZSN	54.61	0
YNE-87	447		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.74	1	SBIY	53.43	0
YNE-88	448		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.66	1	SBIY	104.47	0
YNE-89	449		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.9	1	WDTN	76.02	0
YNE-90	450		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	1.88	1	KZSN	44.43	0
YNE-91	451		和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.76	0.9992	WDKB	21.33	0.0008
YNE-92	452		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.97	1	KZSN	31.13	0
YNE-93	453	Ⅰ-2	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.42	1	KZSN	52.98	0
YNE-94	454		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.41	1	SBIY	80.27	0
YNE-95	455		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.76	1	SBIY	73.17	0
YNE-96	456		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	4	1	KZSN	66.74	0
YNE-97	457		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.5	1	THAY	135.94	0
YNE-98	458		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.05	1	KZSN	98.72	0
YNE-99	459		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.11	1	WDTN	95.44	0
YNE-100	460	Ⅰ-10	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.01	1	KZSN	73.27	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-101	461		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.89	1	KZSN	40.09	0
YNE-102	463	Ⅰ-9	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	22.07	1	KZSN	47.37	0
YNE-103	464		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.07	1	KZSN	57.41	0
YNE-104	465	Ⅱ-68	和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.09	1	WDKB	34.9	0
YNE-105	466		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-106	467		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.18	1	HNKI	117.67	0
YNE-107	468		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.77	1	HNKI	137.29	0
YNE-108	470		和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.08	0.999	WDHY	13.48	0.001
YNE-109	472		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.83	1	HNKI	194.43	0
YNE-110	473	Ⅱ-3	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6	1	HNKI	133.84	0
YNE-111	474		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.25	1	HNKI	220.47	0
YNE-112	475		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	17.29	1	WOMS	67.5	0
YNE-113	477		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.13	1	HNKT	118.32	0
YNE-114	478		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.56	1	HNKI	101.54	0
YNE-115	479		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.7	1	HNKI	151.74	0
YNE-116	480		和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.57	1	WDHY	21.56	0
YNE-117	481		和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.14	1	WDHY	34.24	0
YNE-118	482		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.74	1	HNKI	146.26	0
YNE-119	485		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.9	1	HNKI	165.45	0
YNE-120	486		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.81	1	HNKI	78.4	0
YNE-121	487		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.34	1	HNKI	185.1	0
YNE-122	488		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.06	1	HNKI	74.71	0
YNE-123	489		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.31	1	HNKI	77.28	0
YNE-124	490		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.93	1	HNKI	80.32	0
YNE-125	491		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.45	1	HNKI	106.31	0
YNE-126	492		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	27	1	HNKI	228.06	0
YNE-127	493		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.19	1	HNKI	66.02	0
YNE-128	494		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.81	1	HNKI	134.85	0
YNE-129	495		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.14	1	HNKI	160.58	0
YNE-130	496		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.37	1	HNKI	131.57	0
YNE-131	497		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.52	1	HNKI	109.4	0
YNE-132	498	Ⅱ-52	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.6	1	HNKI	212.22	0
YNE-133	499		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.17	1	HNKI	106.45	0
YNE-134	500		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.26	1	HNKI	202.83	0
YNE-135	501		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE-136	502		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.33	1	HNKI	83.8	0
YNE-137	503		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.98	1	HNKI	228.29	0
YNE-138	504		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.41	1	HNKI	126.57	0
YNE-139	505		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.91	1	HNKI	79.13	0
YNE-140	506		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.48	1	HNKI	98.55	0
YNE-141	507		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.39	1	HNKI	138.79	0
YNE-142	508		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.84	1	HNKI	131.89	0
YNE-143	509		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.23	1	HNKI	144.34	0
YNE-144	510		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.56	1	HNKI	172.69	0
YNE-145	511		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.62	1	HNKI	90.72	0
YNE-146	512		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.65	1	HNKI	191.55	0
YNE-147	513		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.64	1	HNKI	196.19	0
YNE-148	514		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-149	515		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.05	1	HNKI	161.47	0
YNE-150	516		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-151	517		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.4	1	HNKI	157.28	0
YNE-152	518		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.29	1	HNKI	106.78	0
YNE-153	519		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.51	1	HNKI	74.33	0
YNE-154	520		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.23	1	HNKI	153.99	0
YNE-155	521		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.8	1	HNKI	95.89	0
YNE-156	522		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.43	1	HNKI	128.96	0
YNE-157	523		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.91	1	HNKI	97.29	0
YNE-158	524		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.38	1	HNKI	83.59	0
YNE-159	525		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.73	1	HNKI	140.53	0
YNE-160	526		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.95	1	HNKI	175.41	0
YNE-161	527		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.78	1	HNKI	160.89	0
YNE-162	528		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.06	1	HNKI	70.15	0
YNE-163	529		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-164	530		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.1	1	HNKI	123.5	0
YNE-165	531		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.24	1	HNKI	83	0
YNE-166	532		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.05	1	HNKI	171.82	0
YNE-167	533		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.97	1	HNKI	178.35	0
YNE-168	534		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-169	535		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.24	1	HNKI	93.31	0
YNE-170	536		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.59	1	HNKI	151.68	0
YNE-171	537		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.64	1	HNKI	199.55	0
YNE-172	538		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.99	1	HNKI	88.97	0
YNE-173	539		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.42	1	HNKI	196.44	0
YNE-174	540		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.47	1	HNKI	143.05	0
YNE-175	541		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.58	1	HNKI	188.47	0
YNE-176	542		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.85	1	HNKI	150.06	0
YNE-177	543		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.66	1	HNKI	158.18	0
YNE-178	544		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.68	1	HNKI	157.97	0
YNE-179	545		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.1	1	HNKI	189	0
YNE-180	546	Ⅱ-53	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.63	1	HNKI	218.18	0
YNE-181	547		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-182	548		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.49	1	HNKI	118.43	0
YNE-183	549		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.55	1	HNKI	185.16	0
YNE-184	550		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.79	1	HNKI	103.15	0
YNE-185	551		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.69	1	HNKI	203.1	0
YNE-186	552		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.55	1	HNKI	116.89	0
YNE-187	553		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.06	1	HNKI	133.12	0
YNE-188	554		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.14	1	HNKI	143.86	0
YNE-189	555		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.42	1	HNKI	167.3	0
YNE-190	556		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.08	1	HNKI	96.48	0
YNE-191	557		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.56	1	HNKI	130.89	0
YNE-192	558		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.96	1	HNKI	163.8	0
YNE-193	559		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.17	1	HNKI	82.74	0
YNE-194	560	Ⅱ-105	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.01	1	HNKI	138.69	0
YNE-195	561		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.8	1	HNKI	153.48	0
YNE-196	562		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.92	1	HNKI	124.36	0
YNE-197	563		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.9	1	HNKI	133.79	0
YNE-198	564		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.32	1	HNKI	124.06	0
YNE-199	565		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.76	1	HNKI	87.82	0
YNE-200	566		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-201	567		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.2	1	HNKI	170.07	0
YNE-202	568		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.14	1	HNKI	98.31	0
YNE-203	569		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.32	1	HNKI	105.82	0
YNE-204	570		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.98	1	HNKI	216	0
YNE-205	571		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.9	1	HNKI	94.5	0
YNE-206	572		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.18	1	HNKI	73.2	0
YNE-207	573	Ⅰ-6	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.48	1	HNKI	114.96	0
YNE-208	574	Ⅱ-67	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.08	1	HNKI	179.05	0
YNE-209	575		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.57	1	HNKI	146.77	0
YNE-210	576		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.77	1	HNKI	154.55	0
YNE-211	577		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.07	1	HNKI	94.24	0
YNE-212	578		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.23	1	HNKI	103.78	0
YNE-213	579		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE-214	580		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE-215	581		和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.32	1	WDKB	28.43	0
YNE-216	582		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.77	1	HNKI	171.8	0
YNE-217	583		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.16	1	HNKI	101.38	0
YNE-218	584		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.21	1	HNKI	138.39	0
YNE-219	585		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.38	1	HNKI	111.39	0
YNE-220	586		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.68	1	HNKI	100.14	0
YNE-221	587		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.46	1	HNKI	101.04	0
YNE-222	588		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.32	1	HNKI	119.95	0
YNE-223	589		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.86	1	HNKI	116.3	0
YNE-224	590		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.94	1	HNKI	149.56	0
YNE-225	591		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.93	1	HNKI	100.78	0
YNE-226	592		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.51	1	HNKI	98.63	0
YNE-227	593		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.42	1	HNKI	88.5	0
YNE-228	594		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	27.99	0.9986	HNKI	36.99	0.0014
YNE-229	595		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.78	1	HNKI	103.26	0
YNE-230	596		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.43	1	HNKI	97.56	0
YNE-231	597		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.04	1	HNKI	98.16	0
YNE-232	598		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.23	1	HNKI	120.32	0
YNE-233	599		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.56	1	HNKI	142.28	0
YNE-234	600		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-235	601		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.42	1	HNKI	179.81	0
YNE-236	602		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.84	1	HNKI	181.7	0
YNE-237	603		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.41	1	HNKI	192.28	0
YNE-238	604		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.84	1	HNKI	120.78	0
YNE-239	605	Ⅱ-65	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.74	1	HNKI	232.89	0
YNE-240	606		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.44	1	HNKI	130.42	0
YNE-241	607		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.97	1	HNKI	160.87	0
YNE-242	608		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.67	1	HNKI	85.06	0
YNE-243	609		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-244	610		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-245	611		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.36	1	HNKI	164.81	0
YNE-246	612		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.11	1	HNKI	208.13	0
YNE-247	613		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.18	1	HNKI	110.96	0
YNE-248	614		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-249	615		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.5	1	HNKI	103.35	0
YNE-250	616		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22	1	HNKI	191.39	0
YNE-251	617		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.49	1	HNKI	151.78	0
YNE-252	618		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.09	1	HNKI	140.11	0
YNE-253	619		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.62	1	HNKI	152.41	0
YNE-254	620		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-255	621		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.38	1	HNKI	154.99	0
YNE-256	622		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.13	1	HNKI	97.79	0
YNE-257	623		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.48	1	HNKI	126.91	0
YNE-258	624		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.6	1	HNKI	153.93	0
YNE-259	625	Ⅰ-12	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.75	1	HNKI	90.76	0
YNE-260	626		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.12	1	HNKI	131.71	0
YNE-261	627		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.72	1	HNKI	107.36	0
YNE-262	631		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.35	1	HNKI	148.3	0
YNE-263	632		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.24	1	HNKI	200.47	0
YNE-264	633		和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.17	0.9989	WDHY	18.45	0.0011
YNE-265	634		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.88	1	HNKI	168.98	0
YNE-266	635	Ⅰ-7	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.15	1	KZSN	42	0
YNE-267	636		和田鷹山群	WDTY	WDTY	18.13	0.9951	WDHY	26.32	0.0049
YNE-268	638		和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.23	0.9998	WDHY	19.56	0.0002
YNE-269	639	Ⅰ-8	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.35	1	SBIY	60.62	0
YNE-270	640		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.07	1	HNKI	122.34	0
YNE-271	641		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.55	1	HNKI	82.01	0
YNE-272	642		和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.1	1	WDHY	32.49	0
YNE-273	643		和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.46	0.9996	WDHY	22.58	0.0004
YNE-274	645		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.44	1	SBIY	66.96	0
YNE-275	646		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.7	1	HNKI	154.77	0
YNE-276	647		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.05	1	KZSN	38.84	0
YNE-277	648	Ⅱ-38	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.77	1	WDTN	102.68	0
YNE-278	649		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.47	1	HNKI	143.75	0
YNE-279	650		和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.6	1	WDHY	30.44	0
YNE-280	651	Ⅰ-15	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.19	1	TSHG	29.81	0
YNE-281	652	Ⅰ-4	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.68	1	KZSN	47.32	0
YNE-282	653		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.82	1	HNKI	169.24	0
YNE-283	654		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.21	1	HNKI	124.44	0
YNE-284	655		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.58	1	HNKI	133.75	0
YNE-285	657	Ⅱ-99	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8	1	HNKI	171.49	0
YNE-286	660		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.99	1	HNKI	129.97	0
YNE-287	661		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.01	1	HNKI	75.37	0
YNE-288	662	Ⅱ-97	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.52	0.9923	WDHY	11.8	0.0077
YNE-289	663		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.39	1	HNKI	106.83	0
YNE-290	664	Ⅱ-73	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.83	1	HNKI	198.96	0
YNE-291	665		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.29	1	HNKI	76.03	0
YNE-292	666		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.33	1	HNKI	119.33	0
YNE-293	667		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.95	1	HNKI	185.95	0
YNE-294	668		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.64	1	HNKI	65.47	0
YNE-295	669		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.04	1	HNKI	128.81	0
YNE-296	670	Ⅰ-17	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	16.31	1	KZSN	86.65	0
YNE-297	671		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.71	1	HNKI	154.78	0
YNE-298	672	Ⅱ-65	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.62	1	HNKI	213.62	0
YNE-299	673		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.34	1	HNKI	173.49	0
YNE-300	674		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.38	1	HNKI	99.37	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-301	675		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.55	1	HNKI	95.82	0
YNE-302	676		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.82	1	HNKI	137.72	0
YNE-303	677		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.74	1	HNKI	138.16	0
YNE-304	678		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.32	1	HNKI	105.16	0
YNE-305	679	Ⅱ-23	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.94	1	HNKI	148.56	0
YNE-306	680		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.8	1	HNKI	131.8	0
YNE-307	681		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.29	1	HNKI	153.7	0
YNE-308	682		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.52	1	HNKI	148.2	0
YNE-309	683		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.53	1	HNKI	164.43	0
YNE-310	684		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.92	1	HNKI	81.54	0
YNE-311	685		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.78	1	HNKI	91.75	0
YNE-312	686		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.5	1	HNKI	129.08	0
YNE-313	687		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.98	1	HNKI	100.39	0
YNE-314	688		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-315	689		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.99	1	HNKI	131.13	0
YNE-316	690		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.86	1	HNKI	154.53	0
YNE-317	691		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.84	1	HNKI	141.38	0
YNE-318	692		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.93	1	HNKI	113.64	0
YNE-319	693		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.91	1	HNKI	175.2	0
YNE-320	694		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.58	1	HNKI	74.16	0
YNE-321	695		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.52	1	HNKI	80.38	0
YNE-322	696		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.57	1	HNKI	89.8	0
YNE-323	697		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.26	1	HNKI	163.26	0
YNE-324	698		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.18	1	HNKI	223.8	0
YNE-325	699		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.82	1	HNKI	100.2	0
YNE-326	700		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.34	1	HNKI	109.37	0
YNE-327	701		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.94	1	HNKI	120.56	0
YNE-328	702		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.71	1	HNKI	82.78	0
YNE-329	703		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.75	1	HNKI	208.8	0
YNE-330	705		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.89	1	HNKI	88.87	0
YNE-331	706		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.37	1	HNKI	176.01	0
YNE-332	707		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.88	1	HNKI	73.66	0
YNE-333	708		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.74	1	HNKI	172.43	0
YNE-334	709		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.18	1	HNKI	95.54	0
YNE-335	710		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-336	711		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.27	1	HNKI	107.4	0
YNE-337	712		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.34	1	HNKI	103.28	0
YNE-338	713		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.13	1	HNKI	142.39	0
YNE-339	714		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.17	1	HNKI	142.09	0
YNE-340	715	Ⅱ-88	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.14	1	HNKI	117.6	0
YNE-341	716		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-342	717		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.67	1	HNKI	90.61	0
YNE-343	718		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.18	1	HNKI	239.1	0
YNE-344	719		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.7	1	HNKI	100.81	0
YNE-345	720		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.14	1	HNKI	131.14	0
YNE-346	721		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.57	1	HNKI	140.73	0
YNE-347	722		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-348	723		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.33	1	HNKI	218.65	0
YNE-349	724		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.55	1	HNKI	175.6	0
YNE-350	725		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.77	1	HNKI	92.4	0
YNE-351	726		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.86	1	HNKI	212.04	0
YNE-352	727		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.83	1	HNKI	152.3	0
YNE-353	728	Ⅱ-25	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	6.8	0.9999	WDTY	27.18	0.0001
YNE-354	729		和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.23	0.9556	WDHY	10.94	0.0444
YNE-355	730		和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.59	0.9995	WDHY	15.33	0.0005
YNE-356	732		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-357	733		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-358	734		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.08	1	HNKI	131.74	0
YNE-359	735		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-360	736		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-361	737		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-362	738		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.71	1	HNKI	169.96	0
YNE-363	739		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.62	1	HNKI	138.85	0
YNE-364	740		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.7	1	HNKI	131.75	0
YNE-365	741		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.28	1	HNKI	92.82	0
YNE-366	742		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.09	1	HNKI	187.84	0
YNE-367	743		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.16	1	HNKI	62.3	0
YNE-368	744		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-369	745		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-370	746		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-371	747		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-372	748		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.35	1	HNKI	128.54	0
YNE-373	749		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.99	1	HNKI	95.87	0
YNE-374	750		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-375	751		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-376	752		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.68	1	HNKI	233.78	0
YNE-377	753		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.32	1	HNKI	65.32	0
YNE-378	754		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-379	755		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.75	1	HNKI	117.29	0
YNE-380	756		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.45	1	HNKI	80.2	0
YNE-381	757		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.23	1	HNKI	170.34	0
YNE-382	758		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.12	1	HNKI	145.6	0
YNE-383	759		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.39	1	HNKI	217.99	0
YNE-384	760		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-385	761		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.17	1	HNKI	175.86	0
YNE-386	762		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-387	763		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-388	764		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.56	1	HNKI	84.72	0
YNE-389	765		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.32	1	HNKI	179.86	0
YNE-390	766		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.8	1	HNKI	117.88	0
YNE-391	767		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-392	768		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-393	769		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-394	770		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.32	1	HNKI	182.89	0
YNE-395	771		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.57	1	HNKI	128.66	0
YNE-396	772	Ⅱ-66	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-397	773		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-398	774		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.96	1	HNKI	94.06	0
YNE-399	775		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-400	776		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.05	1	HNKI	193.37	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-401	777		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.64	1	HNKI	147.86	0
YNE-402	778		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.85	1	HNKI	175.49	0
YNE-403	779		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-404	780		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.71	1	HNKI	176.98	0
YNE-405	781		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.38	1	HNKI	105.19	0
YNE-406	782		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.69	1	HNKI	113.36	0
YNE-407	783		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.19	1	HNKI	110.9	0
YNE-408	784		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.54	1	HNKI	107.11	0
YNE-409	785		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-410	786		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9	1	HNKI	123.82	0
YNE-411	787		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-412	788		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.68	1	HNKI	239.44	0
YNE-413	789		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.57	1	HNKI	182.5	0
YNE-414	790		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.79	1	HNKI	127.72	0
YNE-415	791		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.41	1	HNKI	97.93	0
YNE-416	792		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.49	1	HNKI	197.06	0
YNE-417	793		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.97	1	HNKI	163.99	0
YNE-418	794		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.81	1	HNKI	187.14	0
YNE-419	795		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.3	1	HNKI	108.13	0
YNE-420	796		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.54	1	HNKI	105.31	0
YNE-421	797		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.64	1	HNKI	110.63	0
YNE-422	798		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.7	1	HNKI	164.65	0
YNE-423	799		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.11	1	HNKI	195.02	0
YNE-424	800		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.4	1	HNKI	112.65	0
YNE-425	801		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.95	1	HNKI	156.57	0
YNE-426	802		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.08	1	HNKI	128.49	0
YNE-427	803		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.56	1	HNKI	108.23	0
YNE-428	804		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.81	1	HNKI	185.2	0
YNE-429	805		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-430	806		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.27	1	HNKI	204.9	0
YNE-431	807		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.8	1	HNKI	139.51	0
YNE-432	808		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.23	1	HNKI	119.24	0
YNE-433	809		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.66	1	HNKI	70	0
YNE-434	810		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.63	1	HNKI	85.68	0
YNE-435	811		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.06	1	HNKI	178.53	0
YNE-436	812	Ⅱ-72	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.07	1	HNKI	144.12	0
YNE-437	813		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.45	1	HNKI	191.27	0
YNE-438	814		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.09	1	HNKI	102.08	0
YNE-439	815		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.97	1	HNKI	143.01	0
YNE-440	816		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.22	1	HNKI	197.28	0
YNE-441	817		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.92	1	HNKI	175.05	0
YNE-442	818		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.36	1	HNKI	115.19	0
YNE-443	819	Ⅱ-75	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.39	1	HNKI	141.65	0
YNE-444	820		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.87	1	HNKI	114.3	0
YNE-445	821		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	29.12	1	HNKI	233.73	0
YNE-446	822		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.84	1	HNKI	72.37	0
YNE-447	823		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-448	824		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.4	1	HNKI	164.46	0
YNE-449	825		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-450	826		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.22	1	HNKI	169.42	0
YNE-451	827		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.64	1	HNKI	132.46	0
YNE-452	828		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-453	829		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.35	1	HNKI	195.11	0
YNE-454	830		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.45	1	HNKI	124.03	0
YNE-455	831		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-456	832		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-457	833		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-458	834		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.47	1	HNKI	79.94	0
YNE-459	835		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.05	1	HNKI	137.94	0
YNE-460	836		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.33	1	HNKI	192.1	0
YNE-461	837		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-462	838		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-463	839		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-464	840		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-465	841		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-466	842		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.34	1	HNKI	99.74	0
YNE-467	843		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-468	844		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	33.16	1	HNKI	247.91	0
YNE-469	845		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-470	846		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-471	847		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-472	848		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.32	1	HNKI	116.34	0
YNE-473	849		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.54	1	HNKI	205.02	0
YNE-474	850		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-475	851		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.85	1	HNKI	196.49	0
YNE-476	852		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.79	1	HNKI	123.53	0
YNE-477	853		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.36	1	HNKI	146.91	0
YNE-478	854		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.54	1	HNKI	152.5	0
YNE-479	855		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.42	1	HNKI	239.54	0
YNE-480	856		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-481	857		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-482	858		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-483	859		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-484	860		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-485	861		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-486	862		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-487	863		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-488	864		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.69	1	HNKI	128.77	0
YNE-489	865		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.68	1	HNKI	84.12	0
YNE-490	866		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.81	1	HNKI	164.91	0
YNE-491	867		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.97	1	HNKI	172.85	0
YNE-492	868		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-493	870		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.18	1	HNKI	108.81	0
YNE-494	871		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-495	872		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-496	873		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.87	1	HNKI	84.17	0
YNE-497	874		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-498	875		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-499	876		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.87	1	HNKI	153.11	0
YNE-500	877		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-501	878		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.93	1	HNKI	97.96	0
YNE-502	879		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	29.01	1	HNKI	57.68	0
YNE-503	880		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.76	1	HNKI	140.17	0
YNE-504	881		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.45	1	HNKI	150.33	0
YNE-505	882		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.44	1	HNKI	184.59	0
YNE-506	883	Ⅱ-80	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-507	884		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-508	885		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-509	886		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-510	887		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-511	888		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-512	889		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.68	1	HNKI	82.02	0
YNE-513	890		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-514	891		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-515	892		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-516	893		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.67	1	HNKI	168.23	0
YNE-517	894		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-518	895		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-519	896		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-520	897		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.65	1	HNKI	104.21	0
YNE-521	898		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-522	899		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-523	900		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.19	1	HNKI	146.49	0
YNE-524	901		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-525	902		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.22	1	HNKI	163.3	0
YNE-526	903		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.76	1	HNKI	90.11	0
YNE-527	904		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.79	1	HNKI	152.3	0
YNE-528	905		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.3	1	HNKI	97.34	0
YNE-529	906		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.64	1	HNKI	223.06	0
YNE-530	907		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.03	1	HNKI	182.82	0
YNE-531	908		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-532	909		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.18	1	HNKI	185.53	0
YNE-533	910		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	27.05	1	HNKI	189.62	0
YNE-534	911		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-535	912		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-536	913		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-537	914		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.33	1	HNKI	122.45	0
YNE-538	915		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-539	916	Ⅰ-14	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.77	1	HNKI	156.08	0
YNE-540	917	Ⅱ-76	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.08	1	HNKI	131.59	0
YNE-541	918		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-542	919		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-543	920		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-544	921		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.16	1	HNKI	117.25	0
YNE-545	922		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-546	923		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.5	1	HNKI	162.66	0
YNE-547	924		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-548	925		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-549	926		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-550	927		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-551	928		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-552	929		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-553	930		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-554	931		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-555	932		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-556	933		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.49	1	HNKI	171.82	0
YNE-557	934	Ⅱ-13	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.66	1	HNKI	83.06	0
YNE-558	935		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.9	1	HNKI	81.32	0
YNE-559	936		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.01	1	HNKI	157.27	0
YNE-560	937		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-561	938		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.02	1	HNKI	170.57	0
YNE-562	939		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-563	940		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-564	941		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-565	942		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.8	1	HNKI	176.26	0
YNE-566	943		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.63	1	HNKI	137.08	0
YNE-567	944		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-568	945		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-569	946		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-570	947		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.92	1	HNKI	103.56	0
YNE-571	948		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-572	949		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-573	950		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.42	1	HNKI	176.91	0
YNE-574	951		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.62	1	HNKI	115.31	0
YNE-575	952		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-576	953		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.51	1	HNKI	118.93	0
YNE-577	954		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.77	1	HNKI	208.18	0
YNE-578	955		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-579	956		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.06	1	HNKI	160.05	0
YNE-580	957		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.4	1	HNKI	135.19	0
YNE-581	958		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.67	1	HNKI	202.83	0
YNE-582	959		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.59	1	HNKI	97.98	0
YNE-583	960		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-584	961		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.22	1	HNKI	194.71	0
YNE-585	962		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-586	963		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	27.61	1	HNKI	142.83	0
YNE-587	964		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-588	965		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.68	1	HNKI	143.16	0
YNE-589	966		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-590	967		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.29	1	HNKI	205.2	0
YNE-591	968		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-592	969		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.03	1	HNKI	200.25	0
YNE-593	970		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.41	1	HNKI	168.33	0
YNE-594	971		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.65	1	HNKI	96.13	0
YNE-595	972		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.61	1	HNKI	147.01	0
YNE-596	973		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-597	974		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	29.96	1	HNKI	225.66	0
YNE-598	975		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.18	1	HNKI	87.58	0
YNE-599	976		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-600	977		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-601	978		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.9	1	HNKI	136.09	0
YNE-602	979		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.43	1	HNKI	75.52	0
YNE-603	980		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.48	1	HNKI	214.66	0
YNE-604	981		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-605	982		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.84	1	HNKI	73.14	0
YNE-606	983		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.43	1	HNKI	173.41	0
YNE-607	984		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-608	985		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.26	1	HNKI	140.63	0
YNE-609	986		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-610	987		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-611	988		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-612	989		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.44	1	HNKI	160.37	0
YNE-613	990		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-614	991		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-615	992		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-616	993		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-617	994		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-618	995		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.73	1	HNKI	96.02	0
YNE-619	996		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-620	997		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-621	998		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.11	1	HNKI	197.93	0
YNE-622	999		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.73	1	HNKI	182.37	0
YNE-623	1000		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	29.72	1	HNKI	240.08	0
YNE-624	1001		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.07	1	HNKI	224.29	0
YNE-625	1002		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.96	1	HNKI	101.18	0
YNE-626	1003		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-627	1004		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.39	1	HNKI	153.45	0
YNE-628	1005		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-629	1006		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.54	1	HNKI	143.35	0
YNE-630	1007		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-631	1008		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.6	1	HNKI	164.38	0
YNE-632	1009		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-633	1010		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-634	1011		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-635	1012		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.24	1	HNKI	139.97	0
YNE-636	1013		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.64	1	HNKI	159.06	0
YNE-637	1014		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.36	1	HNKI	184.15	0
YNE-638	1015		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-639	1016		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.66	1	HNKI	146.77	0
YNE-640	1017		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-641	1018		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-642	1020		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.18	1	HNKI	121.17	0
YNE-643	1023		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.68	1	HNKI	165.7	0
YNE-644	1026		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.59	1	HNKI	107.61	0
YNE-645	1027		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.53	1	HNKI	127.99	0
YNE-646	1028		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.73	1	HNKI	130.06	0
YNE-647	1031		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.1	1	SBIY	98	0
YNE-648	1032		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.41	1	THAY	153.37	0
YNE-649	1034		和田鷹山群	WDTY	WDTY	11.54	0.9949	WDHY	19.64	0.0051
YNE-650	1035		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.3	1	HNKI	195.88	0
YNE-651	1037		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.68	1	HNKT	126.72	0
YNE-652	1038		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.52	1	HNKI	121.63	0
YNE-653	1039		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.41	1	HNKI	154.74	0
YNE-654	1040		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.74	1	HNKI	104.64	0
YNE-655	1042	Ⅱ-113	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.31	1	WDTN	79.48	0
YNE-656	1043		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	1.43	1	KZSN	47.36	0
YNE-657	1044	Ⅱ-132	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.75	1	SBIY	93.32	0
YNE-658	1045		神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	14.24	1	KZSN	64.27	0
YNE-659	1046		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.94	1	SBIY	88.57	0
YNE-660	1047	Ⅱ-91	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.77	1	HNKT	125.48	0
YNE-661	1048		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.26	1	THAY	124.57	0
YNE-662	1049		天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.32	1	HNKT	86.06	0
YNE-663	1050		天城柏峠群	AGKT	AGKT	27.37	1	HNKT	55	0
YNE-664	1051		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.5	1	HNKT	127	0
YNE-665	1052		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.53	1	THAY	153.17	0
YNE-666	1053		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.5	1	HNKT	130.26	0
YNE-667	1054	Ⅱ-129	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.22	1	HNKT	121.33	0
YNE-668	1055		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.33	1	SBIY	76.16	0
YNE-669	1056	Ⅱ-71	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.15	1	HNKT	150.03	0
YNE-670	1057	Ⅱ-119	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.43	1	HNKT	127.2	0
YNE-671	1058		和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.14	1	WDHY	28.1	0
YNE-672	1059		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.3	1	HNKI	95.71	0
YNE-673	1060		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-674	1062	Ⅰ-16	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.7	1	HNKT	100.42	0
YNE-675	1063		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.41	1	HNKI	91.34	0
YNE-676	1065	Ⅱ-120	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.53	1	HNKI	181.82	0
YNE-677	1066	Ⅱ-12	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.19	1	SBIY	65.84	0
YNE-678	1067		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.61	1	HNKI	130.2	0
YNE-679	1068	Ⅱ-98	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.03	1	HNKI	74.75	0
YNE-680	1069		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.47	1	HNKI	220.9	0
YNE-681	1070		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.43	1	HNKI	124.36	0
YNE-682	1071		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-683	1072		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-684	1073		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.59	1	HNKI	199.44	0
YNE-685	1074		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-686	1075		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.81	1	HNKI	44.65	0
YNE-687	1076		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.46	1	HNKI	93.98	0
YNE-688	1077		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.51	1	HNKI	117.41	0
YNE-689	1078		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.95	1	HNKI	75.93	0
YNE-690	1079		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.22	1	HNKI	107.7	0
YNE-691	1080		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-692	1081		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-693	1082		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.79	1	HNKI	175.6	0
YNE-694	1083		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-695	1084		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.12	1	HNKI	153.11	0
YNE-696	1085		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-697	1086		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.69	1	HNKI	62.76	0
YNE-698	1087		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.74	1	HNKI	166.39	0
YNE-699	1088		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.36	1	HNKI	224.83	0
YNE-700	1089		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	29.09	1	HNKI	232.4	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-701	1090		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.02	1	HNKI	80.78	0
YNE-702	1091		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.46	1	HNKI	103.78	0
YNE-703	1092		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.11	1	HNKI	104.31	0
YNE-704	1093		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.52	1	HNKI	215.67	0
YNE-705	1094		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.29	1	HNKI	198.8	0
YNE-706	1095		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.83	1	HNKI	107.09	0
YNE-707	1096		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.53	1	HNKI	195.66	0
YNE-708	1097		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.67	1	HNKI	212.09	0
YNE-709	1098		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-710	1099		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.59	1	HNKI	192.15	0
YNE-711	1100		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.14	1	HNKI	104.39	0
YNE-712	1101		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.61	1	HNKI	125.08	0
YNE-713	1102		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-714	1103		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.65	1	HNKI	145.04	0
YNE-715	1104		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.65	1	HNKI	158.69	0
YNE-716	1105		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.2	1	HNKI	160.71	0
YNE-717	1106		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.03	1	HNKI	81.93	0
YNE-718	1107		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-719	1108		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.74	1	HNKI	109.5	0
YNE-720	1109		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.22	1	HNKI	148.76	0
YNE-721	1110		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.8	1	HNKI	94.32	0
YNE-722	1111		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.44	1	HNKI	138.8	0
YNE-723	1112		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.13	1	HNKI	51.28	0
YNE-724	1113		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.07	1	HNKI	113.26	0
YNE-725	1114		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.4	1	HNKI	152.61	0
YNE-726	1115		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.05	1	HNKI	96.07	0
YNE-727	1116		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.43	1	HNKI	118.35	0
YNE-728	1117		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-729	1118		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.55	1	HNKI	138.77	0
YNE-730	1119		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.39	1	HNKI	93.2	0
YNE-731	1120		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-732	1121		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.06	1	HNKI	83.74	0
YNE-733	1122		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.91	1	HNKI	94.18	0
YNE-734	1123		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-735	1124		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-736	1125		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.1	1	HNKI	111.96	0
YNE-737	1126		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-738	1127		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.21	1	HNKI	119.64	0
YNE-739	1128		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.29	1	HNKI	137.48	0
YNE-740	1129		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.91	1	HNKI	135.86	0
YNE-741	1130		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-742	1131		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.41	1	HNKI	188.91	0
YNE-743	1132		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.76	1	HNKI	147.57	0
YNE-744	1133		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.78	1	HNKI	147.73	0
YNE-745	1134		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-746	1135		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.94	1	HNKI	191.43	0
YNE-747	1136		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.32	1	HNKI	110.95	0
YNE-748	1137		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.09	1	HNKI	140.89	0
YNE-749	1138		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-750	1139		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-751	1140		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.73	1	HNKI	107.34	0
YNE-752	1141		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.04	1	HNKI	133.76	0
YNE-753	1142		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.44	1	HNKI	116.68	0
YNE-754	1143		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.07	1	HNKI	108.85	0
YNE-755	1144		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.28	1	HNKI	78.77	0
YNE-756	1145		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.32	1	HNKI	132.23	0
YNE-757	1146		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.21	1	HNKI	85.62	0
YNE-758	1147		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.5	1	HNKI	140.36	0
YNE-759	1148		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.43	1	HNKI	207.3	0
YNE-760	1149		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.38	1	HNKI	85.35	0
YNE-761	1150		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-762	1151		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.82	1	HNKI	162.49	0
YNE-763	1152		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.75	1	HNKI	160.28	0
YNE-764	1153		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.36	1	HNKI	138.44	0
YNE-765	1154		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.49	1	HNKI	83.19	0
YNE-766	1155		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-767	1156	Ⅱ-112	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.24	1	HNKI	82.38	0
YNE-768	1157		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-769	1158		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.93	1	HNKI	107.07	0
YNE-770	1159		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-771	1160		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.84	1	HNKI	186.55	0
YNE-772	1161		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-773	1162		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-774	1163		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.56	1	HNKI	101.6	0
YNE-775	1164		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.5	1	HNKI	117.35	0
YNE-776	1165		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.9	1	HNKI	139.41	0
YNE-777	1166		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.28	1	HNKI	159.98	0
YNE-778	1167		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.34	1	HNKI	153.53	0
YNE-779	1168		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.96	1	HNKI	159.61	0
YNE-780	1169		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.68	1	HNKI	159.27	0
YNE-781	1170		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-782	1171		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.54	1	HNKI	73.17	0
YNE-783	1172		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.66	1	HNKI	192.96	0
YNE-784	1173		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.9	1	HNKI	123.46	0
YNE-785	1174		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-786	1175		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.25	1	HNKI	202.37	0
YNE-787	1176		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.71	1	HNKI	80.28	0
YNE-788	1177	Ⅱ-15	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	2.6	1	WDTK	38.06	0
YNE-789	1178		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.76	1	HNKI	130.87	0
YNE-790	1179		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.3	1	HNKI	80.33	0
YNE-791	1180		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.11	1	HNKI	127.95	0
YNE-792	1181		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.48	1	HNKI	132.1	0
YNE-793	1182		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.67	1	HNKI	90.89	0
YNE-794	1183		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.13	1	HNKI	107.05	0
YNE-795	1184		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.21	1	HNKI	83.54	0
YNE-796	1185		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.43	1	HNKI	86.24	0
YNE-797	1186		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.77	1	HNKI	107.26	0
YNE-798	1187		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.73	1	HNKI	133.96	0
YNE-799	1188		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-800	1189		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.26	1	HNKI	123.64	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-801	1190		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.19	1	HNKI	89.1	0
YNE-802	1191		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.32	1	HNKI	108.82	0
YNE-803	1192		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.54	1	HNKI	112	0
YNE-804	1193		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-805	1194		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.22	1	HNKI	197.43	0
YNE-806	1195		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.09	1	HNKI	145	0
YNE-807	1196		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.73	1	HNKI	131.51	0
YNE-808	1197	Ⅱ-60	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.71	1	HNKI	83.46	0
YNE-809	1198		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.41	1	HNKI	176.21	0
YNE-810	1199		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.2	1	HNKI	139.83	0
YNE-811	1200		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.49	1	HNKI	158.29	0
YNE-812	1201		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.11	1	HNKI	109.2	0
YNE-813	1202		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-814	1203		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-815	1204		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.82	1	HNKI	76.59	0
YNE-816	1205		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.95	1	HNKI	128.13	0
YNE-817	1206		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-818	1207		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.63	1	HNKI	105.55	0
YNE-819	1208		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.13	1	HNKI	117.84	0
YNE-820	1209		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.82	1	HNKI	117.53	0
YNE-821	1210		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.95	1	HNKI	127.52	0
YNE-822	1211		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.55	1	HNKI	74.63	0
YNE-823	1212		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-824	1213		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.56	1	HNKI	115.53	0
YNE-825	1214		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.31	1	HNKI	223.53	0
YNE-826	1215		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.09	1	HNKI	84.05	0
YNE-827	1216		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.26	1	HNKI	81.86	0
YNE-828	1218		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.76	1	HNKI	199.47	0
YNE-829	1219		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.42	1	HNKI	127.37	0
YNE-830	1220		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.61	1	HNKI	104.68	0
YNE-831	1221		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.18	1	HNKI	215.26	0
YNE-832	1222		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.55	1	HNKI	111.08	0
YNE-833	1223		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.53	1	HNKI	97.18	0
YNE-834	1224	Ⅱ-88	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.45	1	HNKI	87.91	0
YNE-835	1225		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.13	1	HNKI	171.13	0
YNE-836	1226		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-837	1228		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.46	1	HNKI	162.4	0
YNE-838	1229		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.46	1	HNKI	104.59	0
YNE-839	1230		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.11	1	HNKI	100.33	0
YNE-840	1231		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.97	1	HNKI	207.91	0
YNE-841	1232		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-842	1233		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.11	1	HNKI	204.49	0
YNE-843	1234		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.06	1	HNKI	152.94	0
YNE-844	1235		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.35	1	HNKI	120.92	0
YNE-845	1236		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.71	1	HNKI	78.14	0
YNE-846	1237		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-847	1238		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-848	1239		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.78	1	HNKI	146.81	0
YNE-849	1240		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.48	1	HNKI	173.84	0
YNE-850	1241		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.17	1	HNKI	176.25	0
YNE-851	1242		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.23	1	HNKI	186.8	0
YNE-852	1243		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.93	1	HNKI	160.91	0
YNE-853	1244		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.65	1	HNKI	134.15	0
YNE-854	1245		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.75	1	HNKI	176.62	0
YNE-855	1246		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.42	1	HNKI	108.49	0
YNE-856	1247		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.22	1	HNKI	191.37	0
YNE-857	1248		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.29	1	HNKI	93.09	0
YNE-858	1249		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-859	1250		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.83	1	HNKI	137.9	0
YNE-860	1251		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.62	1	HNKI	127.12	0
YNE-861	1252		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-862	1253		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.55	1	HNKI	153.8	0
YNE-863	1254		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.18	1	HNKI	196.84	0
YNE-864	1255		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-865	1256		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.86	1	HNKI	210.68	0
YNE-866	1257		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.14	1	HNKI	169.26	0
YNE-867	1258		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.72	1	HNKI	115.05	0
YNE-868	1259		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-869	1260		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-870	1261		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.32	1	HNKI	146.18	0
YNE-871	1262		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.73	1	HNKI	132.02	0
YNE-872	1263	Ⅱ-17	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.33	1	HNKI	67.43	0
YNE-873	1264		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.93	1	HNKI	191.4	0
YNE-874	1265		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-875	1266	Ⅱ-31	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.89	1	HNKI	86.62	0
YNE-876	1269		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.61	1	HNKI	222.75	0
YNE-877	1270		和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.53	1	WDHY	32.59	0
YNE-878	1272	Ⅱ-34	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	1.68	1	WDTK	26.66	0
YNE-879	1274	Ⅰ-13	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.16	0.9899	WDHY	10.91	0.0101
YNE-880	1275	Ⅱ-74	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.05	1	HNKI	164.6	0
YNE-881	1276		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.82	1	HNKT	115.67	0
YNE-882	1278		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.86	1	HNKI	119.19	0
YNE-883	1279		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-884	1280	Ⅱ-24	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.74	1	HNKI	192.22	0
YNE-885	1283	Ⅱ-70	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.72	1	HNKI	81.5	0
YNE-886	1284		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.92	1	HNKI	114.94	0
YNE-887	1285		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.15	1	HNKI	141	0
YNE-888	1286		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.61	1	HNKI	74.95	0
YNE-889	1287		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.41	1	HNKI	82.57	0
YNE-890	1288	Ⅱ-28	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.1	1	HNKI	142.35	0
YNE-891	1290		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.28	1	TSHG	18.29	0
YNE-892	1291		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	6.3	1	HNKJ	37.36	0
YNE-893	1292		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.7	1	HNKT	96.28	0
YNE-894	1293		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.51	1	HNKI	107.42	0
YNE-895	1294		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.43	1	HNKI	183.22	0
YNE-896	1295		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.48	1	HNKI	194.18	0
YNE-897	1296		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.94	1	HNKI	223.88	0
YNE-898	1297		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.48	1	HNKI	166.6	0
YNE-899	1298		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-900	1299		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-901	1300		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.04	1	HNKI	110.88	0
YNE-902	1301		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.71	1	HNKI	83.38	0
YNE-903	1302		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.81	1	HNKI	146.78	0
YNE-904	1303		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-905	1304		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.99	1	HNKI	100.96	0
YNE-906	1305		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.08	1	HNKI	113.27	0
YNE-907	1306		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.92	1	HNKI	94.1	0
YNE-908	1307		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.58	1	HNKI	131.75	0
YNE-909	1308		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-910	1309	Ⅱ-69	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.76	1	HNKI	196.15	0
YNE-911	1310		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.04	1	HNKI	91.4	0
YNE-912	1311		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.04	1	HNKI	106.6	0
YNE-913	1312		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.85	1	HNKI	106.47	0
YNE-914	1313		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.65	1	HNKI	122.3	0
YNE-915	1314		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.98	1	HNKI	111.98	0
YNE-916	1315		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.88	1	HNKI	198.91	0
YNE-917	1316		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.49	1	HNKI	75.66	0
YNE-918	1317		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.91	1	HNKI	100.8	0
YNE-919	1318		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.07	1	HNKI	86.99	0
YNE-920	1319		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.72	1	HNKI	141.3	0
YNE-921	1320		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.17	1	HNKI	119.34	0
YNE-922	1321		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.24	1	HNKI	134.57	0
YNE-923	1322		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.59	1	HNKI	81.02	0
YNE-924	1323		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-925	1324		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.71	1	HNKI	168.5	0
YNE-926	1325		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.74	1	HNKI	66.3	0
YNE-927	1326		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-928	1327		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.17	1	HNKI	81.42	0
YNE-929	1328		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.29	1	HNKI	151.98	0
YNE-930	1329		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.82	1	HNKI	129.22	0
YNE-931	1330		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-932	1331		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.97	1	HNKI	86.8	0
YNE-933	1332		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.23	1	HNKI	76.89	0
YNE-934	1333		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.41	1	HNKI	182.54	0
YNE-935	1334		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-936	1335		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-937	1336		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-938	1337		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.48	1	HNKI	149.95	0
YNE-939	1338		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-940	1339		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.7	1	HNKI	186.72	0
YNE-941	1340		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-942	1341		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.12	1	HNKI	103.49	0
YNE-943	1342		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.31	1	HNKI	140.51	0
YNE-944	1343		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.58	1	HNKI	218.48	0
YNE-945	1344		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.77	1	HNKI	125.58	0
YNE-946	1345		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.6	1	HNKI	126.76	0
YNE-947	1346		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.93	1	HNKI	79.43	0
YNE-948	1347		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-949	1348		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.5	1	HNKI	197.14	0
YNE-950	1349		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.99	1	HNKI	63.22	0
YNE-951	1350		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.56	1	HNKI	161.56	0
YNE-952	1351		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.27	1	HNKI	195.63	0
YNE-953	1352		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	45.8	1	HNKI	271.08	0
YNE-954	1353		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-955	1354		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.55	1	HNKI	186.68	0
YNE-956	1355		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.1	1	HNKI	58.44	0
YNE-957	1356		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-958	1357		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.89	1	HNKI	133.32	0
YNE-959	1358		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.76	1	HNKI	59.69	0
YNE-960	1359		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.75	1	HNKI	85.51	0
YNE-961	1360		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-962	1361		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.4	1	HNKI	61.86	0
YNE-963	1362		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.64	1	HNKI	126.75	0
YNE-964	1363		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.01	1	HNKI	170.44	0
YNE-965	1364		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.3	1	HNKI	108.09	0
YNE-966	1365		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.21	1	HNKI	81.35	0
YNE-967	1366		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.96	1	HNKI	86.22	0
YNE-968	1367		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.94	1	HNKI	167.42	0
YNE-969	1368		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-970	1369		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-971	1370		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.31	1	HNKI	115.08	0
YNE-972	1371		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-973	1372		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.12	1	HNKI	125.4	0
YNE-974	1373		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.13	1	HNKI	73.25	0
YNE-975	1374		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.95	1	HNKI	75.36	0
YNE-976	1375		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.39	1	HNKI	218.51	0
YNE-977	1376		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.46	1	HNKI	153.09	0
YNE-978	1377		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.95	1	HNKI	147.65	0
YNE-979	1378		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.91	1	HNKI	87.41	0
YNE-980	1379		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-981	1380		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.73	1	HNKI	69.94	0
YNE-982	1381		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.92	1	HNKI	68.98	0
YNE-983	1382		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.66	1	HNKI	131.68	0
YNE-984	1383		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.39	1	HNKI	104.58	0
YNE-985	1384		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.8	1	HNKI	84.27	0
YNE-986	1385		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.71	1	HNKI	190.17	0
YNE-987	1386		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.99	1	HNKI	100.04	0
YNE-988	1387		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.3	1	HNKI	75.86	0
YNE-989	1388		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.84	1	HNKI	126.78	0
YNE-990	1389		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.66	1	HNKI	185.62	0
YNE-991	1390	Ⅱ-20	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.52	1	HNKI	105.78	0
YNE-992	1391		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.19	1	SBIY	69.57	0
YNE-993	1392		和田土屋橋南群	WDTM	WDTM	1.43	1	WOTM	34.59	0
YNE-994	1393		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	27.98	1	HNKI	44.35	0
YNE-995	1394		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.95	1	SBIY	66.59	0
YNE-996	1395		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.73	1	SBIY	62.15	0
YNE-997	1396	Ⅱ-95	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.35	1	HNKI	173.84	0
YNE-998	1397		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.05	1	SBIY	82.73	0
YNE-999	1398		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.54	1	SBIY	72.55	0
YNE-1000	1399		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.45	1	SBIY	55.03	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-1001	1400		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.54	1	WDTN	108.31	0
YNE-1002	1401	Ⅱ-26	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.82	1	SBIY	98.85	0
YNE-1003	1402		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.39	1	HNKT	113	0
YNE-1004	1403		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.33	1	HNKT	101.57	0
YNE-1005	1404	Ⅱ-106	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.68	1	SBIY	84.53	0
YNE-1006	1405		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.98	1	SBIY	55.14	0
YNE-1007	1406		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.18	1	WDTN	88.06	0
YNE-1008	1407		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.51	1	WDTN	95.13	0
YNE-1009	1409		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.28	1	SBIY	61.36	0
YNE-1010	1410		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.17	1	HNKI	103.21	0
YNE-1011	1411	Ⅱ-124	天城柏峠群	AGKT	AGKT	19.25	1	THAY	136.44	0
YNE-1012	1412		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.76	1	SBIY	90.16	0
YNE-1013	1413		和田鷹山群	WDTY	WDTY	10.59	1	WDHY	28.92	0
YNE-1014	1416	Ⅱ-90	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.09	1	SBIY	107.27	0
YNE-1015	1417		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.81	1	HNKI	177.4	0
YNE-1016	1418		和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.16	1	WDHY	22.27	0
YNE-1017	1419		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.4	1	HNKI	84.97	0
YNE-1018	1420	Ⅱ-37	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.65	1	HNKI	143.17	0
YNE-1019	1421		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.22	1	SBIY	91.55	0
YNE-1020	1422	Ⅱ-48	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.85	1	HNKT	143.13	0
YNE-1021	1423	Ⅱ-27	天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.57	1	HNKT	95.68	0
YNE-1022	1424	Ⅱ-125	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.12	1	WDTN	95.81	0
YNE-1023	1425		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.98	1	SBIY	58.39	0
YNE-1024	1426		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1025	1427		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1026	1428		和田鷹山群	WDTY	WDTY	16.06	0.9485	WDHY	19.45	0.0515
YNE-1027	1429	Ⅱ-16	和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.62	1	WDKB	30.14	0
YNE-1028	1430		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.81	1	HNKT	132.2	0
YNE-1029	1431		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.36	1	HNKT	98.43	0
YNE-1030	1432		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1031	1433		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.19	1	HNKT	104.58	0
YNE-1032	1434		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.9	1	HNKT	108.34	0
YNE-1033	1435		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1034	1436		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.01	1	SBIY	68.45	0
YNE-1035	1437		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.85	1	HNKT	139.04	0
YNE-1036	1438		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.63	1	HNKT	105.88	0
YNE-1037	1439		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.29	1	SBIY	107.43	0
YNE-1038	1440		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.69	1	SBIY	40.84	0
YNE-1039	1441		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.52	1	HNKT	82.57	0
YNE-1040	1442		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.43	1	HNKT	130.25	0
YNE-1041	1443		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.38	1	SBIY	36.97	0
YNE-1042	1444		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1043	1445		天城柏峠群	AGKT	AGKT	14.1	1	HNKT	107.62	0
YNE-1044	1446		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.22	1	WDTM	70.12	0
YNE-1045	1447		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.73	1	SBIY	85.54	0
YNE-1046	1448		天城柏峠群	AGKT	AGKT	15.58	1	THAY	157.4	0
YNE-1047	1449		和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.69	0.9972	WDHY	12.98	0.0028
YNE-1048	1450	Ⅱ-114	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.39	1	SBIY	87.64	0
YNE-1049	1451		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.63	1	HNKT	126.53	0
YNE-1050	1452	Ⅱ-89	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.52	1	HNKT	140.86	0
YNE-1051	1453		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.71	1	SBIY	74.17	0
YNE-1052	1454		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-1053	1455		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.71	1	HNKT	125.95	0
YNE-1054	1456		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.2	1	HNKI	70.27	0
YNE-1055	1457		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.64	1	SBIY	87.19	0
YNE-1056	1458		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-1057	1459		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.25	1	HNKT	125.43	0
YNE-1058	1460		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.75	1	HNKT	111.9	0
YNE-1059	1461		天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.32	1	THAY	97.48	0
YNE-1060	1462		天城柏峠群	AGKT	AGKT	9.54	1	HNKT	169.2	0
YNE-1061	1463	Ⅰ-11	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.26	1	HNKT	126.81	0
YNE-1062	1464		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.23	1	HNKT	104.36	0
YNE-1063	1465		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.74	1	SBIY	127.79	0
YNE-1064	1466	Ⅱ-109	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.87	1	HNKT	123.52	0
YNE-1065	1467		和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.93	0.9666	WDHY	10.23	0.0334
YNE-1066	1468	Ⅱ-79	天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.91	1	HNKT	150.05	0
YNE-1067	1470	Ⅱ-9	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.08	1	HNKI	126.28	0
YNE-1068	1473		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.93	1	HNKI	92.03	0
YNE-1069	1474	Ⅱ-96	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.04	1	HNKI	89.84	0
YNE-1070	1475		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.29	1	HNKI	60.62	0
YNE-1071	1477		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.56	1	HNKI	153.97	0
YNE-1072	1478		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.57	1	SBIY	56.26	0
YNE-1073	1482		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.86	1	SBIY	86.64	0
YNE-1074	1484		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.87	1	HNKI	54.08	0
YNE-1075	1487		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.25	1	HNKI	127.86	0
YNE-1076	1488		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.01	1	HNKI	64	0
YNE-1077	1489		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.3	1	HNKI	149.28	0
YNE-1078	1490		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.12	1	HNKI	82	0
YNE-1079	1491		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.17	1	HNKI	155.77	0
YNE-1080	1492		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.29	1	HNKI	189.58	0
YNE-1081	1493		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.43	1	HNKI	83.11	0
YNE-1082	1494		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.48	1	HNKI	146.95	0
YNE-1083	1495		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.13	1	HNKI	71.04	0
YNE-1084	1496		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.9	1	HNKI	122.28	0
YNE-1085	1497		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.69	1	HNKI	58.02	0
YNE-1086	1498		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.33	1	SBIY	59.93	0
YNE-1087	1499		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.27	1	HNKI	177.66	0
YNE-1088	1500		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.85	1	HNKI	77.07	0
YNE-1089	1501		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.12	1	HNKI	87.99	0
YNE-1090	1502	Ⅱ-5	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.62	1	HNKI	235	0
YNE-1091	1503	Ⅱ-18	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.14	1	HNKI	139.77	0
YNE-1092	1504		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.38	1	HNKI	165.57	0
YNE-1093	1505		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.01	1	HNKI	120.83	0
YNE-1094	1506		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.31	1	HNKI	183.66	0
YNE-1095	1507		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.26	1	HNKI	121.07	0
YNE-1096	1508		和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.98	1	WDHY	31.06	0
YNE-1097	1509		和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.07	1	WDKB	28.99	0
YNE-1098	1510		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.18	1	HNKI	85.28	0
YNE-1099	1511		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.94	1	HNKI	141.34	0
YNE-1100	1512		和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.66	0.915	WDHY	7.98	0.085

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-1101	1513	Ⅱ-83	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.42	1	SBIY	79.19	0
YNE-1102	1514	Ⅱ-35	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	8.38	0.9997	TSHG	20.94	0.0003
YNE-1103	1515		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.56	1	SBIY	71.65	0
YNE-1104	1516		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-1105	1517		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.99	1	HNKT	100.85	0
YNE-1106	1518		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.28	1	SBIY	112.82	0
YNE-1107	1519		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.75	1	SBIY	80.13	0
YNE-1108	1520		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE-1109	1521		和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.37	1	WDKB	30.89	0
YNE-1110	1522		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.69	1	HNKT	127.79	0
YNE-1111	1523		和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.99	1	WDKB	29.3	0
YNE-1112	1524		和田鷹山群	WDTY	WDTY	14.84	0.9925	WDKB	23.95	0.0074
YNE-1113	1525		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.6	1	SBIY	80.24	0
YNE-1114	1526		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE-1115	1527		天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.44	1	HNKT	72.1	0
YNE-1116	1528		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.44	1	HNKT	152.99	0
YNE-1117	1529		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.63	1	HNKT	115.51	0
YNE-1118	1531		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1119	1533	Ⅱ-11	和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.19	1	WDKB	31.09	0
YNE-1120	1534		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.31	1	HNKT	111.16	0
YNE-1121	1535		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.96	1	HNKT	118.77	0
YNE-1122	1536		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.73	1	WDTN	65.35	0
YNE-1123	1537		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.72	1	HNKT	95.29	0
YNE-1124	1539		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.85	1	HNKT	130.63	0
YNE-1125	1540		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1126	1541		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.13	1	HNKI	137.19	0
YNE-1127	1542		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.21	1	HNKI	66.43	0
YNE-1128	1543	Ⅱ-118	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.89	1	HNKI	77.02	0
YNE-1129	1544		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.28	1	HNKI	101	0
YNE-1130	1545		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.85	1	HNKI	182.74	0
YNE-1131	1546		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.54	1	HNKI	70.79	0
YNE-1132	1547		天城柏峠群	AGKT	AGKT	15.89	1	THAY	100.43	0
YNE-1133	1548		天城柏峠群	AGKT	AGKT	13.28	1	HNKT	96.21	0
YNE-1134	1549		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.12	1	HNKI	169.42	0
YNE-1135	1550		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.05	1	HNKT	123.5	0
YNE-1136	1582		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.54	1	HNKT	114.97	0
YNE-1137	1583	Ⅱ-82	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.46	1	HNKT	120.71	0
YNE-1138	1584		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.56	1	SBIY	70.47	0
YNE-1139	1585		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.14	1	HNKT	109.68	0
YNE-1140	1586		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.03	1	HNKI	154.68	0
YNE-1141	1588		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.17	1	HNKI	159.27	0
YNE-1142	1591	Ⅱ-121	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.72	1	HNKI	62.53	0
YNE-1143	1592	Ⅱ-4	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.01	1	HNKI	146.43	0
YNE-1144	1593		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.11	1	HNKI	153.06	0
YNE-1145	1594	Ⅱ-128	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1146	1595		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	4.14	1	HNKJ	42.27	0
YNE-1147	1596		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.29	1	SBIY	51.4	0
YNE-1148	1597		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	3.57	1	HNKJ	45.54	0
YNE-1149	1598		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.72	1	HNKI	186.92	0
YNE-1150	1599		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.33	1	HNKI	90.59	0
YNE-1151	1600	Ⅱ-78	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.23	1	HNKT	105.01	0
YNE-1152	1601		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.87	1	HNKI	177.91	0
YNE-1153	1602		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	7.45	1	TSHG	36.94	0
YNE-1154	1603		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.02	1	HNKI	158.72	0
YNE-1155	1604	Ⅱ-14	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.89	1	HNKI	91.38	0
YNE-1156	1605		和田鷹山群	WDTY	WDTY	10.38	0.9594	WDHY	14.28	0.0406
YNE-1157	1607		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.89	1	HNKI	63.57	0
YNE-1158	1608	Ⅱ-41	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	29.13	1	HNKI	88.67	0
YNE-1159	1610		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.04	1	HNKI	148.79	0
YNE-1160	1611		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.08	1	HNKI	47.26	0
YNE-1161	1612		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.85	1	HNKT	120.48	0
YNE-1162	1614		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.35	1	HNKI	167.3	0
YNE-1163	1615		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.52	1	HNKI	79.66	0
YNE-1164	1616		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.58	1	SBIY	59.88	0
YNE-1165	1617		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.21	1	HNKI	101.31	0
YNE-1166	1620		和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	4.72	0.9627	WDTY	13.66	0.0373
YNE-1167	1621	Ⅱ-58	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.67	0.9999	WDHY	20.02	0.0001
YNE-1168	1622		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.81	1	HNKI	56.91	0
YNE-1169	1623	Ⅱ-131	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.07	1	WDTN	89.72	0
YNE-1170	1624	Ⅱ-107	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.74	1	HNKT	127.07	0
YNE-1171	1625		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.62	1	HNKI	119	0
YNE-1172	1626		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.84	1	HNKI	135.17	0
YNE-1173	1627		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.28	1	HNKI	139.34	0
YNE-1174	1628	Ⅱ-126	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.75	1	HNKI	161.8	0
YNE-1175	1629		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.63	1	HNKI	97.24	0
YNE-1176	1631	Ⅱ-117	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	2.58	0.9905	WDTY	14.3	0.0095
YNE-1177	1632		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.25	1	HNKI	173.86	0
YNE-1178	1633		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.68	1	HNKI	59.06	0
YNE-1179	1634	Ⅱ-21	和田鷹山群	WDTY	WDTY	10.18	0.8683	WDHY	11.53	0.1317
YNE-1180	1635		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.64	1	HNKI	117.16	0
YNE-1181	1636		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE-1182	1637		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.18	1	HNKI	230.26	0
YNE-1183	1638		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.06	1	HNKI	112.5	0
YNE-1184	1639		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.84	1	THAY	112.33	0
YNE-1185	1640		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.07	1	HNKI	94.67	0
YNE-1186	1641		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.87	1	HNKI	129.73	0
YNE-1187	1642		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.25	1	HNKI	103.36	0
YNE-1188	1643		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.35	1	HNKI	72.13	0
YNE-1189	1644	Ⅱ-64	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.66	1	SBIY	101.31	0
YNE-1190	1645		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	6.91	1	HNKJ	38.8	0
YNE-1191	1646		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	10.45	1	HNKJ	68.46	0
YNE-1192	1649	Ⅱ-36	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.32	1	HNKI	117.34	0
YNE-1193	1650		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.49	1	HNKT	100.71	0
YNE-1194	1651		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.28	1	SBIY	77.95	0
YNE-1195	1652		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.27	1	HNKT	128.78	0
YNE-1196	1662		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE-1197	1663		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.12	1	HNKI	132.33	0
YNE-1198	1665	Ⅱ-6	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.73	1	HNKT	120.06	0
YNE-1199	1666	Ⅱ-7	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.45	1	HNKI	105.7	0
YNE-1200	1667		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.04	1	HNKI	98.44	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE-1201	1668		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.39	1	HNKI	129.56	0
YNE-1202	1669	Ⅱ-8	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.79	1	HNKI	62.06	0
YNE-1203	1670	Ⅱ-1	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.03	1	SBIY	110.83	0
YNE-1204	1672		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.17	1	SBIY	78.37	0
YNE-1205	1673		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.8	1	HNKT	138.74	0
YNE-1206	1674		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE-1207	1675		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	18.57	1	SBIY	45.96	0
YNE-1208	1676		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.66	1	HNKI	97.2	0
YNE-1209	1678		和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.31	1	WDKB	31.23	0
YNE-1210	1680		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1211	1681		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.7	1	HNKT	105.98	0
YNE-1212	1682		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.91	1	HNKI	134.1	0
YNE-1213	1683		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.87	1	HNKT	146.72	0
YNE-1214	1684		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.23	1	HNKT	110.32	0
YNE-1215	1685		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.09	1	HNKT	111.25	0
YNE-1216	1686		天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.72	1	HNKT	110.91	0
YNE-1217	1689		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.59	1	HNKI	68.9	0
YNE-1218	1690		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.03	1	HNKI	122.37	0
YNE-1219	1691		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.65	1	HNKI	151.02	0
YNE-1220	1692		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.42	1	HNKI	105.77	0
YNE-1221	1693		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.78	1	HNKI	141.02	0
YNE-1222	1694		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.72	1	HNKI	130.77	0
YNE-1223	1695		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.02	1	HNKI	64.05	0
YNE-1224	1697		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE-1225	1699		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.93	1	HNKI	117.87	0
YNE-1226	1700		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.43	1	HNKI	120.03	0
YNE-1227	1701		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.89	1	HNKI	174.88	0
YNE-1228	1703	Ⅱ-19	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.59	1	HNKI	149.88	0
YNE-1229	1704	Ⅱ-62	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.11	1	WDTN	81.38	0
YNE-1230	1705	Ⅱ-130	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.81	1	HNKI	164.78	0
YNE-1231	1707		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.2	1	HNKI	90.05	0
YNE-1232	1710		和田小深沢群	WDKB	WDKB	14.27	0.7452	WDTY	17.09	0.2548
YNE2-1	16	Ⅲ-154	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.41	1	HNKI	117.76	0
YNE2-2	17	Ⅲ-226	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.73	1	SBIY	65.47	0
YNE2-3	18		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-4	19		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.24	1	SBIY	73.46	0
YNE2-5	20		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-6	21		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.79	1	HNKI	166.08	0
YNE2-7	23		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.29	1	SBIY	73.25	0
YNE2-8	24		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.83	1	SBIY	100.86	0
YNE2-9	25		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.79	1	HNKI	110.21	0
YNE2-10	26		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-11	27		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.08	1	WDTN	122.06	0
YNE2-12	28	Ⅲ-234	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.42	1	SBIY	99.37	0
YNE2-13	29		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.22	1	SBIY	71.73	0
YNE2-14	30		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.77	1	SBIY	144.46	0
YNE2-15	31		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.35	1	SBIY	80.1	0
YNE2-16	32		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.59	1	WDTN	86.73	0
YNE2-17	33		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.43	1	SBIY	81.58	0
YNE2-18	34		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-19	35	Ⅲ-215	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.25	1	WDTN	57.96	0
YNE2-20	36		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.15	1	SBIY	103.77	0
YNE2-21	37	Ⅲ-264	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.21	1	SBIY	85.12	0
YNE2-22	38		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.2	1	SBIY	67.77	0
YNE2-23	39		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7	1	WDTN	81.31	0
YNE2-24	56		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.39	1	HNKI	70.31	0
YNE2-25	57		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.22	1	HNKI	167.08	0
YNE2-26	58		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.73	1	HNKI	103.66	0
YNE2-27	59		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.73	1	HNKI	67.51	0
YNE2-28	60		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.15	1	HNKI	97.38	0
YNE2-29	67		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.92	1	WDTN	74.69	0
YNE2-30	69		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.81	1	WDTN	61.31	0
YNE2-31	82		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.12	1	HNKI	98.14	0
YNE2-32	83		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.83	1	HNKT	134.38	0
YNE2-33	85		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.71	1	SBIY	89.66	0
YNE2-34	89		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.48	1	WDTN	91.76	0
YNE2-35	90		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.71	1	SBIY	78.5	0
YNE2-36	92		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-37	93		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-38	94		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-39	95		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-40	96		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.16	1	SBIY	88.87	0
YNE2-41	97		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.65	1	SBIY	74.71	0
YNE2-42	98	Ⅲ-236	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.34	1	SBIY	64.39	0
YNE2-43	108		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5	1	WDTN	95.3	0
YNE2-44	109		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-45	111	Ⅱ-111	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.68	1	HNKI	45.75	0
YNE2-46	112		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.12	1	HNKI	155.15	0
YNE2-47	113		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.58	1	HNKI	128.41	0
YNE2-48	116		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-49	117		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	19.23	1	SBIY	46.32	0
YNE2-50	118		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	22.18	1	WDTN	142.29	0
YNE2-51	119		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.42	1	HNKI	88.39	0
YNE2-52	120		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.03	1	HNKI	69.21	0
YNE2-53	121	Ⅲ-277	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.71	1	HNKI	159.1	0
YNE2-54	122		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.38	1	HNKI	92.72	0
YNE2-55	123		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.29	1	WDTN	80.66	0
YNE2-56	125		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.22	1	HNKT	133.98	0
YNE2-57	127		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.47	1	HNKI	116.4	0
YNE2-58	128		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.99	1	HNKI	124.45	0
YNE2-59	136		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.07	1	SBIY	59.07	0
YNE2-60	137		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.84	1	HNKT	142.95	0
YNE2-61	139		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.05	1	SBIY	88.34	0
YNE2-62	144		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.53	1	HNKI	140.68	0
YNE2-63	145		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.88	1	HNKT	166.06	0
YNE2-64	155		和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	7.75	1	WDTK	35.79	0
YNE2-65	179		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.71	1	HNKT	114.55	0
YNE2-66	196		天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.07	1	HNKT	132.68	0
YNE2-67	199		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-68	208		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.04	1	HNKI	95.83	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE2-69	213		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-70	214	Ⅱ-44	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.57	1	WDTN	149.55	0
YNE2-71	215		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.96	1	HNKT	147.49	0
YNE2-72	216		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.79	1	HNKT	91.57	0
YNE2-73	217	Ⅱ-108	天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.94	1	HNKT	115.88	0
YNE2-74	218		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-75	219		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.6	1	HNKT	113.05	0
YNE2-76	220		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.64	1	HNKT	93.79	0
YNE2-77	221		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.25	1	HNKT	99.79	0
YNE2-78	222	Ⅲ-216	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.87	1	WDTN	97.83	0
YNE2-79	223		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.19	1	SBIY	102	0
YNE2-80	224		天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.91	1	HNKT	122	0
YNE2-81	226		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.43	1	HNKT	105.11	0
YNE2-82	227		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.75	1	HNKT	92.89	0
YNE2-83	228		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.72	1	HNKT	132.44	0
YNE2-84	229	Ⅱ-57	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.25	1	HNKT	100.95	0
YNE2-85	230		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.03	1	HNKT	112.28	0
YNE2-86	231		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.85	1	HNKT	92.42	0
YNE2-87	232		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.96	1	HNKT	106.45	0
YNE2-88	233		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE2-89	234		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.37	1	HNKT	118.53	0
YNE2-90	235		天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.97	1	HNKT	118.09	0
YNE2-91	236		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.77	1	SBIY	65.63	0
YNE2-92	238		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.83	1	HNKT	131.31	0
YNE2-93	239		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.17	1	HNKT	131.87	0
YNE2-94	240		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.07	1	HNKT	110.37	0
YNE2-95	241		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE2-96	242		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE2-97	243		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-98	244		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5	1	HNKT	142.28	0
YNE2-99	245		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.27	1	HNKT	105.09	0
YNE2-100	246		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.79	1	HNKT	75.23	0
YNE2-101	247		天城柏峠群	AGKT	AGKT	23.92	1	HNKT	98.38	0
YNE2-102	248		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.34	1	WDTN	110.13	0
YNE2-103	249		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.35	1	HNKT	114.45	0
YNE2-104	250		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.94	1	HNKT	139.89	0
YNE2-105	251		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-106	253		天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.42	1	HNKT	123.4	0
YNE2-107	254		天城柏峠群	AGKT	AGKT	9.78	1	HNKT	101.3	0
YNE2-108	260	Ⅰ-1	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	20.89	1	SBIY	115.89	0
YNE2-109	266	Ⅲ-246	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.6	1	HNKI	94.63	0
YNE2-110	269		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.58	1	HNKT	129.97	0
YNE2-111	271		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE2-112	274		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.78	1	TSHG	17.9	0
YNE2-113	281		非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
YNE2-114	292	Ⅱ-84	和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.02	0.8084	WDHY	9.47	0.1916
YNE2-115	293		不明	不明	不明			不明		
YNE2-116	294		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.46	1	HNKI	149.63	0
YNE2-117	295	Ⅱ-94	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.04	1	HNKI	97.73	0
YNE2-118	296		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.4	1	HNKI	65.37	0
YNE2-119	298		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.7	1	HNKI	120.38	0
YNE2-120	301		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.46	1	HNKT	134.4	0
YNE2-121	302	Ⅲ-231	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.96	1	SBIY	98.69	0
YNE2-122	303		和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	4.83	0.9924	WDTY	17	0.0076
YNE2-123	305		天城柏峠群	AGKT	AGKT	14.17	1	HNKT	108	0
YNE2-124	306		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.14	1	THAY	110.36	0
YNE2-125	307		天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.96	1	HNKT	148.06	0
YNE2-126	308		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.38	1	HNKT	142.97	0
YNE2-127	309		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE2-128	310		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.31	1	SBIY	64.99	0
YNE2-129	316		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.01	1	WDTN	87.55	0
YNE2-130	317		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.16	1	SBIY	78.65	0
YNE2-131	318		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.95	1	SBIY	52.05	0
YNE2-132	319		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.5	1	SBIY	70.55	0
YNE2-133	320		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.12	1	SBIY	85.2	0
YNE2-134	321		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.04	1	SBIY	69.47	0
YNE2-135	322		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.14	1	WDTN	101.69	0
YNE2-136	323		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.44	1	WDTN	104.82	0
YNE2-137	324		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.57	1	SBIY	86.02	0
YNE2-138	325		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.54	1	SBIY	91.48	0
YNE2-139	326		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.62	1	SBIY	98.89	0
YNE2-140	343		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.85	1	SBIY	82.65	0
YNE2-141	347		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.83	1	WDTN	102.64	0
YNE2-142	357	Ⅱ-103	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.29	1	SBIY	84.08	0
YNE2-143	358		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.05	1	SBIY	52.49	0
YNE2-144	359		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.01	1	WDTN	109.84	0
YNE2-145	360		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.63	1	SBIY	68.48	0
YNE2-146	361		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-147	365		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.61	1	SBIY	58.7	0
YNE2-148	366		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.8	1	HNKI	175.32	0
YNE2-149	367		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	21.89	1	SBIY	57.93	0
YNE2-150	368	Ⅲ-152	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.89	1	HNKI	86.2	0
YNE2-151	372		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.47	1	SBIY	65.15	0
YNE2-152	373		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.47	1	SBIY	91.04	0
YNE2-153	374		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.38	1	SBIY	57.61	0
YNE2-154	376		和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.07	0.9998	WDKB	22.51	0.0002
YNE2-155	379		和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.4	1	WDKB	25.55	0
YNE2-156	384		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.82	1	TSHG	27.98	0
YNE2-157	389		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.95	1	SBIY	79.39	0
YNE2-158	390		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.88	1	SBIY	90.61	0
YNE2-159	393		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.13	1	HNKT	113.02	0
YNE2-160	395		和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.23	1	WDKB	28.57	0
YNE2-161	396		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.8	1	HNKT	121.33	0
YNE2-162	436		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.9	1	HNKI	85.81	0
YNE2-163	438		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.1	1	HNKI	103.81	0
YNE2-164	439		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.52	1	HNKI	151.67	0
YNE2-165	441		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.59	1	HNKT	126.02	0
YNE2-166	442		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.58	1	HNKI	102.94	0
YNE2-167	444		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.31	1	HNKI	104.85	0
YNE2-168	445		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.21	1	HNKI	59.43	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE2-169	458		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.69	1	HNKI	56.93	0
YNE2-170	459	Ⅲ-155	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.55	1	HNKI	76.81	0
YNE2-171	463		和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.71	1	WDHY	28.92	0
YNE2-172	464		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-173	467	Ⅲ-157	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.18	1	HNKI	57.05	0
YNE2-174	469		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.34	1	HNKI	100.65	0
YNE2-175	486		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.41	1	HNKI	161.34	0
YNE2-176	490		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.41	1	HNKI	44.85	0
YNE2-177	495		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.72	1	HNKI	87.68	0
YNE2-178	498		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	7.23	1	TSHG	30.11	0
YNE2-179	505		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.35	1	HNKI	160.99	0
YNE2-180	506		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.38	1	HNKI	143.39	0
YNE2-181	525	Ⅱ-85	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.74	1	TSHG	20.93	0
YNE2-182	527		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.08	1	HNKI	174.81	0
YNE2-183	543		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6	1	HNKT	105.33	0
YNE2-184	544		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.85	1	HNKT	130.24	0
YNE2-185	546		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1	1	HNKT	113.3	0
YNE2-186	547		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.36	1	HNKT	99.02	0
YNE2-187	548		天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.51	1	HNKT	110.5	0
YNE2-188	549		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.23	1	HNKT	141.83	0
YNE2-189	550		天城柏峠群	AGKT	AGKT	13.99	1	HNKT	116.11	0
YNE2-190	551	Ⅱ-108	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.7	1	HNKT	109.1	0
YNE2-191	559		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.28	1	SBIY	64.04	0
YNE2-192	560		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.11	1	HNKI	49.85	0
YNE2-193	565		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.19	1	WDTN	76.33	0
YNE2-194	570		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.8	1	HNKT	112.03	0
YNE2-195	573		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.66	1	HNKT	102.05	0
YNE2-196	574		天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.57	1	THAY	136.78	0
YNE2-197	579		和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.93	0.9999	WDHY	18.88	0.0001
YNE2-198	581		和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.42	0.9929	WDHY	14.86	0.0071
YNE2-199	582		和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.26	0.9999	WDKB	23.37	0.0001
YNE2-200	592		和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	20.22	0.9996	WDTK	35.85	0.0004
YNE2-201	595		天城柏峠群	AGKT	AGKT	9.85	1	HNKT	139.32	0
YNE2-202	603	Ⅱ-87	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.9	1	HNKI	104.22	0
YNE2-203	604		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.84	1	HNKI	95.81	0
YNE2-204	612		和田鷹山群	WDTY	WDTY	10.15	0.9999	WDKB	27.2	0.0001
YNE2-205	613		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.07	1	WDTN	78.03	0
YNE2-206	614		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.08	1	HNKI	66.04	0
YNE2-207	615		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.09	1	SBIY	70.72	0
YNE2-208	625		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.47	0.9992	TSHG	13.74	0.0008
YNE2-209	635		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.53	1	TSHG	21.72	0
YNE2-210	645		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.13	1	HNKI	93.12	0
YNE2-211	646		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.96	1	HNKI	114.87	0
YNE2-212	648		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.17	1	WDTN	58.02	0
YNE2-213	649		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.25	1	HNKI	148.12	0
YNE2-214	650		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.25	1	HNKI	141.97	0
YNE2-215	651		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.03	1	HNKI	141.86	0
YNE2-216	652		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.47	1	HNKI	132.31	0
YNE2-217	653		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.04	1	HNKI	82.2	0
YNE2-218	654		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.15	1	HNKI	69.85	0
YNE2-219	655		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.82	1	HNKI	72.58	0
YNE2-220	656		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.47	1	HNKI	117.89	0
YNE2-221	657		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.16	1	HNKI	98.7	0
YNE2-222	658		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.48	1	HNKI	158.53	0
YNE2-223	659		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.81	1	HNKI	133.38	0
YNE2-224	660		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-225	661		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.29	1	HNKI	169.5	0
YNE2-226	662		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-227	663		和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.24	0.9993	WDHY	16.38	0.0007
YNE2-228	664		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-229	672		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.9	1	SBIY	68.48	0
YNE2-230	676		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.18	1	HNKI	79.46	0
YNE2-231	680		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.93	1	SBIY	70.85	0
YNE2-232	681		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.68	1	SBIY	74.86	0
YNE2-233	682		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.85	1	WDTN	59.43	0
YNE2-234	683		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.89	1	SBIY	57.7	0
YNE2-235	684		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.54	1	SBIY	50.77	0
YNE2-236	685		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.46	1	WDTN	117.05	0
YNE2-237	686		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.78	1	SBIY	51.37	0
YNE2-238	687		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.76	1	SBIY	86.88	0
YNE2-239	697		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.26	1	SBIY	73.03	0
YNE2-240	701		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.8	1	HNKI	92.99	0
YNE2-241	702		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.37	1	WDTN	90.68	0
YNE2-242	703		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.79	1	SBIY	68.09	0
YNE2-243	705		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.81	1	SBIY	101.18	0
YNE2-244	706		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.96	1	SBIY	68.34	0
YNE2-245	707		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.83	1	WDTN	108.28	0
YNE2-246	709	Ⅲ-211	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.01	1	WDTN	78.85	0
YNE2-247	710		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.69	1	SBIY	95.78	0
YNE2-248	711		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.74	1	HNKI	158.93	0
YNE2-249	712		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.56	1	SBIY	72.47	0
YNE2-250	714		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.6	1	SBIY	50.84	0
YNE2-251	719		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.83	1	SBIY	120.49	0
YNE2-252	720		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9	1	WDTN	69.25	0
YNE2-253	740		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.71	1	TSHG	28.44	0
YNE2-254	772		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.4	1	HNKT	103.15	0
YNE2-255	776		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.89	1	HNKT	88.27	0
YNE2-256	785		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.51	1	HNKI	90.19	0
YNE2-257	789		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.2	1	HNKI	131.64	0
YNE2-258	790		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.39	1	SBIY	70.67	0
YNE2-259	793		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.32	1	SBIY	87.56	0
YNE2-260	799		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.27	1	HNKT	125.31	0
YNE2-261	800	Ⅲ-223	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.53	1	HNKI	85.83	0
YNE2-262	801	Ⅱ-104	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.41	1	HNKI	74.54	0
YNE2-263	803		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.56	1	SBIY	51.01	0
YNE2-264	804		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.17	1	HNKI	43.17	0
YNE2-265	805		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.1	1	HNKI	170.66	0
YNE2-266	808		測定面なし	測定面なし	測定面なし			測定面なし		
YNE2-267	809		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.28	1	HNKI	97.33	0
YNE2-268	811		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.46	1	HNKI	71.03	0

分析番号	遺物番号	報告番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
YNE2-269	812		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.87	1	SBIY	65.95	0
YNE2-270	818		和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.2	0.9982	WDHY	12.4	0.0018
YNE2-271	831		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.54	1	WDTN	70.43	0
YNE2-272	836		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.38	1	WDTN	107.91	0
YNE2-273	848		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.1	1	SBIY	85.66	0
YNE2-274	850		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.1	1	SBIY	68.6	0
YNE2-275	862		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.41	0.9999	TSHG	20.05	0.0001
YNE2-276	868		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.39	1	HNKT	116.46	0
YNE2-277	864		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.8	0.9996	TSHG	14.73	0.0004
YNE2-278	865		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-279	867		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.16	1	HNKI	97.29	0
YNE2-280	870		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.72	1	HNKI	115.8	0
YNE2-281	875		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.34	1	HNKI	135.01	0
YNE2-282	877		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.78	1	HNKT	116.58	0
YNE2-283	878		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.27	1	HNKI	150.24	0
YNE2-284	880		測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
YNE2-285	882		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.36	1	HNKT	98.67	0
YNE2-286	883		天城柏峠群	AGKT	AGKT	11.83	1	HNKT	130.39	0
YNE2-287	884		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.04	1	WDTM	79.51	0
YNE2-288	885	Ⅲ-151	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.68	1	HNKI	93.28	0
YNE2-289	890		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.74	1	HNKI	82.42	0
YNE2-290	891		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.08	1	HNKI	187.97	0
YNE2-291	894		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.69	1	HNKI	176.69	0
YNE2-292	895	Ⅲ-156	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.3	1	HNKI	96.61	0
YNE2-293	896		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.67	1	HNKT	102.59	0
YNE2-294	897		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.79	1	HNKT	128.63	0
YNE2-295	904		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.53	1	HNKI	75.15	0
YNE2-296	905		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.45	1	HNKI	112.16	0
YNE2-297	907		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.39	1	HNKI	94.74	0
YNE2-298	910		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-299	916		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.28	1	HNKI	92.95	0
YNE2-300	926		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.81	1	HNKI	67.28	0
YNE2-301	934		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	11.19	0.9999	TSHG	26.08	0.0001
YNE2-302	935	Ⅱ-77	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.64	1	HNKI	156.05	0
YNE2-303	937		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-304	938		天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.95	1	HNKT	116.5	0
YNE2-305	947		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.83	1	TSHG	17.1	0
YNE2-306	949		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.8	1	HNKT	95.62	0
YNE2-307	950		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.14	1	HNKI	84.63	0
YNE2-308	951		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	14.58	1	TUTI	37.85	0
YNE2-309	952		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	10.83	0.9993	TSHG	21.43	0.0007
YNE2-310	1085		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.28	1	HNKI	163.61	0
YNE2-311	1099		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.83	1	HNKT	105.71	0
YNE2-312	1101		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.14	1	HNKI	191.8	0
YNE2-313	1102		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.46	1	HNKI	96.09	0
YNE2-314	1142		和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.13	1	WDHY	18.78	0
YNE2-315	1148		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.97	0.9995	TSHG	15.21	0.0005
YNE2-316	1150		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.52	1	HNKT	123.88	0
YNE2-317	1151		天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.88	1	HNKT	156.24	0
YNE2-318	1153		和田鷹山群	WDTY	WDTY	11.01	1	WDHY	31.57	0
YNE2-319	1154		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.74	1	TSHG	20.8	0
YNE2-320	1155		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.55	1	HNKT	124.4	0
YNE2-321	1156		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.03	1	HNKI	102.23	0
YNE2-322	1157	Ⅲ-232	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.46	1	SBIY	79.09	0
YNE2-323	1186		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.05	1	HNKI	41.73	0
YNE2-324	1197		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.6	1	TSHG	22.39	0
YNE2-325	1199		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-326	1226		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.87	0.9985	TSHG	12.91	0.0015
YNE2-327	1227		天城柏峠群	AGKT	AGKT	11.32	1	HNKT	175.45	0
YNE2-328	1228	Ⅱ-133	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.91	1	TSHG	30.58	0
YNE2-329	1231		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.32	0.9871	TSHG	11.08	0.0129
YNE2-330	1232		天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.52	1	HNKT	129.41	0
YNE2-331	1233		天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.14	1	HNKT	145.98	0
YNE2-332	1234		天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.91	1	HNKT	124.52	0
YNE2-333	1255		天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.27	1	HNKT	138.52	0
YNE2-334	1258		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.01	1	TUTI	21.87	0
YNE2-335	1261		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.19	1	TUTI	28.72	0
YNE2-336	1262		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.8	0.9927	TSHG	8.71	0.0073
YNE2-337	1263		天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.51	1	HNKT	135.86	0
YNE2-338	1264		天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.74	1	HNKT	123.45	0
YNE2-339	1265		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-340	1266		和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.63	1	WDHY	31.6	0
YNE2-341	1268		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.76	1	HNKI	73.1	0
YNE2-342	1271		天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.63	1	HNKT	140.77	0
YNE2-343	1276		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.57	0.999	TSHG	12.51	0.001
YNE2-344	1277		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.7	0.996	TSHG	13.84	0.004
YNE2-345	1278		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-346	1279		蓼科冷山群	TSTY	TSTY	9.79	0.9625	TSHG	12.37	0.0375
YNE2-347	1280		推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
YNE2-348	1282		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.3	1	HNKI	155.91	0
YNE2-349	1283	Ⅱ-123	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	15.77	1	KZSN	39.95	0
YNE2-350	1297		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.67	1	HNKI	93.56	0
YNE2-351	1298		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	5.4	1	HNKJ	29.24	0
YNE2-352	1299		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	16.64	1	HNKJ	68.06	0
YNE2-353	1300	Ⅱ-116	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.81	1	KZSN	53.64	0
YNE2-354	1301		箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.77	1	HNKI	198.03	0
YNE2-355	1302		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	23.2	1	HNHJ	47.44	0
YNE2-356	1303		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	5.38	1	HNKJ	29	0
YNE2-357	1304		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	13.28	1	HNHJ	59.23	0
YNE2-358	1306		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	24.02	1	HNHJ	58.19	0
YNE2-359	1307		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.84	1	SBIY	102.25	0
YNE2-360	1308		諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.79	1	SBIY	92.73	0
YNE2-361	1309		箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	6.16	1	HNKJ	34.22	0

主要参考文献

相田　薫編（1986）『月見野遺跡群上野遺跡第１地点』大和市文化財調査報告書第21集　大和市教育委員会

秋山真澄（1968）『伊豆の後期旧石器文化図録』私家版

秋山真澄他（1972）『駿河小塚　＝静岡県における先土器文化の研究＝』芝川町教育委員会

麻生順司（1993）『下森鹿島遺跡発掘調査報告書』　下森鹿島遺跡発掘調査団

安蒜政雄（1974）「砂川遺跡についての一考察　－個体別資料による石器群の検討－」『史館』第２号所収　史館同人会

安蒜政雄（1975）「砂川遺跡」『日本の旧石器文化　２　遺跡と遺物（上）』所収　雄山閣出版

安蒜政雄（1977）「遺跡の中の遺物」『季刊　どるめん』　第15号所収　ジック出版

安蒜政雄（1977）「砂川遺跡についての一考察　－個体別資料による石器群の検討（２）－」『史館』第９号所収
史館同入会

安蒜政雄（1979）「日本の細石核」『駿台史学』　第47号所収　駿台史学会

安蒜政雄（1979）「縦長ナイフ形石器の製作」『季刊　考古学』　第４号所収　雄山閣出版

安蒜政雄（1979）「石器の形態と機能」『日本考古学を学ぶ（２）』所収　有斐閣選書　有斐閣

市原寿文（1963）「静岡県の無土器文化」『静岡県の古代文化』　静岡県教育委員会

市原寿文（1990）「第一章　先土器時代」『静岡県史　資料編１　考古一』所収　静岡県

伊藤恒彦編（1987）『中村遺跡　－都市計画道路町田南大野線埋蔵文化財発掘調査報告書－』中村遺跡発掘調査団

伊藤恒彦（1988）「相模野台地の２種類の尖頭器石器群」『大和のあけぼのⅡ　－上和田城山遺跡・上野遺跡出土品の神奈川県指定重要文化財指定記念集－』大和市教育委員会

伊藤恒彦・保坂康夫（1989）『函南スプリングスゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告書（１）』函南町教育委員会

伊藤恒彦・鈴木敏中（1995）『山中城跡三ノ丸第１地点』　三島市教育委員会

伊藤恒彦（1996）「『愛鷹・箱根編年』の第４期と第５期の理解について」『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　収録集』
所収　静岡県考古学会

伊藤恒彦・鈴木敏中・前嶋秀張（1999）『初音ケ原遺跡』　三島市教育委員会

伊藤恒彦・長野康敏（2001『静岡県函南町　上原遺跡　東京電力㈱桑原開閉所新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
東京電力株式会社　函南町教育委員会

伊藤恒彦・寺田光一郎（2004）『南山Ｄ遺跡　東山遺跡　香音Ⅱ－Ｄ遺跡　奥山遺跡　笹原大竹線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』三島市教育委員会

伊藤恒彦（2014）「地域間に於けるナイフ形石器石器群の類似とその評価　―畑宿産黒曜石を多用する石器群の様相－」『神奈川考古』第50号　所収　神奈川考古同人会

稲田孝司（1969）「尖頭器文化の出現と旧石器的石器製作の解体」『考古学研究』第15巻第３号　所収　考古学研究会

加藤晋平・鶴丸俊明（1980）『図録　石器の基礎知識Ⅰ・Ⅱ　先土器（上）・(下)』柏書房

樫田　誠他（1983）『深見諏訪山遺跡　神奈川県大和市深見所在の草創期・先土器時代遺跡調査の記録』大和市文化財調査報告書第14集　大和市教育委員会

栗原伸好（2004）『用田南原遺跡』かながわ考古学財団調査報告　168　財団法人　かながわ考古学財団

小池　聡（1997）『神明若宮地区内遺跡』神明若宮地区内遺跡発掘調査団

小池　聡（1999）『大和市№210遺跡』大和市文化財調査報告書第71集　大和市教育委員会

佐藤達夫（1971）「考古学講座②　無土器文化の石器」『日本歴史』第276号　所収　吉川弘文館

坂詰秀一（1962）「小説“箱根山”からの発掘　芦ノ湯の旧石器遺跡」『科学朝日』第22巻第２号　所収　朝日新聞社

坂詰秀一（1967）「芦ノ湯の旧石器時代遺跡」『箱根町誌　１巻』　箱根町誌編纂委員会　箱根町

静岡県教育委員会（1961）『静岡県遺跡地名表　埋蔵文化財包蔵地一覧』

静岡県教育委員会（1963）『静岡県の古代文化』静岡県文化財調査報告書　2

静岡県考古学会・シンポジウム実行委員会（1995）『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』

静岡県考古学会・シンポジウム実行委員会（1996）『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　収録集』

白石浩之（1980）「第５章　発見遺構と出土遺物　第３節　第Ⅱ文化層」『寺尾遺跡　県立綾瀬高等学校建設にともなう調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告　18　神奈川県教育委員会

白石浩之（1995）「関東地方におけるナイフ形石器文化終末期の様相－月見野期を中心として－」『古代文化』第47巻第１号所収　古代学協会

杉原荘介・小野真一（1965）「静岡県休場遺跡における細石器文化」『考古学集刊』第３巻第２号　所収　東京考古学会

鈴木次郎・大上周三（1984）『栗原中丸遺跡　県立栗原高等学校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告３　神奈川県立埋蔵文化財センター

鈴木次郎（1984）「第Ⅴ章　第６節　第Ⅴ文化層」『栗原中丸遺跡　県立栗原高等学校建設にともなう調査』所収　前掲書

鈴木次郎・矢島國雄（1988）「先土器時代の石器群とその編年」『日本考古学を学ぶ（１）（新版）』所収　有斐閣選書　有斐閣

鈴木次郎（1996）「第Ⅴ章　発見された遺構と遺物　第４節　第Ⅲ文化層」『宮ヶ瀬遺跡群Ⅵ　サザランケ（№12）遺跡宮ヶ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告８　財団法人かながわ考古学財団

鈴木敏中・芦川忠利・前嶋秀張（1987）『静岡県三島市北原菅遺跡　箱根の里建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』三島市教育委員会

鈴木敏中（1994）「山中城跡三ノ丸第２地点」『三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ』三島市教育委員会

鈴木敏中（2009）「第３章　第１節　三島市教育委員会所蔵考古資料　－塚原初音原遺跡・山神社遺跡出土遺物－」『三島市埋蔵文化財発掘調査報告XIV』三島市教育委員会

鈴木忠司（1971）「野岳遺跡の細石核と西南日本における細石刃文化」『古代文化』第23巻第８号所収　古代学協会

鈴木忠司（1979）「東海地方の細石刃文化について」『日本古代学論集』所収　古代学協会

鈴木忠司（1979）「中部地方南部の細石器文化」『駿台史学』第47号　所収　駿台史学会

鈴木忠司・竹内直文（1996）『静岡県磐田市　匂坂中遺跡発掘調査報告書Ⅱ　磐田北部工業団地造成事業に伴う発掘調査』静岡県企業局　磐田市教育委員会

砂田佳弘（1996）「愛鷹・箱根山麓の細石器　～相模野からみた編年の覚え書き～」『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年収録集』所収　静岡県考古学会

高尾好之（1996）「第４期・第５期の区分と第４期の段階設定について」『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　収録集』所収　静岡県考古学会

高橋　勇（1930）「第二編　静岡縣の遺蹟」『静岡縣史』第一巻　所収　静岡縣

高橋　勇（1931）「附録　遺蹟編追補」『静岡縣史』第二巻　所収　静岡縣

田中英司（1984）「砂川型式期石器群の研究」『考古学雑誌』第69巻第４号所収　日本考古学会

橘　正信（1973）「九州における細石器文化」『考古学論叢』１　所収　別府大学考古学研究会

堤　隆（1984）「第Ⅳ章　上草柳第１地点遺跡　第３節　第Ⅰ文化層」『一般国道246号（大和・厚木バイパス）地域内遺跡発掘調査報告Ⅱ』大和市文化財調査報告書第15集　大和市教育委員会

堤　隆　(1984)「第Ⅴ章　遺構と遺物　第１節　第１文化層（ａ）」『一般国道246号（大和・厚木バイパス）地域内遺跡発掘調査報告Ⅲ』大和市文化財調査報告書第17集　大和市教育委員会
堤　隆　(1986)「第６章　第３節　第Ⅲ文化層」『月見野遺跡群上野遺跡第１地点』所収　前掲書
堤　隆　(1987)「相模野台地の細石刃石核」『大和市史研究』第13号所収　大和市役所管理部庶務課編
鶴丸俊明（1979）「北海道地方の細石刃文化」『駿台史学』第47号所収　駿台史学会
戸沢充則（1968）「埼玉県砂川遺跡の石器文化」『考古学集刊』第４巻第１号　東京考古学会
戸沢充則・安蒜政雄・鈴木次郎・矢島国雄（1974）『砂川先土器時代遺跡』　所沢市教育委員会
中村喜代重（1984）「第Ⅴ章　遺構と遺物　第３節　第Ⅱ文化層」『一般国道246号（大和・厚木バイパス）地域内遺跡発掘調査報告Ⅲ』大和市文化財調査報告書第17集　大和市教育委員会
前嶋秀張（1995）「第４期・第５期の石器群」『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』所収　前掲書
樋口昇一・森島　稔・小林達雄（1962）「長野県飯縄高原上ゲ屋遺跡　―第１次調査報告－」『上代文化』第31・32輯　所収　国学院大学考古学会
平川昭夫・袴田　稔（1981）『八分平・富士石遺跡』長泉町教育委員会
広瀬高文（1989）『富士石遺跡群』長泉町教育委員会
八ケ岳旧石器研究グループ（2003）『シンポジウム日本の細石刃文化Ⅰ　－日本列島における細石刃文化－』
八ケ岳旧石器研究グループ（2003・2004）『シンポジウム日本の細石刃文化Ⅱ・Ⅲ　－細石刃文化研究の諸問題－』
山内昭二（1975）『初音原・寺屋敷遺跡発掘調査概報－昭和49年度箱根塚原バイパス埋蔵文化財発掘調査－』中部地方建設局　静岡県教育委員会　三島市教育委員会

報告書執筆分担一覧

・辻　真人　　第１章第１・３節
・伊藤恒彦　　第１章第２節、第２章第１節、第２章第１節２、第４章第１節
・小池　聡　　第１章第４節、第２章第２節１、第２章第３節１、第３章１、第４章第２節
・坪田弘子　　第２章第２節１
・小山浩之　　第２章第３節２、第３章２
・望月昭彦　　第５章

付　　表

1．山中城Ｅ遺跡

●後期旧石器時代出土遺物一覧表

第１表　石器計測表

第Ⅰ文化層

挿図№	整理№	器種	ブロック	個体	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	産地	備 考
1	14-260	細石刃	1	1	2.38	0.66	0.32	0.35	Ob	SWHD	末端古欠
2	06-453	細石刃	2	3	1.76	0.87	0.20	0.25	Ob	KZOB	末端古欠
3	06-444	細石刃	2	6	1.22	0.88	0.16	0.10	Ob	KZOB	左側縁・末端古欠
4	06-652	細石刃	外5	12	1.13	0.55	0.14	0.08	Ob	KZOB	末端古欠
5	14-248	細石刃	1	1	2.00	0.91	0.24	0.25	Ob	SWHD	両端古欠
6	14-573	細石刃	外2	10	1.64	0.65	0.30	0.17	Ob	AGKT	両端古欠
7	06-635	細石刃	3	7	1.40	0.52	0.30	0.20	Ob	KZOB	両端古欠
8	06-639	細石刃	3	8	1.44	0.50	0.18	0.12	Ob	SWHD	両端古欠
9	06-463	細石刃	2	5	0.93	0.76	0.23	0.16	Ob	KZOB	両端古欠
10	06-460	細石刃	2	5	0.86	0.44	0.10	0.03	Ob	KZOB	両端古欠
11	06-1463	細石刃	2	6	2.28	0.51	0.25	0.18	Ob	KZOB	打面部古欠
12	14-625	細石刃	1	2	1.75	0.88	0.45	0.34	Ob	TSTY	打面部古欠
13	06-1274	細石刃	外4	11	1.56	0.82	0.20	0.21	Ob	WDTY	打面部古欠
14	14-916	細石刃核	外1	9	2.13	1.80	1.84	6.88	Ob	HNHJ	
15	06-651	U・F	外6	13	2.81	2.00	0.89	3.17	Ob	TSTY	打面再生剥片
16	06-1062	U・F	外7	14	1.71	1.68	0.58	1.21	Ob	AGKT	
17	06-670	U・F	4	3	3.54	2.10	1.15	6.04	Ob	KZOB	

第Ⅱ文化層

挿図№	整理№	器種	ブロック	個体	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	TSTY	備 考
1	06-1670	ナイフ形石器	11	45	3.22	2.04	0.41	1.82	Ob	SWHD	両端部古欠
2	06-1217	ナイフ形石器	16	97	4.02	2.56	0.80	7.50	An		
3	06-473	ナイフ形石器	20	105	3.98	2.17	0.87	6.64	Ob	HNHJ	先端部新欠
4	06-1592	ナイフ形石器	11	31	3.66	2.14	0.72	5.27	Ob	HNHJ	先端部古欠
5	06-1502	ナイフ形石器	29	24	3.56	1.76	0.76	3.79	Ob	HNHJ	
6	06-1665	ナイフ形石器	29	2	3.54	2.27	1.07	6.77	Ob	AGKT	
7	06-1666	ナイフ形石器	29	31	3.31	1.67	0.73	4.04	Ob	HNHJ	
8	06-1669	ナイフ形石器	11	31	3.43	1.58	0.59	2.47	Ob	HNHJ	
9	06-1470	ナイフ形石器	8	54	2.94	1.03	0.74	1.22	Ob	HNHJ	先端古欠
10	06-288	ナイフ形石器	29	113	3.14	0.95	0.95	0.81	Ob	未同定	先端部古欠
11	06-1533	ナイフ形石器	7	50	2.84	1.36	0.58	1.67	Ob	WDTY	先端部古欠
12	06-1066	ナイフ形石器	外5	118	2.70	1.14	0.61	1.39	Ob	SWHD	
13	14-934	ナイフ形石器	2	17	2.73	1.03	0.76	1.75	Ob	TSTY	
14	06-1604	ナイフ形石器	29	35	2.70	1.61	1.01	2.29	Ob	HNHJ	
15	06-1177	ナイフ形石器	19	76	2.46	1.21	0.58	1.12	Ob	WDTN	先端部古欠
16	06-1429	ナイフ形石器	7	50	2.45	1.34	0.61	1.14	Ob	WDTY	
17	14-1263	ナイフ形石器	1	1	2.48	1.49	0.92	1.85	Ob	AGKT	
18	06-1503	ナイフ形石器	6	31	2.13	1.60	0.67	2.25	Ob	HNHJ	先端部古欠
19	06-1703	ナイフ形石器	17	100	2.08	0.90	0.57	1.01	Ob	HNHJ	基部古欠
20	06-1390	ナイフ形石器	5	27	2.18	1.04	0.51	1.14	Ob	HNHJ	先端部古欠
21	06-1634	ナイフ形石器	19	50	1.55	0.81	0.42	0.47	Ob	WDTY	先端部古欠・基部新欠
22	06-1630	ナイフ形石器	18	65	1.52	0.88	0.33	0.47	Ho		先端部古欠
23	06-679	ナイフ形石器	19	96	1.96	1.37	0.31	0.90	Ob	HNHJ	刃部古欠
24	06-1280	ナイフ形石器	19	38	1.80	1.36	0.61	1.42	Ob	HNHJ	刃部古欠
25	06-728	ナイフ形石器	7	44	1.81	1.06	0.41	0.42	Ob	WDHY	
26	06-1401	ナイフ形石器	7	37	2.45	1.36	0.44	0.97	Ob	SWHD	
27	06-1423	ナイフ形石器	7	2	2.04	0.98	0.36	0.48	Ob	AGKT	刃部新欠
28	06-1288	ナイフ形石器	25	35	3.11	2.21	0.94	4.54	Ob	HNHJ	
29	06-1267	ナイフ形石器	14	87	3.37	1.56	0.63	2.32	Rh		刃部一部新欠
30	06-656	ナイフ形石器	28	90	3.40	1.10	0.52	1.16	Ta		
31	14-1266	ナイフ形石器	1	9	3.32	1.78	1.05	4.09	Ob	WDTY	
32	06-365	ナイフ形石器	24	109	2.32	1.03	0.51	0.86	Ob	HNHJ	基部一部新欠
33	06-241	ナイフ形石器	7	14	2.21	1.20	0.51	0.86	Ob	SWHD	
34	06-1272	ナイフ形石器	12	76	1.65	1.48	0.38	0.52	Ob	WDTN	基部古欠
35	06-1514	ナイフ形石器	6	39	1.32	0.90	0.27	0.20	Ob	TSTY	基部古欠
36	06-1649	ナイフ形石器	9	12	0.90	0.73	0.23	0.20	Ob	HNHJ	
37	06-1420	ナイフ形石器	7	31	2.41	1.38	0.55	1.25	Ob	HNHJ	
38	06-648	ナイフ形石器	23	47	2.43	1.36	0.30	0.87	Ob	SWHD	基部古欠
39	06-43	ナイフ形石器	25	52	3.22	2.53	1.18	6.63	Ob	HNHJ	両端部古欠・刃部一部新欠
40	06-629	尖頭器	15	90	5.32	1.52	0.57	4.54	Ta		基部古欠
41	06-1608	尖頭器	10	27	5.23	1.56	0.78	5.97	Ob	HNHJ	
42	06-1281	尖頭器	10	63	4.94	1.65	0.64	4.76	An		先端部古欠
43	14-1296	尖頭器	13	84	4.71	1.48	6.30	4.37	Ch		
44	14-214	尖頭器	3	20	40.20	1.56	0.71	3.57	Ob	SWHD	
45	14-290	尖頭器	12	78	3.20	2.01	0.63	3.42	Ch		基部古欠
46	14-813	尖頭器	12	80	4.87	1.92	0.73	6.57	An		先端部古欠
47	14-820	尖頭器	12	78	5.54	1.76	0.59	2.00	Ch		両端部古欠
48	06-1422	尖頭器	7	49	2.67	1.68	0.94	2.87	Ob	AGKT	先端部古欠
49	06-1647	尖頭器	26	83	3.64	2.76	0.68	6.28	An		基部古欠
50	06-418	尖頭器	10	60	1.63	1.68	0.45	1.00	Ob	KZOB	基部古欠
51	06-1414	尖頭器	7	48	1.24	1.38	0.30	0.48	An		
52	14-498	尖頭器	3	16	2.63	1.48	0.74	2.46	Ob	TSTY	
53	14-546	尖頭器	3	19	2.80	1.21	0.52	1.54	Ob	AGKT	
54	06-637	尖頭器	14	86	3.68	1.36	0.44	2.07	Ho		基部古欠
55	06-1273	尖頭器	16	98	3.00	1.66	0.38	2.22	An		両端部古欠
56a	14-209	尖頭器	3	18	4.76	1.60	0.91	5.75	Ca		
56b	06-1532		7								
57	14-229	尖頭器	3	1	2.10	1.04	0.56	0.79	Ob	AGKT	
58	06-1621	尖頭器	14	85	4.12	1.90	0.65	4.25	Ob	WDTY	先端部古欠
59	06-305	尖頭器	7	28	3.60	1.78	0.62	2.90	Ob	SWHD	先端部古欠
60	14-1197	尖頭器	1	8	3.07	1.63	0.65	2.78	Ob	TSTY	
61	06-442	尖頭器	7	43	3.44	1.70	0.48	2.93	Ob	SWHD	
62	06-1704	尖頭器	16	47	3.78	1.56	0.78	3.63	Ob	SWHD	右側縁一部新欠
63	06-301	尖頭器	7	1	2.51	1.32	0.54	1.34	Ob	AGKT	
64	06-1644	尖頭器	22	45	1.93	1.61	0.43	0.87	Ob	SWHD	基端部古欠
65a	06-605	尖頭器	16	73	1.56	1.37	0.50	0.50	Ob	HNHJ	未製品
65b	06-672		21								
66	14-772	尖頭器	3	2	2.97	1.70	1.02	4.35	Ob	AGKT	未製品
67a	14-244	尖頭器	3	21	5.50	3.43	1.12	15.68	Ob	AGKT	未製品
67b	14-574		4								
68	06-465	尖頭器	7	40	3.15	1.27	0.60	2.00	Ob	WDTY	未製品
69	14-1309	尖頭器	12	82	3.24	1.67	0.84	4.32	Ob	箱根黒岩橄榄	未製品　先端部古欠
70	06-1283	尖頭器	23	38	4.11	2.24	1.07	8.24	Ob	HNHJ	未製品
71	06-1056	尖頭器	7	1	2.32	1.71	0.34	1.14	Ob	AGKT	未製品　両端部古欠
72	14-812	尖頭器	10	72	2.78	1.62	0.62	3.04	Ob	SWHD	未製品
73	06-664	尖頭器	22	31	4.54	2.32	1.34	8.78	Ob	HNHJ	未製品　両端部古欠
74	06-1275	尖頭器	16	38	4.68	1.98	1.32	8.81	Ob	HNHJ	未製品　基部古欠
75a	06-393	尖頭器	28	64	2.91	2.75	1.38	5.04	Ob	未同定	未製品　基部古欠
75b	06-819		19								
76	06-917	尖頭器	19	27	2.30	1.48	0.70	1.46	Ob	HNHJ	未製品　基部古欠
77	06-935	尖頭器	19	27	2.37	1.72	0.62	1.05	Ob	HNHJ	未製品　基部古欠
78	06-1600	掻器	28	19	1.76	1.16	0.60	0.91	Ob	AGKT	基部古欠
79	06-1468	掻器	7	1	2.10	2.00	0.79	2.36	Ob	AGKT	
80	14-883	掻器	1	10	1.47	1.96	0.41	0.93	Ob	AGKT	
81	06-431	掻器＋ノッチ	23	107	3.34	1.47	0.53	1.70	Ob	WDTY	基部端古欠
82	06-1583	削器	7	1	3.72	1.76	0.88	4.63	Ob	AGKT	打面部古欠
83	06-1513	削器	6	37	2.66	1.47	0.53	1.66	Ob	SWHD	上部古欠
84	14-292	削器	12	79	2.40	1.80	0.72	2.73	Ob	WDTY	下部古欠
85	14-525	削器	2	16	1.97	1.53	0.48	0.94	Ob	TSTY	左側縁部・上下端部古欠
86	06-628	削器	16	95	5.98	4.50	1.47	33.49	Ca		両端部古欠
87	14-603	削器	10	88	6.68	3.63	2.22	34.09	Ob	HNHJ	
88a	06-1224	削器	16	73	40.80	5.12	2.23	40.34	Ob	HNHJ	
88b	06-715										
89a	06-297	ノッチ	7	15	3.30	2.15	0.73	2.73	Ob	AGKT	
89b	06-1452										
89c	06-304										
90	06-1416	彫器	7	45	3.10	2.02	0.46	2.31	Ob	SWHD	
91	06-1047	ピエス・エスキーユ	7	2	1.63	1.53	0.60	1.62	Ob	AGKT	
92	06-435	敲石	20	106	13.98	9.84	3.26	623.00	An		
93	14-584	敲石	10	66	5.95	2.48	0.94	21.49	Sl		
94	14-295	R・F	外1	24	2.72	1.92	0.74	3.30	Ob	HNHJ	末端部古欠
95	06-1396	R・F	7	31	0.92	1.46	0.78	0.94	Ob	HNHJ	
96	06-1474	R・F	6	24	1.30	1.01	0.30	0.45	Ob	HNHJ	上部古欠
97	06-662	R・F	22	107	1.46	1.28	0.35	0.42	Ob	WDTY	両端部古欠
98	06-1068	R・F	19	64	3.42	2.03	0.83	3.58	Ob	HNHJ	
99	06-657	R・F	28	52	2.00	2.68	1.36	4.18	Ob	HNHJ	基部片　古欠
100	06-253	R・F	6	19	1.30	1.72	0.58	1.45	Ob	AGKT	両端部古欠
101	14-581	R・F	9	56	0.94	1.92	0.23	0.35	Ob	WDTY	左側縁部・上部古欠
102a	06-471	U・F	8	53	7.21	3.02	1.06	17.16	Ch		
102b	06-469										
103	06-357	U・F	29	114	4.71	2.26	0.84	7.28	Ob		右側縁部新欠
104	14-801	U・F	10	17	3.62	2.24	1.12	8.00	Ob	HNHJ	
105	06-560	U・F	16	73	5.12	4.01	1.45	19.11	Ob	HNHJ	
106	06-1404	U・F	10	101	2.83	3.90	1.88	15.40	Ob	SWHD	
107	06-1624	U・F	16	1	2.02	1.44	0.52	0.93	Ob	AGKT	
108a	14-217	U・F	3	15	3.80	1.33	0.53	1.39	Ob	AGKT	
108b	14-551										
109	06-1466	U・F	7	2	2.92	2.21	0.65	3.52	Ob	AGKT	末端部古欠
110	06-48	U・F	30	116	2.65	1.30	0.37	1.28	Ag		
111	06-636	U・F	14	85	2.56	1.50	0.42	1.35	Ob	WDTY	
112	14-1156	U・F	1	14	2.41	1.88	0.60	1.79	Ob	HNHJ	
113	06-1042	U・F	5	25	2.26	1.51	0.54	1.28	Ob		
114	06-1450	U・F	7	36	3.41	1.86	0.97	1.95	Ob	SWHD	末端部古欠
115	06-298	U・F	7	24	2.96	1.92	0.76	3.69	Ob	HNHJ	末端部古・新欠
116	14-1300	U・F	12	81	1.56	1.05	0.22	0.36	Ob	KZOB	末端部古欠
117	06-1631	U・F	18	101	1.82	1.11	0.44	0.65	Ob	WDHY	末端部古欠
118	06-1543	U・F	6	24	4.03	2.66	0.92	8.10	Ob	HNHJ	末端部古欠
119	06-1057	U・F	7	1	2.73	1.66	0.80	2.47	Ob	AGKT	末端部古欠
120	06-1065	U・F	31	35	2.18	2.36	1.14	3.54	Ob	HNHJ	末端部古欠
121	06-1591	U・F	20	27	1.63	1.77	0.42	1.24	Ob	HNHJ	末端部古欠
122	06-1619	U・F	14	13	2.16	1.32	0.56	1.01	Ob		末端部古欠
123	14-1283	U・F	12	81	2.10	1.15	0.25	0.60	Ob	KZOB	両端部古欠
124	06-1411	U・F	7	2	1.22	1.18	0.31	0.40	Ob	AGKT	打面部古欠
125	06-1424	U・F	7	47	3.36	1.60	0.95	2.64	Ob	推定不可	打面部古欠
126	06-1628	U・F	17	31	4.20	2.44	2.18	11.70	Ob	HNHJ	打面部古欠
127	06-402	U・F	17	31	3.88	2.67	1.31	11.32	Ob	HNHJ	打面部古欠
128	06-1594	U・F	11	1	2.50	1.74	0.73	1.82	Ob	推定不可	打面部古欠
129	06-1054	U・F	3	4	2.17	1.64	0.68	0.73	Ob	AGKT	打面部古欠
130	06-1705	U・F	22	31	4.10	2.66	1.22	8.98	Ob	HNHJ	打面部古欠
131	06-1623	U・F	14	36	2.76	1.52	1.14	1.68	Ob	SWHD	打面部古欠
132	06-1044	U・F	7	45	3.60	1.37	0.77	1.75	Ob	SWHD	打面部新欠
133	14-1228	U・F	1	8	2.68	1.52	0.57	1.95	Ob	TSTY	
134	06-470	U・F	8	50	1.72	1.28	0.63	0.63	Ob	WDTY	右側縁部古欠
135	06-1286	U・F	23	31	3.93	1.62	0.94	4.41	Ob	HNHJ	左側縁部古欠
136	06-1536	U・F	7	14	2.55	1.15	0.54	0.88	Ob	SWHD	打面部・右側縁古欠
137	06-574	U・F	16	27	3.50	3.02	1.20	10.34	Ob	HNHJ	末端部古欠
138	06-501	U・F	19	103	4.13	4.07	1.94	28.45	An		末端部古欠
139	06-1290	U・F	外4	6	2.02	2.10	0.42	1.80	Ob	TSTY	右側縁部・末端部古欠
140	14-251	U・F	3	19	1.78	1.66	0.47	0.95	Ob	推定不可	末端部古欠
141	06-1602	U・F	29	6	1.20	1.52	0.34	0.53	Ob	TSTY	末端部古欠
142	06-366	U・F	24	50	1.92	1.80	0.80	1.75	Ob	WDTY	両端部古欠
143	06-1710	U・F	22	108	4.74	5.30	2.00	23.09	Ob	WDKB	打面部古欠
144	06-580	U・F	12	75	4.32	4.45	0.93	11.20	An		打面部古欠
145	06-729	U・F	7	40	1.22	2.21	0.50	1.00	Ob	WDTY	打面部古欠
146	06-1291	U・F	29	82	3.30	3.18	0.80	6.41	Ob	箱根黒岩橄榄	打面部古欠
147	06-485	U・F	12	74	3.12	3.45	1.20	8.25	Ob	HNHJ	打面部古欠
148	14-1155	U・F	1	1	1.75	1.64	0.51	0.97	Ob	AGKT	打面部～左側縁部古欠
149	14-1154	U・F	1	8	2.04	2.20	0.46	1.92	Ob	TSTY	打面部古欠
150	06-234	U・F	6	28	2.34	2.82	1.05	5.49	Ob	SWHD	
151	06-1031	U・F	6	32	2.50	1.98	0.74	3.74	Ob	SWHD	
152	06-248	U・F	7	14	2.12	1.90	0.46	0.87	Ob	SWHD	
153	06-1652	U・F	29	1	1.32	2.27	0.74	1.37	Ob	AGKT	末端部古欠
154	06-1482	U・F	6	37	1.32	1.80	0.81	1.21	Ob	SWHD	
155	06-423	U・F	16	64	1.57	1.73	0.80	0.90	Ob	HNHJ	
156	06-571	U・F	16	93	3.42	3.62	0.93	9.29	Ob	HNHJ	右側縁部・打面部古欠
157	14-610	U・F	12	78	2.82	3.20	0.74	3.51	Ch		末端部一部古欠
158	06-800	U・F	16	27	3.06	2.20	1.05	5.06	Ob	HNHJ	末端部古欠
159	06-680	U・F	19	27	2.52	2.98	1.00	3.65	Ob	HNHJ	
160	06-782	U・F	16	27	3.14	3.06	0.85	4.78	Ob	HNHJ	左側縁部・打面部古欠
161	06-1216	U・F	16	27	1.98	2.14	0.52	2.00	Ob	HNHJ	両端部古欠
162	06-1093	U・F	19	27	2.58	2.82	1.12	3.92	Ob	HNHJ	両端部古欠
163	06-429	U・F	22	38	2.24	1.88	0.80	2.32	Ob	HNHJ	
164	06-1034	U・F	6	34	2.02	1.48	0.53	0.71	Ob	WDTY	
165	06-1664	石刃	29	115	4.92	2.31	0.96	7.47	Ho		

付　表

挿図No.	整理No.	器種	ブロック	個体	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	TSTY	備 考
166	06-161	石刃	10	59	4.82	2.93	0.80	9.96	Ho		
167	06-1519	石刃	7	28	3.58	1.48	1.37	3.96	Ob	SWHD	稜付石刃
168	14-238	石刃	3	10	2.23	1.12	0.35	0.66	Ob	AGKT	
169	06-1663	折石刃	6	24	2.93	1.82	0.51	2.10	Ob	HNHJ	末端部古・新欠
170	06-1460	折石刃	7	19	2.32	0.98	0.42	0.88	Ob	AGKT	末端部古欠・右側縁部新欠
171	06-1539	折石刃	7	19	2.00	0.85	0.39	0.23	Ob	AGKT	末端部～右側縁部古欠
172	06-1609	折石刃	10	65	1.82	0.80	0.32	0.36	Ho		末端部古欠
173	06-1531	折石刃	7	15	1.50	0.80	0.29	0.24	Ob	推定不可	末端部古欠
174	06-1436	折石刃	7	14	1.43	1.10	0.24	0.29	Ob	SWHD	末端部古欠
175	06-1582	折石刃	7	1	2.52	1.53	0.27	0.80	Ob	AGKT	両端部古欠
176	06-1540	折石刃	7	1	2.52	1.23	0.60	1.02	Ob	推定不可	両端部古欠・左側縁部新欠
177	06-1457	折石刃	7	14	1.80	0.94	0.24	0.35	Ob	SWHD	両端部古欠
178	06-395	折石刃	28	28	2.83	1.02	0.70	0.61	Ob		打面部古欠
179	06-1480	折石刃	6	14	3.47	2.52	1.02	6.24	Ob		打面部古欠
180	06-1518	折石刃	7	1	2.36	1.38	0.48	1.07	Ob	SWHD	打面部古欠（はじけ）
181	06-1430	折石刃	7	1	1.21	0.87	0.28	0.23	Ob	AGKT	打面部古欠
182	06-250	折石刃	7	24	1.52	1.16	0.60	0.62	Ob	AGKT	打面部古欠
183	14-608	剥片	9	58	2.13	3.77	0.50	1.69	Sl		ポイント・フレイク
184	06-243	石核	7	26	3.40	2.74	2.26	19.50	Ob	HNHJ	
185	06-466	石核	6	19	2.90	1.04	0.73	1.77	Ob	推定不可	
186	06-437	石核	7	32	3.28	2.13	1.72	10.42	Ob	SWHD	
187	14-145	石核	3	1	2.17	2.31	1.52	4.93	Ob	AGKT	
188	14-865	石核	1	3	1.64	3.10	1.56	7.87	Ob	推定不可	
189	14-799	石核	10	69	2.20	2.92	1.43	8.59	Ob	AGKT	
190	14-271	石核	4	23	2.12	2.61	2.45	9.63	Ob	推定不可	
191	14-544	石核	3	22	2.18	3.35	3.94	28.51	Ob	AGKT	
192	06-565	石核	16	38	3.08	5.93	4.20	59.41	Ob	HNHJ	
193	06-733	石核	10	62	4.78	5.38	5.53	175.00	An		
194	06-1618	石核	13	29	6.20	6.52	2.98	113.00	Ch		
195	－	－	－	78	8.22	2.60	1.05	18.03	Ch		接合状態
196	14-611	剥片	12	78	1.46	1.48	0.32	0.42	Ch		ポイント・フレイク
197	－	－	－	27	2.65	2.40	1.12	4.02	Ob		接合状態
198	06-814	剥片	19	27	2.10	2.62	0.90	2.95	Ob	HNHJ	
199	－	－	－	73	4.48	5.10	2.82	59.45	Ob		接合状態
200	－	－	－	1	5.42	2.04	1.12	7.12	Ob		接合状態
201	－	－	－	14	2.93	1.62	0.87	2.69	Ob		接合状態
202	－	－	－	32	3.60	2.08	2.18	14.16	Ob		接合状態
203	－	－	－	29	6.67	6.58	3.34	145.71	Ch		接合状態
204	06-306	剥片	6	29	3.22	1.78	0.40	1.47	Ch		末端部古欠
205	06-1479	折片	6	29	1.30	2.38	0.22	0.56	Ch		打面部・左側縁部古欠
206a	14-798	剥片	10	29	3.46	2.88	0.60	2.73	Ch		打面部一部新欠・左側縁部古欠
206b	06-1520		7								
207	14-797	剥片	10	29	2.03	2.18	0.62	2.93	Ch		左側縁部古欠
208	06-1662	剥片	7	29	2.41	2.50	0.87	3.86	Ch		
209	06-1472	剥片	6	29	2.50	4.60	2.62	21.16	Ch		

第Ⅲ文化層

挿図No.	整理No.	器種	遺構	個体	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	産地	備 考
1	06-1606	ナイフ形石器	25	232	5.92	1.52	1.10	7.82	An		先端部新欠
2		ナイフ形石器	1						An		
3	06-1589	ナイフ形石器	26	234	4.61	1.46	0.70	2.99	An		
4	14-85	ナイフ形石器	7	9	4.03	1.36	0.75	2.28	Ob	SWHD	
5	14-604	ナイフ形石器	24	124	2.63	1.32	0.68	2.12	Ob	HNHJ	先端部古欠
6	14-205	ナイフ形石器	14	188	3.70	1.24	0.74	2.64	Ho		先端～刃部剥落
7	14-97	ナイフ形石器	3	7	3.65	1.12	0.74	1.85	Ob	SWHD	先端部古欠・末端剥落
8	14-785	ナイフ形石器	17	124	3.66	1.74	0.70	3.30	Ob	HNHJ	先端部古欠
9	06-1408	ナイフ形石器	21	223	3.50	1.64	0.55	1.89	Rh		先端部古欠
10	14-378	ナイフ形石器	7	72	3.55	1.30	0.70	1.90	An		
11	14-658	ナイフ形石器	8	43	3.51	1.22	0.64	2.02	Ob	HNHJ	先端部衝撃剥離
12	14-69	ナイフ形石器	12	174	2.77	1.66	0.48	1.73	Ob	SWHD	両端部古欠
13	14-458	ナイフ形石器	8	43	3.26	1.58	0.56	2.00	Ob	HNHJ	
14	14-650	ナイフ形石器	8	131	3.02	1.34	0.70	1.45	Ob	HNHJ	先端部古欠
15	14-162	ナイフ形石器	17	202	3.13	1.28	0.31	1.43	Rj		先端部衝撃剥離
16	14-628	ナイフ形石器	14	193	3.00	1.16	0.60	1.48	Sh		先端部古欠
17	14-144	ナイフ形石器	12	179	2.93	1.63	1.02	3.67	Ob	HNHJ	
18	16-7	ナイフ形石器	30	252	2.10	1.28	0.65	1.37	Ob	未同定	両端部古欠
19	14-493	ナイフ形石器	11	168	2.73	1.20	0.43	1.02	Ta		
20	14-384	ナイフ形石器	5	65	2.57	1.10	0.56	1.39	Ob	TSTY	
21	14-389	ナイフ形石器	7	9	2.35	1.14	0.54	1.02	Ob	SWHD	基部端古欠
22	14-436	ナイフ形石器	8	2	2.41	1.12	0.40	0.97	Ob	HNHJ	
23	14-1301	ナイフ形石器	23	230	2.21	1.19	0.54	1.25	Ob	HNHJ	
24	14-75	ナイフ形石器	12	129	2.30	1.26	0.50	1.22	Ho		
25	14-120	ナイフ形石器	5	14	2.24	1.38	0.68	2.09	Ob	HNHJ	左側縁部新欠
26	14-660	ナイフ形石器	8	43	1.82	0.91	0.32	0.47	Ob	推定不可	
27	14-89	ナイフ形石器	15	9	2.46	1.58	0.42	1.17	Ob	SWHD	刃部一部古欠
28	14-904	ナイフ形石器	8	43	2.58	1.56	0.54	1.40	Ob	HNHJ	刃部～右側縁一部古欠
29	14-1140	ナイフ形石器	7	108	3.60	1.87	0.64	3.33	Tu		
30	14-651	ナイフ形石器	8	14	1.72	1.16	0.87	1.16	Ob	HNHJ	
31	14-716	ナイフ形石器	4	34	1.60	1.18	0.56	0.83	An		
32	14-715	ナイフ形石器	4	46	4.30	1.61	1.02	4.65	Tu		
33	14-104	ナイフ形石器	12	99	3.45	1.63	0.94	2.98	Ho		
34	14-346	ナイフ形石器	4	29	3.40	1.34	0.64	2.93	An		
35	14-770	ナイフ形石器	14	190	3.10	1.30	7.00	1.99	An		左側縁一部新欠
36	14-718	ナイフ形石器	4	33	2.80	1.57	0.54	2.14	Tu		右側縁新欠
37	14-349	ナイフ形石器	4	31	2.72	0.93	0.42	0.77	An		
38	14-619	ナイフ形石器	14	133	3.15	1.45	0.86	4.27	Ho		基部剥落
39	14-259	ナイフ形石器	14	190	5.96	2.70	0.78	12.02	An		
40	14-939	ナイフ形石器	7	47	3.38	1.26	0.60	1.51	流		先端部古欠
41	14-514	ナイフ形石器	10	146	3.40	1.50	0.98	2.79	Ho		先端部・右側縁一部剥落
42	14-32	ナイフ形石器	3	19	2.94	1.58	0.88	2.02	Ob	SWHD	先端部古欠
43	14-920	ナイフ形石器	8	91	2.30	1.61	0.46	1.66	Ho		先端部剥落・基部新欠
44	14-373	ナイフ形石器	5	16	1.73	1.28	0.51	0.73	Ob	SWHD	
45	14-110	ナイフ形石器	12	132	2.61	1.50	0.69	2.81	Ho		
46	14-660	ナイフ形石器	12	69	2.13	1.59	0.48	1.34	Ho		基部端剥落
47	14-818	ナイフ形石器	23	228	3.98	1.70	0.98	4.06	Ob	WDTY	左側縁一部新欠
48	06-1526	ナイフ形石器	21	226	2.90	1.48	0.47	1.80	An		基部古欠
49	14-649	ナイフ形石器	8	43	1.76	1.49	0.30	0.57	Ob	HNHJ	基部古欠
50	16-26	ナイフ形石器	3	9	1.58	1.01	0.32	0.27	Ob	未同定	両端部古欠
51	14-303	ナイフ形石器	18	208	1.22	0.88	0.24	0.18	Ob	WDHY	基部古欠
52	06-1605	ナイフ形石器	25	231	1.58	1.62	0.34	0.66	Ob	WDTY	両端部古欠
53	14-136	ナイフ形石器	5	7	1.50	1.17	0.39	0.53	Ob	SWHD	先端部新欠・基部古欠
54	14-490	尖頭器	11	43	1.41	1.70	0.52	1.04	Ob	HNHJ	両端部古欠
55	14-395	尖頭器	7	77	3.27	2.24	0.74	4.79	Ob	WDTY	先端部古欠
56	14-372	尖頭器	5	4	4.33	2.04	0.71	5.59	Ob	SWHD	先端部古欠
57	14-395	尖頭器	5	7	3.14	1.35	0.80	2.40	Ob	SWHD	
58	14-1153	尖頭器	7	113	2.90	1.60	0.66	2.28	Ob	WDTY	
59	14-375	尖頭器	5	61	5.71	2.72	1.18	18.99	Ho		先端部古欠・基部端剥落
60	06-1590	尖頭器	26	235	3.93	1.48	0.52	2.49	Tu		
61	14-123	尖頭器	12	174	3.56	1.43	0.42	1.57	Ob	SWHD	
62	14-704	尖頭器	2	8	2.36	1.55	0.46	1.67	Ch		先端部古欠
63	14-1199	尖頭器	4	20	1.90	0.94	0.65	0.86	Ob	推定不可	基部古欠
64	14-394	掻器	7	76	5.16	2.05	0.78	5.82	Sh		
65	06-408	掻器	21	220	5.24	2.06	1.64	10.19	Ob	SWHD	
66	16-45	掻器	28	242	4.42	2.27	1.14	9.51	Rh		
67	14-67	掻器	12	9	5.23	1.78	1.04	7.52	Ob	SWHD	
68	16-3	掻器	29	248	4.92	1.75	2.71	21.57	An		
69	14-944	掻器	7	98	5.74	2.86	1.23	11.80	An		左側縁部一部新欠
70	14-1146	掻器	7	111	40.20	2.13	0.61	3.75	An		
71	16-26	掻器	29	236	2.25	1.84	0.80	2.52	Ob	未同定	打面部古欠・右側縁部新欠
72	14-881	掻器＋彫器	7	94	3.08	2.38	1.45	8.22	Sh		
73	14-884	削器	7	2	5.30	1.88	1.48	7.22	Ob	SWHD	
74	16-12	削器	28	239	4.80	3.17	1.12	9.95	Ho		右側縁部一部剥落
75	06-1391	削器	21	211	2.68	1.84	0.47	2.37	Ob	SWHD	両端部古欠
76	14-310	削器	2	2	2.91	2.42	1.08	6.07	Ob	SWHD	両端部古欠
77	14-640	削器	10	95	4.15	2.12	0.80	6.64	Ho		
78	14-74	削器	12	176	4.06	2.64	1.85	11.74	Ho		右側縁部一部剥落
79	16-12	削器	29	247	7.33	4.80	1.58	34.23	Rj		
80	14-274	削器	17	203	2.73	2.16	0.90	4.79	Ob	TSTY	
81	14-72	彫器	12	175	4.56	2.55	1.02	10.17	Rj		末端部古欠
82	14-1127	彫器	7	70	4.52	2.66	1.21	14.50	Ho		
83	14-92	彫器	3	21	2.70	1.67	0.81	3.52	Ch		
84	14-629	彫器	14	195	4.30	2.81	1.04	9.82	Ch		
85	14-635	彫器	11	172	2.15	1.64	0.73	2.41	Ob	TSTY	
86	14-22	彫器	3	15	3.62	2.81	0.91	8.98	Ch		基部古欠
87	06-1415	彫器	21	224	2.72	2.16	1.12	4.91	Ca		未製品
88	14-1188	ノッチ	7	115	5.91	2.11	0.90	5.90	Tu		末端部古欠
89	14-664	ノッチ	7	7	3.87	2.83	0.95	8.36	Ob	推定不可	
90	14-376	ノッチ	5	62	4.37	1.79	1.26	5.91	Ob	WDTY	打面部ハジケ
91	14-362	ノッチ	4	40	5.20	2.62	1.47	15.39	Ca		
92	14-907	ピエス・エスキーュ	8	1	2.28	2.50	1.46	7.72	Ob	HNHJ	
93	14-445	ドリル	8	43	2.64	1.31	0.71	1.73	Ob	HNHJ	
94	14-950	R・F	7	92	1.84	2.95	0.74	3.72	Ob	HNHJ	両端部古欠
95	14-661	R・F	8	92	1.63	0.98	0.34	0.52	Ob	HNHJ	上部部・右側縁部古欠
96	14-390	R・F	7	74	2.62	1.63	1.04	2.65	Ob	SWHD	打面部古欠
97	14-347	R・F	4	20	2.72	2.44	0.66	3.01	Ob	SWHD	両端部古欠
98	14-326	R・F	2	4	2.63	1.80	1.08	2.49	Ob	SWHD	両端部古欠
99	14-324	R・F	2	5	2.08	1.42	0.47	0.92	Ob	SWHD	上部古欠
100	14-714	R・F	4	7	2.44	1.02	0.71	1.45	Ob	SWHD	断片古欠
101	14-696	R・F	14	182	2.24	2.03	0.86	2.82	An		末端部古欠
102	14-486	R・F	12	124	3.66	1.64	1.13	4.51	Ob	HNHJ	
103	14-388	U・F	7	73	7.20	3.16	1.48	17.92	An		
104	14-480	U・F	12	178	6.74	2.66	1.14	15.21	Tu		
105	14-530	U・F	11	170	6.45	2.12	1.06	7.33	Tu		
106	06-417	U・F	24	220	4.75	3.00	1.02	9.51	Ob	SWHD	
107	14-374	U・F	5	16	4.34	1.27	0.95	2.13	Ob	SWHD	
108	14-565	U・F	14	2	4.47	1.73	1.33	6.02	Ob	SWHD	打面部新欠
109	14-1209	U・F	4	46	4.25	2.18	0.78	5.66	Tu		
110	14-677	U・F	4	44	4.04	1.45	0.94	3.51	An		
111	14-17	U・F	3	7	3.94	1.03	0.72	1.90	Ob	SWHD	
112	14-705	U・F	2	9	3.60	1.98	0.78	3.24	Ob	SWHD	
113	14-793	U・F	19	4	3.53	1.20	0.53	1.33	Ob	SWHD	
114	14-720	U・F	4	4	3.51	1.74	1.23	3.42	Ob	SWHD	
115	14-680	U・F	4	3	3.33	2.18	0.38	1.66	Ob	SWHD	
116	14-680	U・F	2	7	3.15	1.01	0.60	0.88	Ob	SWHD	打面部ハジケ
117	14-563	U・F	14	194	3.11	1.48	0.64	1.67	Tu		
118	14-1253	U・F	10	96	3.18	2.15	0.74	4.51	An		
119	14-926	U・F	8	43	2.72	1.20	0.73	1.86	Ob	HNHJ	
120	14-155	U・F	16	198	3.52	2.51	0.92	3.61	Ob	WDTN	末端部古欠
121	06-445	U・F	21	4	2.82	1.86	0.75	2.05	Ob	SWHD	右側縁部～末端部古欠
122	14-1142	U・F	7	63	2.67	1.78	0.48	1.89	Ob	WDTY	末端部古欠
123	14-612	U・F	16	201	2.27	1.28	0.60	1.20	Ob	WDTY	末端部古欠
124	14-469	U・F	12	43	2.45	1.58	0.66	2.05	Ob	HNHJ	末端部古欠
125	14-1307	U・F	23	6	2.00	1.68	0.55	1.40	Ob	SWHD	末端部古欠・打面部一部新欠
126	06-1525	U・F	21	4	4.98	1.19	0.86	2.01	Ob	SWHD	両端部古欠
127	14-1171	U・F	17	207	4.57	2.58	1.90	18.12	Ob	未同定	両端部古欠
128	14-18	U・F	3	12	3.56	1.33	0.50	1.65	Ch		両端部古欠
129	14-1234	U・F	10	165	2.35	2.53	0.86	4.54	Ob	AGKT	両端部古欠
130	14-1194	U・F	7	86	2.12	1.38	0.37	0.83	Ob	TSTY	両端部古欠
131	14-1192	U・F	7	107	5.65	1.92	1.08	5.06	流		打面部古欠
132	14-1137	U・F	7	107	4.80	2.50	1.31	8.76	流		打面部古欠・末端部一部新欠
133	14-319	U・F	2	4	4.28	2.30	0.48	2.59	Ob	SWHD	打面部古欠
134	06-1512	U・F	21	225	3.98	3.23	1.78	21.63	Ob	WDTY	打面部古欠
135	14-1029	U・F	10	155	3.02	1.27	0.56	0.94	An		打面部古欠
136	14-29	U・F	3	9	3.34	2.43	0.76	4.35	Ob	SWHD	打面部古欠
137	14-125	U・F	外2	122	3.01	3.07	1.28	7.62	Ob	AGKT	打面部古欠
138	14-1188	U・F	5	3	1.81	1.93	0.37	1.15	Ob	SWHD	打面部古欠
139	14-379	U・F	5	63	1.82	1.64	0.67	1.44	Ob	WDTY	打面部古欠
140	14-19	U・F	3	7	1.77	0.90	0.93	0.78	Ob	SWHD	打面部古欠
141	14-541	U・F	11	171	5.40	4.32	0.94	15.91	Tu		
142	14-91	U・F	15	197	4.97	3.98	1.48	21.64	Rj		
143	14-528	U・F	11	170	4.50	3.58	1.52	19.45	Tu		
144	14-82	U・F	外4	1	4.20	2.44	0.70	7.20	Ob	HNHJ	
145	14-357	U・F	4	3	3.25	2.36	0.70	1.96	Ob	SWHD	末端部一部古欠
146	14-223	U・F	13	6	2.78	1.14	0.74	1.04	Ob	SWHD	
147	16-50	U・F	27	236	2.76	1.22	0.63	0.92	Ob	未同定	右側縁一部新欠
148	14-706	U・F	2	5	2.75	1.36	0.51	1.07	Ob	SWHD	
149	06-650	U・F	外6	231	2.60	1.94	0.42	2.15	Ob	WDTY	
150	16-60	U・F	27	237	2.30	1.74	0.370.87	1.60	Ob	未同定	
151	14-885	U・F	7	1	2.17	1.53	0.42	1.07	Ob	HNHJ	両端部古欠
152	14-368	U・F	3	1	5.35	2.93	1.62	17.08	Ob	HNHJ	打面部古欠
153	06-436	U・F	19	211	3.21	3.42	1.08	9.91	Ob	SWHD	

付　表

挿図No	整理No	器種	ブロック	個体	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	TSTY	備 考
154	14-162	U・F	3	11	2.88	2.84	0.67	4.45	Ob	HNHJ	右側縁古欠
155	14-459	U・F	8	23	3.22	3.88	1.14	13.79	Ob	HNHJ	
156	14-895	U・F	8	1	3.72	4.47	1.16	16.64	Ob	HNHJ	
157	14-467	U・F	11	124	2.08	2.46	0.72	2.44	Ob	HNHJ	
158	14-243	U・F	13	186	1.57	2.65	0.73	1.40	Ca		
159	14-931	石刃	8	138	11.38	3.10	2.14	41.62	Ho		
160	14-1136	石刃	7	106	6.50	2.11	0.76	9.03	Ho		末端部剥落・右側縁一部欠
161	14-911	石刃	8	97	8.42	2.82	0.91	17.07	Ho		
162	16-49	石刃	28	107	7.20	1.61	1.50	11.15	Rh		末端部・左側縁一部古欠
163	14-902	石刃	8	134	7.58	2.07	1.50	15.16	Ho		
164	14-594	石刃	12	145	6.86	2.20	1.53	16.53	Ho		
165	14-642	石刃	10	95	6.32	2.22	1.18	12.41	Ho		
166	14-1143	石刃	7	109	2.93	2.48	1.06	2.88	An		
167	14-624	石刃	14	37	4.00	1.81	0.79	3.65	Ta		
168	14-474	石刃	12	45	7.06	4.21	1.32	24.24	Rh		
169	14-758	石刃	8	66	4.57	1.78	0.59	3.91	Ho		
170	14-1123	石刃	7	99	6.38	2.04	1.72	12.51	Ho		
171	14-1020	石刃	10	134	6.12	2.83	1.04	17.25	Ho		
172	14-922	石刃	8	137	4.17	2.13	0.89	6.49	Ho		
173	14-1022	石刃	10	153	6.12	3.33	0.74	20.14	Ho		末端部一部剥落
174	14-1077	石刃	10	163	3.76	1.80	0.62	3.48	Ho		
175	14-351	石刃	4	33	5.77	2.63	0.80	10.36	Tu		
176	14-1130	石刃	7	70	4.95	2.32	1.22	11.92	Ho		
177	14-369	石刃	3	22	4.70	2.21	0.76	7.03	An		
178	14-1111	石刃	10	95	5.53	2.88	1.22	15.17	Ho		右側縁一部剥落
179	14-473	石刃	12	180	6.53	3.98	1.12	31.93	Ho		
180	14-1063	石刃	10	160	4.80	1.09	0.62	1.88	Ho		
181	14-507	石刃	9	85	3.84	1.56	0.54	3.81	Ho		
182	14-297	石刃	15	69	6.28	3.69	1.52	17.96	Ho		
183	14-1059	石刃	10	160	6.00	2.78	0.95	8.28	Ho		
184	14-945	石刃	7	70	5.60	2.42	0.90	12.84	Ho		
185	14-631	石刃	15	145	5.90	2.44	2.32	22.13	Ho		
186	14-1026	石刃	10	132	3.63	1.78	0.56	4.02	Ho		
187	14-929	石刃	8	134	5.80	2.32	1.21	10.54	Ho		
188	14-476	石刃	12	182	5.14	1.98	1.20	8.41	An		
189	16-47	石刃	28	244	5.31	2.01	0.71	5.49	Tu		
190	14-1190	石刃	7	116	5.66	2.56	1.33	12.63	Ho		
191	16-59	石刃	1	22	5.80	3.21	1.40	18.87	An		
192	14-134	石刃	10	143	3.87	1.51	1.12	4.68	An		
193	14-299	石刃	14	193	3.74	2.07	0.64	2.86	Sh		末端部一部古欠
194	14-1060	石刃	10	161	5.93	3.35	0.94	15.15	Ho		末端部剥落
195	14-300	石刃	14	189	5.14	2.80	0.82	7.71	Tu		
196	14-1207	石刃	4	55	5.10	2.02	1.38	6.95	An		
197	14-580	石刃	19	214	5.25	2.41	1.55	15.11	An		
198	14-634	石刃	11	69	3.24	2.24	0.48	3.94	Ho		
199	14-392	石刃	7	75	4.92	2.42	1.35	9.54	An		
200	16-13	石刃	28	110	4.67	1.96	1.38	10.14	Ta		
201	14-1093	石刃	10	91	5.48	3.63	1.52	22.38	Ho		
202	14-1250	石刃	10	116	3.28	1.22	0.41	1.47	Ho		
203	14-472	石刃	12	69	5.34	3.22	1.40	28.32	Ho		
204	14-1193	石刃	7	117	2.82	1.28	0.47	0.84	An		
205	14-211	石刃	14	189	2.75	1.23	0.52	1.36	Tu		
206	14-1181	石刃	10	136	5.18	2.64	1.10	9.20	Ho		
207	14-1098	石刃	7	97	4.28	2.20	0.88	6.74	Ho		
208	14-846	石刃	4	44	3.50	1.63	0.96	4.17	An		
209	14-86	石刃	外1	253	4.82	3.51	1.28	17.63	Ho		
210	14-77	石刃	12	133	4.62	2.31	1.19	12.55	Ho		
211	14-709	石刃	3	16	3.06	2.31	0.56	2.84	Ob	SWHD	
212	14-568	石刃	14	189	2.36	1.86	0.55	2.16	Tu		
213	14-475	石刃	12	181	4.56	2.61	1.28	9.87	An		
214	14-1208	石刃	4	56	4.13	2.26	1.72	6.93	An		
215	14-35	石刃	3	3	1.98	1.07	0.28	0.30	Ob	SWHD	
216	14-222	石刃	13	6	1.96	1.19	0.66	1.20	Ob	SWHD	
217	14-925	石刃	8	91	4.01	3.00	0.69	9.63	Ho		
218	14-1072	石刃	11	162	4.00	2.63	1.08	13.20	Ho		
219	14-942	石刃	7	97	4.10	2.48	1.12	8.31	Ho		
220	14-915	石刃	8	134	3.38	1.86	1.03	4.97	Ho		
221	16-4	折石刃	30	249	5.70	3.83	1.62	25.20	Ob	未同定	右側縁新欠
222	14-717	折石刃	4	48	1.70	1.92	0.41	1.20	Tu		末端部古欠
223	14-800	折石刃	24	43	3.57	2.76	0.92	6.35	Ob	HNHJ	末端部古欠
224	14-1235	折石刃	4	59	5.62	4.06	0.85	11.47	Tu		末端部古欠
225	14-504	折石刃	7	78	2.43	1.17	0.52	0.90	An		末端部古欠
226	16-17	折石刃	29	237	2.40	1.02	0.40	0.70	Ob	未同定	末端部古欠
227	14-1139	折石刃	7	83	4.21	2.17	1.34	8.52	流		末端部古欠
228	14-873	折石刃	7	80	4.61	1.72	1.22	5.80	Rh		末端部古欠
229	14-1148	折石刃	7	112	4.83	2.17	0.88	7.72	An		末端部古欠
230	14-1027	折石刃	10	85	2.97	1.93	0.65	3.09	Ho		末端部古欠

挿図No	整理No	器種	ブロック	個体	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	TSTY	備 考
231	14-302	折石刃	18	6	2.36	0.91	0.46	0.51	Ob	SWHD	末端部古欠
232	14-1157	折石刃	7	23	2.10	1.24	0.55	1.20	Ob	HNHJ	末端部古欠
233	06-2	折石刃	21	217	2.19	1.18	0.32	0.67	Sh		末端部古欠
234	14-28	折石刃	3	9	1.98	1.13	0.43	0.71	Ob	SWHD	末端部古欠
235	14-180	折石刃	17	78	1.87	1.36	0.40	0.90	An		末端部古欠
236	14-98	折石刃	3	5	1.64	0.90	0.25	0.34	Ob	SWHD	末端部古欠・左側縁一部新欠
237	14-953	折石刃	7	73	1.41	1.66	0.49	1.17	An		末端部古欠
238	14-605	折石刃	19	189	1.43	1.46	0.58	0.79	Tu		末端部古欠
239	14-263	折石刃	14	189	1.28	1.70	0.47	0.84	Tu		末端部古欠
240	14-1068	折石刃	10	153	4.13	1.08	0.69	1.60	Ho		両端部古欠・両側縁剥落
241	14-572	折石刃	17	204	3.73	2.06	0.96	4.36	An		打面部ハジケ・末端部古欠
242	14-852	折石刃	外3	254	3.91	1.64	0.57	2.35	An		両端部古欠
243	14-670	折石刃	7	82	3.31	2.40	0.57	3.47	An		両端部古欠
244	14-1132	折石刃	7	104	2.67	1.21	0.37	1.14	Ho		両端部古欠
245	14-267	折石刃	14	192	2.70	1.21	0.56	1.79	Ho		両端部古欠
246	14-266	折石刃	14	43	1.74	1.23	0.44	0.92	Ob	HNHJ	打面部ハジケ・末端部古欠
247	14-207	折石刃	14	189	1.80	0.76	0.62	0.64	Tu		両端部古欠
248	14-636	折石刃	11	173	7.35	2.22	1.11	12.66	Ho		打面部古欠
249	14-1036	折石刃	10	132	4.70	2.38	1.32	6.53	Ho		打面部古欠
250	14-1116	折石刃	7	102	4.80	2.17	1.19	8.64	Rh		打面部古欠
251	14-1067	折石刃	10	162	6.90	2.16	1.04	6.73	Ho		打面部古欠
252	14-1129	折石刃	7	85	2.90	0.98	0.41	0.95	Ho		打面部古欠・両側縁剥落
253	14-281	折石刃	16	200	3.06	0.95	0.65	1.36	An		打面部古欠・左側縁新欠
254	14-1260	折石刃	7	120	4.01	1.27	1.00	2.94	Ta		打面部古欠
255	14-542	折石刃	11	24	3.68	1.20	91.00	2.41	Ta		打面部古欠
256	14-1031	折石刃	10	99	5.81	1.73	0.66	4.70	Ho		打面部～左側縁古欠
257	14-212	折石刃	16	199	2.61	1.38	0.68	1.03	SSh		打面部古欠
258	14-678	折石刃	4	45	2.10	0.81	0.41	0.35	Rh		打面部ハジケ
259	14-1210	折石刃	4	53	4.07	1.70	0.61	3.99	Tu		打面部古欠
260	14-1251	折石刃	10	85	3.71	2.40	0.62	4.90	Ho		打面部古欠
261	14-1023	折石刃	10	154	4.03	2.83	1.07	6.32	Ho		打面部古欠
262	14-793	折石刃	12	176	3.30	1.64	1.11	4.82	Ho		打面部古・著欠,左側縁剥落
263	06-1029	折石刃	21	70	3.81	1.85	1.02	4.90	Ho		打面部古欠・左側縁剥落
264	14-37	折石刃	3	4	2.63	2.15	1.46	6.46	Ob	SWHD	打面部古欠
265	14-562	折石刃	14	189	2.08	1.94	0.70	2.12	Tu		打面部古欠・末端一部新欠
266	16-24	折石刃	3	9	2.46	1.02	0.52	0.47	Ob	未同定	
267	14-818	石刃	12	178	3.53	1.38	0.74	1.91	Tu		
268	14-64	石刃	10	142	3.70	2.32	0.86	5.66	Tu		
269	14-210	石刃	14	196	3.82	1.92	0.94	3.86	Rh		
270	14-1180	石刃	10	136	5.91	3.00	1.11	15.73	Ho		
271	14-103	折石刃	12	144	5.38	1.34	1.06	6.93	Tu		
272	14-489	折石刃	10	129	4.01	2.59	0.74	7.42	Ho		
273	14-1236	石刃	9	70	3.96	1.90	1.21	6.96	Ho		
274	14-355	石刃	4	37	3.42	1.73	1.03	2.58	Ta		
275	14-622	石刃	14	178	3.90	2.11	0.60	2.72	Tu		
276	14-673	石刃	6	69	3.08	2.98	1.22	7.33	Ho		
277	14-1210	折石刃	8	43	2.91	1.82	0.63	3.10	Ob	HNHJ	
278	14-1273	石核	12	184	3.58	3.60	1.96	29.94	Ch		
279	14-481	石核	12	178	4.48	3.05	1.51	17.71	Tu		
280	14-304	石核	14	194	5.83	2.14	3.32	39.22	Tu		
281	14-5	石核	3	10	4.81	4.54	3.22	69.07	Tu		
282	14-478	石核	12	176	4.08	3.70	3.11	54.70	Ho		
283	14-206	石核	14	189	4.93	3.78	3.92	59.05	Tu		
284	14-1221	石核	5	68	4.45	4.07	2.82	58.84	Ho		
285	14-690	石核	17	143	3.14	2.48	1.96	14.86	An		
286	14-147	石核	14	178	3.41	1.98	3.17	15.95	Tu		
287	16-10	石核	28	238	4.18	3.98	2.56	56.94	Ho		
288	14-265	石核	14	191	6.61	5.47	4.62	185.00	An		
289a	14-1057	石核	10	159	10.92	7.97	2.27	202.00	Ho		
289b	14-777	R・F	17								
290	14-871	石核	7	89	5.68	6.92	3.84	150.00	Ho		
291	14-1045	石核	10	157	3.30	7.21	4.61	128.00	Ta		
292	14-1170	石核	16	148	6.88	5.22	4.56	160.00	Ho		
293	14-822	石核	23	229	12.52	9.04	7.65	1013.00	Tu		
294		接合状態		220	5.53	2.49	2.14	19.70	Ob	SWHD	
295		接合状態		189	5.16	3.22	1.52	9.86	Tu		
296		接合状態		6	1.98	1.61	1.44	2.61	Ob	SWHD	
297		接合状態		182	5.04	2.46	2.27	14.97	An		
298	06-476	剥片	19	182	3.70	1.67	1.02	3.74	An		
299		接合状態		182	5.15	2.27	1.47	11.23	An		
300		接合状態		159	6.65	3.36	2.94	44.07	Ho		
301	14-1055	剥片	10	159	4.92	2.40	1.39	19.22	Ho		
302	14-1094	剥片	10	159	6.65	2.33	1.34	15.92	Ho		
303	14-1053	剥片	10	159	3.83	1.91	1.57	8.95	Ho		
304		接合状態		176	4.82	3.40	3.44	66.44	Ho		
305		接合状態		189	5.06	3.68	3.90	60.41	Tu		
306		接合状態		143	3.69	2.03	2.50	19.53	An		

第２表　礫群計測表

第Ⅱ文化層１号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
1552	−94228.162	44469.551	482.675	53.92	35.50	42.67	90.60	An	F				
1553	−94227.928	44469.587	482.758	51.64	24.66	26.83	45.00	An	F				
1554	−94227.877	44471.354	482.971	69.03	32.40	64.12	184.10	An	F			接01	
1555	−94227.706	44471.285	482.995	40.90	16.63	35.79	25.30	Ho	F			接02	
1556	−94227.588	44471.247	483.016	116.31	41.52	58.85	254.30	An	F			接01	
1557	−94227.394	44471.191	483.051	123.85	47.10	63.85	368.40	Ho	F			接03	
1558	−94227.221	44471.241	483.092	94.87	33.46	51.90	145.20	Ho	F			接02	
1559	−94227.293	44471.352	483.081	111.31	35.20	74.08	258.70	Ho	F			接03	
1581	−94227.273	44471.282	483.067	64.32	33.01	32.78	66.80	An	F			接01	

第Ⅱ文化層２号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
308	−94235.588	44472.014	481.977	77.17	52.28	73.38	200.30	An	A	●			
309	−94235.490	44472.012	482.004	91.38	51.57	57.64	317.80	An	A	●			
310	−94235.217	44472.224	482.089	45.03	27.11	32.45	40.30	An	F	●			
311	−94235.253	44472.343	482.087	34.76	17.19	25.10	15.80	An	F	●			
312	−94235.110	44472.264	482.010	78.46	45.80	49.70	172.50	An	F	●			
313	−94235.112	44472.438	482.017	82.29	55.09	63.94	311.80	An	A	●			
314	−94235.048	44472.488	482.014	74.65	48.22	50.23	196.40	An	E	●			
315	−94234.896	44472.438	482.113	68.79	53.08	61.44	232.10	An	A	●	●		
316	−94234.844	44472.384	482.112	80.38	28.65	58.11	133.50	An	A	●	●		
317	−94234.981	44472.561	482.024	67.80	39.09	55.48	147.90	An	A	●	●		
318	−94234.954	44472.953	482.058	86.56	33.44	55.48	178.20	An	A	●			
319	−94234.828	44473.077	482.036	35.57	17.26	28.67	17.40	An	A	●	●		
320	−94234.846	44473.036	482.073	58.16	42.30	58.05	144.10	An	A	●			
321	−94234.761	44473.195	482.083	59.90	28.79	37.82	61.80	An	A	●			
322	−94234.638	44473.198	482.107	73.96	49.72	48.33	191.80	An	A	●			
323	−94234.036	44473.047	481.917	84.18	46.25	73.42	301.70	An	A	●	●		
324	−94234.953	44471.434	482.139	111.61	52.85	54.54	275.80	An	A	●			
326	−94235.333	44473.634	482.056	75.29	38.35	44.98	141.60	An	A	●			

第Ⅱ文化層３号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
325	−94235.364	44474.606	482.160	96.88	80.86	67.08	712.50	An	A				
1561	−94235.777	44474.849	482.132	83.96	63.15	82.58	440.20	An	A	●	●		
1562	−94235.806	44474.722	482.118	76.80	47.22	58.08	181.50	An	C			接04	
1563	−94236.747	44475.292	482.127	132.60	62.17	115.37	949.10	An	A				
1564	−94236.416	44475.560	482.116	177.00	95.46	119.50	1860.50	An	B	●			
1565	−94236.726	44476.136	482.098	62.34	22.64	34.02	49.00	An	F	●			
1566	−94236.525	44476.104	482.102	63.10	49.07	58.14	204.50	An	F	●		接05	
1567	−94236.227	44476.178	482.135	42.11	26.19	33.86	35.00	Ho	F			接06	
1568	−94236.172	44476.143	482.141	57.96	18.64	35.46	39.80	Ho	F	●		接05	
1569	−94236.195	44476.264	482.138	74.98	53.55	74.93	275.00	Ho	F	●			
1570	−94236.598	44477.007	482.116	69.88	37.37	56.25	145.90	An	F	●		接06	
1571	−94236.452	44477.162	482.113	84.26	52.06	80.93	418.20	An	E	●	●	接05	
1572	−94237.541	44477.389	482.075	54.67	24.18	29.78	50.40	An	F	●		接05	
1573	−94238.066	44478.556	482.197	78.62	31.23	44.96	101.50	An	F			接07	
1574	−94237.822	44478.664	482.184	75.50	44.56	72.99	297.20	An	C			接07	
1575	−94235.448	44476.238	482.153	95.93	41.93	68.96	305.20	An	E			接06	
1580	−94239.467	44478.396	482.278	51.27	27.12	41.50	48.70	An	F	●		接04	
1677	−94234.646	44477.180	482.196	69.83	48.17	45.72	169.80	An	F	●		接08	

第Ⅱ文化層４号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
586	−94236.466	44484.525	483.834	74.70	37.25	64.37	188.50	An	A	●			
587	−94236.343	44484.634	483.851	63.18	46.67	44.44	151.30	An	F				
588	−94236.348	44484.775	483.854	80.17	55.50	64.11	361.10	An	A				
589	−94235.849	44485.015	483.877	84.55	41.49	58.06	218.70	An	A	●			
590	−94235.827	44485.147	483.867	83.43	33.39	64.93	219.80	An	A				
591	−94235.743	44485.243	483.841	50.54	29.71	4.01	83.50	An	A				
601	−94235.703	44485.203	483.830	70.13	42.12	64.18	186.00	An	A	●	●		
814	−94234.939	44483.901	482.963	100.74	77.59	65.64	671.90	An	A	●	●		

第Ⅱ文化層５号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
819	−94233.940	44486.894	483.228	136.29	64.12	85.64	702.00	An	A	●			
1274	−94234.192	44487.405	483.949	68.00	42.93	57.50	204.60	An	A	●			
1275	−94234.234	44487.282	483.939	63.57	41.09	56.06	172.70	An	A	●	●		
1284	−94234.795	44486.169	483.813	56.67	35.07	49.96	120.90	An	A	●	●		
1285	−94234.809	44486.206	483.816	60.14	24.67	48.75	71.80	An	F	●	●		
1286	−94234.835	44486.288	483.746	63.50	44.96	55.15	194.50	An	A	●	●		
1287	−94234.743	44486.441	483.853	77.26	34.77	58.60	126.60	An	C	●	●		
1288	−94234.716	44486.640	483.886	70.57	48.34	59.71	200.40	An	A	●	●		
1289	−94235.264	44486.907	483.873	74.34	45.16	45.52	169.20	An	A	●	●		
1290	−94235.106	44486.927	483.889	105.76	30.29	63.81	213.40	An	A				
1291	−94234.966	44486.982	483.906	68.84	52.13	63.26	211.80	An	A	●	●		
1292	−94234.635	44487.434	484.006	89.20	40.12	48.17	182.60	An	A	●			
1293	−94234.801	44487.566	483.971	62.12	39.86	51.79	132.40	An	A	●	●		

第Ⅱ文化層６号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
1289	−94248.433	44491.968	482.757	100.87	78.31	74.30	127.00	An	A				
1706	−94250.482	44494.860	482.844	83.34	36.04	51.51	134.00	An	F	●		接05	
1708	−94250.856	44493.278	482.454	72.35	37.67	53.46	143.20	An	F	●		接08	
1709	−94251.837	44492.553	482.305	80.96	44.34	56.05	171.60	An	F	●		接08	

第Ⅲ文化層１号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
16	−94170.875	44489.442	489.161	7.73	2.59	3.78	84.10	An	B	●			
17	−94171.152	44490.183	488.419	8.08	3.37	5.39	73.50	An	F				
18	−94171.111	44490.158	488.420	7.31	2.95	3.12	37.90	An	F				

第Ⅲ文化層２号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
311	−94174.674	44488.907	489.637	38.45	16.26	23.52	25.40	An	F	●	●		
312	−94174.783	44488.902	489.688	72.62	31.00	71.01	150.60	An	F				
313	−94175.989	44489.043	489.739	109.39	38.68	80.72	411.50	An	A				
314	−94176.008	44487.190	489.627	71.23	44.94	64.29	192.90	An	A				
315	−94177.482	44485.065	489.548	61.25	17.00	56.75	97.60	An	F				
1270	−94177.638	44490.474	489.865	105.41	79.91	83.93	1162.20	An	B	●			

第Ⅲ文化層３号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
1	−94182.875	44489.403	489.465	135.12	78.84	92.66	1949.30	An	A				
3	−94182.011	44489.212	489.668	108.10	18.79	71.35	141.20	An	A	●			
4	−94181.997	44489.158	489.661	37.07	10.75	25.37	14.50	An	F	●			
6	−94182.222	44487.497	489.649	127.27	25.55	80.58	274.40	An	F	●			
7	−94182.298	44487.493	489.617	70.81	42.61	67.99	109.10	An	F	●			
8	−94182.436	44487.456	489.630	82.21	20.83	71.00	133.80	An	F	●			
9	−94182.462	44487.523	489.610	65.72	24.15	39.86	98.70	An	F	●			
10	−94182.274	44487.440	489.635	52.44	30.62	38.17	83.50	An	A	●			
11	−94182.323	44487.389	489.624	53.44	34.19	46.52	102.30	An	A	●			
12	−94182.778	44487.568	489.644	88.81	22.25	44.89	97.80	An	F			接02	
13	−94182.958	44487.376	489.387	78.60	34.45	58.60	166.20	An	F	●			
14	−94182.836	44488.253	489.432	81.90	29.53	31.16	94.80	An	F	●	●		
15	−94182.743	44487.579	489.656	68.26	16.32	33.25	36.90	An	F			接02	
334	−94184.174	44487.514	489.631	81.84	47.12	56.23	197.70	An	D	●	●	接10	
335	−94184.130	44487.537	489.646	83.86	36.60	46.67	141.00	An	E	●	●	接10	
336	−94183.853	44487.632	489.652	94.22	73.62	69.38	670.70	An	A	●			
337	−94184.120	44487.879	489.670	86.51	75.87	78.71	658.10	An	C				
721	−94182.429	44486.531	489.440	98.78	48.98	63.05	399.30	An	E	●			
722	−94184.136	44487.644	489.621	116.36	22.88	78.62	198.70	An	F	●			
723	−94183.568	44488.187	489.658	77.30	32.59	61.54	185.40	An	F	●			
724	−94183.927	44488.748	489.638	87.18	19.09	57.92	120.90	An	F	●			
837	−94183.412	44486.661	489.348	53.00	30.21	38.34	68.10	An	F	●			
838	−94183.621	44486.538	489.376	42.10	29.44	38.26	56.60	An	F				
847	−94185.050	44489.184	489.366	94.57	43.85	67.05	349.10	An	A	●	●		

第Ⅲ文化層４号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
327	−94185.320	44484.777	489.415	79.87	30.36	32.95	97.60	An	F	●		接07	
328	−94185.179	44484.817	489.461	74.47	28.11	37.22	95.30	An	F	●		接07	
329	−94185.123	44484.748	489.462	114.49	40.51	60.03	289.70	An	A	●	●		
330	−94185.400	44485.527	489.459	49.24	24.22	36.44	43.80	An	F				
331	−94184.987	44485.482	489.431	91.12	52.11	61.57	397.80	An	F	●		接08	
332	−94185.018	44485.443	489.449	75.80	75.74	53.63	190.90	An	F	●		接08	
333	−94184.985	44485.395	489.448	85.57	35.38	39.11	166.40	An	D	●		接09	
338	−94185.320	44487.279	489.551	47.71	21.13	40.06	52.40	An	F	●			
339	−94185.824	44486.989	489.523	100.40	48.48	66.70	313.50	An	F	●			
340	−94186.218	44487.026	489.461	119.20	77.00	98.28	615.10	An	C				
341	−94186.344	44487.100	489.500	40.83	34.19	24.38	49.10	An	F	●			
342	−94187.927	44487.212	489.380	94.17	33.38	70.08	236.10	An	A				
725	−94186.413	44486.981	489.383	56.44	16.10	34.10	32.80	An	F	●			
727	−94184.794	44485.427	489.414	39.22	16.54	33.49	24.70	An	F	●			
728	−94184.822	44485.445	489.424	50.75	24.11	48.34	46.90	An	F	●			
729	−94184.832	44485.381	489.425	68.31	24.09	40.32	80.90	An	F	●		接07	
730	−94184.855	44485.305	489.432	61.84	37.15	44.25	113.30	An	F	●		接07	
731	−94184.895	44485.342	489.438	82.94	52.35	67.35	259.30	An	F	●			
732	−94184.916	44485.236	489.417	76.58	28.59	45.88	101.40	An	E				
733	−94184.965	44485.354	489.422	65.92	35.17	38.58	99.90	An	E	●		接09	
734	−94185.043	44485.315	489.415	88.12	42.22	55.46	222.50	An	F	●			
735	−94185.007	44485.480	489.438					An	F	●			
736	−94184.907	44485.508	489.421	54.90	24.90	33.51	40.80	An	F	●			
737	−94185.408	44485.533	489.462	233.00	117.19	131.42	3864.80	An	A				
849	−94188.590	44487.857	489.125	86.24	20.83	31.70	65.50	An	F	●			
1219	−94184.902	44486.083	489.430	71.28	25.10	48.07	108.80	An	F				
1220	−94185.883	44486.775	489.335	85.02	24.03	72.14	249.90	An	F	●			

第Ⅲ文化層５号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
738	−94194.986	44483.976	488.761	126.30	37.58	84.12	504.60	An	E	●			
855	−94194.459	44487.973	488.750					An	A	●			
857	−94193.113	44485.740	488.880	78.18	51.76	73.02	358.70	An	C				
858	−94193.401	44484.709	488.842	111.40	62.85	85.21	521.90	An	A	●			

第Ⅲ文化層６号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
391	−94198.667	44484.708	488.586	203.00	78.77	138.00	2890.80	An	B	●			
936	−94199.770	44483.794	488.169	45.53	19.27	27.41	24.10	An	F	●			
954	−94198.626	44484.082	488.414	47.13	11.26	18.25	290.60	An	A	●			
997	−94200.406	44480.954	488.087	40.16	23.57	38.80	53.70	An	F				
1109	−94197.765	44480.896	488.339	13.48	8.94	11.73	1.30	An	F				
1110	−94197.690	44481.067	488.295	55.94	28.25	43.50	77.90	An	F				
1158	−94196.819	44481.282	488.411	114.06	34.59	73.61	410.90	An	A	●	●		
1159	−94198.628	44481.931	488.192	90.37	31.25	34.56	91.20	An	F				
1160	−94198.960	44481.447	488.112	60.32	15.41	48.31	55.30	An	F				
1161	−94199.212	44481.765	488.105	55.54	30.22	53.99	79.70	An	F	●		接30	
1162	−94198.940	44479.802	488.171	56.30	41.23	55.19	111.90	An	F	●		接30	
1164	−94197.943	44481.605	488.266	69.97	27.23	58.00	95.80	An	F	●		接31	
1224	−94197.977	44481.624	488.217	64.07	20.00	46.83	61.60	An	F	●		接31	

第Ⅲ文化層７号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
40	−94202.599	44487.583	488.213	85.07	47.35	83.00	309.90	An	F	●		接03	
41	−94202.682	44487.351	488.170	79.48	42.38	52.55	155.00	An	F	●		接04	
42	−94202.471	44487.314	488.199	104.94	40.06	68.69	368.40	An	A	●			
43	−94202.158	44487.446	488.237	116.18	42.81	107.10	544.80	An	A	●	●		
44	−94201.531	44487.491	488.329	76.51	32.60	47.81	118.60	An	E				
45	−94201.501	44487.398	488.329	48.50	28.16	29.54	56.60	An	F	●			
46	−94201.311	44487.803	488.374	95.31	30.09	50.03	163.00	An	A	●			
47	−94201.215	44487.602	488.366	55.10	20.85	35.48	42.80	An	F	●			
48	−94201.185	44487.524	488.365	89.40	50.55	77.41	417.30	An	A	●			
49	−94201.241	44487.503	488.341	58.78	31.59	30.44	70.00	An	F	●			

付　表

整理No.	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
50	−94201.156	44487.446	488.337	91.30	41.26	79.35	413.30	An	A				
51	−94201.050	44487.434	488.361	104.50	44.13	80.96	372.60	An	A	●			
52	−94200.775	44487.449	488.376	83.28	35.99	48.22	198.50	An	E	●			
53	−94200.636	44487.431	488.399	68.86	37.13	53.46	140.30	An	D			接05	
54	−94200.624	44487.185	488.382	87.26	51.60	64.96	385.20	An	A	●			
397	−94200.559	44485.181	488.338	80.82	46.82	70.76	266.20	An	A	●			
398	−94200.742	44485.107	488.335	151.45	83.10	120.23	2551.70	An	A				
399	−94200.571	44486.009	488.331	102.20	46.16	72.04	389.00	An	A	●			
400	−94200.946	44486.007	488.284	65.97	21.00	52.30	75.90	An	F	●			
401	−94200.566	44486.672	488.411	88.03	50.55	67.81	327.70	An	E			接11	
402	−94200.745	44486.607	488.383	64.88	34.02	41.54	87.40	An	F				
403	−94200.710	44486.960	488.430	88.30	48.63	83.91	302.00	An	F	●		接03	
404	−94201.158	44486.484	488.319	57.16	34.14	52.28	119.50	An	F				
405	−94201.408	44486.645	488.289	63.99	45.65	54.27	152.70	An	E			接11	
406	−94201.494	44486.599	488.282	69.40	37.41	38.69	145.60	An	D			接05	
407	−94201.648	44486.659	488.277	75.38	17.84	31.22	57.30	An	F				
408	−94201.725	44486.546	488.251	143.91	47.90	138.17	943.80	An	F	●	●	接12	
409	−94201.737	44486.443	488.241	111.09	30.11	82.63	224.90	An	F	●	●	接12	
410	−94201.517	44485.898	488.255	21.00	78.91	110.18	2221.10	An	A				
411	−94201.994	44485.142	488.183	37.38	37.33	32.71	57.10	An	A				
412	−94201.736	44482.885	488.216	83.88	42.03	70.45	226.60	An	D	●		接04	
413	−94202.044	44485.028	488.275	42.44	14.11	27.64	12.00	An	F				
416	−94202.072	44486.426	488.244	42.65	13.74	33.78	13.00	An	F				
417	−94202.104	44486.577	488.222	79.20	61.27	74.10	323.80	An	A	●			
418	−94202.239	44486.778	488.207	72.36	57.69	59.36	346.60	An	E	●			
419	−94202.328	44486.806	488.188	62.07	30.95	36.40	77.90	An	F	●		接13	
420	−94202.376	44486.850	488.196	75.61	36.66	41.47	113.70	An	F	●		接03	
421	−94202.695	44486.985	488.174	78.87	50.15	66.95	221.30	An	A	●			
422	−94202.721	44486.743	488.166	70.49	52.62	61.99	351.20	An	A	●			
423	−94202.890	44486.990	488.195	145.00	54.19	130.00	1090.50	An	B				
424	−94202.950	44486.871	488.161	117.33	43.48	91.55	644.70	An	A	●	●		
425	−94202.975	44486.693	488.147	86.93	50.68	69.91	377.20	An	A	●			
426	−94202.442	44486.209	488.176	88.71	61.22	75.05	776.50	An	A	●			
427	−94202.497	44486.001	488.185	37.22	37.72	33.36	41.60	An	F	●			
428	−94203.120	44486.099	488.153	208.00	81.73	171.00	3047.20	An	A				
429	−94203.081	44486.085	488.152	170.00	102.00	153.00	3324.00	An	A				
432	−94202.682	44485.341	488.164	195.00	55.00	133.00	2386.30	An	D	●	●		
433	−94202.446	44485.083	488.112	278.00	68.85	196.00	4606.10	An	A				
443	−94203.507	44484.204	488.042	30.95	13.27	24.60	11.20	An	F				
446	−94203.584	44486.243	488.073	77.13	30.29	71.13	257.50	An	A	●			
447	−94203.944	44486.847	488.078	74.52	30.43	43.94	142.10	An	F	●			
448	−94203.322	44487.059	488.165	98.00	60.74	68.34	475.10	An	A	●			
449	−94203.719	44487.633	488.178	64.72	46.64	51.83	140.10	An	E			接13	
450	−94203.387	44487.788	488.198						聽かい				
451	−94203.498	44487.897	488.210	66.86	34.15	43.74	144.00	An	F	●			
452	−94203.509	44487.957	488.210	69.15	21.09	44.80	72.80	An	F	●			
453	−94203.201	44488.739	488.364	72.54	20.56	49.08	107.20	An	F	●			
454	−94203.383	44488.714	488.339	96.73	42.69	44.39	215.90	An	F	●			
455	−94203.504	44488.644	488.327	92.66	24.72	57.10	211.90	An	F	●			
456	−94203.879	44488.695	488.315	65.19	36.97	50.57	146.80	An	F	●			
457	−94204.761	44488.830	488.242	121.03	83.44	82.70	1196.00	An	F	●		接03	
461	−94205.863	44487.286	488.096	85.74	52.81	65.84	362.90	An	A	●			
462	−94205.437	44486.929	487.923	67.42	48.66	44.83	164.50	An	F	●			
644	−94204.239	44483.330	487.875	35.95	9.74	19.67	6.90	An	F				
647	−94203.851	44484.392	487.890	24.51	11.79	17.00	5.60	An	F				
739	−94200.522	44484.336	488.282	120.29	51.36	84.81	468.10	An	A	●			
741	−94202.067	44486.087	488.139	76.42	47.33	53.27	274.80	An	A	●			
742	−94202.927	44485.078	488.069	83.78	65.49	68.33	498.80	An	A	●			
743	−94202.628	44485.315	488.170	54.39	17.18	51.50	41.70	An	F	●			
745	−94203.773	44484.916	487.949	146.67	56.50	78.36	800.60	An	B			接23	
746	−94203.937	44484.691	487.900	127.68	28.31	75.00	379.20	An	A				
747	−94203.931	44484.842	487.907	85.09	11.45	56.33	56.30	An	F	●	●	接12	
748	−94204.044	44484.814	487.882	89.34	46.17	82.88	366.60	An	B				
749	−94204.144	44485.032	487.883	90.93	41.32	71.21	296.00	An	A				
750	−94204.259	44484.380	487.845	69.80	45.87	57.92	194.00	An	F				
751	−94204.108	44484.204	487.866	97.66	37.03	58.70	278.30	An	A				
752	−94204.486	44485.641	487.925	84.18	66.42	67.60	478.10	An	A	●	●		
753	−94204.033	44485.867	487.994	66.93	45.65	61.33	205.20	An	D	●			
754	−94204.650	44486.049	487.953	42.92	36.99	38.07	64.40	An	F	●		接15	
755	−94204.563	44486.199	487.957	55.54	47.11	54.99	142.10	An	E	●		接15	
756	−94203.968	44486.382	488.017	79.01	21.46	60.87	126.00	An	F				
757	−94203.993	44486.465	488.036	85.27	47.64	53.39	252.10	An	A	●		接15	
833	−94201.682	44486.650	488.251	85.05	15.56	31.08	21.50	An	F	●	●	接12	
834	−94202.400	44486.204	488.131	69.77	28.82	32.06	82.50	An	F				
835	−94202.939	44486.881	488.129	58.01	37.13	53.04	133.30	An	A				
888	−94201.282	44486.605	488.128	41.87	14.02	34.06	11.80	An	F				
893	−94201.653	44485.323	488.059	35.86	4.92	26.46	5.40	An	F				
913	−94204.496	44484.496	487.605	35.05	13.75	30.58	14.40	An	F			接06	
918	−94205.573	44485.192	487.545	66.36	19.96	38.03	51.00	An	F				
921	−94204.848	44484.640	487.606	48.04	18.79	27.00	25.70	An	F			接06	
923	−94204.919	44484.448	487.594	55.51	14.78	35.57	20.90	An	F				
932	−94205.136	44483.337	487.545	30.61	9.53	15.86	3.80	An	F				
933	−94205.061	44481.774	487.409	61.20	23.05	31.53	51.20	An	E			接06	
956	−94202.181	44485.761	488.073	84.19	17.72	64.04	101.50	An	F				
957	−94202.441	44486.292	488.062	49.12	33.78	47.27	70.40	An	F	●			
958	−94202.612	44485.652	487.889	76.55	34.60	42.11	140.70	An	A				
959	−94202.780	44485.579	487.992	43.14	13.03	29.06	18.60	An	F	●		接13	
960	−94203.015	44485.762	487.822	39.23	26.34	27.77	21.00	An	F				
961	−94203.212	44485.966	487.889	76.81	49.92	65.25	224.10	An	E	●			
962	−94203.428	44486.127	487.964	82.26	40.34	61.07	180.40	An	F				
963	−94203.603	44486.162	487.820	91.40	68.04	77.06	335.80	An	E	●			
964	−94203.871	44485.950	487.780	89.18	54.59	71.54	307.20	An	F				
965	−94203.480	44485.037	487.738	115.19	95.62	80.96	464.30	An	F	●			
966	−94202.310	44484.766	487.983	52.99	22.26	31.40	31.20	An	F				
967	−94202.269	44484.497	488.005	84.33	71.15	72.27	336.20	An	A	●			
968	−94202.085	44484.353	487.907	47.59	30.21	36.82	34.60	An	F				
969	−94202.125	44484.199	488.016	106.39	34.61	43.96	228.10	An	F	●			
970	−94202.055	44484.159	488.033	55.14	20.79	47.51	69.70	An	F	●		接23	
972	−94203.129	44484.246	487.897	188.00	46.25	64.55	645.50	An	F	●		接23	
973	−94203.238	44484.261	487.896	147.30	54.96	78.95	484.50	An	F	●		接23	
974	−94203.228	44484.161	487.868	152.28	30.07	88.54	483.20	An	D				
975	−94204.011	44484.220	487.658	94.25	31.02	79.43	195.60	An	F	●		接24	
976	−94203.920	44484.083	487.653	65.99	35.51	53.20	133.70	An	E			接25	
977	−94204.295	44484.104	487.736	77.52	53.00	54.03	280.20	An	A				
978	−94203.721	44483.730	487.782	45.61	27.57	35.82	52.70	An	F	●			
979	−94203.481	44483.077	487.802	45.03	33.15	20.74	32.80	An	D				
980	−94204.075	44482.997	487.714	48.61	21.90	44.23	46.20	An	F				
981	−94203.041	44482.505	487.865	52.80	28.67	31.07	42.60	An	F				
982	−94203.820	44481.910	487.732	65.95	33.81	55.20	91.60	An	F				
983	−94202.861	44482.470	487.770	60.38	23.59	55.88	89.20	An	F				
984	−94202.929	44482.418	487.740	35.37	24.60	34.99	46.20	An	F			接25	
985	−94205.449	44482.656	487.451	43.18	19.46	33.10	36.30	An	F				
986	−94205.514	44482.683	487.455	46.84	28.32	37.32	55.40	An	F	●	●		
987	−94204.914	44483.837	487.557	46.20	18.49	42.10	41.90	An	C				
988	−94205.068	44484.536	487.586	77.46	60.11	58.65	305.40	An	A	●			
989	−94205.585	44485.114	487.560	75.30	32.31	71.89	152.20	An	F				
990	−94205.764	44485.127	487.588	81.86	47.34	63.75	295.60	An	F	●	●		
991	−94205.801	44484.967	487.564	75.48	27.24	62.32	144.10	An	E	●		接26	
992	−94206.104	44484.848	487.531	92.92	42.75	87.86	385.00	An	D	●		接26	
993	−94206.084	44484.721	487.526	88.70	35.28	47.35	114.20	An	F				
994	−94206.380	44484.546	487.472	36.50	14.57	31.73	20.80	An	F	●	●		
1014	−94204.788	44484.579	487.671	68.02	26.06	52.09	94.50	An	F				
1185	−94204.458	44484.499	487.668	61.25	26.70	43.35	85.70	An	F	●		接24	
1187	−94201.131	44484.882	488.200	75.13	47.86	64.88	245.00	An	A	●			

第Ⅲ文化層８号礫群

整理No.	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
470	−94207.512	44487.572	487.659	51.95	46.16	50.15	130.20	An	F			接14	
471	−94207.550	44487.581	487.649	37.82	20.72	33.88	33.40	An	F			接14	
996	−94208.226	44487.556	487.377	49.83	28.23	36.38	56.50	An	A				

第Ⅲ文化層9号礫群

整理No.	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
516	−94208.533	44475.515	486.937	37.20	10.48	24.72	7.20	An	F				
999	−94207.702	44475.303	486.831	48.57	15.06	27.62	22.60	An	F				
1000	−94207.630	44475.333	486.869	30.01	13.54	21.64	11.20	An	F	●			
1001	−94207.630	44475.451	486.897	66.40	19.06	60.91	47.90	An	F	●		接27	
1002	−94207.730	44475.434	486.892	52.25	23.95	40.67	40.00	An	F	●			
1003	−94208.033	44475.700	486.941	45.12	33.09	37.48	49.80	An	F	●			
1004	−94208.147	44475.356	486.852	87.18	23.62	67.02	136.30	An	F	●		接27	
1005	−94208.171	44475.362	486.851	30.48	15.27	28.97	12.70	An	F	●			
1006	−94208.248	44475.298	486.856	82.60	51.29	64.78	224.50	An	C	●			
1007	−94208.179	44475.446	486.857	123.16	58.94	62.73	594.00	An	D	●		接28	
1008	−94208.266	44475.501	486.852	73.95	44.98	66.99	180.00	An	F	●		接28	
1009	−94208.317	44475.549	486.845	63.19	36.14	54.86	130.40	An	F	●		接29	
1010	−94208.346	44475.515	486.834	68.36	33.76	58.11	147.10	An	F	●			
1011	−94208.353	44475.487	486.840	51.56	23.80	36.71	39.00	An	F	●			
1043	−94208.566	44475.075	486.753	135.46	31.25	59.48	250.20	An	F				
1046	−94208.742	44475.043	486.763	41.38	19.50	18.16	19.20	An	F	●	●		
1058	−94208.147	44476.061	486.822	127.06	32.72	61.64	334.70	An	F				
1080	−94209.137	44476.077	486.737	70.53	26.30	61.16	118.40	An	F				
1086	−94209.590	44476.603	486.700	53.78	22.40	48.98	62.90	An	F	●	●		
1088	−94208.776	44474.684	486.645	38.11	19.14	37.47	27.30	An	F				
1090	−94209.338	44475.315	486.691	71.69	27.57	56.73	113.70	An	F	●		接29	
1091	−94208.843	44475.336	486.732	81.23	21.19	30.97	60.20	An	F				
1179	−94208.298	44475.217	486.697	36.69	23.91	26.17	30.10	An	F	●			

第Ⅲ文化層10号礫群

整理No.	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
62	−94210.489	44478.504	486.187	62.58	25.32	32.25	23.50	An	A				
65	−94210.464	44477.657	486.606	21.37	7.98	20.72	5.20	An	F			接06	
482	−94209.182	44483.730	487.320	56.35	46.94	55.06	148.80	An	E	●		接15	
483	−94209.980	44484.123	487.045	45.84	17.47	33.74	22.30	An	F	●			
491	−94210.297	44480.597	487.062						聽かい				
492	−94209.599	44481.326	487.208	32.48	19.76	32.05	27.00	An	F				
526	−94209.126	44480.912	487.107	46.88	21.34	19.31	18.20	An	F	●			
531	−94209.546	44482.578	487.177	47.14	11.14	20.33	11.40	An	F				
534	−94211.100	44481.698	486.702	79.72	26.80	73.43	219.00	An	F				
535	−94211.405	44481.049	486.663	80.12	49.70	60.43	282.40	An	F	●			
536	−94211.550	44481.070	486.640	56.85	31.09	48.76	90.70	An	F				
540	−94211.958	44481.326	486.627	41.52	22.35	33.19	33.50	An	F	●			
763	−94209.504	44480.686	486.980	97.17	68.59	95.85	721.50	An	E	●		接19	
995	−94208.423	44482.884	487.137	57.69	18.95	46.88	51.00	An	F	●	●		
1015	−94210.116	44481.709	486.852	122.99	25.65	35.34	157.50	An	F				
1073	−94208.760	44480.132	486.987	43.85	13.82	15.04	7.80	An	F				
1079	−94208.621	44479.507	486.880	46.83	19.87	32.12	30.10	An	F	●			
1095	−94208.663	44479.422	486.880	79.67	35.18	64.03	165.30	An	F	●		接19	

第Ⅲ文化層11号礫群

整理No.	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
61	−94212.452	44478.019	486.328	62.32	44.09	54.02	255.90	An	E	●			
496	−94215.098	44482.586	486.274	75.37	36.09	42.11	136.90	An	A	●			
537	−94212.360	44480.635	486.558	116.63	59.62	82.42	878.60	An	A	●			
538	−94212.416	44480.889	486.529	56.89	31.12	43.73	97.10	An	F			接16	
539	−94212.682	44481.035	486.490	83.14	54.66	77.97	381.50	An	A	●			
554	−94213.326	44479.163	486.474	84.11	40.90	48.74	136.60	An	F	●	●		
555	−94213.704	44479.093	486.443	121.71	20.26	81.74	210.20	An	F	●			
556	−94214.579	44479.273	486.211	85.18	60.19	83.40	535.60	An	A	●			
557	−94215.351	44479.354	486.076	148.64	64.74	77.44	773.60	An	A	●			
558	−94215.419	44479.382	486.074	116.25	52.04	111.73	751.60	An	A	●			
764	−94213.053	44480.812	486.441	104.87	49.03	69.51	322.00	An	C				
765	−94213.191	44480.725	486.401	55.20	34.37	39.01	72.30	An	F			接16	

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
766	-94213.840	44480.609	486.266	62.00	8.52	61.96	42.80	An	F	●			
767	-94215.345	44479.587	486.000	69.93	24.04	44.06	117.10	An	A	●			

第Ⅲ文化層12号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
70	-94211.640	44487.979	487.189	37.01	25.95	36.45	26.30	An	F				
105	-94212.687	44488.214	486.987	50.88	17.98	30.64	21.80	An	F				
503	-94213.927	44485.280	486.650	107.63	84.91	82.76	666.70	An	A	●			
599	-94213.738	44487.929	486.823	42.45	28.56	41.73	62.30	Sh	F	●	●	接17	
600	-94213.782	44487.948	486.793					Sh	F	●	●	接17	

第Ⅲ文化層13号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
497	-94217.105	44479.878	485.937	122.07	114.85	111.93	1655.30	An	A	●	●		
768	-94217.660	44481.118	485.615	79.38	43.50	60.30	170.90	An	F	●		接20	
769	-94217.968	44481.017	485.538	44.06	32.91	33.88	54.10	An	F	●			
771	-94217.170	44482.319	485.826	107.02	66.63	97.76	764.90	An	F	●			
774	-94218.644	44480.202	485.426	49.90	32.47	45.32	84.10	An	F	●			
779	-94217.990	44479.505	485.681	74.16	3.23	47.83	102.50	An	F	●			
1084	-94217.134	44482.249	485.656	69.35	21.27	60.42	78.40	An	F				
1246	-94217.952	44480.997	485.504	80.49	31.09	56.85	113.50	An	F	●		接20	

第Ⅲ文化層14号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
87	-94220.347	44488.277	485.777	72.15	52.83	55.10	300.70	An	A	●			
88	-94220.882	44487.838	485.460	74.85	47.88	64.74	236.60	An	F	●			
596	-94217.984	44488.981	486.364	89.30	41.70	63.87	239.00	An	A				
597	-94218.480	44488.055	486.201	90.25	44.32	68.58	302.90	An	A				
598	-94219.269	44488.384	486.079	80.63	38.24	56.83	183.90	An	A	●			
759	-94219.089	44485.664	485.772	116.14	61.57	78.93	872.50	An	D	●			
760	-94219.732	44486.389	485.762	73.56	42.02	66.24	334.00	An	D			接18	
761	-94219.866	44485.661	485.631	72.08	49.47	65.36	355.20	An	D			接18	
762	-94220.017	44485.535	485.564	84.01	34.15	67.31	222.20	An	F				
1176	-94219.080	44486.926	485.804	106.19	45.50	86.60	518.10	An	A	●			

第Ⅲ文化層15号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
778	-94225.011	44480.942	484.263	69.18	34.87	55.89	126.60	An	F	●			
1168	-94224.622	44484.087	484.386	45.03	15.17	27.12	20.10	An	F				
1169	-94224.452	44483.050	484.403	41.18	23.72	36.61	54.40	An	E				

第Ⅲ文化層16号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
823	-94232.980	44489.664	483.640	129.62	62.85	88.87	774.80	An	A	●			
824	-94231.806	44489.681	483.766	139.51	69.60	125.07	988.30	An	E	●			
825	-94231.764	44489.689	483.743					An	F	●			
826	-94231.706	44489.670	483.751					An	F	●			
827	-94231.766	44489.727	483.740					An	F	●			
828	-94231.827	44489.703	483.706					An	F	●			
829	-94231.265	44489.557	483.854	128.42	63.18	75.76	559.70	An	D	●	●	接22	
830	-94229.830	44488.429	483.687	61.43	37.34	55.97	139.90	An	A				
1166	-94231.270	44489.570	483.813	82.74	37.55	53.38	167.00	An	F	●		接22	

第Ⅲ文化層17号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
419	-94237.408	44480.803	483.742	79.72	49.40	75.91	475.90	An	A				
585	-94235.808	44482.835	483.774	69.46	34.80	54.71	160.70	An	A	●			
791	-94234.179	44480.027	483.030	150.95	73.71	104.61	1213.10	An	D	●		接21	
792	-94234.264	44480.232	483.017	88.49	41.38	62.16	224.70	An	A	●			
794	-94234.811	44480.323	483.026	145.15	87.37	115.52	1698.90	An	A				
795	-94235.330	44480.338	482.978	145.11	72.12	96.87	1153.50	An	D	●		礫21	
796	-94235.762	44480.395	482.952	347.00	80.00	245.00	5381.20	An	F				
817	-94236.761	44481.767	482.548	83.14	28.61	43.08	123.70	An	F				

第Ⅲ文化層18号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
1653	-94239.027	44483.667	482.194	129.08	83.01	125.25	1738.50	An	E				
1654	-94238.825	44483.915	482.224	82.18	34.57	61.57	229.60	An	E	●	●		
1655	-94238.674	44483.779	482.201	91.75	36.02	66.99	237.50	An	A	●	●		
1656	-94238.332	44483.859	482.230	80.26	26.60	56.39	102.30	An	D	●		接01	
1657	-94238.316	44483.920	482.221	65.40	21.22	54.42	93.80	An	E	●		接01	
1698	-94239.096	44482.797	481.869	49.96	31.14	40.02	61.30	An	F				

第Ⅲ文化層19号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
19	-94181.707	44462.257	490.677	103.77	56.34	73.40	566.10	An	A	●		接32	
20	-94179.450	44463.628	490.677	123.18	33.98	63.85	322.80	An	F	●		接32	
21	-94179.327	44463.672	490.693	131.36	48.21	122.66	969.80	An	F	●		接32	
22	-94179.372	44463.900	490.687	92.33	33.35	79.46	252.20	An	F	●		接32	
23	-94179.451	44463.938	490.692	94.53	87.00	66.92	265.30	An	A	●		接32	

第Ⅲ文化層20号礫群

整理№	X座標	Y座標	Z座標	最大長	最大厚	最大幅	重量	石材	遺存	赤化	煤	接合	備考
8	-94182.436	44466.329	490.636	50.98	21.88	35.41	28.10	An	F	●		接32	
14	-94182.298	44466.456	490.539	48.74	23.31	40.38	41.40	An	F	●		接32	
15	-94182.395	44466.527	490.545	61.14	2.07	45.52	54.30	An	F	●		接32	
29	-94182.458	44466.555	490.484	101.49	60.36	61.26	440.70	An	F	●		接32	
30	-94182.394	44466.473	490.497	95.45	53.86	65.41	350.60	An	F	●		接32	
31	-94182.292	44466.480	490.497	54.49	30.33	45.25	53.60	An	F	●		接32	
32	-94182.327	44466.446	490.485	45.56	21.90	35.20	26.70	An	F	●		接32	
33	-94182.351	44466.388	490.505	45.89	30.56	34.15	49.80	An	F	●		接32	
34	-94182.309	44466.432	490.493	31.08	18.72	25.37	9.70	An	F	●		接32	
35	-94182.315	44466.402	490.479	46.98	26.46	35.64	36.00	An	F	●		接32	
36	-94182.251	44466.422	490.514	72.87	45.06	57.54	138.20	An	E	●		接32	
37	-94182.329	44466.293	490.434	46.61	10.46	33.09	12.60	An	F	●		接32	
38	-94182.254	44466.306	490.450	38.72	21.13	30.07	19.10	An	F	●		接32	
39	-94181.172	44467.940	490.541	107.84	48.54	59.78	279.90	An	A	●			
51	-94182.326	44466.453	490.444	23.91	15.01	20.65	5.00	An	F	●		接32	
52	-94182.302	44466.439	490.447	20.46	8.93	12.59	2.00	An	F	●		接32	
53	-94182.292	44466.413	490.451	27.97	17.04	20.40	8.60	An	F	●		接32	
54	-94182.281	44466.405	490.436	51.83	27.91	29.02	34.90	An	F	●		接32	
55	-94182.260	44466.331	490.428	33.56	13.53	19.92	111.70	An	F	●		接32	

●縄文時代出土遺物一覧表

第３表　遺物観察表

挿図№	整理№	器　種	部　位	文　様	型　式	胎　土	色　調	備　考
1	1	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	明褐色	
1	2	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	暗褐色	
1	3	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	暗褐色	
1	4	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	暗褐色	
1	5	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	明褐色	
1	6	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	明褐色	
1	7	深鉢	底部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	暗褐色	
1	8	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	暗褐色	
	9	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	暗褐色	1と同一個体
1	10	深鉢	口縁部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	暗褐色	
1	11	深鉢	胴部	撚糸文		金雲母・砂粒含む	明褐色	
2	158	深鉢	口縁部	刺突文、条痕文、口唇部キザミ	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	
2	167	深鉢	口縁部	条痕文	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	
2	201	深鉢	口縁部	刺突文、条痕文、口唇部キザミ	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	
2	202	深鉢	口縁部	刺突文、条痕文、口唇部キザミ	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	
2	173	深鉢	口縁部	刺突文、条痕文、口唇部キザミ	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	
2	168	深鉢	口縁部	刺突文、条痕文、口唇部キザミ	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	
	172	深鉢	胴部	条痕文	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	2と同一個体
	161	深鉢	胴部	条痕文	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	2と同一個体
3	157	深鉢	胴部	条痕文	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	2と同一個体
3	170	深鉢	胴部	条痕文	鵜ヶ島台式	繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	2と同一個体
4	190	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	
4	140？	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	注記不鮮明
	165	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	4と同一個体
	169	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	4と同一個体
	11？	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	4と同一個体、注記不鮮明
5	164	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	4と同一個体
5	178	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	4と同一個体
6	135	深鉢	底部付近	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	4と同一個体
6	171	深鉢	底部付近	無文		繊維・砂粒・角閃石含む	暗褐色	4と同一個体
7	10	深鉢	口縁部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
7	13	深鉢	口縁部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
7	15	深鉢	口縁部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	

挿図No.	整理No.	器　種	部　位	文　様	型　式	胎　土	色　調	備　考
7	7	深鉢	胴部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
7	17	深鉢	胴部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
7	9	深鉢	胴部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
	16	深鉢	胴部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	7と同一個体
7	11	深鉢	胴部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
	14	深鉢	胴部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	7と同一個体
	8	深鉢	胴部	刺突文、櫛歯状工具による肋骨文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	7と同一個体
8	37	浅鉢	口縁部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	59	浅鉢	口縁部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	58	浅鉢	口縁部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	56	浅鉢	口縁部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	62	浅鉢	底部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	68	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	61	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	60	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	39	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	36	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	54	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	35	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	63	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
8	64	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	暗褐色	
9	141	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	142	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	150	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	151	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	152	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	153	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	143	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	149	浅鉢	口縁部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	補修孔あり
9	174	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	177	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	176	浅鉢	口縁部	無文	諸磯ｂ式	砂粒・雲母含む	明褐色	
9	一括	浅鉢	胴部	無文	諸磯ｂ式	砂粒、雲母含む	明褐色	
10	34	土製円盤		隆帯		砂粒、雲母含む	明褐色	表面摩滅
	141	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒・雲母含む	暗褐色	
	191	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒含む	暗褐色	
	SD001	深鉢	胴部	無文		繊維・砂粒含む	明褐色	
	156		胴部	?		砂粒・雲母含む	明褐色	表面摩滅
	181	深鉢	胴部	無文		砂粒・雲母含む	暗褐色	

●江戸時代以降出土遺物一覧表

第4表　遺物観察表

法量単位＝cm，（　）＝推定値

No.	種　別	器　種	口　径	器　高	高台径	高台高	底　径	産　地	時　期	文　様	見込み	備　考
1	施釉陶器	皿	－	現1.3	(6.1)	0.3	－	瀬戸・美濃	16C後半代	灰釉	灰釉－印花	大窯期
2	施釉陶器	擂　鉢	－	4.3	－	－	－	瀬戸・美濃	15C末～16C前半代	鉄釉	－	大窯期
3	磁器	初期伊万里丸碗	－	現3.5	(4.7)	0.8	－	肥前	1640年代～1645年代	一重網手文	－	
4	磁器	初期伊万里丸碗	－	現3.1	(5.2)	1.2	－	肥前	1640年代～1645年代	一重圏線	－	高台内無釉
5	磁器	初期伊万里瓶	－	現4.7	－	－	－	肥前	1640年代～1650年代	雲文＋二重圏線	－	
6	磁器	初期伊万里瓶	－	現4.1	(7.0)	0.8	－	肥前	1650年代	一重圏線	－	焼成不良
7	磁器	色絵碗	－	現1.8	－	－	－	肥前	1670年代～1740年代	－	蛇の目釉剥ぎ＋三重圏線	色絵－黒
8	磁器	色絵杯	(9.1)	3.7	(3.5)	0.6	－	肥前	1670年代～1740年代	意匠不明文様	三重圏線	色絵－黒・緑・朱色
9	施釉陶器	呉器手碗	－	現2.1	(4.8)	1.2	－	肥前	1650年代～1740年代	灰釉	灰釉	
10	施釉陶器	志野皿	－	現1.3	(6.0)	－	－	瀬戸・美濃	17世紀前半代	長石釉	長石釉	底面－重ね焼き痕跡
11	施釉陶器	京焼風陶器皿	－	現1.4	(4.7)	0.8	－	肥前	1670年代～1740年代	－	鉄絵による山水文	
12	施釉陶器	壺	－	現2.9	3.6	0.3	－	瀬戸・美濃	16世紀末～17世紀代	鉄釉	－	高台無釉
13	施釉陶器	笠原鉢	－	現3.5	－	－	－	瀬戸・美濃	17C代	灰釉	灰釉・鉄釉	
14	施釉陶器	三島手鉢	－	現3.4	(10.0)	1.3	－	肥前	17C末～18C初頭	透明釉	白泥による象嵌（三島手）	
15	施釉陶器	擂　鉢	－	3.4	－	－	－	瀬戸・美濃	17世紀代	鉄釉	擂目	8本単位の擂目か？
16	施釉陶器	擂　鉢	－	4.5	－	－	－	瀬戸・美濃	17世紀代	鉄釉	擂目	10本単位の擂目か？
17	磁器	丸　碗	(8.3)	現3.7	－	－	－	肥前	1700年代～1740年代	－	楓文	コンニャク印判
18	磁器	丸　碗	(8.7)	5.0	(3.5)	0.6	－	肥前	1700年代～1780年代	梅樹文	－	底裏銘－崩れ大明？
19	磁器	丸　碗	(10.0)	4.9	(3.7)	0.5	－	肥前	1700年代～1780年代	草花文 一重圏線	－	
20	磁器	丸　碗	－	現1.9	4.1	0.5	－	肥前	1710年代～1750年代	二重網手文・二重圏線	菊花文	底裏銘－一重角枠内渦福
21	磁器	丸　碗	－	現2.3	(3.7)	0.4	－	肥前	1740年代～1860年代	草花文	一重圏線内 五弁花文	
22	磁器	丸　碗	－	現2.4	(4.0)	0.6	－	肥前	1700年代～1780年代	草花文？＋一重圏線	－	高台内－一重圏線
23	磁器	丸　碗	－	現3.0	(2.1)	0.7	－	肥前	1700年代～1780年代	草花文？＋二重圏線	－	底裏銘－一重圏線内崩れ大明？

付　表

法量単位＝cm，（ ）＝推定値

No.	種　別	器　種	口　径	器　高	高台径	高台高	底　径	産　地	時　期	文　様	見込み	備　考
24	磁器	丸　碗	－	現3.8	－	－	－	肥前	1680年代～18世紀代	－	－	高台内－一重圏線
25	磁器	腰張碗	－	現3.7	－	－	－	肥前	1700年代～1780年代	草花文？	－	高台内－一重圏線
26	磁器	腰張碗	(8.5)	現4.6	－	－	－	肥前	1700年代～1780年代	梅樹文	二重圏線内	口縁部－四方襷文
27	磁器	厚手碗	(9.2)	4.9	(3.6)	0.7	－	肥前	1710年代～1800年代	草花文		底裏銘－判読不明
28	磁器	厚手碗	-	(3.1)	4.0	0.9	－	肥前	1710年代～1800年代	梅樹文		底裏銘－崩れ「大明年製」
29	磁器	碗	－	現1.2	(3.7)	0.5	－	肥前	18C代	－	－	
30	磁器	筒茶碗	－	現3.3	(4.0)	0.3	－	肥前	1760年代～1810年代	氷裂文・菊花文	二重圏線内 五弁花文	五弁花文－コンニャク印判
31	磁器	小　碗	－	現2.5	3.8	0.6	－	肥前	1680年代～1860年代	－	－	
32	磁器	染付輪禿皿	－	現2.5	(3.7)	0.4	－	肥前	17世紀後半～18世紀代	－	輪禿内 五弁花文	
33	磁器	蓋物鉢 蓋	(7.6)	現1.3	－	－	－	肥前	1690年代～1860年代	氷裂文・花文？	－	
34	磁器	仏飯器	－	現3.6	－	－	－	肥前	1690年代～1780年代	二重圏線		
35	施釉陶器	刷毛目碗	－	現1.8	－	－	－	肥前	1690年代～1740年代	－	刷毛目	
36	施釉陶器	刷毛目碗	－	現2.6	(3.5)	0.6	－	肥前	1690年代～1740年代	刷毛目	刷毛目	
37	施釉陶器	色絵碗	－	現4.3	－	－	－	瀬戸・美濃	1760年代～1820年代	竹葉文	－	色絵－朱・黒
38	施釉陶器	色絵半球碗	－	現1.8	3.1	0.3	－	瀬戸・美濃	1760年代～1820年代	草花文？	灰釉	色絵-緑
39	施釉陶器	色絵半球碗	－	現2.2	(3.2)	1.1	－	瀬戸・美濃	1760年代～1820年代	草花文？	灰釉	高台内－青色顔料付着，色絵-朱・緑・青
40	施釉陶器	腰錆小服碗	(8.9)	5.6	4.5	0.5	－	瀬戸・美濃	1725年代～1750年代	上半－灰釉 下半－錆釉	灰釉	
41	施釉陶器	せんじ碗	(9.3)	現2.3	4.3	－	－	瀬戸・美濃	1730年代～1820年代	上半－灰釉 下半－錆釉	灰釉	
42	施釉陶器	菊皿	－	現1.8	(6.6)	0.7	－	瀬戸・美濃	18世紀 第2・3四半期	－	型押しによる菊文	
43	施釉陶器	鉄絵皿	－	現2.1	(7.0)	0.8	－	瀬戸・美濃	18世紀代	－	鉄絵による草文	
44	施釉陶器	刷毛目鉢	－	現2.3	(7.0)	1.1	－	肥前	18C前半～中葉	刷毛目	刷毛目	
45	施釉陶器	鉢	－	現2.4	－	－	－	志戸呂？	18C前半～中葉	鉄釉	－	
46	施釉陶器	輪禿鉢	－	現3.4	－	－	－	瀬戸・美濃	18C後半代	灰釉	灰釉	
47	施釉陶器	輪禿鉢	－	現3.4	(10.1)	－	3.4	瀬戸・美濃	18C後半代	灰釉	灰釉－輪禿げ	
48	施釉陶器	鬢盥	－	4.5	－	－	5.4	瀬戸・美濃	17C末～18C初頭	摺絵（鉄絵）による幾何学文	灰釉	
49	磁器	広東碗 蓋	9.4	2.7	(5.7)	0.4		肥前	1790年代～1810年代	笹文	二重圏線＋一重圏線	
50	磁器	染付小皿	(10.7)	2.0	－	－	－	瀬戸・美濃	1860年代	草花文	草花文・捻り花	高台内－銘？
51	金属製品	銃弾	径1.1～1.2	重5.2g	－	－	－	－	－	－	－	鉛製

2．山中城D遺跡

●江戸時代以降出土遺物一覧表

第5表　遺物観察表

石畳出土遺物　　法量単位＝cm,（ ）＝推定値

No.	種 別	器 種	口 径	器 高	高台径	高台高	底 径	産 地	時 期	文 様	見込み	備 考	地点名
1	磁器	湯飲み碗	－	現3.0	－	－	－	瀬戸・美濃	1820年代～幕末	外面－海浜風景文？			石畳
5	磁器	筒茶碗	－	現1.8	(3.8)	0.5	－	肥前	1740年代～1810年代		二重圏線		石畳掘り方
6	陶器	土瓶	－	現3.5	－	－	－	不明	19世紀前半	灰オリーブ色	暗オリーブ色	土瓶注口部　胴部との接合部に二孔	石畳掘り方
2	寛永通寶		銭貨	2.1	0.7	0.1	2.0	新寛永通寶　初鋳年代1697～1747年・1767～1781年					石畳
3	寛永通寶		銭貨	2.1	0.7	0.1	2.0	新寛永通寶　初鋳年代1697～1747年・1767～1781年					石畳
4	寛永通寶		銭貨	2.3	0.7	0.1	2.1	新寛永通寶　初鋳年代1697～1747年・1767～1781年					石畳
7	寛永通寶		銭貨	2.2	0.6	0.1	2.0	新寛永通寶　初鋳年代1697～1747年・1767～1781年					石畳掘り方
8	寛永通寶		銭貨	2.1	0.7	0.1	2.0	新寛永通寶　初鋳年代1697～1747年・1767～1781年					石畳掘り方

表採遺物　　法量単位＝cm,（ ）＝推定値

No.	種 別	器 種	口 径	器 高	高台径	高台高	底 径	産 地	時 期	文 様	見込み	備 考	地点名
1	磁器	碗	－	現2.0	5.8	0.8	－	中国	19世紀代	文様不詳		清朝	表採
2	陶器	碗	－	現2.0	4.8	0.6	－	肥前	17世紀末～18世紀初頭		山水文	京焼風陶器	表採
3	寛永通寶		銭貨	2.6	0.7	0.1	2.3	寛永通寶　四文銭　初鋳年代1768年～					
4	寛永通寶		銭貨	2.2	0.6	0.1	2.0	新寛永通寶　初鋳年代1697～1747年・1767～1781年					

遺構外出土遺物　　法量単位＝cm,（ ）＝推定値

No.	種 別	器 種	口 径	器 高	高台径	高台高	底 径	産 地	時 期	文 様	見込み	備 考	地点名
1	磁器	皿	－	現1.6	(6.8)	0.4	－	中国	16世紀代	裏面－唐草文	二重圏線内花文	明朝・景徳鎮	試掘
2	磁器	丸碗	(11.6)	現4.4	－	－	－	肥前	1680年代～1740年代	外面－梅樹文			試掘
3	磁器	蕎麦猪口	－	現4.9	4.8	0.3	－	肥前	18世紀代	外面－露草文・二重圏線			試掘
4	磁器	鉢	－	現5.2	－	－	－	肥前	18世紀代		一重圏線	青磁染付鉢	試掘
5	磁器	碗蓋	－	現1.3	摘み径4.0	－	－	肥前	1830年代～幕末	外面-草花文 摘み内-寿字文 内面ー松竹梅環文	－	染付－素描き	試掘
6	磁器	変形皿	－	現2.1	7.4	0.7	－	肥前	1830年代～幕末	内面-梅花・波？ 裏面-唐草文・一重圏線	唐草・花文	底裏銘-一重圏線内「ニル」	試掘
7	陶器	刷毛目碗	－	現2.8	4.4	0.8	－	肥前	17世紀末～18世紀初頭	内外面－刷毛目			試掘
8	金属製品	鉄砲玉	径1.2	重13.4g	－	－	－	－	中・近世			鉛製	試掘